

平成29年3月24日

安曇野市教育委員会

平成29年3月定例会

会 議 議 案

安曇野市教育委員会

<b>議案第1号</b>	教育部 学校教育課
平成29年3月24日提出	(課長)古幡 彰 (担当)藤澤 一渡

タイトル	安曇野市スクールサポート事業実施要綱の一部改正について
決定を要する事項の内容	要綱の一部改正
要旨	<p>1 安曇野市コミュニティスクール事業実施要綱 安曇野市コミュニティスクールの実施に伴い、安曇野市スクールサポート事業実施要綱の一部を改正する。</p> <p>2 施行時期 平成29年4月1日より施行する。</p>
説明	<p>学校と地域が連携して子どもを育てる取組みとして実施してまいりました「安曇野市スクールサポート事業」の協働の取組みを更に充実させるため、「安曇野市コミュニティスクール事業」の実施に向け、実施要綱の一部を改正するものです。</p> <p>1 改正部分</p> <p>(1) 名称について 「スクールサポート」を「コミュニティスクール」に改正する。 改正に伴い、趣旨を以下のとおり改正する。</p> <p>この要綱は、市内の小学校及び中学校（以下「学校」という。）と地域との連携体制の構築により地域全体で学校教育を支援する安曇野市コミュニティスクール事業（以下「コミュニティスクール」という。）を推進するため、その所掌事務、組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。</p> <p>(2) 所掌事務について 「(任務)」の名称を「(所掌事務)」に改正する。</p> <p>(3) 組織について 「学校支援ボランティア」を「学校応援隊」と称する。</p> <p>(4) 実行委員会について 改正に伴い、実行委員会の行う事項を以下のとおり改正する。</p> <p>(1) コミュニティスクールの企画及び推進に関すること。 (2) コミュニティスクールの事業評価に関すること。</p>

(3) 地域コーディネーターの養成に関すること。

(4) 学校応援隊の養成に関すること。

改正に伴い、実行委員会の委員から「教育委員会教育部職員」を削除する。

(5) 地域教育協議会について

改正に伴い、地域教育協議会の行う事項を以下のとおり改正する。

(1) 学校運営の理解及び参画に関すること。

(2) 学校支援に関すること。

(3) 学校関係者評価（学校の運営状況等について地域教育協議会が行う評価をいう。）及び学校自己評価に関すること。

(4) 小中学校の連携に関すること。

(5) 学校安全に関すること。

(6) その他教育委員会が必要と認める事項

(6) 中学校部活動運営委員会について

改正に伴い、部活動運営委員会の委員から「教育委員会教育部職員」を削除する。

(7) 地域コーディネーターについて

改正に伴い、地域コーディネーターの役割を以下のとおり改正する。

地域コーディネーターは、学校との調整を行い、学校を支援及び協力する学校応援隊との連絡調整を行う。

(8) 会議について

改正に伴い、第10条第2項を削除する。

## 2 施行時期等

施行期日は平成29年4月1日から施行とする。

## 3 添付資料

(1) 改め文

(2) 新旧対照表

(3) 改正要綱

(4) 安曇野市コミュニティスクール組織図

安曇野市教育委員会告示第 号

安曇野市スクールサポート事業実施要綱（平成21年教育委員会告示第3号）の一部を次のように改正する。

平成 年 月 日

安曇野市教育委員会

題名中「スクールサポート」を「コミュニティスクール」に改める。

第1条中「支援する」の次に「安曇野市コミュニティスクール」を、「事業」の次に「（以下「コミュニティスクール」という。）」を加え、「安曇野市スクールサポート本部（以下「本部」という。）を設置し」を削り、「その」の次に「所掌事務、」を加える。

第2条の見出しを「（所掌事務）」に改め、同条中「本部」を「コミュニティスクール」に改め、同条第6号中「障害児」を「障がいのある児童生徒」に改める。

第3条中「本部」を「コミュニティスクール」に改め、同条第1号中「スクールサポート」を削り、同条第5号中「ボランティア」の次に「（以下「学校応援隊」という。）」を加える。

第4条の見出し中「スクールサポート」を削り、同条第1項中「スクールサポート」を削り、同項第1号中「学校教育を地域で支援する体制づくり」を「コミュニティスクール」に改め、同項第2号を次のように改める。

(2) コミュニティスクールの事業評価に関する事。

第4条第1項第3号中「及び配置」を削り、同項第4号中「学校支援ボランティア」を「学校応援隊」に改め、同条第2項中「スクールサポート」を削り、同項中第4号を削り、第5号を第4号とする。

第5条第1項各号を次のように改める。

(1) 学校運営の理解及び参画に関する事。

(2) 学校支援に関する事。

(3) 学校関係者評価（学校の運営状況等について地域教育協議会が行う評価をいう。）及び学校自己評価に関する事。

(4) 小中学校の連携に関する事。

(5) 学校安全に関する事。

(6) その他教育委員会が必要と認める事項

第6条第2項中第4号を削り、第5号を第4号とする。

第7条第1項中「学校支援ボランティアを配置し、また」を削り、「と配置した学校支



援ボランティア」を「を支援及び協力する学校応援隊」に改める。

第9条第1項中「スクールサポート」を削る。

第10条第2項を削る。

第11条中「本部の」を「コミュニティスクールに関する」に改める。

#### 附 則

(施行期日等)

この告示は、平成29年4月1日から施行する。

改正後	改正前
<p>安曇野市コミュニティスクール事業実施要綱</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 この要綱は、市内の小・中学校及び中学校（以下「学校」という。）と地域との連携体制の構築により地域全体で学校教育を支援する安曇野市コミュニティスクール事業（以下「コミュニティスクール」という。）を推進するため、その<u>所掌事務、組織及び運営</u>について必要な事項を定めるものとする。</p> <p>(所掌事務)</p> <p>第2条 コミュニティスクールは、次に掲げる事項を行う。</p> <p>(1)～(5) (略)</p> <p>(6) 不登校児童生徒、障がいのある児童生徒、外国人児童生徒等の支援に関すること。</p> <p>(7)・(8) (略)</p> <p>(組織)</p> <p>第3条 コミュニティスクールは、次に掲げるものをもって組織する。</p> <p>(1) 実行委員会</p> <p>(2)～(4) (略)</p> <p>(5) 学校支援ボランティア（以下「学校応援隊」という。）</p> <p>(実行委員会)</p> <p>第4条 実行委員会は、次に掲げる事項を行う。</p> <p>(1) コミュニティスクールの企画及び推進に関すること。</p> <p>(2) コミュニティスクールの事業評価に関すること。</p> <p>(3) 地域コーディネーターの養成に関すること。</p> <p>(4) 学校応援隊の養成に関すること。</p> <p>2 実行委員会は、委員20人以上とし、次に掲げる者のうちから安曇野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する。</p> <p>(1)～(3) (略)</p>	<p>安曇野市スクールサポート事業実施要綱</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 この要綱は、市内の小・中学校及び中学校（以下「学校」という。）と地域との連携体制の構築により地域全体で学校教育を支援する事業を推進するため安曇野市スクールサポート本部（以下「本部」という。）を設置し、その組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。</p> <p>(任務)</p> <p>第2条 本部は、次に掲げる事項を行う。</p> <p>(1)～(5) (略)</p> <p>(6) 不登校児童生徒、障がい児、外国人児童生徒等の支援に関すること。</p> <p>(7)・(8) (略)</p> <p>(組織)</p> <p>第3条 本部は、次に掲げるものをもって組織する。</p> <p>(1) スクールサポート実行委員会</p> <p>(2)～(4) (略)</p> <p>(5) 学校支援ボランティア</p> <p>(スクールサポート実行委員会)</p> <p>第4条 スクールサポート実行委員会は、次に掲げる事項を行う。</p> <p>(1) 学校教育を地域で支援する体制づくりの企画及び推進に関すること。</p> <p>(2) 学校の課題及び支援に関する事項の協議に関すること。</p> <p>(3) 地域コーディネーターの養成及び配置に関すること。</p> <p>(4) 学校支援ボランティアの養成に関すること。</p> <p>2 スクールサポート実行委員会は、委員20人以上とし、次に掲げる者のうちから安曇野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する。</p> <p>(1)～(3) (略)</p>

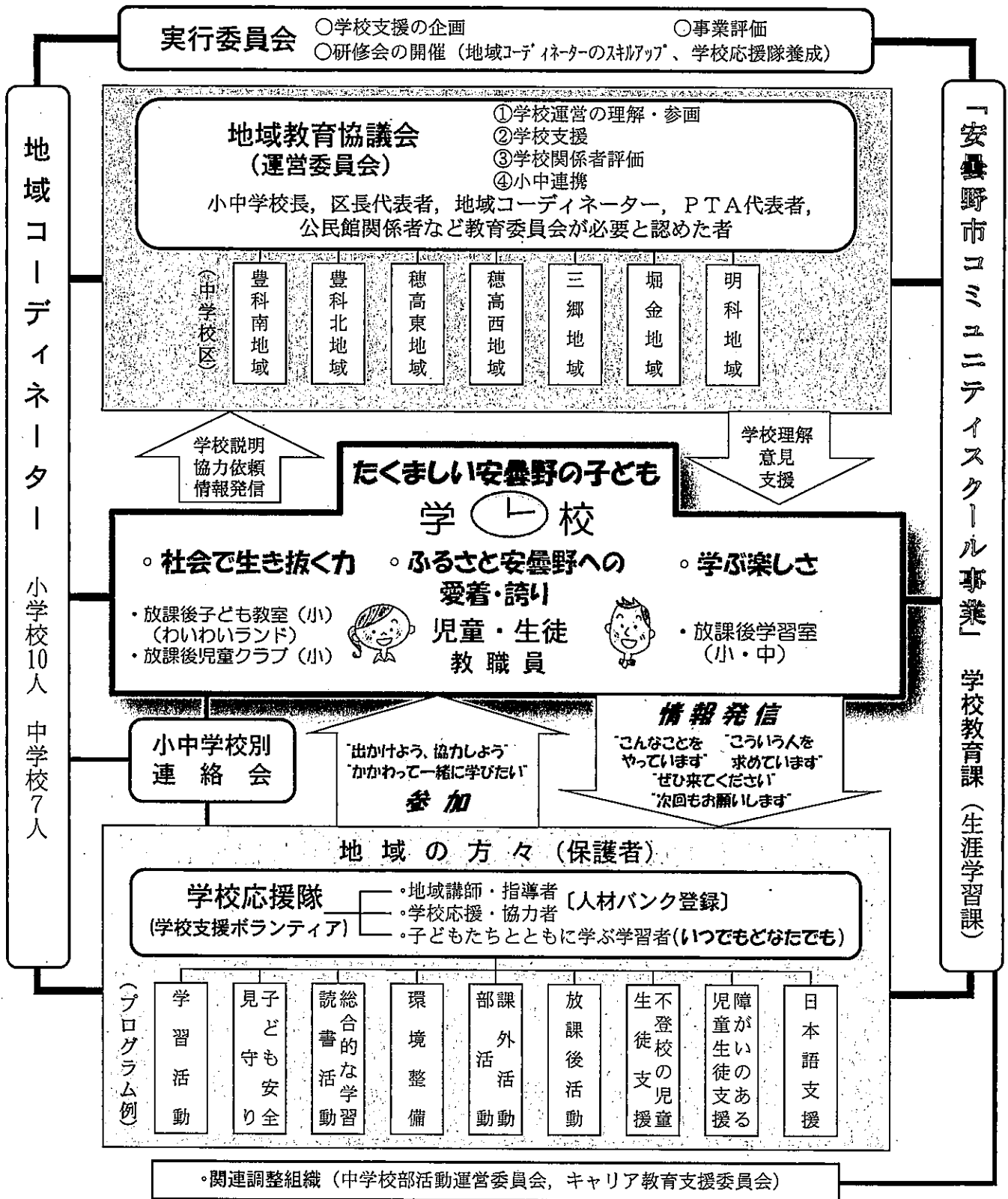
改正後	改正前
<p>(4) (略)</p> <p>(地域教育協議会)</p> <p>第5条 地域教育協議会は、次に掲げる事項を行う。</p> <p>(1) 学校運営の理解及び参画に関すること。</p> <p>(2) 学校支援に関すること。</p> <p>(3) 学校関係者評価(学校の運営状況等について地域教育協議会が行う評価をいう。)及び学校自己評価に関すること。</p> <p>(4) 小中学校の連携に関すること。</p> <p>(5) 学校安全に関すること。</p> <p>(6) その他教育委員会が必要と認める事項</p> <p>2 (略)</p> <p>(中学校部活動運営委員会)</p> <p>第6条 (略)</p> <p>2 中学校部活動運営委員会は、委員15人以内で組織し、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。</p> <p>(1)～(3) (略)</p> <p>(4) (略)</p> <p>(地域コーディネーター)</p> <p>第7条 地域コーディネーターは、学校との調整を行い、学校を支援及び協力する学校応援隊との連絡調整を行う。</p> <p>2 (略)</p> <p>(会長及び副会長)</p> <p>第9条 実行委員会、地域教育協議会及び中学校部活動運営委員会(以下「委員会等」という。)にそれぞれ会長及び副会長を置き、委員が互選する。</p>	<p>(4) <u>教育委員会教育部職員</u></p> <p>(5) (略)</p> <p>(地域教育協議会)</p> <p>第5条 地域教育協議会は、次に掲げる事項を行う。</p> <p>(1) <u>学校の教育活動その他学校運営全般についての評価に関すること。</u></p> <p>(2) <u>学校支援ボランティア事業の確認に関すること。</u></p> <p>(3) <u>学校安全に関すること。</u></p> <p>2 (略)</p> <p>(中学校部活動運営委員会)</p> <p>第6条 (略)</p> <p>2 中学校部活動運営委員会は、委員15人以内で組織し、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。</p> <p>(1)～(3) (略)</p> <p>(4) <u>教育委員会教育部職員</u></p> <p>(5) (略)</p> <p>(地域コーディネーター)</p> <p>第7条 地域コーディネーターは、学校との調整を行い、<u>学校支援ボランティアを配置し、また学校と配置した学校支援ボランティアとの連絡調整を行う。</u></p> <p>2 (略)</p> <p>(会長及び副会長)</p> <p>第9条 <u>スクールサポーター実行委員会、地域教育協議会及び中学校部活動運営委員会(以下「委員会等」という。)</u>にそれぞれ会長及び副会長を置き、委員が互選</p>

改正後	改正前
<p>2・3 (略)</p> <p>(会議)</p> <p>第10条 (略)</p> <p>(庶務)</p> <p>第11条 コミュニティスクールに関する<u>庶務は、教育委員会学校教育課において処理する。</u></p>	<p>する。</p> <p>2・3 (略)</p> <p>(会議)</p> <p>第10条 (略)</p> <p>2 <u>委員会等は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。</u></p> <p>(庶務)</p> <p>第11条 <u>本部の庶務は、教育委員会学校教育課において処理する。</u></p>

# 安曇野市コミュニティスクール

～ “地域とともにつくる学校、地域に根差した魅力ある学校” をめざして～

安曇野市教育委員会



安曇野市では、開かれた特色ある教育を進めるため、平成21年度から安曇野市学校支援地域本部事業、平成26年度からは安曇野市スクールサポート事業により、地域の方々が学校の教育活動にさまざまな形でかかわっていただきながら、地域とともにある学校づくりを実践してきました。今回、この協働の取り組みをさらに充実したものにすため、しくみの名称を「安曇野市コミュニティスクール」と改め、県の信州型コミュニティスクールとして新たにスタートします。

<b>議案第2号</b>	教育部 生涯学習課
平成29年3月24日提出	(課長) 蓮井 昭夫 (担当係長) 藤森 智

タイトル	第2次安曇野市生涯学習推進計画について
決定を要する事項の内容	第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会委員の選任
要旨	「第2次安曇野市生涯学習推進計画」を策定することに伴い、広く市民の意見を反映させ、計画内容を提言する組織として「第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会」を設置しました。その委員を選任するものです。
説明	<p>1 目的 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定に係る提言をするため。</p> <p>2 所掌事務 (1) 計画の策定に関すること。 (2) 計画に係る市民からの意見の分析に関すること。 (3) その他計画の策定に必要な事項に関すること。</p> <p>3 構成員 15人(別紙のとおり) (1) 生涯学習に関する見識を有する者 (2) 学校教育関係者 (3) 社会教育関係者 (4) 家庭教育関係者 (5) 安曇野市社会教育委員 (6) 市内の生涯学習に関する団体の関係者 (7) <u>その他教育委員会が必要と認める者</u></p> <p>4 任期 平成29年4月27日から平成30年3月31日まで。 会議は、6回程度開催予定</p> <p>5 その他 設置要綱の所掌事務の「聴取」を「分析」に、組織の「公募により選考された市民」を「その他教育委員会が必要と認める者」に改めました(報告事項で説明)。</p>

第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会委員名簿

任期：平成29年4月27日から平成30年3月31日

区分	氏名（敬称略）	備考
生涯学習に関する見識を有する者	宮下 健司	元長野県立歴史館総合情報課長
学校教育関係者	(4/10 選出予定)	安曇野市校長会
社会教育関係者	安井 邦夫	明科公民館長
	宮下 克彦	高橋節郎記念美術館長
	百瀬 佳子	堀金図書館長
	幅 修一	社会教育指導員
家庭教育関係者	上兼 裕	安曇野市社会福祉協議会職員
	亀井 智泉	おはなし つむぎいと代表
安曇野市社会教育委員	平田 米子	副議長
	平倉 勝美	委員
市内の生涯学習に関する団体の関係者	降旗 幸子	芸術文化協会連絡協議会会長
	古川 節雄	体育協会 専務理事
その他教育委員会が必要と認める者	三澤 禮司	放課後子ども教室ボランティア
	堀金 隆雄	生涯学習講座受講者
	舟橋 嘉奈子	リーダーバンク登録者

<b>議案第3号</b>	教育部 文化課
平成29年3月24日提出	(課長) 那須野 雅好 (担当) 西山 直幸

タイトル	任期満了に伴う文化課付貞享義民記念館館長の選任について
決定を要する事項の内容	館長の選任に係る協議
要旨	平成29年3月31日で任期満了となる貞享義民記念館の館長を、平成29年4月1日付で任命(再任)するものです。
説明	<p>○ 貞享義民記念館          氏名：清水祥二          住所：安曇野穂高 8268-6          任期：平成29年4月1日～平成30年3月31日          条例に任期の定めがないことから1年とする。          備考：再任(平成27年4月1日から現職)</p> <p>【安曇野市博物館条例抜粋】          第3条 博物館に館長その他必要な職員を置く。          2 館長の任期は、2年とする。</p> <p>【貞享義民記念館条例】          第4条 記念館に館長その他必要な職員を置くことができる。</p>



<b>議案第4号</b>	教育部 文化課
平成29年3月24日提出	(課長) 那須野 雅好 (担当係長) 三澤 新弥

タイトル	第2次安曇野市文化振興計画の策定に係る策定委員について ----- 第2次安曇野市文化振興計画策定委員の選任について
要旨	「第2次安曇野市文化振興計画」の策定委委員として資料1の方々に委嘱するものです。 任期：平成29年4月1日～任務終了の日
説明	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第2次安曇野市文化振興計画策定委員会委員(案)…<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span> 策定委員は10人以内とし、文化事業に関わる見識を有する者8人、公募による市民2人を選定し、第2次安曇野市文化振興計画策定委員名簿(案)を作成したので協議願いたい。</li> <li>2 第2次安曇野市文化振興計画策定委員会設置要綱に基づき、委員会の委員は教育委員会が委嘱する。教育委員会での決定を受け、初回の策定委員会の際に委嘱書を交付したい。 なお、委員の任期は、初回の策定委員会の開催の日から、第2次安曇野市文化振興計画策定の任務が終了する日までとする。</li> </ol>

## 第2次安曇野市文化振興計画策定委員会 名簿(案)

	専門等	氏名	所属
1	歴史	笹本 正治	県立歴史館長・安曇野市博物館協議会 安曇野市美術資料等選定委員会
2	美術	金井 直	信州大学人文学部准教授 安曇野市博物館協議会委員
3	音楽	伊澤 昭人	安曇野吹奏楽団
4	観光 まちづくり	古畑 委子	安曇野案内人倶楽部 安曇野クラフトショップ
5	映像	三好 大輔	あづみのフィルムアーカイブ 東京藝術大学講師
6	博物館	片桐 宣利	豊科郷土博物館友の会
7	工芸	古根 香	安曇野高橋節郎記念美術館友の会 現代工芸美術家協会長野会 安曇野スタイルネットワーク
8	演劇	丸山 純子	安曇野アクトーズアカデミア
9	公募	鈴木 研一	
10	公募	山田 和雄	

<b>議案第5号</b>	教育部 図書館交流課
平成29年3月24日提出	(課長) 高嶋 俊明 (担当) 細田 昌伸

タイトル	任期満了に伴う豊科図書館長、三郷図書館長及び堀金図書館長の選任について
	3館長の選任に係る協議
要旨	平成29年3月31日をもって任期満了となる豊科図書館長、三郷図書館長及び堀金図書館長を任命するものです。
説明	<p>1 豊科図書館及び堀金図書館については、交流学習センター等が併設されており、現在の両図書館長は管理運営上の理由から「非常勤特別職」でなく、常勤職員と同様の1日7時間45分、週5日、38時間45分勤務が適当であることから地方公務員法第17条の規定による「非常勤嘱託職員」として任命しています。</p> <p>○ 豊科図書館長（再任） 氏名 青柳 温男 氏（あおやぎ やすお） 年齢 65歳 住所 安曇野市堀金三田2590番地</p> <p>○ 堀金図書館長（再任） 氏名 百瀬 佳子 氏（ももせ よしこ） 年齢 63歳 住所 安曇野市豊科1032番地19</p> <p>○ 雇用期間 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで</p> <p>2 山越三郷図書館長の任期が平成29年3月31日をもって終了することから、地方公務員法第3条第3号の規定による非常勤特別職として次の者を後任として任命するものです。</p>

○ 三郷図書館長（新任）

氏 名 遠藤 正志 氏（えんどう まさし）

年 齢 60 歳

住 所 安曇野市穂高有明 9105 番地 8

備 考 平成 29. 3. 31 安曇野市立豊科北小学校長退職

○ 任 期 平成 29 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

<b>議案第6号</b>	教育部 各課
平成29年3月24日提出	

タイトル	共催・後援依頼について
決定を要する事項の内容	教育委員会の共催・後援依頼についての協議
要旨	文化課 (詳細 別紙) 共催2件、後援3件
<p>○安曇野市教育委員会の共催及び後援等に関する取扱基準【抜粋】 (定義)</p> <p>第2条 この基準における用語の定義は、次の各号に定めるところによる。</p> <p>(1) 行事 講演会、演奏会、展覧会等の集会、体育大会等の催し物をいう。</p> <p>(2) 共催 行事の企画又は運営に参加し、共同主催者としての責任の一部を負担することをいう。</p> <p>(3) 後援 行事の趣旨に賛同し、名義の使用を承認することをいい、責任の負担はしないことをいう。</p> <p>(審査基準)</p> <p>第3条 教育委員会は、次の各号に掲げるいずれかの団体が主催する行事は、共催又は後援するものとする。</p> <p>(1) 国又は地方公共団体</p> <p>(2) 学校又は学校の連合体</p> <p>2 教育委員会は、前項の団体以外が主催する場合は、次に掲げる事項を満たすことが明らかに確認できるものに限り、共催又は後援をするものとする。</p> <p>(1) 行事の内容が教育、学術、文化及びスポーツの普及向上に寄与するものであること。</p> <p>(2) 公益性のあるもので営利を目的としないものであること。</p> <p>(3) 政治活動又は宗教活動と認められないものであること。</p> <p>(4) 参加者等の参集予定範囲が市内全域又はそれ以上であること。</p> <p>(5) 入場料、参加料、出品料等の経費を主催者が徴収するものについては、その経費の算出等について配慮がなされており、営利事業的なものでないこと。</p> <p>(6) 団体内の親睦等が主たる目的ではないこと。</p> <p>(教育長の専決範囲)</p> <p>第4条 後援の承認について、教育長が専決できる行事は次に掲げるとおりとする。</p> <p>(1) 前条第1項に規定する行事</p> <p>(2) 過去に教育委員会が承認した行事(団体又は行事が、前条第2項の規定を満たしているか判断し難いものは除く。)</p>	

教育部文化課 共催・後援台帳(平成28年度3月定例会協議事項)

No.	受付日	所管	件名	申請者	主催者	種別	申請理由	申請日	開催日	承認	承認日	会場	開催目的(趣旨)	開催内容	H25	H26	H27	所管課 意見
106	H29.2.8	文化	第18回安曇野紙飛行機競技大会(紙沼飛行士記念大会)	第18回安曇野紙飛行機競技大会実行委員会 光永 高藤	第18回安曇野紙飛行機競技大会実行委員会	共催	紙飛行機の普及を通して、青少年に健全な遊びを提供し、高齢者の健康増進に努める、教室等の参加者に広く競技大会に参加していただく。	2月7日	平成29年4月9日(日) 紙飛行機教室は4月8日(土)		2月	安曇野市豊科南部総合公園	紙沼飛行士(紙飛行機)の普及、紙飛行機愛好家の集い、競技会、紙飛行機教室を開催し、紙飛行機の普及と親善をはかる。	紙飛行機競技大会・紙飛行機教室 参加料一般1000円、子ども紙飛行機教室参加者500円 共催申請先:武蔵野ペーパープレザンクラブ 後援申請先:紙沼飛行士記念館	○	○	○	基準第3条第2項により可
113	H29.2.27	文化	BRA★BRA FINAL FANTASY BRASS de BRAVO with Siena Wind Orchestra	信越放送株式会社 代表取締役 北島 義仁	SBC信越放送、スクウェア・エニックス、一般社団法人シヤパン、シヤパン・フオニック、ウインズ、WOWOW、ローソンチケット	後援	県内の子どもから大人まで幅広い世代に、一流の演奏を楽しんでいただくと同様に、一流プレイヤーとの共演を経験していただき、完成を豊かに喜んで頂くため。	2月22日	平成29年6月2日(金)		2月	まつもと市民芸術館ホール	信州を代表するプロの吹奏楽団「シエナ・ウインド・オーケストラ」による生演奏を、ただ聴くだけのコンサートではなく、一緒に演奏できるコンサートです。バイオリンなど、本格的な楽器はもちろんに、ペットボトルなどおうちにある「音の出るモノ」をご持参頂き、一流のミュージシャンと共演するという貴重な機会を、信州の皆様に乗しんでいただきます。	吹奏楽団によるゲーム音楽のコンサート 指定席6800円、学生シート4800円 他の後援申請先:長野県、長野県教育委員会、長野県PTA連合会、長野県高等学校PTA連合会、松本市、松本市教育委員会ほか	-	-	-	基準第3条第2項により可
114	H29.2.28	文化	第54回 童謡祭り	童謡祭り実行委員会 山本 紘子	童謡祭り実行委員会	共催	子どもたちの情操教育の一環として童謡祭りを開催し、作詞作曲コンクールを市内の小中学校に広め、「よい音楽」歌、「よい音楽」を子ども達に伝えたいため、開催に伴い市報等による広報をお願いしたい。	2月28日	平成29年5月5日(金・祝)		2月	安曇野市豊科市民館大ホール	安曇野市豊科出身の詩人で、ドイツ文学者だった藤森秀夫先生を顕彰しながら、安曇野市内外へ童謡を広めるとともに、子ども達に作詞作曲コンクールや演奏会を通じて音楽を愛好する心情を育んでいく。	・コーラス団体による藤森秀夫先生の曲披露 ・作詞作曲コンクール表彰 ・演奏会(豊科地域保育園の園児の皆さんによる演奏、安曇野市童謡唱歌、歌う会の皆さんによる演奏、全員合唱、声楽家渡辺しおりさん、ピアノストロイ文代さんによる演奏) 入場無料	○	○	○	基準第3条第2項により可

教育部 文化課 共催・後援台帳(平成28年度3月定例会協議事項)

No.	受付日	所管	件名	申請者	主催者	種別	申請理由	申請日	開催日	承認	承認日	会場	開催目的(趣旨)	開催内容	H27	H26	H25	所管課 意見
115	H28.3.1	文化	第64回 信州書芸展	信州書芸会 副会長 千野 秀清	信州書芸会、(財)驛山館	後援	県内全域の作品を安曇野市で見ることができ、書道文化の振興・発展と地域文化の高揚に資するため。	3月1日	平成28年 6月23日 (金) ～25日 (日)		月 日	安曇野市 穂高会館(講堂)	書道文化の振興・発展と地域文化の高揚に資するため、全信州に亘り書芸愛好者の親睦と研鑽の機会として日本芸術院会員故川村驥山先生(安野市篠ノ井)の提唱により発足し、全県による書芸展が毎年県内各地を持ち回りに開催されている。	書道作品の展示 長野県内の書作家300名を擁し、事務局を長野市篠ノ井(一般財団法人)驛山館に置き、県下超党派で構成され、年一回の書芸展(信州書芸展)が県内各地を持ち回りに開催されている。 ※平成23年第58回展は安曇野市で開催 展示作品:信州書芸会員作品250点(県内全域の一般の出品作品を展示) 他の後援申請先:長野県、長野県教育委員会、全日本書道連盟、信濃毎日新聞社、安曇野市	-	-	-	基準第3条第2項により可
117	H29.3.3	文化	第23回二宮康明杯・全日本紙飛行機選手権大会 長野県予選会	安曇野紙ヒューキクラブ 齋藤 光永	安曇野紙ヒューキクラブ	後援	紙飛行機の普及を通じて、青少年に健全な遊びを提供し、高齢者の健康増進に努め、教習者の参加者に広く協議会に参加していただく。	2月8日	平成29年 5月28日 (日) 6月18日 (日)、 7月30日 (日) 予備日 6月23日 (日)、 8月6日 (日)		月 日	安曇野市豊科 南部総合公園	大会テーマ「青い空見よう、東北の空に笑顔を」のもと予選会を開催し、紙飛行機の普及と教習をはかる。	紙飛行機大会の予選会 参加予定人数15～20名 共催申請先:日本紙飛行機協会 ※過去、この大会の全国大会で優勝者を輩出してきているほか、昨年度は安曇野市在住の中学生が文部科学大臣奨励賞を受けている。	-	-	-	基準第3条第2項により可

平成 29 年 3 月 24 日開催

安曇野市教育委員会 3 月定例会当日配布資料

【教育委員会定例会提出資料】

<b>議案第 7 号</b>	教育部 学校教育課
平成 29 年 3 月 24 日提出	(課長)古幡 彰 (担当)平林 洋一

タイトル	安曇野市立認定こども園条例の施行に伴う関連教育委員会規則及び安曇野市児童館建設検討会設置要綱の一部改正について
決定を要する事項の内容	規則・要綱の一部改正
要旨	安曇野市立認定こども園条例が平成 29 年 4 月 1 日から施行されることに伴い、教育委員会規則及び要綱において規定されている「保育園」を「保育所、認定こども園」に改めるもの。
説明	<ol style="list-style-type: none"><li>1 改正対象となる規則<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 安曇野市学校施設使用条例施行規則（平成 18 年安曇野市教育委員会規則第 23 号）</li><li>(2) 安曇野市公民館管理規則（平成 18 年安曇野市教育委員会規則第 24 号）</li><li>(3) 安曇野市体育施設管理規則（平成 18 年安曇野市教育委員会規則第 25 号）</li></ol></li><li>2 改正対象となる要綱<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 安曇野市児童館建設検討会設置要綱（平成 27 年安曇野市教育委員会告示第 9 号）</li></ol></li><li>3 認定こども園の定義 認定こども園とは、子ども・子育て支援法（平成 24 年法律第 65 号）第 7 条第 4 項の教育・保育施設をいう。</li><li>4 改正文、新旧対照表 別紙のとおり</li></ol>



安曇野市立認定こども園条例の施行に伴う関連教育委員会規則の整理に関する規則をここに公布する。

平成 年 月 日

安曇野市教育委員会

委員長 唐木 博夫

安曇野市教育委員会規則第 号

安曇野市立認定こども園条例の施行に伴う関連教育委員会規則の整理に関する規則  
(安曇野市学校施設使用条例施行規則の一部改正)

第1条 安曇野市学校施設使用条例施行規則(平成18年安曇野市教育委員会規則第23号)  
の一部を次のように改正する。

別表中「保育園」を「保育所、認定こども園」に改め、同表備考に次のように加える。

3 認定こども園とは、子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)第7条第4項  
の教育・保育施設をいう。

(安曇野市公民館管理規則の一部改正)

第2条 安曇野市公民館管理規則(平成18年安曇野市教育委員会規則第24号)の一部を次  
のように改正する。

別表中「保育園」を「保育所、認定こども園」に改め、同表備考に次のように加える。

4 認定こども園とは、子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)第7条第4項  
の教育・保育施設をいう。

(安曇野市体育施設管理規則の一部改正)

第3条 安曇野市体育施設管理規則(平成18年安曇野市教育委員会規則第25号)の一部を  
次のように改正する。

別表第2中「保育園」を「保育所、認定こども園」に改め、同表備考に次のように加  
える。

3 認定こども園とは、子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)第7条第4項  
の教育・保育施設をいう。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

○安曇野市立認定こども園条例の施行に伴う関連教育委員会規則の整理に関する規則  
 (第1条による改正)

安曇野市学校施設使用条例施行規則(平成18年安曇野市教育委員会規則第23号)

改正後		改正前				
別表(第6条関係)		別表(第6条関係)				
安曇野市学校施設の使用料減免に関する減免率の基準		安曇野市学校施設の使用料減免に関する減免率の基準				
区分	減免率	施設使用料	冷暖房施設使用料	照明施設使用料	器具等使用料	備考
(略)						
4 市内の幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、中学校又は高等学校が学習のために使用する場合		100分の100	100分の100	100分の100	100分の100	
(略)						
備考1 1回とは、1日のうち連続して使用した時間帯をいう。		備考1 1回とは、1日のうち連続して使用した時間帯をいう。				
2 3、6、7、8及び9の項備考欄の減免制限については、安曇野市体育施設条例(平成18年安曇野市条例第26号)に規定する体育施設、安曇野市公園条例(平成17年安曇野市条例第153号)に規定するふるさと公園(グラウンドに限る。)及び安曇野市都市公園条例(平成17年安曇野市条例第207号)に規定する有料公園施設(緑山公園を除く。)の使用回数及び時間を含む。		2 3、6、7、8及び9の項備考欄の減免制限については、安曇野市体育施設条例(平成18年安曇野市条例第26号)に規定する体育施設、安曇野市公園条例(平成17年安曇野市条例第153号)に規定するふるさと公園(グラウンドに限る。)及び安曇野市都市公園条例(平成17年安曇野市条例第207号)に規定する有料公園施設(緑山公園を除く。)の使用回数及び時間を含む。				
3 認定こども園とは、子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)第7条第4項の教育・保育施設をいう。		3 認定こども園とは、子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)第7条第4項の教育・保育施設をいう。				

(第2条による改正)

安曇野市公民館管理規則（平成18年安曇野市教育委員会規則第24号）

改正後		改正前	
別表（第8条関係） 安曇野市公民館の使用料減免に関する減免率の基準		別表（第8条関係） 安曇野市公民館の使用料減免に関する減免率の基準	
区分	減免率		備考
	会議室等使用料	設備及び備品使用料	
4 市内の幼稚園、 <u>保育所</u> 、認定こども園、小学校、中学校又は高等学校が学習のために使用する場合 (略)	100分の100	100分の100	
備考			
1 1回とは、1日のうち連続して使用した時間帯をいう。			
2 市内大会とは、市内を拠点とする団体及び市内に住所を有する者のみが参加する大会とする。			
3 市外大会とは、市外を拠点とする団体及び市外に住所を有する者が参加する大会とする。			
4 <u>認定こども園とは、子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）第7条第4項の教育・保育施設をいう。</u>			

(第3条による改正)

安曇野市体育施設管理規則（平成18年安曇野市教育委員会規則第25号）

改正後		改正前			
別表第2（第6条関係）		別表第2（第6条関係）			
安曇野市体育施設の使用料減免に関する減免率の基準		安曇野市体育施設の使用料減免に関する減免率の基準			
区分	減免率			備考	
	施設使用料	冷暖房施設使用料	照明施設使用料		器具等使用料
(略)	(略)			(略)	
4 市内の幼稚園、 <u>保育所</u> 、 <u>認定こども園</u> 、小学校、中学校又は高等学校が学習のために使用する場合	100分の100	100分の100	100分の100	100分の100	
(略)	(略)			(略)	
4 市内の幼稚園、 <u>保育園</u> 、小学校、中学校又は高等学校が学習のために使用する場合	100分の100	100分の100	100分の100	100分の100	
(略)	(略)			(略)	

備考 1 1回とは、1日のうち連続して使用した時間帯をいう。

備考 1 1回とは、1日のうち連続して使用した時間帯をいう。

改正後	改正前
<p>2 3、6、7、8及び9の項備考欄の減免制限については、安曇野市学校施設使用条例（平成17年安曇野市条例第225号）に規定する学校施設、安曇野市公園条例（平成17年安曇野市条例第153号）に規定するふるさと公園（グラウンドに限る。）及び安曇野市都市公園条例（平成17年安曇野市条例第207号）に規定する有料公園施設（礫山公園を除く。）の使用回数及び時間を含む。</p> <p>3 <u>認定こども園とは、子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）第7条第4項の教育・保育施設をいう。</u></p>	<p>2 3、6、7、8及び9の項備考欄の減免制限については、安曇野市学校施設使用条例（平成17年安曇野市条例第225号）に規定する学校施設、安曇野市公園条例（平成17年安曇野市条例第153号）に規定するふるさと公園（グラウンドに限る。）及び安曇野市都市公園条例（平成17年安曇野市条例第207号）に規定する有料公園施設（礫山公園を除く。）の使用回数及び時間を含む。</p>

安曇野市教育委員会告示第 号

安曇野市児童館建設検討会設置要綱（平成27年安曇野市教育委員会告示第9号）の一部を次のように改正する。

平成29年3月31日

安曇野市教育委員会

委員長 唐木 博夫

第3条第2項第3号中「園児」の次に「又は認定こども園児」を加える。

附 則

この告示は、平成29年4月1日から施行する。

○安曇野市児童館建設検討会設置要綱（平成27年安曇野市教育委員会告示第9号）の一部改正

改正後	改正前
<p>(組織)</p> <p>第3条 (略)</p> <p>2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱又は任命する。</p> <p>(1)・(2) (略)</p> <p>(3) 保育園又は認定こども園児の保護者</p> <p>(4)～(8) (略)</p>	<p>(組織)</p> <p>第3条 (略)</p> <p>2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱又は任命する。</p> <p>(1)・(2) (略)</p> <p>(3) 保育園児の保護者</p> <p>(4)～(8) (略)</p>

<b>報告第 1 号</b>	教育部 学校教育課
平成 29 年 3 月 24 日提出	(課長)古幡 彰 (担当)平林 洋一

タイトル	新教育委員会制度への移行に伴う新教育長の任命に係る議会同意について
報告を要する事項の内容	新教育長の任命に係る議会同意
要旨	平成 29 年 3 月 17 日に開催された市議会 3 月定例会本会議において、橋渡勝也教育長を新教育長に任命するための議会同意が得られたので報告するものです。
説明	<p>平成 27 年 4 月 1 日に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、「新教育長制度」により地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化等を図ることとされました。</p> <p>安曇野市教育委員会では、改正法の経過措置により、旧制度による体制を継続してきましたが、今般、この経過措置の適用を廃し、本年 4 月 1 日から「新教育長制度」へ移行するため、市議会 3 月定例会に係る条例案を提出するとともに、橋渡勝也教育長を新教育長にするための同意案件を提出し、いずれも可決・同意されました。このことから、本年 4 月 1 日付けで市長より橋渡教育長が新教育長として任命されることとなります。</p> <p>新教育長の任期は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日までの 3 年間ですが、他の教育委員の任期に変更はありません。</p> <p>新教育長制度への移行により、現在の教育委員長職及び委員長職務代理者職は廃止となります。</p> <p>今後新たに、新教育長の指定により、「教育長職務代理者」が置かれることとなります。</p> <p>また、安曇野市教育委員会の組織については、新教育長が教育委員ではなく常勤の特別職となることから、教育長及び 4 人の委員をもつて構成されることとなります。</p> <p>【新教育長として議会同意を得た者】</p> <p>役 職 安曇野市教育長（教育委員）          氏 名 橋渡 勝也          住 所 長野県安曇野市堀金烏川 547 番地 1          生年月日 昭和 31 年 10 月 20 日（59 歳）</p>



説明

【経歴】

- 昭和 54 年 3 月 信州大学教育学部卒業  
 昭和 56 年 3 月 筑波大学大学院修士課程修了  
 昭和 56 年 4 月から長野県内公立小・中学校、教育事務所に  
 33 年間奉職  
 平成 17 年 4 月 長野県 佐久市立中佐都小学校教頭  
 平成 20 年 4 月 長野県 信州大学教育学部附属松本中学校  
 教頭  
 平成 23 年 4 月 長野県 安曇野市立穂高西中学校校長就任  
 平成 25 年 4 月 長野県南信教育事務所主幹指導主事就任  
 平成 26 年 4 月 長野県中信教育事務所学校教育課長就任  
 平成 26 年 11 月 安曇野市教育長に就任（現在 1 期目）

○参考

新教育委員会制度（新教育長制度）について

【制度の目的】

- ・首長が直接教育長を任命することにより、任命責任が明確化
- ・第一義的な責任者が教育長であることを明確化
- ・緊急時にも常勤の教育長が教育委員会議の招集機会を判断

	現行制度（旧教育長）	改正後制度（新教育長）
任 期	4 年間	3 年間
任命関係	① 首長は教育委員を、議会の同意を得て任命 ② 教育委員会が、教育委員の中から任命	首長が、議会の同意を得て任命
身分関係	一般職	特別職
教育委員会との関係	教育委員と兼務	教育委員ではない
主な役割	<p><b>教育長</b></p> <p>① 具体的な事務執行の責任 ② 事務局の指揮監督</p> <p><b>教育委員長</b></p> <p>① 会の代表者 → ② 会議の招集 → ③ 会議の主宰者 →</p> <p>※教育委員長職務代理者は教育委員の中から選任</p>	<p><b>新教育長</b></p> <p>会務を総理し、会を代表</p> <p>① 具体的な事務執行責任 ② 事務局の指揮監督 ③ 会の代表者 ④ 会議の招集 ⑤ 会議の主宰者</p> <p>※教育長職務代理者は教育委員の中から教育長が指定</p>

<b>報告第2号</b>	教育部 学校教育課
平成 29 年 3 月 24 日提出	(課長)古幡 彰 (担当)藤澤 一渡

タイトル	「平成 28 年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果と体力向上に向けた取組について
報告を要する事項の内容	安曇野市体力向上推進委員会の最終報告
要旨	<p>スポーツ庁で行われた「平成 28 年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果の分析については、体力向上推進委員会を組織して行ってきました。併せて、同委員会では授業改善や運動の習慣化・運動環境の改善、生活習慣の改善を視点として体力向上に向けた取組みをしてきました。</p> <p>調査結果の分析と体力向上に向けた委員会の実践をまとめましたので報告いたします。</p>
説明	○「平成 28 年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果と体力向上に向けた取組について 別添のとおり

「平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果と体力向上に向けた取組について  
安曇野市体力向上推進委員会

平成28年4月から7月にかけて全国の小学校5年生と中学校2年生を対象に「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が行われ、市内の小中学校10校、中学校7校も参加しました。その結果がスポーツ庁より送付されましたのでお知らせします。

また、「体力向上推進委員会」では調査結果の分析に併せ、体力向上に向けた取り組みをしていますのでその具体的な事例をお知らせいたします。

尚、この調査により測定できるのは体力等の特定の一部分であることや学校教育活動の一側面であることを踏まえ、数値の公表については序列化や過度な競争が生じないように本調査の実施要領に沿って行っています。

## I 調査の概要

- 1 調査主体 スポーツ庁
- 2 調査期間 平成28年4月から7月末までの期間
- 3 対象児童・生徒（原則として以下の学年の全児童生徒を対象）
  - (1) 小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年、義務教育学校前期課程第5学年
  - (2) 中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年、義務教育学校後期課程第2学年
  - (3) 市内調査校数  
小学校10校 中学校7校
- 4 調査事項
  - (1) 児童生徒に対する調査
    - ①実技に関する調査
 

小学校8種目 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン  
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

中学校8種目 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン  
50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
    - ②質問紙調査
  - (2) 学校に対する調査  
子どもの体力向上に係る取組等に関する質問紙調査

## II 調査結果

※結果については、下表の基準により全国の平均値や回答率と比べた時、安曇野市の結果がどれくらいの位置にあるかを、次のように表記しています。

※Tスコア：全国平均値50点に対する相対的な位置。記号は本会独自のものです。

Tスコア(点)	割合(%)	表 記	独自の記号
0.5点未満の差	1%未満の差	ほとんど差が見られない・ほぼ同じ	□
0.5～1点未満の差	1～2%未満の差	僅かに(高かった・高い・上回った)	○
		僅かに(低かった・低い・下回った)	▽
1点以上の差	2%以上の差	高かった・高い・上回った	◎
		低かった・低い・下回った	▼

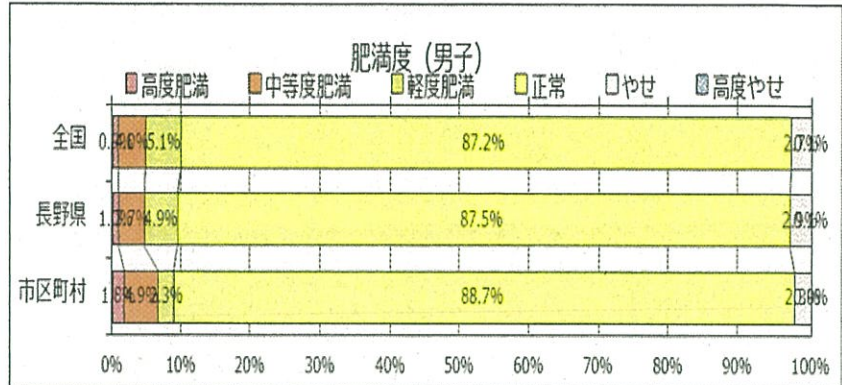
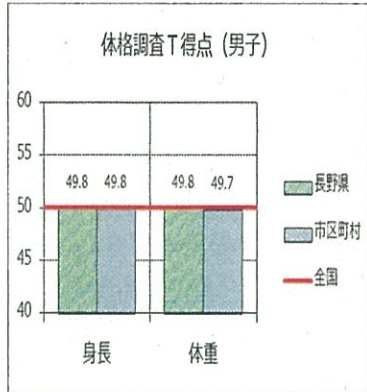
# 1 体格

## (1) 小学校

### ①男子

○身長・体重は全国平均とほぼ同じでした。

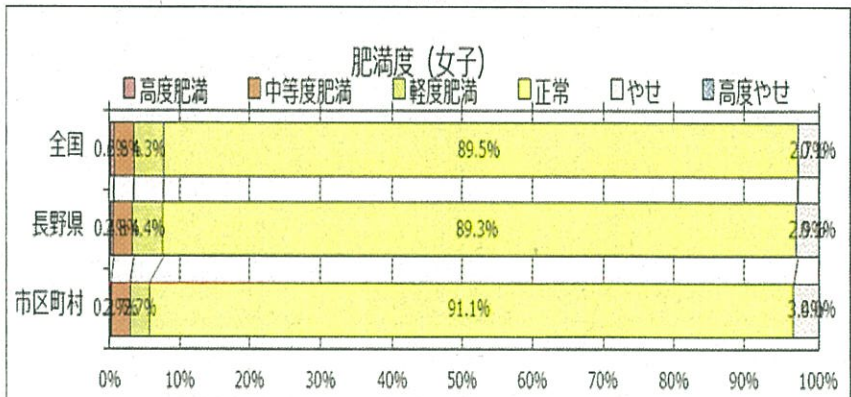
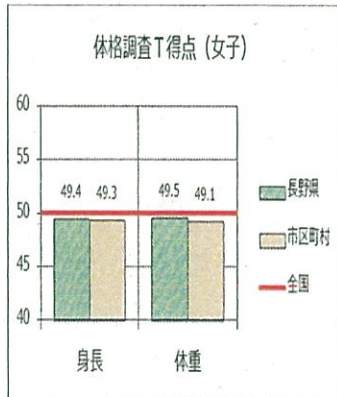
○高度・中度肥満の割合を合わせると全国平均を上回り、軽度肥満は全国平均を下回りました。痩身傾向は全国とほぼ同じでした。



### ②女子

○身長・体重は全国平均を僅かに下回りました。

○軽度肥満までを合わせた割合は全国平均を下回りました。痩身傾向は全国とほぼ同じでした。



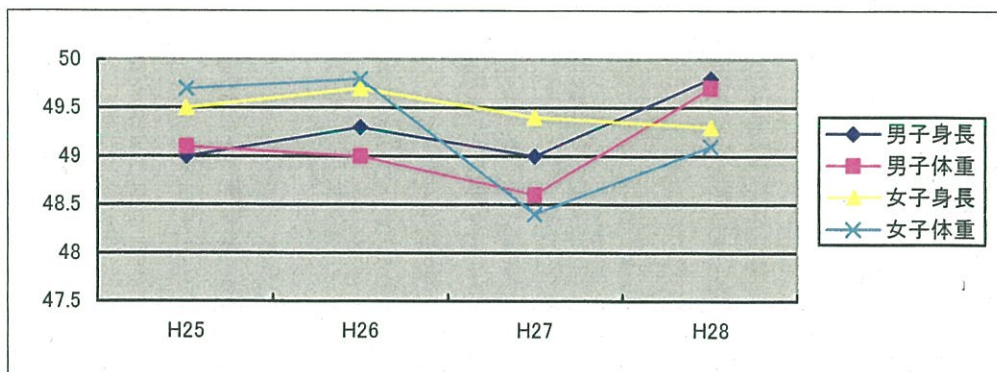
### ③体格の経年変化 (Tスコア)

○小学校男女の体格は、平成 25 年度から本年度まで全国平均 (50 点) を越えず推移しています。

○平成 28 年度、男子の身長・体重は全国平均とほぼ同じでした。

○女子の体重は変動が大きく、平成 28 年度は平成 27 年度の最低値から上向きましたが、全国平均を僅かに下回りました。

【小学校：男女 体格の経年変化】



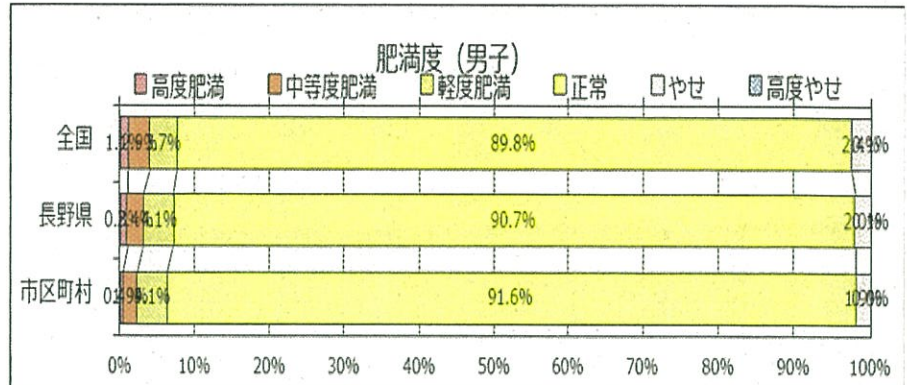
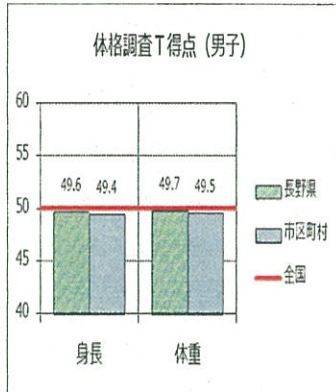


(2) 中学校

①男子

○身長は全国平均を僅かに下回り、体重は全国平均とほぼ同じでした。

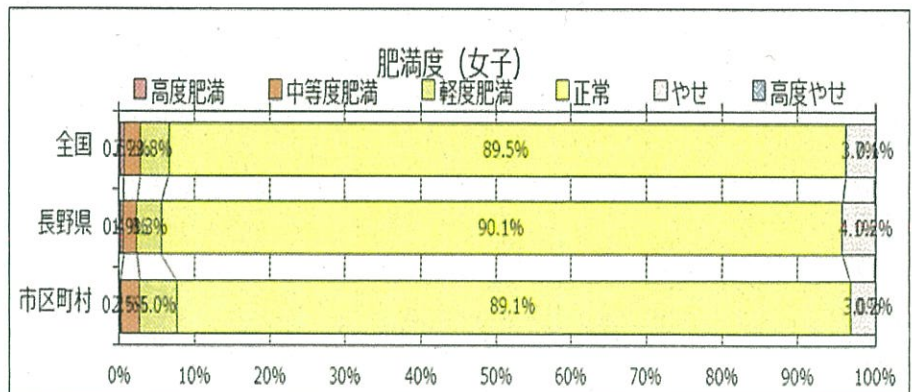
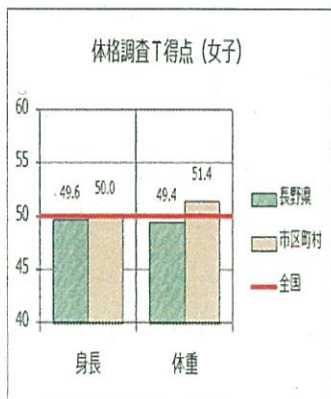
○肥満傾向の割合は全国平均より僅かに少なく、痩身傾向は全国平均とほぼ同じでした。



②女子

○身長は全国平均とほぼ同じであり、体重は全国平均を上回りました。

○軽度肥満傾向の割合が全国平均を僅かに上回り、痩身傾向は全国とほぼ同じでした。

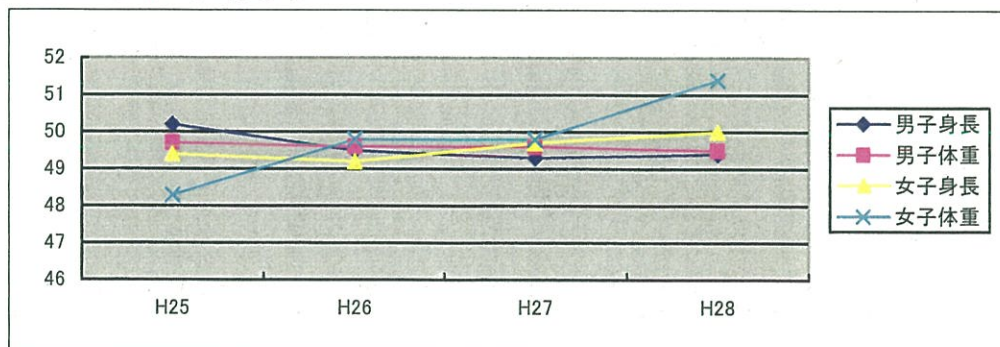


③体格の経年変化 (Tスコア)

○男子の身長・体重は大きな変動がなく推移していました。

○女子の体重は平成25年度には全国平均を下回っていましたが、その後上向きとなり、本年度は全国平均を上回りました。

【中学校：体格の経年変化】



## 2 体力・運動能力

### (1) 平成 28 年度の体力合計点

- ①小学校男子：体力合計点は全国平均を上回りました。
- ②小学校女子：体力合計点は全国平均を上回りました。
- ③中学校男子：体力合計点は全国平均とほぼ同じでした。
- ④中学校女子：前年度を 0.14 ポイント上回り平成 25 年度以降の最高値でしたが全国平均を下回りました。  
T 得点では平成 25 年度以降の最低値でした。

### (2) 体力合計点の経年変化

- ①小学校男子：平成 26 年度が最高値でした。本年度はそれとほぼ同得点であり、全体に上向き傾向です。
- ②小学校女子：平成 27 年度が最高値でした。本年度はそれを上回っていませんが、全国平均を上回っており全体に上向き傾向です。
- ③中学校男子：平成 26 年度が最高値で本年度はそれに次ぐ得点でした。全国平均と大差はなく平成 25 年度からの経年変化では僅かに上向き傾向です。
- ④中学校女子：平成 25 年度以降の最高値でしたが、全国平均に比べて上昇が僅かでしたので T 得点では最低値でした。依然全国との差は開いています。

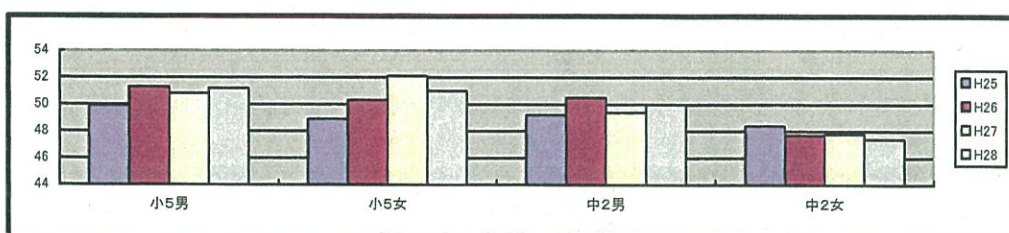
《本年度と平成 25 年度からの安曇野市と長野県・全国の体力合計点（平均）の一覧》

（ ◎高い ○僅かに高い □ほぼ同じ ▽僅かに低い ▼低い ）

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
① 小5男子	市T得点	□49.9	◎51.3	○50.8	◎51.2
	安曇野市	53.74	55.10	54.55	55.00
	県	54.07	53.84	54.10	54.20
	国	53.87	53.91	53.80	53.92
② 小5女子	市T得点	▼48.9	□50.3	◎52.1	◎51.0
	安曇野市	53.78	55.27	56.94	56.35
	県	54.35	54.66	55.40	55.29
	国	54.70	55.01	55.18	55.54
③ 中2男子	市T得点	▽49.2	○50.5	▽49.4	□50.0
	安曇野市	41.01	42.19	41.27	42.11
	県	41.87	42.11	42.33	42.39
	国	41.78	41.74	41.89	42.13
④ 中2女子	市T得点	▼48.4	▼47.7	▼47.8	▼47.4
	安曇野市	46.72	46.15	46.63	46.77
	県	47.01	47.38	48.83	48.65
	国	48.42	48.66	49.08	49.56

※体力合計点：小・中学校 8 種目の記録を年齢別、男女別の換算表により点数化（1～10 点）し、その合計点を 80 点満点で表したものです。 ※T 得点：全国平均を 50 点としたときの換算点です。

### 【体力合計点（T 得点）の経年変化】





(3) 種目別平均点

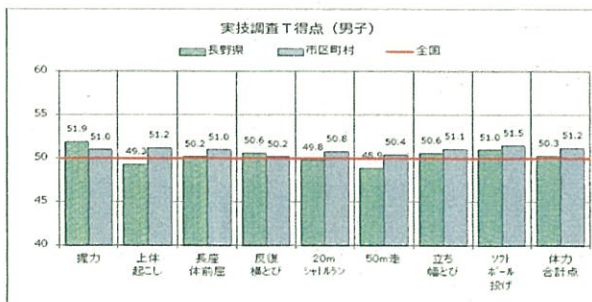
- ①小学校男子：握力・上体起こし・長座体前屈・立ち幅とび・ボール投げの5種目が全国を上回っていました。
- ②小学校女子：反復横とび・50mシャトルラン・ボール投げの3種目が全国を上回っていました。
- ③中学校男子：50m走・立ち幅とびの2種目が全国を上回っていました。
- ④中学校女子：長座体前屈が全国を僅かに上回っていました。握力が僅かに下回り他は下回っていました。

《安曇野市と長野県・全国との比較》

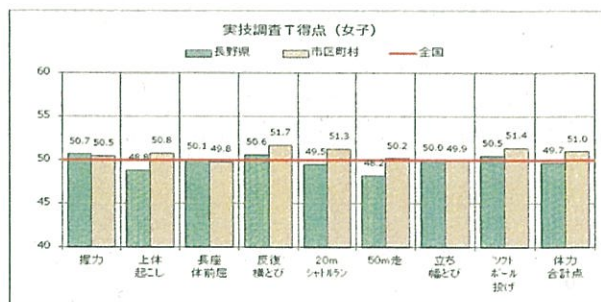
		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトル (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)
① 小学校 男子	市T得点	◎51.0	◎51.2	◎51.0	□50.2	○50.8	□50.4	◎51.1	◎51.5
	安曇野	16.85	20.40	33.71	42.12	53.51	9.34	153.67	23.61
	県	17.20	19.28	33.03	42.47	51.55	9.49	152.61	23.20
	全国	16.47	19.67	32.87	41.97	51.89	9.38	151.39	22.42
② 小学校 女子	市T得点	○50.5	○50.8	□49.8	◎51.7	◎51.3	□50.2	□49.9	◎51.4
	安曇野	16.30	19.02	37.08	41.25	43.41	9.59	145.10	14.57
	県	16.38	17.96	37.27	40.45	40.50	9.76	145.30	14.14
	全国	16.13	18.60	37.21	40.96	41.29	9.61	145.31	13.88
③ 中学校 男子	市T得点	▽49.3	□50.0	□50.2	▼47.5	▽49.4	◎51.0	◎51.2	□50.4
	安曇野	28.38	27.46	43.30	49.93	84.76	7.93	198.06	20.81
	県	29.33	26.97	43.68	50.58	84.37	8.01	197.91	21.44
	全国	28.91	27.46	43.06	51.93	86.24	8.03	194.69	20.59
④ 中学校 女子	市T得点	▽49.4	▼47.9	○50.7	▼45.0	▼47.3	▼48.9	▼48.3	▼47.8
	安曇野	23.48	22.28	46.17	43.20	53.31	8.92	164.11	11.92
	県	23.87	22.48	46.08	44.78	56.37	8.87	167.34	12.91
	全国	23.75	23.48	45.46	46.60	58.80	8.83	168.28	12.85

【種目別比較グラフ】 ※市区町村が安曇野市を表しています。

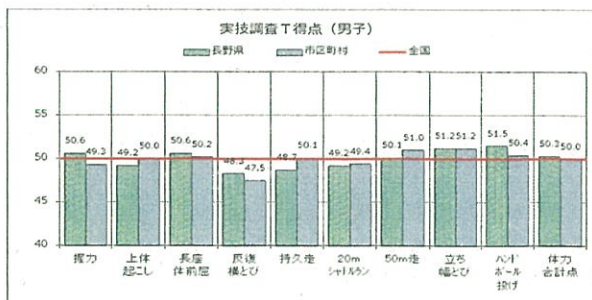
① 【小5男子】



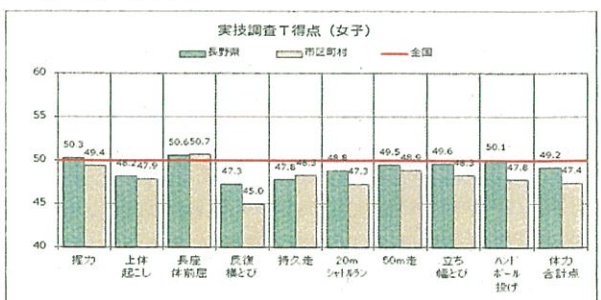
② 【小5女子】



③ 【中2男子】



④ 【中2女子】



中学校では、持久走と20mシャトルランのどちらかを選択しています。市内では2種目とも行っている学校もあります。



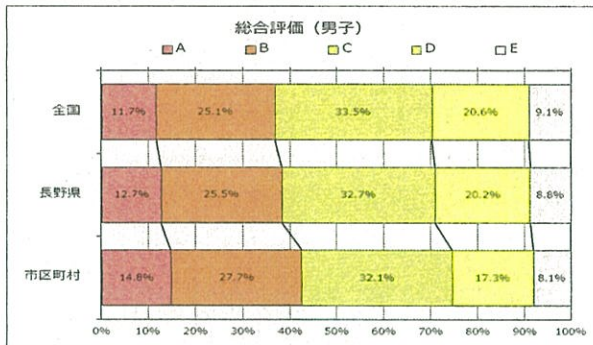
(4) 総合評価の割合と度数分布

※総合評価は、8種目すべてを実施した場合、合計点の良い方からABCDEの5段階で示した評価です。

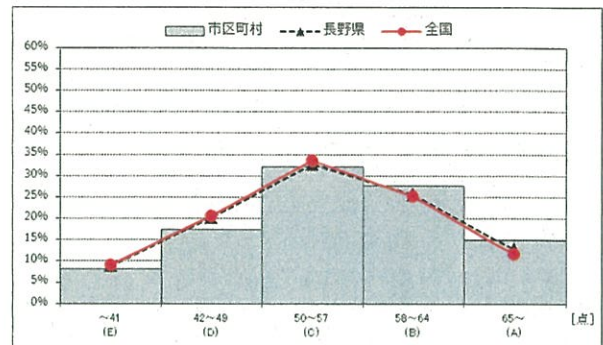
※市区町村が安曇野市を表しています。

①小学校男子：A段階が全国を上回り、A・B段階の合計でも全国を上回っていました。D段階が少なく平均値は全国を上回っていました。

①【小学校男子 総合評価の割合】

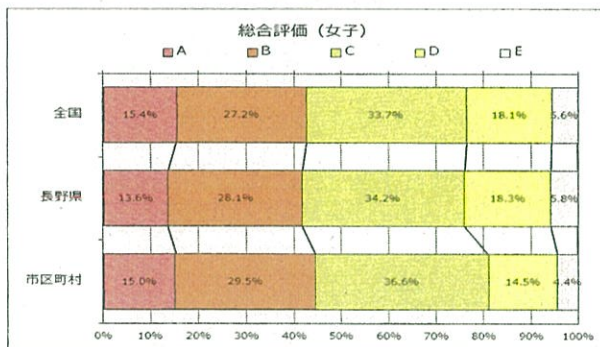


①-2【小学校男子 総合評価の度数分布】

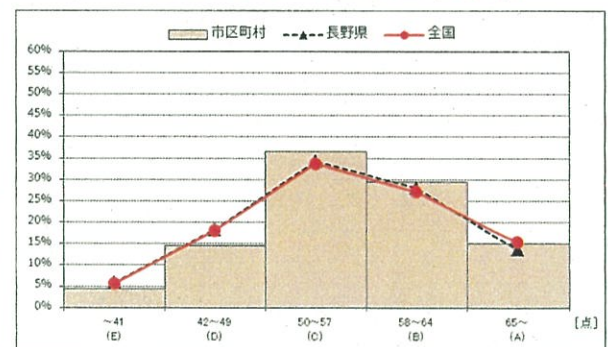


②小学校女子：A段階は全国とほぼ同じですが、B・C段階が全国を上回りD段階が全国を下回り平均値では全国を上回っていました。

②【小学校女子総合評価の割合】

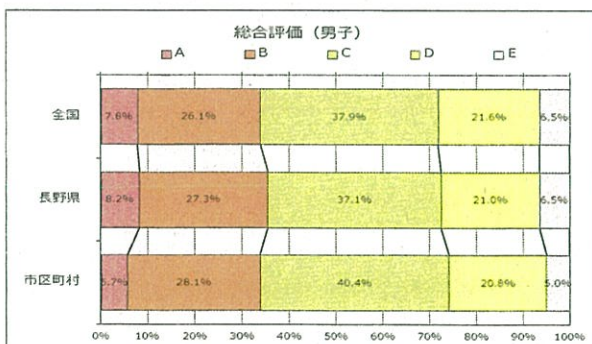


②-2【小学校女子 総合評価度数分布】

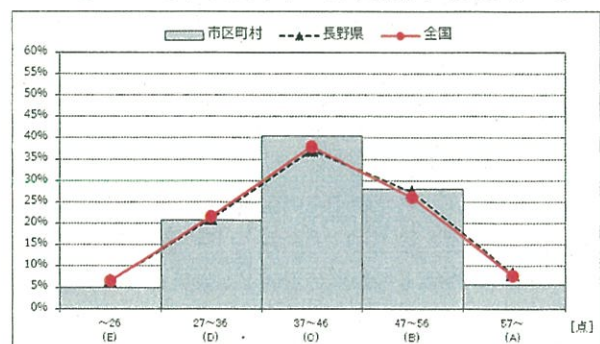


③中学校男子：A段階は全国を下回っていますが、A・B段階の合計は全国とほぼ同じでした。平均値は全国とほぼ同じでした。

③【中学校男子 総合評価の割合】



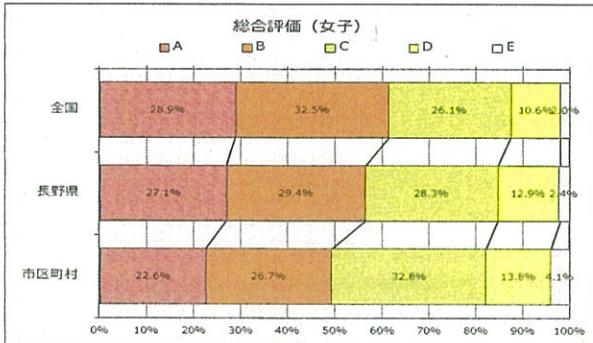
③-2【中学校男子 総合評価同数分布】



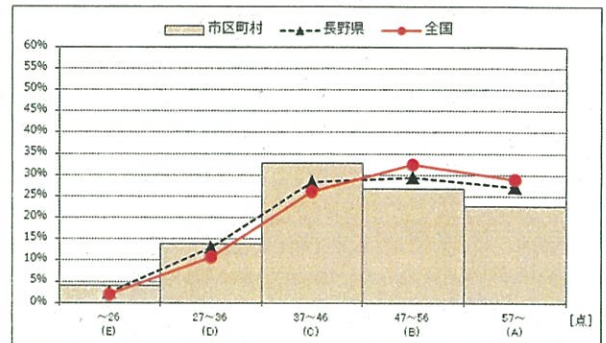


④中学校女子：A段階が全国より6.3%少なく、B段階も5.8%少なかった。C・D・E段階が全国・県より多くその合計は50%を越えていました。

④【中学校女子 総合評価の割合】



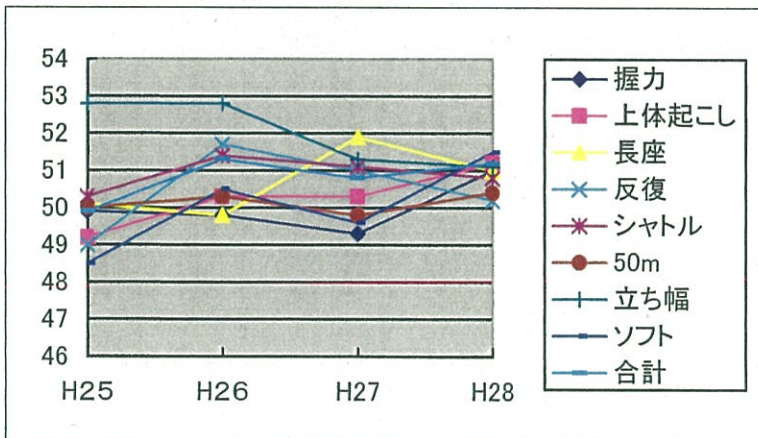
④-2【中学校女子 総合評価度数分布】



(5) 種目別平均点のT得点の経年変化（平成25年度から）

①【小学校男子】

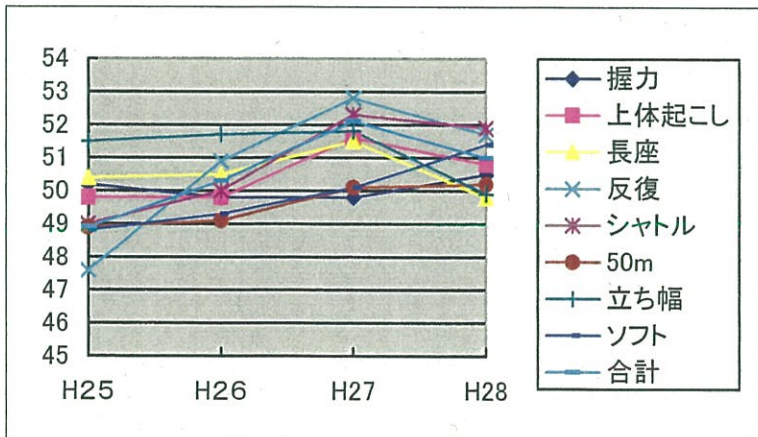
立ち幅跳びは平成25年度を最高値として下降し本年度が最低値でした。ソフトボール投げは平成25年度を最低値として本年度が最高値でした。種目により上下動がありましたが、本年度は全種目がバランスよく50点以上となり全体では上向き傾向でした。



	H25	H26	H27	H28
握力	49.9	49.8	49.3	51.0
上体起こし	49.2	50.3	50.3	51.2
長座体前屈	50.1	49.8	51.9	51.0
反復横跳び	49	51.7	51	50.2
シャトルラン	50.3	51.4	51.1	50.8
50m走	50	50.3	49.8	50.4
立ち幅跳び	52.8	52.8	51.3	51.1
ソフトボール投げ	48.5	50.5	49.6	51.5
合計点	49.9	51.3	50.8	51.2

②【小学校女子】

合計点では平成27年度が最高値でした。平成28年度は前年度を下回りましたが、50点に届かない長座体前屈と立ち幅跳びは全国平均とほぼ同じであり、課題となる種目が見られず全体では上向き傾向でした。

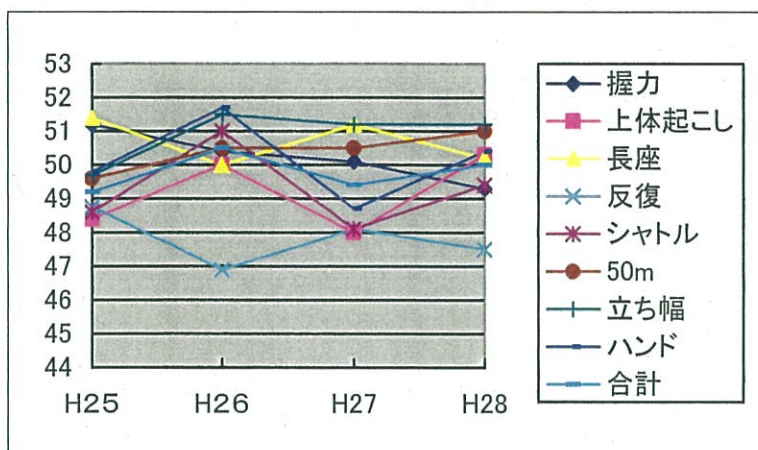


	H25	H26	H27	H28
握力	50.2	49.8	49.8	50.5
上体起こし	49.8	49.8	51.6	50.8
長座体前屈	50.4	50.5	51.5	49.8
反復横跳び	47.6	50.9	52.8	51.7
シャトルラン	49	50	52.3	51.3
50m走	48.9	49.1	50.1	50.2
立ち幅跳び	51.5	51.7	51.8	49.9
ソフトボール投げ	48.8	49.3	50.1	51.4
合計点	48.9	50.3	52.1	51.0



### ③【中学校男子】

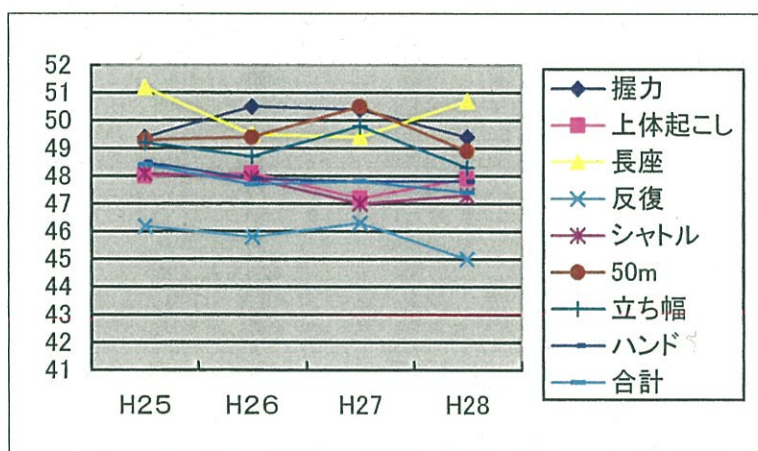
平成26年度は反復横とびを除いて50点を越えており、合計点では最高値でした。結果の上下動がある中、上体起こし・反復横とび・20mシャトルラン・ハンドボール投げが共通の課題でした。本年度は上体起こしとハンドボール投げに改善が見られましたが、依然、反復横とびと20mシャトルランに課題があります。



	H25	H26	H27	H28
握力	51.2	50.4	50.1	49.3
上体起こし	48.4	50.0	48.0	50.0
長座体前屈	51.4	50.0	51.2	50.2
反復横跳び	48.76	46.9	48.1	47.5
シャトルラン	48.6	51.0	48.1	49.4
50m走	49.6	50.5	50.5	51.0
立ち幅跳び	49.7	51.5	51.2	51.2
ソフトボール投げ	49.8	51.7	48.7	50.4
合計点	49.2	50.5	49.4	50.0

### ④【中学校女子】

長座体前屈は僅かに上向きでしたが、他は依然低迷しています。特に上体起こし・反復横とび・20mシャトルラン・ハンドボール投げの全国との差が大きく、反復横とびのT得点は最大の差となりました。



	H25	H26	H27	H28
握力	49.4	50.5	50.4	49.4
上体起こし	48.0	48.1	47.2	47.9
長座体前屈	51.2	49.5	49.4	50.7
反復横跳び	46.2	45.8	46.3	45.0
シャトルラン	48.1	47.9	47.0	47.3
50m走	49.3	49.4	50.5	48.9
立ち幅跳び	49.2	48.7	49.8	48.3
ソフトボール投げ	48.5	47.9	47.8	47.8
合計点	48.4	47.7	47.8	47.4

## (6) 安曇野市の傾向と課題

### ①小学校の特徴

○男子：種目別のT得点では立ち幅とびが下降していますが、体力合計点は、平成26年度以降全国平均を下回ることなく推移しており上向き傾向です。

○女子：平成25年度の体力合計点は全国平均より低く、その後はほぼ同じとなり、平成27、28年度と連続して全国平均を上回りました。本年度の種目別では長座体前屈と立ち幅跳びが50点を割り4年間の中では最低点でしたが、全体に上向き傾向です。

### ②中学校の特徴

○男子：全国平均を僅かに下回ったり上回ったりして推移しており全国とほぼ同じです。経年変化では僅かに上向き傾向ですが、反復横とび・20mシャトルランに課題があります。総合評価A・B段階の底上げが課題です。

○女子：全国平均より低くその差が開いています。特に上体起こし・反復横とび・シャトルラン・ハンドボール投げに課題が見られます。総合評価では中位層が厚く上位層が薄い状況です。

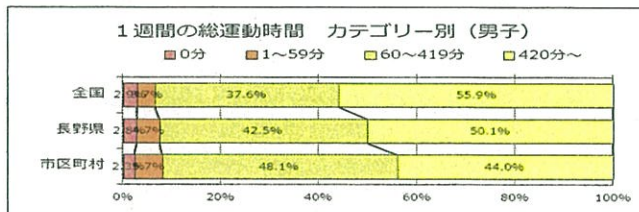


### 3 児童生徒に対する質問紙調査

※市区町村が安曇野市を表しています。

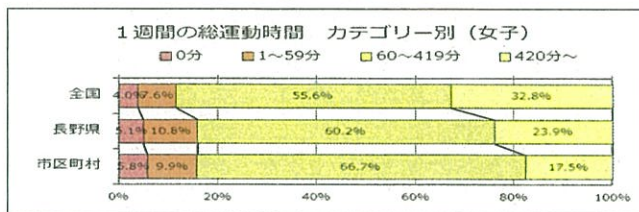
#### (1) 1週間の総運動時間 カテゴリー別

①【小学校男子】 ○総運動時間420分以上が全国より11%、県より6%下回りました。

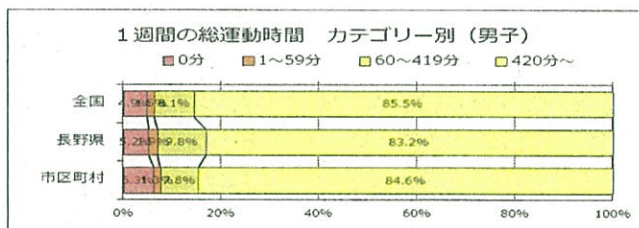


男子	0分	1~59分	60~419分	420分~
全国	2.9%	3.7%	37.6%	55.9%
長野県	2.8%	4.7%	42.5%	50.1%
市区町村	2.3%	5.7%	48.1%	44.0%
女子	0分	1~59分	60~419分	420分~
全国	4.0%	7.6%	55.6%	32.8%
長野県	5.1%	10.8%	60.2%	23.9%
市区町村	5.8%	9.9%	66.7%	17.5%

②【小学校女子】 ○0分から419分が全国より多く、420分以上が15.7%下回りました。

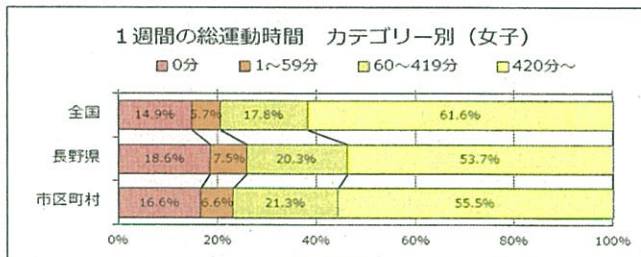


③【中学校男子】 ○0分が全国より2%多いが全体にほぼ全国と同じ割合でした。



男子	0分	1~59分	60~419分	420分~
全国	4.9%	1.5%	8.1%	85.5%
長野県	5.2%	1.9%	9.8%	83.2%
市区町村	6.3%	1.3%	7.8%	84.6%
女子	0分	1~59分	60~419分	420分~
全国	14.9%	5.7%	17.8%	61.6%
長野県	18.6%	7.5%	20.3%	53.7%
市区町村	16.6%	6.6%	21.3%	55.5%

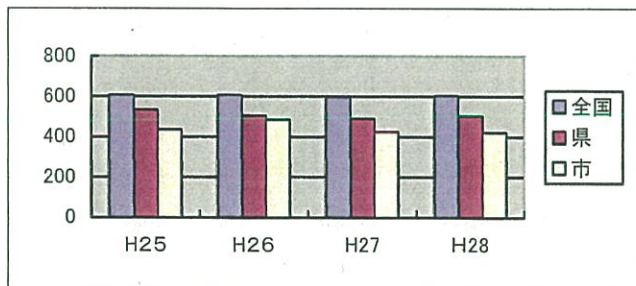
④【中学校女子】 ○0分から419分が全国より多く、420分以上が6.1%下回りました。



#### (2) 1週間の総運動時間 (全国・長野県・安曇野市) の経年変化

##### ①【小学校男子】

全国平均は600分前後で推移していますが、市は500分を超えることがなく、全国・県より少ない時間で推移しており、平成28年度の全国平均との差は-178分。県平均との差は-78分でした。

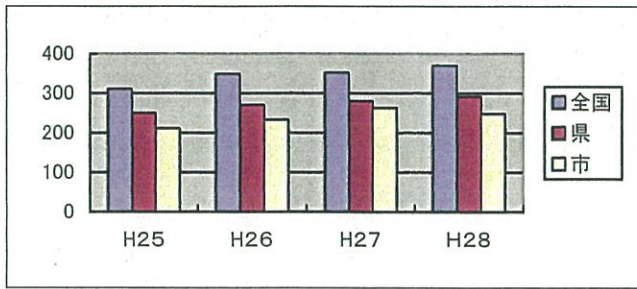


	H25	H26	H27	H28
全国	606	607	597	603
長野県	533	504	491	503
安曇野市	436	486	425	422
全国との差	-170	-121	-172	-178



②【小学校女子】

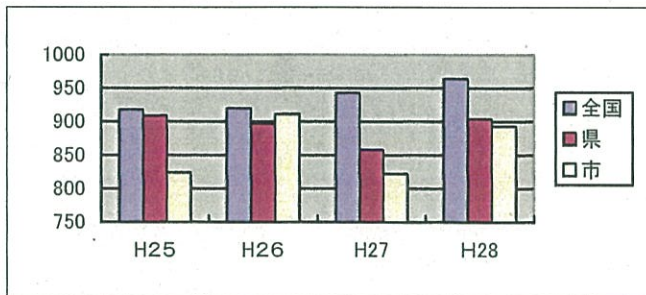
全国平均は300分を超え推移していますが、市は300分を超えることがなく、全国・県より少ない時間で推移しています。平成28年度の全国平均との差は-122分。県との差は-43分でした。



	H25	H26	H27	H28
全国	311	349	352	370
長野県	250	270	280	291
安曇野市	211	233	263	248
全国との差	-100	-116	-89	-122

③【中学校男子】

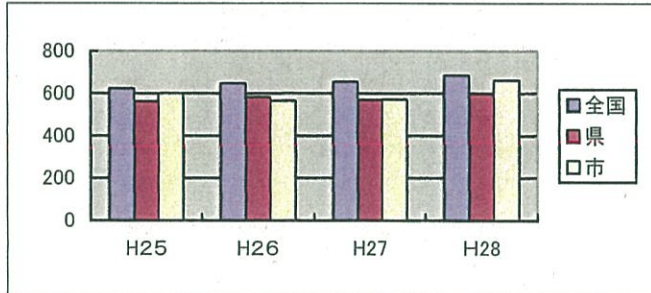
全国平均は900分を超え推移していますが、市は平成26年度を除き900分を超えていません。平成28年度の全国平均との差は-71分でした。



	H25	H26	H27	H28
全国	918	920	914	964
長野県	909	897	858	904
安曇野市	824	911	822	893
全国との差	-89	-9	-92	-71

④【中学校女子】

平成28年度は600分を超えて全国平均との差は-23分となり、全国の運動時間に近づきました。



	H25	H26	H27	H28
全国	623	647	654	685
長野県	563	581	570	598
安曇野市	600	555	571	662
全国との差	-23	-92	-83	-23

(3) 曜日毎の運動時間の比較

※市区町村が安曇野市を表しています。

①小学校男子：どの曜日も全国は60分を超えています。市は土・日曜日以外は60分を超えていません。総運動時間の全国との差は約180分あり、小中男女別の中で一番大きな全国平均との差でした。

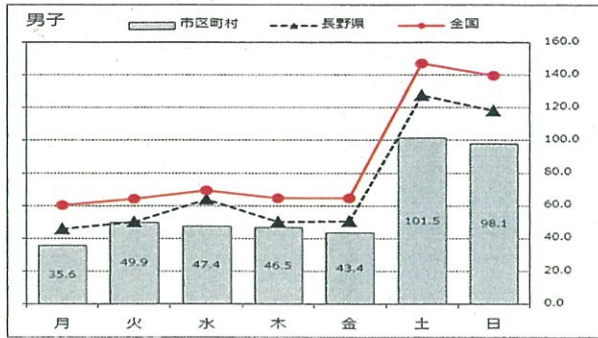
②小学校女子：どの曜日も全国・県より運動時間が少なく、総運動時間の全国との差は-122分でした。

《小学校 曜日毎の運動時間》

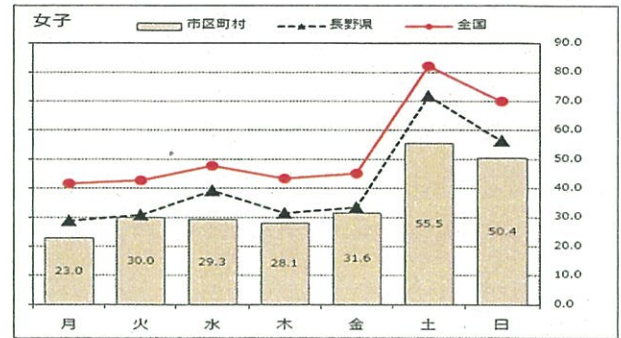
		月	火	水	木	金	土	日	計	
① 小学校 男子	全国	60.1	64.1	69.3	64.4	64.4	147.2	139.7	602.9	全国
	長野県	45.8	49.9	63.9	50.1	50.6	127.4	118.3	503.0	長野県
	安曇野市	35.6	49.9	47.4	46.5	43.4	101.5	98.1	422.4	安曇野市
② 小学校 女子	全国	41.5	42.6	47.7	43.3	45.1	82.1	70.0	370.3	全国
	県	28.8	30.7	39.2	31.5	33.4	71.7	56.3	290.9	県
	安曇野市	23.0	30.0	29.3	28.1	31.6	55.5	50.4	247.9	安曇野市



①【小学校男子】



②【小学校女子】



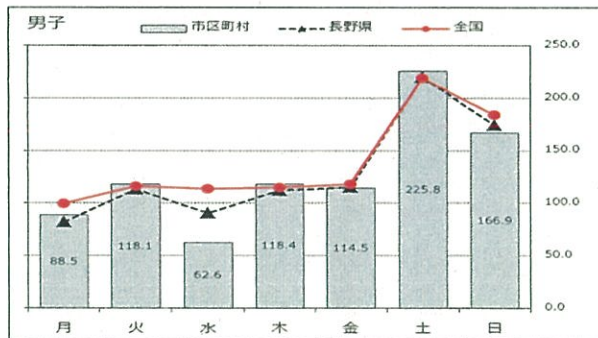
③中学校男子：月・水・日曜日が全国より少なく、総運動時間の全国との差は-71分でした。

④中学校女子：月・水曜日が全国より少なく、土・日曜日は全国より多く、総運動時間の全国との差は小中男女別の中で一番小さく-23分でした。

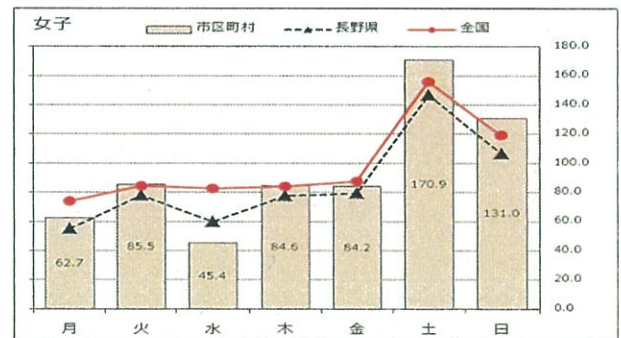
《 中学校 曜日毎の運動時間 》

		月	火	水	木	金	土	日	計	
③ 中学 男子	全国	99.5	116.1	113.5	114.8	118.2	219.1	184.0	964.3	全国
	長野県	81.7	113.0	90.4	112.0	114.7	219.6	174.0	903.5	長野県
	安曇野市	88.5	118.1	62.6	118.4	114.5	225.8	166.9	893.3	安曇野市
④ 中学 女子	全国	74.1	84.4	82.7	84.2	87.4	156.0	119.3	685.2	全国
	県	55.0	78.0	59.9	77.3	79.2	146.6	106.5	598.1	県
	安曇野市	62.7	85.5	45.4	84.6	84.2	170.9	131.0	662.2	安曇野市

③【中学校男子】



④【中学校女子】



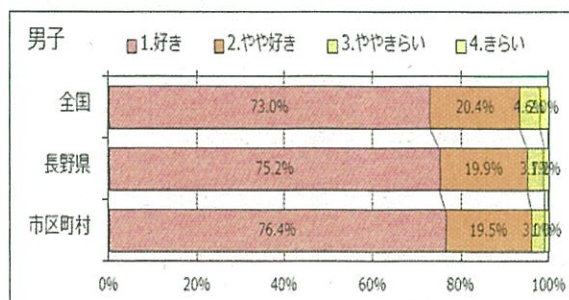
(4) 運動が好きな児童・生徒の割合 (全国・長野県・安曇野市) の比較

※市区町村が安曇野市を表しています。

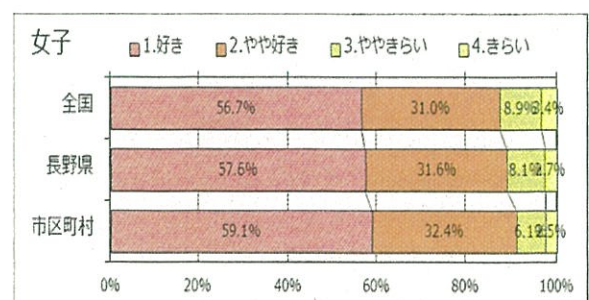
①小学校男子：運動好きが全国・長野県より多い状況でした。

②小学校女子：男子に比べ「運動好き」が少なくなる傾向ですが、全国・長野県よりは多い状況でした。

①【小学校男子】



②【小学校女子】

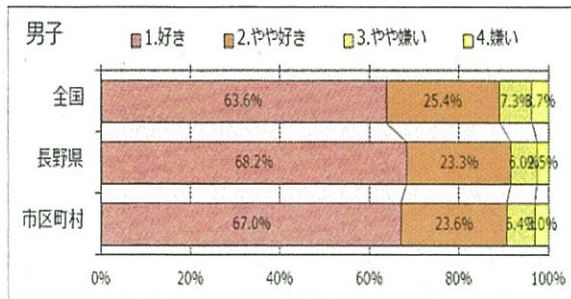




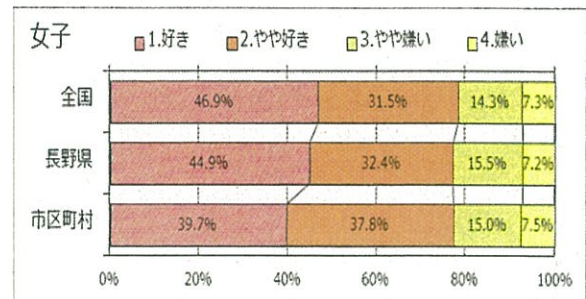
③中学校男子：運動好きは全国より多く、嫌いは全国との差がほぼありませんでした。

④中学校女子：運動好きは全国や県より少なく、やや好きが多いため、運動好きとやや好きを合わせると全国・県とほぼ同じになります。嫌いは全国と差がありませんでした。

③【中学校男子】



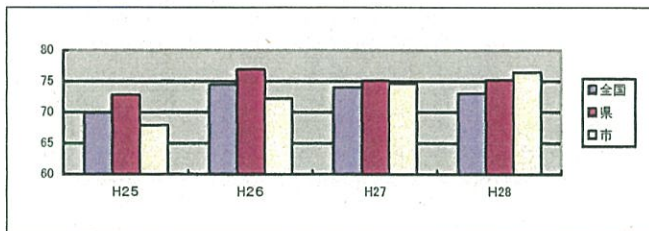
④【中学校女子】



(5) 市内児童生徒の運動好きの割合 (%) 経年変化

①【小学校男子】

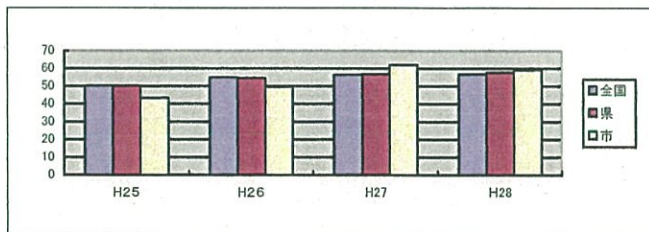
男子は平成 25・26 年度と全国・県を下回っていましたが、平成 27 年度全国を僅かに上回り、平成 28 年度は上回り運動好きの児童が年々増加していました。



区分	H25	H26	H27	H28
全国	69.9	74.4	74.0	73.0
長野県	72.8	76.9	75.1	75.2
安曇野市	67.9	72.2	74.6	76.4
全国との差	-2.0	-2.2	0.6	3.4

②【小学校女子】

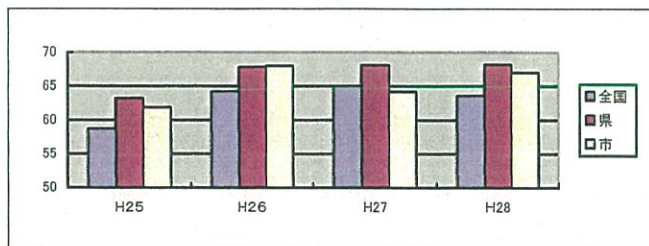
平成 25・26 年度と全国・県を下回っていましたが、平成 27 年度に全国・県を上回り、平成 28 年度は 60% に僅かに届いていませんが、運動好きの児童が上向き傾向で増えていました。



区分	H25	H26	H27	H28
全国	50.3	55.0	56.4	56.7
長野県	50.2	54.5	56.8	57.6
安曇野市	43.4	49.6	62.1	59.1
全国との差	-6.9	-5.4	5.7	2.4

③【中学校男子】

平成 25・26 年度と全国平均を上回っていましたが、平成 27 年度は僅かに下回りました。平成 28 年度は再び上昇し、全国平均を上回っていました。

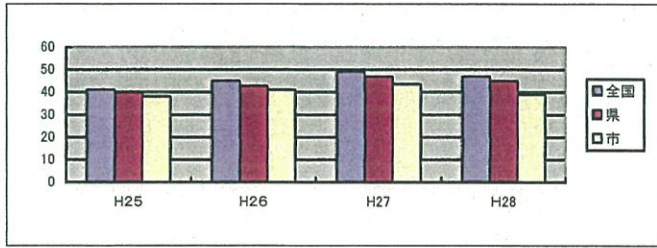


区分	H25	H26	H27	H28
全国	58.7	64.2	65.0	63.6
長野県	63.2	67.8	68.1	68.2
安曇野市	61.9	68.0	64.2	67.0
全国との差	3.2	3.8	-0.8	3.4



④【中学校女子】

平成25年度を最低値として年々上昇していましたが、平成28年度は下降し全国との差は7.9%と開きました。

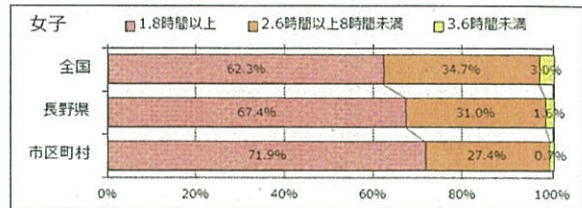
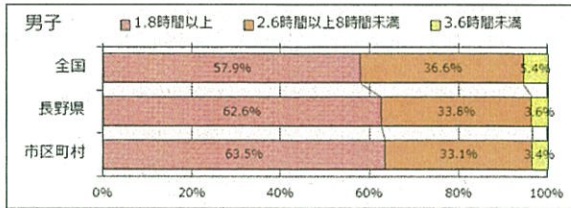


女子	H25	H26	H27	H28
全国	41.1	45.0	49.0	46.9
長野県	39.8	42.8	46.9	44.9
安曇野市	38.0	41.0	43.6	39.0
全国との差	-3.1	-4.0	-5.4	-7.9

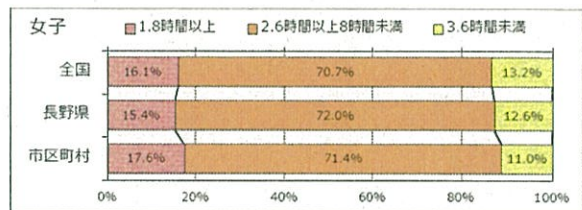
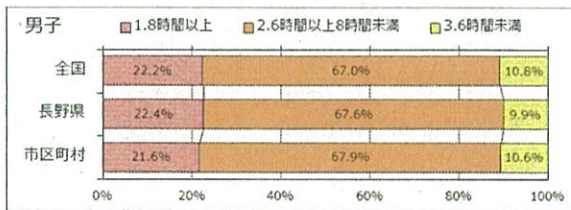
(6) 睡眠時間

※グラフ内市区町村が安曇野市を表しています。

①小学校 男女とも8時間以上が最も多く、全国・県を上回っていました。

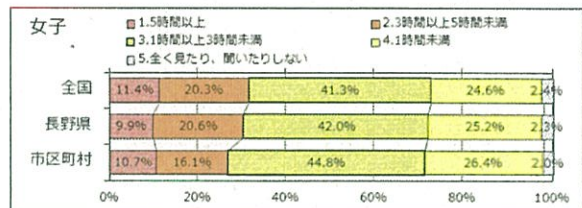
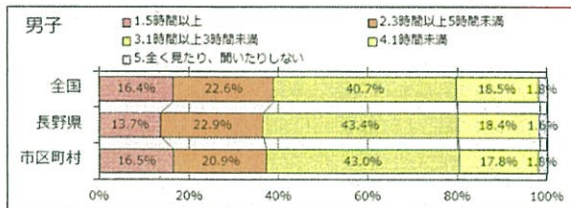


②中学校 男女とも6時間以上8時間未満が多く、割合は全国・県とほぼ同じでした。

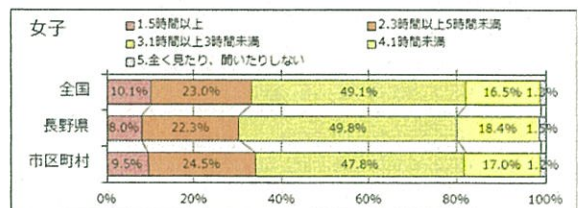
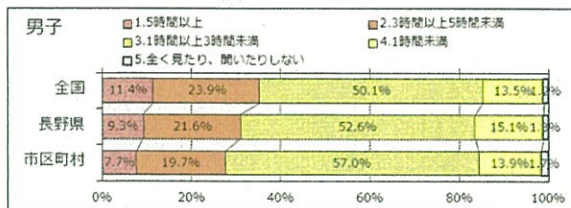


(7) 平日のテレビ・ビデオ等の時間

①小学校:男子は全国とほぼ同じでした。女子は3時間以上5時間未満が少なく、3時間未満が上回っていました。

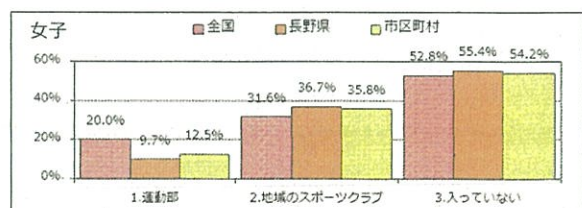
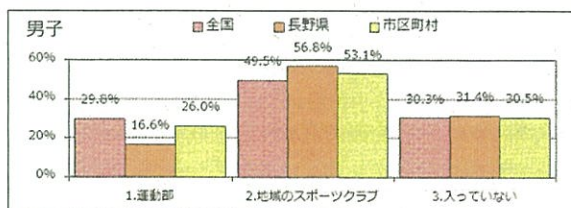


②中学校:男子は5時間以上、3時間以上が全国より少なく、女子は全国とほぼ同じ割合でした。



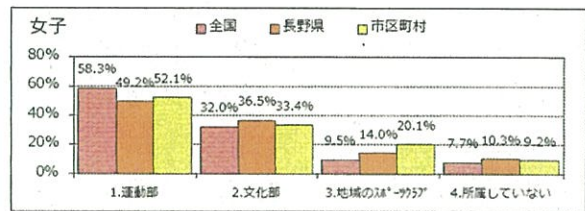
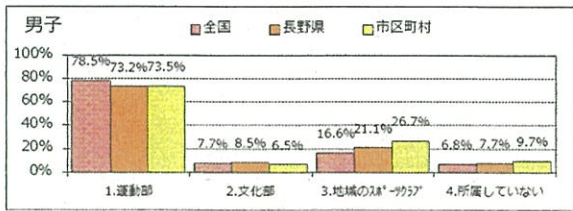
(8) 運動部等への所属

①小学校:男女とも運動部所属は全国を下回り、地域のスポーツクラブ所属は全国を上回っていました。



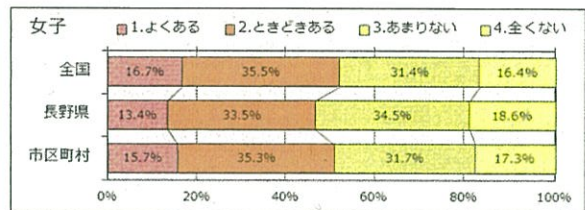
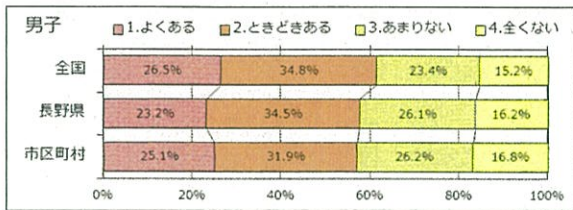


②中学校：男女とも運動部所属が全国を下回っていました。地域のスポーツクラブ所属は男女とも全国・県を上回っていました。

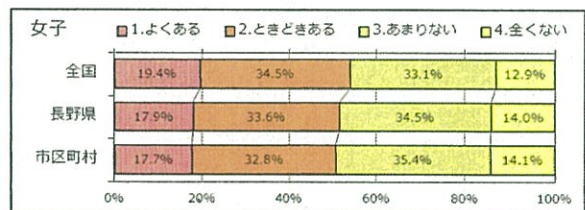
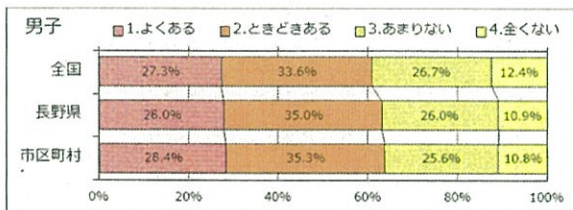


(9) 家の人から運動やスポーツを積極的に勧められる

①小学校：男子は全国に比べ「ある」「ときどきある」が少なく、「あまりない」「全くない」が多くなっていました。女子の割合は全国とほぼ同じでした。

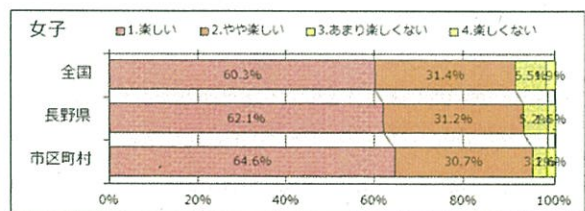
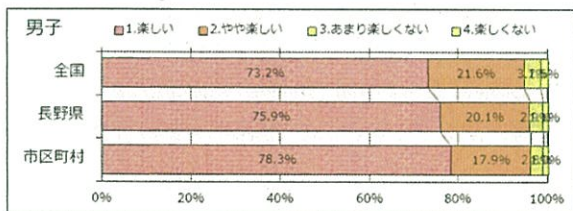


②中学校：男子は全国に比べ「ある」「ときどきある」が多く、女子は、「あまりない」「全くない」が全国を上回っていました。

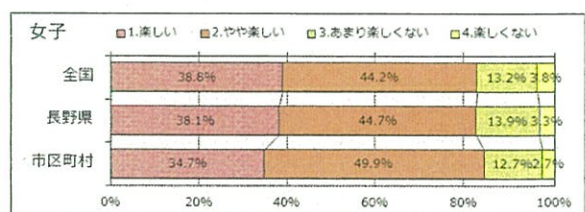
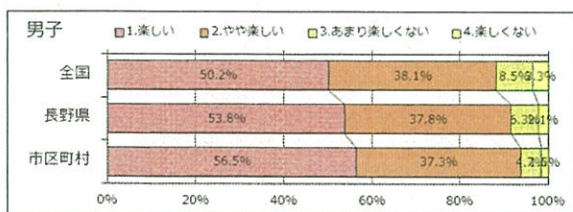


(10) 体育（保健体育）の授業は楽しい

①小学校：男女とも「楽しい」が全国・県を上回っていました。「あまり楽しくない」は全国・県を下回っていました。



②中学校：男子は「楽しい」が全国・県を上回っていました。女子は「楽しい」が下回り「やや楽しい」が上回っていました。





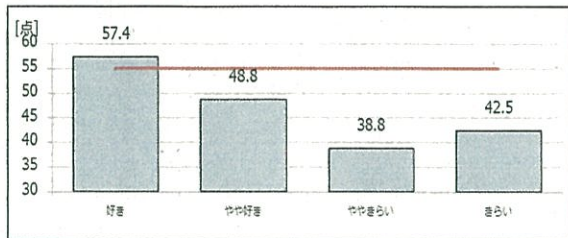
### Ⅲ 体力合計点と質問紙（回答）のクロス集計

#### 1 意識に関わるクロス集計

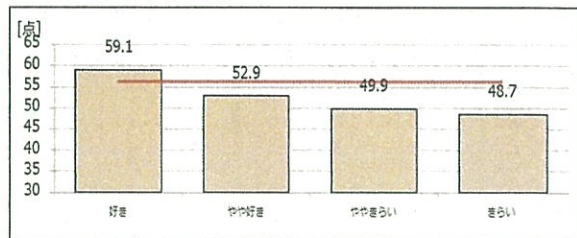
##### (1) 運動好き

○小学校男女・中学校男女とも「運動好き」が、それぞれの平均点を上回る傾向がありました。

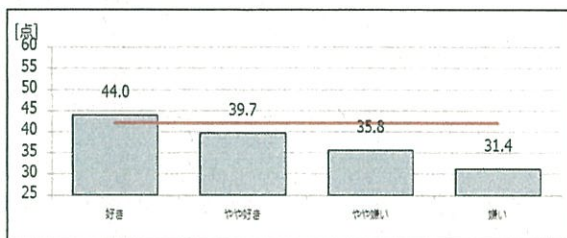
①【小学校男子】



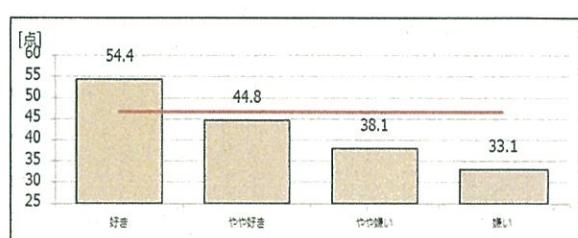
②【小学校女子】



③【中学校男子】



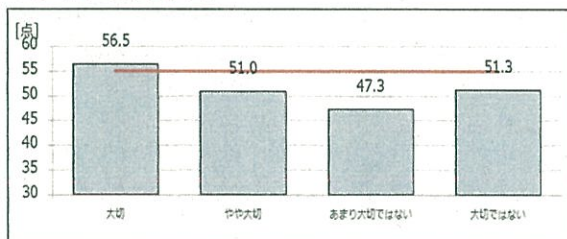
④【中学校女子】



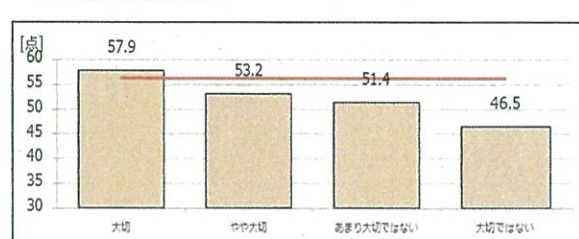
##### (2) 運動は大切だと思う

○小学校男女・中学校男女とも「運動は大切」だと思うが、それぞれの平均点を上回る傾向がありました。

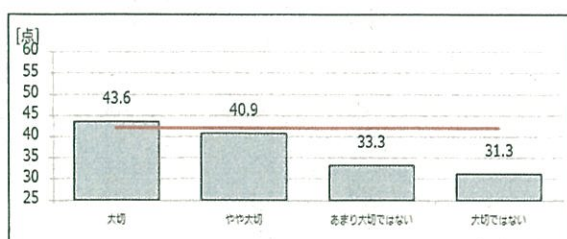
①【小学校男子】



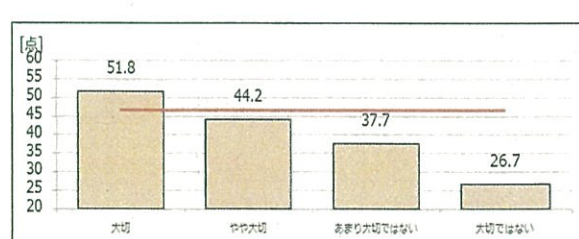
②【小学校女子】



③【中学校男子】



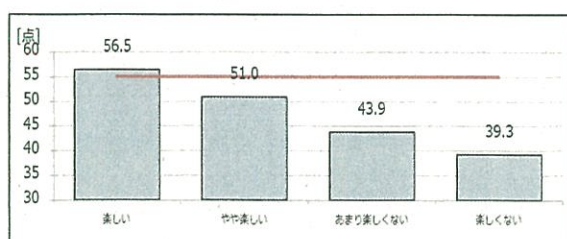
④【中学校女子】



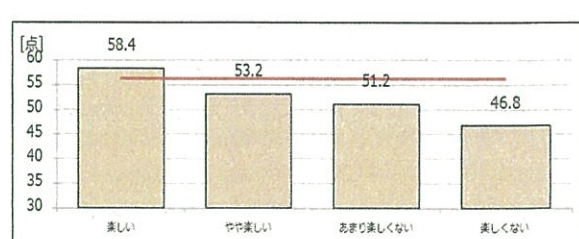
##### (3) 体育の授業は楽しいと思う

○小学校中学校の男女とも「体育の授業は楽しい」と思うが、それぞれの平均点を上回る傾向がありました。

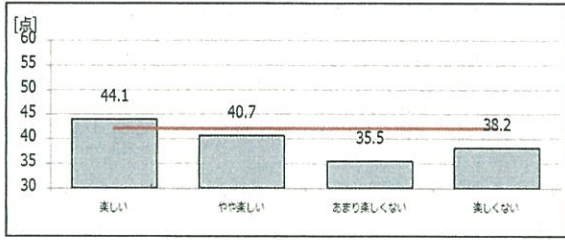
①【小学校男子】



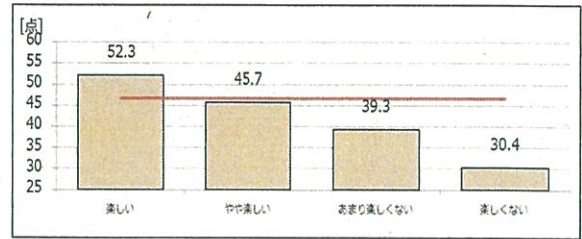
②【小学校女子】



③【中学校男子】



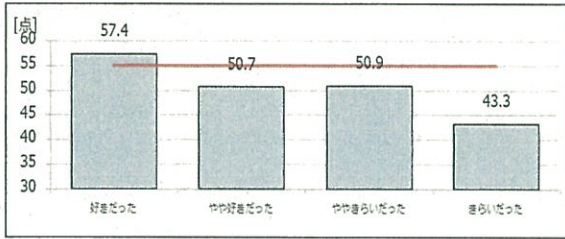
④【中学校女子】



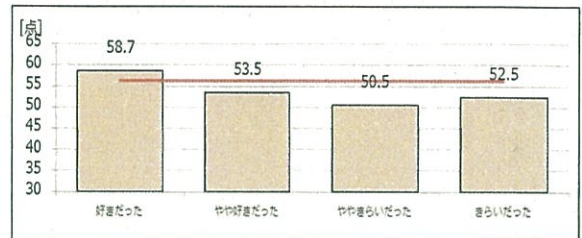
(4) 就学前の意識 (小学校5年生への質問)

○男女とも就学前「運動が好きだった」と思うが、それぞれの平均を上回る傾向がありました。

①【小学校男子】



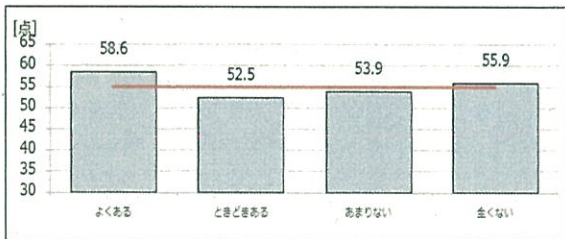
②【小学校女子】



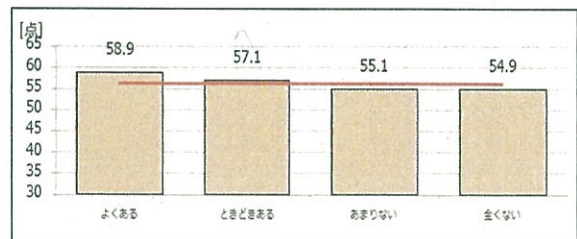
(5) 家の人からの積極的な運動の勧め

○小中学校男女とも「家の人からの積極的な運動の勧めがよくある」が、それぞれの平均点を上回る傾向がありました。

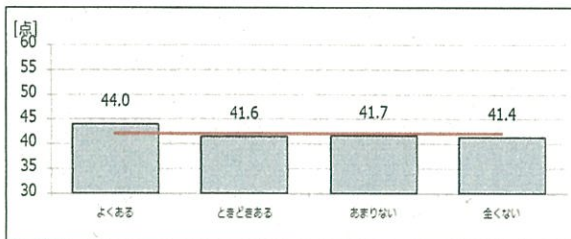
①【小学校男子】



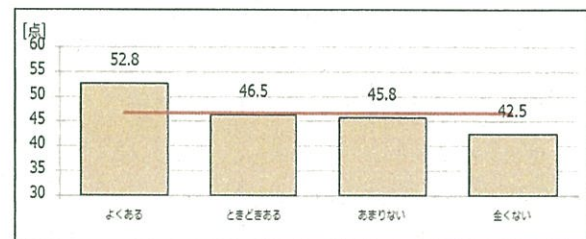
②【小学校男子】



③【中学校男子】



④【中学校女子】



2 生活習慣に関わるクロス集計

(1) 1週間の総運動時間

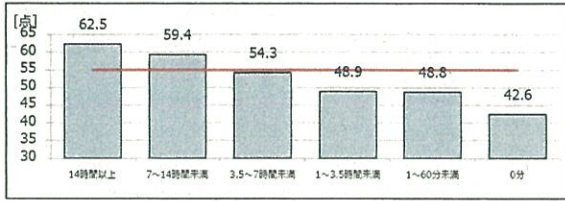
○小学校男子は、「7時間以上」の運動時間が平均点を上回る傾向があります。小学校女子は「3.5時間以上」の運動時間が平均点を上回る傾向がありました。

○中学校男女とも「7時間以上」の運動時間が平均点を上回る傾向がありました。

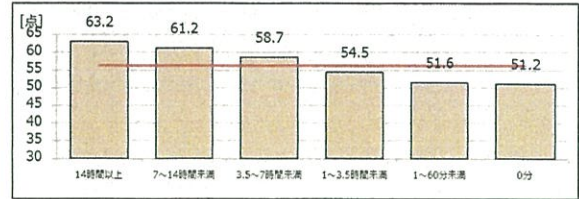
男女とも7時間以上と7時間未満の差は顕著でした。



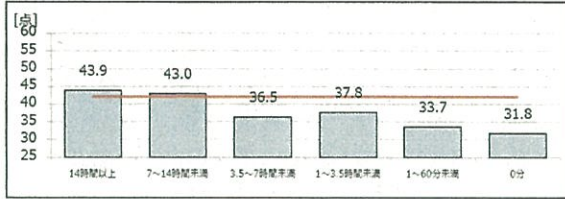
① 【小学校男子】



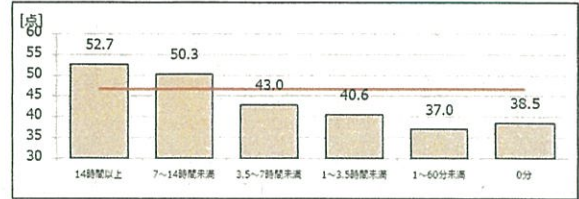
② 【小学校女子】



③ 【中学校男子】



④ 【中学校女子】

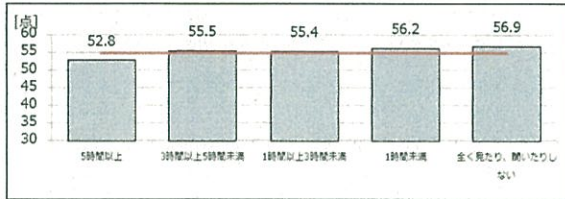


(2) 平日のテレビやビデオDVDの視聴時間

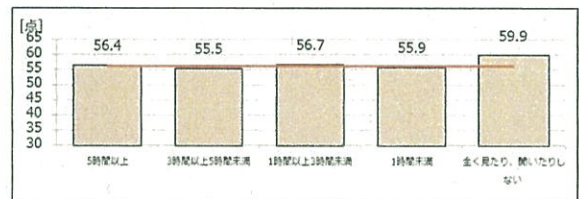
○小学校男女とも「全く見たり、聞いたりしない」が、平均点を上回る傾向がありました。

○中学校では男女とも視聴時間「1時間未満」が、それぞれの平均点を上回る傾向がありました。

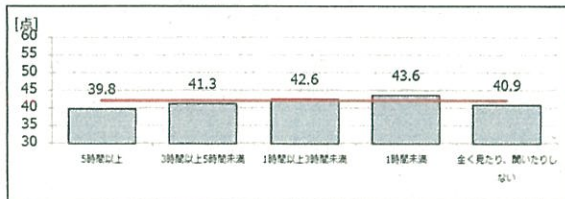
① 【小学校男子】



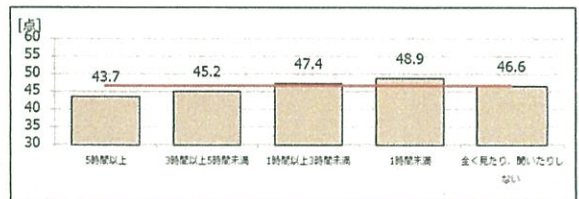
② 【小学校女子】



③ 【中学校男子】



④ 【中学校女子】

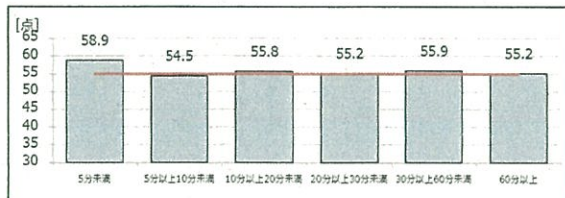


(3) 徒歩時間

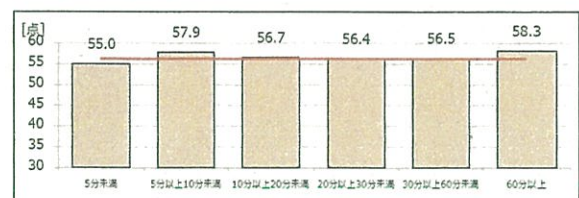
○小学校男子の徒歩時間5分未満は該当人数が少ないことを考えると、徒歩時間による大きな差異はありませんでした。

○中学校は男女とも60分以上の生徒の平均点が高い傾向がありました。

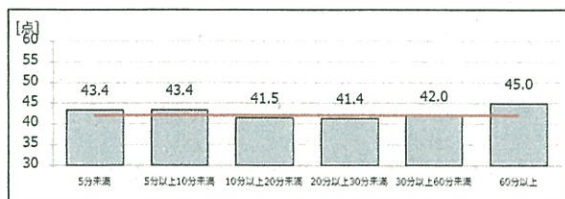
① 【小学校男子】



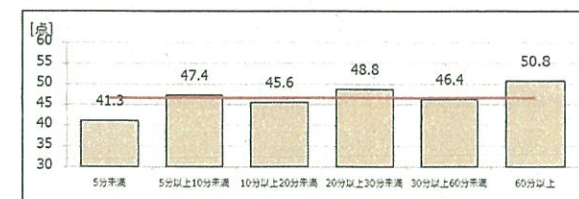
② 【小学校女子】



③ 【中学校男子】



④ 【中学校女子】

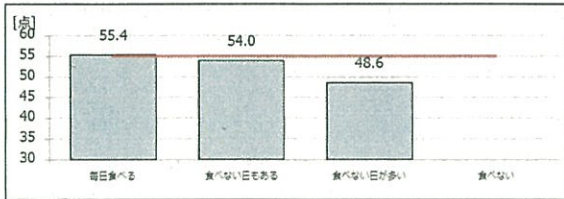


#### (4) 朝食

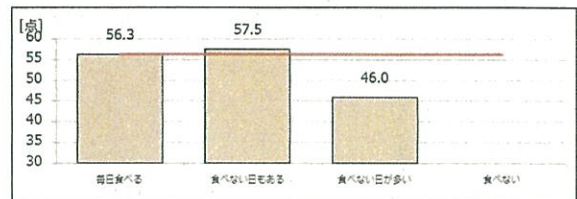
○小学校男子では「毎日食べる」が平均点を上回り、女子は「食べない日もある」が「毎日食べる」を僅かに上回りました。男女とも「食べない日が多い」は少人数ですが平均点を下回りました。

○中学校男女では「毎日食べる」が平均点を越え他は下回っています。

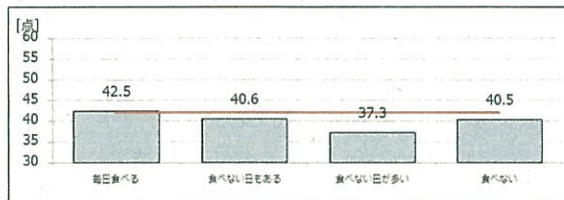
①【小学校男子】



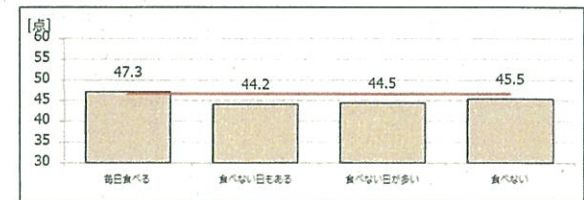
②【小学校女子】



③【中学校男子】



④【中学校女子】



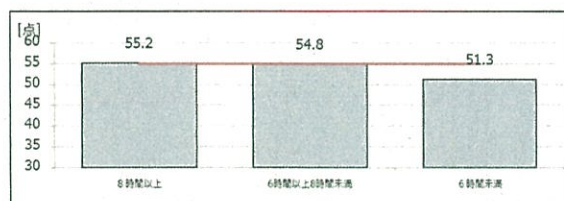
#### (5) 睡眠時間

○小学校男女とも8時間以上と6～8時間未満は平均点に大差はありませんが、男女とも8時間以上は平均点を僅かに越えていました。6時間未満は男子が3.7ポイント、女子が5.35ポイント下回っていました。

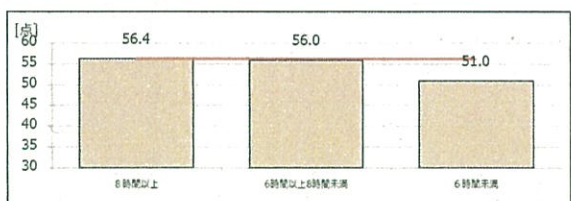
○中学校男子は6～8時間未満が平均点を僅かに上回り、8時間以上と6時間未満は僅かに下回っていました。

女子は6～8時間未満と8時間以上が僅かに平均点を上回り、6時間未満は約1ポイント平均点に及ばない状況でした。

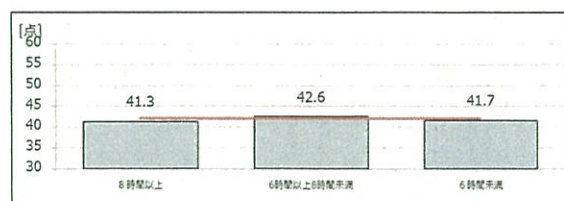
①【小学校男子】



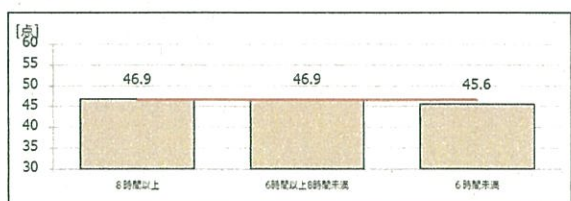
②【小学校女子】



③【中学校男子】



④【中学校女子】



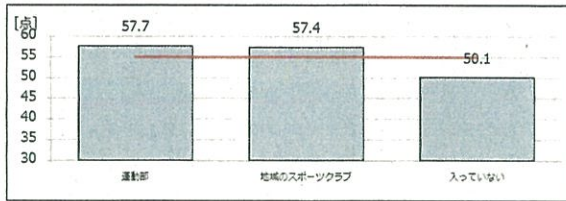
#### (6) 運動部所属

○小学校では男女とも「運動部」・「地域スポーツクラブ」に参加している」児童の体力点が高く、市の平均値を上回る傾向がありました。

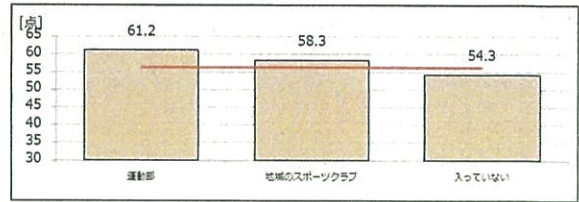
○中学校では男女とも「運動部」・「地域のスポーツクラブ」に参加している」生徒の体力点が高くそれぞれの平均点を上回る傾向がありました。文化部男子は「所属していない」と変わりなく、文化部女子は「所属していない」を下回っていました。



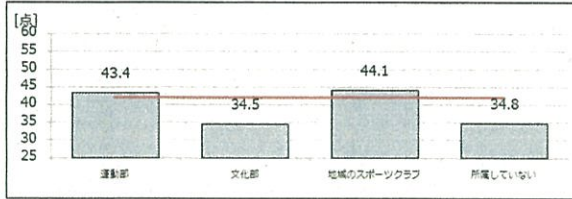
①【小学校男子】



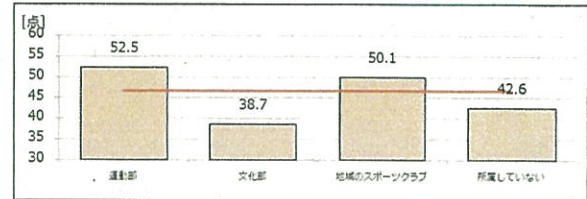
②【小学校女子】



③【中学校男子】



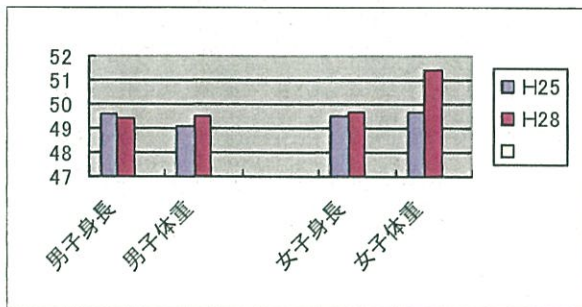
④【中学校女子】



#### IV 平成25年度（小学校5年時）と本年度（中学校2年）との比較

##### 1 体格の比較【Tポイントによる】

- (1) 男子：小学校5年時は身長がほぼ同じで、体重は僅かに下回っていました。中学校2年時は身長が0.2ポイント減り、体重は0.4ポイント増えました。
- (2) 女子：小学校5年時は身長が僅かに全国平均下回り、体重はほぼ同じでした。中学2年時では身長は全国平均とほぼ同じでしたが、体重は1.4ポイント上回りました。



《体格の比較 Tポイント》

	男子		女子	
	H25 小学5年	H28 中学2年	H25 小学5年	H28 中学2年
身長	49.6	49.4	49.5	50.0
体重	49.1	49.5	49.7	51.4

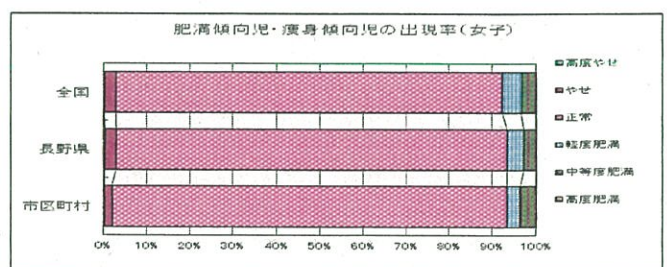
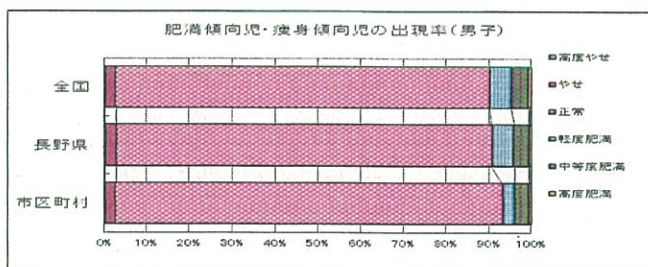
##### 2 肥満傾向・痩身傾向児の出現率（%）の比較

- (1) 男子：中等度肥満と痩身傾向が僅かに減少し、軽度肥満が僅かに増えていました。
- (2) 女子：軽度肥満が僅かに増えています。

《男女別 肥満傾向・痩身傾向児の出現率（%）の比較》

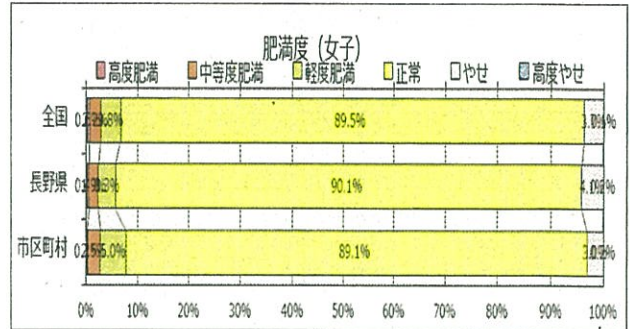
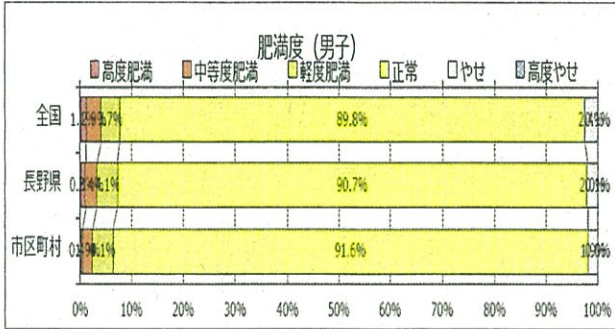
	男子					女子						
	高度肥満	中等度肥満	軽度肥満	正常	やせ	高度肥満	高度やせ	中等度肥満	軽度肥満	正常	やせ	高度やせ
H25	0.6	3.3	2.9	90.7	2.5	0	0.4	2.5	3.8	90.6	2.6	0.1
H28	0.4	1.9	4.1	91.6	1.9	0	0.2	2.5	5.0	89.1	3.0	0.2

【小学校5年時 平成25年度】





【中学校2年時 平成28年】



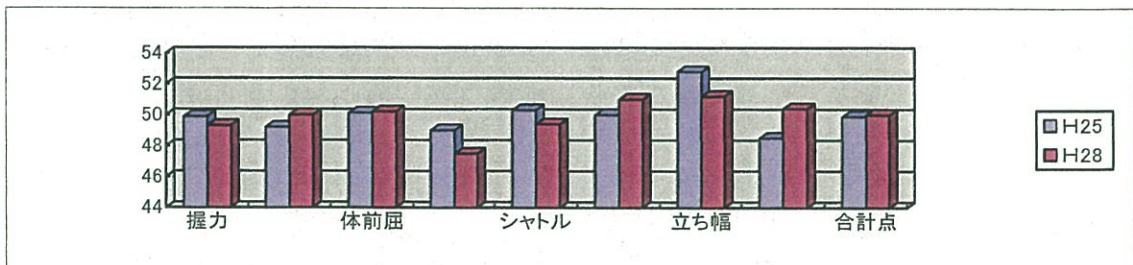
3 運動能力 Tポイントの比較

- (1) 男子：上体起こし・長座体前屈・50m走・ボール投げの4種目と合計点で小学校5年時のTポイントを越え、反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅とびの4種目が伸びていませんでした。
- (2) 女子：長座体前屈が僅かに上回り、50m走は同ポイントでした。他は5年時を下回り全国との差が開き、特に反復横跳びは全国との差が大きくなりました。

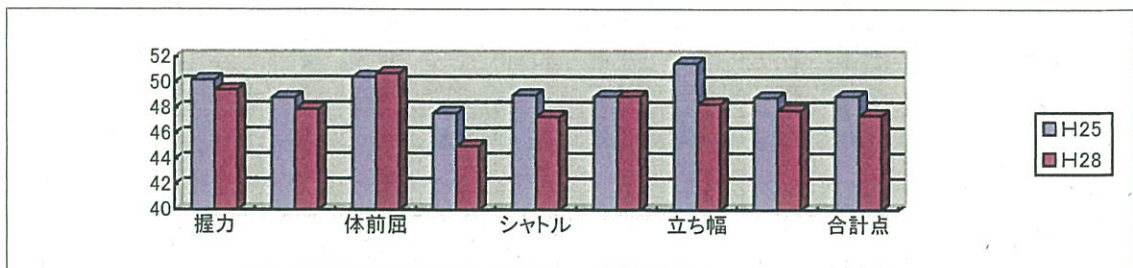
《種目別Tポイントの比較》

	男子		女子	
	H25 小5	H28 中2	H25 小5	H28 中2
握力	49.9	49.3	50.2	49.4
上体起こし	49.2	50.0	48.8	47.9
長座体前屈	50.1	50.2	50.4	50.7
反復横跳び	49.0	47.5	47.6	45.0
20mシャトルラン	50.3	49.4	49.0	47.3
50m走	50.0	51.0	48.9	48.9
立ち幅跳び	52.8	51.2	51.5	48.3
ボール投げ	48.5	50.4	48.8	47.8
合計点	49.9	50.0	48.9	47.4

①【種目別TポイントH25とH28の比較 男子】



②【種目別TポイントH25とH28の比較 女子】





4 質問紙調査 回答内容の比較

《質問調査 5年時と中2年時の回答内容の比較》

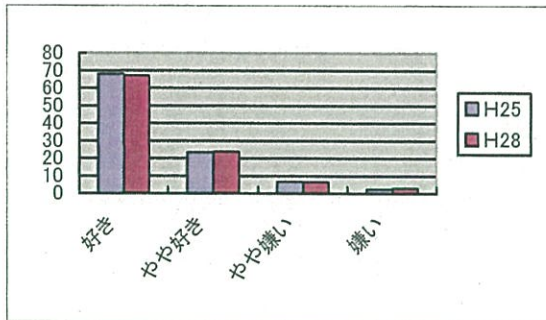
		男子		女子	
		H25 小学校5年	H28 中学校2年	H25 小学校5年	H28 中学校2年
(1) 運動が好き %	好き	67.9	67.0	43.4	39.7
	やや好き	23.3	23.6	35.1	37.8
	やや嫌い	6.6	6.4	14.9	15.0
	嫌い	2.3	3.0	6.6	7.5
(2) 体育(保健体 育)の授業は楽 しい %	楽しい	74.9	56.5	48.5	34.7
	やや思う	19.7	37.3	36.5	49.9
	あまり	4.7	4.7	11.9	12.7
	思わない	0.8	1.5	3.0	2.7
(3) 朝食を食べる %	毎日食べる	90.7	87.9	92.3	83.5
	食べない日がある	7.9	9.9	7.5	12.6
	食べない日が多い	...	1.7	...	3.4
	食べない	1.4	0.4	0.2	0.5
(4) 睡眠 %	6時間未満	7.0	21.6	2.8	17.0
	6~8時間	39.4	67.9	36.6	71.4
	8時間以上	53.6	10.6	60.6	11.0

(1) 運動好き (%)

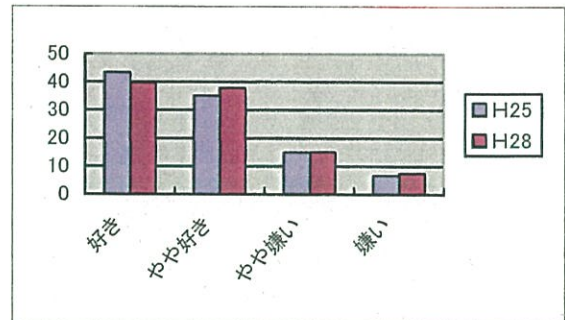
①男子：平成25年度と平成28年度はほぼ同じ割合でした。

②女子：平成28年度、「運動好き」が3.7%減少し、「やや好き」が2.7%増加しました。

①【男子】



②【女子】

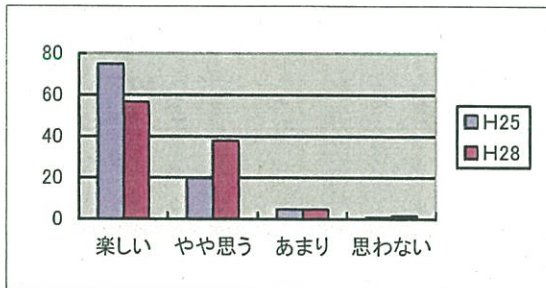


(2) 体育(保健体育)の授業は楽しい (%)

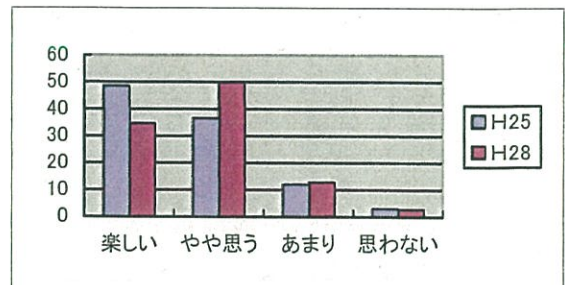
①男子：「楽しいと思う」が減少し、「やや思う」が増加しました。あまり楽しいと思わないはほぼ同じでした。

②女子：「やや思う」が「楽しいと思う」を上回りました。

①【男子】



②【女子】

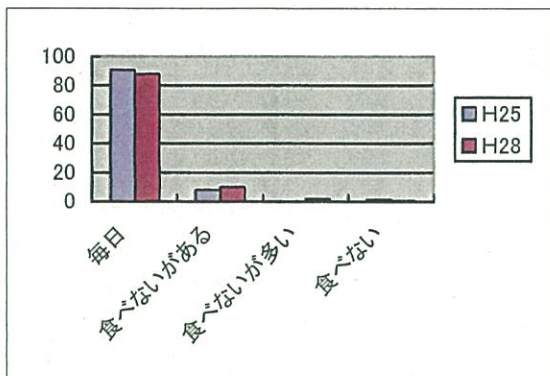


(3) 朝食を食べる (%)

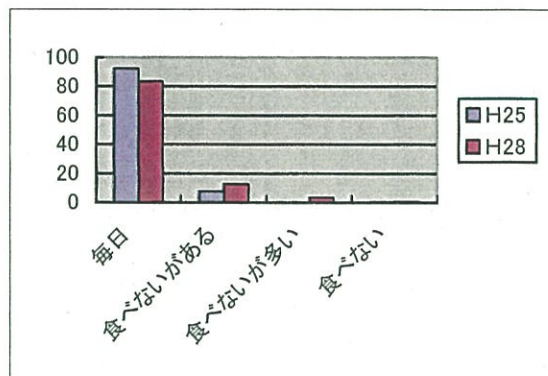
①男子は朝食を毎日食べるが2.8%減少し、食べない日があるが2%増加しました。

②女子は朝食を毎日食べるが8.8%減少し、食べない日があるが5.1%増加しました。男子に比べ女子の変化が大きくなりました。

①【男子】



②【女子】

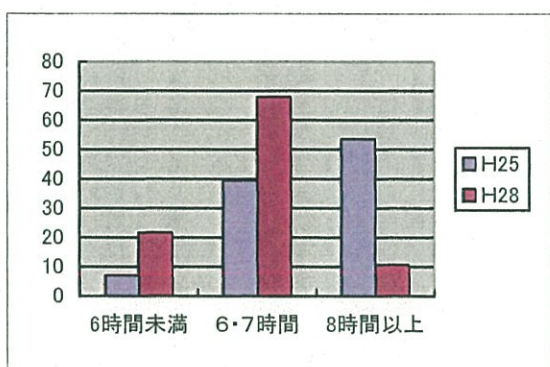


(4) 睡眠時間 (%)

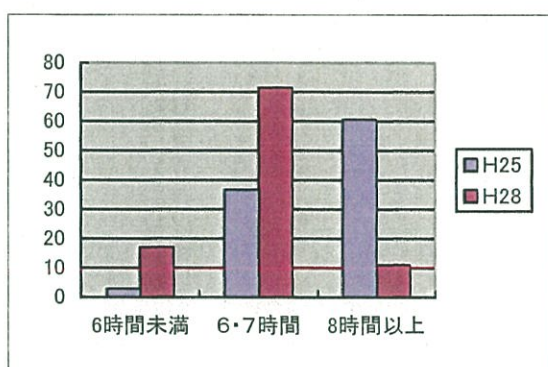
①男子は8時間以上が大きく減り、6~8時間未満と6時間未満が増えました。

②女子も男子と同じ傾向でした。

①【男子】



②【女子】



V 年長児の体づくり等に関するアンケートから

以前より子どもの体力の低下やとっさに手が出ないことによる顔面・頭部の怪我の多さ等が指摘され「子どもの体のおかしさ」関係者の中で話題になっておりました。

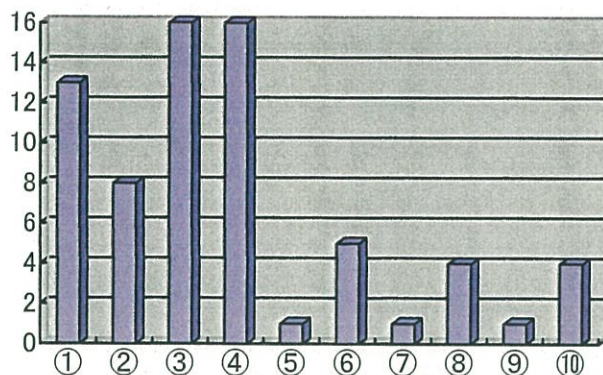
本年度体力向上推進委員会では、安曇野市立幼稚園と保育園の19園を対象に平成28年11月29日~12月15日の間、日頃感じたり悩んでいたりする範囲で各園代表者お一人に回答していただくアンケートを実施しました。

1 子どもの変化・遊びの様相について

転んで怪我をする子が多くなったり、アレルギー症状の子どもの多くなったりしている状況が伺えます。遊びの様相では、友達と仲良く遊ぶより喧嘩が増え、集団遊びより一人遊びが多くなり、運動好きより運動嫌いが多くなった傾向が伺えます。また、子ども達は誘い合って群れて遊ぶことが少なく、どちらかという屋外よりと室内でテレビやビデオ、電子ゲーム等で遊ぶ子が多い状況が伺えました。



【グラフ1】園児のからだの変化・遊びの形態について

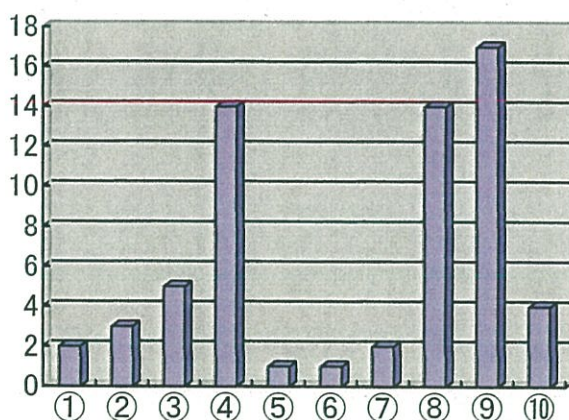


- ①転んで怪我をする子が多くなった
- ②頭部、顔部の怪我が多くなった
- ③アレルギー症状の子が多くなった
- ④こだわりが強い子が多くなった
- ⑤友達と仲良く遊べる子が多くなった
- ⑥喧嘩が多くなった
- ⑦集団遊びをする子が多くなった
- ⑧一人遊びをする子が多くなった
- ⑨運動好きの子が多くなった
- ⑩運動嫌いの子が多くなった
- ⑪その他

## 2 年長児の休日の家庭での遊びや習慣について

親子で運動遊びをしている家庭や家でお手伝いをしている子は少なく、早寝、早起き、朝ごはん等規則正しい生活ができなかったり、栄養・運動・休養（睡眠）のバランスが崩れていたりする子が多いと感じます。スポーツクラブや習い事が増えており、複数で遊ぶ子が少ないことや栄養・運動・休養（睡眠）のバランスに影響しているのではないかと考えられます。

【グラフ2】年長児の休日の家庭での遊びや習慣について



- ①どちらかという誘い合って複数で遊ぶ子が多い
- ②" 一人遊びの子が多い
- ③" 屋外での遊びをよくしている子が多い
- ④" 室内でテレビやビデオ、電子ゲーム等で遊ぶ子が多い
- ⑤" 親子で運動遊びをしている家庭が多い
- ⑥" 家でのお手伝いをしている子が多い
- ⑦" 早寝、早起き、朝ごはん等規則正しい生活をしている子が多い
- ⑧" 栄養・運動・休養（睡眠）のバランスが崩れている子が多い
- ⑨" スポーツクラブや習い事をする子が増えている
- ⑩その他 お気づきの点 \_\_\_\_\_

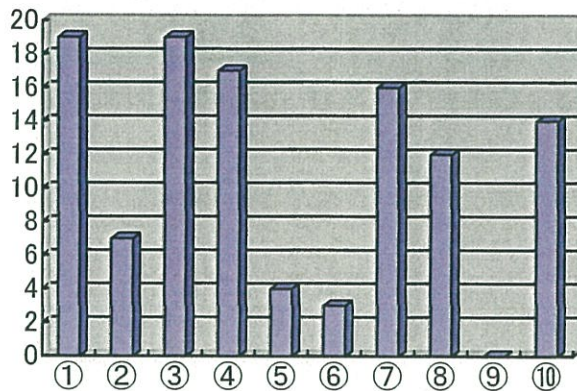
## 3 園での運動や遊びの扱いについて

市内の園では、楽しく遊ぶ時間を確保し、集団遊びの時間を設け、外遊びを積極的に取り入れ、用具を揃えている状況が伺えます。また、運動あそびや体づくり等の職員研修が半数以上の園で行われ、園児が運動好きになるように意識した取組をしている園も多くありました。

親子での運動遊びや歩いての登園を勧めている園は少なく、近隣の小学校と運動遊びや体づくり等に関する連携をしている園もないため今後の課題としたいと思います。また多くの園が外部講師を招いて年数回の実技指導を行っていますので日常化を図ることができたらと考えます。



【グラフ3】園での運動や遊びの扱いについて



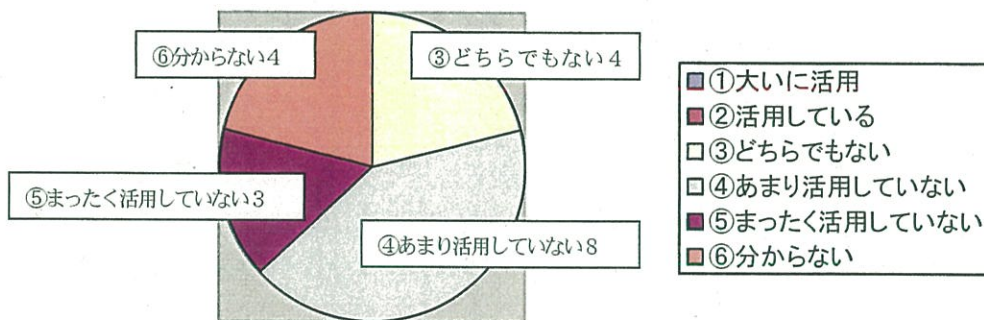
- ①園では楽しく遊ぶ時間を確保している
- ②園児の多くは走跳投バランスよく運動している
- ③園では外遊びを積極的に取り入れている
- ④園では楽しく体を動かす用具を充分揃えている
- ⑤園では親子の運動あそびを勧めている
- ⑥園では歩いての登園を薦めている
- ⑦園では集団遊びの時間を設けている
- ⑧園では運動遊びや体づくり等に関する職員研修をしている
- ⑨園では近隣の小学校と運動遊びや体づくり等に関する連携をしている
- ⑩園では園児から運動好きになるように意識した取組をしている

#### 4 文科省の「幼児期運動指針」について

各園では運動遊びの環境を整え、様々な取組みをしておりますが、幼児期の運動指針の活用はあまりされていない現状でした。これは、保育園の管轄は厚生労働省であり、保育園関係者に浸透していないものと思われます。幼児期・児童期にからだを動かして遊び、適切な運動刺激によりに身につけた能力は、その後の青年期の体力・運動能力だけでなく生涯の体力や運動能力・健康への影響が大きいいため、今後園での職員研修や小学校との連携に関連させ周知を図っていきたいと思います。

【グラフ4】幼児期運動指針の活用

※①大いに活用②活用しているは回答がありませんでした。



## VI これまでの取組みについて

### 1 活動の経過

平成26年度に安曇野市教育委員会は、安曇野市校長会・安曇野市教育会の教育課題委員会の皆様・市幼稚園関係者に参画していただき体力向上検討委員を組織しました。平成27年度は子ども支援課に加わっていただき、体力向上推進委員会と改称し、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の分析と体力向上について調査研究に取り組んでまいりました。

昨年度調査から①1週間の総運動時間が7時間を境に体力差が生じる傾向 ②運動好き・運動は大切だと思う児童生徒の体力合計点が高い傾向 ③体育の授業でよく動き授業が楽しいと思う児童・生徒の体力合計点が高い傾向 ④就学前の運動遊びが好きだという児童の体力合計点が対空という傾向が明らかになりました。そこで体力向上推進委員会では、目指す子ども像を「運動・スポーツ好きで、進んで取り組む子ども」として、このような傾向を意識してテスト数値だけに囚われることなく「出来ることから始めよう」と本年度も取組みましたので実践の様子を発表いたします。

## 2. 本年度の取組み

### (1) 結果の公表と活用

- 市教委・体力向上推進委員会は、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を広報「あづみの」・市ホームページ・学校教育課窓口にて公表しました。
- 各校は全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「CD」や県教委スポーツ課フィードバックシステムを活用し「自校の状況」を公表し、自校の体力向上プログラムに反映しました。
- 安曇野市教育会平成28年度総集会において、平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果と体力向上推進委員会の取組内容を発表しました。

### (2) 体力向上推進委員会の開催・実践とその公表】

- 児童・生徒の体力向上・運動習慣の改善に向けて連携して取り組み、実践の様子を公表しました。
- 運動好きな児童・生徒を育み子ども達の体力向上に向けた実践・研究を行いました。
  - ①運動時間の確保
  - ②幼児期からの多様な運動経験
  - ③日常的に運動できる環境の整備
  - ④体育・保健体育授業や部活動の充実
  - ⑤幼稚園・保育園関係者アンケートの実施

### (3) 体力測定（新体力テスト）の実施

- 各校では新体力テストを実施し、実態の把握や児童・生徒・教員の関心意欲の向上に繋がりました。

### (4) 講習会・講師派遣事業の活用

- 県教委主催の長野スポーツスタジアムに希望学級が参加
- 長野県教育委員会「学校体育実技指導協力者派遣事業（水泳）」の活用
- 長野県教育委員会「体づくり運動実技講習会」の活用
- 市教育委員会学校教育課の「スクールサポート事業」や「立志塾（講師派遣事業）」等の事業の活用
- 市生涯学習課の小学校放課後子ども教室「わいわいランド」への参加

### (5) 関係者との連携

- 学校単独の学校保健委員会から小中合同・幼保小中合同・地域合同の委員会へと拡大し、体力や健康を共通の課題として開く等、地域の方々と連携する学校（中学校区）が増えました。
- 地域教育協議会において各校の体力向上プランを発表し、地域の皆様に状況と対応を理解していただきました。

## VII これからの取組み

本年度調査の全国との比較からは、改めて運動時間の少なさや中学2年生女子の課題が明らかになりました。また、体力合計点と質問紙のクロス集計では、家の人からの積極的な運動の勧めが体力向上に大きく影響していることも分かりました。幼稚園・保育園への幼児期の運動に関わる独自アンケートでは、幼保小の連携の重要さも分かってきました。今後も「運動・スポーツ好きで、進んで取り組む子ども」を育成することが生涯に関わる運動習慣の形成に繋がるという重大さを認識し、課題解決に取り組むたいと思います。

### 1 教育委員会の方針

- (1) 児童・生徒の体力向上を図るために、「体力向上推進委員会」を組織します。
- (2) 市校長会・市教育会・学校・子ども支援課・幼稚園・保育園、地域関係者等と実態を共有し体力や健康・運動能力の向上・運動習慣等の改善のために連携していきます。
- (3) 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果の概要を公表し、機会をとらえて家庭や地域に協力を依頼していきます。

## 2 学校は

- (1) 自校の調査結果や体力の概要を保護者に報告します。
- (2) 学校全体で実態把握に努め、体力向上の目標を検討し、体力向上プランに反映させ取り組みます。
- (3) 体力向上に向けた取組や授業における指導方法の工夫・改善などについて検討し推進します。
- (4) 中学校区において幼保小の連携・小中連携を進め、体力・健康・運動能力向上や生活習慣改善のための取組をします。
- (5) 運動実施時間が少ない児童・生徒の実態を把握し、改善に取り組みます。

## 3 体力向上推進委員会は

- (1) 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」についてその結果を検討し概要を公表します。
- (2) 安曇野市の子どもたちの健康や体力・運動能力の現状を理解し課題と対応を考えます。
- (3) 健康・体力・運動能力の向上や生活習慣改善のための実現可能な具体的な方法を検討し提言します。
- (4) 幼保小中が連携して取り組む方策を検討し提言します。

## 平成 28 年度安曇野市体力向上推進委員会

宮 澤 明 弘	堀金小学校	教諭	(委員長)
岡 村 浩 男	穂高西中学校	教諭	(副委員長)
佐 藤 厚 彦	豊科北中学校	校長	(安曇野市校長会)
大 島 春 彦	堀金中学校	校長	(安曇野市教育会)
中 島 政 樹	穂高南小学校	教諭	
竹 内 幸 浩	豊科北小学校	教諭	
山 岸 真 大	三郷中学校	教諭	
小 林 直 也	明科中学校	教諭	
鳥 屋 千 穂	穂高幼稚園	養護助教諭	
水 谷 みゆき	安曇野市子ども支援課	課長補佐兼保育所長	
池 田 安 宏	安曇野市教育委員会	学校教育課教育指導員	

## 1 はじめに

### 1 活動・調査研究のテーマ

安曇野市の園児・児童・生徒が体を使った遊びや運動、スポーツが好きになり、それらに進んで取り組み、体力向上を図るにはどうしたらよいか。

### 2 活動・調査研究の経過

安曇野市教育会では、平成26年度より教育課題委員会として「体力向上」について調査研究に着手し、市教育委員会（以下市教委と略）から「体力向上検討委員」（H27より体力向上推進委員に改称）に委嘱された委員の方々と共に、安曇野市の園児・児童・生徒の体力向上を図るための研究をスタートさせた。

1年目となる平成26年度は、「安曇野市体力向上検討委員会」の発足や目的、目標、活動内容等を知っていただくことや、各委員の取組を発表し合い、それを市内小中学校に発信することを行った。また「広報あづみの」でも、安曇野市の児童・生徒の体力・運動能力調査の結果考察や、小学校と幼稚園の取組を市民の皆様幅広く情報を公開することで、関心をもっていただくことができた。

2年目となる平成27年度は、1年目の成果と課題を受け、各委員それぞれの立場での実践を大切にすると共に、安曇野市体力向上の全体像を構想し、研究を深めた。

3年目となる今年度は、5月に行われた教育会総集会の会員発表において、安曇野市児童・生徒の体力の現状や各校の取組など、2年間の活動・調査研究の取組を多くの皆様にお伝えした。今年度、委員4名が交代したが、本委員会が目指す子ども像「運動・スポーツ好きで、進んで取り組む子ども」に関する活発な情報交換や各校・各委員の取組の発表が行われ、多くの示唆を得ることができた。

### 3 安曇野市の児童生徒の体力等の現状

本委員会では、スポーツ庁が行っている、小5、中2を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査、一般的に「全国体力テスト」と呼ばれているものから、安曇野市の子どもたちの体力を把握している。平成27年度の結果から次の点に分かる。

○小5男子、女子共に、長座体前屈や立ち幅跳びなどの項目が全国を上回っている。各種目を得点化し、体力合計点の5段階で評価した総合評価をみても、高い得点のA・Bの評価が多い。

○中2男子、女子共に、全国より高い種目は1、2種目で、上体起こしや20mシャトルランなどの4種目が全国より低い結果となっている。総合評価では男子のA・B、女子のA評価が少なく、男女とも体力上位者が全国・県と比べて少ない状況である。

平成25から27年度の経年変化をみると、

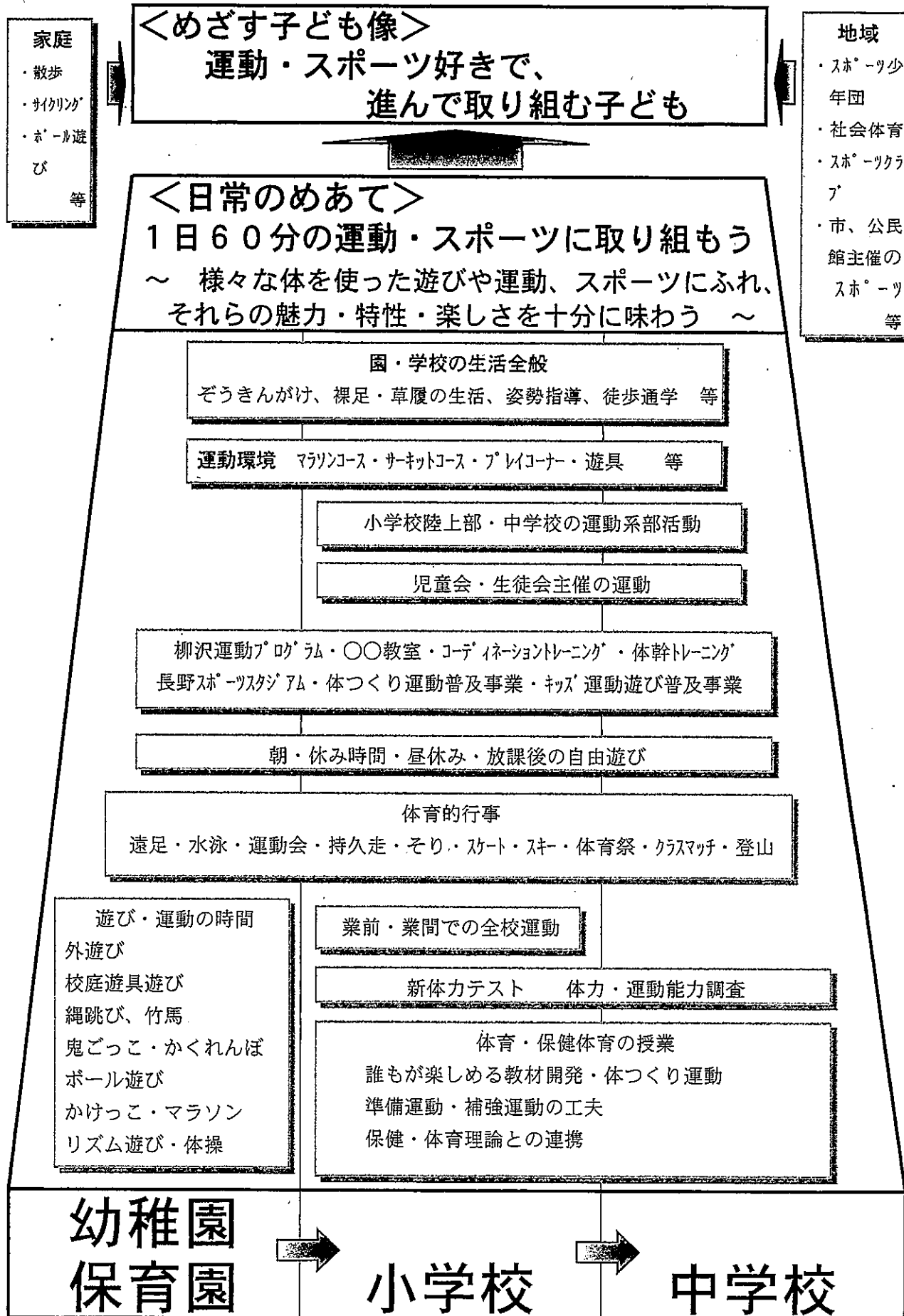
○小学校は、男女ともに向上の傾向であり、各校の取組の成果が表れてきている。

○中学校は、改善の兆しが見られるが、まだ不安定で、全国を下回る傾向が続いている。

と捉えることができる。

### 4 安曇野市体力向上の全体像

昨年度、安曇野市体力向上の全体像を構想した。本委員会では、幼稚園・保育園の時から様々な体を使った遊びや運動にふれ、小中学校段階で運動・スポーツの魅力・特性・楽しさに十分に触れることで、運動・スポーツ好きで、進んで運動・スポーツに取り組む姿が期待できると考えている。





## II 各校の取組

### 一 体育授業の改善・充実

#### ～穂高南小学校の取組～

本校では、5、6月に全校児童を対象に新体力テストを行い、運動能力の傾向をつかんできた。児童が運動を好きになり運動能力を向上させる体育授業の工夫を試みた。

#### 1 平成28年度新体力テスト結果からみた本校の課題

- (1) 体力アンケート「Q2 運動やスポーツをどれくらいしていますか」「Q7 運動やスポーツをすることは好きですか」の集計結果から、運動好きの児童や運動時間が多い児童ほど体力テストの得点が高い傾向がほぼ全学年男女において見られた。→運動好きの児童を育てることで体力向上が見込まれる
- (2) 体力テスト各種目結果から、全国平均に比べ全学年共通して低い値を示しているのがソフトボール投げと上体起こしであった。→ソフトボール投げや上体起こしに課題がある

#### 2 授業の工夫

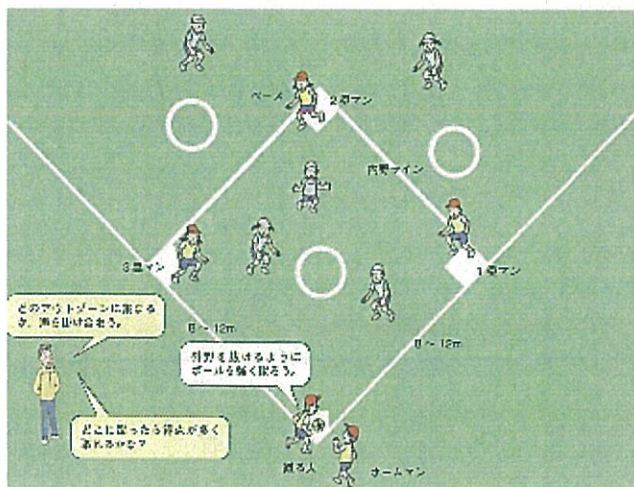
- (1) 「わかる・できる・かかわる」を密接に関わらせた授業

「わかる」	授業始めに設定した本時の学習課題に向かって(課題認識)、自分たちの実態はどうなのかが分かり(実態認識)、チームで戦術を考えたり練習を選択したりする(方法認識)など、運動を認識すること
「できる」	動き(戦術)ができる、記録を向上させるなど、実際にできるようになること
「かかわる」	作戦を立てるなど、課題解決への過程を仲間と共有すること

「わかる・できる・かかわる」を大切に創られた教材である「あつまりっこベースボール」を選択した。攻撃がフィールド上にボールを投げ塁上に立つ味方にと手でタッチするごとに1点が加算されていく。守備側はボールを捕り3つの場所のうち一カ所に全員で手をつないで集まり走者を止める。攻撃側が速いか守備の協同プレイが速いかを競い合うベースボール型の面白さを味わえる教材である。

※学校体育実技指導資料 第8集「ゲーム及びボール運動」 [文部科学省, 2000, ページ: 53～]

この教材を用い「わかる・できる・かかわる」力を高められるように授業を展開していった。



- (2) 投運動の練習

○投練習「ピースボルトふんわりびゅん」について

投の動作をイメージしやすくするように「ピースボルトふんわりびゅん」のかけ声を用いて練習を行った。「ピース」はボールの握り方を示す言葉、「ボルト」は体を横向き後傾にし、肘を後方に引き、反対の腕を投げる方向に向ける言葉、「ふんわり」は力まず弛緩させる言葉、「びゅん」は弛緩させた体を一気に緊張させ腕を振り切る言葉であり、一連の投動作を表し指導言葉として用いた。(他にも、手首のスナップを用いてボールをたたきつける、手ぬぐいを振り抜く、紙鉄砲、など効果のある練習がある。)





### 3 成果

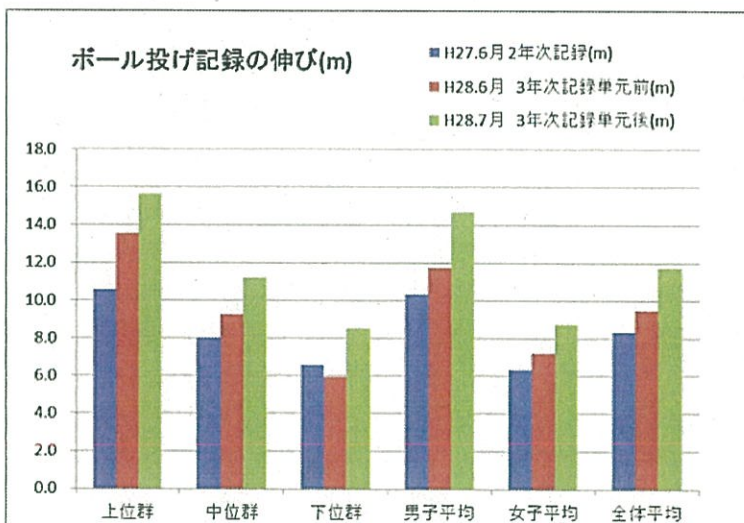
#### (1) 「わかる・できる・かかわる」を密接に関わらせた授業の成果

わかることを大切に、どうすれば最少得点で守れるのかという戦術を中心に授業を展開することで運動能力に差があっても意欲的に学習に取り組んだり、わかることでかかわりが増えたりした。「できる」ことに関しても、ベースボール型の面白さを味わいながら運動することで、「得点をたくさん取るためにもっと遠くに投げたい」という気持ちが大きくなり、投練習にも意欲的に取り組んでいた。休み時間にボールを投げて遊びたいという女子児童が多くなったことも成果の一つとしてあげられる。



#### (2) 投能力の伸び

この授業によりボール投げの記録がどれだけ伸びたのかを体力テストの結果と比べた(男子 18 名女子 16 名を男女別記録順に 3 つに分け、上位群、中位群、下位群とした)。上位群の中で男女各 1 名は記録が 30~40cm 低下したが、全体的に見ると、どの群においても投動作の獲得により記録が伸びている。



ボール投げの記録	H27.6月 2年次	H28.6月 3年次	H28.7月 3年次
男子上位群	13.8	17.0	20.3
男子中位群	9.8	11.6	14.0
男子下位群	7.3	6.7	9.7
女子上位群	7.3	10.1	11.0
女子中位群	6.2	6.9	8.4
女子下位群	5.8	5.2	7.3
上位群	10.5	13.5	15.6
中位群	8.0	9.2	11.2
下位群	6.6	6.0	8.5
男子平均	10.3	11.7	14.7
女子平均	6.4	7.2	8.8
全体平均	8.3	9.5	11.7

※記録低下児童 2 名(男子上位群 1 名 -30cm, 女子上位群 -40cm)

### 4 穂高南小職員の体育授業への関心

走り高跳びの授業を行おうと思ったとき、学校には高跳びのバーが 2 組しかなく何回も練習させることが難しかった。そこで、バドミントンの支柱に洗濯ばさみをつけゴムを張ることで場を多くした。待っている児童が少なくなりたくさん練習していた。

高跳びはどんなことを学習させればよいかについても考えながら授業ができた。

(高学年担当職員より)

体育授業と体力向上について考えたことがなかったが、関係がありそう。今、鉄棒の授業をしているが、「だんごむし」などでは、体をギュッと締め我慢するから上体起こしとかに関係があるかもしれない。そのような動きをいかに子どもたちが面白さの中で何回もやってみるかが大切だと感じた。子どもにとっては遊びだけど教師側は学習させたいことを頭に入れて授業できるようにしないといけないと感じている。

(低学年担当職員より)

体育授業の工夫により、運動能力の伸びがあったことを職員に知らせたところ、職員間で体育授業についての話題が多くなってきた。上記はその一部である。授業を計画する教師が意識を変えていくことも運動能力を向上させていくためには重要だと考える。引き続き、体育授業の工夫について職員の間で話題にし、体育授業の過程で体力向上を図っていけるように取り組んでいく。



## ～堀金小学校の取組～

### 1 児童の運動能力・体力の傾向

全校児童が新体力テストに挑戦し、自分の運動能力や体力に関心を持ち、体力向上につなげようとしている。結果から見えてきたこととして、大きく捉えると2つのことが挙げられる。

○1、2の特定の運動能力に優劣があるのではなく、総合的に運動能力や体力の底上げが必要である。

○体育授業で「運動のコツやポイントをつかめている」「楽しいと感じている」子ども達の体力合計点が高い。

これらのことから、「学級や学年の児童の課題を見極め、体幹を鍛えたり準備運動を工夫したりして重点的に取り組むこと」、「普段あまり運動やスポーツをしない子や苦手意識を持っている子に対して、運動の楽しさを体得し、コツやポイントを獲得していく体育授業づくりをしていくこと」が大切ではないかと考えた。運動やスポーツが好きで、親しんでいる子ども達をもっと増やしていきたい

### 2 取組の様子

#### (1) 姿勢維持と体幹を鍛える運動

毎年小・中学校合同で、学校保健協議会が行われ、昨年度より「姿勢を正そう」をテーマに小・中学校で取り組んでいる。今年度は、さらに「正しい姿勢の維持」に向けた取組に焦点を当て、6月から正しい姿勢づくりと体幹トレーニングを全校運動や体育授業の準備運動の中に取り入れた。



#### (2) 学年・学級による取組

二学期からは、学年毎に体力向上の重点と準備運動の工夫を決め出して取り組むことにした。

##### ①学年毎の体力向上の重点（低学年を抜粋）

1年	①運動会、持久走のめあてとして、走り方を身につける。 ②鉄棒、マットに慣れる。 ③姿勢の維持。
2年	①基礎的な体力を伸ばす。（走る事を大切に） ②運動会の表現運動を通して、いろいろな動きを体感する。 ③短縄跳び、長縄跳び、ボールなど、道具を使った運動への取組。
3年	①持久走のシーズンには、学年で目標を決めて全体で取り組む。 ②一日一回は、校庭や体育館で遊ぶように声をかける。

##### ②準備運動の工夫（高学年を抜粋）

4年	①カエル跳び、クマさん歩き（体育館） ②遊具を使ったサーキット
5年	①体育館でのサーキット運動（走ること） ②校庭でのサーキット運動（遊具を使って）
6年	①筋持久力系…腕立て、腹筋 ②跳躍力系…馬跳び、ケンケン相撲、ケンケンジャンプ
かたくり	①日々の体を動かす時間を大切にする。②準備運動としてのマラソンや縄跳びを位置づける。



### ③鉄棒運動（学年）の取組 ～3年～

3年生で学級編制替えが行われるために、運動への意識や個人技能等に関心が見られた。そこで、鉄棒運動は、学年で同じカードを作成して取り組んだ。この鉄棒チャレンジカードは、3段階のレベルを設定し、ペアでチェックしたり教え合ったりするようにした。また、逆上がりは、体と鉄棒が離れないようにタオルを使ったり、補助器具を活用したりした。

カードを活用したことで、様々な技を知ることができたと共に、自ら新しい技に挑戦しようとする姿が多く見られた。また、補助器具を使ったりペアによる教え合いの手立ては、鉄棒運動の苦手な子ども達が進んで練習に取り組み、「できた」と喜びを感じることに繋がった。

朝や休み時間に練習する姿が見られたが、これは、学年として共通の学習カードを使用し、ペア学習や補助器具等を取り入れたことで、意欲や技の上達に結びついたのではないかと考える。



### ④持久走「ルンルン走り」（学級）の取組 ～5年～

持久走記録会の1ヶ月前の10月初旬、4年生時より距離が伸び、「3キロを走れるか心配だ。」「長くて嫌だ。」と感じている子ども達が多くいた。そこで、友達と話をしながら、ゆっくり走る「ルンルン走り」を紹介し、取り組んでみた。朝や休み時間、体育の授業の中で、呼吸が苦しくならないニコニコペースを各自がみつけるようにした。担任も一緒に楽しみながら走った。

約1ヶ月間（実質18日間）の持久走練習を通して、以下のような成果が得られた。

- 学級全体の総距離数は1196km。（学校から東京ディズニーランドを2往復以上）
- 児童一人当たりの練習距離数平均は46km。一番多い児童は97kmを走る。
- 自分の目標を達成した児童の割合は88%。毎日休むことなく練習した子が4人。
- 持久走記録会当日は全員が完走。次のような振り返りもみられた。



1日毎の距離数

私は持久走が嫌いでした。でも、5年生になって『ルンルン走り』を先生が教えてくれてやってみたら、疲れないし、足も痛くなることはありませんでした。この『ルンルン走り』のおかげで、雨の日以外は、毎日走ることができ、目標も「100マス」「150マス」そして今は「200マス」に向かって頑張っています。何だか去年よりやる気がちがうように感じました。

## 3 まとめ

全校運動での姿勢維持や体幹トレーニング、学年毎による重点の取組、体育授業における準備運動の工夫等により、あまり運動やスポーツをしない子ども達、苦手意識がある子ども達も、運動・スポーツの楽しさを体得し、コツやポイントを獲得していきっているように思われる。

今後、学年・学級の様々な取組をより多く紹介し、学校全体が体力向上の意識を継続していくことで、底上げが図られるのではないかと考えている。

## ～三郷中学校の取組～

### 1 「運動に関するアンケート」の実施

本校では10月下旬に以下のようなアンケートを各学年2クラスずつ抽出して行った。

※三郷中学校は3学年6クラス、2学年6クラス、1学年5クラス

1. 運動（体を動かすこと）は好きですか (好き・どちらかという好き・どちらかという好きではない・好きではない)
2. 体育の授業は好きですか (好き・どちらかという好き・どちらかという好きではない・好きではない)
3. 休み時間に第1体育館を（よく利用する・時々利用する・ほとんど利用しない）
4. 休み時間に第2体育館を（よく利用する・時々利用する・ほとんど利用しない）
5. 運動（体育や部活動を含む）のどんなところに楽しさを感じますか

#### (1) アンケート結果と考察

##### ① 運動（動かすこと）は好きですか

	好き	どちらかという好き	どちらかという好きではない	好きではない
1学年	56%	34%	5%	5%
2学年	51%	27%	22%	0%
3学年	36%	36%	21%	7%

##### ② 体育の授業は好きですか

	好き	どちらかという好き	どちらかという好きではない	好きではない
1学年	46%	40%	9%	5%
2学年	46%	40%	13%	1%
3学年	33%	45%	22%	0%

##### ③ 休み時間に講堂・社体を利用しますか

第1体育館	よく利用する	時々利用する	ほとんど利用しない
1学年	14%	20%	66%
2学年	0%	14%	86%
3学年	0%	3%	97%
第2体育館	よく利用する	時々利用する	ほとんど利用しない
1学年	18%	18%	64%
2学年	0%	14%	86%
3学年	0	3%	97%



アンケートの結果から「運動が（どちらかという）好き」「体育の授業が（どちらかという）好き」という生徒は、どの学年も8割程度と運動への意欲が高い生徒が多数を占めていることが分かった。しかし一方で休み時間に体育館を利用する生徒は学年が上がるごとに割合と頻度が少なくなっているという現状も確認できた。アンケート項目の5からは、運動に楽しさを感じる場所は「仲間と関わり合いながら活動すること」や「できなかったことができるようになる」という生徒が多いことが分かった。教師の立場としては、主に体育の授業を通して運動が得意でも苦手でも「運動が好き」という生徒を増やすことが大切であると考え、そのためには全ての生徒が仲間と関わり合いながら活動し、達成感を味わえるような授業づくりが必要だと考える。

## 2 球技における教材の授業実践

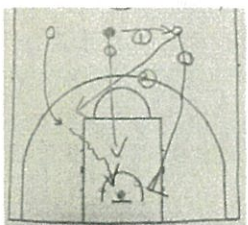
昨年と今年、「バスケットボール」を教材化したゴール型の教材である『ドライブ・バスケット』を1学年で実践した。3対2のハーフコートで行うアウトナンバーゲームで、ボール操作の技能を緩和するためにボールを持って移動するというルールである。ゴール型に共通する「ボールを持たないときの動き」を焦点化して学習する教材であり、運動が得意な子だけが目立つような授業ではなく、運動が苦手な子も積極的に活動や練習に参加できるという良さがある。また正規のルールで行う種目より学習内容が明確でわかりやすいため、どの生徒も仲間との関わり合いがしやすい。実際の授業では、作戦タイムで技能が低い女子生徒も積極的にチームに関わる様子が伺えた。また、ある生徒の学習カードの振り返りには「小学校のときはバスケットが嫌いだったけど、中学校のドライブバスケットは楽しかった」という記述が見られた。これらのことから、運動好きの子どもを増やすためには、正規のスポーツを教材化したゲームを授業で実践していくことが有効ではないかと考える。

『ドライブ・バスケット』の様子。  
「ボールを持っていない人がどこに動けばフリーでシュートが打てるのか」を4人グループで考えながら授業を進めていった。



【単元を通しての振り返り】  
最初はパスがうまくなくて、シュートも入らなくてためたんだけど、最終的には全員がシュートがうまくなって、すごく楽しかった。

【単元を通しての振り返り】  
試合でも、11人の位置を考えて行動ができてよかった。チームで動かすことができたのでよかった。



学習カード【単元を通しての振り返り】  
(左:女子 右:男子)

チームで立てた作戦をコート図に記した様子。(女子)

## 3 今後に向けて

バスケットボールだけでなく、他の球技や種目においても、生徒たちが自ら関わり合いながら楽しんで運動に取り組んでいけるような教材化を図りたい。そして運動することの楽しさや、できないことができた達成感や充実感を味わうことができる授業をつくっていききたい。また、これらを通して『運動好きの生徒』が増えるように取り組んでいきたい。



## 二 運動の習慣化・運動環境の改善

### ～明科中学校の取組～

本校では毎年4～7月にかけて、全校生徒を対象に新体力テストを行っている。業者に委託し、集計した結果を全国及び長野県と各学年、男女に分けて比較したものを毎年職員会で、高めていく力や方策について検討して実施している。本校で体力向上プランとして考え、実践していることや、今後の方向として考えていることを含めて、説明させていただきます。

#### 1 本校生徒の運動能力・体力の傾向

学年と男女により毎年差があるが、今年度は全体的に長野県平均とほぼ同じかやや下回っている傾向にある。特に50m走（走力・スピード）、反復横とび（敏捷性）が下回っていると考える。運動部や運動系の社会体育への所属率の影響もあるが、学校の体育学習以外の運動への関わりが少ないことも（運動離れ）否めない。ただ、明科中生徒の体育学習への取り組みは大変素晴らしく、学校選択で行う陸上の単元と陸上CM、各学年で行う球技CMに向けて頑張ろうという意識もあって体力向上につながっていると考える。対策としては次のようなことを考え行ってきた。

#### 2 明科中学校の体力向上に向けての活動

##### (1) 保健体育授業の充実

中学校での体育学習へは全体的に意欲的な活動ができる。陸上、水泳、器械運動（マット運動、跳び箱運動）、武道（剣道、柔道）、ダンスなどの1・2年次の必修種目で全身の体力を高める種目にも積極的に取り組める生徒が多いので、更に主体的な活動が向上していくよう、授業作りを行っている。

##### (2) 体力を高めるためのトレーニング

体育の授業のウォームアップに体力を高める運動を多く取り入れているが、特に女子の敏捷性、瞬発力の向上を狙った運動〈おんぶ走（20～30m）や様々なダッシュ系（ジグザグ走）など〉を多く取り入れて行っている。また、継続して柔軟体操、ストレッチ、体力を高める体づくり運動を行っている。



学年全員による10分間走

継続して行われる体幹トレーニングと柔軟性を高めるトレーニング

##### ③陸上クラスマッチ及び球技クラスマッチ

陸上クラスマッチは年一回（5月後半実施）、全校で行うことの出来る数少ない全校で創り上げるクラスマッチである。また、陸上競技が全学年共通で取り組む種目となっているので、体力向上プランの一つとして継続したい。単元の後半は、自分の高めたい種目により時間をかけ、工夫やこだわりを持って取り組める授業を行っている。





1年生女子のリレー

2年生男子の走り高跳び

3年男子のボール投げ

陸上CMの他に、バレーボールCM、球技CM、バスケットボールCMを各学年で行い、スポーツや運動を通して、学級や学年の競技力、体力の増進と、団結や親睦を高めている。

#### ④姿勢指導に関わる取り組み

毎年行っている、阪上先生による姿勢指導教室。今年度は5月19日に来校していただき、保健福祉委員会に姿勢指導の伝達講習をしていただき、各クラスの保健福祉委員が6月3日にクラスで15分時間を取って、姿勢指導を行った。12月6日には一学年対象として、阪上先生による姿勢指導を1時間予定している。



阪上先生による保健福祉委員への伝達講習



保健福祉委員による学級姿勢指導

#### ⑤体作り講習会

昨年度、10月9日に県スポーツ課派遣事業として体作り講習会を1、2年生対象に、一昨年度は1月に地域の整骨院の先生を招いて全校生徒を対象に体幹トレーニング講習会を行った。生徒達の体力を高める意識が向上し、継続してやっていきたいという意欲が高まった。今後も主体的な実践につながるように継続していきたい。



講師の先生のご指導をパワーポイントでの説明と実技を通して様々な体作りの運動を教わる事ができた。

#### ⑥一校一運動実施の検討

学力向上で行っている放課後の「学びの時間」と同様に、現在の学校生活の状況をふまえて可能な限り「体力向上プラン」としてを行うことも検討したい。例としては県で推奨している「ながのスポーツスタジアム」として行う記録を県に申請して表彰してもらふ営みなど。（「ボールパスラリー」「クラスで8の字ジャンプ」「クラスで連続ジャンプ」「一人でジャンプ」「クラスで馬とび」など）



## ～穂高西中学校の取り組み～

### 1 日課の改善

穂高西中学校では、以前から「礎（いしずえ）の時間」が設定されている。清掃終了後の時間と帰学活の最初の時間を使った10分間である。この10分間は、応援練習や合唱の練習等が必要な時に使われてきた。昨年度末、学校全体で体力を高める時間を確保したいという提案から、礎の時間に週2回、体カトレーニングの時間を組み込んでいただくことができた。今年度、1学期後半から礎の時間に体カトレーニングをスタートさせた。

清 掃	15:35～15:50
学 活	16:05～16:15

「礎の時間」15:55～  
16:05

### 2 体カトレーニングの実際

本校では、昨年度から保健体育の授業で、ウォーミングアップとして筋カトレーニングや単元に合わせたコーディネーション運動、アジリティトレーニングを行ってきた。授業でやり方やポイントを示して繰り返し行っているため、これらの運動を礎の時間に行えば、生徒たちは自分たちでポイントを抑えながら運動できると考えた。

礎の時間を使った体カトレーニングは、火曜日と木曜日の週2回、各教室でテレビ放送を使い、全校一斉で行っている。放送は、体育委員長と副委員長が説明しながら行う様子をビデオ撮影し、テレビ画面に映している。各学級担任は、一緒に行ったり声かけをして意識を高めたりしている。以下に実際の様子をまとめた。

#### (1) 筋カトレーニング

体育の授業で行っている筋カトレーニングをそのまま使い、フロントブリッジ・サイドブリッジ・腕立て伏せを行っている。フロントブリッジ・サイドブリッジ左右を30秒間、腕立て伏せを6回行っている。



フロントブリッジ



サイドブリッジ

#### (2) 踏み台昇降

踏み台昇降運動は、有酸素運動として筋持久力・筋力を高めることができる。教室の椅子を使い、2人1組になって1人が椅子を押さえ、もう1人が昇り降りをする。これもテレビ放送に合わせて行う。時間は、2分間。放送の「1・2・3・4」のリズムに合わせて、全員が同じペースで昇降する。2分間という短い時間であるが、良い姿勢を保ちながら行うことで効果が高まる。特に普段、車での登校をしている生徒などは、足を動かすことができ、良い運動となっている。



椅子を使って踏み台昇降

#### (3) おきあがりこぼし腹筋

ペアになり、1人が仰向けになって相手の足を掴む。足を垂直になるまで上げ、その足を相手が押し返す。この腹筋を10回行う。大変きつい腹筋であるが、相手の押す力で強弱を調節できるのでペアで楽しくでき、友との関わりが良い雰囲気をつくっている。



おきあがりこぼし腹筋



#### (4) 赤ちゃん体幹

この体幹運動は、仰向けになり頭、肩、尻をできるだけ高く上げ、背中的一点で体を支えながら手足を空中で小刻みに震わせる。赤ちゃんの動きを真似しているが30秒間集中して行うことで、体幹を鍛えることができる。



赤ちゃんのように体幹

#### (5) スクワット・フロントレンジ・クロスバランス

スクワットは、背筋を伸ばし、膝がつま先よりでないように行い、10回を正確に行う。フロントレンジは、一歩前に足を出して腰を深く落とす。上体はまっすぐに保つ。クロスバランスは、右肘左ひざをクロスさせて3秒間保ち、5回繰り返す。片足でバランスをとりながら行う。



姿勢良くスクワット



腰を落としてフロントレン



手と逆足を伸ばし、片足で立つ



伸ばしていた肘と膝を合わせる

### 3 体力テストの結果と生徒の様子から

本校では、毎年体力テストの集計・分析を業者に依頼している。毎年データが蓄積されていくため、本校生徒の体力テスト平均値などが分かりやすい。

昨年度から継続的に行っているのが、体幹トレーニングである。体幹に関する体力テストの項目は、上体起しとなる。H28、H27、H26の中1から中2への上体起しの回数増加数を調べてみると、この3年間では一番の増加となっていることが分かった。

特に女子では4.5回以上もの増加になっている。毎年生徒が違うので一概には言えないが、これは、年間を通して体幹トレーニングを行ってきたことが1つの結果として表れたものだと考えられる。

上体起しの中1から中2の増加数平均(回)			
	H28	H27	H26
	中1→中2	中1→中2	中1→中2
男子(中2)	+3.66	+2.6	+1.9
女子(中2)	+4.53	+1.59	+1.53

また、昨年度から取り入れてきた体幹トレーニングは、部活動等でも行っている。継続して取り組んでいるため、生徒たちも効果を実感している様子があり、生活記録に自分の成長を書いてくる姿も見られた。

礎トレーニングの内容が変わった時にも、きついけど力になるから頑張りたいという前向きな気持ちを書いてくる生徒がいた。

継続することで体力に対する意識も高まっていることが考えられる。

今日は、礎の時間でトレーニングを行いました。トレーニングでは、体幹トレーニングをしました。

体幹は部活でも授業でも何回もやっていますが、思うと1年生よりもトレーニングが我慢できるようになった気がして、「体幹少しは耐えられるようになったな」と達成感を感じました。

↑体幹トレーニングを継続して行ってきたことを振り返り、以前よりできるようになったことを実感し、達成感を感じている女子生徒。(2年生活記録より)

礎の時間では、新しいものになりました。とてもきついもので、一生懸命取り組んでいけば力になると思うので、これから頑張っていきたいと思います。

### 4 まとめ

↑礎トレーニングに前向きな生徒(2年生活記録より)

体力向上のためには、短時間でも体を動かせる時間と環境を確保することが大切であると改めて分かった。また、継続することで体力に対する意識も高まり、体を動かすことに前向きに取り組めるようになる。生徒たちが日頃から体を動かす環境を、これからも工夫してつくり出していきたい。



### 三 生活習慣等の改善

#### ～豊科北小学校の取組～

本校では、正しい姿勢の持続も含め体力の向上が課題の一つとなっている。課題追究の一つの手立てとして、本年度は4・5年生を中心に姿勢指導と体幹トレーニングに取り組んできた。その2点について実践してきた内容と成果について記したい。

#### 1 学年の目標としての位置づけ

学年の中心的な取り組みの一つとして「体幹を鍛える」ことを位置づけ子どもたちの意識を高める。



○学年掲示板、4年生(左)・5年生(上)『学年目標』

- ・各学期スタートにあたり、学年での目標を決め出し、学年集会や学級の時間に、体幹を鍛える取り組みにおける、その行い方や効果、実際に行っての振り返り等について適宜確認し合っている。
- ・図や写真等も掲示し、取り組む内容や取り組みの様子が視覚的にも分かるように工夫している。

#### 2 姿勢指導に関わる取り組み

3年前から、姿勢指導士の阪上晃子先生による姿勢指導を実施している。1学期には、3・4・5年生で学級ごとに姿勢指導を行った。よい姿勢の形とその作り方、その利点、礼の仕方等について指導していただいた。指導後は、授業の前後や整列のときの気をつけの姿勢及び礼、椅子に座るときの姿勢など、よい姿勢を意識しながら継続的に取り組んでいる。



#### 3 体幹トレーニングに関わる取り組み

本年度から、本校体カプランにも記された内容の中で、体幹を鍛えるプログラムの取り組みを始めた。まずは4・5年生を中心に、週に1回程度計画されている朝の時間「学年体育」や日々の「体育授業」のときに取り入れて実施している。





(1) 学年体育での取り組み

4・5年生は、学年体育で体幹トレーニングを取り入れてきた。下記の点に考慮しながらトレーニングを計画的に継続して行ってきた。

- ① 鍛える筋肉の多くは体の深層部にあり見た目にも分かりづらいので、今どこを鍛えているのかをイメージしながら行えるようにする。
- ② 「うつ伏せ・四つん這い・横向き・仰向け・ブリッジ」等の体位でのトレーニングを取り入れ、前後左右から体を支え体幹部全体の安定性を養うための基礎的なトレーニングを重点的に行ってから、体幹部全体が同時に連動するようなトレーニングへと少しずつレベルアップしていく。

体幹トレーニングを繰り返す中で、子どもたちは正しいやり方を理解し、自分の体の部位を意識しながら意欲的に取り組むことができた。

(2) 体育授業での取り組み

準備運動を行ったあと、学級全体やグループ単位で体幹トレーニングを短時間行う時間を設けた。内容は、学年体育で行ったトレーニングの中から選定して行った。

(3) 長期休業での取り組み

運動会で「組体操」を行う5年生は“夏休み体幹トレーニングカード”を利用した取り組みを毎日の課題の一つとした。基礎的な体幹トレーニングに逆立ちの基礎練習も含めながら行った。子どもたちからは“毎日やったらフラつかずできるようになった。”“長くできるようになった”などの感想が得られた。運動会では、様々な技に成果が見られ安定した演技につながった。



体幹トレーニングと逆立ちの基礎練習

逆立ちの記録をしよう		5枚	
月日	やったか	月日	やったか
7-30	○	7-31	×
8-1	○	8-2	○
8-3	×	8-4	×
8-5	○	8-6	○
8-7	○	8-8	○
8-9	○	8-10	○
8-11	○	8-12	○
8-13	○	8-14	○
8-15	○	8-16	○
8-17	○	8-18	○
8-19	○	8-20	○
8-21	○	8-22	○
8-23	○	8-24	○
8-25	○	8-26	○

逆立ちの記録は「はつた」が  
逆立ちの記録「はつた」が  
しっかりするとしじが  
良くなるとしじが  
これがおもった。

4 今後に向けて

本年度は4・5年生中心に取り組んできたが、今後、職員の研修会も行いながら全校に広げていきたい。体力テストの結果も考慮しながら、学年発達段階に応じて姿勢指導や体幹トレーニングを計画的に継続して位置づけ、体力向上に向けた取り組みの充実を図りたい。



## 四 幼稚園の取組

幼稚園での運動の様子をよく知らない委員が多かったので、穂高幼稚園での運動会、運動遊び、徒歩通園について紹介していただいた。

### 1 運動会の種目

○かけっこ・リズム … 年少、年中、年長 ○玉入れ…年中、年長 ○リレー…年長（全員）

○年長の競技

H25 … 竹馬（全員） フラフープ 渡り棒 竹棒のぼり 跳び箱 鉄棒 長縄跳び 短縄跳び

H26 … 竹馬 跳び箱（4段か5段） 鉄棒（前回りか逆上がり） 全員

H27 … 竹馬 跳び箱（4段か5段） 鉄棒（前回りか逆上がり） 短縄跳び（全員）

### 2 運動遊び

H26年度より柳澤運動プログラムを年5回（6月、7月、9月、12月、2月）実施している。



### 3 徒歩通園

55名が6コース（民間商業施設駐車場①、市立小学校駐車場②、安曇野市穂高支所③ 市公共施設駐車場または自宅④⑤⑥）から徒歩通園を行っている。

## III まとめ

本委員会が体力向上に着手して3年目。市教委から「市体力向上推進委員」の委嘱を受け、教育会関係者の他に、市校長会、保育園・幼稚園、市教委の関係者が加わり11名による委員会が開催されてきた。市全体の体力・運動能力の実態を把握している市教委からの情報提供や提案は見識が広がり、各委員それぞれの立場での具体的な報告やご意見は、自校の取組を振り返り、新たな実践への強い動機づけとなった。

今年度も本委員会の報告は、安曇野市教育会「活動・調査研究のあしあと」と共に、平成29年3月に配布される「広報あづみの」で広く市民の皆様にご覧いただくことになっている。今後、まだ分析・考察が必要な内容もあるので、現時点での本委員会の成果と課題をまとめると、以下のようである。

### 1 体育・保健体育の授業の充実をする

本委員会の目的は、「運動・スポーツ好きで、進んで取り組む子どもを育てること」であり、体力向上が目標である。目的・目標を達成するには、体育・保健体育の授業を充実させていくことが最も大切となる。

今年度、「あつまりっこベースボール」「ピースボルトふんわりびゅんの言葉を使った投練習」「チャレンジカードを使った学年による鉄棒運動」「ルンルン走りの持久走」「ドライブバスケットボール」等の実践が報告された。アンケート調査等により児童・生徒の実態を把握し、学習カード等により子ども達の意欲を引き出し、友だち同士の関わりを大切に授業づくりが行われた。

このような授業が、各校の職員間で話題になると共に、学級の実態や授業者の創意工夫によってさらに魅力ある授業になることを期待している。運動の得意な子どもも苦手な子どもも友だちと関わり合い、運動する楽しさ、わかった・できたと達成感を味わうことのできる教材化をさらに進めていきたい。

## 2 運動を日々の学校生活に位置づける。

児童・生徒と運動・スポーツとの関わりをどのように豊かにしていくのか。特に中学生は、運動部や運動系社会体育に所属していない生徒は、運動する機会や時間が少なく、体力向上が難しくなっている。

そこで、中学校において様々な取組が行われ始めた。体育授業のウォーミングアップに体力を高める運動として「10分間走、おんぶ走、ダッシュ等の走る運動」「体幹トレーニング」「筋力トレーニング」「コーディネーション運動」「アジリティトレーニング」「有酸素運動」等が行われている。さらに、日課表の中に合唱や応援練習と同じように「体力を高める運動」を位置づけ、より一層の継続を図る学校も出てきた。

また、各種クラスマッチや外部指導者による講習会は、生徒達の運動・スポーツ、体力向上の意識や継続へとつながっている。

一方、「姿勢指導」に取り組む小・中学校が増えてきた。よい姿勢を強化するための基礎的な体幹トレーニングも学級・学年・全校の体育の中で取り上げられているが、中には長期休業中の課題として継続を図っている学校もある。よい姿勢は、日常生活の中ばかりでなく、運動・スポーツのパフォーマンスを向上させる大切な要素である。よい姿勢を維持することで体幹が鍛えられ、体幹トレーニングをすることでよい姿勢がつけられるという相乗効果がある。

今年度より、各校・各委員の実践を紹介し、共有するだけでなく、それぞれの実践が安曇野市体力向上の願う姿「運動・スポーツ好きで、進んで取り組む子どもを育てること」にどのようにつながっているか、新体力テストの結果に結びついているのか等の評価についても検討を始めた。今回の報告の中にも、種目記録や新体力テスト等の客観的なデータの伸び、児童・生徒の学習カードの振り返り、職員の声을丁寧記録して、実践の成果と課題を明らかにしようとしている。今後、実践の成果を検証するために、指導と評価の関係についても調査・研究を深め、体力向上の取組を進めていきたい。

<b>報告第3号</b>	教育部 学校教育課
平成29年3月24日提出	(課長)古幡 彰 (担当)藤澤 一渡

タイトル	小学校外国語活動職員研修の報告について
決定を要する事項の内容	研修実施の報告
要旨	平成30年の教育指導要領の改訂に伴い、小学校における英語の教科化が議論されるなか、市教育委員会では本年度強化している専門性を磨き合う教職員の育成と資質向上研修の充実の一環として、小学校外国語活動職員研修を実施しましたので報告します。
説明	<p>○実施小学校（9校）</p> <p>豊科南小学校  豊科北小学校  豊科東小学校  穂高南小学校  穂高北小学校  穂高西小学校  三郷小学校  明南小学校  明北小学校</p> <p>○実施研修報告  別紙のとおり</p>



安曇野市教育委員会では本年度強化している専門性を磨き合う教職員の育成と資質向上研修の充実の一環として、市内の学校に外国語指導助手を派遣している民間業者2社の協力の下、小学校外国語活動職員研修を計画しました。

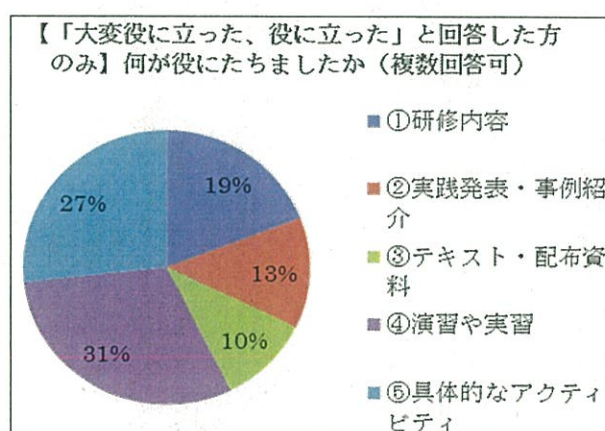
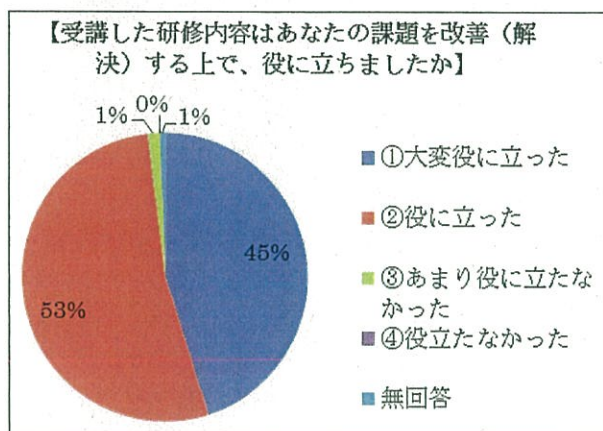
本年度については、市内9小学校の約180名の先生方に参加していただき、自らが抱えている課題の解決や更に深く外国語活動を探求するための一助になったとアンケート結果から読み取ることができます。



## 1 アンケート調査 まとめ



左の項目では、先生方が抱えている課題について改善（解決）する上で役に立ちますかと聞きました。大変役立った・役に立ったと答えた先生方の割合が98%となりました。先生方の課題改善につながる研修となったことがわかります。



右の項目では、具体的にどのようなことが役に立ったか聞いています。『④演習や実習・⑤具体的なアクティビティ』が全体の58%を占め、先生方が授業を想定し、授業をより充実していきたいと考えていることがわかりました。



## 2 今後の取り組みについて

本研修では学習指導要領の改訂や、これからの外国語活動の動向について学ぶことができます。また、具体的な指導方法やアクティビティについても体験的に学ぶことができる絶好の機会です。教育委員会では平成29年度についても引き続き更なる充実した研修を企画する予定ですので各校の主体的な取組を期待しています。



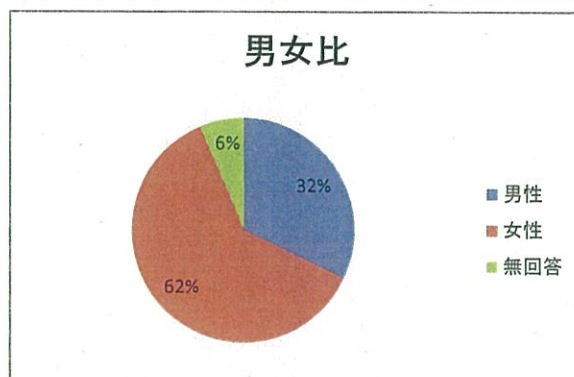
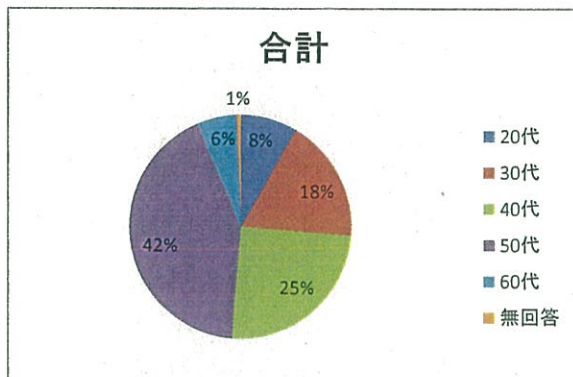


●小学校外国語活動職員研修アンケート集計結果

調査内容	別紙アンケート用紙のとおり
調査期間	平成28年7月7日～平成29年1月23日
調査対象	小学校外国語活動職員研修参加者174名
調査方法	研修終了後に別紙アンケート用紙を手渡しで配布
回収率	89.6%

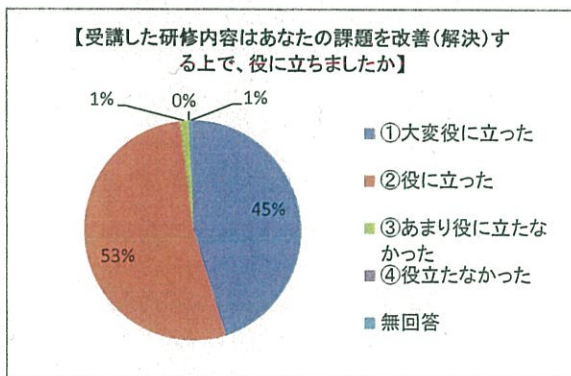
【アンケート回答者】

	男性	女性	無回答	合計
20代	3	10	0	13
30代	8	19	1	28
40代	11	25	3	39
50代	24	38	4	66
60代	3	4	2	9
無回答	1	0	0	1
合計	50	96	10	156



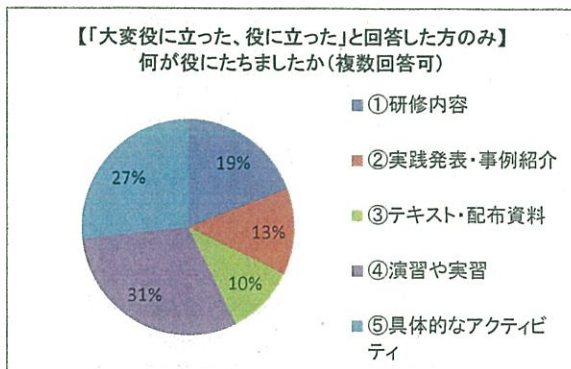
【本研修を参加するに当たり、外国語活動についてあなたの課題はどのようなことでしたか】  
別紙参照

【受講した研修内容はあなたの課題を改善(解決)する上で、役に立ちましたか】				
①大変役に立った	②役に立った	③あまり役に立たなかった	④役に立たなかった	無回答
70	82	2	0	1



参加された教職員は、外国語活動の授業を実施する上で様々な課題を抱えていました。その課題を改善・解決をする上で「大変役に立った・役に立った」と回答した教職員は98%の割合となり大部分を占めました。また、「あまり役に立たなかった」という回答した職員は自由記述の中で、研修内容について既に熟知しており、更に深く外国語活動を追究していきたいという期待の裏返しとして受けてとめました。参加された教職員は外国語活動を今後取り組む中で、自分が抱えている課題の解決や不安の解消につながる一助となり、一定の成果が本研修で上げられたこととなります。

【「大変役に立った、役に立った」と回答した方のみ】何が役に立ちましたか(複数回答可)				
①研修内容	②実践発表・事例紹介	③テキスト・配布資料	④演習や実習	⑤具体的なアクティビティ
60	41	33	96	84



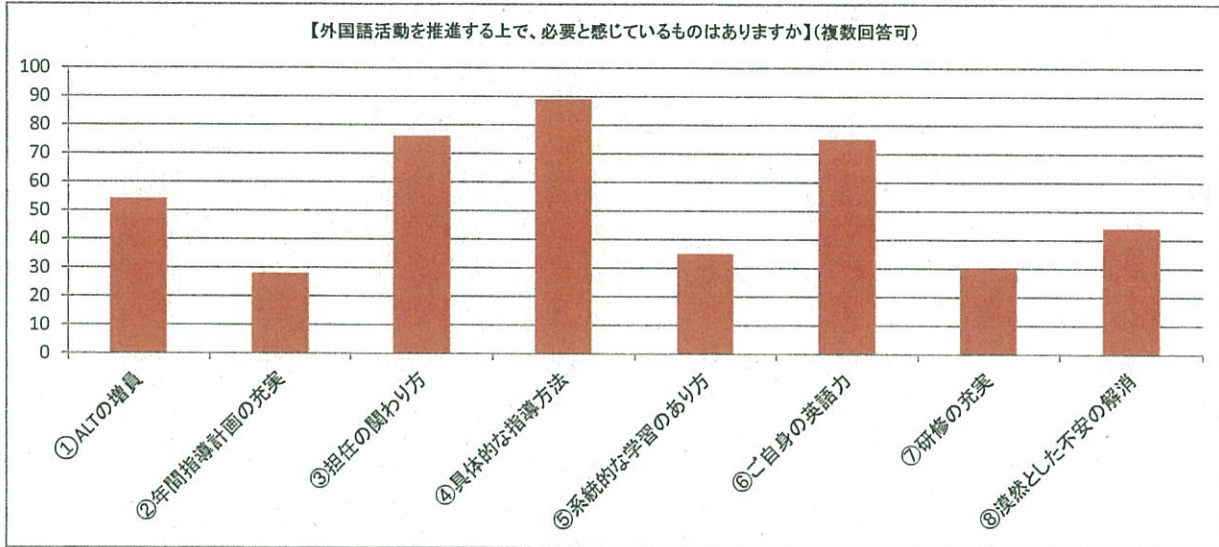
役に立った内容として「④演習や実習」「⑤具体的なアクティビティ」の比率が全体の58%を占めました。外国語活動を指導する上で、授業の流れやゲーティング・ソング・チャンツ・アクティビティなどの具体的な指導方法をより多く蓄積したいと考えている教職員が多くいることがわかります。また、演習や実習・具体的なアクティビティを講師と一緒に実施したり、児童の立場で経験したりしたことが、外国語活動に対する理解を深め、少しでも不安を取り除けたことが、役にたったとの回答率を高めたことにつながるということがわかります。



【特に役に立ったと感じたことを具体的にお書きください】  
別紙参照

【「あまり役立たなかった・役立たなかった」と回答した方のみ】理由をお答えください(複数回答可)			
①研修内容が難しかった	②研修内容が期待していたものではなかった	③学校現場の状況・課題とズレがある	④その他
0	2	0	別紙参照

【外国語活動を推進する上で、必要と感じているものはありますか】(複数回答可)				
①ALTの増員	②年間指導計画の充実	③担任の関わり方	④具体的な指導方法	⑤系統的な学習のあり方
54	28	76	89	35
⑥ご自身の英語力	⑦研修の充実	⑧漠然とした不安の解消	⑨その他	
75	30	44	別紙参照	



参加された教職員から外国語活動を推進する上で必要と感じているものの上位は「④具体的な指導方法」、「③担任の関わり方」になりました。教職員が外国語活動を指導する上で、担任がもっと授業に関わっていかなければいけないという気持ちはあるが、指導方法や関わり方に課題を抱えていることがわかります。いずれも間近に迫った3・4年生の外国語活動、5・6年の英語学習の導入に向けて、準備したいとの気持ちの表れと思われまます。

また、その次には、「⑥ご自身の英語力」を必要と回答しています。この点については、外国語活動を指導する上では英語力が必要になると考えている教職員が多くいることがわかります。

外国語活動の授業では、担任は学習者としてより良い姿を子どもたちに指し示すという役割を持っており、正しく聞き取れない子どもたちや正確に発音できない子どもたちの代表として担任が子どもになり代わって英語のリズムや発話を楽しんだり、英語で気持ちを伝えようとする姿に子どもたちが触発されます。このような場面を本研修や学校訪問を通して見ることができました。本研修では今後これらの課題に焦点をあて、教職員の課題の解決、不安の解消の手助けになるように研修の改善に勤めます。

【研修を受講して、お気づきの点・感想等をご自由にご記入ください】  
別紙参照



<b>報告第 4 号</b>		教育部 学校教育課
平成 29 年 3 月 24 日提出		(課長)古幡 彰 (センター長)曾根原 正之 (担当)宮澤 慎二
タイトル	平成 29 年度学校給食費予算について	
報告を要する事項の内容	平成 29 年度学校給食予算の報告	
要旨	平成 29 年度学校給食費予算の報告について	
説明	<p>2月20日に、今年度第4回の学校給食センター運営委員会を開催し、平成29年度学校給食費予算を上程しご確認をしていただきました。</p> <p>来年度は給食日数が小中学校とも200日となり、また児童数の減少により昨年度に比べて1,000万円ほどの減額で、4センター合計で5億200万円余の予算となります。</p>	

平成 29 年度

安曇野市学校給食費会計予算書(案)

平成 29 年 2 月 20 日 提出

学校教育課 学校給食担当

平成29年度学校給食費会計歳入歳出予算書(案)

【歳入の部】

(単位:千円)

		北部学校給食 センター	堀金学校給食 センター	中部学校給食 センター	南部学校給食 センター	合 計
給食費	現年度	169,349	55,878	140,006	137,066	502,299
	滞納分	1	1	1	1	4
給食費計		169,350	55,879	140,007	137,067	502,303
雑収入		1	1	1	1	4
繰越金		1	1	1	1	4
歳入合計		169,352	55,881	140,009	137,069	502,311

【歳出の部】

(単位:千円)

		北部学校給食 センター	堀金学校給食 センター	中部学校給食 センター	南部学校給食 センター	合 計
主食費	米飯	11,340	3,480	9,368	9,183	33,371
	パン	4,811	1,305	3,684	3,563	13,363
	麺	3,606	1,005	2,303	2,604	9,518
	牛乳	30,358	10,010	24,411	26,040	90,819
主食費計		50,115	15,800	39,766	41,390	147,071
副食費		114,525	39,081	96,256	92,079	341,941
還付金		4,712	1,000	3,987	3,600	13,299
歳出合計		169,352	55,881	140,009	137,069	502,311

歳	入	502,311,000	円
歳	出	502,311,000	円
差引	残額	0	円



平成29年度 北部学校給食センター給食費会計予算書(案)

歳 入 169,352,000 円  
 歳 出 169,352,000 円  
 差引残額 0 円

1 歳 入

(単位:千円)

科 目			本年度 予算額	前年度 予算額	差 引 増減額	備 考
款	項	目				
1	給食費		169,350	172,411	△ 3,061	
	1	給食費	169,350	172,411	△ 3,061	
		1 給食費	169,349	172,410	△ 3,061	
						穂高東中学校 33,858,000円 年額66,000円×513人 穂高西中学校 32,538,000円 年額66,000円×493人 穂高南小学校 33,264,000円 年額56,000円×594人 穂高北小学校 41,776,000円 年額56,000円×746人 穂高西小学校 26,320,000円 年額56,000円×470人 給食センター 1,593,900円 年額69,300円×23人
		2 滞納分	1	1	0	滞納繰越分
2	雑収入		1	1	0	
	1	雑収入 1 雑収入	1	1	0	預金利子他
3	繰越金		1	1	0	
	1	繰越金 1 繰越金	1	1	0	前年度繰越金
歳入合計			169,352	172,413	△ 3,061	

## 1 歳 出

(単位：千円)

科 目			本年度 予算額	前年度 予算額	差 引 増減額	備 考
款	項	目				
1 事業費			169,352	172,413	△ 3,061	
	1 主食費		50,115	53,967	△ 3,852	
		1 米飯等購入費	11,340	12,255	△ 915	
		2 パン製品購入費	4,811	4,731	80	
		3 麵 購 入 費	3,606	4,774	△ 1,168	
		4 牛 乳 購 入 費	30,358	32,207	△ 1,849	
	2 副食費	1 副食材料購入費	114,525	113,842	683	
	3 還付金	1 還 付 金	4,712	4,604	108	給食費還付金
歳 出 合 計			169,352	172,413	△ 3,061	

平成29年度 堀金学校給食センター給食費会計予算書(案)

歳 入 55,881,000 円  
 歳 出 55,881,000 円  
 差引残額 0 円

1 歳 入

(単位:千円)

科 目			本年度 予算額	前年度 予算額	差 引 増減額	備 考	
款	項	目					
1	給食費		55,879	59,257	△ 3,378	堀金小学校32,816,000円 年額 56,000円×586人  堀金中学校22,110,000円 年額 66,000円×335人  給食センター他952,050円 年額 69,300円×13人 米飯(日額330円×155日)×1人	
	1	給食費	55,879	59,257	△ 3,378		
		1	給食費	55,878	59,256		△ 3,378
		2	滞納分	1	1		0
							滞納繰越分
2	雑収入		1	1	0		
	1	雑収入	1	1	0	預金利子他	
3	繰越金		1	1	0		
	1	繰越金	1	1	0	前年度繰越金	
歳入合計			55,881	59,259	△ 3,378		



## 1 歳 出

(単位：千円)

科 目			本年度 予算額	前年度 予算額	差 引 増減額	備 考
款	項	目				
1 事業費			55,881	59,259	△ 3,378	
	1 主食費		15,800	17,586	△ 1,786	
		1 米飯等購入費	3,480	3,562	△ 82	
		2 パン製品購入費	1,305	1,781	△ 476	
		3 麺 購 入 費	1,005	1,365	△ 360	
		4 牛 乳 購 入 費	10,010	10,878	△ 868	
	2 副食費	1 副食材料購入費	39,081	40,623	△ 1,542	
	3 還付金	1 還 付 金	1,000	1,050	△ 50	給食費還付金
歳 出 合 計			55,881	59,259	△ 3,378	

平成29年度 中部学校給食センター給食費会計予算書(案)

歳 入 140,009,000 円  
 歳 出 140,009,000 円  
 差引残額 0 円

1 歳 入

(単位:千円)

科 目			本年度 予算額	前年度 予算額	差 引 増減額	備 考
款	項	目				
1	給食費		140,007	142,123	△ 2,116	
	1	給食費	140,007	142,123	△ 2,116	
		1 給食費	140,006	142,122	△ 2,116	豊科北小学校32,144,000円 ・年額56,000円×574人 豊科東小学校11,704,000円 ・年額56,000円×209人 明南小学校16,072,000円 ・年額56,000円×287人 明北小学校7,392,000円 ・年額56,000円×132人 豊科南中学校26,268,000円 ・年額66,000円×398人 豊科北中学校29,106,000円 ・年額66,000円×441人 明科中学校15,642,000円 ・年額66,000円×237人 給食センター他1,678,050円 ・年額69,300円×22人 米飯(日額330円×155日)×3人
		2 滞納分	1	1	0	滞納繰越分
2	雑収入		1	1	0	
	1 雑収入	1 雑収入	1	1	0	預金利子他
3	繰越金		1	1	0	
	1 繰越金	1 繰越金	1	1	0	前年度繰越金
歳入合計			140,009	142,125	△ 2,116	

## 1 歳 出

(単位：千円)

科 目			本年度 予算額	前年度 予算額	差 引 増減額	備 考
款	項	目				
1 事業費			140,009	142,125	△ 2,116	
	1 主食費		39,766	42,001	△ 2,235	
		1 米飯等購入費	9,368	9,486	△ 118	
		2 パン製品購入費	3,684	4,373	△ 689	
		3 麵 購 入 費	2,303	2,783	△ 480	
		4 牛 乳 購 入 費	24,411	25,359	△ 948	
	2 副食費	1 副食材料購入費	96,256	96,572	△ 316	
	3 還付金	1 還 付 金	3,987	3,552	435	給食費還付金
歳 出 合 計			140,009	142,125	△ 2,116	



平成29年度 南部学校給食センター給食費会計予算書(案)

歳 入 137,069,000 円  
 歳 出 137,069,000 円  
 差引残額 0 円

1 歳 入

(単位:千円)

科 目			本年度 予算額	前年度 予算額	差 引 増減額	備 考
款	項	目				
1	給食費		137,067	139,381	△ 2,314	
	1	給食費	137,067	139,381	△ 2,314	
		1 給食費	137,066	139,380	△ 2,314	
						三郷小学校 57,904,000円 年額 56,000円×1,034人
						三郷中学校 39,138,000円 年額 66,000円×593人
						豊科南小学校 38,416,000円 年額56,000円×686人
						給食センター他1,608,750円 年額 69,300円×21人 米飯(330円×155日)×3人
		2 滞納分	1	1	0	滞納繰越分
2	雑収入		1	1	0	
	1 雑収入	1 雑収入	1	1	0	預金利子他
3	繰越金		1	1	0	
	1 繰越金	1 繰越金	1	1	0	前年度繰越金
	歳入合計		137,069	139,383	△ 2,314	

## 1 歳 出

(単位：千円)

科 目			本年度 予算額	前年度 予算額	差 引 増減額	備 考
款	項	目				
1 事業費			137,069	139,413	△ 2,344	
	1 主食費		41,390	43,090	△ 1,700	
		1 米飯等購入費	9,183	9,343	△ 160	
		2 パン製品購入費	3,563	3,775	△ 212	
		3 麺 購 入 費	2,604	3,582	△ 978	
		4 牛 乳 購 入 費	26,040	26,390	△ 350	
	2 副食費	1 副食材料購入費	92,079	92,323	△ 244	
	3 還付金	1 還 付 金	3,600	4,000	△ 400	給食費還付金
歳 出 合 計			137,069	139,413	△ 2,344	

<b>報告第5号</b>	教育部 生涯学習課
平成29年3月24日提出	(課長) 蓮井 昭夫 (担当係長) 藤森 智

タイトル	安曇野市人権教育推進委員会委員について
報告を要する事項の内容	補欠委員の選任
要旨	<p>安曇野市人権教育推進委員会設置規則第3条により、団体から推薦された者を「安曇野市人権教育推進委員会委員」に委嘱したので報告します。</p> <p>【安曇野市人権教育推進委員会設置規則抜粋】</p> <p>(設置)</p> <p>第1条 安曇野市における人権教育の推進を図るため、安曇野市人権教育推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。</p> <p>(任務)</p> <p>第2条 この委員会は、次に掲げる事業を行う。</p> <p>(1) 人権教育の推進・徹底に関すること。</p> <p>(2) 各地域における人権教育推進組織の育成・強化に関すること。</p> <p>(3) 各人権教育推進組織相互の連携に関すること。</p> <p>(組織)</p> <p>第3条 委員会は、各区及び団体等から推薦され、教育委員会が委嘱する委員をもって組織する。</p> <p>(任期)</p> <p>第4条 委員の任期は、2年とする。<u>ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。</u></p>
説明	<p>○理由 民生児童委員の一斉改選に伴うもの（選出団体：民生児童委員協議会）</p> <p>○委嘱した者 小松 善嗣 氏 任期：平成30年3月31日まで。 交付の日：平成29年2月21日（人権教育推進委員会 小委員会時） （前任者：日比野宏夫 氏）</p>



<b>報告第6号</b>	教育部 生涯学習課
平成 29 年 3 月 24 日提出	(課長) 蓮井 昭夫 (担当係長) 藤森 智

タイトル	第2次安曇野市生涯学習推進計画について
報告を要する事項の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市民アンケートの結果</li> <li>2 策定委員会設置要綱の一部改正</li> </ol>
要旨	<p>「第2次安曇野市生涯学習推進計画」に伴い、市民アンケートを実施しました。そのアンケート結果を報告します。</p> <p>また、第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会設置要綱(平成28年安曇野市教育委員会告示第10号)の一部を改正しました。</p>
説明	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市民アンケートの結果 <p>昨年11月に、「第2次安曇野市生涯学習推進計画」策定の参考とするため、生涯学習に対する関心や常日頃の取り組み状況、今後の取り組みに対する意向等を伺うアンケートを実施しました。市内在住の18歳以上の市民を対象に、無作為抽出で選ばれた2,500人へ調査票を配布し、800人から回答を得ました(回答率32%)。</p> <p>そのアンケート結果は別紙のとおりです。</p> </li> <li>2 策定委員会設置要綱の一部改正 <p>改正の理由</p> <p>第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会の公募委員を、広報あづみのNo.243(29.1.25発行)及び市ホームページにより募集したが、応募がなく、委員会の組織構成について改める必要が生じたため。</p> <p>また、委員会の所掌事務の一つである「市民からの意見の聴取」は、昨年11月に実施した市民アンケートにより済んでおり、今後は意見の分析が必要になるため、併せて要綱を改正しました。</p> </li> </ol>

安曇野市教育委員会告示第 号

第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会設置要綱（平成28年安曇野市教育委員会告示第10号）の一部を次のように改正する。

平成29年2月28日

安曇野市教育委員会

委員長 唐木 博夫

第2条第2号中「聴取」を「分析」に改める。

第3条第7号を次のように改める。

(7) その他教育委員会が必要と認める者

附 則

この告示は、公布の日から施行する。

第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会設置要綱（平成28年安曇野市教育委員会告示第10号）の一部改正

改正後	改正前
<p>(所掌事務)</p> <p>第2条 委員会の所掌事務は、次に掲げるものとする。</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 計画に係る市民からの意見の分析に関すること。</p> <p>(3) (略)</p> <p>(組織)</p> <p>第3条 委員会の委員は15人以上とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。</p> <p>(1)～(6) (略)</p> <p>(7) <u>その他教育委員会が必要と認める者</u></p>	<p>(所掌事務)</p> <p>第2条 委員会の所掌事務は、次に掲げるものとする。</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 計画に係る市民からの意見の聴取に関すること。</p> <p>(3) (略)</p> <p>(組織)</p> <p>第3条 委員会の委員は15人以上とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。</p> <p>(1)～(6) (略)</p> <p>(7) <u>公募により選考された市民</u></p>



安曇野市生涯学習計画に関するアンケート結果分析の概要

(1) 単純集計の結果

(調査期間：平成28年11月16日～30日、配布数：2,500通、回収数：800通、回収率：約32%)

昨年11月に、『第2次安曇野市生涯学習推進計画』策定の参考とするため、生涯学習に対する関心や平日頃の取り組み状況、今後の取り組みに対する意向等を伺うアンケートを実施しました。市内在住の18歳以上の市民を対象に、無作為抽出で選ばれた2,500名の方に調査票を配布し、800名\*の方から回答を得ました(回答率32%)。それらの集計・分析の結果を以下にまとめました。

※本アンケートの実施計画では、統計学上一定の妥当性をもちえるサンプル数の目安として1,054以上(信頼水準95%、標本誤差3%)とお示しましたが、結果的にはその数に届きませんでした。しかしながら、サンプル数が800でも、信頼水準を95%とした場合の標本誤差は3.45%であり、一般的に許容される誤差の範囲が±5%といわれる中で、統計学上、十分に意味をもつ結果として捉えることができます。

<回答者の属性>

問1 あなたの性別を教えてください。 ※択一回答

問2 あなたの満年齢を教えてください。 ※択一回答

問3 あなたがお住まいの地域を教えてください。 ※択一回答

問4 あなたの職業を教えてください。 ※択一回答

問5 あなたは「生涯学習」という言葉の意味をご存知ですか。 ※択一回答

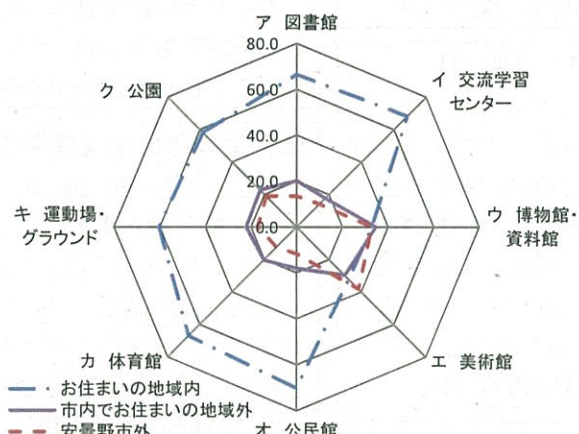
問6 あなたはこの5年くらいの間に、生涯学習の取り組みをなされましたか。 ※択一回答

問7 あなたが行っている生涯学習の方法について教えてください。 ※複数回答

問8 あなたが生涯学習を行う頻度を教えてください。 ※択一回答

問12 次のア～ケのうち、あなたが生涯学習の場としてよく利用する施設があればお選びください。 ※1箇所でも利用していると回答された方

問12補足 生涯学習の場としてよく利用する施設の所在地



問14 あなたが生涯学習に取り込むことへの妨げになっていること、あるいは生涯学習に取り組みない理由があれば教えてください。 ※複数回答

問15 あなたは生涯学習で学んだことを何に役立てたいと思いますか。理想も含めてお聞かせください。 ※複数回答

問16 あなたが生涯学習活動をするために必要な情報は、どのように提供されているか(効果的)と思いますか。 ※複数回答

問17 あなたが生涯学習をするために必要な情報は、どのような場所で提供されるとよい(効果的)と思いますか。 ※複数回答

問9と問13の比較: Comparison of interests in various fields like sports, art, and nature.

問19 あなたは、学校教育終了後も生涯にわたって学び続けることは必要だと思いますか。 ※複数回答

回答いただいた選択肢をそれぞれ以下のように換算し、それらの合計値を指標化して、グラフにしました。

問18 以下33項目について、「①現在、安曇野市で生活する中でどのように感じているか」と「②今後、安曇野市としてさらに現状を改善・強化すべきか」という2つの視点で、あなたのお考えに最も近い番号をお選びください。

低 ⇄ 高 低 ⇄ 高



(2) アンケート結果にみる主な特徴 ～クロス集計の結果も踏まえて～

〈凡例〉【問〇】→【設問番号】 年齢層：LS0：24歳以下、LS1：25～44歳、LS2：45～64歳、LS3：65歳以上

回答結果を性別や年齢、居住地域、職業といった回答者の各属性の区別に集計（クロス集計）すると、区分ごとの特性や区分に応じた傾向もみられます。例えば年齢では、実際の人口も多く回答率も高い65歳以上が約42%を占めており、その分全体の結果に及ぼす影響も大きくなるため、これより若い世代だけみれば異なる場合もあります。今後10年先を見据えた計画をつくるなかで、新たな施策の設定や既存施策の検証・改善等を図るにあたっては、そうした細かな分析から、各施策のターゲットに応じて異なる現状・課題・要因・要望・目的・意欲・行動様式等を読み解きながら検討することが、個々の施策の成果の向上、ひいては市全体の生涯学習活動の普及・発展につながっていくものと考えられます。そうした観点から、以下にクロス集計の結果も踏まえてアンケート結果にみる主な特徴を整理しました。なお、年齢層は右上凡例に示すライフステージの4区分、職業は上位4区分でそれぞれ特徴を捉えています。

**1. 性別・年齢・職業 【問1,問2,問4】**  
・性別は男性（約47%）より女性（約52%）の方がやや多く、年齢層はLS0が約4%、LS1が約22%、LS2が約32%、LS3が約42%となっている。  
・職業は会社員、無職、専業主婦・主夫（以下「専業主婦」）、パート・アルバイト（以下「パート等」）の順に多く、この4区分で全体の約3/4を占めている。  
・LS0では学生、LS1・2の男性では会社員が過半を占め、LS1の女性は会社員・専業主婦・パート等がほぼ同比率で、LS2になるとパート等の比率がやや高くなり、LS3は男女とも無職が最多で、女性は専業主婦も同率となっており、4つのライフステージ区分で年齢・性別の特徴が比較的良好に表れている。

**2. 居住地域 【問3】**  
・明科と堀金の順位が実際の人口順位と入れ替わっているものの、概ね実際の人口比率を反映した結果となっている。ただクロス集計の結果では、特に職業別などで必ずしもそうではない区分もある。

**3. 「生涯学習」の認知度 【問5】**  
・少なくとも言葉は聞いたことがあるという人が累計で9割以上、何となくでも意味までわかるという人が7割強、意味を知っているという人が4割強である。  
・言葉自体を知らないという人の比率はLS1がそれ以上の年齢層よりやや高い。

**4. 過去5年以内の生涯学習の取り組みの有無 【問6】**  
・「ない人」が過半数（約56%）を占め、「ある人」（約44%）よりも10%以上比率が高い。特にLS1の男性や会社員で「ない人」の比率が高い。LS3でも男女ともこの比率がやや高まっており、加齢による意欲の減退も考えられる。  
・他方、LS2の女性と職業別にみる専業主婦では「ある人」が「ない人」の比率を上回っており、比較的生涯学習活動の活発な層と捉えることができる。

**5. 生涯学習の方法（9区分）※ 【問7】**  
・約5割が自主的な集まりやサークル活動で、年齢層が高いほど比率が高い。  
・次いで個人的な活動、各種団体や企業の講座・講習・教室等の比率が約35%と同程度で、前者は女性より男性の方が比率が高く、後者はその逆である。  
・市主催の講座・講習・教室等は3割弱と全体では4番目に多いが、年齢・性別による比率の違いが顕著で、LS1の男性が1割強であるのに対し、LS2の女性は約44%と際立って高い。

**6. 生涯学習の頻度※ 【問8】**  
・全体では月に数回（週一程度）が最多で約42%。比較的多頻度の比率は男性より女性で、また年齢層が高まるほど高い傾向がみられる。

**7. 生涯学習に利用する施設（9区分）と施設の所在地※ 【問12】**  
・全体では公民館が最多で約42%、次いで図書館が約35%で、以下25%以下10%以上の間で体育館、交流学習センター、運動場・グラウンド、その他施設、美術館、公園、博物館・資料館となっている。  
・利用施設の所在地では、ほとんどの施設で居住地域内の比率が突出して高いのに対して、美術館と博物館・資料館は市外の施設利用の比率が相対的に高い。  
・地域別にみると、利用する図書館の所在地には地域差があり、中央図書館のある穂高は居住地域内の利用が9割超であるのに対し、三郷は4割未満と大きな差がある。また堀金は居住地域内の利用が7割超あるものの、市内で居住地域外の利用も6割弱と比較的高い。

**8. 生涯学習に取り組んでよかったと思うこと（成果）※ 【問11】**  
・5割前後の比率で順に、共通の目的をもつ人との交流の深まり、健康の回復や増進、新たな知識や技能が身に付いたの3項目がやや突出して多いが、ほか4項目も一定の回答を得ており、全体的には人それぞれであることも伺える。  
・健康の回復や増進は年齢層が高いほど比率が高まる傾向にある。他方、年齢層の低いLS1の男女及びLS2層の男性では、新たな知識や技能が身に付いたが最多で、LS2・3の女性では人との交流の深まりがやや顕著に高い。  
・会社員では新たな知識や技能が身に付いたが最多で、仕事や就職に活かせるも比較的高く、能力開発や仕事関連の実益が成果になっている様子も伺える。

**9. 現在の生涯学習の取り組み内容（15区分）※ 【問9】**  
・全体ではスポーツ（約37%）と健康づくり（約33%）の2項目の比率がやや顕著に高い。前者は女性より男性の方が比率が高く、逆に後者は女性の方が比率が高く、年齢層が上がるにつれその比率も高まる傾向にある。  
・LS3の女性と専業主婦ではスポーツの比率が他の区分より顕著に低くなるものの、健康づくりは顕著に高く、趣味やボランティアの比率は比較的高い。  
・LS1の男性と会社員は、全体では5番目の職業上必要な知識・技能・資格の比率が最多で、LS1の女性は、全体では7番目の子育て・教育の比率が最多である。

**10. 今後希望する生涯学習の内容（問9と同じ15区分+1）【問13】**  
・同じ選択肢の問9の結果と比較すると、比率の高い上位2項目は同じだが、その順序が入れ替わり、健康づくりが約42%と突出して高く、スポーツの約24%を大きく上回っている。ただ年齢別にみると、健康づくりは年齢層が上がるほど比率が高くなるのに対し、スポーツは年齢層が下がるほど比率が高く、女性よりも男性で比率が高い傾向がみられる。また全体では5番目の比率の高い職業上必要な知識・技能・資格は年齢層が下がるほど比率が高くなっている。  
・LS1の女性では子育て・健康が最多で、外国語学習がLS1～3の女性、マネー・ライフプランがLS1の男女で比較的比率が高いことなども特徴的である。

**11. 生涯学習の取り組みの妨げ・取り組めない理由（要因）【問14】**  
・全体では学校・仕事が忙しいが約34%と最多で、特にLS1の男性では7割を超え、会社員も同様に高い。当然、LS3ではこの比率は低く10%未満である。  
・次いで多いのはきっかけがないが約27%、情報がないが約19%で、前者は年齢層が下がるほど比率が高い傾向がある。後者はLS1の女性やLS3の男性で比較的比率が高い。これらは今後の施策として対応の余地がある項目である。  
・4番目に多いのは費用がかかるで、LS1の男性やLS2の女性で比較的この比率が高い。次いで多い体調の問題は、年齢層が上がるほど比率は高く、無職や専業主婦では最多である。またLS1の女性では子育て中のための比率が顕著に高く、LS2の女性では介護中のための比率が比較的高いことも注目に値する。

**12. 生涯学習の学びを何に役立てたいか（目的）【問15】**  
・全体では健康維持・老化防止と自らの生きがいづくりが5割超と突出して高く、前者は年齢層が上がるほど、また男性より女性の方が比率が高い。後者はLS2が最多で、特に女性は約65%と高いが、LS3になると男女とも5割未満である。また生活の安定・安全確保・質的向上、仕事や就職も年齢層が下がるほど比率が高く、全体的に若い世代ほど多目的な傾向がみられ、LS1の女性では地域の子どもたちへの学習活動や社会福祉活動もやや顕著に比率が高い。  
・LS3や無職では特にないも多く、加齢による意欲の減退を裏付けている。

**13. 現状における情報入手手段（現在どのように）※ 【問10】**  
・市報が最多（約46%）だが、以下口コミ、新聞・雑誌、インターネット、ポスター・チラシ、回覧板、テレビ・ラジオも10%以上の比率で、全体的に多様な手段で情報を入力している状況が伺える。そうしたなかで市ホームページは5%未満と著しく低い。他方、年齢・性別、職業別の違いも顕著で、LS3の女性は口コミ、LS1・2の男性はインターネットが最多で、LS1・2の女性ではポスター・チラシも比較的比率が高い。また口コミは男性よりも女性の方が比率が高く、インターネットは年齢層が下がるにつれ、回覧板は年齢層が上がるにつれ、比率が高くなる傾向がみられる。

**14. 効果的な情報提供手段（今後どのように）【問16】**  
・問10（現状）と同様に市報が約65%で、職業にもよらず、LS1以上では性別にもよらず最多でやや突出している。次いで回覧板、新聞・折込チラシが3割超と続くが、4番目に市ホームページが多く、約26%の回答を得ている。現状にも照らすと市ホームページは改善の余地が大きい。  
・全体的な傾向として年齢層が下がるほど手段が多彩で、市ホームページやインターネットはLS1・2で比率が高く、無料情報誌やSNSはLS1さらにはそれよりも若い層で比率が高い。またLS1・2の女性ではポスター・チラシ、LS1の男性ではテレビ・ラジオの比率も比較的高い。現状も踏まえ、今後は年齢・性別による手段の違いを意識した情報発信が求められる。

**15. 効果的な情報提供の場所（今後どこで）【問17】**  
・身近な生活利便施設を筆頭に、図書館・交流学習センター、市役所、公民館がいずれも3割以上で、上位2項目は、LS1やLS2、なかでも女性で比率が高い。一方でLS3ではそれらの比率が2割台とやや顕著に低い。LS3の最多は男女ともに公民館で、次いで男性が市役所、女性が図書館・交流学習センターとなっている。職業別にみても、会社員とパート等は身近な生活利便施設が最多であるのに対し、専業主婦は図書館・交流学習センター、無職は公民館でそれぞれ最多で、年齢・性別、職業による日頃の行動範囲の違いを反映した結果とみられる。  
・地域別にみると、穂高では図書館・交流学習センターが最多で、堀金では市役所が身近な生活利便施設に次いで多く、地域による違いもみられる。

**16. 現状に対する満足度と改善・強化の必要性 【問18】**  
・市の生涯学習環境に関する33項目に対し、それぞれ現状に対する満足度と改善・強化の必要性について4段階で評価してもらった結果を指標化し分析したところ、重点的に対応すべき項目等が見出された。以下その該当項目例。  
・安心・安全な地域づくりのための学習の機会がある  
・仕事に役立つ技術や知識を身に付ける学習の機会が充実している  
・市民の要望に応じた事業や講座を市職員が積極的に企画・運営している  
・音楽や演劇などの公演を市内で鑑賞することができる  
・誰もが学習に参加しやすい環境が整っている  
・学習したいと思った時に、気軽に相談できる窓口がある

**17. 生涯学習に対する関心度・意欲 【問19】**  
・生涯学習を必要だと思う人が6割超で、不要だと思う人はわずか（1.6%）で、わからない等を除けば、ほとんどの人が生涯学習の必要性を認識している。  
・ただ実際には問6の結果のとおり、過去5年以内にその取り組みのある人は約44%に留まっており、この数値を高める余地や必要性が十分にあるといえる。

※：【問6】の「過去5年以内の生涯学習の取り組みの有無」で「ある」と回答した人のみに対する設問

注）LS0（24歳以下）はサンプル数が著しく少ないため、クロス集計した結果からの特徴把握の対象から外しています。



# 安曇野市生涯学習推進計画に関するアンケートの結果（資料編）

## （1）選択回答の結果\*

※発送：H28.11.16、回収期限：H28.11.30、配布数：2,500通、回収数：800通、回収率：約32.0%

問1	あなたの性別を教えてください。 ※択一回答	回答数	回答率(%)
1	男性	375	46.9
2	女性	419	52.4
	無回答	6	0.8
	合計	800	

問2	あなたの満年齢を教えてください。 ※択一回答	回答数	回答率(%)
1	24歳以下	35	4.4
2	25～34歳	53	6.6
3	35～44歳	120	15.0
4	45～54歳	126	15.8
5	55～64歳	130	16.3
6	65～74歳	187	23.4
7	75歳以上	147	18.4
	無回答	2	0.3
	合計	800	

問3	あなたがお住まいの地域を教えてください。 ※択一回答	回答数	回答率(%)
2	穂高	294	36.8
1	豊科	222	27.8
3	三郷	144	18.0
5	明科	71	8.9
4	堀金	64	8.0
	無回答	5	0.6
	合計	800	

問4	あなたの職業を教えてください。 ※択一回答	回答数	回答率(%)
1	会社員	194	24.3
7	無職	182	22.8
6	専業主婦・主夫	114	14.3
4	パート、アルバイト	109	13.6
2	自営業主・家族従業者(農林水産業以外)	54	6.8
3	公務員	43	5.4
5	農林水産業又はその家族従事者	42	5.3
9	その他	34	4.3
8	学生	20	2.5
	無回答・無効	8	1.0
	合計	800	

問5	あなたは「生涯学習」という言葉の意味をご存知ですか。 ※択一回答	回答数	回答率(%)
2	何となくはわかる	321	40.1
1	知っている	243	30.4
3	意味はわからないが言葉は聞いたことがある	180	22.5
4	言葉として初めて聞いた	47	5.9
	無回答	9	1.1
	合計	800	

問6	あなたはこの5年くらいの間に、生涯学習の取り組みをなされましたか。 ※択一回答	回答数	回答率(%)
2	いいえ →問13へ	451	56.4
1	はい	349	43.6
	合計	800	



問7	あなたが行っている生涯学習の方法について教えてください。 ※複数回答	回答数	回答率(%)
2	自主的な集まりやサークル活動	174	49.9
1	個人的な活動	123	35.2
5	各種団体や企業の講座・講習・教室等	122	35.0
3	市主催の講座・講習・教室等	103	29.5
8	自らが主催者側で関わる活動	37	10.6
4	国や県主催の講座・講習・教室等	34	9.7
6	大学や専門学校の公開講座	19	5.4
7	通信教育や放送大学	12	3.4
9	その他	12	3.4
	問6で「1. はい」と答えた方の合計	349	

問8	あなたが生涯学習を行う頻度を教えてください。 ※択一回答	回答数	回答率(%)
3	月に数回	145	41.5
4	年に数回	100	28.7
2	週に数回	74	21.2
1	毎日	19	5.4
	無回答	11	3.2
	問6で「1. はい」と答えた方の合計	349	

問9	あなたが取り組んでいる生涯学習の内容を教えてください。 ※複数回答	回答数	回答率(%)
5	スポーツ	129	37.0
4	健康づくり	114	32.7
1	芸術	69	19.8
15	趣味などその他	63	18.1
12	職業上必要な知識・技能・資格	60	17.2
14	ボランティア	58	16.6
3	子育て、教育	49	14.0
11	地域づくり	43	12.3
8	パソコン、インターネット	31	8.9
10	安曇野市の歴史や風土	31	8.9
7	身近な自然環境や地球環境の保全	29	8.3
9	外国語の学習	24	6.9
6	防犯、防災	20	5.7
13	ガイドや指導者として人に伝える技術	17	4.9
2	マナー・ライフプラン	13	3.7
	合計	349	

問10	あなたが生涯学習に関する情報をどのような方法で入手されているか教えてください。 ※複数回答	回答数	回答率(%)
1	市報(広報あづみの)	161	46.1
7	知人の紹介(口コミ)	136	39.0
4	新聞、雑誌	125	35.8
5	インターネット	99	28.4
3	ポスター、チラシ	72	20.6
8	回覧板	62	17.8
6	テレビ、ラジオ	40	11.5
9	その他	25	7.2
2	市ホームページ	17	4.9
	問6で「1. はい」と答えた方の合計	349	

問11	あなたが生涯学習に取り組んでよかったと思うことは何ですか。 ※複数回答	回答数	回答率(%)
2	共通の目的を持つ人との交流が深まった	181	51.9
1	健康の回復や健康増進に役立った	169	48.4
3	新たな知識や技能が身に付いた	162	46.4
5	生きがいが生まれた	107	30.7
7	地域や人の役に立つことができた	102	29.2
6	自然・社会・文化への理解・関心が高まった	91	26.1
4	仕事や就職に活かすことができた	56	16.0
8	その他	8	2.3
9	とくにない	5	1.4
問6で「1. はい」と答えた方の合計		349	

問12 次のア～ケのうち、あなたが生涯学習の場としてよく(年に複数回)利用する施設があればお選びください。

集計	ア～ケの施設別集計 ※複数回答	回答数	回答率(%)
オ	公民館	145	41.5
ア	図書館	121	34.7
カ	体育館	81	23.2
イ	交流学习センター	79	22.6
キ	運動場・グラウンド	67	19.2
ケ	その他(施設名とその所在地)	61	17.5
エ	美術館	59	16.9
ク	公園	58	16.6
ウ	博物館・資料館	42	12.0
問6で「1. はい」と答えた方の合計		349	

問12-ア	図書館 ※複数回答	回答数	回答率(%)
1	お住まいの地域内	99	28.4
2	市内でお住まいの地域外	30	8.6
3	安曇野市外	20	5.7
問6で「1. はい」と答えた方の合計		349	

問12-イ	交流学习センター ※複数回答	回答数	回答率(%)
1	お住まいの地域内	58	16.6
2	市内でお住まいの地域外	15	4.3
3	安曇野市外	12	3.4
問6で「1. はい」と答えた方の合計		349	

問12-ウ	博物館・資料館 ※複数回答	回答数	回答率(%)
1	お住まいの地域内	18	5.2
2	市内でお住まいの地域外	19	5.4
3	安曇野市外	18	5.2
問6で「1. はい」と答えた方の合計		349	

問12-エ	美術館 ※複数回答	回答数	回答率(%)
1	お住まいの地域内	27	7.7
2	市内でお住まいの地域外	25	7.2
3	安曇野市外	32	9.2
問6で「1. はい」と答えた方の合計		349	

問12-オ	公民館 ※複数回答	回答数	回答率(%)
1	お住まいの地域内	113	32.4
2	市内でお住まいの地域外	29	8.3
3	安曇野市外	19	5.4
	問6で「1. はい」と答えた方の合計	349	

問12-カ	体育館 ※複数回答	回答数	回答率(%)
1	お住まいの地域内	59	16.9
2	市内でお住まいの地域外	18	5.2
3	安曇野市外	11	3.2
	問6で「1. はい」と答えた方の合計	349	

問12-キ	運動場・グラウンド ※複数回答	回答数	回答率(%)
1	お住まいの地域内	49	14.0
2	市内でお住まいの地域外	18	5.2
3	安曇野市外	14	4.0
	問6で「1. はい」と答えた方の合計	349	

問12-ク	公園 ※複数回答	回答数	回答率(%)
1	お住まいの地域内	46	13.2
2	市内でお住まいの地域外	18	5.2
3	安曇野市外	15	4.3
	問6で「1. はい」と答えた方の合計	349	

問12-ケ	その他(施設名とその所在地) ※択一回答	回答数	回答率(%)
	その他	61	17.5
	問6で「1. はい」と答えた方の合計	349	

問13	あなたが今後、生涯学習として新たに学びたいと思う分野や関心のあるテーマがあれば教えてください。 ※複数回答	回答数	回答率(%)
4	健康づくり	338	42.3
5	スポーツ	193	24.1
1	芸術	142	17.8
12	職業上必要な知識・技能・資格	120	15.0
8	パソコン、インターネット	118	14.8
16	特にない	113	14.1
10	安曇野市の歴史や風土	109	13.6
9	外国語の学習	106	13.3
3	子育て、教育	102	12.8
14	ボランティア	90	11.3
15	趣味などその他	87	10.9
2	マネー・ライフプラン	83	10.4
6	防犯、防災	82	10.3
7	身近な自然環境や地球環境の保全	78	9.8
11	地域づくり	77	9.6
13	ガイドや指導者として人に伝える技術	37	4.6
	合計	800	



問14	あなたが生涯学習に取り込むことへの妨げになっていること、あるいは生涯学習に取り組めない理由があれば教えてください。 ※複数回答	回答数		回答率(%)	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
3	仕事・学校が忙しい	275	34.4		
11	きっかけがない	205	25.6		
2	情報がない	153	19.1		
6	費用がかかる	123	15.4		
8	体調の問題	112	14.0		
15	特になし	108	13.5		
9	仲間がいない	85	10.6		
5	子育て中のため	63	7.9		
7	移手段がない	50	6.3		
1	施設がない	45	5.6		
13	生涯学習に興味はあるが魅力的な活動がない	45	5.6		
4	介護中のため	43	5.4		
10	指導者がいない	29	3.6		
12	そもそも生涯学習に興味がない	27	3.4		
14	その他	21	2.6		
合計		800			

問15	あなたは生涯学習で学んだことを何に役立てたいと思いますか。理想も含めてお聞かせください。 ※複数回答	回答数		回答率(%)	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
3	健康維持、老化防止	446	55.8		
4	自らの生きがいづくり	422	52.8		
1	教養の向上	265	33.1		
2	生活の安定・安全確保・質的向上	174	21.8		
5	仕事や就職	114	14.3		
10	地域づくりの推進	94	11.8		
7	社会福祉活動	88	11.0		
14	特になし・生涯学習に関心がないので答えようがない	80	10.0		
6	地域の子どもたちへの学習活動	74	9.3		
12	身近な自然環境や地域環境の保全	72	9.0		
8	地域の伝統文化の継承	62	7.8		
11	国際交流の発展	42	5.3		
9	ガイドや指導者としての活動	32	4.0		
13	その他	6	0.8		
合計		800			

問16	あなたが生涯学習活動をするために必要な情報は、どのように提供されるとよい(効果的)と思いますか。 ※複数回答	回答数		回答率(%)	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
1	市報(広報あづみの)	520	65.0		
4	回覧板	286	35.8		
5	新聞、折込チラシ	261	32.6		
2	市のホームページ	209	26.1		
7	インターネット	196	24.5		
3	ポスター、チラシ	146	18.3		
9	テレビ、ラジオ	140	17.5		
6	フリーペーパー(無料情報誌)	132	16.5		
8	フェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディア	68	8.5		
11	わからない	66	8.3		
10	その他	16	2.0		
合計		800			

問17	あなたが生涯学習をするために必要な情報は、どのような場所で提供されるとよい(効果的)と思いますか。 ※複数回答	回答数	回答率(%)
		6	スーパーマーケット、コンビニエンスストア、銀行、郵便局などの身近な生活利便施設
3	図書館、交流学習センター	297	37.1
1	市役所	257	32.1
2	公民館	241	30.1
8	わからない	94	11.8
4	体育館	68	8.5
5	その他お住まいの身近な公共施設	67	8.4
7	その他	34	4.3
合計		800	

問18 以下33項目について、「①現在、安曇野市で生活する中でどのように感じているか」と「②今後、安曇野市としてさらに現状を改善・強化すべきか」という2つの視点で、あなたのお考えに最も近い番号をお選びください。

問18-1	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	そう思う	62	7.8
3	ややそう思う	227	28.4	226	28.3
2	あまりそう思わない	202	25.3	113	14.1
1	そう思わない	82	10.3	20	2.5
	わからない	141	17.6	123	15.4
	無回答・無効	86	10.8	113	14.1
合計		800		800	

問18-2	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	そう思う	27	3.4
3	ややそう思う	150	18.8	257	32.1
2	あまりそう思わない	284	35.5	85	10.6
1	そう思わない	136	17.0	14	1.8
	わからない	123	15.4	110	13.8
	無回答・無効	80	10.0	109	13.6
合計		800		800	

問18-3	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	そう思う	7	0.9
3	ややそう思う	67	8.4	269	33.6
2	あまりそう思わない	322	40.3	101	12.6
1	そう思わない	195	24.4	25	3.1
	わからない	127	15.9	109	13.6
	無回答	82	10.3	107	13.4
合計		800		800	

問18-4	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	そう思う	21	2.6
3	ややそう思う	138	17.3	225	28.1
2	あまりそう思わない	210	26.3	96	12.0
1	そう思わない	89	11.1	16	2.0
	わからない	253	31.6	193	24.1
	無回答・無効	89	11.1	116	14.5
合計		800		800	

問18-5	退職後の生きがいづくりのための機会が充実している				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	17	2.1	191	23.9
3	ややそう思う	108	13.5	230	28.8
2	あまりそう思わない	247	30.9	99	12.4
1	そう思わない	158	19.8	29	3.6
	わからない	193	24.1	151	18.9
	無回答	77	9.6	100	12.5
	合計	800		800	

問18-6	高齢者が健康を維持するための学習の機会が充実している				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	24	3.0	174	21.8
3	ややそう思う	161	20.1	251	31.4
2	あまりそう思わない	250	31.3	98	12.3
1	そう思わない	119	14.9	33	4.1
	わからない	179	22.4	144	18.0
	無回答・無効	67	8.4	100	12.5
	合計	800		800	

問18-7	環境問題について学習する機会が充実している				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	10	1.3	143	17.9
3	ややそう思う	97	12.1	275	34.4
2	あまりそう思わない	294	36.8	110	13.8
1	そう思わない	136	17.0	23	2.9
	わからない	185	23.1	145	18.1
	無回答	78	9.8	104	13.0
	合計	800		800	

問18-8	健康に関する情報や学習の機会が提供されている				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	31	3.9	152	19.0
3	ややそう思う	219	27.4	295	36.9
2	あまりそう思わない	258	32.3	113	14.1
1	そう思わない	89	11.1	27	3.4
	わからない	128	16.0	114	14.3
	無回答	75	9.4	99	12.4
	合計	800		800	

問18-9	地域において支え合うための意識づくりが進んでいる				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	22	2.8	190	23.8
3	ややそう思う	153	19.1	279	34.9
2	あまりそう思わない	277	34.6	106	13.3
1	そう思わない	164	20.5	30	3.8
	わからない	110	13.8	101	12.6
	無回答・無効	74	9.3	94	11.8
	合計	800		800	



問18-10	誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境が整っている ※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	25	3.1	198
3	205	25.6	280	35.0	
2	285	35.6	88	11.0	
1	120	15.0	26	3.3	
	わからない	81	10.1	82	10.3
	無回答	84	10.5	126	15.8
	合計	800		800	

問18-11	芸術文化について学ぶ機会がある ※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	35	4.4	141
3	166	20.8	252	31.5	
2	271	33.9	137	17.1	
1	120	15.0	28	3.5	
	わからない	114	14.3	106	13.3
	無回答	94	11.8	136	17.0
	合計	800		800	

問18-12	外国人住民と互いに認め合う地域づくりが行われている ※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	3	0.4	139
3	40	5.0	244	30.5	
2	229	28.6	101	12.6	
1	243	30.4	33	4.1	
	わからない	190	23.8	149	18.6
	無回答	95	11.9	134	16.8
	合計	800		800	

問18-13	安心・安全な地域づくりのための学習の機会がある ※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	7	0.9	148
3	127	15.9	285	35.6	
2	295	36.9	107	13.4	
1	137	17.1	14	1.8	
	わからない	138	17.3	113	14.1
	無回答	96	12.0	133	16.6
	合計	800		800	

問18-14	人権について正しく理解するための学習の機会がある ※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	20	2.5	111
3	129	16.1	249	31.1	
2	246	30.8	147	18.4	
1	152	19.0	27	3.4	
	わからない	164	20.5	136	17.0
	無回答	89	11.1	130	16.3
	合計	800		800	

問18-15	情報化に対応するための学習の機会が充実している				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	5	0.6	138	17.3
3	ややそう思う	66	8.3	262	32.8
2	あまりそう思わない	308	38.5	103	12.9
1	そう思わない	152	19.0	20	2.5
	わからない	176	22.0	147	18.4
	無回答	93	11.6	130	16.3
	合計	800		800	

問18-16	市民の要望に応じた事業や講座を市職員が積極的に企画・運営している				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	17	2.1	175	21.9
3	ややそう思う	94	11.8	229	28.6
2	あまりそう思わない	244	30.5	93	11.6
1	そう思わない	152	19.0	24	3.0
	わからない	202	25.3	153	19.1
	無回答	91	11.4	126	15.8
	合計	800		800	

問18-17	公民館は地域の学習・交流の場としての役割を果たしている				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	66	8.3	130	16.3
3	ややそう思う	272	34.0	271	33.9
2	あまりそう思わない	179	22.4	145	18.1
1	そう思わない	98	12.3	36	4.5
	わからない	98	12.3	91	11.4
	無回答	87	10.9	127	15.9
	合計	800		800	

問18-18	交流学習センターは市民活動の場として活用されている				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	55	6.9	124	15.5
3	ややそう思う	227	28.4	248	31.0
2	あまりそう思わない	178	22.3	134	16.8
1	そう思わない	65	8.1	27	3.4
	わからない	180	22.5	138	17.3
	無回答・無効	95	11.9	129	16.1
	合計	800		800	

問18-19	図書館では市民の要望にあった情報サービスが提供されている				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	73	9.1	115	14.4
3	ややそう思う	240	30.0	237	29.6
2	あまりそう思わない	155	19.4	135	16.9
1	そう思わない	49	6.1	34	4.3
	わからない	188	23.5	148	18.5
	無回答	95	11.9	131	16.4
	合計	800		800	

問18-20	市立の美術館・博物館では施設の特徴を活かした展示や学びの場が提供されている				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	54	6.8	115	14.4
3	ややそう思う	224	28.0	246	30.8
2	あまりそう思わない	167	20.9	119	14.9
1	そう思わない	60	7.5	27	3.4
	わからない	202	25.3	164	20.5
	無回答・無効	93	11.6	129	16.1
	合計	800		800	

問18-21	音楽や演劇などの公演を市内で鑑賞することができる				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	29	3.6	217	27.1
3	ややそう思う	127	15.9	243	30.4
2	あまりそう思わない	229	28.6	90	11.3
1	そう思わない	215	26.9	30	3.8
	わからない	110	13.8	97	12.1
	無回答・無効	90	11.3	123	15.4
	合計	800		800	

問18-22	様々なスポーツを市内のスポーツ施設で行うことができる				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	46	5.8	149	18.6
3	ややそう思う	217	27.1	242	30.3
2	あまりそう思わない	218	27.3	130	16.3
1	そう思わない	98	12.3	31	3.9
	わからない	124	15.5	116	14.5
	無回答	97	12.1	132	16.5
	合計	800		800	

問18-23	市立の各生涯学習施設は、市職員が適切に管理・運営している				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	29	3.6	90	11.3
3	ややそう思う	188	23.5	209	26.1
2	あまりそう思わない	143	17.9	108	13.5
1	そう思わない	61	7.6	31	3.9
	わからない	270	33.8	215	26.9
	無回答・無効	109	13.6	147	18.4
	合計	800		800	

問18-24	様々な情報媒体から学習情報を収集することができる				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	17	2.1	113	14.1
3	ややそう思う	147	18.4	248	31.0
2	あまりそう思わない	227	28.4	106	13.3
1	そう思わない	92	11.5	22	2.8
	わからない	204	25.5	166	20.8
	無回答	113	14.1	145	18.1
	合計	800		800	



問18-25	学習したいと思ったときに、気軽に相談できる窓口がある ※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	17	2.1	154
3	83	10.4	232	29.0	
2	220	27.5	76	9.5	
1	154	19.3	24	3.0	
	わからない	221	27.6	176	22.0
	無回答・無効	105	13.1	138	17.3
	合計	800		800	

問18-26	誰もが学習に参加しやすい環境が整っている ※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	18	2.3	150
3	108	13.5	253	31.6	
2	243	30.4	87	10.9	
1	136	17.0	16	2.0	
	わからない	188	23.5	156	19.5
	無回答・無効	107	13.4	138	17.3
	合計	800		800	

問18-27	学習した成果を発表する機会がある ※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	24	3.0	80
3	137	17.1	223	27.9	
2	196	24.5	132	16.5	
1	80	10.0	28	3.5	
	わからない	251	31.4	189	23.6
	無回答	112	14.0	148	18.5
	合計	800		800	

問18-28	ボランティア活動に積極的に取り組める環境が整っている ※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	22	2.8	114
3	135	16.9	262	32.8	
2	232	29.0	101	12.6	
1	84	10.5	14	1.8	
	わからない	225	28.1	174	21.8
	無回答・無効	102	12.8	135	16.9
	合計	800		800	

問18-29	市民と行政の協働のまちづくりが進んでいる ※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
		4	11	1.4	121
3	127	15.9	271	33.9	
2	232	29.0	84	10.5	
1	118	14.8	20	2.5	
	わからない	202	25.3	163	20.4
	無回答	110	13.8	141	17.6
	合計	800		800	

問18-30	市民同士の交流が盛んに行われている				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	10	1.3	116	14.5
3	ややそう思う	121	15.1	261	32.6
2	あまりそう思わない	230	28.8	112	14.0
1	そう思わない	146	18.3	24	3.0
	わからない	186	23.3	149	18.6
	無回答	107	13.4	138	17.3
	合計	800		800	

問18-31	生涯学習の成果である知識や技能が地域に還元されている				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	7	0.9	100	12.5
3	ややそう思う	77	9.6	246	30.8
2	あまりそう思わない	258	32.3	102	12.8
1	そう思わない	110	13.8	20	2.5
	わからない	241	30.1	193	24.1
	無回答	107	13.4	139	17.4
	合計	800		800	

問18-32	風土に根ざした技や知恵が、確実に次の世代に受け継がれている				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	9	1.1	150	18.8
3	ややそう思う	106	13.3	241	30.1
2	あまりそう思わない	242	30.3	89	11.1
1	そう思わない	119	14.9	16	2.0
	わからない	218	27.3	171	21.4
	無回答	106	13.3	133	16.6
	合計	800		800	

問18-33	リーダーバンク制度が充実している				
	※択一回答	現在の状況		改善・強化すべき	
		回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
4	そう思う	7	0.9	123	15.4
3	ややそう思う	52	6.5	192	24.0
2	あまりそう思わない	202	25.3	77	9.6
1	そう思わない	113	14.1	17	2.1
	わからない	316	39.5	251	31.4
	無回答	110	13.8	140	17.5
	合計	800		800	

問19	あなたは、学校教育終了後も生涯にわたって学び続けることは必要だと思いますか。	
	※複数回答	回答数 回答率(%)
1	必要だと思う	491 61.4
2	必要だと思わない	10 1.3
3	わからない	175 21.9
	無回答・無効	124 15.5
	合計	800

## (2) 記述回答の結果

### 問7 あなたが行っている生涯学習の方法について(「9 その他」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・学校教育	24歳以下	穂高	学生	女性
・職業の都合	25～34歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・あづみのマラソンのボランティア	35～44歳	穂高	会社員	男性
・本	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・穂高のカルチャーセンター(文学系講座、母の付き添いで一緒に受講)	45～54歳	穂高	その他	女性
・地区の体育部長として	45～54歳	堀金	会社員	男性
・テレビ講座	55～64歳	穂高	無職	男性
・穂高壮年リフトへの参加	55～64歳	穂高	無職	男性
・地区の日赤奉仕団の活動としてのボランティア	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・日々の職業活動自体	65～74歳	穂高	自営業主	男性
・区の活動、公民館活動、水環境保全活動	65～74歳	三郷	無職	男性
・地区有志の集まり	75歳以上	穂高	自営業主	女性



問9 あなたが取り組んでいる生涯学習について(「15 趣味などその他」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・受験勉強	24歳以下	豊科	学生	男性
・国際交流	24歳以下	明科	学生	女性
・筆ペン講習	35～44歳	穂高	会社員	女性
・心理学	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・ピアノのレッスン、アロマセラピー	45～54歳	穂高	その他	女性
・歴史講座	45～54歳	三郷	会社員	女性
・山登り	55～64歳	豊科	無職	男性
・登山	55～64歳	穂高	公務員	男性
・登山、オープンガーデン	55～64歳	堀金	専業主婦・主夫	女性
・聖書研究	55～64歳	堀金	専業主婦・主夫	女性
・書道	65～74歳	豊科	パート・アルバイト	男性
・登山、家庭菜園、庭の手入れ、家のリフォーム、本の編集	65～74歳	豊科	その他	女性
・シニア大学	65～74歳	穂高	会社員	男性
・編み物、パッチワーク、袋物や自分の服など作ること	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・コーラス、オカリナ	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・将棋、健康麻雀	65～74歳	穂高	無職	男性
・里山トレッキングによる交流	65～74歳	穂高	無職	男性
・趣味	65～74歳	三郷	無職	男性
・囲碁、カラオケ	65～74歳	三郷	無職	男性
・祭囃子保存関係	65～74歳	三郷	無職	男性
・手話サークル	65～74歳	明科	パート・アルバイト	女性
・フォークダンス、コーラス	65～74歳	明科	無職	男性
・キルト教室	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・音楽(楽器の演奏、合唱)	75歳以上	豊科	無職	男性
・英会話、読書	75歳以上	豊科	無職	女性
・書道	75歳以上	穂高	自営業主	女性
・民踊り	75歳以上	穂高	自営業主	女性
・囲碁	75歳以上	穂高	農林水産	男性
・園芸	75歳以上	穂高	専業主婦・主夫	女性
・音楽	75歳以上	穂高	無職	男性
・教養	75歳以上	三郷	専業主婦・主夫	女性
・俳句会	75歳以上	三郷	無職	男性

問10 生涯学習に関する情報の入手方法について(「9 その他」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 大学内	24歳以下	明科	学生	女性
・ 教室に通っています	25～34歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・ 職場	25～34歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・ SNS	25～34歳	堀金	会社員	男性
・ 研修会(東京都、横浜市、宮崎市等)	35～44歳	豊科	会社員	男性
・ 企業の案内	35～44歳	豊科	会社員	男性
・ 会社からの紹介	35～44歳	三郷	会社員	男性
・ 職場内での情報	45～54歳	豊科	公務員	男性
・ 所属している職業団体からの通知	45～54歳	穂高	会社員	女性
・ 学校(子どもからの)から配布されたお便り	45～54歳	穂高	公務員	女性
・ 職場	55～64歳	穂高	公務員	男性
・ 書店	55～64歳	三郷	公務員	男性
・ 関係団体からの通知書	55～64歳	明科	無職	男性
・ 犬の散歩の途中で見つけた	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ 実際の職業上の活動	65～74歳	穂高	自営業主	男性
・ 直接対面にて	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	男性
・ 長年の仲間	65～74歳	穂高	農林水産	女性
・ 書、調査	65～74歳	穂高	無職	男性
・ 会、団体からの通知	65～74歳	三郷	無職	男性
・ 生涯学習センターでの活動・生涯学習インストラクターでの活動・情報等々	75歳以上	豊科	無職	男性
・ 所属するクラブの機関紙	75歳以上	穂高	無職	男性
・ 20数年も前から続けていることですのでわかりません	75歳以上	三郷	無職	女性
・ サークル活動	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性

問11 生涯学習をしてよかったことは(「8 その他」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・向上心が技能の向上につながることを身をもって知った	25~34歳	堀金	会社員	男性
・まだわかるところまでできていない	35~44歳	三郷	会社員	女性
・生涯設計に活かすことができた	45~54歳	豊科	公務員	男性
・子供のころ、学生時代の趣味や習い事を再開することができた(ピアノ)	45~54歳	穂高	その他	女性
・他の関係する人との交流が深まった	65~74歳	穂高	パート・アルバイト	男性
・友達ができ	65~74歳	明科	パート・アルバイト	女性
・地域のつながりが深まった	65~74歳	明科	農林水産	男性
・友達づくり、明るくなる	75歳以上	穂高	自営業主	女性
・デイサービス	75歳以上	穂高	専業主婦・主夫	女性



問12 生涯学習で利用する施設の市外の所在地(「ア 図書館 3 安曇野市以外」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・松本市	24歳以下	三郷	学生	男性
・松本市	25～34歳	豊科	公務員	女性
・松本市	35～44歳	穂高	会社員	女性
・松本市	35～44歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・飯田市	45～54歳	豊科	公務員	男性
・長野市	45～54歳	豊科	公務員	男性
・松本市	45～54歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・松川	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・松本市	55～64歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・松本市	65～74歳	豊科	その他	女性
・松本市、伊那市	65～74歳	穂高	無職	男性
・松本市	65～74歳	三郷	無職	男性
・松本市	75歳以上	三郷	専業主婦・主夫	女性
・松本市、東京都	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性

問12 生涯学習で利用する施設の市外の所在地(「イ 交流学習センター 3 安曇野市以外」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・塩尻市	35～44歳	穂高	会社員	男性
・松本市	35～44歳	穂高	会社員	女性
・松本市、塩尻市	35～44歳	穂高	公務員	女性
・飯田市	45～54歳	豊科	公務員	男性
・塩尻市	45～54歳	豊科	公務員	男性
・松本市	45～54歳	堀金	会社員	女性
・松本市	55～64歳	豊科	会社員	女性
・塩尻市	55～64歳	豊科	公務員	男性
・松本市	55～64歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・長野市	75歳以上	豊科	無職	男性

問12 生涯学習で利用する施設の市外の所在地(「ウ 博物館・資料館 3 安曇野市以外」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・千曲市	35～44歳	穂高	公務員	女性
・横浜市	35～44歳	明科	会社員	男性
・長野市	45～54歳	豊科	公務員	男性
・松川	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・松本市	55～64歳	豊科	公務員	男性
・松本市、長野市	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・松本市	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・長野市	65～74歳	穂高	無職	男性
・松本市	65～74歳	三郷	無職	男性
・松本市、長野市	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性



問12 生涯学習で利用する施設の市外の所在地(「エ 美術館 3 安曇野市以外」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 東京都	24歳以下	明科	学生	女性
・ 松本市	25～34歳	豊科	公務員	女性
・ 松本市	35～44歳	三郷	会社員	男性
・ 松本市	35～44歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・ 国内	35～44歳	堀金	会社員	女性
・ 松本市	35～44歳	明科	会社員	男性
・ 松本市、長野市	45～54歳	豊科	公務員	男性
・ 松本市	45～54歳	穂高	会社員	女性
・ 松本市、東京都	45～54歳	穂高	自営業主	女性
・ 松本市	45～54歳	三郷	会社員	男性
・ 松本市	55～64歳	豊科	会社員	女性
・ 松本市	55～64歳	豊科	公務員	男性
・ 松本市	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・ 松本市、長野市	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 松本市、諏訪市、長野市	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 松本市	65～74歳	豊科	会社員	男性
・ 松本市	65～74歳	穂高	その他	女性
・ 東京都	65～74歳	明科	自営業主	男性
・ 松本市、長野市	75歳以上	豊科	無職	男性
・ 松本市、長野市	75歳以上	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 松本市、長野市、東京都	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性

問12 生涯学習で利用する施設の市外の所在地(「才 公民館 3 安曇野市以外」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・松本市、池田町、岡谷市	25～34歳	豊科	公務員	女性
・松本市	35～44歳	穂高	公務員	男性
・松本市	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・松川村	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・岡谷市	55～64歳	穂高	自営業主	男性
・松本市(まつもと市民芸術館)	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・松本市	65～74歳	穂高	無職	男性
・松本市	65～74歳	穂高	無職	男性
・松本市(波田公民館)	65～74歳	三郷	無職	女性
・長野市	65～74歳	堀金	会社員	男性
・松本市	75歳以上	堀金	無職	女性

問12 生涯学習で利用する施設の市外の所在地(「カ 体育館 3 安曇野市以外」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・松本市	25～34歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・松本市	25～34歳	堀金	会社員	男性
・松本市	35～44歳	穂高	会社員	男性
・松本市	35～44歳	穂高	会社員	女性
・松本市	45～54歳	堀金	会社員	男性
・松本市	55～64歳	豊科	会社員	女性
・松本市	65～74歳	穂高	その他	女性
・松本市(芝沢小学校)	65～74歳	三郷	自営業主	女性



問12 生涯学習で利用する施設の市外の所在地(「キ 運動場・グラウンド 3 安曇野市以外」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・松本市	24歳以下	堀金	学生	男性
・松本市、大町市	25～34歳	堀金	会社員	男性
・松本市梓川	35～44歳	三郷	会社員	男性
・大町市	35～44歳	三郷	会社員	女性
・松本市	45～54歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・松本市	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・松本市	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・松本市	65～74歳	明科	無職	男性

問12 生涯学習で利用する施設の市外の所在地(「ク 公園 3 安曇野市以外」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・松本市	25～34歳	三郷	会社員	女性
・大町市	25～34歳	堀金	会社員	男性
・松本市	35～44歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・松本市、諏訪市、中野市	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・松本市	65～74歳	穂高	その他	女性
・北安曇郡、大町市	75歳以上	豊科	無職	男性
・松本市ほか	75歳以上	穂高	無職	男性
・松本市	75歳以上	堀金	無職	女性
・松本市、東京都	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性

問12 生涯学習で利用する施設の市外の所在地(「ケ その他」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・信州大学松本キャンパス	24歳以下	三郷	学生	男性
・大学国際交流センター(東京都)	24歳以下	明科	学生	女性
・保健センター 豊科、穂高、児童館 豊科	25～34歳	豊科	会社員	女性
・市役所、信大	25～34歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・調布たづくり会館(東京都)、まつもと市民芸術館	25～34歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・児童館(市内9箇所)	25～34歳	穂高	会社員	女性
・ホリデー(松本市)	25～34歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・グリーンボウル(大町市)、True Players(白馬村)	25～34歳	堀金	会社員	男性
・美術ホール全般	35～44歳	豊科	会社員	男性
・松本城、諏訪湖周辺	35～44歳	豊科	会社員	女性
・時計博物館上の本町ホール(松本市)	35～44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・団体の会場、ホテルの会議室など	35～44歳	穂高	会社員	男性
・穂高中央児童館	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・まつもと市民芸術館、ちの市民芸術館	35～44歳	穂高	その他	女性
・IREM JAPAN(港区高輪)、相続アドバイザー協議会(新宿区高田馬場)	35～44歳	明科	会社員	男性
・松本市医師会館	35～44歳	明科	会社員	女性
・生涯学習センター(長野市)	45～54歳	豊科	公務員	男性
・穂高会館	45～54歳	穂高	会社員	男性
・長野JAビル、松本大学等	45～54歳	穂高	会社員	女性
・島村楽器、松本パルコ店(ピアノ)	45～54歳	穂高	その他	女性
・カルチャーセンター(市外)	45～54歳	三郷	会社員	女性
・小学校ボランティア 区域内	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・いろいろなどころ	45～54歳	明科	会社員	男性
・スポーツジム(松本市)	55～64歳	豊科	自営業主	女性
・ささえあいセンター(豊科)	55～64歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・豊科ふれあいホール	55～64歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ボディケアスポーツ(穂高)	55～64歳	穂高	会社員	女性
・市民サポートセンター、松本城、Mウイング	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・穂高スイミングクラブ	55～64歳	穂高	無職	女性
・地域の集会場 個人の家	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・松本技術専門学校	55～64歳	明科	無職	男性
・市民芸術館(松本市)	65～74歳	豊科	自営業主	男性
・剣道場	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ふれあいホール(豊科)	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・豊科保健センター(豊科)	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・キッセイ文化センター、信州大学、まつもと市民芸術館(松本市)	65～74歳	豊科	無職	男性
・アルウィン(松本市)	65～74歳	豊科	その他	男性
・施設がないところを選ぶことが多い	65～74歳	豊科	その他	女性
・保育施設	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	男性
・豊科老人福祉センター	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・市庁舎	65～74歳	穂高	無職	男性
・松本少年刑務所、安曇野ビレッジ、塩尻ドーム	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・三郷、自宅	65～74歳	三郷	無職	男性
・公民館、諏訪神社社務所	65～74歳	三郷	無職	男性
・社協三郷支部	65～74歳	三郷	無職	女性
・大学(信州大学理学部)	65～74歳	堀金	会社員	男性
・穂高会館	65～74歳	明科	無職	男性
・女性研修センター	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・豊科まちづくり会館	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・マレットゴルフ場 区域内	75歳以上	豊科	無職	男性
・松本合同庁舎、民間介護施設	75歳以上	豊科	無職	男性
・老人福祉センター和室	75歳以上	豊科	無職	女性
・保健センター	75歳以上	豊科	無職	女性
・デイサービス 市の関係	75歳以上	穂高	専業主婦・主夫	女性
・マレットゴルフ場	75歳以上	穂高	無職	男性
・社協穂高支所	75歳以上	穂高	無職	男性
・個人のアトリエ	75歳以上	穂高	無職	男性
・社協サービスセンター	75歳以上	穂高	無職	男性
・NHK文化センター 松本市	75歳以上	三郷	自営業主	女性
・勤労者福祉会館	75歳以上	三郷	専業主婦・主夫	女性

問13 生涯学習として新たに取り組みたいもの(「15 趣味などその他」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・カフェ巡り、DVD鑑賞	24歳以下	穂高	学生	女性
・花、野菜作りなど	25～34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・天蚕の飼育など	25～34歳	三郷	会社員	女性
・家庭菜園、釣り	35～44歳	穂高	会社員	男性
・登山	35～44歳	穂高	会社員	男性
・料理、ヨガ	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・園芸	35～44歳	堀金	会社員	男性
・料理	45～54歳	豊科	公務員	女性
・山岳に関すること	45～54歳	穂高	会社員	男性
・バイク	45～54歳	三郷	会社員	男性
・山野草等	45～54歳	三郷	自営業主	男性
・自宅開放	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・モノづくり(小物木工)	55～64歳	豊科	公務員	男性
・写真、手芸	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・農業(自給分の野菜等の育成)	55～64歳	穂高	無職	男性
・政治、経済、特に社会保障など人間が大切にされる社会目指して	55～64歳	穂高	無職	男性
・料理、棒針編み、洋裁、チェロ	55～64歳	穂高	無職	女性
・編み物、裁縫、手芸等、手指の運動・リハビリによいもの	55～64歳	三郷	無職	女性
・手芸、踊り	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・書道等	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・農業の勉強レベルアップ	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・環境の整った散歩コースがあれば歩いて健康づくりに励みたい	65～74歳	豊科	無職	女性
・童謡、唱歌を子供たちに伝承したい	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・手芸	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・将棋、健康麻雀	65～74歳	穂高	無職	男性
・木工	65～74歳	穂高	無職	男性
・陶芸	65～74歳	穂高	無職	女性
・ゴルフ教室	65～74歳	三郷	パート・アルバイト	男性
・カラオケ、健康体操、ウォーキング	65～74歳	三郷	パート・アルバイト	男性
・若い世代への技術の伝承	65～74歳	堀金	会社員	男性
・野山、川、海	65～74歳	明科	自営業主	男性
・文学、漢字の勉強	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・美術や音楽鑑賞が好きです	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・海釣り、ゴルフ	75歳以上	穂高	無職	男性
・水石、盆栽、山野草、木の根集め、きのこ採り、蜂の巣採り、庭木の剪定など趣味にしている	75歳以上	穂高	無職	男性
・囲碁	75歳以上	三郷	無職	男性



問14 生涯学習に取り組めない理由(「14 その他」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・小さい頃からスポーツをやっていないので、やるにはいまさら感がある	24歳以下	三郷	学生	女性
・休みが合わない、土日にやっているイベントが少ない	25～34歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・年齢制限が多い	45～54歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・金銭面でも精神面でも、今は余裕がありません	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・家事に時間をとられる	55～64歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・専業主婦であるが、高齢者を抱え農業もしているので忙しい日々	55～64歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・現在取り組んでいる事に夢中で余裕がない	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・夫の協力が無い	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・だんだん車の運転が不安。市になる前は豊科で体操教室に行きました	55～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・今までは介護のための時間が必要であったので	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・息子夫婦が共働き世帯のため孫育てで、時間に余裕がない	65～74歳	豊科	無職	女性
・高齢者を家に残して、そう出かけられない	65～74歳	穂高	会社員	男性
・夏場に講座が多いが、冬場は少ない	65～74歳	穂高	農林水産	女性
・一歩踏み出す気持ち、チャレンジ精神	65～74歳	穂高	無職	男性
・休日は畑で忙しい	65～74歳	三郷	会社員	男性
・個人の行動による、芸術、コンサートが主である	65～74歳	明科	自営業主	男性
・デイサービスが頼りです	75歳以上	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ボケてきており、気が進まない	75歳以上	穂高	無職	男性
・わざわざ出かけて学習しなくても、近くの人と話合っ身につけるようにしている	75歳以上	穂高	無職	男性
・交通手段	75歳以上	三郷	専業主婦・主夫	女性
・高齢ですので人様に迷惑をかけないこと	75歳以上	三郷	無職	女性
・グループにセクシク空気があり、新しく入りにくい	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性

問14 選択した妨げや取り組みない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策

1「施設がない」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・施設はたくさんあるが、誰でも気軽に利用できるようにしてほしい。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・地域の施設(公民館ほか)利用。	25~34歳	穂高	会社員	女性
・夕方~夜など仕事の後に音楽活動(練習)のできる施設がもっと欲しい。	25~34歳	穂高	会社員	女性
・スケートボードパークがないので作っていただきたいです。周りの市町村には小さいのでもあるのですが。	25~34歳	堀金	会社員	男性
・安曇野市内に大きな文化会館がない。	35~44歳	豊科	会社員	男性
・今ある施設でいろいろ考える。	35~44歳	豊科	会社員	女性
・メタボなどの生活習慣病予防で市のトレーニングルームを利用したいが安曇野市はないため、松本市に通っている。	45~54歳	堀金	会社員	男性
・どこ施設でもオープンにしてほしい。	55~64歳	穂高	会社員	女性
・施設が一部地域に片寄っており、周辺部では対応できない。なぜ豊科にのみ集中するのか。	55~64歳	穂高	自営業主	男性
・富山自遊塾とか上田市の自由塾のようなものを企画し、立ち上げるべき。地区の公民館活動では尻つばみ。	65~74歳	豊科	農林水産	男性
・県全体の大会など計画、依頼されても開催できる市民会館がない。	65~74歳	豊科	農林水産	男性
・土日に調理室を使用できるようにしていただきたいです。働いているお母さんたちに、料理講習会とかやりたいのですが、豊科は土日に調理室を使えませんので困っています。	65~74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性

問14 選択した妨げや取り組めない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
2「情報が無い」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・情報媒体が広報誌等限られるので、SNS等に積極的に挙げてほしい。	24歳以下	豊科	学生	男性
・CMなどで情報発信するまたはポスターなど。	24歳以下	豊科	学生	女性
・パンフレットみたいなものを地域の学校に配布する。 →学生に情報が伝わりにくいため。	24歳以下	穂高	学生	女性
・市のHP等で情報を発信してほしい。	25～34歳	三郷	会社員	女性
・調べる時間をつくる。	35～44歳	豊科	会社員	女性
・広く情報を公開する。	35～44歳	豊科	会社員	女性
・安曇野市の公共施設で少ない会費でやっていただき、広報などで教えていただきたいです。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・目に入りやすい施設に幅広く掲示していただけるとわかりやすい。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・「広報あづみの」のレイアウトを改訂。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・駅のポスター等にも情報を乗せてほしい。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・広報でお知らせしてほしい。もっと目立つように。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ツイッター、フェイスブックなどで市または地区で情報を発信する。	35～44歳	穂高	会社員	女性
・広報誌での情報提供(すでにあったら済みません)。	35～44歳	穂高	公務員	男性
・外国人への情報が無い。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・普段情報を目にしたことが無い。改善策はわかりません。	35～44歳	三郷	会社員	女性
・広報を見たり見なかつたりする。冊子は大切ですが、チラシ的なものの方がみるかも。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・どこに聞けばいいのか、窓口がわからない。	35～44歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・情報誌的なものがあるといいかな。	45～54歳	豊科	パート・アルバイト	男性
・興味があれば自ら動き探す。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・積極的でない人でも「やってみたい」と思うようなPRがほしい。見学会等もあればよい。	55～64歳	豊科	会社員	男性
・小さな会の活動を公報する手段(知る手段)。	55～64歳	穂高	無職	女性
・元々からの住人ではないので新しく市へ来た人への情報を市又は地区の人から接触してほしい。コミュニケーションが生まれにくい。	55～64歳	三郷	自営業主	男性
・広報など公なものでの呼びかけ。開催。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・情報誌制作。	55～64歳	明科	無職	男性
・市として何を行なっているか、何を見ればいいのかかわからない。	55～64歳	明科	無職	男性
・閉鎖的風土の改善、情報不足。行政による積極的参画とPR(HPで理念を)。	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・市の広報紙には紹介されているが、もう少し紹介方法を検討されたい。	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・説明会、研修会、見学会。	65～74歳	穂高	公務員	女性
・市からの情報発信がほしい。何となくきいたことはあるが。	65～74歳	三郷	その他	男性
・生涯学習の情報誌があれば。	65～74歳	明科	パート・アルバイト	男性
・どこで何を行なわれているのか情報が掴めない。	65～74歳	明科	無職	男性
・クラブ・同好会等へ加入すればより新情報・新しい仲間がまし、自らの活動、悩みも解消されていくと思う。	75歳以上	豊科	無職	男性
・わかりやすい広告が出ていれば気づく。	75歳以上	穂高	無職	男性
・求めればよい。	75歳以上	三郷	無職	男性

問14 選択した妨げや取り組みない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
3「仕事・学校が忙しい」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 仕事の場合はしょうがないが、少しでも会社側の理解があればよいと思う。	24歳以下	穂高	会社員	男性
・ 日程の調整。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・ 長期休みの利用で取り組めるようなプログラム。	24歳以下	明科	学生	女性
・ 夜から受けられるものがあれば。	25～34歳	三郷	会社員	女性
・ 夜間、休日の開催。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・ 車を購入する。	35～44歳	豊科	会社員	女性
・ 土日のみだけでなく平日も増やしてほしい。	35～44歳	豊科	会社員	女性
・ 幅広い時間帯や曜日があればよいと思っています。	35～44歳	豊科	無職	男性
・ 会社側でも生涯学習に割り当てる時間をつくってほしい。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 会社、社会が生涯学習を奨励すること。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 自分の問題ですかね。	35～44歳	穂高	自営業主	男性
・ 気持ちはあるが仕事忙しい。休日は疲れを取るだけでいっぱいなので、いつも悩んでいる。	35～44歳	三郷	会社員	女性
・ もうあるかもしれませんが、休日や平日の夜に行なえばよいと思う。	35～44歳	三郷	会社員	女性
・ 会社次第なので厳しい状況です。	35～44歳	明科	会社員	男性
・ 気軽に行ける時間帯、夜7時～	35～44歳	明科	会社員	女性
・ 日中は仕事のため、仕事が終わり夜の部があるとよい。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・ 仕事が12時間勤務なので改善は難しい。	45～54歳	豊科	パート・アルバイト	男性
・ 土日に教室、講座など開かれると利用しやすいと思う。	45～54歳	穂高	公務員	女性
・ 仕事をしていることもあり、時間がないのが現状ですが、実施している曜日や時間が合わないことも取り組みない理由です。平日なんか参加できません。せめて土曜、日曜を中心にやっていただけるのなと思います。仕事を持っている人は無料でできるとか。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・ 市で行っているものは平日の昼間が多く、働いているものにはいかれないものが多いような気がする。高齢者や子育て中の若いお母さん対象のものは充実しているが、40～50代世代には魅力がないと思う。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・ 子供が大きくなってから。	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・ 土日にできるものがあればよいと思う。	45～54歳	堀金	会社員	女性
・ スケジュール調整。	45～54歳	明科	会社員	男性
・ 土日などに行ってほしい。	55～64歳	豊科	会社員	女性
・ 年金受給が60歳を超えても受けられない、暮せない、余裕がない。	55～64歳	豊科	公務員	男性
・ 昼間は仕事をしているため、夜間の行事もあれば参加できると思う。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・ 仕事をしていれば平日の学習は難しい(時間的に無理)	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・ 働かなければ食べていけない。	55～64歳	穂高	農林水産	男性
・ 退職して時間に余裕ができたなら。	55～64歳	三郷	会社員	男性
・ 短時間の仕事で、今くらいの収入があるようなことができればよいかな。	65～74歳	豊科	公務員	男性
・ 今の勤めを辞めれば考えたい。	65～74歳	三郷	会社員	男性
・ 会社を退職し、時間的余裕ができることが必要。	65～74歳	堀金	会社員	男性



問14 選択した妨げや取り組めない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
 4「介護中のため」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 平日、土日と関係なく預かってくれる場所を増やす。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 介護施設の拡充。	45～54歳	豊科	会社員	男性

問14 選択した妨げや取り組みない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
5「子育て中のため」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・子育てが落ち着けば取り組める。	25～34歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・子育てが一段落したら取り組める。	25～34歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・家族みんなで参加できる仕組みをつくってほしいです。例えば我が家は5人家族なので「ペア」ではなく「家族」で参加できるように、ウォーキングも幼児から大人まで歩ける設定を。何にしてももう少し柔軟な対応をしていただきたいです。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・託児付きの講座であれば参加しやすいと思う。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・子供に手がかかからなくなれば。	35～44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・幅広い時間帯や曜日があればよいと思っています。	35～44歳	豊科	無職	男性
・子どもが保育園に行くようになれば、時間はつくれます。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・託児所があれば参加しやすい。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・子供と一緒に参加できる、若しくは託児つきである。	35～44歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・子育て世代をターゲットにした講習の実施。	45～54歳	豊科	会社員	男性

問14 選択した妨げや取り組めない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
6「費用がかかる」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・費用が手軽ならできそう。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・入会費みたいなものがないと嬉しい。	24歳以下	三郷	学生	女性
・公民館の使用料の値下げ。	25～34歳	穂高	会社員	女性
・市の体育館等にジムがあり、安く利用できる(他県等よく耳にします)	25～34歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・費用の補助または値下げ。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・安曇野市の公共施設で少ない会費でやっていただき、広報などで教えていただきたいです。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・幅広い時間帯や曜日があればよいと思っています。	35～44歳	豊科	無職	男性
・お金を増やす。	35～44歳	堀金	会社員	男性
・安価に講習等が受講できる施設の設置。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・補助的なものがあればよい。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・簡単に融資を受けられると楽に始められるのではないか(無利子、長期返済)。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・市が主催する講座の夜の時間のものがあるとよい。	45～54歳	穂高	会社員	女性
・公的補助。	45～54歳	明科	公務員	男性
・無料なら取り組みたい。	55～64歳	豊科	無職	女性
・ボランティア精神で取り組めるとよい。	55～64歳	穂高	会社員	女性
・施設の利用料を安くする。	55～64歳	穂高	無職	男性
・広報など公なものでの呼びかけ。開催。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・年金受給者は利用できない。	55～64歳	明科	無職	男性
・1,000円以内のお手頃な価格の参加費。	75歳以上	穂高	無職	男性

問14 選択した妨げや取り組めない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
7「移動手段がない」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・バスや車などの移動手段を各地域で増やし、誰でも使えるようにする。循環線等。	24歳以下	三郷	学生	女性
・駅から遠い場所での開催は交通手段が少なくなってしまう。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・車に乗れません。自転車で行かれるところであれば興味ある学習ならば参加したいです。	65～74歳	豊科	無職	女性
・参加したいテーマがあっても移動手段がなく、同一テーマを2～3箇所で実施していただきたい。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・各地区ごとに気楽に集える場所が欲しい。例えば、いこいの里にあるような建物が一つあれば。	75歳以上	豊科	無職	女性
・予約の必要が不要な、市内を走る、停留所の数多くあるバスが走るとよい。学習のついでに買い物もできるということも、改善策の一つと考えたい。停車する時間の明示も必要である。	75歳以上	穂高	専業主婦・主夫	女性
・近くに住んでいれば参加できるが、遠いとできない。	75歳以上	穂高	無職	男性
・冬期の移動方法(送り・迎え)	75歳以上	穂高	無職	男性



問14 選択した妨げや取り組めない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
 8「体調の問題」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・持病のため出られない。	65～74歳	三郷	無職	女性
・歳と足の手術の後、半年たったばかりで、無理かなと思う。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・個人の問題。健康になれば何でもやれるのに。	75歳以上	穂高	無職	男性
・生涯学習の参加できる体力に自信がない。	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性

問14 選択した妨げや取り組めない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
 9「仲間がない」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・市老連ならぬ市若連(しじゃくれん)があるといいかも(改善策)。	25~34歳	豊科	公務員	女性
・転居してきたので同世代の友人をつくるきっかけがなかなかできない。	45~54歳	穂高	その他	女性
・友達と小さな取り組みをしてみたいと思ったときに場所がない。場所の提供があれば。	45~54歳	三郷	農林水産	女性
・誰かいるかわかると入りやすい。	45~54歳	明科	会社員	男性
・富山自遊塾とか上田市の自由塾のようなものを企画し、立ち上げるべき。地区の公民館活動では尻つぼみ。	65~74歳	豊科	農林水産	男性
・求めればいい。	75歳以上	三郷	無職	男性

問14 選択した妨げや取り組めない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
 10「指導者がいない」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・指導者の育成に力を入れてほしい。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・市内だけではなく、広い範囲で探して参加するようにする。	25～34歳	豊科	公務員	女性
・芸術仲間があると嬉しい(要望)。	25～34歳	豊科	公務員	女性
・知見者が欲しい。	55～64歳	穂高	会社員	女性
・参加し質問しても、専門的知識が乏しく期待したほどでもない。	65～74歳	豊科	農林水産	男性

問14 選択した妨げや取り組みない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
 11「きっかけがない」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・初心者のみのスポーツクラブがあるといい。	24歳以下	三郷	学生	女性
・周りに参加している同年代の人がいない。若い人も参加しやすいように若年者向けの企画を考えてほしい。	25～34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・20歳になった人を対象にDMを送ったりしてみてもどうか。何かを始めるには成人時や就職1年目がよい。もしくは60歳とか。	25～34歳	三郷	会社員	女性
・家族みんなで参加できる仕組みをつくってほしいです。例えば我が家は5人家族なので「ペア」ではなく「家族」で参加できるように、ウォーキングも幼児から大人まで歩ける設定を。何にしてももう少し柔軟な対応をしていただきたいです。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・誰かに誘われれば。	35～44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・「広報あつみの」のレイアウトを改訂。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・これは自分で努力するしかない。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・広報誌で情報提供し募集する。	35～44歳	穂高	公務員	男性
・同じ年齢層の人達が集まれるような環境。	35～44歳	穂高	農林水産	男性
・気軽にサークル的な活動で、楽しく取り組めたら。	35～44歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・友達と小さな取り組みをしてみたいと思ったときに場所がない。場所の提供があれば。	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・活動している人からの紹介の機会づくり。	55～64歳	穂高	無職	女性
・セミナー等の開催。	55～64歳	明科	会社員	男性
・閉鎖的風土の改善、情報不足。行政による積極的参画とPR(HPで理念を)。	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・説明会、研修会、見学会。	65～74歳	穂高	公務員	女性
・生涯学習の情報誌があれば。	65～74歳	明科	パート・アルバイト	男性



問14 選択した妨げや取り組めない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
 13「生涯学習に興味はあるが魅力的な活動がない」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・市内だけではなく、広い範囲で探して参加するようにする。	25～34歳	豊科	公務員	女性
・同世代の方の活動が少ない気がするので、同じ年齢の方がいると参加しやすいと感じます。	25～34歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・毎年同じ生涯学習ばかりでなく、他市、他県を参考にいろいろなものを企画してほしい。	35～44歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・市で行っているものは平日の昼間が多く、働いているものにはいかれないものが多いような気がする。高齢者や子育て中の若いお母さん対象のものは充実しているが、40～50代世代には魅力がないと思う。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・閉鎖的風土の改善、情報不足。行政による積極的参画とPR(HPで理念を)。	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・義務教育の延長のようで、まるでつまらなそう。	65～74歳	豊科	その他	男性
・今まで身に付けた大工の技術を人に伝えたいが、場所や設備がない。	65～74歳	堀金	無職	男性
・出てみても講師、その他の人選の仕方に興味がわかず残念に思う。	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性

問14 選択した妨げや取り組みない理由について、「こうすれば生涯学習に取り組める」といった要望や改善策  
14「その他」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・一人で参加も嫌だし、同じ年の友は大学か仕事かで会う機会がないし、まだ生涯学習について興味がないですが、勉強する場合は必要だと思います。	24歳以下	豊科	パート・アルバイト	男性
・生涯学習に取り組む際、その会場に託児があるとありがたい。	35～44歳	穂高	自営業主	女性
・このままではと思うきっかけ。情報が入ってこない。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・早い時間がよい。	45～54歳	穂高	会社員	女性
・内容が広すぎてよくわからない。	55～64歳	穂高	自営業主	男性
・事業のアピール及び情報をたくさん発信してほしい。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・各地区の公民館で行う。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・近くに施設(公民館や図書館、公園、運動施設)があれば、少しの時間でも参加できるかなと思う。もう少し経てば孫も手がかかからなくなるので、参加できればと楽しみにしています。	65～74歳	豊科	無職	女性
・自分で積極的に探し行動すること。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・私が生涯学習に意欲を持とうとしても、機会や情報、施設、仲間などのつながりを持つことができなかったのも、こうした場を提供してもらいたい。	65～74歳	穂高	農林水産	男性
・童謡・唱歌の会は数多くありますが、目指す方向が違っているような気がする。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・年寄は行きたいけれど夜で車がないので出席したいと思っても行かれない。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・知人や仲間からの支援と情報の提供。	65～74歳	穂高	無職	男性
・手続き、内容等がわからない。	65～74歳	穂高	無職	男性
・情報を伝達。	65～74歳	穂高	その他	男性
・もう少し積極的に動いてみる。	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・年がしているので、歩くのは好きですが、つい億劫になってしまうので。	75歳以上	豊科	無職	女性
・市や幹部が単に「民主主義とは」「実現するために努力しているか」を考え行動する。言葉や形式だけでなく、真の民主主義はどのようなものなのか、それを実現するための地味な努力こそが必要。	75歳以上	穂高	無職	男性
・妻の看護もあり、私も体力が落ちてきている。	75歳以上	穂高	無職	男性
・趣味を持っている人が少ない。健康特にストレス防止に必要なことを取り上げてもらいたい。	75歳以上	穂高	無職	男性
・地区の公民館で。	75歳以上	穂高	その他	男性
・早い時間がよい。	75歳以上	穂高	無回答	女性

問15 生涯学習で学んだことを何に役立てたいか(「13 その他」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・運動不足の改善	24歳以下	三郷	学生	女性
・文化振興	35～44歳	豊科	会社員	男性
・隣近所のお付き合いがないので、仲間づくりとなれば	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・幼児教育のあり方について	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	男性
・県レベルの交流会(知識や技量向上の刺激が欲しい。福島県ではやってきた。)	75歳以上	穂高	無職	男性

問16 情報の効果的な方法について(「10 その他」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・市内での技術研修会、講習会	35～44歳	豊科	会社員	男性
・関連施設へ掲示	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・知人から	35～44歳	穂高	会社員	男性
・人から人ですかね	35～44歳	穂高	自営業主	男性
・防災無線	35～44歳	三郷	会社員	男性
・市民タイムズ、人づて	35～44歳	三郷	会社員	女性
・Eメール	35～44歳	堀金	会社員	男性
・人からの生の声かけ	45～54歳	豊科	会社員	男性
・ライン	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・市、地区で年間に行う生涯学習の情報を全て集めた保存可能な冊子	55～64歳	三郷	無職	女性
・新聞などで記事を目にするのは、終わってからの報告が多いような	65～74歳	豊科	無職	女性
・公共施設にチラシ等を置いてもらうとありがたい	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・公民館等での口頭の説明	65～74歳	穂高	無職	男性
・子供たちが常にいろいろ教えてくれる。本も買ってきてくれる	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・不要	75歳以上	穂高	無職	男性
・市職員との会話など	75歳以上	穂高	無職	男性



問17 情報提供の効果的な場所について(「5 身近な公共施設名」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 駅	24歳以下	豊科	学生	男性
・ 美術館	25～34歳	豊科	公務員	女性
・ 児童館	25～34歳	穂高	会社員	女性
・ 知人から	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 温泉施設	35～44歳	穂高	会社員	女性
・ 穂高保健センター、中央児童館	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 学校	35～44歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・ 児童館	35～44歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・ 穂高会館	45～54歳	穂高	会社員	男性
・ 駅	45～54歳	穂高	会社員	女性
・ 穂高カルチャーセンター有遊	45～54歳	穂高	自営業主	女性
・ 小学校からの配布	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・ 入浴施設、宿泊施設	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 保健センター他	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・ 社協福祉センター	65～74歳	穂高	無職	男性
・ 歩いて行ける場所(駅近くでもよい)にあってほしい	65～74歳	穂高	その他	女性
・ 地区公民館に掲示板を設置し、掲示するのも一考か	65～74歳	三郷	無職	男性
・ 市で年に一度行なわれる発表会、公民館など	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ 地区のコミュニティセンター分館	75歳以上	豊科	無職	男性
・ 生涯学習センター、芸術文化施設	75歳以上	豊科	無職	男性
・ 不要	75歳以上	穂高	無職	男性
・ 地域の方々	75歳以上	穂高	無職	男性
・ 地域公民館	75歳以上	明科	無職	女性

問17 情報提供の効果的な場所について(「7 その他」の回答)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 駅	24歳以下	豊科	学生	男性
・ 学校	24歳以下	穂高	学生	女性
・ SNSなど	25～34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ ネット	25～34歳	三郷	自営業主	女性
・ 新しい文化施設	35～44歳	豊科	会社員	男性
・ インターネット	35～44歳	豊科	会社員	男性
・ 学校、保育園など	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・ 駅のポスター	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 知人から	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 企業への配布	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 新聞、折り込みチラシ	35～44歳	穂高	自営業主	女性
・ 空き時間を利用できる公共施設	35～44歳	穂高	公務員	女性
・ 回覧板	35～44歳	穂高	その他	女性
・ 会社(松本市だけ)生活圏が松本市なので、松本市へ情報を提供してほしい	35～44歳	三郷	会社員	女性
・ 市民タイムス、市報(新聞よりも保存されて読まれている)	35～44歳	明科	会社員	男性
・ 職場でいただきたいです	45～54歳	三郷	公務員	男性
・ 小学校からの配布	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・ インターネットによる検索	55～64歳	豊科	会社員	男性
・ 職場	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・ 老人大学等と連携	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・ 市役所でもよいと思いますが、掲示場所や方法を検討してみたらどうでしょうか	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・ 市の広報	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ 市報	65～74歳	豊科	無職	女性
・ 回覧板(月に一度くらい)	65～74歳	豊科	無職	女性
・ 市の温泉施設	65～74歳	豊科	その他	男性
・ 在宅に必要な情報を自分で入手できる環境	65～74歳	穂高	自営業主	男性
・ 今のままでよい	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 施設	65～74歳	穂高	無職	女性
・ 回覧板	65～74歳	穂高	その他	男性
・ 老人ホーム	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・ 折込チラシやインターネット等自宅にて入手できること	65～74歳	堀金	会社員	男性
・ 子供たちから教えてもらえるから市等からの必要はない	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ 自ら取り組んでいる団体等からの案内、資料等々	75歳以上	豊科	無職	男性
・ できれば戸別に	75歳以上	豊科	その他	男性
・ テレビ、ラジオ体操	75歳以上	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 市報、回覧板等	75歳以上	穂高	無職	男性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 1「小学校入学までに、子どもが心や五感を育むための場所や機会がある。」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・公園の設備があまりよくない。公園が少ない。遊ぶようなものが大してないような気がする。	24歳以下	豊科	学生	女性
・子どもがいないので情報を知らない。	25～34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・子どもがいないためわからない。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・乳幼児が室内で過ごせる施設が児童館しかないのは不便です。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・幼稚園の担任、副担任制を廃止して担任1人制にすると聞きました。手厚く強化すべき教育の場が、逆に削られている気がする。	35～44歳	穂高	自営業主	女性
・松本から引っ越してきましたが、比べると子育てにあまり優しくないと感じています。農業など、以前からあるものに力を入れ、子どものことは後まわしにされている気がします。次世代を担う子どもたちのために、もう少し力を入れてほしいです。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・施設から遠い所に住む、足(交通)のない方でも利用しやすい工夫があるといいと思う(移動図書館など)。	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・外国人との交流が少ないから。	45～54歳	豊科	公務員	男性
・幼児、青少年に対する施策が乏しい。子育てに適しているとは思えない。公園など広場の質が低い。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・学校区が広く通学に時間がかかる。安心して自由に遊べる空間が遠い。	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・子育てが済んでからの住居のため、あまり関心がない(転居のため)。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・五感を育むような場所があるように思えない、場所がない。	65～74歳	穂高	無職	男性
・子どもや若い人がまわりにいないのでわからない。	75歳以上	無回答	専業主婦・主夫	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
2「青少年がのびのびと遊び、学べる場が充実している」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 青年の学べる場というものがあるか怪しい。	24歳以下	豊科	学生	男性
・ 公園の設備があまりよくない。公園が少ない。遊ぶようなものが大してないような気がする。	24歳以下	豊科	学生	女性
・ 子どもがいないので情報を知らない。	25～34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 子どもがいないためわからない。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 松本から引っ越してきましたが、比べると子育てにあまり優しくないと感じています。農業など、以前からあるものに力を入れ、子どものことは後まわしにされている気がします。次世代を担う子どもたちのために、もう少し力を入れてほしいです。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・ たくさん遊具があるのに市民向け(観光客向けではなく)のアスレチックなどのある体を動かせる公園が欲しい。	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・ 幼児、青少年に対する施策が乏しい。子育てに適しているとは思えない。公園など広場の質が低い。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・ 青少年がのびのびの場所ってどこですか。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・ 三郷地区では、中高の生徒が図書館で学習ができない。環境が悪い。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・ 駅前など青少年がくつろげる空間がなく、送迎の車で忙しい。公共交通が乏しいので、自家用自動車に頼る生活がしみついてしまっている。	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・ 乳幼児、小学低学年には児童館で遊ぶがあるが、もう少し大きい子どもまで自由に遊べる安全な場所が欲しい。	55～64歳	豊科	自営業主	女性
・ 該当者が身近にいないのでわからない。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ 子どもや若い人がまわりにいないのでわからない。	75歳以上	無回答	専業主婦・主夫	女性



問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 3「仕事に役立つ知識や技術を身に付ける学習の機会が充実している」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・機会に行ったことがない。	24歳以下	豊科	学生	男性
・情報がないため、知らなかったから。	24歳以下	豊科	学生	女性
・市で利用したこともないし、情報を見たことがない。大体何かあっても平日の昼に行なわれているのではいけないはずがない。老人や主婦向きでは意味がない。むしろ平日昼に行なっていることがあつたら、本当はあまり人数来て欲ほしくないのでは、と思ってしまう。	35～44歳	三郷	会社員	女性
・松本から引っ越してきましたが、比べると子育てにあまり優しくないと感じています。農業など、以前からあるものに力を入れ、子どものことは後まわしにされている気がします。次世代を担う子どもたちのために、もう少し力を入れてほしいです。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・具体的な実施がないと感じる。週末や19時以降(平日)希望。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・私が気づかないだけ。学習・指導を希望している人は多いと思う。	55～64歳	豊科	自営業主	女性
・学習会実施の情報が入らない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・技術者の実演など、実施、場所を多く提供してほしい。	55～64歳	穂高	無職	男性
・ハローワークやシルバー人材センター等の活動の場を広げてほしい。	65～74歳	穂高	農林水産	男性
・子どもや若い人がまわりにいないのでわからない。	75歳以上	無回答	専業主婦・主夫	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 4「子育てに関する講座が充実している」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 実際いろいろ講座があるが、活かしている親が少ない。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・ 子どもがいないので情報を知らない。	25～34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 子どもがいないためわからない。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 松本から引っ越してきましたが、比べると子育てにあまり優しくないと感じています。農業など、以前からあるものに力を入れ、子どものことは後まわしにされている気がします。次世代を担う子どもたちのために、もう少し力を入れてほしいです。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・ 該当者が身近にいないのでわからない。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ 子どもや若い人がまわりにいないのでわからない。	75歳以上	無回答	専業主婦・主夫	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 5 「退職後の生きがいづくりのための機会が充実している」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 充実しているとしても、認知症高齢者は増え続けている。生きがいを感じている人が少ないのでは。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・ 情報を入手する手段がわからない人(高齢者)が多いと思うので、参加できないと思う。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・ 65歳定年までの働き方がハードすぎるため、65歳からの人生への希望が持てない。社会もそれに危機を感じていない。学校の役員なども仕事が忙しく受けられないなど、働く人が社会に根付くチャンスをうまく活かせていない。もっとゆとりのある社会にしないと、老後(65歳～)が健康に過ごせない(寿命が延びても健康寿命は低くなる)。	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・ 個人でゴルフをしたり、プールへ行ったり。	55～64歳	穂高	無職	女性
・ 退職後は会社の方達とは別の仲間をつくることに対し、人見知りもあり生きがいのところまで心が届かない。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 退職者を対象に市が積極的に関わり、情報を提供し、活動の場を情報としていく。	65～74歳	穂高	無職	男性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 6「高齢者が健康を維持するための学習の機会が充実している」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 情報を入手する手段がわからない人(高齢者)が多いと思うので、参加できないと思う。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・ 企画があるのかわからない。	55～64歳	穂高	無職	女性
・ 高齢者でも健康な方はよいのですが体調の悪い方たちも気軽に参加したい。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性



問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 7「環境問題について学習する機会が充実している」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・情報がないため、知らなかったから。	24歳以下	豊科	学生	女性
・学習会実施の情報が入らない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・企画があるのかないかわからない。	55～64歳	穂高	無職	女性
・川に下水(洗剤)を流している人がいるから。	65～74歳	三郷	無職	男性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 8「健康に関する情報や学習の機会が提供されている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 情報を入手する手段がわからない人(高齢者)が多いと思うので、参加できないと思う。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・ 関連の情報を耳にする機会が少ない。	65～74歳	堀金	会社員	男性
・ 区主催の小規模なサロン、催しが多いから。	65～74歳	明科	無職	男性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 9「地域において支え合うための意識づくりが進んでいる」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 情報を入手する手段がわからない人(高齢者)が多いと思うので、参加できないと思う。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・ 地元の方等は、他の地域から来た者をよく思わない人が多く、支え合う意識が少ない。	45～54歳	三郷	自営業主	男性
・ 個人のプライバシーを尊重する時代である。意図的に「支え合うしくみづくり」を地区でしているように感じたことはない。	55～64歳	豊科	会社員	女性
・ 世代間の交流などがなく、支え合いの意識が生まれにくい。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 自分にも問題があると思うが、意識が共有できない、機会がない。	65～74歳	豊科	無職	女性
・ 仲間に対して気おくれしてしまい一歩進めない。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 関係の団体はあるが、形式的なものが多い。	65～74歳	堀金	会社員	男性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 10「誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境が整っている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・公民館使用の際(市民でも)お金を取ること。何のための税金なのか。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・スポーツ施設の予約がなかなか取れないと聞いたことがある。	25～34歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・健康教室に行きたいけれど、年配の方が大勢いるイメージがある。	25～34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・公園はあるが機具がない。	25～34歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・近所の体育館が空いていたとしても、その当日は借りることができないから。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・プール、テニス、サッカー等の施設が少ないと思います。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・スポーツする場所がないと思う。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・スポーツができる施設が少なく感じる。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・市で利用したこともないし、情報を見たことがない。大体何かあっても平日の昼に行なわれているのではいけるはずがない。老人や主婦向きでは意味がない。むしろ平日昼に行なっていることとしたら、本当はあまり人数に来て欲しくないのでは、と思ってしまう。	35～44歳	三郷	会社員	女性
・中学校の部活動のクラブ数をもっと増やしてほしい。増やすのは難しいのであれば男子の女子の部活の差をなくしてほしい。女子部はあっても男子部はないとか、男女部とかはダメなのですか。市はもっとバックアップして部活動が活発になるように考えてほしい。小中学生時代にスポーツに打ち込んでいた経験のある子どもは、その後の人生においてもスポーツに親しむようになり、いずれは安曇野市のスポーツ振興を担い、地域の活性化につながるのではないか。スポーツがしたくても社会体育ができない子もいます。もったいない。	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・市内にフットサル施設や交流機会の増大を望む。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・体育館等は充実していると思いますが、できれば安く利用できるトレーニングジムがほしい。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・誰もが楽しめるスポーツというのは絶対に不可能です。地区のスポーツ大会や運動会に無理やり出され、ケガをした人を何人も知っています。今年は運動会がなく、とてもよかったですと思います。やりたい人が集まり、楽しめばいいと思います。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・決まった人たちが楽しんでいるのでは。わからないけれど。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・何箇所かあることは知っている。増やせばお金がかかるし。	55～64歳	豊科	自営業主	女性
・場所の問題。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・もう少し情報が欲しい。	55～64歳	穂高	自営業主	男性
・地理的に施設の偏りがある。	55～64歳	穂高	公務員	男性
・陸上競技場の施設がないから。	55～64歳	穂高	公務員	男性
・高齢者の健康づくりのため、よくテレビなどで自治体がトレーニングマシンを設置した場所で、定期的に筋肉トレーニングをして効果をあげることが取り上げられるが、安曇野市でトレーニングマシンを設置した場所がないのではないかと。ある程度の台数があり、定期的に1～2か月に1回でもよいがトレーナーが指導する機会を設けてほしい。普段は自由に市民が使えるようにし、場合によっては1回100円くらいとってもよいのではないかと。とにかくトレーニングマシンの充実した場をつくってほしい。	55～64歳	穂高	無職	男性
・近くに公園がない。施設の利用方法がわからない。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・スポーツに取り組む体力がないので。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・スポーツをする機会がないので。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・若い人たちの場所があっても、年を重ねた人はゲートボールなどの場所はあるらしいけど、他のスポーツをしたいと思ってもあまりよい場所があるとは思えない。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・高齢者向けのスポーツ施設(無料)があるとよいのに…。マレットゴルフばかりじゃ面白くないと思います。	65～74歳	穂高	無職	女性
・「歩道(車を気にせずに)」「自転車の道」を整えてほしい。	65～74歳	穂高	その他	女性
・ゴルフが趣味だがお金がかかり過ぎる。	65～74歳	三郷	パート・アルバイト	男性
・水泳したいがプールがない。年間を通した屋内プールの設置を要望する。	65～74歳	三郷	その他	男性
・参加費に高額なものもあり、「気軽」とも言えない。	65～74歳	堀金	会社員	男性
・グランドゴルフができる場所がない(マレットゴルフ場はある)。	75歳以上	穂高	無職	男性



問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 11 「芸術文化について学ぶ機会がある」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・近代の美術作品に片寄っているので、一度で終わる。つまらなくなる。	25～34歳	豊科	公務員	女性
・芸術文化ホールがないので安曇野市民は大海を知りません。私は松本市内の劇場にて舞台を管理しています。長野県で6番目の人口を有する市なのに芸術ホールがないのはおかしいです。ノーベル医学生理学賞を受賞した大村教授は言いました。「自然と芸術は人間をまともなものにする」。この市には芸術がありません。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・新進演奏会のオーデション、年齢制限があることはおかしい。様々な年齢から発掘すべき。	35～44歳	穂高	自営業主	女性
・音楽文化ホールがない。	45～54歳	三郷	会社員	男性
・人材も場所も少ないと思う。	45～54歳	堀金	会社員	女性
・機会が少ない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・講師等のリーダーの選任が、あまりに安易。まず教職員上がりの方々を排除しましょう。長野県の教育レベルがちっとも上がっていないのだから、その責任のある方々を退職してからも使うのは道理に合わない。	65～74歳	豊科	その他	男性
・興味ある企画に出合わない。	65～74歳	穂高	無職	女性
・市立の美術館・博物館に行ったことがないから。	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・学ぶきっかけがない。	75歳以上	穂高	自営業主	女性
・接する機会がない。	75歳以上	三郷	自営業主	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 12「外国人住民と互いに認め合う地域づくりが行われている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・外国人住民が市内にどの程度いるのかわからない。	24歳以下	豊科	学生	男性
・外国人住民とのふれあいは皆無。	24歳以下	明科	学生	女性
・そのような機会について耳にしたことがないから。	25～34歳	豊科	会社員	女性
・そのような機会があるとは聞いたことがない。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・日頃、外国人住民と顔を合わせることがないから。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・互いに認め合えると思うのは甘いと思う。	35～44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・仕事に追われ、公共の施設を利用する時間がないため。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・英会話や外国文化と触れ合う活動が全くないと思います。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・外国人が少ない。これから英語が必須科目になる中、外国人と触れ合う機会が他県と比べて少なすぎると思う。国際的でない。遅れていると思う。	35～44歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・外国人住民と互いに認め合う地域づくりを感じたことがない。	45～54歳	三郷	会社員	女性
・外国人の方が三郷でどう困っているのか、誰がいるのかわかりません。申し訳ありません。本当はいろいろ手伝いたいと思っています。	45～54歳	三郷	公務員	男性
・外国人と関わることがないから。	45～54歳	堀金	専業主婦・主夫	女性
・外国人との交流の場がないから。	45～54歳	明科	公務員	男性
・市として対応しているかわからない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・生活のために日本語の学びの場が必要であるとともに、指導者の数も必要であると考えます。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・何を認め合うのか？	55～64歳	穂高	無職	男性
・外国人住民の方が身近にいないので。	55～64歳	明科	その他	女性
・関心が薄いので。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・該当者が身近にいないのでわからない。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・そう思えるような事業、活動を見たり、聞いたことがない。	65～74歳	穂高	無職	男性
・田舎のため、あまり会う機会がない。	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・外国人と知り合う機会が少ない。	65～74歳	三郷	無職	男性
・どこの家に住んでいるのかわからない。住んでいてもあまり顔を出さない。	65～74歳	堀金	無職	男性
・外国の人との接触がないのでわからない。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・接したことがない。	75歳以上	三郷	無職	男性
・相談窓口不明なため。	45～54歳	明科	公務員	男性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 13「安心・安全な地域づくりのための学習の機会がある」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・親(大人)たち世代は、地区の社協などの活動があるが、自分たち大学生は中学卒業後は地域に学ぶ機会はない。	24歳以下	明科	学生	女性
・そのような機会について耳にしたことがないから。	25～34歳	豊科	会社員	女性
・安心、安全を学習しなければならない状況ではない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・ここで生活する人にとって防災意識のあり方、安全対策は必要。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・交通安全の講習会くらいしか耳にしない。	65～74歳	堀金	会社員	男性
・地震の糸魚川-静岡構造線断層や松本盆地東縁断層がどこを通っているのか、市のハザードマップではわからない。ハザードマップに詳しく書き、全戸に知らせるべき。	75歳以上	穂高	無職	男性
・接する機会がない。	75歳以上	三郷	自営業主	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 14「人権について正しく理解するための学習の機会がある」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・知りたいと思うけれど、情報を見落としていたかもしれないから。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・まだまだ閉鎖的地域である。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・最近職場で虐待の研修があったが、非常に広い(子ども～高齢者まで)話だった。人権についても個々の尊重について幅広く捉える必要のある「人権」であり、学習も多岐にわたるので、現在学習の機会があるように思わない。	55～64歳	豊科	会社員	女性
・人権、情報化対応の学習などは、市など公から学ぶべきものではない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・学習会実施の情報が入らない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・人権についての学習をするということは知らないので、よいことまで知るといふことだから学習は不要。差別がなくなるのは同和教育が問題では。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・人権の意味を詳しく。何を人権とするかわからない。	55～64歳	穂高	自営業主	男性
・どちらも機会が少なすぎる。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・小学校でいじめがあるから。	65～74歳	三郷	無職	男性
・接する機会がない。	75歳以上	三郷	自営業主	女性



問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1. そう思わない」回答された理由  
 15 「情報化に対応するための学習の機会が充実している」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・どこにそういうところを学べる場所があるのかわからない。	24歳以下	豊科	学生	男性
・パソコン教室などの案内は広報で見ると、ウイルスなどその先の危険性の学習が広く行なわれているかは不明。	25～34歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・学習の機会があるのかわからない。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・その気があれば情報は自分で手に入れるものだと思う。	35～44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・仕事に追われ、公共の施設を利用する時間がないため。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・人権、情報化対応の学習などは、市など公から学ぶべきものではない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・情報が少ない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・どちらも機会が少なすぎる。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・パソコン教室くらいか。	75歳以上	三郷	無職	男性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 16「市民の要望に応じた事業や講座を市職員が積極的に企画・運営している」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・まず市民の要望を開きだしているのかもわからないから。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・その気があれば情報は自分で手に入れるものだと思う。市職員の手を借りるまでもないでしょう。	35～44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・市の事業、講座をあまり聞いたことがない。	35～44歳	穂高	会社員	女性
・市職員の方々はいろいろ考えてくださっていると思いますが、人それぞれ好みがあるので難しいと思う。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・講座などは年齢等が限られていることが多いと思う。退職者向けが多いような。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・主な事業が豊科に移ったので、三郷地区では何をしているのか分からないから。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・継続の企画が多く、新しい事業や講座が少ない。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・積極的に企画運営しているかと聞かれても疑問である。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・聞いたことがない。	55～64歳	穂高	無職	男性
・市民のためという姿勢がみえない。	55～64歳	三郷	会社員	男性
・市の職員が何をしているのかわからない。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・市役所職員ができる限り多く、市民との接点を模索すべきと考えます。また、ぜひそうあっていただきたいと思います。	55～64歳	明科	会社員	男性
・箱物は作るようとしているが、中身の職員が追い付いていない。	65～74歳	豊科	無職	女性
・市職員の行動は受身にしかみえない。	65～74歳	穂高	会社員	男性
・一般市民まで情報が伝わらない。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・区や分館の役員になった時が大変である。市町村から市制になったのだからレベルアップが必要ではないか。(市職員に対して)	65～74歳	穂高	無職	男性
・事業や講座の企画があったかどうかの情報がない。	65～74歳	穂高	無職	男性
・市職員は出前講座など頑張っていると思う。	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・要望を提出しても回答がない。	65～74歳	堀金	会社員	男性
・参加したことがないので様子がわからない。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・地域の役員さんの選考方法に問題があるのか末端までの浸透が不十分に思う。	75歳以上	豊科	その他	男性
・市民の要望がどれだけ反映されて講座が開かれているか不明。	75歳以上	穂高	無職	男性
・接したことがない。	75歳以上	三郷	無職	男性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 17「公民館は地域の学習・交流の場としての役割を果たしている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・地域の交流場所であるが学習の場になっているか疑問。	24歳以下	豊科	学生	男性
・公民館を勉強できる場として、誰でも入って使えるようになればいいと感じます。	24歳以下	三郷	学生	女性
・公民館に入ったことがない。	25～34歳	豊科	自営業主	女性
・分館行事の後でしか使ったことがないから。もっと開放してほしい。	25～34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・積極的に参加したい人が少ない。	35～44歳	豊科	公務員	男性
・大きな公民館は活用されているが、小さな規模の公民館は活用されていない。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・公民館は何に使っているかあまりわかりません。	35～44歳	三郷	会社員	男性
・役員が特に大変そう。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・公民館や区といった組織の意味がよくわからない。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・何かやっているようだが、知らないので参加しようがない。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・先の短い老人向けばかりだから。	45～54歳	明科	会社員	男性
・自分が参加しているものもあるが、市報での内容しかわからないため。	45～54歳	明科	会社員	男性
・公民館活動をしている人達で成り立っているような気がする。	55～64歳	堀金	公務員	男性
・公民館活動は役員のための活動に見える。	65～74歳	穂高	会社員	男性
・公民館での行事に参加したことがないので。	65～74歳	穂高	無職	女性
・形式的で真剣さに欠ける。	65～74歳	堀金	会社員	男性
・地域の役員さんの選考方法に問題があるのか末端までの浸透が不十分に思う。	75歳以上	豊科	その他	男性
・公民館行事が多すぎる。	75歳以上	三郷	無職	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 18「交流学習センターは市民活動の場として活用されている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ひまわりはせっかくの建物なのに利用がされていない。公民館との違いが分からない。	24歳以下	明科	学生	女性
・仕事に追われ、公共の施設を利用する時間がないため。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・交流学習センターがどこにあるかわからない。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・立派な建物を目にしますが、入りづらい。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・交流学習センターの場所がわからない。行ったことがない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・行ったことがないから。	65～74歳	豊科	会社員	男性
・交流学習センターの場所、目的、内容等を知りません。	65～74歳	豊科	無職	女性
・交流学習センターに行ったことがない。	65～74歳	穂高	無職	男性
・行ったことがない。	65～74歳	三郷	自営業主	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 19「図書館では市民の要望にあった情報サービスが提供されている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・プリンターをつけてほしい。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・インターネット等で自ら考え、選んで情報を得られると思うから。	35～44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・子ども達が個々で移動するのに遠い。有明地区にも同等の施設を希望。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・すべて(交流センター、図書館、美術館、博物館)行ったことがないから。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・図書館(中央図書館)には、本を仮に利用しますが、イベントのチラシが置いてある程度で、コンシェルジュ的(案内や相談)サービスがあるわけではないので。	45～54歳	穂高	その他	女性
・大人と子どものセクションが近い。子連れは気が引ける。学生は集中できない。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・それなりに尽力しているから。	65～74歳	穂高	無職	男性
・最近図書館に行ったことがない。	65～74歳	穂高	無回答	男性
・図書館等利用したことがない。	65～74歳	三郷	パート・アルバイト	男性
・図書館を利用したいが書物が古く、借りたい本がない。松本市の図書館を利用している。	65～74歳	三郷	その他	男性
・趣味の情報入手のため活用したことがあるが、用が足りなかった。	65～74歳	堀金	会社員	男性



問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 20「市立の美術館・博物館※1では施設の特色を生かした展示や学びの場が提供されている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・行ったことがない。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・客層が観光客ばかりで、地域の人が出向いているように感じない。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・美術館・博物館は市民より観光客のほうが知っている。どこに何があるのか、代表的な施設以外知らない。安曇野市へ移ってから16年だが分からないことが多いし、案内等も不親切。観光も企業任せ。	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・美術館で、今なんの展示がされてるのかわからない。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・すべて(交流センター、図書館、美術館、博物館)行ったことがないから。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・行ってみたい、見てみたいという展示が少ない。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・そのような場所が少なく、行ったこともない。	45～54歳	三郷	自営業主	男性
・公演等の情報が入らない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・展示会等の情報提供がない。	55～64歳	穂高	自営業主	男性
・もっと興味のある展示がよい(子、孫の託児)	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・郷土博物館、近代美術館について、もっと積極的な展示など考えてほしい。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・市立の美術館・博物館に行ったことがないから。今まで質問に答えられる機会を得られなかったため、気持ちでの回答になっている。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・市立の美術館・博物館に行ったことがないから。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・市立の美術館・博物館に行ったことがないから。	65～74歳	穂高	無職	女性
・一度も美術館・博物館に行ったことがない。	65～74歳	穂高	その他	男性
・市立の美術館・博物館に行ったことがないから。	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・市立の美術館・博物館に行ったことがないから。	65～74歳	堀金	農林水産	男性
・市立の美術館・博物館に行ったことがない。	75歳以上	豊科	無職	男性
・市立の美術館・博物館に行ったことがないから(歩行困難のため)	75歳以上	豊科	その他	男性
・市立の美術館・博物館に行ったことがないから。	75歳以上	穂高	自営業主	女性
・市立の美術館・博物館に行ったことがないから。	75歳以上	三郷	農林水産	女性
・市立の美術館・博物館に行ったことがない。	75歳以上	三郷	無職	男性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
21「音楽や演劇などの公演を市内で鑑賞することができる」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・松本市の音楽ホールや芸術館が充実して足を運んでいる。	24歳以下	明科	学生	女性
・市内に大きなコンサートホール等がなく、鑑賞するには市外に行くことが多い。	25～34歳	穂高	会社員	女性
・新進気鋭、音楽コンクールのようなのはやっているのは知っているが、あとは特に演劇などは知らない。	25～34歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・芸術文化ホールがないので安曇野市民は大海を知りません。私は松本市内の劇場にて舞台を管理しています。長野県で6番目の人口を有する市なのに芸術ホールがないのはおかしいです。ノーベル医学生理学賞を受賞した大村教授は言いました。「自然と芸術は人間をまともなものにする」。この市には芸術がありません。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・子連れで楽しめるような音楽や演劇の公演がない。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・市内で有名な人の音楽や演劇を鑑賞したことがない。	35～44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・興味ある音楽公演が今までなかった。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・基準を満たす施設が整備されていないから。	35～44歳	穂高	公務員	女性
・もっと盛んにやってほしい。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・松本のほうにしか行かない。	35～44歳	堀金	会社員	男性
・そもそも音楽や演劇などの公演を鑑賞する施設があるのか？	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・お笑いライブの開催があれば若者も街に集まる。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・公演に行ったことがないため。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・市としてもっと取り組むべき、わさび祭りの音楽と踊りがダサイ。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・音楽、演劇のための収容人数の多い施設がない。	45～54歳	穂高	公務員	女性
・音楽文化ホールがない。	45～54歳	三郷	会社員	男性
・松本市に職場があるため、そちらへ行くことが多いから。	45～54歳	三郷	会社員	男性
・そのような場所が少なく、行ったこともない。	45～54歳	三郷	自営業主	男性
・市の施設で鑑賞したことがない。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・豊科のホールくらいの大きさでよいが、あまり活用されていない。	45～54歳	堀金	会社員	女性
・そもそも演劇を公演できる施設も少ないと思う。	45～54歳	堀金	会社員	女性
・音楽・演劇を近いところで楽しめたらもっと嬉しい。	55～64歳	豊科	自営業主	女性
・コンサートや演劇を行うにふさわしい会館がない。	55～64歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・講演会の機会が少ないため、多くの聴講者が集中してチケットが入手できない(講演会も同様)	55～64歳	穂高	自営業主	男性
・1,000人収容可能なホールが欲しい。	55～64歳	穂高	公務員	男性
・もっと興味のある展示がよい(子、孫の託児)	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・公演に対応できると思われる施設がない。現存のものはあまりにも貧弱。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・まともな市民芸術館、塩尻市レザンホールへの企画を探すだけ。	55～64歳	穂高	無職	女性
・施設がない。	55～64歳	三郷	会社員	男性
・音楽や演劇などの公演は市外で鑑賞することが多い。	55～64歳	堀金	農林水産	男性
・安曇野市として一つ大きな劇場を希望します。豊科ホールは新しくなりましたが、規模が小さく、客席も狭く、出入もスムーズにはできません。トイレも少なく、大きなイベントを行なうには問題があります。近隣の市あるいは町でさえ大きなホールがあり、様々な文化活動、イベント等行なわれています。安曇野市民として皆で一緒に活動できる、また楽しめる芸術文化の発信の拠点となる質の高い劇場を希望します。	55～64歳	明科	無回答	女性
・音楽など鑑賞する情報が広報のみで少ない。	65～74歳	豊科	自営業主	男性
・上質な文化・芸術等の企画、実行がない。	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・市内に施設がないので、松本広域圏で企画すべき。	65～74歳	豊科	無職	男性
・一般市民まで情報が伝わらない。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・施設の規模が中途半端。市で一つ大きな施設があればと思う。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・あづみのコンサートホール(個人)文化活動を頑張ってる施設には何らかの応援はできないものかと切に願います。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・芸術文化ホールがない。子ども達の情操教育も大事。	65～74歳	堀金	専業主婦・主夫	女性
・よい施設がない。以前穂高の体育館で五木ひろしのコンサートで、本人が電車の音がする所って珍しいとばかにした。	65～74歳	堀金	無職	男性
・中央から一流アーティスト(芸術・文化)を招き鑑賞できる機会がもっと欲しい。そのために施設の充実、PRを積極的にしてほしい。	75歳以上	豊科	無職	男性
・講演されていることがあるのか知らない。	75歳以上	穂高	無職	男性
・魅力を感じないのかも。	75歳以上	三郷	無職	男性
・もう少し音楽や芸術を楽しむところがあると良。	75歳以上	三郷	無職	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
22 「様々なスポーツを市内のスポーツ施設で行うことができる」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・もっと増やしてほしい。	25～34歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・スポーツは素晴らしい。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・スポーツ施設はあるけど、「様々」ではないと思う。	35～44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・仕事に追われ、そのような機会が一切ないため。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・体育館や運動場はもういらぬ。	35～44歳	穂高	会社員	女性
・図書館や施設が地域によってばらつきがあり、あまりの差に昔の村や町の力の差？と思わざるを得ないと感じます。市も広いので均等に施設を配分したり、配慮をしていただけたらと思います。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・サッカー場は限られていると感じます。	35～44歳	明科	会社員	男性
・個人でも自由に使える日があるといいと思う。	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・あればもっと積極的に公表した方がよい。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・今後、箱(総合体育館)をつくるなら、センスのよい利用するに値するものを希望。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・豊科南地区(中学校付近)の体育館建設を至急お願いします。	45～54歳	三郷	公務員	男性
・以前住んでいた地域ではコミュニティセンターがあり、体育施設、図書、プールが併設。体育施設では市民が時間制で料金を払い、バドミントン、卓球、バスケットなど気軽に楽しめた。特にファミリーで楽しめた。ここではスポ少のように属さないとスポーツが楽しみににくく不便。大きな体育館があっても特定チームのためだけに利用されるのなら、市民としてお金がかかるばかりでおもしろくない。	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・野球室内練習場がない。狭い。	45～54歳	三郷	その他	女性
・時間が合わない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・プールがあるが狭い。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・スケート、スキー他の教室がない。	55～64歳	穂高	無職	女性
・施設の充実、移動手段、情報拡充、その他お金がかかる事案ばかりですが、一つずつ、少しずつでもよくなったらと思います。	55～64歳	三郷	無職	女性
・関心がないので現状がよくわかりません。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・情報が入ってこない。自分で調べないとわからないところが面倒。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・地域外の施設利用	65～74歳	明科	無職	男性
・一流のスポーツ競技を気軽に見たい。そのための施設充実を図りたいものだ。	75歳以上	豊科	無職	男性
・体育館など借りたい時に借りられない。予約方法や、気軽に使用できない。	75歳以上	穂高	無職	男性
・陸上のセンターが欲しい(何人かの方に話した)市はあまり関心がない。	75歳以上	穂高	無職	男性
・大きな施設(観客席)がない。	75歳以上	三郷	無職	女性
・決まっているグループが使用していることが多く、個人的に使えないことが多い。	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 23 「市立の各生涯学習施設は、市職員が適切に管理・運営している」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 着服の問題があったから。	25～34歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・ 仕事に追われ、そのような機会が一切ないため。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 市の管理しているグラウンドに背の高い草がボーボーになっていたり、 備え付けのトイレが全く清掃されていないので改善してほしい。	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・ せっかくの施設を有効利用していない。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・ 関心がないので現状がよくわかりません。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ 講師等のリーダーの選任が、あまりに安易。市職員自体が不勉強だから、 安易な人選になるのでしょう。	65～74歳	豊科	その他	男性
・ 行ったことがない。	65～74歳	三郷	自営業主	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 24 「様々な情報媒体から学習情報を収集することができる」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 全般的に情報を得る環境が整っていないと思うから。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・ 仕事に追われ、そのような機会が一切ないため。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 情報さえ見た事がない。	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・ 個人個人の考え方ややりたいことは違うので対応しきれないと思う。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・ 「広報あつみの」くらいかと思う。	45～54歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ 市は情報媒体としてホームページやインターネットを活用しているかわからない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・ 情報媒体にそんなにたくさん関わる事ができないので、現状はわからない。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ ネット情報を使わない人が悪いのかな。	65～74歳	穂高	会社員	男性
・ それなりにやっている。	65～74歳	穂高	無職	男性



問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 25「学習したいと思ったときに、気軽に相談できる窓口がある」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・市職員が相談に乗っているところを見たことがないから。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・設問をみて相談窓口があるとうれしいと思った。	24歳以下	明科	学生	女性
・そのような窓口を知らない。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・各分野の相談窓口の一覧表知らない。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・相談の窓口があるのか。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・個人個人の考え方ややりたいことは違うので対応しきれないと思う。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・窓口がどこにあるか知らないから。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・学習したいと思ったとき、いくつかの施設(公民館や体育館等)をまわらないと情報(サークルや講習会等)が見つからない時がある。難しいかもしれないが、いろいろな公民館や体育館施設で行っているサークルや講演会を一括して見れるシステムがあるとありがたい。	45～54歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・窓口が不明。専門知識を持った職員がいない。	55～64歳	穂高	自営業主	男性
・どのようなところへ行ってよいのかわからない。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・情報媒体にそんなにたくさん関わるできないので、現状はわからない。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・関心がないので現状がよくわかりません。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・相談したことがなかったなので、これからは相談してみる。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・どこに行ったら情報が得られるのか分からない。	65～74歳	穂高	無職	男性
・どこに行けばいいかわからない。	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・窓口があるかどうか知らない。	75歳以上	三郷	自営業主	女性
・質問してもなかなか納得する説明が聞かれない。	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 26 「誰もが学習に参加しやすい環境が整っている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・誰もがという部分が怪しい。	24歳以下	豊科	学生	男性
・誰もがというと新規に興味がある人が参加しやすいか疑問。大体同じ人が参加しているし、その学習に興味がある人なのではないかと思えます。	25～34歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・あちこちでやらなければ、足のない人もいると思うから。	25～34歳	三郷	無職	女性
・平日の昼間では会社員は参加しづらいです。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・図書館や施設が地域によってばらつきがあり、あまりの差に昔の村や町の力の差？と思わざるを得ないと感じます。市も広いので均等に施設を配分したり、配慮をしていただけたらと思います。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・現役世代を集う行事(具体的に年齢設定)の開催	45～54歳	豊科	会社員	男性
・市で行っているものは平日の昼間が多く、働いているものにはいかれないものが多いような気がする。高齢者や子育て中の若いお母さん対象のものは充実しているが、40～50代世代には魅力がないと思う。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・学習したいと思ったとき、いくつかの施設(公民館や体育館等)をまわらないと情報(サークルや講習会等)が見つからない時がある。難しいかもしれないが、いろいろな公民館や体育館施設で行っているサークルや講演会を一括して見れるシステムがあるとありがたい。	45～54歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・子、孫の託児があると参加しやすい	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・情報媒体にそんなにたくさん関わることができないので、現状はわからない。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・施設の充実、移動手段、情報拡充、その他お金がかかる事案ばかりですが、一つずつ、少しずつでもよくなったらと思います。	55～64歳	三郷	無職	女性
・学習しようと思う気持ちを持たせる工夫を。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・学習機会は平日に多く生まれ、無職者を対象にしている感がある。	65～74歳	堀金	会社員	男性
・窓口があるかどうか知らない。	75歳以上	三郷	自営業主	女性
・質問してもなかなか納得する説明が聞かれない。	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 27 「学習した成果を発表する機会がある」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・発表会のような機会を知らない。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・新進演奏会のオーディション、年齢制限があることはおかしい。様々な年齢から発掘すべき。	35～44歳	穂高	自営業主	女性
・発表する場が思いつかない。	45～54歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・芸能祭くらいしか思いあたらない。文協に属していないと機会がないこともあるのか。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・情報がない。	75歳以上	三郷	自営業主	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 28 「ボランティア活動に積極的に取り組める環境が整っている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ボランティアの募集が少ない。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・子どもも参加できるボランティアの紹介をしてほしい。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・どのようなボランティア活動があるのかわからない(参加してみたい)	45～54歳	三郷	会社員	女性
・ボランティア組織があまりない。松本に学ぶべきでは。	45～54歳	堀金	会社員	女性
・ボランティアへの参加をしているので、状況がわかっているため。	45～54歳	明科	会社員	男性
・ボランティア活動のコーディネーターが必要	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・中越地震のとき市へ問い合わせたが、動きがなく、参加の方法が知らせてもらえなかった。個人で食料、消火器、シャベル、ツルハシ、ロープ等を持って3日間参加した。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	男性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 29「市民と行政の協働のまちづくりが進んでいる」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・公聴機会の場がわかりづらい。	24歳以下	豊科	学生	男性
・行政が具体的にどんなまちづくりを行っているのか全くわからないから。	24歳以下	穂高	学生	女性
・“区”というものがよくわからない。行政ではないのに行政のような形でその運営に住民の費用がかかっている。二重に市民税が取られているような感じがする。本来なら市がしっかりとすべきではないか？	45～54歳	穂高	会社員	男性
・市民は市民、行政は行政みたいなどころがある。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・学校と地域の融合が遅々として進んでいません。	45～54歳	三郷	公務員	男性
・行政側がもっと市に愛情をもって細かな気遣いがないと市民はついて行けない。通勤途中でも町中の様子(道路の状況、建物の状況等危険な部分、どうしたら町がきれいになるか等)をみて感じとるくらいになってほしい。	65～74歳	豊科	無職	女性
・形式的に行なっているように見える。	65～74歳	穂高	会社員	男性
・行政の活動が見えない。	65～74歳	穂高	無職	男性
・区脱退者も増加傾向にあり、協力とは言いがたい。区役員等各役員が順番のためか真剣さに欠ける。	65～74歳	堀金	会社員	男性
・情報が無い。	75歳以上	三郷	自営業主	女性



問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 30「市民同士の交流が盛んに行われている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・交流まで行く学習の場があるかわからない。	24歳以下	豊科	学生	男性
・隣組でさえ、あまり付き合いがない。	25～34歳	豊科	自営業主	女性
・公共施設の利用がしづらい？敷居が高いように感じる馴染み深くない。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・若年層はともかく40歳代以上は期待していると思う。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・特別盛んとは思わない。	45～54歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・市民同士の交流の土台は隣組や部落だと思うが、そこが崩れ始めているので地域がまとまらない。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・いまだに合併前の地域(豊科、穂高、明科、堀金、三郷)、一つ一つといった感じがある。行なわれているとしたら、いつ、どこでやっていますか。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・市民の学校への参加、よろしくをお願いします。	45～54歳	三郷	公務員	男性
・昔から住んでいる住民と、新しく転入してきた住民との意識差。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・私が知らないだけかもしれません。	55～64歳	豊科	自営業主	女性
・市民交流活動のコーディネーターが必要	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・老人大学のような学習の場を、県の用心大学のようにもっと拡充してほしい。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・交流をしたという話は耳に入っていない。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 31 「生涯学習の成果である知識や技能が地域に還元されている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・そういう場が設けられているのか怪しい。	24歳以下	豊科	学生	男性
・趣味がほとんどなので、地域還元はされなくても構わない。	25～34歳	豊科	公務員	女性
・県マイスターに登録済みですが、チャンスがありません。	55～64歳	明科	無職	男性
・情報がない。	75歳以上	三郷	自営業主	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
 32「風土に根ざした技や知恵が、確実に次の世代に受け継がれている」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 確実にという意味ではなされていない。	24歳以下	豊科	学生	男性
・ 私自身、受け継がれたと感じないため。	24歳以下	豊科	学生	女性
・ 受け継がれていない。せいぜい40代止まりの気がする。30代には届いていない。	25～34歳	豊科	公務員	女性
・ 安曇野市はとて風土を大切にしているので外から入ってくるものを拒む傾向にある。温故知新を推し進めることができれば発展する。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・ 今の時代は何でも簡略化されてしまってきている。	35～44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ 同世代の活躍があまり聞こえてこない。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 安曇野市の特徴である豊かな田園風景や農地が年々少なくなっている気がする。世代交代等で難しいのもわかるが、観光客に対する売りがなくなってしまう気がする。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 地域の祭りや文化が確実に薄れていっていることに危機を感じます。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 両親が共働きの家庭が多く、子どもの行事に子どもを参加させることができない。昔から住んでいる住民の家には子どもが少なく、新しく移住されてきた住宅地には子どもが多い。伝統行事は昔から住んでいる家庭が参加でき、新しく来られた方々を誘いにくい(地元へ愛着がないので入っただけ)	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・ 地域コミュニティー、三郷と豊科しか知りませんが、特に豊科は大変でしょう。心苦しいです。	45～54歳	三郷	公務員	男性
・ そもそも風土に、受け継ぐべき技や知識があるのか疑問。	45～54歳	堀金	会社員	女性
・ 少子高齢化、今の60歳代以上の方々は若々しく、元気。しかも大勢いる。大いに教えてもらって。	55～64歳	豊科	自営業主	女性
・ 長野県の年間休廃業・解散企業数は倒産企業数の約5倍(全国平均2.7倍?)にも上っているのが現状であり、地方創生において「32」のような技・知恵を企業にとり入れていく施策を検討していただきたい。	55～64歳	明科	会社員	男性
・ 少し知っている。	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・ 情報がない。	75歳以上	三郷	自営業主	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
33 「リーダーバンク制度が充実している」について

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・聞いたことがないから。	24歳以下	三郷	学生	男性
・自分が教わりたい。リーダーがいらないから。	25～34歳	豊科	公務員	女性
・リーダーバンク制度について全く知らないから。	25～34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・リーダーバンク制度の存在を知らないから。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・リーダーバンクにどのような方が登録されているかまだ知らないから。	35～44歳	穂高	公務員	男性
・制度について認知度が低いと思う。	35～44歳	堀金	公務員	女性
・リーダーバンク制度知らない。	45～54歳	穂高	自営業主	男性
・リーダーバンクという言葉も知りませんでした。	45～54歳	穂高	公務員	女性
・リーダーバンク制度というものがあることを、はじめて知りました。	45～54歳	穂高	その他	女性
・リーダーバンク制度、情報を是非。	45～54歳	三郷	公務員	男性
・リーダーバンク制度について全く知らないから。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・リーダーバンク制度とは何ですか。そもそも知らないです。	45～54歳	堀金	会社員	女性
・リーダーバンク制度の存在を知らないから。	55～64歳	豊科	会社員	男性
・すみません。リーダーバンク制度を知りませんでした。	55～64歳	豊科	自営業主	女性
・制度も知らなかった。	55～64歳	豊科	無職	女性
・リーダーバンク制度について全く知らない。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・制度があることを知らなかった。活用してほしい。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・リーダーバンク制度について全く知らないから。	55～64歳	穂高	無職	男性
・どのようにして市民を登録するのか周知されていない。退職教師等、学習ボランティアで活用すべきだと思う。	55～64歳	穂高	無職	男性
・周知されていないと思います。知らない。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	男性
・リーダーバンク制度について全く知らないから。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・リーダーバンク制度、知りませんでした。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・リーダーバンク制度について全く知らないから。	65～74歳	穂高	無職	男性
・周知されていないのか個人として理解していない。	65～74歳	穂高	無職	男性
・リーダーバンク制度について全く知らないから。	65～74歳	穂高	その他	男性
・リーダーバンク制度について全く知らないから。	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・リーダーバンク制度について全く知らないから。	65～74歳	三郷	パート・アルバイト	男性
・リーダーバンク制度は知らなかった。市民に知ってもらうことも必要。経験や技能を持っている方は、活動していただきたい。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・リーダーバンク制度について全く知らないから。	75歳以上	豊科	その他	男性
・リーダーバンク制度の存在を知らないから。	75歳以上	穂高	無職	男性
・情報がない。	75歳以上	三郷	自営業主	女性
・リーダーバンク制度について全く知らないから。	75歳以上	三郷	農林水産	女性

問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
その他

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・生涯学習とはじめて知ったのでわからないが多い。ただ母さんがスポーツ指導者で駐車場の整った体育館が市役所近くにあったらといつも言っている。きっと駐車場がないんだと思った。	24歳以下	豊科	パート・アルバイト	男性
・現状、残念ながら浸透していない。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・全体を通して情報を目にするのは広報誌と回覧板なので、このような機会があるのかなのか実際によくわかりません。託児があるのか、時間はどの程度かかるのか、対象者は高齢者向けなのか、小学生が参加してもよいかなどの情報が少なく、問い合わせも17時15分まででは仕事で聞くこともできません。HPでもっと詳細を伝えてほしいです。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・特に大きな改善によって市の出費を増やす事はどうかと思うので。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・松本で勤務をしており、平日は特に市の施設を利用したり、地域の方と交流する時間がない。安曇野市の取り組みは唯一市報を通してのみ知り得ているが、講座の日程が平日の場合が多く、参加したい気持ちがあっても叶わない。	35～44歳	穂高	会社員	女性
・自分のアンテナにキャッチされない。	35～44歳	穂高	公務員	男性
・情報が少なすぎ。もう少し情報発信をすべき。	35～44歳	穂高	農林水産	男性
・全てに地域によって差がある。何のための合併だったのか。年配の方、移動するのが難しく、やってみたいこともできない。	35～44歳	三郷	会社員	女性
・薪能、明科から豊科へ移されてしまった。5つの地区を毎年ローテーションで行ったらいいのでは。	35～44歳	明科	会社員	女性
・全体的にあまり目にする事ができない。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・市のトレーニングルームを体育館に作ってください。安く定期的に利用したいです。	45～54歳	堀金	会社員	男性
・機会がない。	55～64歳	豊科	無職	女性
・一部の人のみに提供されていると思う。時間的に無理がある内容が多い。費用がかかりすぎ。	55～64歳	穂高	会社員	女性
・体調を崩して外に出ないため。	55～64歳	穂高	自営業主	女性
・まだ仕事をしていて時間がないため。学習、交流のために情報、サービスなど調べることがない	55～64歳	穂高	自営業主	女性
・企画があるのかなのかわからない。	55～64歳	穂高	無職	女性
・正直なところ情報が入ってこないのかわらないのが事実です。どこに何があって、どんな人がどんなことをされているのか、また、どんな施設があるのか知らないです。	55～64歳	三郷	自営業主	男性
・今まで仕事が忙しすぎたため。	55～64歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・最近図書館等にあまり行っていないので、よくわからない。	55～64歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・全てにおいて移動手段が少ない。家から遠く行きづらい。	55～64歳	三郷	無職	女性
・ほとんど情報がない。広報などにあってもわかりづらい。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・共有されている施設のルールが分からず、入りづらい、行きづらい、情報がない。	55～64歳	明科	無職	男性
・どのような施設があるか理解していない。どのような学習(講座)をしているのか、理解していない。	55～64歳	明科	無職	男性
・情報が伝わらない。電話しても定員がいっぱいだったり足がなかったり参加しにくい。現在やっているスマイルシェイブもたまたま犬の散歩の途中で見つけては入りました。どういものを行っているかもわからないです。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・情報が何も掴めない。行ったことがない。	65～74歳	穂高	公務員	女性
・住んでいる地域外に遠く情報も少なく、活用には困難な年齢となった場合、無理となる(車の運転も含めて)。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	男性
・市立の施設を利用したことがない。何処に何があるのか？どのように利用するのか？が分からない。広報(新聞チラシ)だけでは足りないのではないかな。	65～74歳	穂高	無職	男性
・外に出掛けて人と話すことがないから。	65～74歳	穂高	無職	女性
・大きな施設ではなく、小さな「場所」が点在することが望ましいです。そうすれば認知症の人の問題も子育ての問題も解決につながる道へつながると思う。	65～74歳	穂高	その他	女性
・ほとんど活用していないからわからない。	65～74歳	三郷	パート・アルバイト	無回答
・市立の美術館または豊科郷土博物館は1回行けば、行かない。	65～74歳	三郷	その他	女性
・情報が得にくい。HPを見てもわからない。穂高、豊科で独自にやっているようだが、こじんまりすぎている。セクト主義が強い感じがする。	65～74歳	堀金	会社員	男性
・耳が不自由なのでいろいろ体験できません	75歳以上	豊科	無職	女性



問18 「①現在の安曇野市の状況」について、「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」回答された理由  
その他

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・機会がなかった。	75歳以上	穂高	無職	男性
・スポーツ施設が少ない。芸術文化はどこで学ぶかわからない。外国人を招くPRが少ない。安心安全の地域づくりの方法をわかりやすく。人権についての学習を機会ある度に行う。情報化に対応する内容を広報。市民の要望意見はどのように行なうか方法。図書館への要望がなされているのか不明。音楽や演劇などの公演はどこでやっているのか。子育てに関する講座はどのようにしているのか。	75歳以上	穂高	無職	男性
・現状を知る機会がない	75歳以上	穂高	無職	女性
・交流学习センター、図書館等の場所がわかりません。	75歳以上	三郷	その他	女性
・①人間関係、②専門的な設備等が整ってくることを期待している。	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性
・母さんがリーダーバンクに登録しているがほとんど活用の機会がないと言っていた。	24歳以下	豊科	パート・アルバイト	男性
・よくわからない。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・市民に対して行政がどんな働きかけをしているのか知らない。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・松本市と比べスポーツ施設が全くない。	35～44歳	穂高	農林水産	男性
・仕事をしていると、なかなか地域との交流が少ないです。	35～44歳	三郷	会社員	男性
・参加できない人がどうなのか、地域の人に聞いて欲しい。中心部ばかりではなく、違う場所でやってみてもらってもよいと思う。	35～44歳	三郷	会社員	女性
・安曇野に移住して4年目、職場でしか知り合いのいませんので、アンケートのことはよくわかりません。	45～54歳	穂高	無回答	男性
・昔と今は子どもの人数や質が違います。よく「今の子どもは・・・」と年寄りがありますが、それは違います。ニーズに合った教育を！！	45～54歳	堀金	会社員	男性
・先の短い老人向けばかりだから。	45～54歳	明科	会社員	男性
・わからないことが多い。市報等で情報提供しているのかも不明。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・すべての人に伝わっていない。	55～64歳	穂高	会社員	女性
・情報媒体にそんなにたくさん関わることができないので、現状はわからない。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・自ら進んでの関心が薄かった。	55～64歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・スポーツ施設や生涯学習施設を利用していないので、よくわかりません。リーダーバンク制度はあまり聞いた事のない言葉です。	55～64歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・ほとんど情報なし。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・月毎計画の情報がわからないので5W1Hの検索ができない。	55～64歳	明科	無職	男性
・どのような施設があるか理解していない。どのような学習(講座)をしているのか、理解していない。	55～64歳	明科	無職	男性
・いろいろご苦労はされていると思いますが、質の高い市民に興味と満足感が得られるよう工夫されたいかががでしょうか。	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・自分が積極的に市の学びに参加している訳ではないので、市の状況も把握していないので書くことができませんが、地域に役員になって体育館や公民館、自分のために図書館などいきますが、あまりよいとは思えません。市民に対する接し方が本当によい人と悪い人の差がありすぎます。農業の減反の書類のことで市役所に行った時に対応してくれた職員の方は本当に素晴らしかったです。あの方のような職員が大勢いると、頼もしく嬉しいです。確か和田さんでした。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・自分に経験や実績(生涯学習)がないので実感がわかない。	65～74歳	穂高	農林水産	男性
・必ずしも「市」がやるべきとも考えないので。	65～74歳	穂高	その他	女性
・活動の拠点が長野市、松本市なのでよく分からない。情報の開示が少ないように思う。区の役員時は色々情報が入ったが、革新性がなくマンネリを感じていた。須坂、上田、塩尻のように人を呼び込める施設が無い。穂高、豊科という2～3万都市の感覚がはびこり10万都市という概念の中での施設、活動がないように感じる。	65～74歳	堀金	会社員	男性
・学習した成果はどのようにしているかわからない。協働のまちづくりはどのようにしているかわからない。市民同士の交流は進んでいない、低下している(例:区対抗運動会の取りやめ)	75歳以上	穂高	無職	男性
・現状不明	75歳以上	穂高	無職	女性
・個人が参加していることはわかりますが、その他にいろいろなことをしていらっしやると思います。	75歳以上	三郷	無職	女性

問19 生涯学習の必要性について 1 必要だと思う

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・何であれ学んだことは力になるし、生活の上で役立つはずであるので、多くのことを知って活用できればいいと思うから。	24歳以下	豊科	学生	男性
・学習することは、生きていく中で最も大切だと思うから。頭を使って学習することは、会社などの仕事において最も重要であるから。	24歳以下	豊科	学生	男性
・学ぶということは、生きがいのなる場合もある。様々な人々の様々なニーズに応え、そうした学習の場を設けるのはとても素晴らしいことであると思います。	24歳以下	豊科	学生	男性
・よい町づくりに貢献するためにも学習し、交流する場があれば協力して改善されると考えるため。	24歳以下	豊科	学生	女性
・なんとなく。	24歳以下	豊科	学生	女性
・人生というのは勉強の繰り返しだと思うから、学校教育終了後から本当の人生というか学ぶことが多いと思う。	24歳以下	穂高	会社員	男性
・生きていくうえで生きがいにつながるから。また、その学習したことが誰かの役に立つ喜びもあると思うから。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・必要だと思いますが、安曇野市では思わない。	24歳以下	穂高	学生	男性
・よい地域づくりを続けるため。生きがいを見出すため。市民との交流の輪を広げるため。	24歳以下	穂高	学生	女性
・人として好奇心をもち続けることは大切だと感じているから。	24歳以下	三郷	学生	男性
・年をとるだけなら馬鹿でもできるから、尊敬される人間になりたい。	24歳以下	三郷	学生	女性
・学ぶこと、経験をすることで成長していけると思うから。	24歳以下	三郷	学生	女性
・世界は常に変わり続けるため。	24歳以下	堀金	会社員	男性
・ずっと地域の中で生きていくのだし、学びの中から人間関係も深まると思う。	24歳以下	明科	学生	女性
・生活していくうえで学ぶことからくる楽しみというもの重要だと思うので。	24歳以下	明科	その他	女性
・向上意欲を持つことが今後の生きがい、やりがいにつながっていくと思う。	25～34歳	豊科	会社員	男性
・学びの中に生きがいが見つかるから。	25～34歳	豊科	会社員	女性
・自分の好きな分野や仕事に役立つ資格等は自分のためになるので、必要だと思う。	25～34歳	豊科	自営業主	女性
・学校で学ぶことはほんの一部なので、学びは一生必要。好奇心がないと人生はつまらないと思うので、今まで知らない経験のないことを知る、経験することは喜びだと思います。	25～34歳	豊科	公務員	女性
・学校という狭い世界の中では学べないことが沢山ある。それが今の自分の糧となっていることを実感しているから。	25～34歳	豊科	公務員	女性
・そもそも学校で勉強したことよりも、社会に出て自ら学習することの方が絶対的に必要だと思っているから。	25～34歳	豊科	公務員	女性
・若い頃はめんどくさかったけれど、子どもができて考えが変わった。田舎なので何かしていかないとほけそうだから。	25～34歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・学び続けることは、人生を豊かにしてくれるのも。大人になってからも成長や達成感を感じたいと思う。また、地域の人たちとの交流は、後々大きな財産に成ると思うから必要だと思う。	25～34歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・人生を豊かにするためにも学ぶことは大切。	25～34歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・学校教育が終わった後は、自分の興味があることを自発的に学べる機会を作れると思います。行動が広がり、他人とのつながりもでき、自分自身の生き方が変わる可能性があるから、より充実した生活のために必要だとか感じます。	25～34歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・特に子育て中は、どこかしら社会からの疎外感が大きく、子育てが終わる前に仕事復帰が難しい場合どこかしら学んだりすることが大切だと感じているから。	25～34歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・学校教育だけでは学べないことがあると思うから。	25～34歳	豊科	その他	女性
・むしろ学校を卒業してからが人生の学習となり後世に伝える糧となるから。	25～34歳	穂高	会社員	男性
・知識や教養を学ぶ機会になると思う。	25～34歳	穂高	会社員	男性
・人間として常に向上心を持ち続けるべきだから。	25～34歳	穂高	会社員	女性
・学ぶことは視野を広げることにもなり、生きがいにもなると思うから。	25～34歳	穂高	会社員	女性
・学校教育では与えられたカリキュラムで学習していくが、大人になった今は、自分が学びたいと思ったことを学ぶことができる。それはとても貴重なことである。年齢に関係なく一生学び続けることができるというのは、社会にいる色々な人と関わることができ、気持ちも若くいられると思うので、必要なことだと考える。	25～34歳	穂高	パート・アルバイト	女性

問19 生涯学習の必要性について 1 必要だと思う

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・学校教育を受けている頃には気づかなかった学習の大切さや、新しい分野、歴史など興味がでてくることがあるので学び続けることは必要だと思う。	25~34歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・生きていくということは、日々学ぶことがあるからです。学ぶことを止めてしまったら人生はつまらなくなってしまう気がします。それがどんなに小さいことだったとしても、学び続けることは必要なことだと思います。	25~34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・家庭、子育て、老後においても、いつでも毎日学習の日々なので。学ぶこと、学ぶ人が増えると、地域もよりよいものとなっていくと思う。	25~34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ボケ防止、健康のため。	25~34歳	三郷	会社員	男性
・何もせず毎日が終わるのはもったいない。	25~34歳	三郷	会社員	女性
・学ぶことは一生だから。生きていくためには必要なことがたくさんあると思うから。	25~34歳	三郷	会社員	女性
・学校で教えてくれることだけでは生活の質の向上はできない。知ること、工夫することで生活に変化ができると生涯に楽しみを見つける視点を持つことができるのではないかと考えます。	25~34歳	三郷	会社員	女性
・住む場所や自分のまわりの環境が変化することについて、学びたいと思うことも変わってくるため。知っていることの幅が広がることよりも、他者とのコミュニケーションも円滑になると思う。また自分の財産として子供に伝えていきたいと思う。	25~34歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・趣味や健康づくりに役立てば、生きがいにもなると思うから。	25~34歳	三郷	無職	女性
・学校で学んだことよりも、社会に出てから学ぶことが本当に必要な知識であり、生きるための力になると思うから。	25~34歳	堀金	会社員	男性
・昔の考えをおしつけて頑固に生きていくより、若い人と交流したり、時代に沿って柔軟な心でいたいと思う。そのためにも年齢に関係なく学習していくことは、自分は大切だと思う。	25~34歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・最近地震が多いので、地域の人ののかかわりや防災についても必要なことだと思っているので。	25~34歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・自分を向上させることが生きていく上で大切だと思うから。	25~34歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・学ぶことを止めたら人生終わりだと思う。成長することは何でもよいので必要。	35~44歳	豊科	会社員	男性
・知識の向上。	35~44歳	豊科	会社員	男性
・学校教育で学ぶことは人間が学ばなければならないことのほんの僅かな事柄。向上心こそ人間の活力。	35~44歳	豊科	会社員	男性
・学ぶこと、覚える事、知らない事、毎日常に起きています。学び続けることは生きていく上で大事になってくると思います。	35~44歳	豊科	会社員	男性
・痴呆防止。	35~44歳	豊科	会社員	男性
・人生死ぬまで何でも学び身に付けることで生きがいにつながると考えている為。	35~44歳	豊科	会社員	女性
・人は一生勉強だと思うから。学び＝生きる意欲(生きがい)だと思うから。	35~44歳	豊科	会社員	女性
・興味のあることや仕事で必要なら学ぶことがあると思う。	35~44歳	豊科	会社員	女性
・学校の勉強では得られないことや社会人になって必要となこと、興味が湧くことも多い。	35~44歳	豊科	会社員	女性
・今は老後が長いですし、興味を持ったら学べるという環境は必要だと思う。	35~44歳	豊科	会社員	女性
・今は必要ないが、いずれ子育てが終わったり退職した後などは必要になると思うから。	35~44歳	豊科	公務員	男性
・自分自身を豊かにしていくため。	35~44歳	豊科	公務員	男性
・社会に出ればいろんなことを学ばなければならないと思う。	35~44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・学び続けることは、結局自己成長・自己実現へつながり、ライフワークになっていくと思うから。人生を充実させてくれるものだと思うので。	35~44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・社会人が気軽に興味のあること等を学べる環境は、とても必要だと思います。仕事、育児、介護で忙しいけれど、ちょっとした時間があれば学びたい人はたくさんいると思います。魅力的な場所があるといいですね。	35~44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・向上心があってこそ人間です。どんな時でも学ぶ機会、学ぶ対象はあります。	35~44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・学び、人と触れ合うことはとても社会にとって重要なことだと思います。ぜひ安曇野市が日本一の生涯学習都市として誇れるようにしてほしいです。	35~44歳	穂高	会社員	男性
・どんな分野でも日々進歩しているので、置いていかれないためにも知識をためていくことは大事だと思う。	35~44歳	穂高	会社員	男性
・人生勉強	35~44歳	穂高	会社員	男性
・地域への貢献も必要だが、まずは自身の人生を豊かにおもしろく生きるための手段として、学び続ける必要を感じる。世の中を明るくするのは、一人ひとりの活力だからです！	35~44歳	穂高	会社員	男性
・生涯にわたり学んでいくことは必要。	35~44歳	穂高	会社員	男性

問19 生涯学習の必要性について 1 必要だと思う

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 社会生活を送る上で(仕事をする上、子育てをする上、地域で生活をする上で)必要となる知識、技術は学校教育のみで充足しないから。健康維持、増進のためには「場」「機会」の提供があるとよいと考えるから。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 学校教育のように教えてもらうという捉え方ではなく、自ら興味のあることに関心を持ち(仕事でも趣味でも)深めていくのは必要というより当たり前なことだと思います。学ぶというより興味を持ち、知識を深めることはとても大事なことだと思います。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 日々常に向上。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・ 生きていく上で向上心は不可欠だから。	35～44歳	穂高	会社員	女性
・ 小中学校では、専門知識の乏しく好きなことができない。大人になって余裕(時間、お金)が出てくると「学びたい」と思うようになり、学びに行くことで新しい知人や友人ができる。	35～44歳	穂高	会社員	女性
・ 自分の健康維持(認知症予防等)や、生き甲斐を持てる為にも大切なことだと思う。	35～44歳	穂高	会社員	女性
・ 何でも「学びたい」意欲を持って生きることで、健康でありたいと思い、家族と周囲の人を大切に思い、生き生き生活することができると思うし、子供たちも学び続ける大人の姿を見てそだつことが大切だと思います。	35～44歳	穂高	自営業主	女性
・ 生活の中で柔軟性が必要だと思う。凝り固まった現状の自分だけの考えや知識だけでは退化していってしまうような気がします。	35～44歳	穂高	自営業主	女性
・ 経験をたくさんすることはとても大事だと思うので、何歳になっても色々学ぶこと、体験すること、体を動かすことを続けていくことができれば素晴らしいと思います。	35～44歳	穂高	自営業主	女性
・ 人とのつながりができる。いろんな面で向上でき、老化防止にもつながると思う。	35～44歳	穂高	自営業主	女性
・ 学ぶことは生涯必要な時代。学ぶことで健康にもつながる。学ぶことで成長することもある。	35～44歳	穂高	公務員	男性
・ 人生を豊かにするから。	35～44歳	穂高	公務員	男性
・ 社会は常に変化をしている。対応できるようにするためにも必要だと思う。趣味や生涯スポーツなど文化的な生活をするためにも学び続けることは大切だと思うし、人との関わりにもなると思う。	35～44歳	穂高	公務員	女性
・ 地域の情報や交流の場として関わる基準と成るため。	35～44歳	穂高	公務員	女性
・ 生きがいにつながると思うから。	35～44歳	穂高	パート・アルバイト	男性
・ その時、その年齢によって自分に必要としていることが違うため。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 学び続けることは人間にとって大事なこと。年をとっても健康で役立ち、頼れるほうがいいから。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 何か学ぶという事は脳の活性化にもなるし、仲間とのふれあいもできるのですごくいいことだと思う。それに社会の役に立てられるので、やりがいがあります。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 学ぶことは生涯大切だと思う。学ぶことによって毎日楽しく過ごせると思います。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 自分のため。	35～44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ 自分らしく生きていくため。	35～44歳	穂高	無職	男性
・ 探究心は生きることにつながっていると思うから。	35～44歳	穂高	その他	女性
・ 人は生きている限り、常に学びであると思う。それを自然にやっているのが理想だが、自治体で取り組む意義は大いにあるのが現実だと思う。	35～44歳	穂高	その他	女性
・ 地域の歴史や自然等を残していくため。今後、高齢社会になるにつれ周りの人々とのつながりが必要になるから。	35～44歳	三郷	会社員	男性
・ 健康が一番。	35～44歳	三郷	会社員	男性
・ 学歴は関係ない。日々学び続けることが人間の成長につながる。	35～44歳	三郷	会社員	男性
・ いくつになっても学ぶことはある。	35～44歳	三郷	会社員	女性
・ 学校教育終了後も必要な知識を得る機会がないといけない。学校教育以外に必要な知識がある。学ぶ必要がある。仕事で必要な勉強を市の施設等を利用していけばよいと思う。	35～44歳	三郷	会社員	女性
・ よい人生を送っていききたいので。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・ 何か興味を持つことが大事だと思います。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・ 環境は常に変化しているので。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・ その時々、世代、年齢によって興味も移り、それに併せて生涯学び続けることは、自己実現する上で重要なことだと思います。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・ 生きている限り、学ぶ事は必要であり、自分のためにもなると思うので。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・ 生涯学び、生きる喜び、友達と会う楽しさがあると思う。	35～44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・ 地域のことを知り、交流を深められるから。	35～44歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・ いろいろな事に視野を広げ、社会とつながることは生きがいにもなり、地域のつながりができるなどよい点も多いと考えられる。	35～44歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・ 生活するためには必要。学ぶことは大切。	35～44歳	堀金	会社員	男性
・ 知ることは楽しみでもあるから。	35～44歳	堀金	会社員	男性

問19 生涯学習の必要性について 1 必要だと思う

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・ 学業以外にも人生には学ぶことが多い。	35～44歳	堀金	自営業主	男性
・ 様々な分野で知識を習得することは自分のためにも、人のためにもなる。人のために役立てる生きがいづくりとして、一生涯必要だと思う。	35～44歳	堀金	公務員	女性
・ 頭も身体も使っていないと、どんどん衰えていくものだと思うから。	35～44歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・ ただ慣れきった仕事を回し続けるだけの生活には、生きる意味を見出せない。	35～44歳	明科	会社員	男性
・ 知識や教養をますます身に付けることにより、自身の人生のフィールドが広がり、より豊かな人生を遅れると思いますし、次世代の子ども達に自身の経験を伝えることができると思うから。	35～44歳	明科	会社員	男性
・ 生きる糧。	35～44歳	明科	会社員	女性
・ 人生を豊かにしてくれるから。でも必要としない人がいてもいいと思う。	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・ 生涯において人格向上のために必要だと思う。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・ 生きがいづくりという点で必要だと思います。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・ 少子高齢化には高齢者のできる限りの自立が避けられない。自立を補う教育・学習を積極的に取り入れるべきと考える。特に独り暮らし(70歳代以上)には積極的に行政から声をかけてほしい。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・ 学習することで、人間として豊かになれる。その豊かさは家族に及ぶ、家族の豊かさは地域に及ぶ、結果豊かさは国に及ぶ。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・ 人は死ぬまで学び続ける生き物だと思うから。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・ 学校の勉強だけでなく生きていくためにはいろんなことを学び続けていかないと、苦勞することも多いし楽しくもない。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・ 常に頭をフル回転させておかないと、認知症になってしまいそうで不安だから。死ぬ直前まで、はっきりとした意識を持っていたいので、子供に迷惑をかけて生きたくないので。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・ 市民との関わりは大切だと思う。年を取っても人との関わりがあった方が楽しいし、心強い。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・ 人間は生涯、勉強が必要だと思うから。	45～54歳	豊科	公務員	男性
・ 知識を広げること、視野を広げるとは学ぼうという意欲によって可能になるものだから。生きがいを持ってない人生はつまらない。	45～54歳	豊科	公務員	男性
・ 新しい知識が身につくから。	45～54歳	豊科	公務員	男性
・ 少子高齢化が進む中、「新たな時代を創造する力」は学校の教育だけでは育たないし、学校だけで完結することもないから。	45～54歳	豊科	公務員	男性
・ やはりいつまでも健康でいられるため。	45～54歳	豊科	公務員	女性
・ 生きがいになると思うし、必要なことだと思う。	45～54歳	豊科	パート・アルバイト	男性
・ やりがいや、人とのつながりはいつでも必要であると共に、学ぶ場があれば社会問題にもつながりにくい。	45～54歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・ 学習することで生活が豊かになり、地域の方とも交流が深まると思うので。	45～54歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・ 人間は進化を止めたらダメだと思うが、学びたいことは人それぞれ。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・ 今後の人生の上で、必要とされる事があると思う。経験したことはプラスになるはず。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・ 学校教育は長い人生の中でほんの数年の期間であり、卒業してから本気で学びたい事がでてくるケースが多くなると思われます。学校教育は基本的なベースを学ぶ場であって、そこから積み上げて学ぶ事はどうしても必要だと思います。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・ 人間は生涯学ぶ事が大切だと思うから。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・ 老化防止、生きがいとして。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・ 自分で楽しいことは進んでやればいだけだと思います。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・ 学習し続けることは重要だと感じているため。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・ 世の中とのつながりが保てるし、生きがいになるのではないのでしょうか。	45～54歳	穂高	会社員	女性
・ 地域やご近所との付き合いにより、心身の状態もよくなる。空き家がなくなったり、子供を地域で育てるなど、市の健康状態もよくなると思う。災害に強い、幸せな安曇野市となる方向に進む要素と思います。	45～54歳	穂高	会社員	女性
・ 生きがいを見つけたり様々な人と話したり、話を聞くことにより人生の幅が広がる。健康で長生きするためにも必要だと思います。	45～54歳	穂高	会社員	女性
・ コミュニケーション不足と思います。ハローワークにおけるような無料で技術を学べる機会があればいいと思います。	45～54歳	穂高	自営業主	男性
・ 学びたいという気持ちは生きていく限り必ずあるものだと思う。そうでなければよりよく生きられない。生きがいを持って明るく生きていくには、学び続けることが必要だと思う。	45～54歳	穂高	自営業主	女性
・ 歳を重ねる度に得るよりも失っていくものの方が多くなっていくように思う。プラスにならなくても現状以下にならない為には学び続けたいと思うのが普通だと思う。ただ(自分自身を含め)余裕が無さ過ぎる人が大多数ではないか...それを思うと「わからなく」なってしまう。	45～54歳	穂高	自営業主	女性
・ 生涯成長し発見があることが大切だから。	45～54歳	穂高	自営業主	女性



問19 生涯学習の必要性について 1 必要だと思う

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・生涯、学びの場があり自主的に学ぶことは、その人の人生をより豊かにすることができる。そして地域の活性化にもつながるのだと思う。	45～54歳	穂高	公務員	女性
・学び続けることにより知識だけでなく、同じ目的、目標を持った人たちとの交流が持てる。いろいろな人たちとのかかわりは一生必要だと思う。	45～54歳	穂高	公務員	女性
・人間関係を深める為に!	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・人とのかかわり続けなければ豊かな人生は望めない。そのためにはさまざまな活動の機会が必要。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・自分の場合、例えば生涯学習をしての成果をどこで発揮したいといった事はないのですが、自己満足的なものを得たいといったところ。そしてちょっとした教養をずっと持っていたいと思います。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・学べることには終わりがありません学ぶことによって、生きることへの意欲が高まり、他人達とのよい関係を築いて助け合ったり、分かち合ったり喜びが増すので生涯学習は大切だと考えます。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・自分の生活を向上させるため。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・人として向上しようという気持ちは大切なことだと考える。機会があれば学びたいと思います。	45～54歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・健康で生き生きとした生活を送るため。	45～54歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・学び続ける事=生きること、だと思います。	45～54歳	穂高	その他	女性
・新卒で社会に出た後、10年もすれば学校(大学)で受けた教育知識は古びてしまいます。自分の場合は、当時はたまたま東京(中央区)に住んでいたんで、早稲田大学のオープンカレッジで社会人向けビジネス・教養講座を中心とした有料のカルチャーセンターを利用しました。ちなみに入学金は在任・在勤者は無料でした。	45～54歳	穂高	その他	女性
・老後に何か一つあるとならば、生き方が変わってくると思う。何か熱中できるものがあると思います。	45～54歳	穂高	無回答	男性
・充実した生活をするため。	45～54歳	三郷	会社員	男性
・地域貢献、老後の生活に役立てていくため。	45～54歳	三郷	会社員	男性
・新しい発見や気づきなど、常に広い視野で物事を捉えることが必要だと思うから必要だと思います。	45～54歳	三郷	会社員	男性
・交流の機会が得られるし、学ぶことは楽しいから。	45～54歳	三郷	会社員	女性
・いくつになっても生涯にわたって学び続けることは、重要なことだと思います。	45～54歳	三郷	会社員	女性
・視野をもっと広く持った方がよい。	45～54歳	三郷	会社員	女性
・世の中の情勢がその方向だから。	45～54歳	三郷	公務員	男性
・学んでこそ人間。そのために尽力します。	45～54歳	三郷	公務員	男性
・自信の向上と、調和の取れた市民生活のために必要だと思う。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・何か自分にとって取り組めるものがあるということは生きていく上でとても強い力になると思います。どんなことでもいいと思いますが、生涯学び続けることは大切だと思います。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・自分と向かい合い、楽しみを見つけて学べたら、年をとっても楽しく過ごせると思います。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・趣味を持ち続けること、それを続けられる環境をできる限り社会が寛容になること、趣味・特技を披露することは素晴らしいことという教育・会社での取り組み、社会全体の雰囲気は生涯学習を後押しすると思うし、それが健康寿命を延ばすと思うから。	45～54歳	三郷	農林水産	女性
・死ぬまで勉強。学習は人間を成長させてくれる。日々感謝である。毎日少しの努力を続けることの大切さ。まさに文武両道である。	45～54歳	堀金	会社員	男性
・自己研鑽をし生涯、よりよい生活を送るため。	45～54歳	堀金	会社員	男性
・社会の一員として生活している以上、常に周囲の状況を知り、見極め、どう生きるべきか学び、考えていくことは必要だと思う。	45～54歳	堀金	会社員	女性
・社会に出ても学ぶことはあつて当たり前ではありますが、自分自身が好きな事をもっと学びたいと思っても、なかなか学ぶ場がないとか教えて頂ける方がいらっしやらないとかで、諦めることもあるでしょう。そういったこと事が学べる機会があつたら嬉しいと思うのです。生活にメリハリができると思いますよ。	45～54歳	堀金	会社員	女性
・自分自身のためでもあるが、地域全体に影響していくことだと思います。個から人と人との結びつきにつながることも考えられます。	45～54歳	堀金	会社員	女性
・学校教育が終了しても、社会の情報は日々進化しているので、常に新しい知識を入れていくため生涯学習していくことは大切だと思います。	45～54歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・本当に生涯学習が必要。	45～54歳	堀金	その他	男性
・継続は力なり。	45～54歳	明科	会社員	男性
・人間として必要。	45～54歳	明科	会社員	男性
・地域に参加したり、目にして情報を得ることで生活を充実できると思うから。	45～54歳	明科	会社員	男性
・人には生きがいが必要だから。	45～54歳	明科	公務員	男性

問19 生涯学習の必要性について 1 必要だと思う

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・生涯学習を続けることで日々の生活にハリや生きがい生まれ、心身ともに健康で過ごしていける。	45～54歳	明科	パート・アルバイト	女性
・Q.O.L(クオリティ・オブ・ライフ)、向上のために必要だと思う。	45～54歳	無回答	農林水産	男性
・人生は経験を通じて一生学ぶこと。学ばない者は退化するしかない、生きる必要もない。	55～64歳	豊科	会社員	男性
・生活していくのに不可欠。生きていくことは学習の連続のような気がします。それは無意識に誰もが自然にしていることだと思います。	55～64歳	豊科	会社員	男性
・人は生涯を通じて学ぶ事が必要。人との交流の機会を持つことで生きがいと社会貢献になり元気で長生きすることができると考えます。	55～64歳	豊科	会社員	女性
・人間は生涯発達しつづける生き物だと思う。学習も同様。学校も老人大学など興味のあるものを学び続けることが幸福だと考える。	55～64歳	豊科	会社員	女性
・家にずっといるよりも外に出る事がよいと思う。	55～64歳	豊科	会社員	女性
・新しいことを知る、身につける、できるようになるというのは、いくつになっても生きる喜びであると思うから。	55～64歳	豊科	自営業主	女性
・いくつになっても学ぶことは大切。学ぼう、知ろうの気が大切。ボケ防止にもつながる。元気にもつながると思います。	55～64歳	豊科	自営業主	女性
・豊かな人生を送ることができる。その生涯にわたってあらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、成果が適切に出すことができるから。	55～64歳	豊科	公務員	男性
・生涯何事にも興味を持って学習することは重要だと思う。いきがいをもっていきたい。	55～64歳	豊科	公務員	男性
・学ぶことは楽しいことであるから。	55～64歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・楽しく人生を送るため、また生きがいを見つけるために必要と思います。	55～64歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・長野県は長寿県でもあるので、60歳以上の人が生き生きと安全に暮らせることが大切だし、そのための意識を持つことが必要だと思う。	55～64歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・生きがいにつながるから。	55～64歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・生涯学習によって知識や技術を身に付けることで、豊かな生活を送ることができる。地域や行政への関わりの場(参加の場)となる。社会人としての成長。	55～64歳	豊科	無職	男性
・学びを続けることは老後の認知症の予防につながると思うから。	55～64歳	豊科	無職	女性
・健康を維持していくために、健康づくり、新しい知識、情報をみに付け、市民同士の交流を図ることにより生きがいになる。	55～64歳	豊科	無職	女性
・地域、自分のために人とかかわりが大切と思う為。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・学校教育だけで生きていくための知恵は身につかない。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・自分自身の向上のため。	55～64歳	穂高	会社員	女性
・今後安曇野市も高齢化がますます増加すると思います。早期に地域のリーダーを育成し、健康で活力ある生活のできる地域づくりが必要です。	55～64歳	穂高	自営業主	男性
・死ぬまで学習は必要だと思います。	55～64歳	穂高	自営業主	男性
・情報化時代でどんどん製品や価値観が変わっていくから。	55～64歳	穂高	公務員	男性
・世の中は進化しているため、学校教育はすべてではない。	55～64歳	穂高	公務員	男性
・必要だと思う反面、取り組む機会がない。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	男性
・自分自身の知識、健康管理、他の人との交流は生涯にわたって必要だと思う。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・人との交流もできるし、生きがいも生まれる。ボケ防止。健康維持。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・生きがい。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・生活していく上で大事だと思う。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・社会生活を営む中で、自分らしい生きがいを見出すことが大切だと思う。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・楽しく生きた方がよいから。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・人間としての品格の向上。	55～64歳	穂高	農林水産	男性
・人生一生が勉強だと思う。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・学ぶことは、自分の生きがいにつながるから。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・生きがい、張り合い。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・趣味でもボランティアでも自己実現のためでも、どんな形でも人や物と関わるのが生涯学習と思う。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・豊かな地域ができると思っている。	55～64歳	穂高	無職	男性
・人間は何もしなければ年とともに、脳力も体力も衰えていく。これからの高齢者は死ぬまでできるだけ元気でいることが社会の負担を軽減することにもなる(医療費や家族への負担の減少) そのためには退職後もできるだけ社会とつながり、自らも学習やスポーツを心がけることが求められる。私は65歳です。	55～64歳	穂高	無職	男性
・脳の活性は健康寿命につながる。	55～64歳	穂高	無職	男性
・健康で生きがいを持って行き続けるため。	55～64歳	穂高	無職	男性
・学校教育と人生をよりよく生きることは違うものがある。したがって、社会全般を学び、人間としての心を磨き、人として生きることを生涯追求することが必要だ。	55～64歳	穂高	無職	男性

問19 生涯学習の必要性について 1 必要だと思う

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・動きが早い現代社会では、常日頃の学びこそが非常に重要であるのは誰もがわかっていることであると同時に、学校教育でやられていない社会面、さぼってしまった事項を身に付けることは極めて重要である。	55～64歳	穂高	無職	女性
・健康年齢がいつか終わったときに、あんなこともこんなこともした思いがあれば(例えば病気になるたびに)悔いはないと思う。	55～64歳	穂高	無職	女性
・豊かな人生を送るため。	55～64歳	穂高	その他	男性
・どんな仕事でも学習がついてくるから。	55～64歳	三郷	会社員	男性
・生涯にわたって学び続けることは必要です。まだまだ体力・気力のあるうちは自分自身の向上のため、又、地域の向上のためにも学習は不可欠だと思います。	55～64歳	三郷	自営業主	男性
・自分の教養向上、また生きがいづくりに、さらには健康維持のためにも、また地域の絆を深めるためにも生涯にわたって学び続ける事は必要なことであり、大変大切なことと思います。	55～64歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・時間や経済的に余裕があれば、家に引きこもるより何かやることがある方がよいと思う。	55～64歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・「生涯学習」というとご大層に身構えてしまいましたが、例えば本を読むことはひとりでもできるけれど、その本についてもっと深く知りたい、作者について知りたい、歴史的なことも知りたいという欲求が生まれてきた時、その受け皿となって学習できる場、他の人と意見交換できる環境がすぐそこにあったら「生涯学習」は身近になります。	55～64歳	三郷	無職	女性
・様々なことが日進月歩で進んでいる。社会人として教養が必要と思う(一般常識)自分に自信を持つため。	55～64歳	堀金	会社員	男性
・時代は日々変化していくので、毎日新しいことの出会いは必ずあるので、学びを止めるのはもったいない。まだまだ知らないことが多いので、どんどん学んで日々楽しんで、生きていきたいから必要です。	55～64歳	堀金	自営業主	女性
・仕事をするため。	55～64歳	堀金	公務員	男性
・生活に張りが生まれてよい。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・誰に強制されることなく、好きなことを学んでいくことはよい事だと思う。ただ費用などかかるものは捻出していくのに難しい年代もある。大きな補助制度があるとよいと思う。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・定年後の生活については皆模索していると思います。安曇野市において農業以外の何かを見つけたいと思います。是非その目印・指針を市が示していただけたらと思います。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・人とのコミュニケーションの取り方。自らの生きがいづくり。伝統文化の継承。	55～64歳	堀金	農林水産	男性
・学校教育で学べることは、ほんの一部の基礎的なこと。知らないことはいっぱいあります。そして環境の変化、歴史、政治は移り変わります。それを知るためにも学び続けることが必要と考えます。	55～64歳	堀金	専業主婦・主夫	女性
・高齢化率が続く中、生きがいを見出す事は医療費削減に直結すると考えます。	55～64歳	明科	会社員	男性
・人生の潤滑油。	55～64歳	明科	会社員	男性
・人が1人前に成長していくには親の教え、先生の導き、地域の方の教えなどによって学んでいくものと思います。	55～64歳	明科	会社員	男性
・生きがいづくりに必要であると思う。	55～64歳	明科	会社員	女性
・地域の活性化のため必要。人と人のつながりが重要。人を巻き込んで展開する仕組みづくりが必要。	55～64歳	明科	無職	男性
・学校教育と仕事(生活)の教育は違う。時代の流れのように教育内容(特にIT関係)は日々変化している。	55～64歳	明科	無職	男性
・退職等で会社を離れた後、地域の中でのコミュニティが必要となるので、そういう面での機会づくりは必要と思う(健康面、防災面等)	55～64歳	明科	無職	男性
・学ぶということが生活の質の向上に役立つと思うので。学ぶということが生きがいを感じることができる。	55～64歳	明科	その他	女性
・学び続けることにより人とのつながりが増えたり、交流ができて仕事にも地域交流にも役立ってくるからです。	65～74歳	豊科	自営業主	男性
・生涯のわたって「これを勉強している」とか「このことに夢中です」と答えなくても、毎日の暮らしの中で、気づけばいろいろな場面と機会の中で学んでいることは多々あると思います。学び続けることはしないということとは、どういふことを意味しているのか分かりません。	65～74歳	豊科	公務員	男性
・学校で学べないことがたくさんある。学ぶ時間もある。勤務先でも一生勉強だと指導されてきたので、ごく当たり前のことだと思う。	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・心豊かな人生を送るため。	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・脳の活性化は必要。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・生きている、生活していること全て常に学びだと思っています。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・生きがいとか仲間づくりで大切だと思うが、他から移り住んだ者は入っていきにくい雰囲気もあり、参加しづらいです。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・生きがい対策として。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性

問19 生涯学習の必要性について 1 必要だと思う

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・若い頃は毎日の生活に追われなかなか学習する時間がない。生活にも気持ちにもゆとりがない。退職後生活にゆとりができれば本当に好きなものをやればいいと思う。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・常に学び続ける事は人生を豊かにして、生きがい発見につながると思うので。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・人間はなくなるまで学び続けることができると思いますし、また、その意欲が脳のためにもボケ防止にもなると思いますし、何よりも人のつながりを持つことが人生を豊かなものにします。子供たちと年配の人たちとの交流は本当に大切で、もっとも機会があればよいと考えます。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・生涯生活は生きがいにもつながるので、目的を持って学びたい。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・①住民全体、地域のレベルアップの視点から、様々な考え方や行動の共有化または認知が必要 ②生涯を通し、その年齢や社会情勢の変化により、新たなニーズが次々と生まれるから	65～74歳	豊科	無職	男性
・ボケ防止になるのではないのでしょうか。	65～74歳	豊科	無職	男性
・自分の生き甲斐3項には「自己教育」を心得としている。心豊かに生きるための好奇心を持ち続けたいと思っています。	65～74歳	豊科	無職	男性
・いま地区社会福祉協議会の会長に携わっています。やはり生涯学習は大事だと思います。地区社協では市の出前講座等、大変ありがたいと思っています。いつも参考にしております。	65～74歳	豊科	無職	女性
・常に心、体、頭を刺激していた方がよいと思うから。	65～74歳	豊科	無職	女性
・生きている限りは知識を向上させたい。知りたい事はたくさんあります。人と関わり合うのは、仕事を退いた後も必要と思う。	65～74歳	豊科	無職	女性
・生涯いきいきとい暮らし事が大切だと思うから。	65～74歳	豊科	無職	女性
・人間生きている限り「知る、識る」欲求はあると思います。その形体・形態について、生半可なやり方で上から強制してくるのは、全く好みません。ろくなコンサートひとつないので、年に何回か上京するのは、交通費等大変です。	65～74歳	豊科	その他	男性
・死ぬまでは生き生きとしていたい。	65～74歳	豊科	その他	男性
・必要ではなく、当たり前と考えております。そうでないと生きては行けません。	65～74歳	豊科	その他	女性
・生きがいや目的を持ち生きるとは大切なことだと思います。	65～74歳	豊科	その他	女性
・利己主義に成らないために多くの人と関わっていくことは大切で、その手段として必要だと思う。	65～74歳	穂高	会社員	男性
・充実した生活のため。	65～74歳	穂高	自営業主	男性
・老化防止のため。	65～74歳	穂高	自営業主	男性
・一生勉強及び地域住民との交流である。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	男性
・生涯学習としていかなる活動があるかわからない為、「わからない」という回答が多くなりましたが、生涯にわたって学び続けることは大切であると思います。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	男性
・自分自身、安曇野市が発展できると思います。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・年を取っても、まだ知らないことがたくさんあると思う。自分の体が元気で動ける間は、自分のため心の成長のため学び続けることは必要だと思う。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・新聞を読んでもテレビのニュースなどを見ても理解できない事もあるもで、生きている間はいろんなことを学び続ける事は必要。いろんなことが理解できると生きている事が楽しいです。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・(1,2の選択なし)自分自身健康でいられるため、ボケないため。	65～74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・人は第一線から退いた後も常にキャリアアップの必要があり、趣味・娯楽・ライフワークとして何か新しいものを学び続ける必要がある。	65～74歳	穂高	農林水産	男性
・生涯学習は人間の幅を広げることができるのではないかと思います。	65～74歳	穂高	農林水産	男性
・学ぶことで自分を見つめなおして生きがいを感じたい。	65～74歳	穂高	農林水産	男性
・人生は一生勉強強だと思う。	65～74歳	穂高	農林水産	男性
・何か集中して取り組むことが生きがいになると思います。新しいことに取り組むことに抵抗がありますが機会があれば出て行きたいと思っています。	65～74歳	穂高	農林水産	女性
・地域の文化的なことは、子供たちに伝承して行かなければならないと思う。太鼓、踊り、祭り、昔の遊びなど。教える側の高齢者にとっても、生涯学習としてよい事だと思う。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・健康と相談の上だけだ。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・世の中どんどん進化しているから新しい情報を知りたいし、知ることは大切だと思う。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・健康で日常生活ができる事。認知症予防のため。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・人生を豊かにいきいきと過ごす為必要だから。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・健康で送るため、過す為。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・今まで育てていただいた地域の人々にボランティア等で応援すること、自分自身ではできる範囲で研鑽を積みたいから。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性

問19 生涯学習の必要性について 1 必要だと思う

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・学ぶことは必要、学ぶことによって自身の生活を豊かにする。学ぶことによってそれを社会に還元される。無知は社会に為にならず。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・教育終了後も機会があれば学びたいし、参加したいと思っています。	65～74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・特に定年退職後の生きがいについて、生涯学習は必要なことだと思う。常に目的、目標を持ちそれを達成するための手段として学び続けること。	65～74歳	穂高	無職	男性
・進歩の早いこれからの時代には必要なことだと考える。	65～74歳	穂高	無職	男性
・元気な高齢者の増加により、健康寿命の増進ひいては介護予防につながるができる。	65～74歳	穂高	無職	男性
・個人差によるものだと思うが、身に付けることはよいことだと思う。	65～74歳	穂高	無職	男性
・個々の目的意識によって異なると思うが、学びたいと考えている者があれば、実現できる環境であることが求められるのでは。	65～74歳	穂高	無職	男性
・頭と体を動かし、常に健康でありたいと願う。	65～74歳	穂高	無職	男性
・人間一生学習	65～74歳	穂高	無職	男性
・人生学び続けることは喜びにつながると思います。楽しい毎日を過ごせると思います。	65～74歳	穂高	無職	女性
・それをどのように使うか、使うところがあるか、自分の知識として持っているか。	65～74歳	穂高	無職	女性
・生涯死亡するまで勉強は必要と思います。	65～74歳	穂高	無職	女性
・ボケ防止	65～74歳	穂高	その他	男性
・学び続けることは生きていくことだと思う。	65～74歳	三郷	会社員	男性
・情報、技術は学ぶことによって自分、日本が進歩する。	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・学ぶことは人生を豊かにします。私も学んで仕事をする道が開かれました。	65～74歳	三郷	自営業主	女性
・頭を使い続ける。	65～74歳	三郷	パート・アルバイト	男性
・年齢に関係なく、生涯にわたって多面で学び続けることは必要と思います。	65～74歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・日々の生活のなかで時間をつくるのは難しいが、少しでも向上してゆきたい。	65～74歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・いろいろな知識を身に付けるには生涯勉強は必要だと思う。生活面、人との関わり合いなど学んだことがプラスになる。	65～74歳	三郷	パート・アルバイト	無回答
・自分の生きがいになると思う。	65～74歳	三郷	農林水産	女性
・何歳になっても学びたいと思う心がないとボケてしまうので、体力、知能の強化をして健全に生活したい。	65～74歳	三郷	無職	男性
・考え方に個人差があるので何んともいえない。	65～74歳	三郷	無職	男性
・自分のために生涯にわたって学ぶことがあると、人生に張り合いが持てる。いつまでも元気でいられる。	65～74歳	三郷	無職	女性
・あらゆる機会を通じて地域のため、若しくは自己の能力向上のために是非必要なことであると思います。現状の生涯学習は学べる範囲が狭く、選べるような状況にない。指導者等いろいろ大変なことがあると思いますがジャンルをもっと増やしていただければ幸いと存じます。	65～74歳	三郷	その他	男性
・現役引退後の生きがいづくりに必要	65～74歳	堀金	会社員	男性
・安曇野市という中にいるだけでは世の中が分からない。	65～74歳	堀金	会社員	男性
・いろいろな学習がある。自分にあったものを見つけ、学ぶことによって生きがいに通じていくと思う。それが認知症を防ぐことにもなると思う。	65～74歳	堀金	自営業主	女性
・寿命が大変のびている現状に、目標を持って前向きに老いを全うすることがますます必要になってきました。生涯学習の重要性を感じております。	65～74歳	堀金	専業主婦・主夫	女性
・老後も自分を成長させるために必要だと思います。	65～74歳	堀金	無職	男性
・人間一生勉強だから。	65～74歳	堀金	無職	男性
・いつまでも人間力の向上は大切である。	65～74歳	明科	自営業主	男性
・学び、仕事を続けることは世間に必要とされていると実感することで、痴呆の予防など健康につながると思う。	65～74歳	明科	パート・アルバイト	男性
・地域のつながりが少なくなっているのので、その面からも生涯学習は必要である。	65～74歳	明科	農林水産	男性
・生きがいづくりのために必要だと思います。ただどこで、またどのようにかは人それぞれであってよいと思います。	65～74歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・人間一生学習が必要であり、高齢になったときの認知症等の予防にも役立つ。	65～74歳	明科	無職	男性
・なにか趣味なり生きがいがないと、つまらない人生になってしまう。	65～74歳	明科	無職	男性
・自分の身の上で起った問題を適切に処理するために、また人に迷惑をかけないために必要だと思う。	65～74歳	明科	無職	男性
・一生勉強、人生は気力。一生青春、人生は関心。一生即実、人生は感動。人生はこのような気持ちで生活して生きたい(目標として)	75歳以上	豊科	会社員	男性



問19 生涯学習の必要性について 1 必要だと思う

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・仲間づくり、自分の健康、ボランティアをしての相手の嬉しそうな姿に元気をもらう。自分の生涯のために続けられる限りやっていきたいと思う。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・今でも漢字等の勉強をしています。それはとても楽しいです。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・現在はインターネット他、色々と便利ですが、いつか災害の起きた時は全てストップしたらやはり自分自身が色々なことを身につけておく必要がある。特に書くことは大切と思う。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・死ぬまで元気でいたい。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・自分が年を重ねてきて、今思うことはもっと早くから自分のやりたいことを目標に、子育てが終わってからでなく、40代で、無理なら50代の頃に始めていたらもっと上達していたかと。年をとってからでもできることでよかったと思います。体づくりにはスポーツ、ウォーキングなど必要だったといま後悔しています。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・ボケ防止のためにも必要だと思う。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・学校教育だけが学びの場というわけじゃない。人生を楽しく悔いがない生き方をするための場も必要である。	75歳以上	豊科	無職	男性
・生涯にわたって生きがい、健康(心身)維持、多くの人との交流のため。	75歳以上	豊科	無職	男性
・いくつになっても学ぶことはよいと思います。しかし80才くらいになると体のあちこちも悪くなるので40、50才くらいの方にアンケートを出して意見を聞いた方が今後のためになると思います。	75歳以上	豊科	無職	女性
・絶対必要だと思います。勉強に限らず社会常識、まわりの人々への心の持ち方、伝統文化、伝統文芸、日本人の心の持ち方等、残してほしいです。	75歳以上	豊科	無職	女性
・必要なことはわかっているが、行動が伴わない。	75歳以上	穂高	会社員	男性
・元気でいる限り、生きがいとして必要だがら。	75歳以上	穂高	自営業主	女性
・認知症にならないため。	75歳以上	穂高	自営業主	女性
・知らないこと、学び足りないことがたくさんあるから。	75歳以上	穂高	自営業主	女性
・人生は一生勉強だと思います。	75歳以上	穂高	農林水産	男性
・社会常識を身に付けること。	75歳以上	穂高	専業主婦・主夫	女性
・高齢者になっても、ひきこもりにならないようにするための手段の一つだと思う。	75歳以上	穂高	専業主婦・主夫	女性
・市として発展が望ましい。	75歳以上	穂高	専業主婦・主夫	女性
・人生を豊かにする。	75歳以上	穂高	無職	男性
・①老人大学等がある。②NHK文化センター等がある 但し、内容が若い人にもできるように土曜、日曜日に実施してほしい。	75歳以上	穂高	無職	男性
・①参加することにより他人と接触→コミュニケーションができる。②知識の向上が得られる。	75歳以上	穂高	無職	男性
・今後も大いに続けていただきたいと思います。	75歳以上	穂高	無職	男性
・地域外も含めて、求めている人達の要望に応えるのは自分の喜びでもある。	75歳以上	穂高	無職	男性
・大学で学んだ専門分野とは別に、趣味的な世界、例えば文学や歴史などの分野についても学んでみたいから。教養の幅が広がれば、人生が楽しくなるから。	75歳以上	穂高	無職	男性
・学校教育以外にも地域の文化など学ぶことは大事だと思う。	75歳以上	穂高	無職	男性
・形式的な教育でも終わりはしない。	75歳以上	穂高	無職	男性
・生涯学習だから。	75歳以上	穂高	無職	男性
・学校教育の内容についてどの範囲について学んだかによるが、学校教育では学ぶことのできないその地域の生活常識や、歴史、文化等があるし、人との付き合いがあるし、脳活性化して楽しく生活するために、常にあらゆることを学ぶために私は、人の話合やテレビを見て自分なりに判断している。	75歳以上	穂高	無職	男性
・勉強は一生大事だから。	75歳以上	穂高	無職	女性
・社会の流れは常に進んでいる。その流れを見据えて進むには、常に勉強が必要だと思うから。	75歳以上	穂高	無職	女性
・生活を豊かにしてくれる。私は75歳以上になりますが、生涯現役、またそれを支えるためには健康で少しでもボケないようにと努力しております。放棄した時、人生を放棄したに等しいと思っております。そうならないために日々努力、前を向いて進むしかないし、また身体能力を落とさないよう、気力の充実を心がけております。学び続けることは必要と思います。	75歳以上	三郷	自営業主	女性
・健康でいるため。	75歳以上	三郷	パート・アルバイト	男性
・私は84歳です。体調が優れず交通手段もないので、現在家にいることが多く、あづみんの利用も不便です。家にいて読書くらいが唯一の慰めですが、目が悪くなり、それも思うに任せなくなりました。いい方法があったら教えて欲しいです。	75歳以上	三郷	専業主婦・主夫	女性
・いかなる学習や研究は1人でする限度は決まっている。仲間がいれば広く深く長く追究できるのではないかと。	75歳以上	三郷	無職	男性

問19 生涯学習の必要性について 1 必要だと思う

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・人生に卒業はない。生きている限り何か学ぶ必要があると思います。ただ体調と経済力が必要。	75歳以上	三郷	無職	男性
・暇になると何か勉強したくなる。	75歳以上	三郷	無職	男性
・自分の好きなことを続けることは大切だと思います。が、強制はだめ。	75歳以上	三郷	無職	女性
・いくつになっても興味を持たなくてはと思っています。	75歳以上	三郷	無職	女性
・生涯学習が必要だと思う。いろいろ進歩しているから。	75歳以上	三郷	その他	女性
・人として生きていくために必要なことと思うからです。	75歳以上	堀金	無職	女性
・知識や学習経験は人間の考え方をまっすぐに伸ばしてくれると思う。若々しい活動力こそ、生きがいになると思う。	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性
・頭を使わなければバカになってしまう。	75歳以上	明科	無職	女性
・子供たちについて行けない。教えてもらわなければ。	75歳以上	明科	無職	無回答
・学び続けることは脳の活性にもなるし、生きがいにもなる。	75歳以上	無回答	専業主婦・主夫	女性
・人生の高齢化時代を迎えて「健康で老いる」ことができるため、多面にわたって学習機会は必要と思う。	無回答	無回答	無回答	無回答

問19 生涯学習の必要性について(「2 必要だと思わない」の理由)

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
<ul style="list-style-type: none"> <li>大事なことだとは思いますが「必要」だとは思いません。</li> </ul>	35~44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>(無効回答「どちらでもない」)何か学びたいことがある方は生涯にわたって学び続ける意義はあると思う。学びは他者に言われてやるのではないため、一概に学び続けることが必要だとは言いきれない。学びたいことがない方は学ばなくてもよいし、学ばないことが悪いことではないと思う。</li> </ul>	35~44歳	穂高	会社員	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>学びたいものは学ぶべき、生きがいにもなる。</li> </ul>	55~64歳	豊科	会社員	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>公務についている人たちは、広い意味での社会常識を学習する必要があるのではないかと思います。一般の人は人生の波の多い昨今ですので、できるときとできないときがあることがほとんどです。その事情を理解した計画が大切なことです。</li> </ul>	65~74歳	穂高	パート・アルバイト	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の自由だから。</li> </ul>	65~74歳	穂高	無職	女性

問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・インターネットが当たり前のこの社会、仕事が終われば家でパソコンの前にいる時間がほとんどですが、同じ年の人たちと集まれるような場があれば機会があればと思う。	24歳以下	豊科	パート・アルバイト	男性
・生涯学習はまちづくりにおいても欠かせないものだと思います。生涯学習が盛んであると地域の人への、自分が住んでいる町での関心が高まり、まちづくりにも積極的に目を向ける。向けるように促すことが生涯学習としてこれほどいい結果はありません。それだけではなく、「学ぶこと」自体とても純粋によいことであると思います。「学んでいくこと」を生きがいとできたら充実した生活ができると思います。安曇野市の生涯学習が盛んになったら一住民として嬉しいです。	24歳以下	豊科	学生	男性
・生涯学習というのは絶対必要だから、もっと生涯学習というものを広めて欲しい。もっと地域の活動に協力するように周りに広めたい。	24歳以下	穂高	会社員	男性
・学びの場が少なく感じる。市の図書館は学びの場として、とてもいい所だと思う。	24歳以下	穂高	会社員	女性
・大体、生涯学習に含まれる学習がどこまでの範囲なのかよくわからない。(学校教育や、部活動で外部コーチのもとで行われる社会体育などは含まれているのですか?)生涯学習を広めたいならどんなものなのか、どんなことをしているのかという概要を含めた案内チラシを作ったらよいと思う。学生には特に情報が入ってこないの、学校にもチラシを配布してほしい。	24歳以下	穂高	学生	女性
・生涯学習という単語を聞くこともあまりないし、内容など具体的な意味も知らない。10代20代は基本的にソーシャルメディアで情報を得て発信する。広めたいのならソーシャルメディアを利用するのが手取り早いと思う。	24歳以下	穂高	学生	女性
・はじめて知ったので、これから考えていきたいと思います。	24歳以下	三郷	学生	女性
・親が広報などで調べてくれて、わりといるんなことに挑戦した。小学校の時、「あかしなみっけ隊」というのがありました。生涯学習の範疇が分かりませんが、地域に飛び出し、自然に触れ、いろんな知恵も授かりました。野草をとって料理にしたり、草木染め、燻製なども教わった。学校ではやってくれな、大学生になった今、とてもいい経験だったと思う。節郎美術館で写生や水墨画を習ったりしたのも楽しかった。机上の学習ではなく、体験して個々が気付くふるさとの良さ、魅力の発見だった。高校生、大学生、社会人になりたて世代の我々は、地域においては積極的に学ぼうという気持ちはない。なぜなら、学校の勉強や学校における活動(クラブやスポーツ)、人間関係やおつきあいで毎日精一杯だから。本当に忙しい。今は、これ以上自分の生涯学習にさける時間はないけど、年を重ねた大人が学んだり、誰かのために活動する姿は素敵だと思う。	24歳以下	明科	学生	女性
・特にありませんが、住みやすい環境作りをしてください。	25~34歳	豊科	会社員	男性
・これからの時代、国際化に伴い外国語や外国文化について気軽に学べるようになるのがありがたい。「気軽に」というのが難しく、広報やポスター、チラシなどを見て問い合わせるといのは、ややハードルが高いから、メールやソーシャルメディアなどで情報を発信してもらえると、気軽に問い合わせられるような気がします。	25~34歳	豊科	会社員	女性
・特になし	25~34歳	豊科	自営業主	女性
・生涯学習と聞くと、何となく学生よりも年配の、さらに上のお年寄というイメージを抱いています。本来の言葉としては、学校を終了した人なので20代の社会人も含まれるのですが、あまり若者のイメージはありません。安曇野市が高齢化しているせいなのでしょう。今やっていた市老連の方々の展示を拝見させてもらいましたら、とても上手でパワーを感じました。それと市老連(中ではいろいろあるかもですが)の人々がうらやましいと思いました。小学生や市老連など、行動範囲が限られたりすると、近所の人々とまとまるのかしらと思ったりしました。生涯学習に関しては、年配の方がよくやっている気がします。忙しいのかな、働き盛りは。	25~34歳	豊科	公務員	女性

問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
<ul style="list-style-type: none"> <li>問18の設問を見ても思うのですが、生涯学習として私が必要と思っていることと、市が取り組むべきと考えている事柄は全く異なっているのを感じます。私は数年前まで、地方の政令指定都市で暮らしていたので、行政主催はもちろん、企業主催のビジネスセミナー、趣味等、自分が求めることを学習するチャンスはたくさんありました。しかし、安曇野市は住んでいる方々も地域特性も重要視すべき課題も違うので、同じように求めるのも難しいと感じます。とは言え、若い世代に気にしてもらわないと困るので、市主催のセミナーは無理にしても、松本市や近隣地域で開催される生涯学習の場を発信することは今以上に行っていたらいいと思います。(先日、広報あづみので松本市で行なわれる在宅セミナーの情報はありがたかったです)</li> </ul>	25~34歳	豊科	公務員	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが小さくても参加できるような環境にしていきたい。積極的に参加したくても仕事で平日に休みがなかったり、日程が合わない人も多いと思う。</li> </ul>	25~34歳	豊科	パート・アルバイト	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>何かやりたいと思うが、なかなか一歩を踏み出せない。きっと市でもいろいろ講座をやられてたりするだろうが、なかなか知る機会がないし、年齢層が高いイメージがある。興味はあるので、魅力的なものがあれば参加してみたいと思う。</li> </ul>	25~34歳	豊科	パート・アルバイト	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>交流センターや図書館はあまり利用していないのですが、いつも大勢の方が利用しているので現状もよい状態なのでは、と思っています。</li> </ul>	25~34歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>若い安曇野市民に地元愛を持たせる為の取り組みがない。そのため、肝心な一番の働き手が外部に流出し企業の間がスカスカ又は外部の方が、収入が見込める為離れていく。もっと若い世代に魅力のある都市びししないと未来はない。</li> </ul>	25~34歳	穂高	会社員	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>今は仕事が忙しく、時間にあまり余裕がないので、市の生涯学習の機会になかなか参加できていないが、余裕があれば、いろいろ参加してみたいと思う。「図書館みらい」は、仕事帰りでも開いていて、とてもありがたく利用しています。</li> </ul>	25~34歳	穂高	会社員	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>やりたいと思っても、どんな物があるのかなど情報が手に届かない。もう少し色々な所で情報を目にする事ができれば、積極的に参加したい。</li> </ul>	25~34歳	穂高	パート・アルバイト	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>なかなか仕事をしていると広報を読む機会がない年代もいるし、あえて興味のある分野を市を通じて探そうという発想が起きない気がします。修学旅行に実際学生の時に行った時とは違う捉え方を大人になってからして、もったいないことしてたなーと思うことは常日頃あるし、地域のことでも学生時代は深く考えて学んでいなかったが、大人になるとおもしろいと感じる事が多く、そういうものが安曇野市にはたくさんあると思うので、ソーシャルメディアやインターネットでの検索をしやすくすることで、もっといろいろな人の生涯学習が広がる気がします。市でいろんな取り組みをしているのに、一部の人しかあまり周知されていない気がする。学習だけでなく固いから参加しづらいけど、食べ物とか付加価値つけると気軽に参加しやすくなる気がします。</li> </ul>	25~34歳	穂高	パート・アルバイト	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活している中で、いろんなことに興味を持ったりしますが、ひとりでは行動に移すことができないことだらけで、そんな人たちが自分の知らなかった世界に一歩踏み出しやすいような環境を安曇野市の方々にはつくって欲しい。自分もそっち側の人間になりたいと思っています。安曇野が好きだから安曇野に生涯学習を通して貢献していきたいです。</li> </ul>	25~34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>運営する側は公民館や施設の使用料が高く、場所を決定するのに困ることが多い。まだまだやっぱり子どもがいると学べなかったりすることが多いので、子育て中は子どもと一緒にOKの子育てセミナーくらいしか学ぶことができない。</li> </ul>	25~34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の野菜作りなど経験豊富な方から、お話を聞いたり実際に教わる講座などがあったらいいと思う。若年者同士が集う講座(ヨガ、フラワーアレンジメントなど)が欲しいです。</li> </ul>	25~34歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>安曇野市はもっと生涯学習に力を入れるべき。</li> </ul>	25~34歳	三郷	会社員	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>「生涯学習」という言葉は知っていても、どのようなものか考える機会はありませんでした。学びたいという気持ちがあっても、子育てに追われてなかなか実現できないのが現状です。しかし考え方を変えてみますと、子育てというものも日々勉強、新しい発見ばかりです。改めて「学習」といわれると身構えてしまいがちですが、誰もが皆「知りたい」と思ったことを気軽に「知れる」環境があればいいと思います。また、子育て中や介護中、その他の理由で外出が難しい方向けに、自宅学習できるようなものがあれば、気軽に学習できるような気がします。まとまらない文章で済みません。期待しております。</li> </ul>	25~34歳	三郷	専業主婦・主夫	女性



問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・市の体育館にジムがあり、市民は1回200円という市があります。健康づくりのためにも、こうした施設があれば利用する人は沢山いると思います。	25～34歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・何かを少しずつでも学べることが、毎日あればよいと思う。分野を問わず。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・仕事上さまざまな資格試験を受けているが、学校教育以上に社会に出てから勉強していると思う。なかなか家庭では勉強し難いが、図書館はよく利用しているが、平日や夜間の営業時間を延長していただけたら、社会人としてもっと図書館等の施設を利用できると思う。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・安曇野市には芸術文化ホールがありません。全国のサミットや学会や、歌謡ショーや、公開番組。文化芸術の全国大会や音楽会などができません。県内6番目の人口を有する市としてはありえないと思います。大きな多目的ホールをつくること、そして知識ある人を置くことで、幅広い年齢層の文化振興と、生涯学習のための技術の習得が可能となります。そこに置く人さえ間違えなければ、呼吸をいつまでもさせることができれば、反対意見は少しずつ消えていきます。多目的ホールの中に、会議室やスタジオ等を併設すればカルチャーセンターを開設することもできます。安曇野市教育部が団結し、スポーツと文化振興と生涯学習とを若い世代のために底上げを行う一石三鳥を投じてください。私は見守っています。	35～44歳	豊科	会社員	男性
・生涯学習は高齢者向けのイメージが強く、30～50歳でも参加できるもの、家族単位で参加できるものがあればいいと思います。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・生涯学習は個人の自由意志なので、市で全面的に推す必要性をあまり感じませんが、人生に彩りやメリハリ、生きがいを感じることを広く勧めるには、市が入口になっていると、より生活に取り込みやすいと思うので、学習などの広報を行なってほしいです。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・今子どもが小学生にいますので、スポーツの役員や手伝いなど地域と関わっています。いろいろ子どもの成長を通し、親として成長を感じたり、経験させていただいています。また、公民館でも先輩の方がお豆腐を作ったりと、いろいろな活動をされているのを見ると、自分も子どもから手が離れたら参加したいと考えています。「生涯学習」という言葉は堅苦しいですが、実際はもっと簡単なことで、地域や仲間とともに活動することで、人生を充実させていくということになるだろうと思います。	35～44歳	豊科	パート・アルバイト	女性
・学校教育で近代史(国史)もきちんと学ばせたいとは思っています。いろんな思想に左右されない事実(史実)ありのままを伝え、そこからそれぞれが考えを深めるべきだと思います。自分の始末もつけられないような、ふらふらした人間が多いのは、近代史の学び不足、片寄った情報、行き過ぎた平等のせいなんじゃないかな。	35～44歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・共通の目的を持った仲間とのつながりを大事にしなが、地域に貢献していきたい。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・生涯学習という言葉が当たり前かのようにアンケートを配布してくる行政のやり方はどうかと思う。まず生涯学習とは何なのかを前置きすべきと感じた。生涯学習について考えたことは一度もありません。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・学校教育では、一見して自分には不要な学習を押し付けられることが多い。しかし多くの知識にふれることで、その後の人生で趣味や娯楽を新しく始めるときのきっかけとなる場合が多いと思う。子どものころにやった昆虫採集がきっかけとなり生物学者になったり、会社仲間とそば打ち体験をしたことで、リタイア後の趣味としても楽しく続けることができたなど、広く浅い学習でも、後の人生にきっかけとして重要な意味をもつことはある。年代を問わず、いろんなことを学びふれていく環境があることは非常に重要。年をとるほど人は新しいことを始めるのに臆病になるらしい。過去にほんの少しでもかじっていること柄なら、始めやすいし興味も持てるはず。バラエティに富んだ学習を老若男女問わず選択し、またそれが継続できる環境を整備してください。よろしくお願いします。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・申し訳ありません。言葉は聞いたことがあるのですが、今まで全く興味がなく、どういう活動をされているかほとんど知りません。これを機に安曇野市が生涯学習にどのように取り組んでいるか関心を持ちたいと思います。職員の皆様は本当によくやられていると思います。なお一層お励みください。	35～44歳	穂高	会社員	男性
・小中学生のスポーツ活動において、気軽さがない。また各施設の駐車場が占領され不快、マナーが悪い。楽しく活動しているように思えない。部活動の延長になってしまっているようで、別のスポーツをしている子どもが入るのが気が引ける。	35～44歳	穂高	会社員	女性

問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・生涯学習といわれても全くよくわかりません。全くよくわからないのですが、返信しなさいということなので、とりあえず記入しましたが、このアンケートに意味があるのかわかりません。	35~44歳	穂高	会社員	女性
・市は、大きな施設をつくるだけではなく、運営に関わる人件費をきちんと使って欲しい。豊科公民館はまさに「箱物」、ホールをリニューアルしたけれど利用料が高額、スタッフが充実していないので使えない。みらいのように専門のスタッフをつけて、割引(減免)があるとよい。松川はその点素晴らしい。みらいの江崎さんやスタッフの方がきめ細かくサポートしてくださるのでとても使いやすい。豊科公民館がきちんと活用される施設になって欲しいと、本当に強く思います。	35~44歳	穂高	自営業主	女性
・仕事や子育てでなかなか自分自身の時間が取ることができず、参加してみたいものも参加できないのが現状です。いつか子育てが落ち行いた頃に少しずつ色々やってみたいと思いますが、まだしばらくは・・・子育て中のお母さんは子どもを預けることができれば少し自分の時間がとれると思うので講習や講座学習中託児が無料であればお願いできる環境があればいいなと思います(ファミリーサポートは高すぎてなかなか使えません)。	35~44歳	穂高	自営業主	女性
・学ぶ環境があれば、ぜひ参加したい。	35~44歳	穂高	公務員	男性
・「人が集まる！行列ができる！講座、イベントの作り方」(講談社+α新書)がとても参考になりました。是非活かしてもらえたらと思います。	35~44歳	穂高	公務員	男性
・体育館の借用が取りづらい。三郷文化体育館を利用した際に、図書館があり、騒がしいのでロビーを使用しないようにいわれた。体育館と図書館は環境が違うので、近接するのはどうかと思う。	35~44歳	穂高	公務員	女性
・今のところ、時間的にも精神的にも余裕がなく、具体的に考えてはいないが、そのうち余裕と興味があったら、何かやってみたいとは思っている。その時にきっかけになるような情報があつたらうれしい。	35~44歳	穂高	パート・アルバイト	男性
・英会話サークルとかもつとあれば楽しいのになあ。	35~44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・学校を卒業してしまえば、なかなか学習することは難しい。仕事や家のことなど、やらないといけなことが多く、学ぶということに時間をかけるのが大変。やりたい気持ちがあっても実行できないのが現実。	35~44歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・いまいち生涯学習がわかりません。	35~44歳	三郷	会社員	男性
・テレビやインターネットもいいが、新聞を読むこと。読まないで識字率などの低下。国際競争率の低下など、日本の問題となってくる。	35~44歳	三郷	会社員	男性
・このアンケートを書くことになった者、悩みました、記入に疲れました。結果は何らかの形に表してください。何とか30日には間に合うと思います。	35~44歳	三郷	会社員	女性
・生涯学習といわれてもわからないけれど、有料のカルチャースクールや施設の利用をする代わりに、市でやってくれるということですか。お金がなくて諦めているので、市でいろいろやってくれるなら参加したいです。	35~44歳	三郷	会社員	女性
・英語をもっと話せる場が欲しい。ボランティア育成もよいなと思います。気軽に感じて楽しく。	35~44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・生涯学習は自己実現する上で重要で必要なことだと思います。ただ、そう思えるような考えを持てるようになるには子どものころの経験、体験が重要だと思います。学ぶことの楽しさ、大切さ、仲間づくりなど。我が子は来年1年生になり、小学校へ入学します。期待や不安もありますが、これから我が子の人生がキラキラしたものであることを望んでいます。ところが、入学説明会で先生から入学を不安にさせる、入る前から学校に失望する言動がありました。市として形だけでなく学校や講座など中身もきちんと真剣に取り組んでいただけたらと思います。ちょっと愚痴になってしまいましたが・・・これから未来にむけて子どもたちの教育、体験が地域や社会を変えていく上で大切だと思います。	35~44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・幼いころから地域の方々と交流があることによって、自分一人から一人の人間として見られているんだという意識が高まり、積極的に地域に関わっていけると思う。また大人になってからでも、学ぶことができる場があるということはいいことだと思う。	35~44歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・生涯学習に参加する子どもたちが少ないように感じる。未来を担う子ども(宝・財産)がもっと積極的、楽しく参加できる企画をたくさん作り、市、街を小さい頃から盛り上げてゆける機会をもっと増やしてほしい。市、街の大人みんなで子どもを見守ってゆける県にしたい。	35~44歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・じいさん、ばあさんのことしか県、市は考えていないように思う。子どもの学ぶ場所を増やすべき。	35~44歳	堀金	会社員	男性
・時間があれば、金があればやってみたくはたくさんあるが、今はその時間と金がない。子育てが一段落すれば考えることができると思う。	35~44歳	堀金	会社員	男性

問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・障がい者や経済的弱者が、学業はもちろん様々なことが学べる場を提供すべき。何十億円もかかるスポーツ施設は要らない。教育にお金をかけて欲しい。	35～44歳	堀金	自営業主	男性
・市民一人ひとりの自己向上。豊科近代美術館の名称について、生涯学習の一分野を担う市の施設であるので、安曇野市近代美術館であるべきだと思う。豊科だけが一人歩きとは不公平、不満です。早急に治してほしい。明科は犀川の東、松本に近い地域であるが、万一地震などの災害があった時、本庁との連絡が2つの橋しかなく、穂高の大王わさびの観光客を誘致するようなつり橋はできないか(パニックにならないように)	35～44歳	明科	会社員	女性
・「生涯学習」という言葉が堅苦しく感じ、イメージし難い。「自分みがき」などもっと馴染み易く誰にでもイメージし易い言葉はないでしょうか。	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・特にありません	35～44歳	明科	専業主婦・主夫	女性
・具体的に年齢設定をして、より限定した世代集団をつくることによりコミュニティが生まれて活性化のきっかけになると思う。世代の幅が広いとチームワークがうすくなりがちだが、5歳～10歳差だと団結力が強くなると思う。該当する世代が求める学習機会があれば人が集い、地域も元気になる。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・インターネット環境を充実させるべき。「市民WiFi」が解放される場所を増やせば若者が集い、市民も集いやす(例:スターバックス)。市民が集まる場所において、市の情報を見せる。例えば「月別学習キャンペーン」「月別〇〇大会」「月別〇〇講座」。若者が参加し始めれば持続的に市の活動が活性化する。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・広報や回覧板やホームページ、目で見て読むだけでは暖かさが無い。やはり生の声での情報を聞き、関心を持つ、やる気が出るような情報の受け入れ方をしてもらうことに力を入れて欲しい気がします。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・生涯学習って何、アンケートして何を答えていいのかわからない。	45～54歳	豊科	会社員	男性
・「何かをやりたい」という気持ちはとても大事だと思います。趣味でも学習でも夢中でやっていたら脳は活性化されると思います。私のように50代前半なら、勉強したいことを自分で探すことはできます。しかし高齢者はパソコンやスマホなどを使える人はごく一部だと思います。戦争を経験して、ただ働きづめで生きてきた高齢者の方は、やりたいことも見つけれず、毎日を過ごしている人がほとんどだと思います。そして結果、認知症になったり、寝たきりになったり。私は身内にそんな人ばかりです。高齢者は移動する手段もありません。そんな環境でも何かしたいと考えている人はたくさんいるはず。何もできないからと諦めている。そういう方々の気持ちを汲み取ることができないかと、我々の年代の老後の生き方をいろいろ勉強しています。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・夜、開講していただけると参加しやすくなるのでお願いしたい。	45～54歳	豊科	会社員	女性
・安曇野市はあづみの公園や南部公園、図書館、美術館など立派な施設が多数あります。これらの場所で文化的、健康的な講座を定期的に開催してほしいと思います。	45～54歳	豊科	公務員	男性
・松本市の市民会館は施設がいいせいか、有名人のコンサートや芝居が頻りに企画されます。施設がないのは仕方ありませんが、企画にかかる予算もある程度必要かと思えます。市の講座は同じ人が何回も参加する傾向があります。幅広く違う人(一度も参加したことのない人)を呼びこめるような魅力的な企画をお願いしたい。	45～54歳	豊科	公務員	女性
・思っているも何も、生涯学習で何をやっているのかもわからないので答えようがないかな。図書館で本を借りて読むことも学習ならやっているけれど、何かあります。いまいまいちわからない感じでした。	45～54歳	豊科	パート・アルバイト	男性
・自分が興味を持てる講座に今年初めて参加したが、若い人が見当たらなかったのが残念であった。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・生涯学習という言葉がよくないと思います。やらなければという気負いがつながらうような。市が主導して計画するにしても、高齢者向けよりも子育て中の世代に向けたものを充実してほしいです。安曇野市は子育て環境がいいとは思えません。保育園も他市に対して質がよくないように思えます。いろいろ含めて若い世代が楽しくないと発展はありません。	45～54歳	穂高	会社員	男性
・カルチャーセンターなどと協力してみてはどうでしょうか?夜間の講座ができるのではないかと思います。	45～54歳	穂高	会社員	女性
・アメリカにはコミュニティカレッジというものが、電気関係や溶接、大工仕事、車の修理など生活に必要な技術を学べる環境があるのに、日本にはなく、とても残念だと思います。	45～54歳	穂高	自営業主	男性

問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
何かやりたい挑戦したい学びたいと思っても、やはりきっかけがなかなかなく、飛び込んでいけないのが正直なところです。そのための細かい情報、仲間で誘い合って気軽に参加できる会が、数多くあればいいなと思います。	45～54歳	穂高	公務員	女性
もっと興味のある内容の企画とかがあれば、やってみたいと思う。親子で何かを作るとかの企画があればもっとよいと思う。	45～54歳	穂高	パート・アルバイト	女性
大系線の沿線(安曇野市だけでなく)、松本市や大町市の大学や高校を連携して講座を作るのもよいのではないのでしょうか。人文系や社会福祉の講座なら、大学から講師を呼ぶ方が早いのではないのでしょうか。特に語学(英語)は、最近松本近辺でも外国人観光客がふえたので、社会人になった方でも英検3級程度(日常会話に困らないレベル)の英会話ができるようになりたいと思っている人も多いかと。	45～54歳	穂高	その他	女性
市内の里山や田園地域を歩くコースを整備してほしい。	45～54歳	三郷	会社員	男性
歴史に興味があるので、そのようなイベントがあれば時々参加したい。山歩きがしてみたいが、個人的に同行してくれる人を探せないで、イベントで参加したい。	45～54歳	三郷	会社員	女性
制度が曖昧な感があります。地域コミュニティーを保つためにも、定期的な学習の機会をとるべきだと考えます。人間ドックのような方式がいいかも知れません。このままでは地域と学校の結びつきが希薄になってきそうです。何らかの形で地域とのつながりを、やや強制的でもつけたおくことが、今後につながると考えます。	45～54歳	三郷	公務員	男性
何かを学びたくても時間がなく少しの時間でも学べるものがあればよいと思います。ちょうど40～50代は仕事・子育て・家事に振り回されて本当に忙しいです。自分の時間はほとんどとれません。その中で何か見つけて仕事や子育てが終わった時のために今から見つけていかれたらいいと思っています。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
地域活動にあまり興味がなく、知らないことばかりでした。もう少し生涯学習に目を向けてみたいと思います。	45～54歳	三郷	パート・アルバイト	女性
全体において情報が伝わってこない。	45～54歳	三郷	その他	女性
松本は遠いので、毎日仕事帰りに気軽に利用できる安いトレーニングジムを作ってください。	45～54歳	堀金	会社員	男性
もう少し気軽に参加できるボランティアや勉強会のようなものがあれば、よいと思っています。ただその時だけでなく、次へつながる(強要ではなく)もの(しくみ)があれば、経験やつながりが積み重なっていきける気がします。	45～54歳	堀金	会社員	女性
生涯学習センター、「みらい」や「きぼう」のような施設が堀金にも必要。	45～54歳	堀金	その他	男性
若い方向けのものを市は考えていない。	45～54歳	明科	会社員	男性
通常の生活を送る中で何らかの「キッカケ」が必要だと思います。学習したいと思っている人は多いと思いますが、どうすればよいか方法がわからないことがほとんどではないでしょうか。広報あずみのも目を通します。通勤途中であずみのFM放送の「広報あずみのラジオ版」は情報が自然に入ってくるので意外と効果があると思います。まず「キッカケ」が欲しいと思います。	55～64歳	豊科	会社員	男性
特にはありません。アンケートに関して一言、2,500名無作為はもったいない気がします。若年層を多めに選出した方がおもしろいと思います。	55～64歳	豊科	会社員	男性
参加費が無料、低額であれば気軽に参加できると思います。夕方から夜、休日等の設定もあればよいと思います。	55～64歳	豊科	自営業主	女性
まだ現役で仕事をしているので、時間がとれません。時間が自由になったとき、注目してみたいです。	55～64歳	豊科	自営業主	女性
気持ちや体力に余裕がない。強制されるのも抵抗がある。さもやっていますよとアピールされるのも嫌だ。自分のしたい趣味を自分のペースでやっていきたい。	55～64歳	豊科	公務員	男性
地域の交流の場、学習することで生きがいになればいいことだと思います。	55～64歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
生涯学習とは言っても、やりたくても足がないと現実には何もできない。交通手段をもっと手軽に使えるようにしていただきたいです。	55～64歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
情報を調べようにも家にはインターネットがないので調べようがない。	55～64歳	豊科	無職	女性

問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・生涯学習が必要と思ったり、興味があっても、どう取り組んでいいかわからないので情報の発信をしっかりとしてほしい。市の職員や地域役員には情報が伝わっても、関係していない人は知らない事が沢山あると思う。生涯学習を改めて考える時は年齢も増しているため、高齢になると増々参加しにくいので、身近な場所、行きやすい場所に学習できる場所を作ってほしい。又、生涯学習を指導してくれる人にも、それなりの収入が得られる様配慮し、市の職員として雇用してもらえれば、充実した生涯学習の場が、できるのではと思う。	55～64歳	豊科	その他	女性
・現代は、市で生涯学習の機会を与えてくれなくても、自分で学ぶ気持ちがあればインターネット等、様々な情報媒体が揃っている。理想を追ったことにとらわれず、地道な税の使い方をしてほしい。	55～64歳	穂高	会社員	男性
・身近なところ集まれる場所をつくって、それぞれやりたい(やってみたい)ものを多く目にすることができたらと思います。しゃくなげの中などにも設けてもらえればいいと思う。豊科や穂高、堀金など中心部にしかない所が参加できない理由の一つではないでしょうか。	55～64歳	穂高	会社員	女性
・安曇野市となってから、まだ各地域での活動の域を出ていないと思います。市全体としての活動が活かされていません。窓口を早期に充実、広報をよくして生涯学習の基盤が作られることを希望します。退職して安曇野市に戻ったのですが、都市部より高齢者(60～70歳くらいの方)の方々の考えが少し古いです。自分たちの仲間や風習にのみとらわれないようなリーダーを活用、育成すべきと思います。	55～64歳	穂高	自営業主	男性
・以前、しなの教育会館で生涯学習センターがあり通っていた。身近な所ではあまり施設がないですね。本来公民館などが活発であればよいと思いますし、リーダーが必要かと思えます。	55～64歳	穂高	自営業主	男性
・与えられるものではなく、生涯学習とはならないと思われる。そのきっかけとして各種機会があればよいと思えます。	55～64歳	穂高	公務員	男性
・昼間は仕事をしているので、参加する機会が少ない。土、日、祝日、夜間の講座を増やしてほしい。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・主婦は子育て、男性は仕事が終わるとどのように生活してよいか分からなくなる。家にいるだけでは視野が狭くなる。外へ出て、何かを学ぶことは人間関係もできるし、視野が広がる。体も健康第一だが、精神の健康も大事。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・現在週3日のパート勤め以外は、市内在住の高齢者の両親のところは介護に通っているため、いろいろやりたいことはあってもできない状態である。交通手段がない人は、活動範囲が限られる。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・日々向上したいと思っていますが、時間調節がうまくいきません。学習日を多くして、できるだけ参加できるようにしてください。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・グループとか、もう決まっている人たちの中にはいるのは難しいかしらと思う。仲間になるのに時間がかかるのは当たり前ですが、よい人、仲間と巡り合えばいいと思います。	55～64歳	穂高	パート・アルバイト	女性
・学ぶことは自分の生きがいにつながるから。	55～64歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
・ワードやエクセルなどパソコン教室が広報などで出るが、大概ノートパソコン持参となっている。わが家はデスクトップ型なので持っていけない。ノートパソコンがない人には貸し出すか、デスクトップ型のある教室でやれるよう改善を求める。	55～64歳	穂高	無職	男性
・手話を自由に表現できる能力を身に付けたい。そのような場をつくってほしい。	55～64歳	穂高	無職	男性
・皆が誰でも生涯学習し続けていると思う。ごく自然な形で生涯学習が推進できるとよいと思う。	55～64歳	穂高	無職	男性
・自治体、大層に生涯学習などと上から目線で呼ぶことはあまり賛成できない。住民から何かしたいと思ったときに環境が整っていることが必要だと思ふ。	55～64歳	穂高	無職	男性
・生涯学習という表現自体が硬すぎるのでは。種々のサークルや同好会の位置付け(表現)で取り組まなければ長続きしないし、取っ付きにくい。生涯学習という、いかにもお役所的呼称はさっさと止めましょう。	55～64歳	穂高	無職	女性
・近年、観光等で日本へ来る外国人の方は多く見受けられます。つい一週間程前、東京に出かけたときのこと、駅やバスの案内など英語のガイダンスが当然のように多くなっていることや、街中で普通に英語を話されている日本人や外国人、今や英語で話せない時代遅れのような感覚になりました。地方ほど遅れている気が致します。もっと身近に英会話の学習ができる環境づくりをお願いしたいと思います。世界は英語が標準語です。	55～64歳	三郷	自営業主	男性



問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・現在は仕事も忙しく、家族の2人の病人の世話で自分の時間が持てない状態です。そのために世間の情報とも遠くなっているため、今回のアンケートの私の答えは正当性のあるものではないことをお詫び申し上げます。	55～64歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・手近(朝刊)などところから知らなかった資格が取得できるなんて素晴らしい。若い人は、これからの人生も豊かさが増すだろうし、年齢の高い人でも刺激を受けながら過ごす日々は、きっと若々しく過ごせると思います。芸術方面でもいろいろの企画楽しみにしています。	55～64歳	三郷	パート・アルバイト	女性
・広報や回覧板は目を通しているつもりですが、設問に対してのイメージがわからず、答えきれない部分がありました。ゆえに「わからない」が多くなりました。	55～64歳	三郷	専業主婦・主夫	女性
・生涯学習は必要なのでしょう。でも押し付けられるものではないと思います。いろいろなことを学びたいと思っている人はたくさんいらっしゃると思います。が、市や地区は環境を整えることが大切なのであって「生涯学習」をする、しないは住民の意志次第だと思います。	55～64歳	三郷	無職	女性
・自分の能力、体力にあった楽しみ方をすればよいと思った。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・費用のかかるものは考えてしまう。また気軽に一步踏みだすことが難しい環境もある(はじめにグループなどでできていると、その中に入るには勇気がいる)ひとりでも気軽に行き、気軽に帰れるような学習場所がいいと思う。趣味の講座みたいなのも、生涯学習というのでしょうか。仲間とわいわいスポーツを楽しむのも生涯学習なのか。	55～64歳	堀金	パート・アルバイト	女性
・他の市にあるNHKの文化センター等の催しなど、年間を通して一定期間学習に取り組めるような講座が望ましい。	55～64歳	堀金	農林水産	男性
・参加していないのでわかりません。	55～64歳	堀金	専業主婦・主夫	女性
・行政に対して批判な活動であっても、それも一つ活動なら制限を与えるような姿勢はよくないと思う。例えば「平和」学習、「憲法」学習等。また、市内の人に限定など閉鎖的姿勢はよくないと思う。市外の人をとり込むことにより活性化されることもあり人との交流が生まれることで人口の流入にもよいと思う。	55～64歳	明科	会社員	女性
・参加したいが情報量が少ない、又は一部のみで市として何をどうしたいのが見えない。聞いたなら答えるのではなく、自ら積極的に発信して多くの人を巻き込む体質作りがほしい。年間計画とそのレビューの見える化が必要。	55～64歳	明科	無職	男性
・私はマイスター制度に登録しておりますが、仕事がありません。企業、学校、団体(グループ)等で、私が講師できる機会があれば連絡を希望します。	55～64歳	明科	無職	男性
・市として取り組んでいる「生涯学習推進計画」というものが、どのような計画なのか全体像がよくわからない。広報で直近の講座の予定などが載っているが、年間の計画として、どのようなものがあるかわからない。今回アンケート用紙が配布されたが、市が考えている生涯学習という内容が、そもそもどういうものを行っているのかわからない。広報の中でどの内容を指しているのか不明。市のHPに「生涯学習」という内容で紹介されればよくわかるのだが。	55～64歳	明科	無職	男性
・定年後は気軽に身近なところで、いろいろな分野で学ぶことができる機会があると嬉しい。	55～64歳	明科	その他	女性
・実際に参加していないのでよくわかりません。	65～74歳	豊科	会社員	男性
・現在安曇野市の生涯学習の場と、内容を全て一覽で知りたい。	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・市民誰でもが参加できるような費用、場所、指導者、開催方法について検討いただければ幸甚に存じます。特に高齢になりますと交通手段に不安がありますので、地域の公民館、集会所等で開催いただければ参加しやすいですね。無理ですかね。	65～74歳	豊科	農林水産	男性
・活動の場所へ行くまでの足がないので行かない。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・特に高齢者になると家にひきこもりがちになる方が多く、心身の健康面でも生涯学習は必要だと思います。家から一步出て、同じ趣味や学習活動をするにより地域の大勢の方々と知り合い交流の輪が広がるからです。生涯学習を希望しているが高齢になり車の免許を返納する為、活動範囲が狭められている現状をよく聞きます。“あづみん”なども利用している方もいますが時間の調整も、また回数などの制限もあり使いづらいたの話聞きます。高齢者が外出できる為のシステム充実を希望しています。	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性
・高齢者の私は、新しいことに楽しく参加させて頂いております。仲間の皆とは励ましあい努力することは、人生の喜びです。このように自己にあった学習の場に出会うことができれば最高です。私は心より幸を感じています。(能楽の教室にて3年半勉強しています)	65～74歳	豊科	専業主婦・主夫	女性

問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
<ul style="list-style-type: none"> <li>①情報化社会の進歩により、学習のニーズに合わせた情報の入手は広く、かつ早くなっている。行政が企画実施するニーズが、分野によっては1月末より必要が低下しているのではないか</li> <li>②市民相互、住民総員のみとまりや、協働、気遣い等々の分野においては、だんだんブラックホール化している。一方情報の真偽、課題、共有化、心地よい住民環境づくり等、個が中心となってしまった現況がよい姿なのか。学習効果(狙い)の根本を考えていく必要があるのでは</li> <li>③生涯学習の場として旧来の公民館活動の理念は漂流してしまい、教育委員会も指針を示し得ないでいる。公民館長を公募しても、個人の資質に頼るようでは何も変わらない。市民ニーズは何処に何にあるのか。行政の狙いは何に何処にあるのかはつきり示すべきだ(生涯学習の機会がなくなったら、どんな社会になるのかを考えて)</li> </ul>	65~74歳	豊科	無職	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習機会の充実については、親がもっときちんとやるべきと常に思っています。市とか学校ばかりに任せてはいけなくと強く思っています。</li> </ul>	65~74歳	豊科	無職	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩や山歩き等をするのに最適な場所があるとよいと思います。また、歩いたことでどんな結果が得られたか、例えば1か月に何キロ(どの地域まで歩いたか等)どのように健康に役立ったか等、市役所等で数字や形でわかるようなシステムを考えて頂けると取り組みやすく励みになると思います。</li> </ul>	65~74歳	豊科	無職	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>やるのならビジョンを持ってきちんとやりましょう。「やっている」、「やった」など、公のアルバイトに私が付き合わされるのは最悪で、いっそやらぬ方がよるしいかも。公務員の方々も、なかなか忙しいようですから「小さな政府」を考えると同じく、余計なことはやらずに基幹のお仕事をしっかりやっていく方が、住民は暮らしやすいはず。そんなことを考えますに、このアンケートは本当に必要でしたのでしょうか。</li> </ul>	65~74歳	豊科	その他	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>ここでいっている「生涯学習」の意味がわからなくなりました。①自分自身でしている生涯学習 ②人(市)から与えられて学習するもの 途中から間を放棄して、意味をネットで調べてみました。このアンケートは②のことなのですね。いまのところ自主的に生涯学習をしているので①が自分にあっていると思います。こんな私が興味を引くような生涯学習を期待しております。</li> </ul>	65~74歳	豊科	その他	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>私は自分の人生を輝かせ、笑り多いものにしたいと思い、常に挑戦の気持ちで創作活動をしている。それは誰かに与えてもらったり期待するのではなく、自らが努力し頑張り精進することで前進できることと思っている。一生懸命生きることが、私の目標です。</li> </ul>	65~74歳	豊科	その他	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば市職員が地域の公民館に出向いて情報を提供したり、話し合いをすれば、今まではこんなことがなかったので、最初は苦情の山になる(市の活動不足)が、そのうちに楽しみの時間になるのでは。</li> </ul>	65~74歳	穂高	会社員	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>外から与えられるものではなく、自ら取り込むものだと思います。</li> </ul>	65~74歳	穂高	自営業主	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>安曇野市内に市立美術館や博物館がどこにあるのか知りません。また松本美術館のような文化ホールもあるのかわかりません。生涯学習としていかなることをやっているのか、もっと広報をしてほしいと思います。私は県内を転勤して、地元には居りませんでしたので詳しいことがわかりません。いま利用しているのは図書館と公民館です。</li> </ul>	65~74歳	穂高	パート・アルバイト	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット、パソコンの社会となり、自分の能力ではついていけない感じである。</li> </ul>	65~74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習があることも知らないでいた。</li> </ul>	65~74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>私自身もう少し身近に感じられたらいいなと思います。</li> </ul>	65~74歳	穂高	パート・アルバイト	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>安曇野市の歴史や風土について学びたいと考えていますが、まだ現役で仕事をしており時間が取れないのが悩みです。</li> </ul>	65~74歳	穂高	農林水産	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>脳を活性化することによって痴呆を遅らせることができるのではないのでしょうか。</li> </ul>	65~74歳	穂高	農林水産	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事や時間に追われて学ぶ機会に関心がなかった。高齢になりいまさらと思うが、このような機会や情報にふれる場があれば気軽に楽しんで学んでみたいと思っています。</li> </ul>	65~74歳	穂高	農林水産	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者でも初心者でも取り組むことができるインターネット、パソコンメールなどの教室があればいいなと、いつも思っています。私は農家で夏の間は何かと出られないので、11~3月頃の講座があればいいなと思っています。</li> </ul>	65~74歳	穂高	農林水産	女性

問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば私が書道をやってみたくて思った場合。公民館の既存サークルに入会しようとしても受け入れてもらえるか人間関係が心配になる。各種初心者講座を設けてもらえば入りやすくなると思う。多くの会、サークルの高齢化が進んでいて運営が大変になっていることがあるので、市の公的な援助も必要だと思う。会場の使用時間の緩和。会場を借りる場合、使用時間前後10分くらいの余裕をいただけないものでしょうか。活動時間が短くなってしまいます。穂高会館視聴覚室のピアノカバー、どうにかならないでしょうか。私が知っている限りでは、ガムテープを貼ってあった。全体的に的外れなお答えで申し訳ありません。</li> </ul>	65~74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>現状(健康)維持のため。</li> </ul>	65~74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>例えばパソコン、インターネットを習いたくても、ノートパソコンを持参しないといけないう、期間が限られているから参加するのが難しい。サークルに入りたけれどなかなか新たに入会するには入りづらい。</li> </ul>	65~74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>私は他県から来ましたが、中高年者からして常日頃思っていますが、時間の挨拶が全くできていません。したがって子どもにも同じことが言えます。また笑顔が少ない。他県の方と話をすると同じ声が聞こえます。スーパーの駐車場でゴミを車内から捨てることを常にやっています。それは各家庭で教えられることだと思います。この土地に来て、始めて気づかされました。あたりまえの事ができていない大人が多くいる土地だと思いました。文にできないが多くあることには、間違いありません。家庭教育をもっとすべきです。</li> </ul>	65~74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>安曇野市は他市に比べて高齢者が学べる設備、企画、会場が少ない。広報だけでなく広くアピールする方法を考えて欲しい。</li> </ul>	65~74歳	穂高	専業主婦・主夫	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習の定義が明確でない。特に行政が取り組もうとしている生涯学習とはどういうことを目指してやっているのかとの疑問がある。日本社会全体があるいは政府が必要だとしているので、自治体もその意味、目的も定かにしないで、やっているだけではないか。職業人がその職業に従事している間は、当然定年までは必要な学習をすることは求められること、義務だと考えるが、リタイア後の学習とは何のためにするものなのかがよくわからない。リタイア後によりよく生きるために知識を得ることは、学習ということ番の持っているニュアンスとは違うものだと考える。</li> </ul>	65~74歳	穂高	無職	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を通じた仲間づくり、生きがいづくり、いきいき社会の推進による、地域の安全・安心につながり、町(地域)が活性化。元気な高齢者が増えることにより、医療・介護費用の減少。</li> </ul>	65~74歳	穂高	無職	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>安曇野市に籍を置く者が安曇野市に暮らして良かったと思える行政を希望します。ただ景観だけを、アルプスの山並みだけを売りにしているのはいかがなものか？高齢者が日々家にこもり何をしたいのかかわからない毎日をおくるのは淋しい。</li> </ul>	65~74歳	穂高	無職	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分としては、趣味を持ち、興味のあることは自分なりに図書館で本を借りたり、ネットで調べて理解したり勉強したりしているので、生涯学習ということ考えたこともありません。</li> </ul>	65~74歳	穂高	無職	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>スマホの使い方の講習会があったらスマホにしたいのですが。</li> </ul>	65~74歳	穂高	無職	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>人と話すのが好きな人、人見知りの人苦手をどうするか。</li> </ul>	65~74歳	穂高	無職	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習制度がどこで等の機会が分からない。発表・掲示の方法を考えてください。</li> </ul>	65~74歳	穂高	その他	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>How toでなく、哲学を学ぶことが必要でしょう。</li> </ul>	65~74歳	穂高	その他	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>求めないと実にならないと思う。</li> </ul>	65~74歳	三郷	会社員	男性
<ul style="list-style-type: none"> <li>色々な技術、情報を気軽に受け止める。提供場所がほしい。回覧板で見やすく出す。</li> </ul>	65~74歳	三郷	自営業主	女性
<ul style="list-style-type: none"> <li>学ぶことはとても楽しい頃です。時間があれば、体力があれば、学んで新しい世界を知ることは、体験上とても嬉しいことだといつも思います。ただ加齢と共に、以前のように体が動かず、意欲が減少していますが、でもぼんやりしているのではなく、学ぶことが元気の元だと思っています。</li> </ul>	65~74歳	三郷	自営業主	女性

問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
<p>・ 今回のようなアンケート調査は有意であると考えられますが、常設的なモニター員、企画委員会、評価委員会といったものを設置し、市民に委員を委嘱し、施策を進めていくことを希望します。委員は特に意見・要望を持つ、意欲的な方を選抜するようにご留意いただきたい。いわゆる識者の提示する通例的もしくは標準的な意見には事業を改善し推進する大きな力はないと考えます。自薦、他薦を中心に、広く公募することが望ましいのではないのでしょうか。既に同種の機構が市にある場合には、不用な意見として排除して頂いて結構です。私事 2016年4月から安曇野市在住のため現状について理解不十分の箇所が多くあります。学習成果の地域への取り込みなど、学習することのメリットの顕在化を強力に意図していただきたい。(学芸会的な単なる発表会ではなく、商工会との連携など実業的な価値の創出を目指す)学習活動から仲間づくりへの誘導を図る。サークル化や同種団体の交流によって学習者の連携を図る。(生涯学習の個人的側面と学校的側面の調合い)また引きこもり現象への対策として位置付けを研究する。少子化が顕著になり地方自治体の衰退が声高に叫ばれる昨今、地域活性化の基本は教育であり学習活動であると考えます。平均点の発想では対応は困難です。在野の人の、野人たる思想を発掘しなければなりません。もちろん暴走のリスクを避ける評議等のチェック機関は必要です。あるべき組織の設計を含めて、積極的な教育行政を切に希望します。</p>	65~74歳	三郷	自営業主	女性
<p>・ 誰でも軽い運動ができるような場所に運動器具があれば、少し体力の強化をしてみたい。</p>	65~74歳	三郷	無職	男性
<p>・ 学習という机の上の勉強という感じになりますが、現在の超高齢化社会では生涯健康という観点から高齢者に対する運動指導、例えば定期的なインストラクターの招致による運動(エアロビクス等)を簡易に行っていたら、誰もが気楽に参加できるのではと思います。私は7年間ジムに通って体を鍛えておりますが、ジムに通わなくてもよい施設の充実を節に願っております。毎月1万数千円の出費ですが、市の施設が充実していれば多大な出費はなくなると思いますので、健康都市安曇野を目指して頑張っていきたいと思います。とにかく一日も早い総合体育館の完成を祈念いたします。</p>	65~74歳	三郷	その他	男性
<p>・ 私の生涯学習は農業をして、趣味をして、地区の人々と話をして、学習などと思わずに日常を暮らすことが生涯学習と思っています。毎日が楽しく(音楽など)暮らすことがよいと思っています。</p>	65~74歳	三郷	その他	女性
<p>・ 未だ、仕事(会社)の現役であり、学習会に参加する時間的余裕もないが、引退後は参加したいと考えている。</p>	65~74歳	堀金	会社員	男性
<p>・ 施設、お金、人が揃わねば市全体に広まることは難しい。安曇野市内に知人が少ないこともあるが、松本、長野で活動することを考えてしまう。又、防災とか地質という特殊な分野のための安曇野市内での活動は難しいと感じている。又、安曇野市の危機管理一つをとっても、防災倉庫など一般的なことは確保する努力はされているが、安曇野市は安全だという意識が強いようで、話してもわからない人たちという感じを持っている。災害経験のある人たちの話を聞く、災害箇所の調査を皆で見に行く等を心がけていきたいと思っている。</p>	65~74歳	堀金	会社員	男性
<p>・ 今まで仕事、家事におわれ生涯学習を自分から学ぼうとしなかったのがよく分かりません。進んで参加もしませんでした。67歳になり、どのようにこれからか今だ分かりません。介護も父、母10年しました、今年その父も亡くなり、さてこれからどうするのか？</p>	65~74歳	堀金	会社員	女性
<p>・ 内容が合わないため参加しない。</p>	65~74歳	堀金	農林水産	男性
<p>・ 退職してからお話しする仲間、時間が極めて少なくなりました。仲間づくり、共有できる話題づくりにも生涯学習の必要性を感じています。</p>	65~74歳	堀金	専業主婦・主夫	女性
<p>・ 地域の方との連携を保つためにも、いろいろな方と学習、会話をすることが大事と考えます。それぞれの地区には市役所に勤務する人がいると思いますが、その人たちが住民に役所の推進していることを説明していただければ、市と住民のつながりが強くなると思います。</p>	65~74歳	堀金	無職	男性
<p>・ もっと情報誌を家庭に配布するなどしてほしい。</p>	65~74歳	明科	パート・アルバイト	男性
<p>・ 高齢化していく社会で健康寿命でいるためにも、自分でやっているサークル活動やスポーツを通じて仲間を増やし、輪を広げるためにもスポーツ教室、健康に関する講演会などの機会を作っていただきたい。</p>	65~74歳	明科	パート・アルバイト	女性
<p>・ 高齢者にとって生涯学習などという堅苦しい考えでなく楽しく優しくわかりやすく、そういった感じの中で自分の知りたいことが学習できればよい。小さな音楽会でよいので、小さな金額で楽しませて欲しい。そういう情報がたくさん欲しい。</p>	65~74歳	明科	無職	男性

問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
・女性は自分のしたいこと活動に進んで参加するが、退職して年齢を重ねるにつれ男性は外に出たがらなくなり、仲間もなくなり、どうしたらよいか。家庭では生活の仕方いろいろと話をしているが、気が進まない。私と一緒に参加しようとしても興味がなとかで、困っています。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・土、日、祭日に行ことが行なわれるけど、あづみんのバスが動かないので参加できないことが多々あります。タクシーまで使ってはいけません。	75歳以上	豊科	専業主婦・主夫	女性
・より郊外に耳を向け、自然界に関心を持ち、問題点があれば改善の方向に努めてもらいたい。自然保護・人を含めた生物の共生共存。生物の多様性促進。異常気象とその原因、打破への努力。など。以上のことは一人一団で解決する問題ではない。全世界共通の喫緊課題として、一丸となって声を上げ、地球未来のために取り組んで行きたい。自らの生涯学習を通し、自助・共助を図り生きがいの持てる充実した日々を過ごして行きたい。	75歳以上	豊科	無職	男性
・私は80歳になりました。あまり勉強は好きではありませんでしたが、普通にそれなりにやって社会人となり結婚もして子ども3人育て、それぞれ一人前に家庭も持って子育てしながら社会の一線働いて居ります。長男は高校長もしております。振り返ってみれば、その時その時に教えられ、反省し自分も成長してきたように思います。唯一つ言えることは、趣味を持って長く続けられたことによって今は心が淋しい時にどれぐらい救われたか知れません。生涯学習一続ける。いかに大切なことか身を持って体験しました。長く生きて感じたことです。	75歳以上	豊科	無職	女性
・アンケートに参加させていただきありがとうございました。おかげさまで身体は丈夫ですのでありがたい毎日です。ただ歩く時、腰が曲がっていますので辛いです。介護の世話にならないよう毎日を頑張っています。私の好きなこと、針仕事、お勝手仕事、野良仕事。ありがとうございました。	75歳以上	豊科	無効	女性
・定年後は書道を生きがいとして過ごしてきました。年齢92を迎えようとしている今、毎週公民館の体操に参加して元気で居られるのも生きがいがあるからと思っています。	75歳以上	穂高	自営業主	女性
・学習に出かけたたくも車がない。電話でかける、ではなく、時間で動いてください。まだ歩く人はどこにいけば、停留所をいくつかしらえてください。バスを東西南北でつくればいいでしょう。これも認知症にならない。また車に乗れない年寄は助かります。	75歳以上	穂高	自営業主	女性
・年齢的(93歳)にみて無理があります。	75歳以上	穂高	専業主婦・主夫	女性
・日々の暮らしに精一杯で考えることはありません。年金生活も公務員なら退職金も年金もよいですが、普通の家庭ではかなり厳しいものになっています。健康も、どこが悪いのかわからないのに具合が悪い。豊かな(心も体も)老後が遅れるよう、若い皆さんは今から真剣に学習していくことが一番大切ではないかと思ひます。	75歳以上	穂高	無職	男性
・私は現在79歳ですが健康状態は普通だと思います。健康維持法として、マレットゴルフを仲間と週3~5回程やっています。その中で週1の割合で、15~6名での試合を行っています。試合になると緊張感があり、集中できまして、身体によいと思っています。以前はマレット場の使用料を払っていましたが、現在は無料です。関係者のご努力に感謝いたします。ありがとうございました。	75歳以上	穂高	無職	男性
・知識や技量向上のための長野県での交流がない。そのため、それらの向上のための県外に対する意思陳述の機会がない。	75歳以上	穂高	無職	男性
・市民講座など大規模なものもいいが、地域を区切って少人数の講座を開いてくれば歩いてでも参加できる。	75歳以上	穂高	無職	男性
・地域や集まりで最も大切なのは、常に民主的な組織か、それを旨としたものかということ。それなしでは、いかに立派なことを言っても行動しても、単なる空回りといわれても仕方ない。	75歳以上	穂高	無職	男性
・情報が入ってこない。相談行く場所がわからない。	75歳以上	穂高	無職	男性



問20 生涯学習に関して思っていること

記述内容	年齢	居住地域	職業	性別
<p>・現在の世の中は、年齢を問わず親が子どもを殺す、子どもが親を殺す事件・破廉恥な事件・暴行傷害・詐欺事件等を起こす人が多い。このような者は親からどのようなしつけなどの教えを受けたか疑問が残る。これから親になる者、教育者がどのような対応するか心配になる。幼児期から社会人になるまで道義的、社会的良識、常識をいかに教えるか考えなければならないと思う。</p> <p>1 子育て支援に力を入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを保育施設に預け、話し合いの機会がない中で、どのようにしつけるかどのような内容にするか</li> <li>・小学校・中学校に行くようになった子どもに、どのようなことについて重点を置いて教えるか、親、教育者が一体になることが大事だと思う。教師は算数・国語等以外に社会人になる必要最小限度の知識を教える能力があるか</li> <li>・有名な教育者の言語で、世の中で             <ol style="list-style-type: none"> <li>①楽しく立派なことは一生涯働く仕事があること</li> <li>②惨めなことは教養がないこと</li> <li>③淋しいことは仕事がないこと</li> <li>④醜いことは人の生活をうらやむこと</li> <li>⑤尊いことは人のために奉仕し決して恩を着せないこと</li> <li>⑥美しいことは全てのものに愛情を持つこと</li> <li>⑦悲しいことは「うそ」をつくこと</li> </ol>             の教えがあるが、参考にして教えたらと思う。           </li> <li>・ともすれば親の中には子どものしつけは教育機関と思っている者がいるのでは</li> <li>・子どもの夏休みに地域の子どもが集まって拡声器で音頭をとって賑やかにしていたが、いつの日かラジオをかけ小さな音頭でやるようになっていた。理由は一部の人がかうるさいと学校へ申し入れたため学校から小さくするよう注意したためとのこと。大勢の人からならまだしも一部の人の声で楽しくやっている子どもがかわいそう。</li> </ul> <p>2 区の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区に入らない方々が多くなってきていると思う。この問題を市や議会ではどのように思っているのか。市民憲章5項目の中にも「思いやりを大切に健康で暖かいまちづくり」「支え合いの輪を広げ安心・安全なまちづくり」という項目があるが、市や議会に対応を知らせてもらいたい。市民のための市民憲章を即答できる人が何人いるか。市民が一体的になって推進しなければならない。</li> </ul> <p>3 良好な人間関係に市民は努めるべきだ</p> <p>日常では誰でも次のようなことが大切ではないかと私は思う。挨拶をする(おはようございます、おやすみなさい、ご苦労様です)、感謝すること(ありがとうございます)、親切にする(こうしたら、ああしたら助言したり手をかせたりする)、謙虚な気持ちを持つ(すみません、そうですね、気をつけます)</p>	75歳以上	穂高	無職	男性
<p>・本を読む。毎日感謝の心。</p>	75歳以上	穂高	無効	女性
<p>・高齢者が多い時代となっております。多くの高齢者が楽しみを持てるような取り組みをしていただければと思います。</p>	75歳以上	三郷	自営業主	女性
<p>・生涯学習について、それぞれの方が退職後も新聞、テレビ、ラジオ等によりいろいろ学び、また仲間、隣組合等の人々と接することにより知識を得ており、一生学習であると思っています。</p>	75歳以上	三郷	農林水産	男性
<p>・適切なリーダーが欲しい。地域にはそうした方がいらっしやと思うが、そういう方を発掘してほしい。</p>	75歳以上	三郷	無職	男性
<p>・知的レベルを上げようと思うことは大切であるが、そのことが実生活に生きているかと疑問に思うことが、自他共に多々あると思う。あつてはならない仲間はずれや、噂話による主婦仲間のいじめ、その他男尊女卑の未だに残る地区役員の決め方、たいして違わない話題や決定に女性をはずして行なったり、いまだきの事なのかとびっくりする。学校時代のことを考えて見ると、まさかと思うような事々を考えもしないで、私利私欲で決めたりとイライラすることが多い。生涯学習において、そういう浅はかな考え方や行動を修正していくような精神的な向上をぜひ植えつけていただきたい。</p>	75歳以上	明科	専業主婦・主夫	女性
<p>・地域によってはいろいろ活動しているところもあるけれど、そうでない地域も活動、学習の機会をつくる努力をしたい。歳を重ねても近くだと行きやすい。</p>	75歳以上	無回答	専業主婦・主夫	女性

<b>報告第7号</b>	教育部 生涯学習課・学校教育課
平成29年3月24日提出	(課長) 蓮井 昭夫 (担当係長) 藤森 智 (課長) 古幡 彰 (担当係長) 平林 洋一

タイトル	安曇野市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規程の一部改正について
報告を要する事項の内容	組織改編に伴う規程（訓令）の一部改正
要旨	<p>1 教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規程 組織の改編により、本年度末をもって市民生活部豊科地域課が廃止されることから、当該規程の一部を改正する。</p> <p>2 施行時期 平成29年4月1日より施行する。</p>
説明	<p>1 安曇野市豊科公民館の管理等 組織の改編により、市民生活部豊科地域課が廃止されるのに伴い、平成29年度から安曇野市豊科公民館の事務を行う職員の所属が教育部生涯学習課になります。 なお、他の公民館（分館）は従来通り、市民生活部各地域課の所属です。 また、公民館長については、教育委員会（教育部）の所属で変更ありません。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD     A[中央公民館 生涯学習課] --- B[豊科公民館 生涯学習課]     A --- C[穂高公民館 穂高地域課]     A --- D[三郷公民館 三郷地域課]     A --- E[堀金公民館 堀金地域課]     A --- F[明科公民館 明科地域課]             </pre> </div> <p>2 学齢児童及び生徒の安曇野市立学校への転入学事務 学齢児童及び生徒の安曇野市立学校への転入学の事務については、これまで市民生活部市民課の職員に補助執行させていたので、豊科地域課が廃止されても当該事務に影響はありません。</p>

安曇野市教育委員会告示第 号

安曇野市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規程（平成20年教育委員会訓令第4号）の一部を次のように改正する。

平成 年 月 日

安曇野市教育委員会

別表（第2条関係）を次のように改める。

「市民生活部豊科地域課の職員」を削り、「以下、「公民館」という」を「安曇野市豊科公民館を除く。以下「公民館」という。」に改める。

附 則

この訓令は、平成29年4月1日から施行する。

改正後

改正前

改正  
○安曇野市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規程  
平成20年7月24日教育委員会訓令第4号

改正  
平成24年12月26日教委訓令第1号  
平成26年3月26日教委訓令第4号  
平成27年3月31日教委訓令第2号  
平成27年4月1日教委訓令第3号

安曇野市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規程  
(略)

改正  
○安曇野市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規程  
平成20年7月24日教育委員会訓令第4号

改正  
平成24年12月26日教委訓令第1号  
平成26年3月26日教委訓令第4号  
平成27年3月31日教委訓令第2号  
平成27年4月1日教委訓令第3号

安曇野市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規程  
(略)

別表 (第2条関係)

別表 (第2条関係)

補助執行させる事務	補助執行させる職員
穂高幼稚園の管理・運営に関すること。	福祉部長及び福祉子ども支援課の職員
私立幼稚園に関すること。	
安曇野市児童生徒転入転出事務取扱規程(平成17年安曇野市教育委員会告示第9号)の規定による学齢児童及び生徒の安曇野市立学校への転入学に関すること。ただし、通学区域以外への就学の場を除外。	市民生活部長及び市民生活部市民課の職員 市民生活部穂高地域課の職員 市民生活部三郷地域課の職員 市民生活部堀金地域課の職員 市民生活部明科地域課の職員
家庭教育に関する学習の機会を提供するための講座の開催に関すること。	福祉部長及び福祉子ども支援課の職員
安曇野市公民館条例(平成18年安曇野市条例第22号)に規定する分館(安曇野市豊科公民館を除く。以下「公民館」という。)に係る維持管理、使用許可並びに使用料の徴収及び減免に関すること。	市民生活部長 市民生活部穂高地域課の職員 市民生活部三郷地域課の職員 市民生活部堀金地域課の職員 市民生活部明科地域課の職員

補助執行させる事務	補助執行させる職員
穂高幼稚園の管理・運営に関すること。	福祉部長及び福祉子ども支援課の職員
私立幼稚園に関すること。	
安曇野市児童生徒転入転出事務取扱規程(平成17年安曇野市教育委員会告示第9号)の規定による学齢児童及び生徒の安曇野市立学校への転入学に関すること。ただし、通学区域以外への就学の場を除外。	市民生活部長及び市民生活部市民課の職員 市民生活部豊科地域課の職員 市民生活部穂高地域課の職員 市民生活部三郷地域課の職員 市民生活部堀金地域課の職員 市民生活部明科地域課の職員
家庭教育に関する学習の機会を提供するための講座の開催に関すること。	福祉部長及び福祉子ども支援課の職員
安曇野市公民館条例(平成18年安曇野市条例第22号)に規定する分館(以下、「公民館」という)に係る維持管理、使用許可並びに使用料の徴収及び減免に関すること。	市民生活部長 市民生活部豊科地域課の職員 市民生活部穂高地域課の職員 市民生活部三郷地域課の職員 市民生活部堀金地域課の職員 市民生活部明科地域課の職員

改正前	改正後
<p>公民館に係る予算執行に関する こと（教育委員会の所管に係るも のを除く。）</p> <p>講座、講演会その他公民館主催事 業の開催に関すること。</p> <p>地域のスポーツ大会及び文化祭 等の開催及び支援に関すること。</p> <p>安曇野市体育施設条例（平成18年 安曇野市条例第26号）に規定する 体育施設及び安曇野市学校施設 使用条例（平成17年安曇野市条例 第225号）に規定する学校施設の 使用許可並びに使用料の徴収及 び減免に関すること。</p> <p>安曇野市地区公民館活動補助金 交付規則（平成27年安曇野市規則 第23号）第2条に規定する地区公 民館並びに地域の社会教育団体 及び社会体育団体に対する活動 支援に関すること。</p>	<p>公民館に係る予算執行に関する こと（教育委員会の所管に係るも のを除く。）</p> <p>講座、講演会その他公民館主催事 業の開催に関すること。</p> <p>地域のスポーツ大会及び文化祭 等の開催及び支援に関すること。</p> <p>安曇野市体育施設条例（平成18年 安曇野市条例第26号）に規定する 体育施設及び安曇野市学校施設 使用条例（平成17年安曇野市条例 第225号）に規定する学校施設の 使用許可並びに使用料の徴収及 び減免に関すること。</p> <p>安曇野市地区公民館活動補助金 交付規則（平成27年安曇野市規則 第23号）第2条に規定する地区公 民館並びに地域の社会教育団体 及び社会体育団体に対する活動 支援に関すること。</p>



<b>報告第8号</b>	教育部 図書館交流課
平成29年3月24日提出	(課長) 高嶋 俊明 (担当) 細田 昌伸

タイトル	第2次安曇野市図書館基本計画策定に伴うアンケートについて
報告を要する事項	第2次安曇野市図書館基本計画策定に伴うアンケート結果
要旨	第2次計画の策定にあたり、これからの図書館ニーズの把握のため、市民、利用者、児童生徒等にアンケートを実施しましたので、その結果について報告するものです。
説明	<p>1 実施概要</p> <p>(1) 市民アンケート</p> <p>ア 対 象：16歳以上（平成28年11月29日現在）の無作為抽出した市民2,500人</p> <p>イ 実施方法：依頼文及び調査票を郵送配布、返信用封筒で回収</p> <p>ウ 実施期間：平成28年12月12日～12月27日</p> <p>エ 回収結果：回収票数1,164/回収率46.5%</p> <p>(2) 利用者アンケート</p> <p>ア 対 象：公共図書館5館の利用者</p> <p>イ 実施方法：調査票を記載台に置き、館内の回収箱で回収</p> <p>ウ 実施期間：平成28年12月12日～平成29年1月11日</p> <p>エ 回収結果：回収票数392</p> <p>(3) 児童生徒アンケート</p> <p>ア 対 象：市内17校の小学校6年生及び中学2年生（各校1クラス）</p> <p>イ 実施方法：学校長に対象クラスの選定、調査票の配布と回収を依頼</p> <p>ウ 実施期間：平成28年12月12日～12月21日</p> <p>エ 回収結果：回収票数477</p> <p>3 結果等 別添のとおり</p>

図書館サービス向上のための  
市民アンケート調査  
報告書

平成29年2月  
安曇野市教育委員会

## 1 調査の目的

図書館サービスの向上を目的とする図書館基本計画策定の基礎資料とするため。

## 2 調査の概要

### 1) 調査対象

市内在住の16歳以上の方（平成28年11月29日現在）から2,500人を無作為抽出

### 2) 調査方法

平成28年12月12日～12月27日、郵送による配布・回収

### 3) 回収結果

配布票数2,500／回収票数1,164／回収率46.5%

### 4) 集計上の留意点

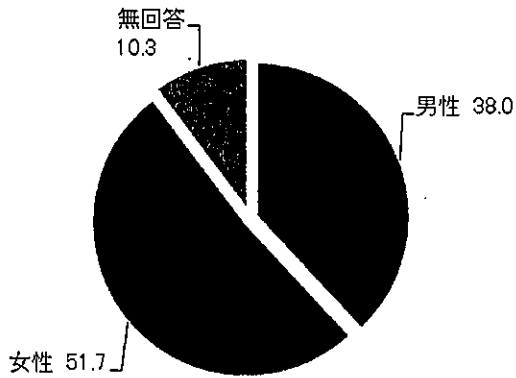
- ① 原則として、単回答は円グラフ、複数回答は横棒グラフを用いて表示しました。  
ただし、単回答のうち、各割合の比較を行いたい設問では、横棒グラフを用いました。
- ② 回答率（割合）は、小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで表記しました。このため、合計が100%にならないことがあります。
- ③ 複数回答では、回答者総数を100として（%ベース）、それぞれの回答数の割合を百分率で示してあります。したがって、割合の合計は100%にはなりません。

【あなた(回答者ご本人)についておたずねします】(あてはまる番号に1つだけ○を)

◇性別

	回答数	割合(%)
男性	442	38.0
女性	602	51.7
無回答	120	10.3
回答者総数(%ベース)	1,164	100.0

回答者性別(総数1,164, 単位%)

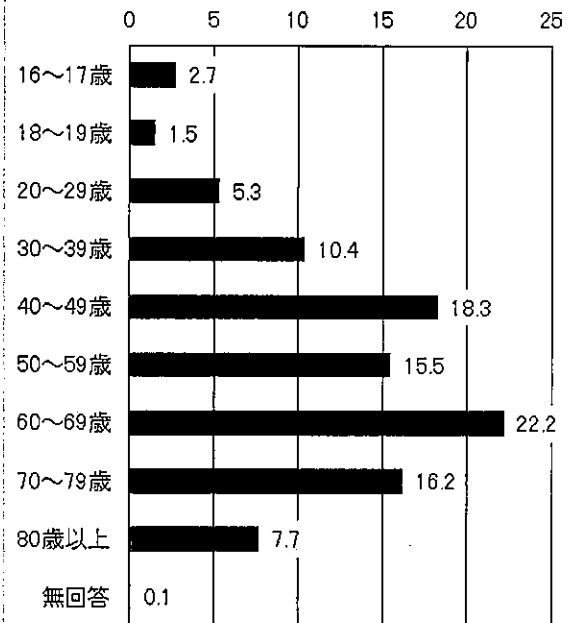


○「男性」が38.0%、「女性」が51.7%です。

◇年齢

	回答数	割合(%)
16~17歳	31	2.7
18~19歳	18	1.5
20~29歳	62	5.3
30~39歳	121	10.4
40~49歳	213	18.3
50~59歳	181	15.5
60~69歳	258	22.2
70~79歳	189	16.2
80歳以上	90	7.7
無回答	1	0.1
回答者総数(%ベース)	1,164	100.0

回答者年齢(総数1,164, 単位%)

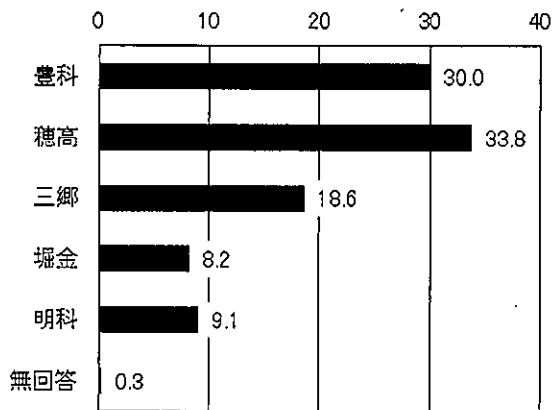


○「60~69歳」の割合が22.2%で最も高く、次いで、「40~49歳」18.3%、「70~79歳」16.2%、「50~59歳」15.5%などとなっています。

◇居住地

	回答数	割合(%)
豊科	349	30.0
穂高	393	33.8
三郷	216	18.6
堀金	96	8.2
明科	106	9.1
無回答	4	0.3
回答者総数(%ベース)	1,164	100.0

回答者居住地(総数1,164、単位%)

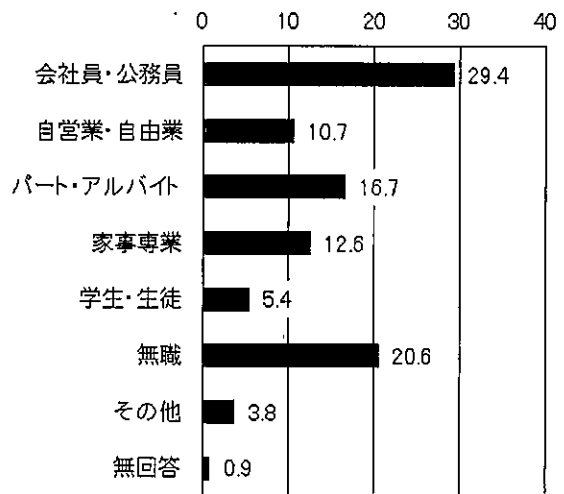


○「穂高」の割合が33.8%で最も高く、次いで「豊科」30.0%、「三郷」18.6%、「明科」9.1%、「堀金」8.2%となっています。

◇職業

	回答数	割合(%)
会社員・公務員	342	29.4
自営業・自由業	124	10.7
パート・アルバイト	194	16.7
家事専業	147	12.6
学生・生徒	63	5.4
無職	240	20.6
その他	44	3.8
無回答	10	0.9
回答者総数(%ベース)	1,164	100.0

回答者職業(総数1,164、単位%)



○「会社員・公務員」の割合が29.4%で最も高く、次いで「無職」20.6%、「パート・アルバイト」16.7%、「家事専業」12.6%、「自営業・自由業」10.7%、「その他」3.8%となっています。

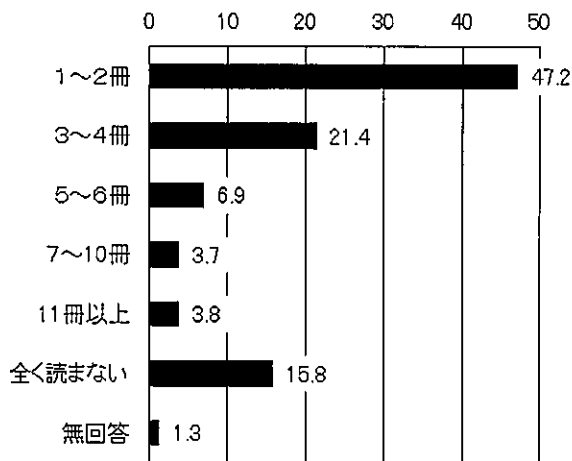


【あなたの読書環境についておたずねします】(あてはまる番号に1つだけ○を)

問1 あなたは、本や雑誌を1ヶ月に平均何冊くらいお読みになりますか

	回答数	割合(%)
1~2冊	549	47.2
3~4冊	249	21.4
5~6冊	80	6.9
7~10冊	43	3.7
11冊以上	44	3.8
全く読まない	184	15.8
無回答	15	1.3
回答者総数(%ベース)	1,164	100.0

1ヶ月の平均読書冊数(総数1,164, 単位%)

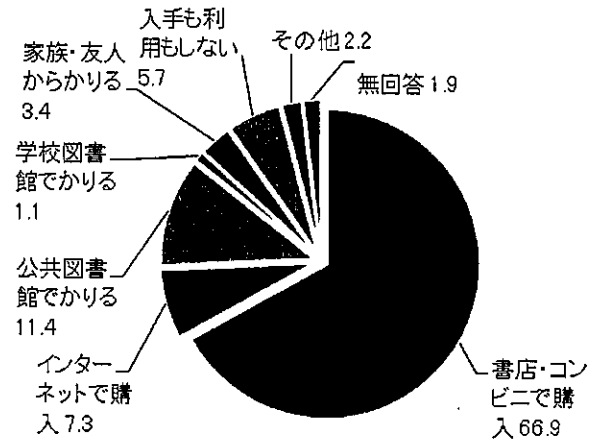


○「1~2冊」の割合が47.2%で最も高く、次いで「3~4冊」21.4%、「全く読まない」15.8%、「5~6冊」6.9%などとなっています。

問2 あなたは、本・雑誌等を主にどのような方法で入手あるいは利用しますか

	回答数	割合(%)
書店・コンビニで購入	779	66.9
インターネットで購入	85	7.3
公共図書館でかりる	133	11.4
学校図書館でかりる	13	1.1
家族・友人からかりる	40	3.4
入手も利用もしない	66	5.7
その他	26	2.2
無回答	22	1.9
回答者総数(%ベース)	1,164	100.0

本・雑誌等の入手・利用方法(総数1,164, 単位%)

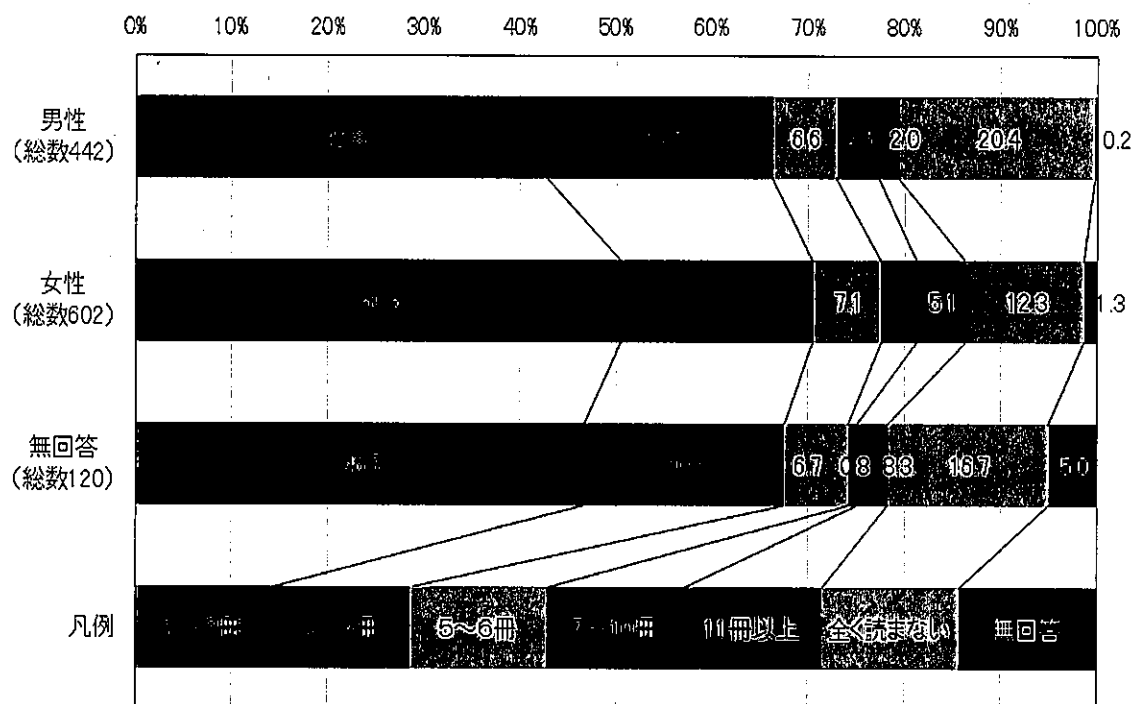


○「書店・コンビニで購入」の割合が66.9%で最も高く、次いで「公共図書館でかりる」11.4%、「インターネットで購入」7.3%、「入手も利用もしない」5.7%などとなっています。

男女別●問1 あなたは、本や雑誌を1ヶ月に平均何冊くらいお読みになりますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	1~2冊	3~4冊	5~6冊	7~10冊	11冊以上	全く読まない	無回答
全体	1,164	549	249	80	43	44	184	15
	100.0	47.2	21.4	6.9	3.7	3.8	15.8	1.3
男性	442	189	104	29	20	9	90	1
	100.0	42.8	23.5	6.6	4.5	2.0	20.4	0.2
女性	602	304	120	43	22	31	74	8
	100.0	50.5	19.9	7.1	3.7	5.1	12.3	1.3
無回答	120	56	25	8	1	4	20	6
	100.0	46.7	20.8	6.7	0.8	3.3	16.7	5.0

男女別●1ヶ月の読書冊数

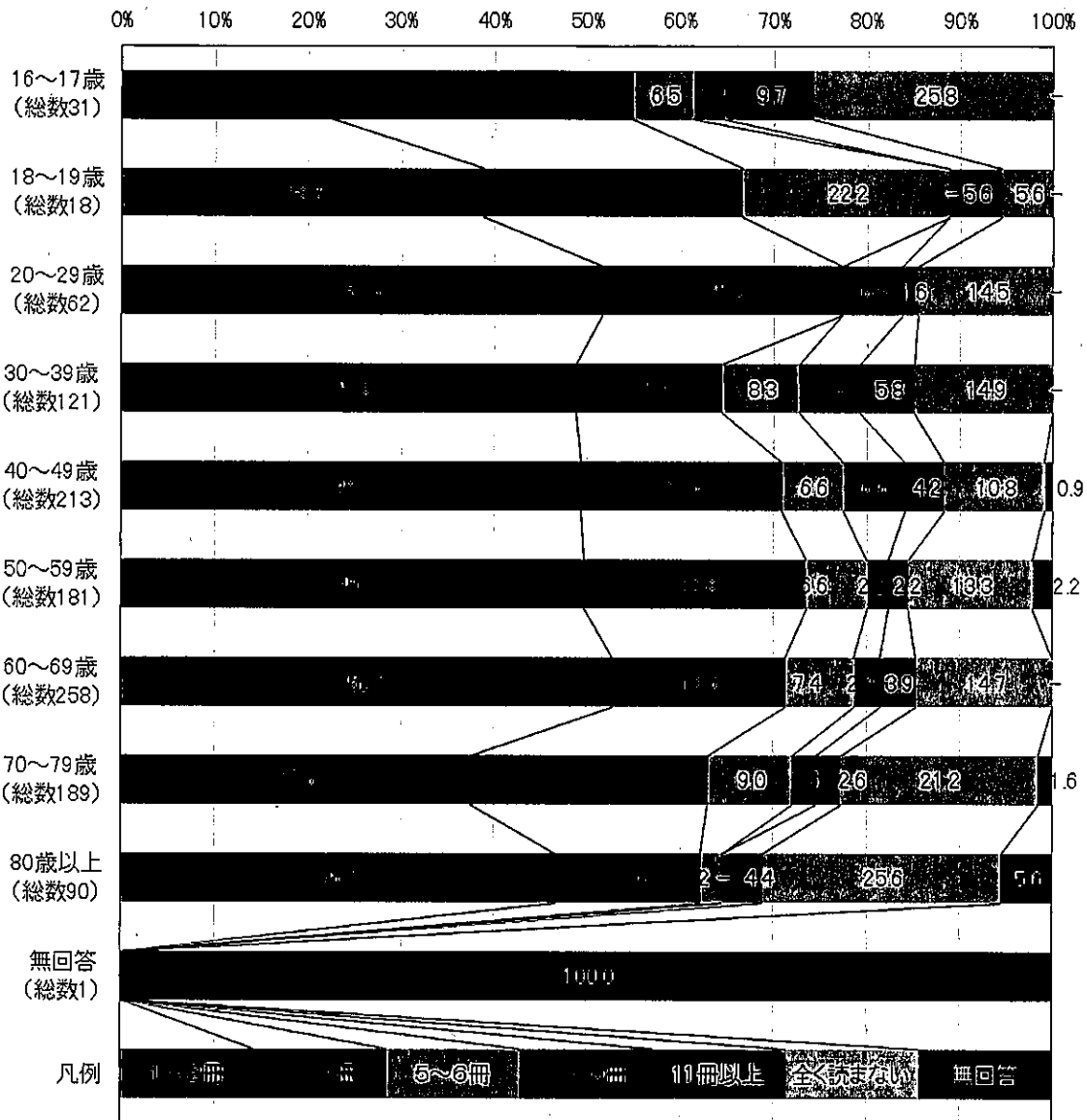


○「1~2冊」の割合が、「男性」42.8%に対し「女性」50.5%と、約8ポイント上回り、また「全く読まない」割合が「女性」12.3%に対し「男性」20.4%と、約8ポイント上回るなど、全体として読書をする人の割合は、「女性」が男性を上回っています。

年齢別●問1 あなたは、本や雑誌を1ヶ月に平均何冊くらいお読みになりますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	1~2冊	3~4冊	5~6冊	7~10冊	11冊 以上	全く読まな い	無回答
全体	1,164 100.0	549 47.2	249 21.4	80 6.9	43 3.7	44 3.8	184 15.8	15 1.3
16~17歳	31 100.0	7 22.6	10 32.3	2 6.5	1 3.2	3 9.7	8 25.8	0 0.0
18~19歳	18 100.0	7 38.9	5 27.8	4 22.2	0 0.0	1 5.6	1 5.6	0 0.0
20~29歳	62 100.0	32 51.6	16 25.8	0 0.0	4 6.5	1 1.6	9 14.5	0 0.0
30~39歳	121 100.0	59 48.8	19 15.7	10 8.3	8 6.6	7 5.8	18 14.9	0 0.0
40~49歳	213 100.0	105 49.3	46 21.6	14 6.6	14 6.6	9 4.2	23 10.8	2 0.9
50~59歳	181 100.0	90 49.7	43 23.8	12 6.6	4 2.2	4 2.2	24 13.3	4 2.2
60~69歳	258 100.0	136 52.7	48 18.6	19 7.4	7 2.7	10 3.9	38 14.7	0 0.0
70~79歳	189 100.0	71 37.6	48 25.4	17 9.0	5 2.6	5 2.6	40 21.2	3 1.6
80歳以上	90 100.0	42 46.7	14 15.6	2 2.2	0 0.0	4 4.4	23 25.6	5 5.6
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

年齢別●1ヶ月の読書冊数

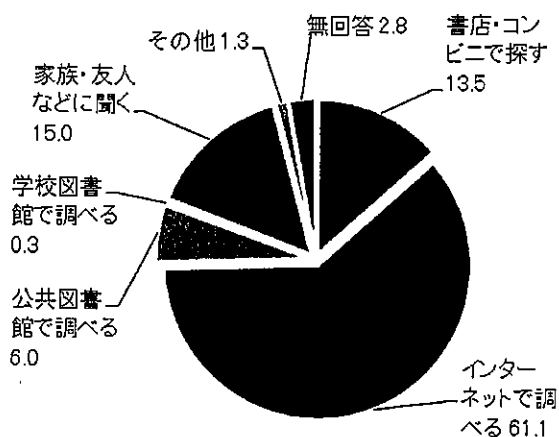


○「16~17歳」では、「3~4冊」「11冊以上」ならびに「全く読まない」割合がともに、全年齢中最も高いなど、両極化の傾向がみられます。年齢が上がるにつれて「1~2冊」の割合が高くなりますが、一方で、「全く読まない」割合も増加しており、「80歳以上」では25.6%と、「16~17歳」の25.8%と並んでいます。全体として、読書をする人の割合が高いのは、「18~19歳」で、「40~49歳」を境に、下がってゆきます。

問3 あなたは、知りたいことがある時、主にどのような方法で調べますか

	回答数	割合(%)
書店・コンビニで探す	157	13.5
インターネットで調べる	711	61.1
公共図書館で調べる	70	6.0
学校図書館で調べる	3	0.3
家族・友人などに聞く	175	15.0
その他	15	1.3
無回答	33	2.8
回答者総数(%ベース)	1,164	100.0

知りたいことの入手方法(総数1,164, 単位%)



○「インターネットで調べる」が61.1%で最も高く、次いで「家族・友人などに聞く」15.0%、「書店・コンビニで探す」13.5%などとなっています。「公共図書館で調べる」は6.0%、「学校図書館で調べる」は0.3%となっています。

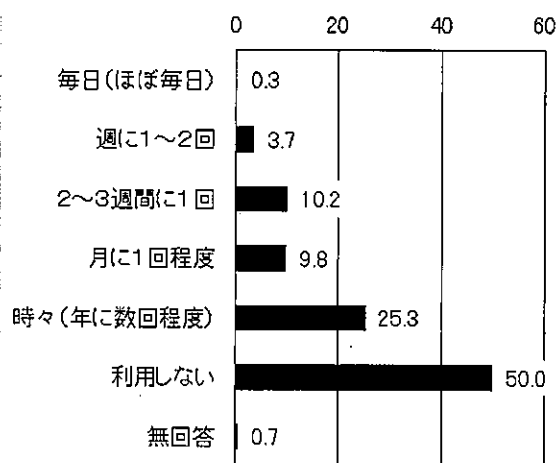


【あなたの公共図書館利用についておたずねします】(あてはまる番号に1つだけ○を)

問4 普段、図書館をどのくらい利用(来館)していますか

	回答数	割合(%)
毎日(ほぼ毎日)	4	0.3
週に1~2回	43	3.7
2~3週間に1回	119	10.2
月に1回程度	114	9.8
時々(年に数回程度)	294	25.3
利用しない	582	50.0
無回答	8	0.7
回答者総数(%ベース)	1,164	100.0

図書館の利用頻度(総数1,164、単位%)

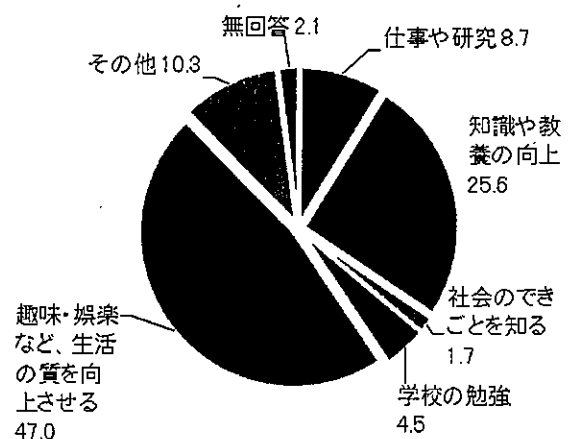


○「利用しない」の割合が50.0%で最も高く、次いで「時々(年に数回程度)」が25.3%、「2~3週間に1回」が10.2%などとなっています。

問5 図書館を利用する主な目的はなんですか

	回答数	割合(%)
仕事や研究	50	8.7
知識や教養の向上	147	25.6
社会のできごとを知る	10	1.7
学校の勉強	26	4.5
趣味・娯楽など、生活の質を向上させる	270	47.0
その他	59	10.3
無回答	12	2.1
回答者総数(%ベース)	574	100.0

図書館利用の目的(総数574、単位%)

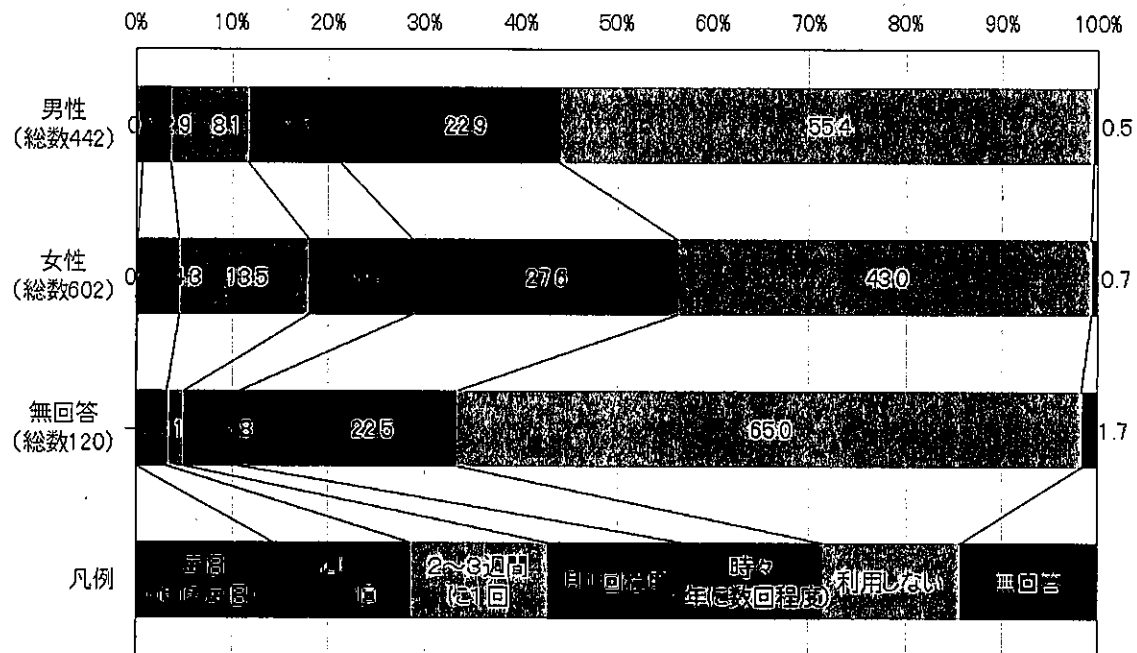


○「趣味・娯楽など、生活の質を向上させる」の割合が47.0%で最も高く、次いで「知識や教養の向上」が25.6%、「その他」10.3%、「仕事や研究」8.7%などとなっています。

男女別●問4 普段、図書館をどのくらい利用(来館)していますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	毎日(ほ ぼ毎日)	週に 1~2回	2~3週 間に1回	月に 1回程度	時々 (年に数 回程度)	利用 しない	無回答
全体	1,164	4	43	119	114	294	582	8
	100.0	0.3	3.7	10.2	9.8	25.3	50.0	0.7
男性	442	3	13	36	42	101	245	2
	100.0	0.7	2.9	8.1	9.5	22.9	55.4	0.5
女性	602	1	26	81	65	166	259	4
	100.0	0.2	4.3	13.5	10.8	27.6	43.0	0.7
無回答	120	0	4	2	7	27	78	2
	100.0	0.0	3.3	1.7	5.8	22.5	65.0	1.7

男女別●来館の頻度

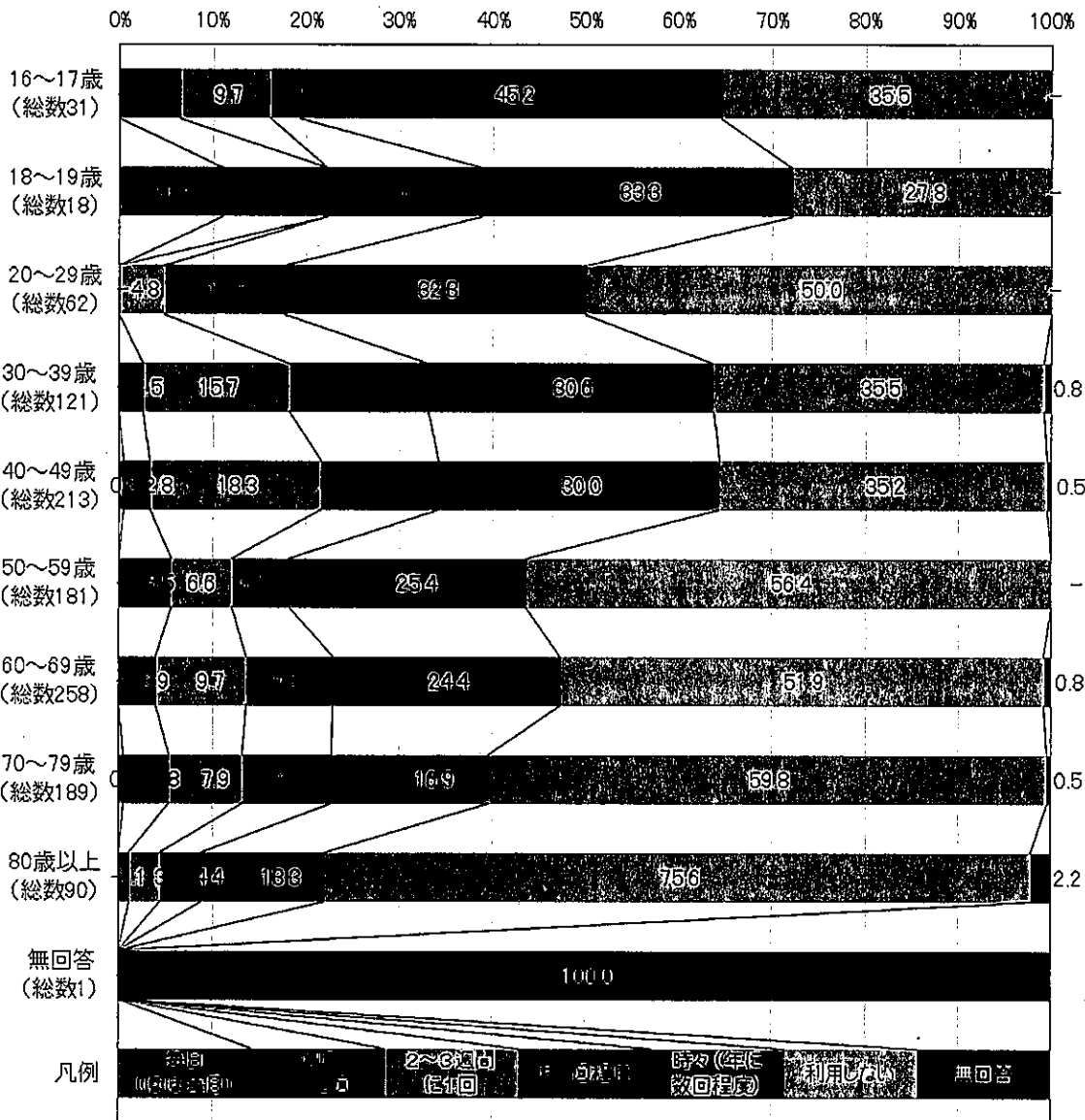


○「利用しない」割合は「男性」55.4%、「女性」43.0%と、「男性」が「女性」を12ポイント以上上回っています。また「2~3週間に1回」の割合が女性では高く、全体として「女性」の割合が高くなっています。

年齢別●問4 普段、図書館をどのくらい利用(来館)していますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	毎日(ほ ほ毎日)	週に 1~2回	2~3週間 に1回	月に 1回程度	時々 (年に数 回程度)	利用 しない	無回答
全体	1,164 100.0	4 0.3	43 3.7	119 10.2	114 9.8	294 25.3	582 50.0	8 0.7
16~17歳	31 100.0	0 0.0	2 6.5	3 9.7	1 3.2	14 45.2	11 35.5	0 0.0
18~19歳	18 100.0	2 11.1	2 11.1	0 0.0	3 16.7	6 33.3	5 27.8	0 0.0
20~29歳	62 100.0	0 0.0	0 0.0	3 4.8	8 12.9	20 32.3	31 50.0	0 0.0
30~39歳	121 100.0	0 0.0	3 2.5	19 15.7	18 14.9	37 30.6	43 35.5	1 0.8
40~49歳	213 100.0	1 0.5	6 2.8	39 18.3	27 12.7	64 30.0	75 35.2	1 0.5
50~59歳	181 100.0	0 0.0	10 5.5	12 6.6	11 6.1	46 25.4	102 56.4	0 0.0
60~69歳	258 100.0	0 0.0	10 3.9	25 9.7	24 9.3	63 24.4	134 51.9	2 0.8
70~79歳	189 100.0	1 0.5	9 4.8	15 7.9	18 9.5	32 16.9	113 59.8	1 0.5
80歳以上	90 100.0	0 0.0	1 1.1	3 3.3	4 4.4	12 13.3	68 75.6	2 2.2
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

年齢別●来館の頻度

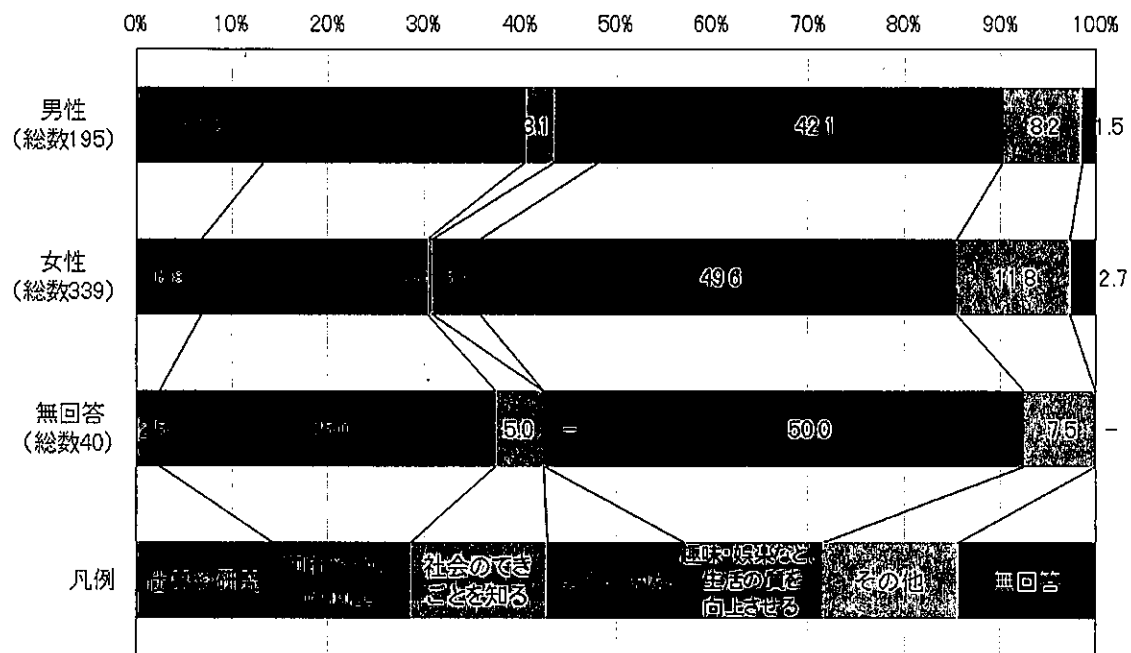


○「利用しない」割合は、「18~19歳」が27.8%で最も低く、全体的に年齢が上がるにつれて高まり、「80歳以上」では75.6%となっています。「18~19歳」では「毎日(ほぼ毎日)」の割合が11.1%と全年齢中とびぬけて高く、これが「18~19歳」の来館者の割合全体を高めています。「18~19歳」と「20~29歳」では、傾向に大きな差がみられます。

男女別●問5 図書館を利用する主な目的はなんですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	仕事や 研究	知識や教 養の向上	社会の できごとを 知る	学校の 勉強	趣味・娯 楽など、 生活の質 を向上さ せる	その他	無回答
全体	574	50	147	10	26	270	59	12
	100.0	8.7	25.6	1.7	4.5	47.0	10.3	2.1
男性	195	26	53	6	9	82	16	3
	100.0	13.3	27.2	3.1	4.6	42.1	8.2	1.5
女性	339	23	80	2	17	168	40	9
	100.0	6.8	23.6	0.6	5.0	49.6	11.8	2.7
無回答	40	1	14	2	0	20	3	0
	100.0	2.5	35.0	5.0	0.0	50.0	7.5	0.0

男女別●来館の主な目的



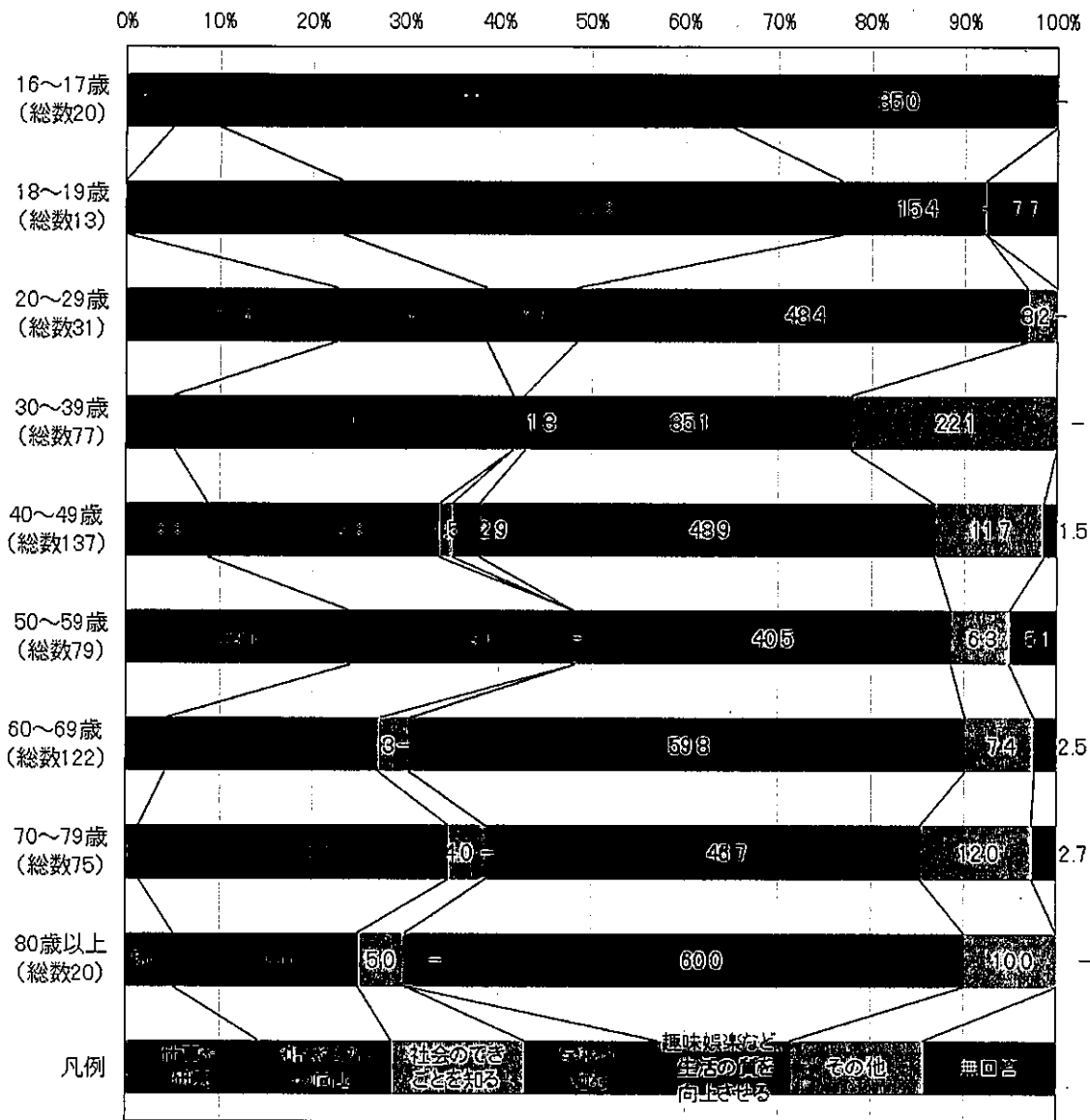
○「仕事や研究」および「知識や教養の向上」の割合で、「男性」と「女性」に大きな開きがみられます。また、「社会のできごとを知る」の割合が「女性」では0.6%と極めて低くなっています。



年齢別●問5 図書館を利用する主な目的はなんですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	仕事や 研究	知識や教 養の向上	社会ので きことを 知る	学校の 勉強	趣味・娯 楽など、 生活の質 を向上さ せる	その他	無回答
全体	574 100.0	50 8.7	147 25.6	10 1.7	26 4.5	270 47.0	59 10.3	12 2.1
16～17歳	20 100.0	1 5.0	1 5.0	0 0.0	11 55.0	7 35.0	0 0.0	0 0.0
18～19歳	13 100.0	0 0.0	3 23.1	0 0.0	7 53.8	2 15.4	0 0.0	1 7.7
20～29歳	31 100.0	7 22.6	5 16.1	0 0.0	3 9.7	15 48.4	1 3.2	0 0.0
30～39歳	77 100.0	4 5.2	28 36.4	0 0.0	1 1.3	27 35.1	17 22.1	0 0.0
40～49歳	137 100.0	12 8.8	34 24.8	2 1.5	4 2.9	67 48.9	16 11.7	2 1.5
50～59歳	79 100.0	19 24.1	19 24.1	0 0.0	0 0.0	32 40.5	5 6.3	4 5.1
60～69歳	122 100.0	5 4.1	28 23.0	4 3.3	0 0.0	73 59.8	9 7.4	3 2.5
70～79歳	75 100.0	1 1.3	25 33.3	3 4.0	0 0.0	35 46.7	9 12.0	2 2.7
80歳以上	20 100.0	1 5.0	4 20.0	1 5.0	0 0.0	12 60.0	2 10.0	0 0.0
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

年齢別●来館の主な目的

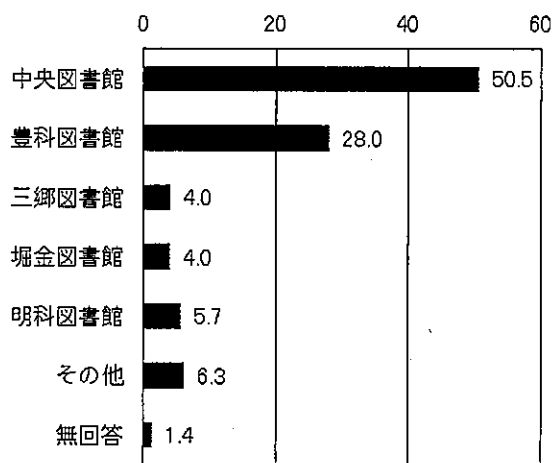


○「16～17歳」「18～19歳」では「学校の勉強」の割合がともに50%を超えているのに対し、「20～29歳」以上では、「趣味娯楽など、生活の質を向上させる」が増えてゆき、「60～69歳」「80歳以上」では60%に達しています。また「仕事や研究」の割合は、「20～29歳」と「50～59歳」で高くなっています。「社会のできごとを知る」の割合はわずかですが、「60～69歳」から少しずつ増加しています。

問6 普段、最も利用している図書館はどこですか

	回答数	割合(%)
中央図書館	290	50.5
豊科図書館	161	28.0
三郷図書館	23	4.0
堀金図書館	23	4.0
明科図書館	33	5.7
その他	36	6.3
無回答	8	1.4
回答者総数(%ベース)	574	100.0

最も利用している図書館(総数574、単位%)

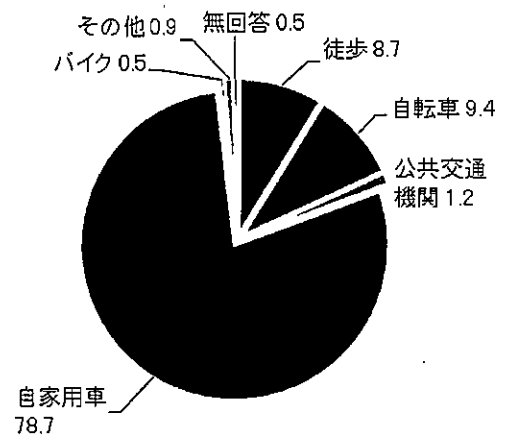


○「中央図書館」の割合が最も高く50.5%、次いで「豊科図書館」28.0%、「その他」6.3%、「明科図書館」5.7%などとなっています。

問7 どのような方法で図書館へ来ますか

	回答数	割合(%)
徒歩	50	8.7
自転車	54	9.4
公共交通機関	7	1.2
自家用車	452	78.7
バイク	3	0.5
その他	5	0.9
無回答	3	0.5
回答者総数(%ベース)	574	100.0

来館の手段(総数574、単位%)

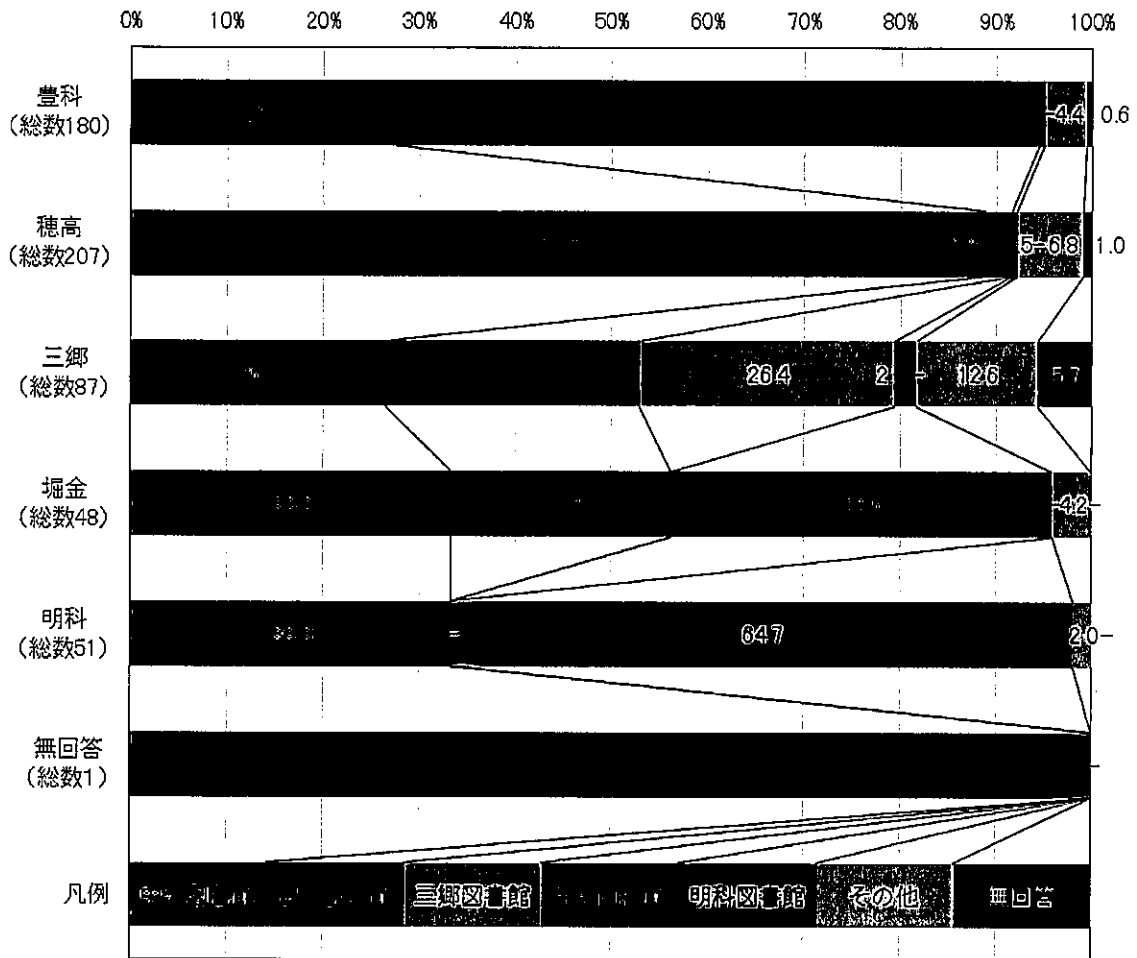


○「自家用車」の割合が78.7%で最も多く、次いで「自転車」9.4%、「徒歩」8.7%などとなっています。

居住地域別●問6 普段、最も利用している図書館はどこですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	中央 図書館	豊科 図書館	三郷 図書館	堀金 図書館	明科 図書館	その他	無回答
全体	574 100.0	290 50.5	161 28.0	23 4.0	23 4.0	33 5.7	36 6.3	8 1.4
豊科	180 100.0	49 27.2	121 67.2	0 0.0	1 0.6	0 0.0	8 4.4	1 0.6
穂高	207 100.0	184 88.9	6 2.9	0 0.0	1 0.5	0 0.0	14 6.8	2 1.0
三郷	87 100.0	23 26.4	23 26.4	23 26.4	2 2.3	0 0.0	11 12.6	5 5.7
堀金	48 100.0	16 33.3	11 22.9	0 0.0	19 39.6	0 0.0	2 4.2	0 0.0
明科	51 100.0	17 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	33 64.7	1 2.0	0 0.0
無回答	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

居住地域別●最も利用している図書館

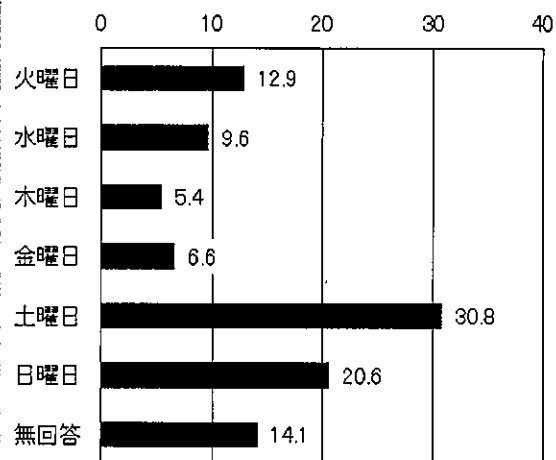


○「豊科」では「豊科図書館」、「穂高」では「中央図書館」、「明科」では「明科図書館」の割合がいずれも6割以上と高くなっているのに対し、「三郷」と「堀金」では、「中央図書館」および「豊科図書館」が、「三郷図書館」ないし「堀金図書館」と三分するかたちで高くなっています。

問8 よく利用する曜日は何曜日ですか

	回答数	割合(%)
火曜日	74	12.9
水曜日	55	9.6
木曜日	31	5.4
金曜日	38	6.6
土曜日	177	30.8
日曜日	118	20.6
無回答	81	14.1
回答者総数(%ベース)	574	100.0

よく利用する曜日(総数574、単位%)

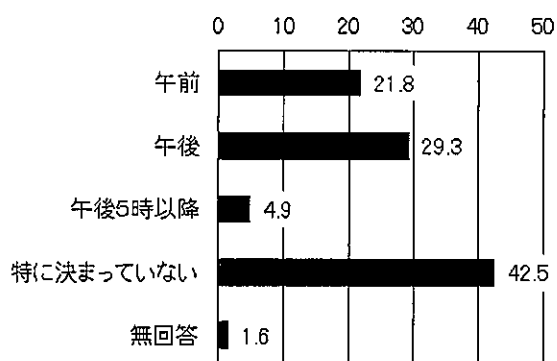


○「土曜日」が30.8%で最も高く、次いで「日曜日」20.6%、「火曜日」12.9%などとなっています。

問9 よく利用する時間帯はいつですか

	回答数	割合(%)
午前	125	21.8
午後	168	29.3
午後5時以降	28	4.9
特に決まっていない	244	42.5
無回答	9	1.6
回答者総数(%ベース)	574	100.0

よく利用する時間帯(総数574、単位%)



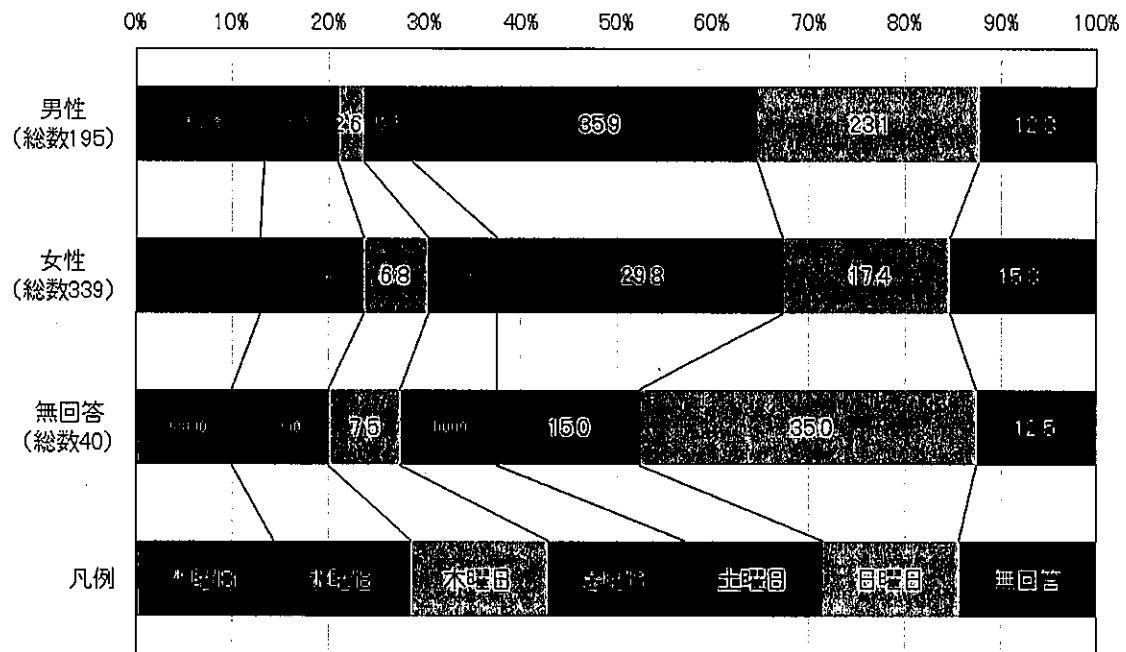
○「特に決まっていない」の割合が42.5%で最も高く、次いで「午後」29.3%、「午前」21.8%などとなっています。



男女別●問8 よく利用する曜日は何曜日ですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	無回答
全体	574 100.0	74 12.9	55 9.6	31 5.4	38 6.6	177 30.8	118 20.6	81 14.1
男性	195 100.0	26 13.3	15 7.7	5 2.6	10 5.1	70 35.9	45 23.1	24 12.3
女性	339 100.0	44 13.0	36 10.6	23 6.8	24 7.1	101 29.8	59 17.4	52 15.3
無回答	40 100.0	4 10.0	4 10.0	3 7.5	4 10.0	6 15.0	14 35.0	5 12.5

男女別●よく利用する曜日

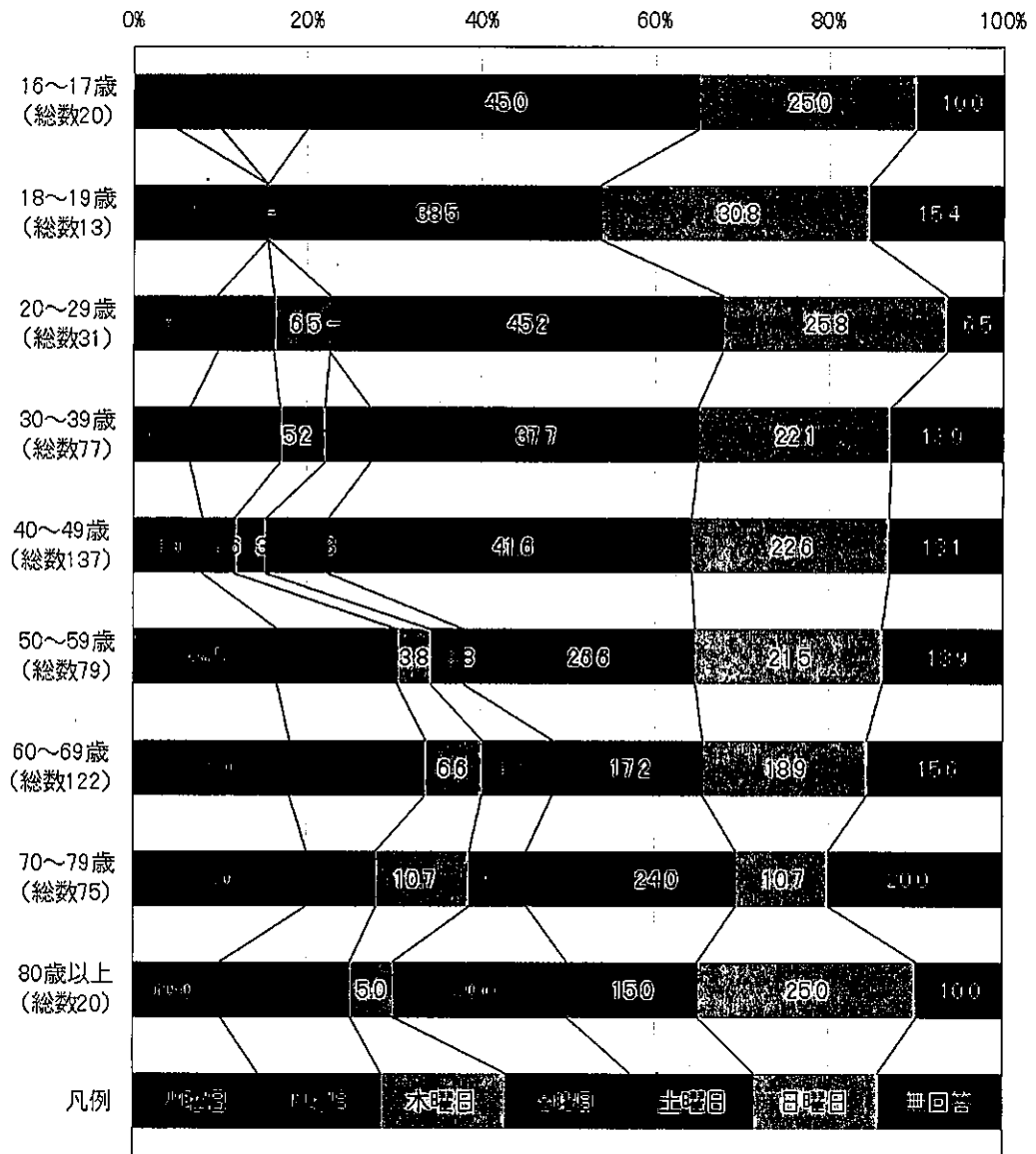


○いずれも「土曜日」と「日曜日」が高くなっていますが、両者合わせて「男性」では約60%、「女性」では約47%で、とくに「男性」の割合が高くなっています。

年齢別●問8 よく利用する曜日は何曜日ですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	無回答
全体	574 100.0	74 12.9	55 9.6	31 5.4	38 6.6	177 30.8	118 20.6	81 14.1
16～17歳	20 100.0	1 5.0	1 5.0	0 0.0	2 10.0	9 45.0	5 25.0	2 10.0
18～19歳	13 100.0	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 38.5	4 30.8	2 15.4
20～29歳	31 100.0	3 9.7	2 6.5	2 6.5	0 0.0	14 45.2	8 25.8	2 6.5
30～39歳	77 100.0	5 6.5	8 10.4	4 5.2	4 5.2	29 37.7	17 22.1	10 13.0
40～49歳	137 100.0	11 8.0	5 3.6	5 3.6	10 7.3	57 41.6	31 22.6	18 13.1
50～59歳	79 100.0	13 16.5	11 13.9	3 3.8	3 3.8	21 26.6	17 21.5	11 13.9
60～69歳	122 100.0	22 18.0	19 15.6	8 6.6	10 8.2	21 17.2	23 18.9	19 15.6
70～79歳	75 100.0	15 20.0	6 8.0	8 10.7	5 6.7	18 24.0	8 10.7	15 20.0
80歳以上	20 100.0	2 10.0	3 15.0	1 5.0	4 20.0	3 15.0	5 25.0	2 10.0
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

年齢別よく利用する曜日

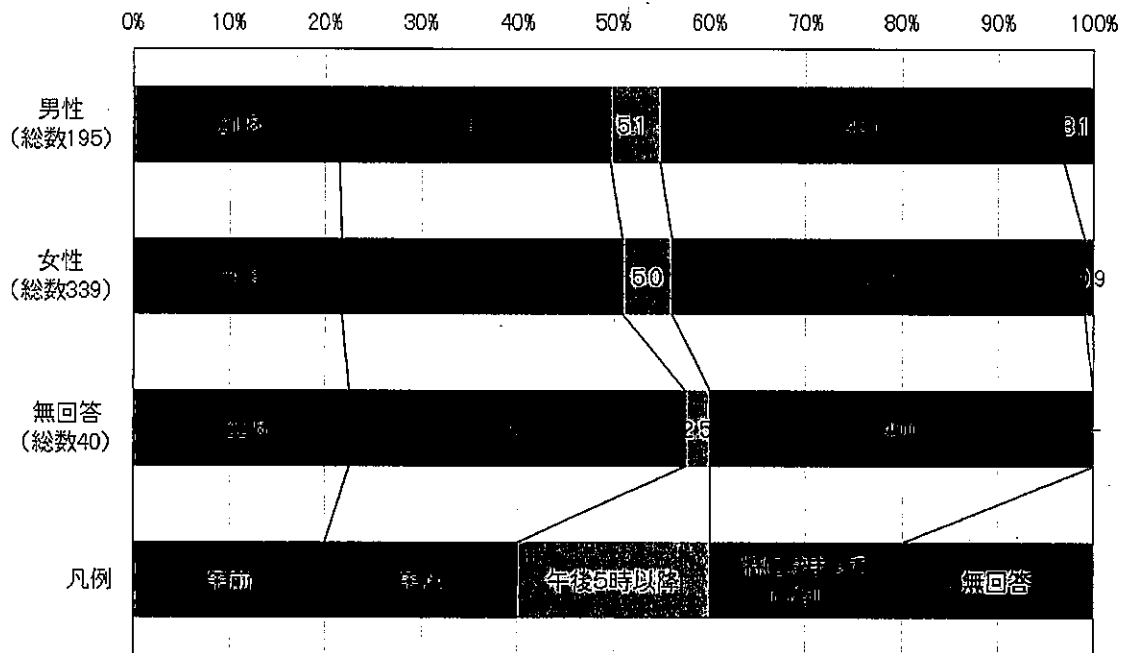


○「土曜日」「日曜日」の割合が高いのは、「16～17歳」から「40～49歳」までの若い年齢層で、「50～59歳」からは、年齢が上がるにつれて、「土曜日」の割合が下がり、各曜日に分散し、とくに「火曜日」の割合が高くなっています。

男女別●問9 よく利用する時間帯はいつですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	午前	午後	午後5時 以降	特に決まっ ていない	無回答
全体	574 100.0	125 21.8	168 29.3	28 4.9	244 42.5	9 1.6
男性	195 100.0	42 21.5	55 28.2	10 5.1	82 42.1	6 3.1
女性	339 100.0	74 21.8	99 29.2	17 5.0	146 43.1	3 0.9
無回答	40 100.0	9 22.5	14 35.0	1 2.5	16 40.0	0 0.0

男女別●よく利用する時間帯

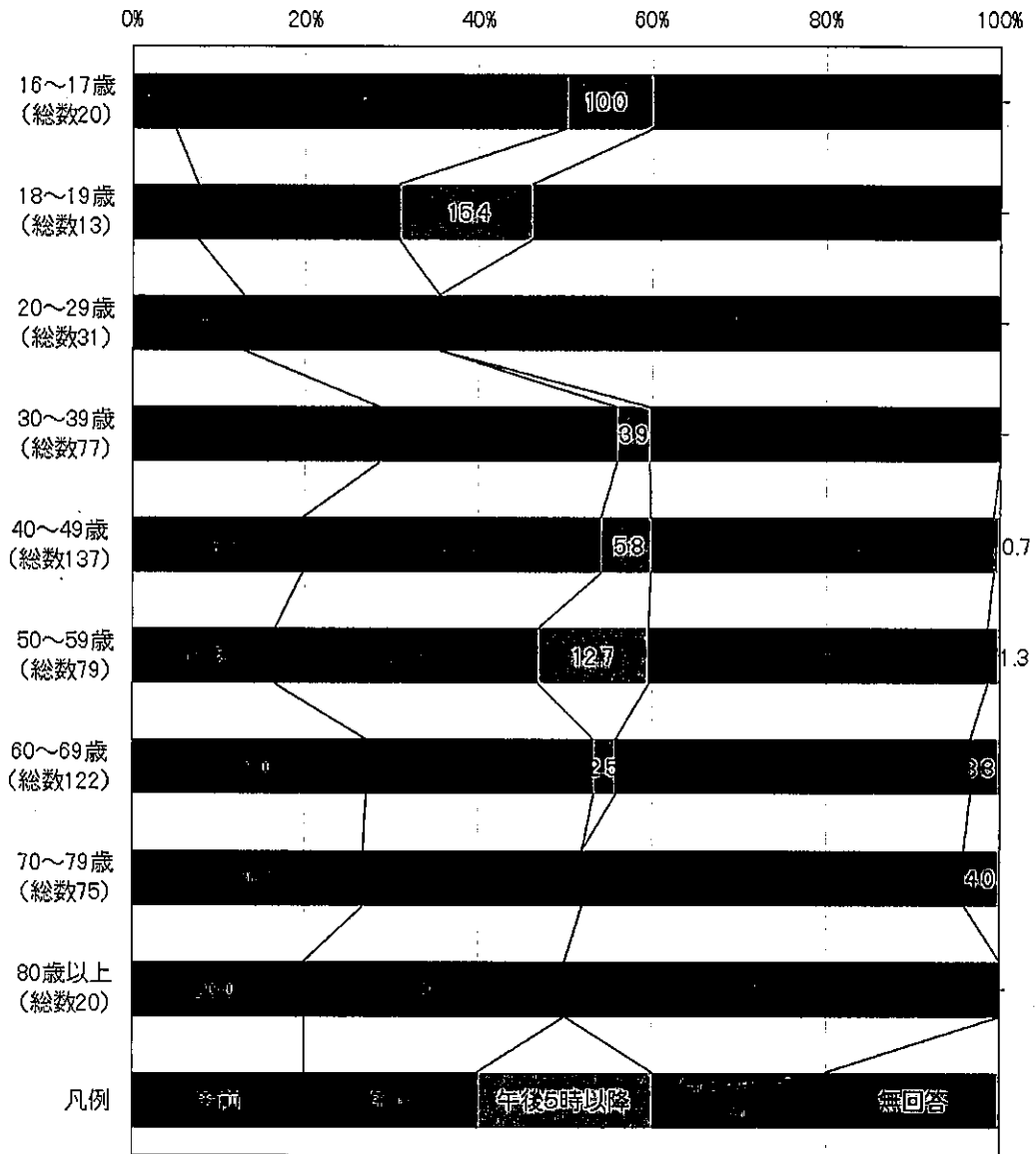


○「男性」と「女性」で、各割合はほとんど同一です。

年齢別●問9 よく利用する時間帯はいつですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	午前	午後	午後5時以降	特に決まってい ない	無回答
全体	574 100.0	125 21.8	168 29.3	28 4.9	244 42.5	9 1.6
16～17歳	20 100.0	1 5.0	9 45.0	2 10.0	8 40.0	0 0.0
18～19歳	13 100.0	1 7.7	3 23.1	2 15.4	7 53.8	0 0.0
20～29歳	31 100.0	4 12.9	7 22.6	0 0.0	20 64.5	0 0.0
30～39歳	77 100.0	22 28.6	21 27.3	3 3.9	31 40.3	0 0.0
40～49歳	137 100.0	27 19.7	47 34.3	8 5.8	54 39.4	1 0.7
50～59歳	79 100.0	13 16.5	24 30.4	10 12.7	31 39.2	1 1.3
60～69歳	122 100.0	33 27.0	32 26.2	3 2.5	50 41.0	4 3.3
70～79歳	75 100.0	20 26.7	19 25.3	0 0.0	33 44.0	3 4.0
80歳以上	20 100.0	4 20.0	6 30.0	0 0.0	10 50.0	0 0.0
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

年齢別●よく利用する時間帯



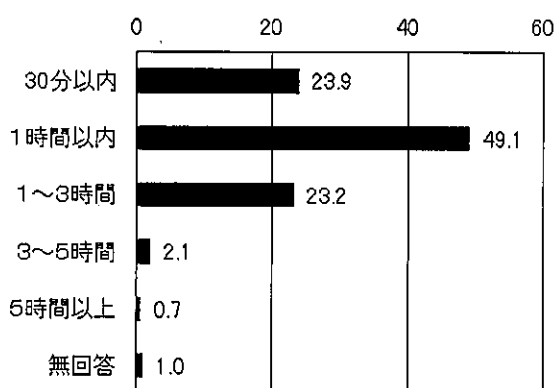
○年齢が上がるにつれて、「午前」の割合が高くなっています。「午後5時以降」は「16～17歳」「18～19歳」「50～59歳」で10%を超えています。「特に決まっていない」割合は、「20～29歳」でとくに高くなっています。



問10 図書館にどのくらいの時間、滞在されますか

	回答数	割合(%)
30分以内	137	23.9
1時間以内	282	49.1
1～3時間	133	23.2
3～5時間	12	2.1
5時間以上	4	0.7
無回答	6	1.0
回答者総数(%ベース)	574	100.0

図書館での滞在時間(総数574、単位%)

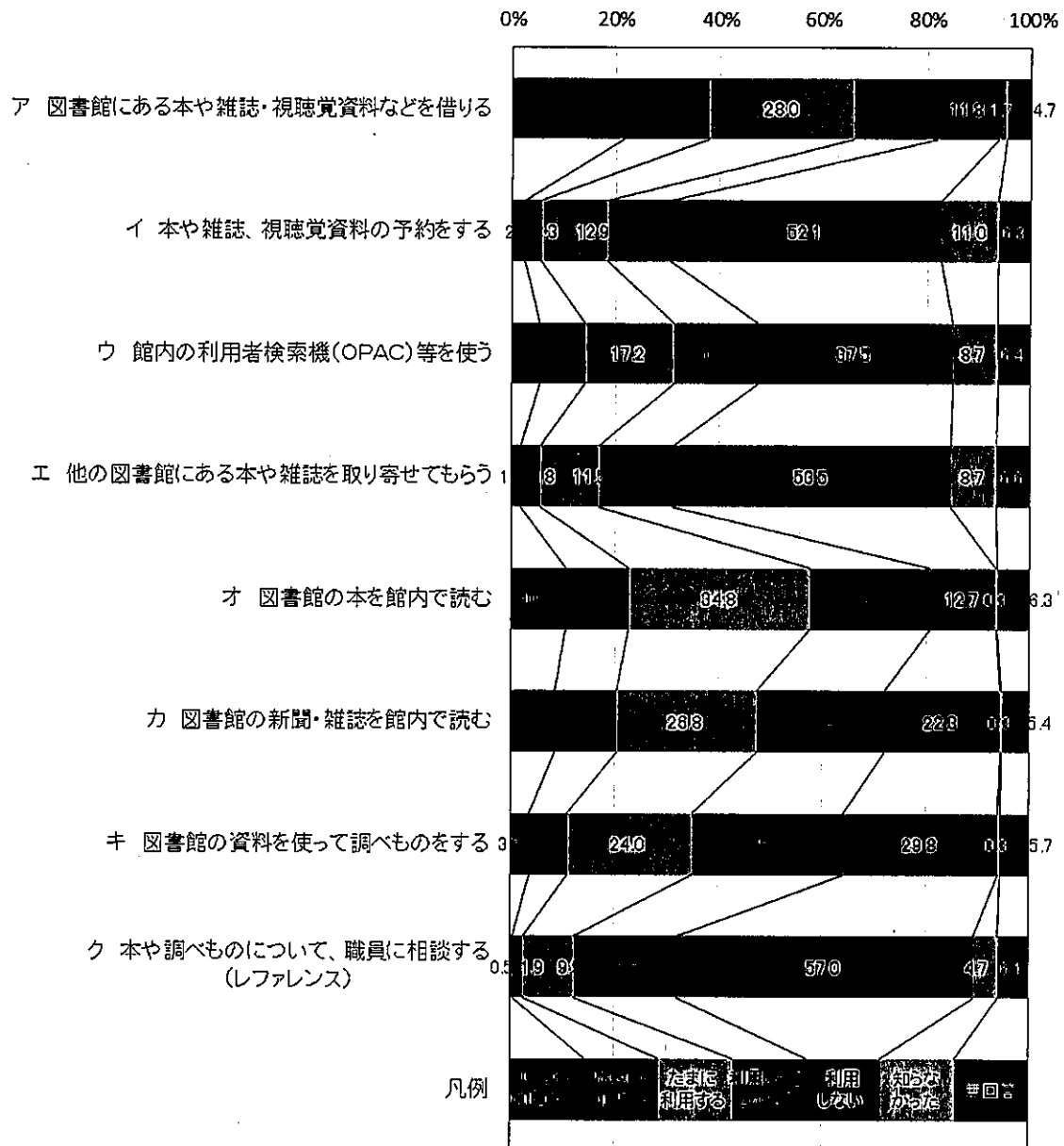


○「1時間以内」の割合が49.1%で最も高く、次いで「30分以内」23.9%、「1～3時間」23.2%などとなっています。

問11 あなたは、公共図書館のサービスをどのように利用されていますか。利用内容ごとにひとつずつ、利用状況を選び数字に○をしてください。(総数574)

		いつも 利用する	比較的 利用する	たまに 利用する	利用した ことが ある	利用 しない	知らな かった	無回答
ア 図書館にある本や 雑誌・視聴覚資料など を借りる	回答数	124	93	161	91	68	10	27
	割合(%)	21.6	16.2	28.0	15.9	11.8	1.7	4.7
イ 本や雑誌、視聴覚 資料の予約をする	回答数	14	19	74	69	299	63	36
	割合(%)	2.4	3.3	12.9	12.0	52.1	11.0	6.3
ウ 館内の利用者検索 機(OPAC)等を使う	回答数	31	50	99	92	215	50	37
	割合(%)	5.4	8.7	17.2	16.0	37.5	8.7	6.4
エ 他の図書館にある 本や雑誌を取り寄せて もらう	回答数	10	22	66	81	307	50	38
	割合(%)	1.7	3.8	11.5	14.1	53.5	8.7	6.6
オ 図書館の本を館内 で読む	回答数	61	70	200	132	73	2	36
	割合(%)	10.6	12.2	34.8	23.0	12.7	0.3	6.3
カ 図書館の新聞・雑 誌を館内で読む	回答数	49	69	154	141	128	2	31
	割合(%)	8.5	12.0	26.8	24.6	22.3	0.3	5.4
キ 図書館の資料を使 って調べものをする	回答数	21	42	138	167	171	2	33
	割合(%)	3.7	7.3	24.0	29.1	29.8	0.3	5.7
ク 本や調べものにつ いて、職員に相談する (レファレンス)	回答数	3	11	57	114	327	27	35
	割合(%)	0.5	1.9	9.9	19.9	57.0	4.7	6.1

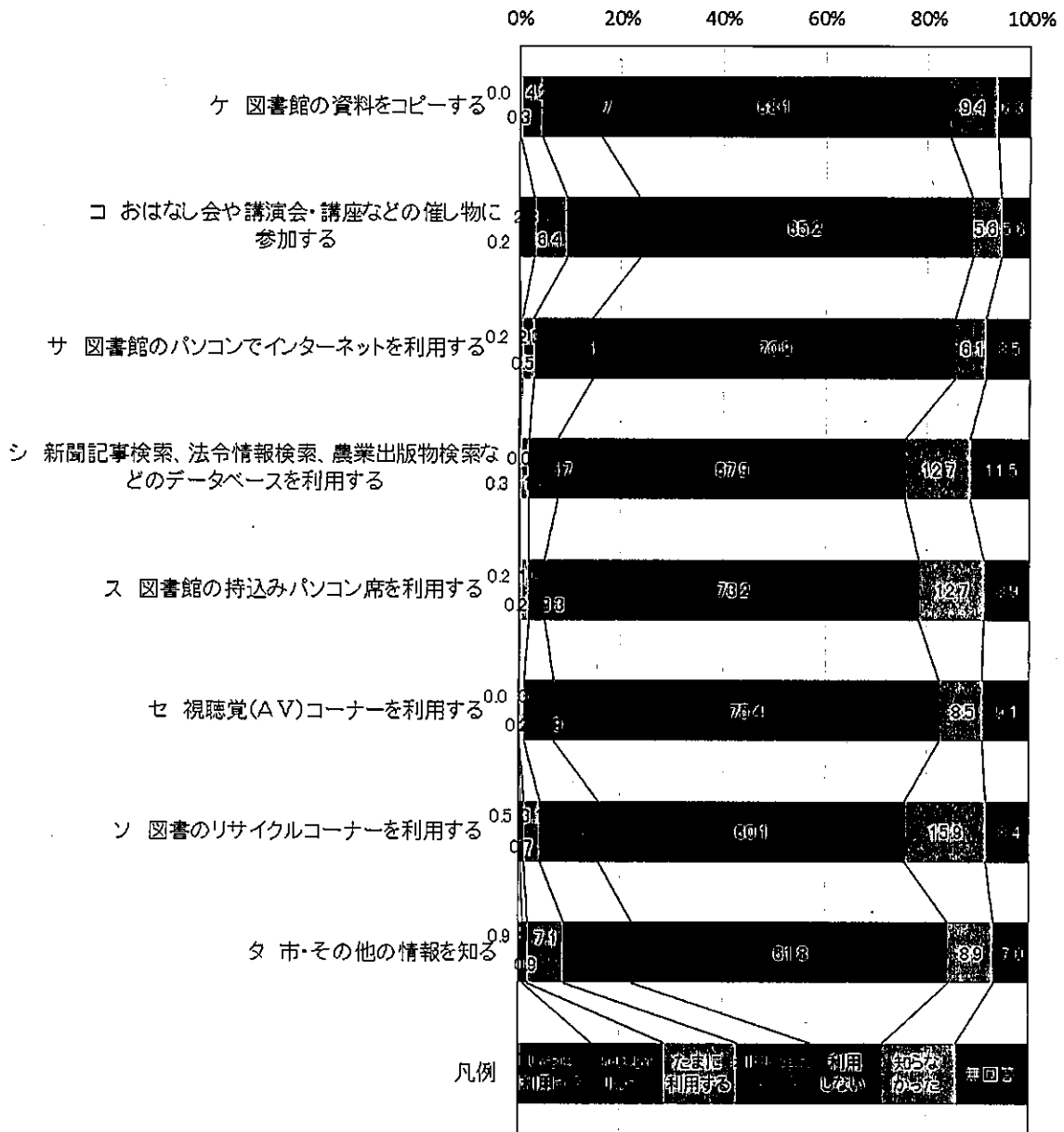
公共図書館サービスの利用状況(1)(総数574)



○ア～クについて、「いつも利用する」と「比較的利用する」を合わせた割合をみると、「ア 図書館にある本や雑誌・視聴覚資料などを借りる」が37.8%で最も高く、次いで「オ 図書館の本を館内で読む」22.8%、「カ 図書館の新聞・雑誌を館内で読む」20.5%などとなっています。「利用しない」についてみると、「ク 本や調べものについて、職員に相談する(レファレンス)」の割合が57.0%で最も高く、次いで「エ 他の図書館にある本や雑誌を取り寄せてもらう」53.5%、「イ 本や雑誌、視聴覚資料の予約をする」52.1%などとなっています。

		いつも 利用する	比較的 利用する	たまに 利用する	利用した ことが ある	利用 しない	知らな かった	無回答
ケ 図書館の資料をコ ピーする	回答数	0	2	24	67	391	54	36
	割合(%)	0.0	0.3	4.2	11.7	68.1	9.4	6.3
コ おはなし会や講演 会・講座などの催し物 に参加する	回答数	1	16	37	82	374	32	32
	割合(%)	0.2	2.8	6.4	14.3	65.2	5.6	5.6
サ 図書館のパソコン でインターネットを利用 する	回答数	1	3	13	66	407	35	49
	割合(%)	0.2	0.5	2.3	11.5	70.9	6.1	8.5
シ 新聞記事検索、法 令情報検索、農業出版 物検索などのデータベ ースを利用する	回答数	2	0	10	33	390	73	66
	割合(%)	0.3	0.0	1.7	5.7	67.9	12.7	11.5
ス 図書館の持込みパ ソコン席を利用する	回答数	1	1	9	19	420	73	51
	割合(%)	0.2	0.2	1.6	3.3	73.2	12.7	8.9
セ 視聴覚(AV)コー ナーを利用する	回答数	0	1	5	34	433	49	52
	割合(%)	0.0	0.2	0.9	5.9	75.4	8.5	9.1
ソ 図書のリサイクルコ ーナーを利用する	回答数	3	4	18	65	345	91	48
	割合(%)	0.5	0.7	3.1	11.3	60.1	15.9	8.4
タ 市・その他の情報を 知る	回答数	5	5	41	77	355	51	40
	割合(%)	0.9	0.9	7.1	13.4	61.8	8.9	7.0

公共図書館サービスの利用状況(2)(総数574)



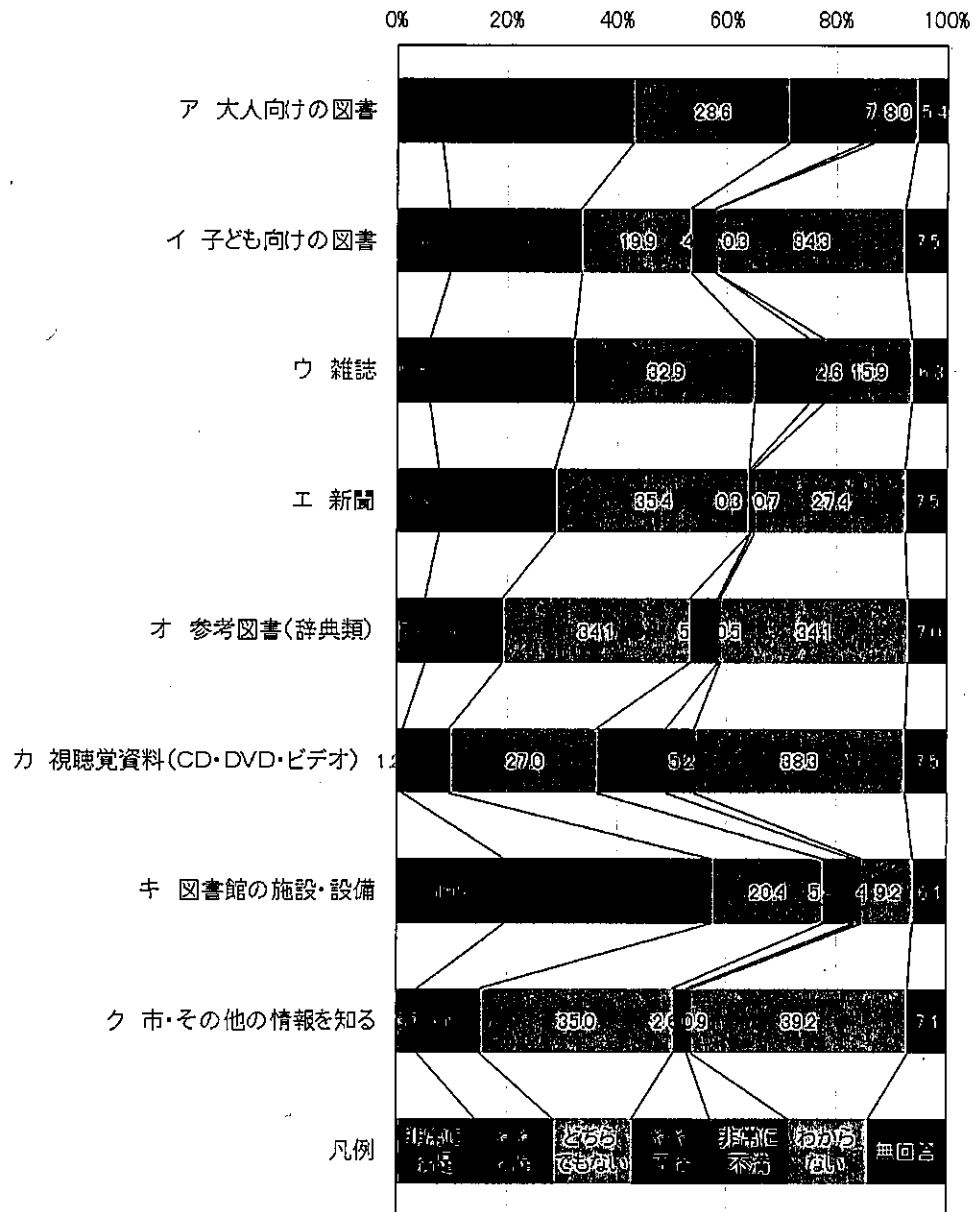
○ケ～タについては、いずれも「利用したことがない」が6割以上を占めていますが、これらのうち、「いつも利用する」「比較的利用する」を合わせた割合が比較的高いのは、「コ おはなし会や講演会・講座などの催し物に参加する」3.0%、「タ 市・その他の情報を知る」1.8%、「ソ 図書のリサイクルコーナーを利用する」1.2%などです。また「知らなかった」についてみると、「ソ 図書のリサイクルコーナーを利用する」が最も高く15.9%、次いで「シ 新聞記事検索、法令情報検索、農業出版物検索などのデータベースを利用する」と「ス 図書館の持込みパソコン席を利用する」がともに12.7%などとなっています。

問12 公共図書館の施設・資料についての満足度をうかがいます。施設・資料の内容ごとにひとつずつ、満足度を選び数字に○をしてください。(総数574)

		非常に満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	非常に不満	わからない	無回答
ア 大人向けの図書	回答数	47	199	164	77	10	46	31
	割合(%)	8.2	34.7	28.6	13.4	1.7	8.0	5.4
イ 子ども向けの図書	回答数	55	138	114	25	2	197	43
	割合(%)	9.6	24.0	19.9	4.4	0.3	34.3	7.5
ウ 雑誌	回答数	34	151	189	58	15	91	36
	割合(%)	5.9	26.3	32.9	10.1	2.6	15.9	6.3
エ 新聞	回答数	43	122	203	2	4	157	43
	割合(%)	7.5	21.3	35.4	0.3	0.7	27.4	7.5
オ 参考図書(辞典類)	回答数	29	81	196	29	3	196	40
	割合(%)	5.1	14.1	34.1	5.1	0.5	34.1	7.0
カ 視聴覚資料(CD・D VD・ビデオ)	回答数	7	48	155	71	30	220	43
	割合(%)	1.2	8.4	27.0	12.4	5.2	38.3	7.5
キ 図書館の施設・設備	回答数	112	217	117	32	8	53	35
	割合(%)	19.5	37.8	20.4	5.6	1.4	9.2	6.1
ク 市・その他の情報を 知る	回答数	21	66	201	15	5	225	41
	割合(%)	3.7	11.5	35.0	2.6	0.9	39.2	7.1



公共図書館の施設・資料についての満足度(総数574)

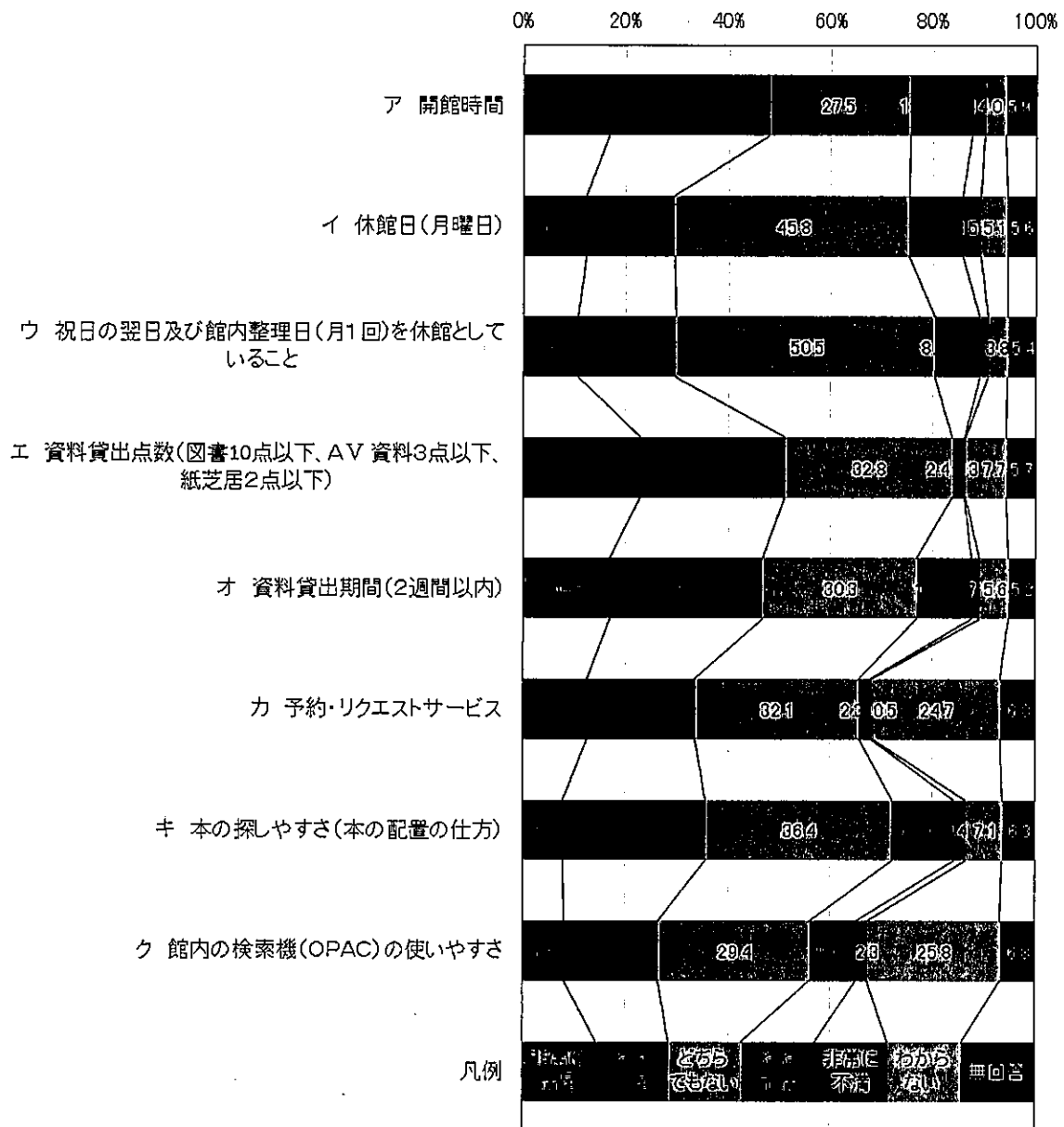


○「非常に満足」「やや満足」を合わせた割合をみると、「キ 図書館の施設・設備」が57.3%で最も高く、次いで「ア 大人向けの図書」42.9%、「イ 子ども向けの図書」33.6%などとなっています。反対に「やや不満」「非常に不満」を合わせた割合は、「カ 視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)」17.6%で最も高く、次いで「ア 大人向けの図書」15.1%、「ウ 雑誌」12.7%などとなっています。

問13 図書館のサービスについての満足度をうかがいます。一番利用するサービス内容ごとにひとつずつ、満足度を選び数字に○をしてください。(1)(総数574)

		非常に満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	非常に不満	わからない	無回答
ア 開館時間	回答数	96	179	158	70	14	23	34
	割合(%)	16.7	31.2	27.5	12.2	2.4	4.0	5.9
イ 休館日(月曜日)	回答数	70	100	263	60	20	29	32
	割合(%)	12.2	17.4	45.8	10.5	3.5	5.1	5.6
ウ 祝日の翌日及び館内整理日(月1回)を休館としていること	回答数	61	110	290	50	10	22	31
	割合(%)	10.6	19.2	50.5	8.7	1.7	3.8	5.4
エ 資料貸出点数(図書10点以下、AV資料3点以下、紙芝居2点以下)	回答数	132	161	188	14	2	44	33
	割合(%)	23.0	28.0	32.8	2.4	0.3	7.7	5.7
オ 資料貸出期間(2週間以内)	回答数	97	171	174	60	10	32	30
	割合(%)	16.9	29.8	30.3	10.5	1.7	5.6	5.2
カ 予約・リクエストサービス	回答数	71	122	184	13	3	142	39
	割合(%)	12.4	21.3	32.1	2.3	0.5	24.7	6.8
キ 本の探しやすさ(本の配置の仕方)	回答数	44	161	209	69	14	41	36
	割合(%)	7.7	28.0	36.4	12.0	2.4	7.1	6.3
ク 館内の検索機(OPAC)の使いやすさ	回答数	46	107	169	52	13	148	39
	割合(%)	8.0	18.6	29.4	9.1	2.3	25.8	6.8

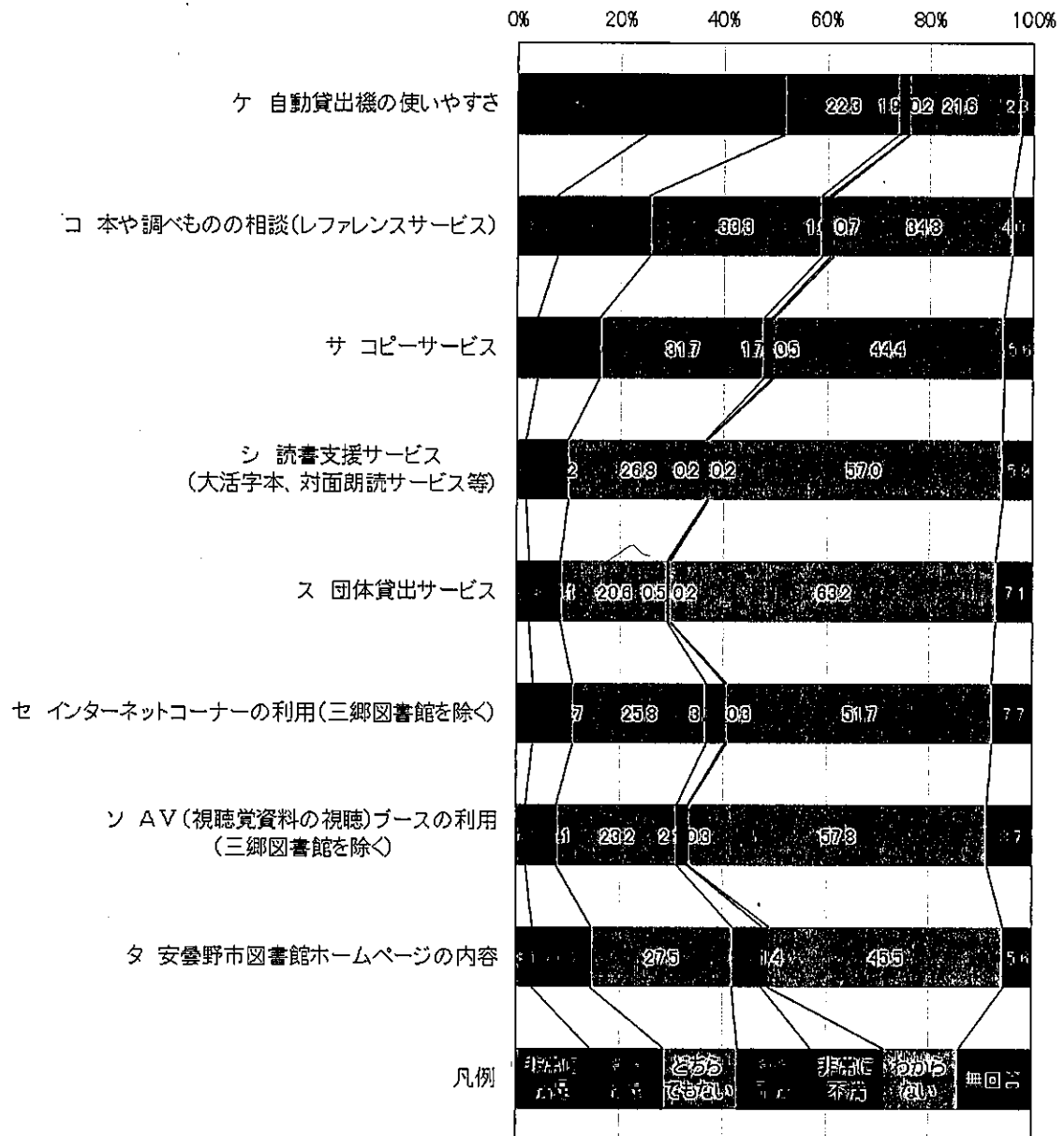
図書館のサービスについての満足度(1)(総数674)



○ア～クについて、「非常に満足」「やや満足」を合わせた割合をみると、「エ 資料貸出点数(図書10点以下、AV 資料3点以下、紙芝居2点以下)」が51.0%で最も高く、次いで「ア 開館時間」47.9%、「オ 資料貸出期間(2週間以内)」46.7%などとなっています。反対に「やや不満」「非常に不満」を合わせると、「ア 開館時間」が14.6%で最も高く、次いで「キ 本の探しやすさ(本の配置の仕方)」14.4%、「イ 休館日(月曜日)」14.0%などとなっています。

		非常に満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	非常に不満	わからない	無回答
ケ 自動貸出機の使いやすさ	回答数	144	153	128	11	1	124	13
	割合(%)	25.1	26.7	22.3	1.9	0.2	21.6	2.3
コ 本や調べものの相談(レファレンスサービス)	回答数	45	102	191	9	4	200	23
	割合(%)	7.8	17.8	33.3	1.6	0.7	34.8	4.0
サ コピーサービス	回答数	22	70	182	10	3	255	32
	割合(%)	3.8	12.2	31.7	1.7	0.5	44.4	5.6
シ 読書支援サービス(大活字本、対面朗読サービス等)	回答数	10	47	154	1	1	327	34
	割合(%)	1.7	8.2	26.8	0.2	0.2	57.0	5.9
ス 団体貸出サービス	回答数	13	35	118	3	1	363	41
	割合(%)	2.3	6.1	20.6	0.5	0.2	63.2	7.1
セ インターネットコーナーの利用(三郷図書館を除く)	回答数	18	44	148	21	2	297	44
	割合(%)	3.1	7.7	25.8	3.7	0.3	51.7	7.7
ソ AV(視聴覚資料の視聴)ブースの利用(三郷図書館を除く)	回答数	10	35	133	12	2	332	50
	割合(%)	1.7	6.1	23.2	2.1	0.3	57.8	8.7
タ 安曇野市図書館ホームページの内容	回答数	18	65	158	32	8	261	32
	割合(%)	3.1	11.3	27.5	5.6	1.4	45.5	5.6

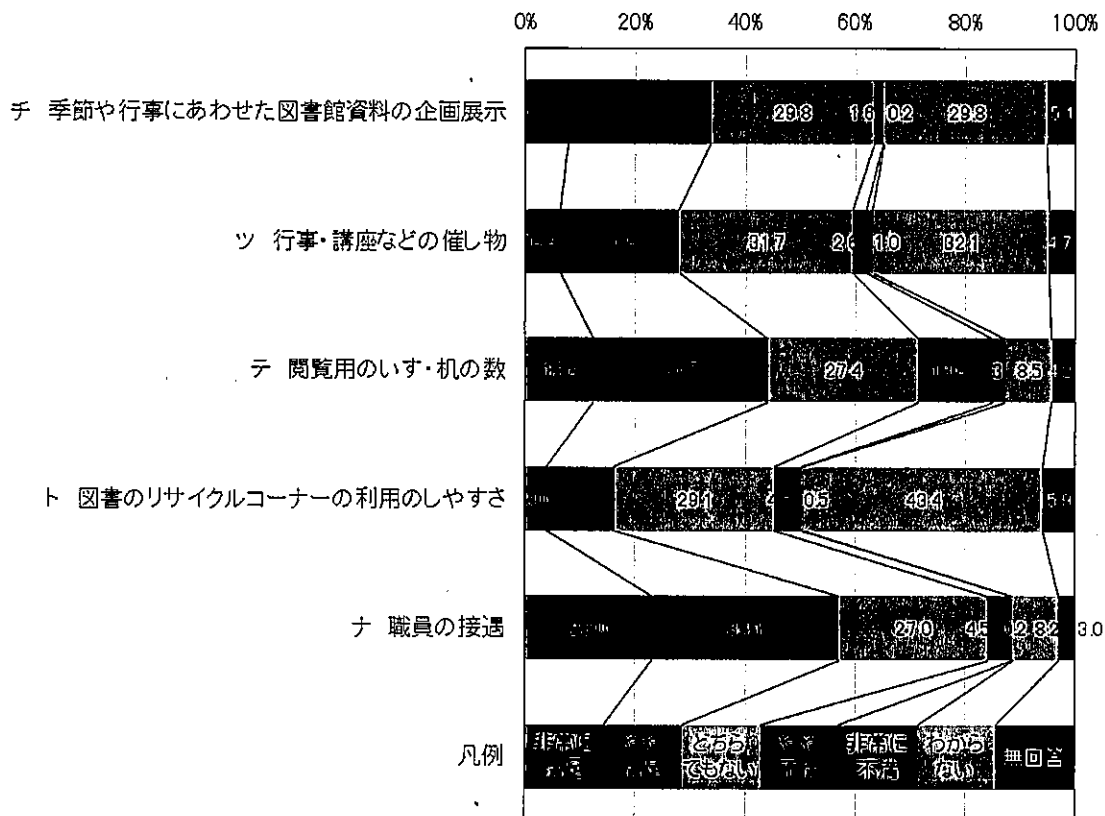
図書館のサービスについての満足度(2)(総数574)



○ケ～タについて、「非常に満足」「やや満足」を合わせた割合をみると、「ケ 自動貸出機の使いやすさ」が51.8%で最も高く、次いで「コ 本や調べものの相談(レファレンスサービス)」25.6%、「サ コピーサービス」16.0%などとなっています。反対に「やや不満」「非常に不満」を合わせると、「タ 安曇野市図書館ホームページの内容」が7.0%で最も高く、次いで「セ インターネットコーナーの利用(三郷図書館を除く)」4.0%、「ソ AV(視聴覚資料の視聴)ブースの利用(三郷図書館を除く)」2.4%などとなっています。

		非常に満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	非常に不満	わからない	無回答
チ 季節や行事にあわせた図書館資料の企画展示	回答数	45	148	171	9	1	171	29
	割合(%)	7.8	25.8	29.8	1.6	0.2	29.8	5.1
ツ 行事・講座などの催し物	回答数	36	124	182	15	6	184	27
	割合(%)	6.3	21.6	31.7	2.6	1.0	32.1	4.7
テ 閲覧用のいす・机の数	回答数	71	182	157	78	13	49	24
	割合(%)	12.4	31.7	27.4	13.6	2.3	8.5	4.2
ト 図書のリサイクルコーナーの利用のしやすさ	回答数	23	70	167	28	3	249	34
	割合(%)	4.0	12.2	29.1	4.9	0.5	43.4	5.9
ナ 職員の接遇	回答数	132	196	155	26	1	47	17
	割合(%)	23.0	34.1	27.0	4.5	0.2	8.2	3.0

図書館のサービスについての満足度(3) (総数574)





○チ～ナについて、「非常に満足」「やや満足」を合わせた割合をみると、「ナ 職員の接遇」が57.1%で最も高く、次いで「テ 閲覧用のいす・机の数」44.1%、「チ 季節や行事にあわせた図書館資料の企画展示」33.6%などとなっています。反対に「やや不満」「非常に不満」を合わせると、「テ 閲覧用のいす・机の数」が15.9%で最も高く、次いで「ト 図書のリサイクルコーナーの利用のしやすさ」5.4%、「ナ 職員の接遇」4.7%などとなっています。

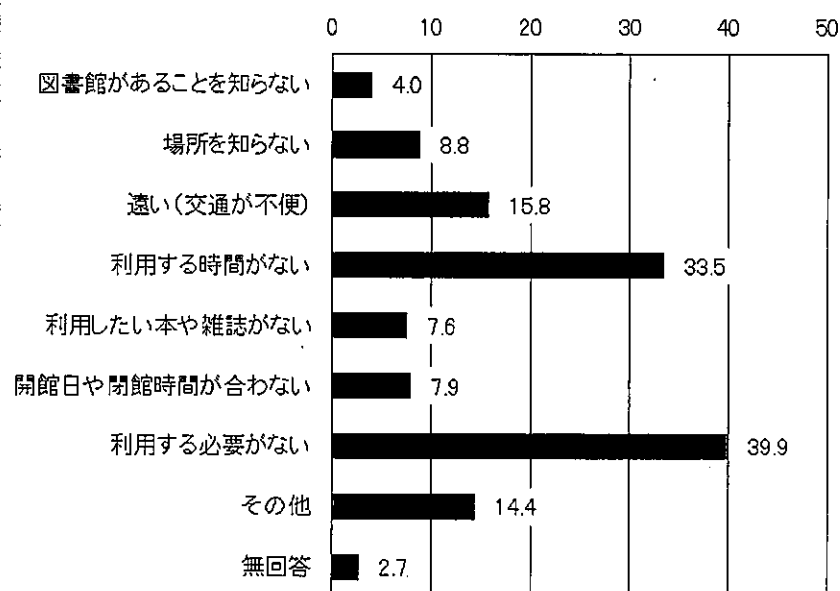
○全体を通してみると、「非常に満足」「やや満足」を合わせた割合が最も高いのは「ナ 職員の接遇」が57.1%、次いで「ケ 自動貸出機の使いやすさ」が51.8%、「エ 資料貸出点数(図書10点以下、AV 資料3点以下、紙芝居2点以下)」が51.0%、反対に「やや不満」「非常に不満」を合わせた割合が最も高いのは、「テ 閲覧用のいす・机の数」が15.9%、次いで「ア 開館時間」が14.6%、「キ 本の探しやすさ(本の配置の仕方)」14.4%、「イ 休館日(月曜日)」14.0%などとなっています。

一方、「わからない」についてみると、「ス 団体貸出サービス」が63.2%で最も多く、次いで「ソ AV(視聴覚資料の視聴)ブースの利用(三郷図書館を除く)」57.8%、「シ 読書支援サービス(大活字本、対面朗読サービス等)」57.0%、「セ インターネットコーナーの利用(三郷図書館を除く)」51.7%などとなっています。

問14 問4で「利用しない」と回答された方にお聞きます。利用されないのはなぜですか(該当する全てに○を)

	回答数	割合(%)
図書館があることを知らない	23	4.0
場所を知らない	51	8.8
遠い(交通が不便)	92	15.8
利用する時間がない	195	33.5
利用したい本や雑誌がない	44	7.6
開館日や閉館時間が合わない	46	7.9
利用する必要がない	232	39.9
その他	84	14.4
無回答	16	2.7
回答者総数(%ベース)	582	100.0

公立図書館を利用しない理由(総数582、複数回答、単位%)

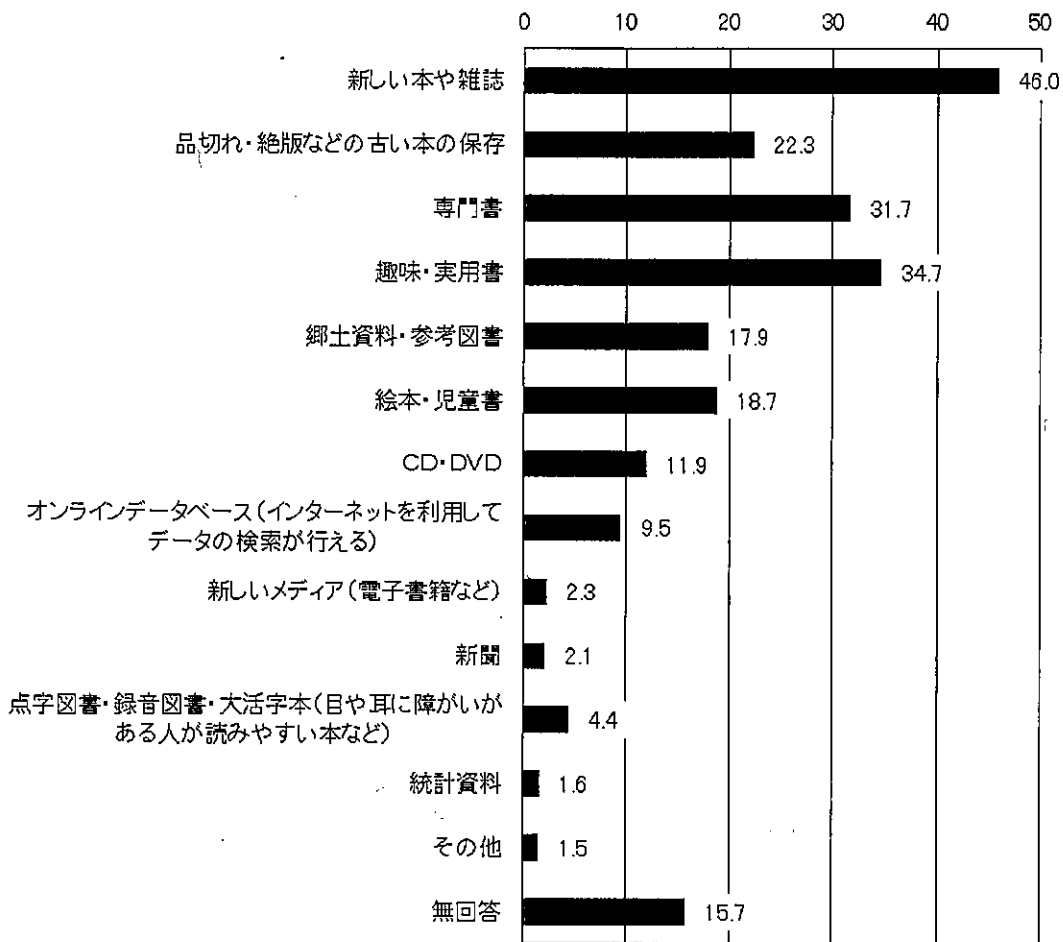


○「利用する必要がない」の割合が39.9%で最も高く、次いで「利用する時間がない」が33.5%、「遠い」が15.8%、「場所を知らない」が8.8%などとなっています。

問 15 図書館で特に充実すべき図書資料はなんですか(3つまで)

	回答数	割合(%)
新しい本や雑誌	535	46.0
品切れ・絶版などの古い本の保存	260	22.3
専門書	369	31.7
趣味・実用書	404	34.7
郷土資料・参考図書	208	17.9
絵本・児童書	218	18.7
CD・DVD	138	11.9
オンラインデータベース(インターネットを利用してデータの検索が行える)	111	9.5
新しいメディア(電子書籍など)	27	2.3
新聞	25	2.1
点字図書・録音図書・大活字本(目や耳に障がいがある人が読みやすい本など)	51	4.4
統計資料	19	1.6
その他	18	1.5
無回答	183	15.7
回答者総数(%ベース)	1,164	100.0

特に充実すべき図書資料(総数1,164、3つまで複数回答、単位%)



○「新しい本や雑誌」の割合が46.0%で最も高く、次いで「趣味・実用書」34.7%、「専門書」31.7%などとなっています。反対に低いのは、「統計資料」1.6%、「新聞」2.1%、「新しいメディア(電子書籍など)」2.3%などです。

男女別●問 15 図書館で特に充実すべき図書資料はなんですか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	新しい本 や雑誌	品切れ・ 絶版など の古い本の 保存	専門書	趣味・実 用書	郷土資 料・参考 図書	絵本・ 児童書	CD・DVD
全体	1,164 100.0	535 46.0	260 22.3	369 31.7	404 34.7	208 17.9	218 18.7	138 11.9
男性	442 100.0	180 40.7	105 23.8	164 37.1	148 33.5	105 23.8	49 11.1	52 11.8
女性	602 100.0	316 52.5	139 23.1	183 30.4	215 35.7	82 13.6	151 25.1	74 12.3
無回答	120 100.0	39 32.5	16 13.3	22 18.3	41 34.2	21 17.5	18 15.0	12 10.0
上段:回答数 下段:割合(%)	オンライン データベ ース(イン ターネット を利用してデータの検索が行える)	新しいメデ ィア(電子 書籍など)	新聞	点字図 書・録音 図書・大 活字本 (目や耳 に障がい がある人 が読みや すい本な ど)	統計資料	その他	無回答	
全体	111 9.5	27 2.3	25 2.1	51 4.4	19 1.6	18 1.5	183 15.7	
男性	60 13.6	18 4.1	11 2.5	8 1.8	14 3.2	5 1.1	67 15.2	
女性	43 7.1	8 1.3	13 2.2	37 6.1	3 0.5	11 1.8	80 13.3	
無回答	8 6.7	1 0.8	1 0.8	6 5.0	2 1.7	2 1.7	36 30.0	

○「新しい本や雑誌」では、とくに「女性」が、「専門書」ではとくに「男性」の割合が高くなっています。また「郷土資料・参考図書」では「男性」が、「絵本・児童書」では「女性」の割合が高くなっています。

年齢別●問 15 図書館で特に充実すべき図書資料はなんですか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	新しい本 や雑誌	品切れ・ 絶版など の古い本 の保存	専門書	趣味・実 用書	郷土資 料・参考 図書	絵本・児 童書	CD・DVD
全体	1,164 100.0	535 46.0	260 22.3	369 31.7	404 34.7	208 17.9	218 18.7	138 11.9
16~17 歳	31 100.0	20 64.5	12 38.7	11 35.5	10 32.3	3 9.7	3 9.7	4 12.9
18~19 歳	18 100.0	11 61.1	2 11.1	11 61.1	5 27.8	4 22.2	2 11.1	4 22.2
20~29 歳	62 100.0	31 50.0	20 32.3	28 45.2	14 22.6	8 12.9	17 27.4	7 11.3
30~39 歳	121 100.0	63 52.1	30 24.8	54 44.6	46 38.0	15 12.4	52 43.0	20 16.5
40~49 歳	213 100.0	114 53.5	67 31.5	79 37.1	74 34.7	36 16.9	58 27.2	39 18.3
50~59 歳	181 100.0	91 50.3	51 28.2	80 44.2	69 38.1	35 19.3	31 17.1	21 11.6
60~69 歳	258 100.0	114 44.2	46 17.8	69 26.7	91 35.3	57 22.1	35 13.6	22 8.5
70~79 歳	189 100.0	67 35.4	26 13.8	20 10.6	66 34.9	31 16.4	14 7.4	16 8.5
80 歳以上	90 100.0	24 26.7	6 6.7	17 18.9	29 32.2	19 21.1	6 6.7	5 5.6
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



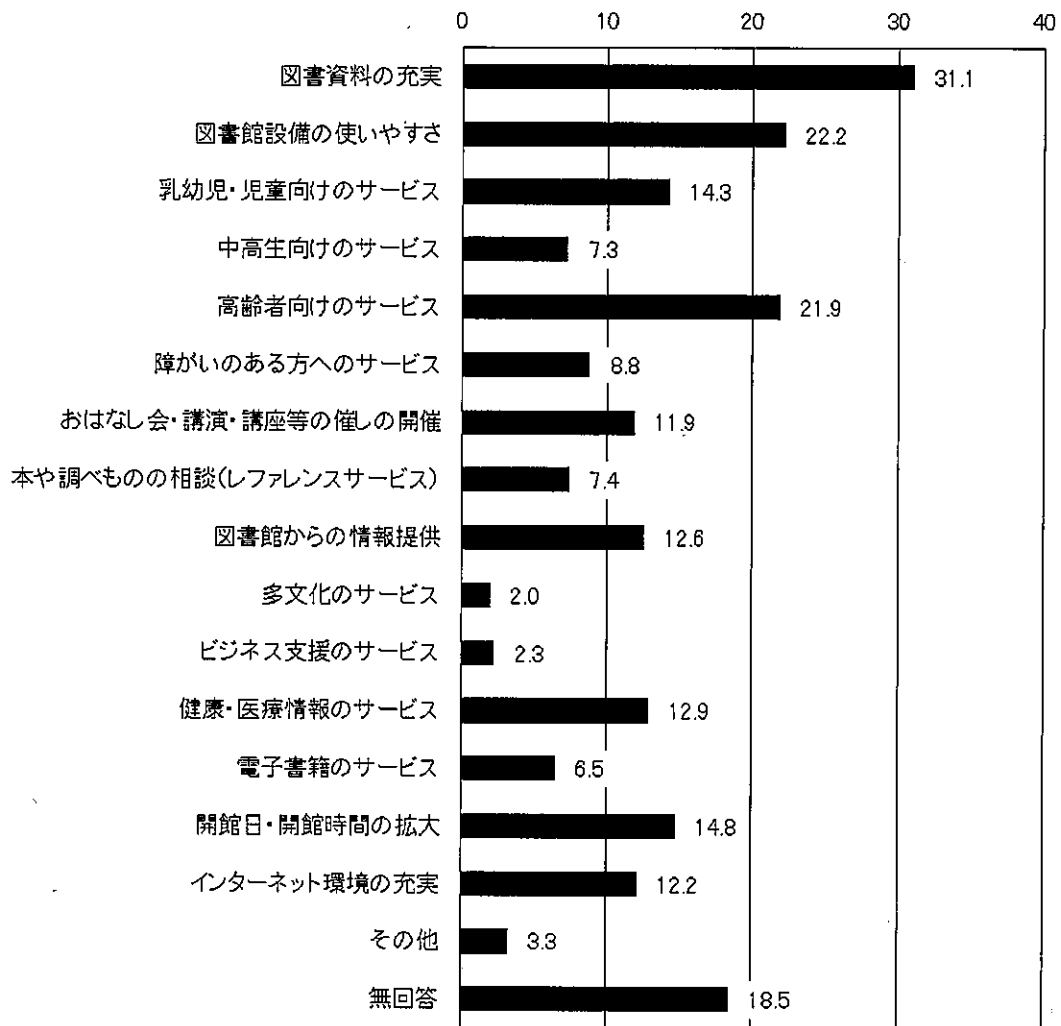
上段:回答数 下段:割合(%)	オンライン データ ベース(イン ターネット を利用してデー タの検索が 行える)	新しいメデ ィア(電子 書籍など)	新聞	点 字 図 書・録音 図 書・大 活 字 本 (目や耳 に障がい がある人 が読みや すい本な ど)	統計資料	その他	無回答
全体	111 9.5	27 2.3	25 2.1	51 4.4	19 1.6	18 1.5	183 15.7
16~17 歳	1 3.2	4 12.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.2	3 9.7
18~19 歳	2 11.1	0 0.0	1 5.6	0 0.0	1 5.6	0 0.0	0 0.0
20~29 歳	8 12.9	3 4.8	0 0.0	2 3.2	2 3.2	1 1.6	5 8.1
30~39 歳	12 9.9	3 2.5	1 0.8	2 1.7	2 1.7	4 3.3	2 1.7
40~49 歳	29 13.6	8 3.8	6 2.8	13 6.1	2 0.9	4 1.9	9 4.2
50~59 歳	28 15.5	5 2.8	3 1.7	15 8.3	5 2.8	1 0.6	9 5.0
60~69 歳	22 8.5	2 0.8	7 2.7	12 4.7	3 1.2	3 1.2	49 19.0
70~79 歳	8 4.2	2 1.1	2 1.1	5 2.6	4 2.1	2 1.1	66 34.9
80 歳以上	1 1.1	0 0.0	5 5.6	2 2.2	0 0.0	2 2.2	39 43.3
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

○「新しい本や雑誌」では、「16~17歳」と「18~19歳」では60%を超え、また「20~29歳」から「50~59歳」ではいずれも50%を超えるなど、若い年齢層で割合が高くなっています。これに対し、「趣味・実用書」では「50~59歳」から「70~79歳」で高くなっています。「専門書」も若い年齢層で高く、とくに「18~19歳」では60%を超えています。

問 16 今後、特に充実すべき図書館サービスはなんですか(3つまで)

	回答数	割合(%)
図書資料の充実	362	31.1
図書館設備の使いやすさ	258	22.2
乳幼児・児童向けのサービス	167	14.3
中高生向けのサービス	85	7.3
高齢者向けのサービス	255	21.9
障がいのある方へのサービス	102	8.8
おはなし会・講演・講座等の催しの開催	138	11.9
本や調べものの相談(レファレンスサービス)	86	7.4
図書館からの情報提供	147	12.6
多文化のサービス	23	2.0
ビジネス支援のサービス	27	2.3
健康・医療情報のサービス	150	12.9
電子書籍のサービス	76	6.5
開館日・開館時間の拡大	172	14.8
インターネット環境の充実	142	12.2
その他	38	3.3
無回答	215	18.5
回答者総数(%ベース)	1,164	100.0

特に充実すべき図書館サービス(総数1,164, 3つまで複数回答, 単位%)



○「図書資料の充実」の割合が31.1%で最も高く、次いで「図書館設備の使いやすさ」が22.2%、「高齢者向けのサービス」が21.9%などとなっています。反対に低いのは、「多文化のサービス」2.0%、「ビジネス支援のサービス」2.3%などです。

男女別●問 16 今後、特に充実すべき図書館サービスはなんですか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	図書資料の充実	図書館設備の使いやすさ	乳幼児・児童向けのサービス	中高生向けのサービス	高齢者向けのサービス	障がいのある方へのサービス	おはなし会・講演・講座等の催しの開催	本や調べものの相談(レファレンスサービス)
全体	1,164 100.0	362 31.1	258 22.2	167 14.3	85 7.3	255 21.9	102 8.8	138 11.9	86 7.4
男性	442 100.0	152 34.4	85 19.2	47 10.6	35 7.9	102 23.1	40 9.0	48 10.9	28 6.3
女性	602 100.0	186 30.9	151 25.1	115 19.1	45 7.5	124 20.6	53 8.8	79 13.1	50 8.3
無回答	120 100.0	24 20.0	22 18.3	5 4.2	5 4.2	29 24.2	9 7.5	11 9.2	8 6.7
上段:回答数 下段:割合(%)	図書館からの情報提供	多文化のサービス	ビジネス支援のサービス	健康・医療情報のサービス	電子書籍のサービス	開館日・閉館時間の拡大	インターネット環境の充実	その他	無回答
全体	147 12.6	23 2.0	27 2.3	150 12.9	76 6.5	172 14.8	142 12.2	38 3.3	215 18.5
男性	53 12.0	11 2.5	18 4.1	48 10.9	46 10.4	53 12.0	74 16.7	17 3.8	72 16.3
女性	83 13.8	12 2.0	6 1.0	83 13.8	29 4.8	110 18.3	58 9.6	16 2.7	99 16.4
無回答	11 9.2	0 0.0	3 2.5	19 15.8	1 0.8	9 7.5	10 8.3	5 4.2	44 36.7

○「図書資料の充実」では、とくに「男性」の割合が、「図書館設備の使いやすさ」では、とくに「女性」の割合が高くなっています。

年齢別●問 16 今後、特に充実すべき図書館サービスはなんですか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	図書資料の充実	図書館設備の使いやすさ	乳幼児・児童向けのサービス	中高生向けのサービス	高齢者向けのサービス	障がいのある方へのサービス	おはなし会・講演・講座等の催しの開催	本や調べものの相談(レファレンスサービス)
全体	1,164 100.0	362 31.1	258 22.2	167 14.3	85 7.3	255 21.9	102 8.8	138 11.9	86 7.4
16~17歳	31 100.0	9 29.0	12 38.7	3 9.7	10 32.3	6 19.4	1 3.2	3 9.7	1 3.2
18~19歳	18 100.0	8 44.4	6 33.3	0 0.0	7 38.9	0 0.0	2 11.1	0 0.0	4 22.2
20~29歳	62 100.0	27 43.5	25 40.3	15 24.2	4 6.5	3 4.8	4 6.5	3 4.8	4 6.5
30~39歳	121 100.0	48 39.7	34 28.1	46 38.0	11 9.1	9 7.4	12 9.9	17 14.0	10 8.3
40~49歳	213 100.0	90 42.3	46 21.6	49 23.0	26 12.2	30 14.1	19 8.9	26 12.2	9 4.2
50~59歳	181 100.0	74 40.9	46 25.4	20 11.0	15 8.3	33 18.2	15 8.3	22 12.2	23 12.7
60~69歳	258 100.0	60 23.3	57 22.1	25 9.7	5 1.9	69 26.7	25 9.7	31 12.0	18 7.0
70~79歳	189 100.0	38 20.1	22 11.6	6 3.2	5 2.6	73 38.6	17 9.0	29 15.3	11 5.8
80歳以上	90 100.0	8 8.9	10 11.1	3 3.3	2 2.2	32 35.6	7 7.8	7 7.8	6 6.7
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

上段:回答数 下段:割合(%)	図書館 からの 情報 提供	多文化 のサー ビス	ビジネス 支援の サービス	健康・医 療情報 のサー ビス	電子書 籍のサ ービス	開館日・ 閉館時 間の拡 大	インター ネット環 境の充 実	その他	無回答
全体	147 12.6	23 2.0	27 2.3	150 12.9	76 6.5	172 14.8	142 12.2	38 3.3	215 18.5
16～17歳	2 6.5	1 3.2	0 0.0	2 6.5	4 12.9	8 25.8	7 22.6	2 6.5	2 6.5
18～19歳	0 0.0	2 11.1	0 0.0	2 11.1	1 5.6	3 16.7	5 27.8	0 0.0	2 11.1
20～29歳	8 12.9	0 0.0	2 3.2	3 4.8	6 9.7	7 11.3	16 25.8	0 0.0	7 11.3
30～39歳	10 8.3	1 0.8	1 0.8	9 7.4	16 13.2	24 19.8	21 17.4	8 6.6	4 3.3
40～49歳	27 12.7	10 4.7	9 4.2	18 8.5	26 12.2	55 25.8	33 15.5	8 3.8	14 6.6
50～59歳	25 13.8	5 2.8	7 3.9	20 11.0	13 7.2	37 20.4	32 17.7	5 2.8	20 11.0
60～69歳	39 15.1	3 1.2	5 1.9	46 17.8	7 2.7	28 10.9	19 7.4	9 3.5	59 22.9
70～79歳	25 13.2	1 0.5	2 1.1	38 20.1	2 1.1	9 4.8	9 4.8	4 2.1	66 34.9
80歳以上	11 12.2	0 0.0	1 1.1	12 13.3	1 1.1	1 1.1	0 0.0	2 2.2	40 44.4
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

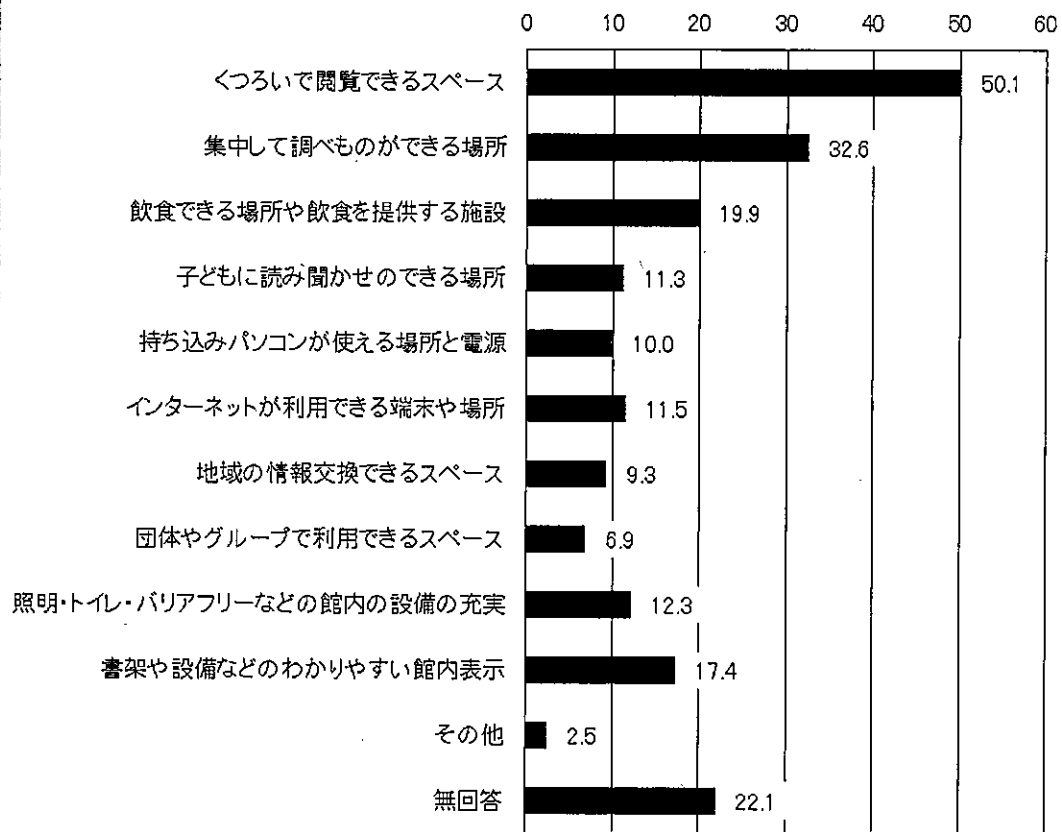
○「図書資料の充実」では、「18～19歳」から「50～59歳」の年齢層で高く、また、「図書館設備の使いやすさ」では、「16～17歳」から「20～29歳」、「乳幼児・児童向けのサービス」では、「20～29歳」から「40～49歳」、「中高生向けのサービス」では「16～17歳」と「18～19歳」、「高齢者向けのサービス」では「60～69歳」から「80歳以上」と、それぞれの年齢増で高くなっています。「本や調べものの相談(レファレンスサービス)」は「18～19歳」でとびぬけて高くなっています。



問 17 あなたは、図書館の利用スペースについて、どのようなことを望みますか(3つまで)

	回答数	割合(%)
くつろいで閲覧できるスペース	583	50.1
集中して調べものができる場所	380	32.6
飲食できる場所や飲食を提供する施設	232	19.9
子どもに読み聞かせのできる場所	131	11.3
持ち込みパソコンが使える場所と電源	116	10.0
インターネットが利用できる端末や場所	134	11.5
地域の情報交換できるスペース	108	9.3
団体やグループで利用できるスペース	80	6.9
照明・トイレ・バリアフリーなどの館内の設備の充実	143	12.3
書架や設備などのわかりやすい館内表示	203	17.4
その他	29	2.5
無回答	257	22.1
回答者総数(%ベース)	1,164	100.0

図書館の利用スペースへの要望(総数1,164, 3つまで複数回答, 単位%)



○「くつろいで閲覧できるスペース」の割合が50.1%で最も高く、次いで「集中して調べものができる場所」が32.6%、「飲食できる場所や飲食を提供する施設」が19.9%です。反対に低いのは、「団体やグループで利用できるスペース」6.9%、「地域の情報交換できるスペース」9.3%などです。

男女別●問 17 あなたは、図書館の利用スペースについて、どのようなことを望みますか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	くつろいで 閲覧できる スペース	集中して調 べものがで きる場所	飲食できる 場所や飲食 を提供する 施設	子どもに読 み聞かせの できる場所	持ち込みパ ソコンが使 える場所と 電源	インターネッ トが利用で きる端末や 場所
全体	1,164 100.0	583 50.1	380 32.6	232 19.9	131 11.3	116 10.0	134 11.5
男性	442 100.0	219 49.5	148 33.5	84 19.0	31 7.0	57 12.9	73 16.5
女性	602 100.0	325 54.0	202 33.6	126 20.9	92 15.3	51 8.5	52 8.6
無回答	120 100.0	39 32.5	30 25.0	22 18.3	8 6.7	8 6.7	9 7.5
上段:回答数 下段:割合(%)	地域の情報 交換できる スペース	団体やグル ープで利用 できるスペ ース	照明・トイ レ・バリアフ リーなどの 館内の設備 の充実	書架や設備 などのわか りやすい館 内表示	その他	無回答	
全体	108 9.3	80 6.9	143 12.3	203 17.4	29 2.5	257 22.1	
男性	45 10.2	24 5.4	55 12.4	74 16.7	12 2.7	88 19.9	
女性	55 9.1	50 8.3	70 11.6	114 18.9	14 2.3	117 19.4	
無回答	8 6.7	6 5.0	18 15.0	15 12.5	3 2.5	52 43.3	

○「くつろいで閲覧できるスペース」「集中して調べものができる場所」「飲食できる場所や飲食を提供する施設」とも、「男性」と「女性」で割合に大きな開きはみられません。「子どもに読み聞かせのできる場所」では「女性」が、「持ち込みパソコンが使える場所と電源」と「インターネットが利用できる端末や場所」では「男性」の割合が高くなっています。

年齢別●問 17 あなたは、図書館の利用スペースについて、どのようなことを望みますか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	くつろいで 閲覧できる スペース	集中して調 べものがで きる場所	飲食できる 場所や飲食 を提供する 施設	子どもに読 み聞かせの できる場所	持ち込みパ ソコンが使 える場所と 電源	インターネッ トが利用で きる端末や 場所
全体	1,164 100.0	583 50.1	380 32.6	232 19.9	131 11.3	116 10.0	134 11.5
16~17 歳	31 100.0	10 32.3	15 48.4	15 48.4	0 0.0	3 9.7	7 22.6
18~19 歳	18 100.0	10 55.6	12 66.7	3 16.7	0 0.0	3 16.7	6 33.3
20~29 歳	62 100.0	34 54.8	26 41.9	12 19.4	10 16.1	16 25.8	10 16.1
30~39 歳	121 100.0	76 62.8	51 42.1	33 27.3	35 28.9	15 12.4	18 14.9
40~49 歳	213 100.0	136 63.8	94 44.1	51 23.9	38 17.8	24 11.3	34 16.0
50~59 歳	181 100.0	111 61.3	79 43.6	39 21.5	14 7.7	33 18.2	35 19.3
60~69 歳	258 100.0	117 45.3	64 24.8	46 17.8	20 7.8	18 7.0	17 6.6
70~79 歳	189 100.0	71 37.6	24 12.7	25 13.2	10 5.3	3 1.6	6 3.2
80 歳以上	90 100.0	18 20.0	15 16.7	8 8.9	4 4.4	1 1.1	1 1.1
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

上段:回答数 下段:割合(%)	地域の情報 交換できる スペース	団体やグル ープで利用 できるスペ ース	照明・トイ レ・バリアフ リーなどの 館内の設備 の充実	書架や設備 などのわか りやすい館 内表示	その他	無回答
全体	108 9.3	80 6.9	143 12.3	203 17.4	29 2.5	257 22.1
16～17 歳	0 0.0	6 19.4	3 9.7	5 16.1	1 3.2	5 16.1
18～19 歳	0 0.0	2 11.1	1 5.6	4 22.2	2 11.1	2 11.1
20～29 歳	3 4.8	5 8.1	7 11.3	10 16.1	0 0.0	7 11.3
30～39 歳	10 8.3	6 5.0	16 13.2	24 19.8	3 2.5	10 8.3
40～49 歳	14 6.6	16 7.5	21 9.9	43 20.2	10 4.7	18 8.5
50～59 歳	15 8.3	13 7.2	19 10.5	33 18.2	3 1.7	18 9.9
60～69 歳	28 10.9	11 4.3	38 14.7	48 18.6	5 1.9	68 26.4
70～79 歳	30 15.9	16 8.5	23 12.2	27 14.3	2 1.1	82 43.4
80 歳以上	8 8.9	5 5.6	15 16.7	9 10.0	3 3.3	46 51.1
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

○「くつろいで閲覧できるスペース」では、「18～19歳」から「50～59歳」、「集中して調べものができる場所」では、「16～17歳」から「50～59歳」、また、「飲食できる場所や飲食を提供する施設」では、「16～17歳」「30～39歳」「40～49歳」の年齢層で割合がとくに高くなっています。

図書館サービス向上のための  
図書館利用者アンケート調査  
報告書

平成29年2月  
安曇野市教育委員会



## 1 調査の目的

図書館サービスの向上を目的とする図書館基本計画策定の基礎資料とするため。

## 2 調査の概要

### 1) 調査対象

市内の図書館利用者

### 2) 調査方法

平成28年12月12日～平成29年1月11日、各図書館来館者

### 3) 回収結果

回収票数392

### 4) 集計上の留意点

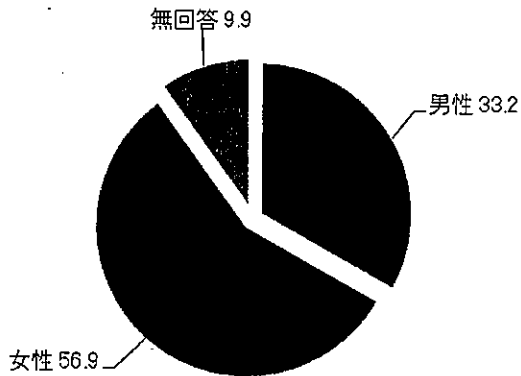
- ① 原則として、単回答は円グラフ、複数回答は横棒グラフを用いて表示しました。  
ただし、単回答のうち、各割合の比較を行いたい設問では、横棒グラフを用いました。
- ② 回答率（割合）は、小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで表記しました。このため、合計が100%にならないことがあります。
- ③ 複数回答では、回答者総数を100として（%ベース）、それぞれの回答数の割合を百分率で示してあります。したがって、割合の合計は100%にはなりません。

【あなた(回答者ご本人)についておたずねします】(あてはまる番号に1つだけ○を)

◇性別

	回答数	割合(%)
男性	130	33.2
女性	223	56.9
無回答	39	9.9
回答者総数(%ベース)	392	100.0

回答者性別(総数392、単位%)

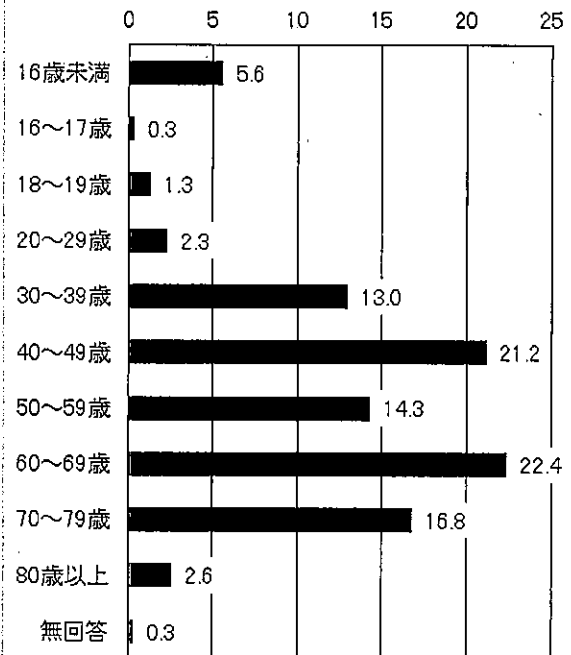


○「男性」の割合が33.2%、「女性」が56.9%となっています。

◇年齢

	回答数	割合(%)
16歳未満	22	5.6
16～17歳	1	0.3
18～19歳	5	1.3
20～29歳	9	2.3
30～39歳	51	13.0
40～49歳	83	21.2
50～59歳	56	14.3
60～69歳	88	22.4
70～79歳	66	16.8
80歳以上	10	2.6
無回答	1	0.3
回答者総数(%ベース)	392	100.0

回答者年齢(総数392、単位%)

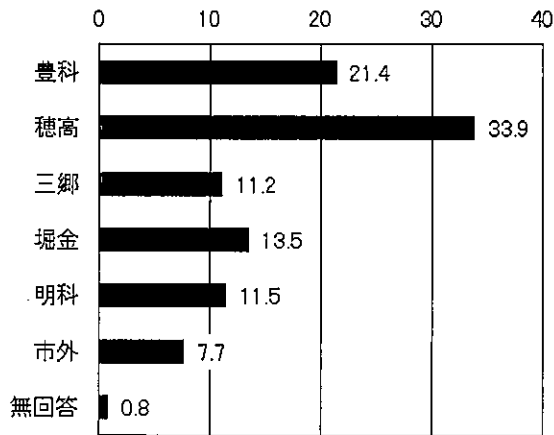


○「60～69歳」の割合が22.4%で最も高く、次いで「40～49歳」21.2%、「70～79歳」16.8%などとなっています。

◇居住地

	回答数	割合(%)
豊科	84	21.4
穂高	133	33.9
三郷	44	11.2
堀金	53	13.5
明科	45	11.5
市外	30	7.7
無回答	3	0.8
回答者総数(%ベース)	392	100.0

回答者居住地(総数392、単位%)

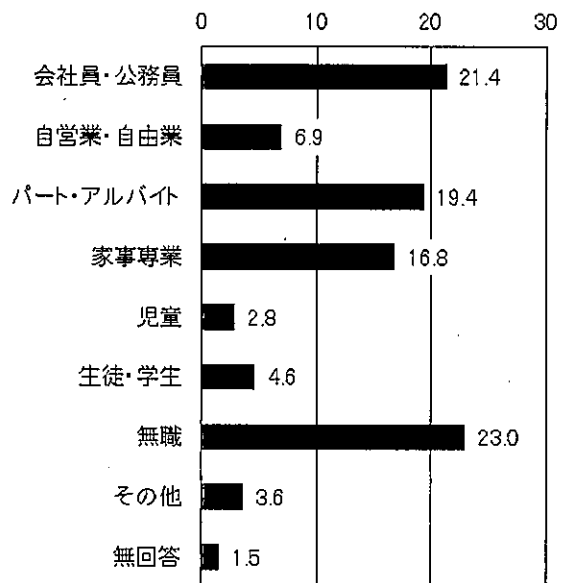


○「穂高」の割合が33.9%で最も高く、次いで「豊科」21.4%、「堀金」13.5%、「明科」11.5%、「三郷」11.2%などとなっています。

◇職業

	回答数	割合(%)
会社員・公務員	84	21.4
自営業・自由業	27	6.9
パート・アルバイト	76	19.4
家事専業	66	16.8
児童	11	2.8
生徒・学生	18	4.6
無職	90	23.0
その他	14	3.6
無回答	6	1.5
回答者総数(%ベース)	392	100.0

回答者職業(総数392、単位%)



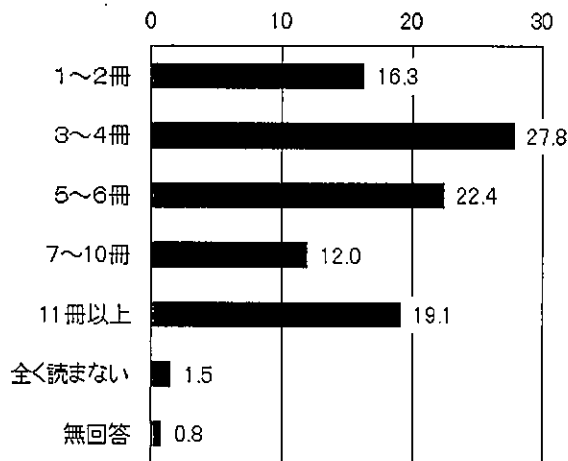
○「無職」の割合が23.0%で最も高く、次いで「会社員・公務員」が21.4%、「パート・アルバイト」が19.4%、「家事専業」が16.8%などとなっています。

【あなたの読書環境についてお尋ねします】(あてはまる番号に1つだけ○を)

問1 あなたは、本や雑誌を1ヶ月に平均何冊くらいお読みになりますか

	回答数	割合(%)
1~2冊	64	16.3
3~4冊	109	27.8
5~6冊	88	22.4
7~10冊	47	12.0
11冊以上	75	19.1
全く読まない	6	1.5
無回答	3	0.8
回答者総数(%ベース)	392	100.0

・1ヶ月の平均読書冊数(総数392、単位%)

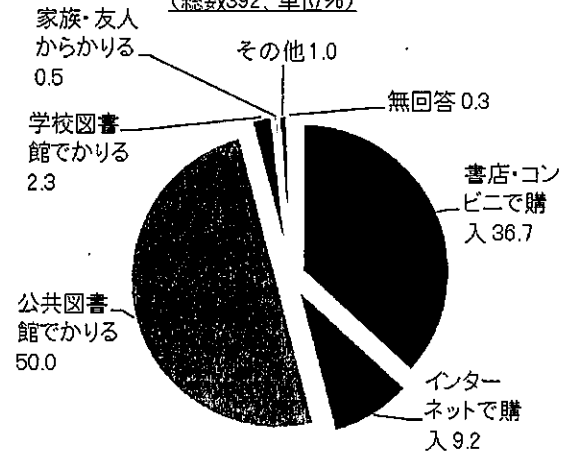


○「3~4冊」の割合が27.8%で最も高く、次いで「5~6冊」が22.4%、「11冊以上」が19.1%、「1~2冊」が16.3%などとなっています。

問2 あなたは、本・雑誌等を主にどのような方法で入手あるいは利用しますか

	回答数	割合(%)
書店・コンビニで購入	144	36.7
インターネットで購入	36	9.2
公共図書館でかりる	196	50.0
学校図書館でかりる	9	2.3
家族・友人からかりる	2	0.5
入手も利用もしない	0	0.0
その他	4	1.0
無回答	1	0.3
回答者総数(%ベース)	392	100.0

本・雑誌等の入手・利用方法  
(総数392、単位%)

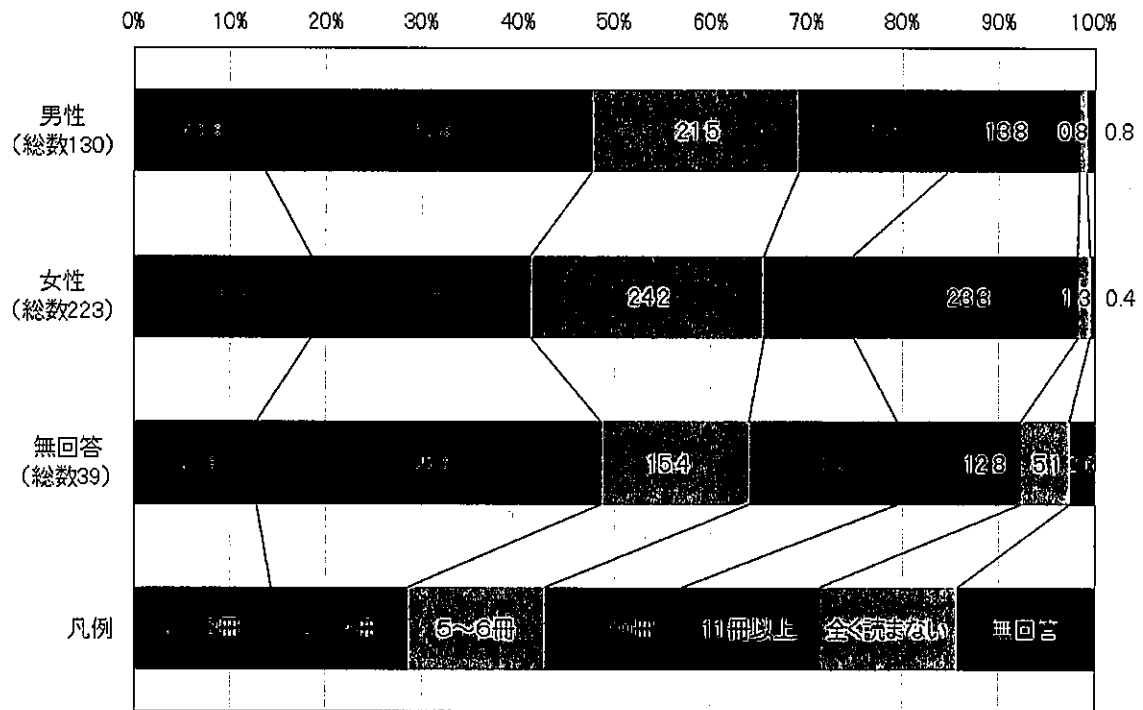


○「公共図書館でかりる」の割合が50.0%で最も高く、次いで「書店・コンビニで購入」が36.7%、「インターネットで購入」が9.2%などとなっています。

男女別●問1 あなたは、本や雑誌を1ヶ月に平均何冊くらいお読みになりますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	1~2冊	3~4冊	5~6冊	7~10冊	11冊以上	全く 読まない	無回答
全体	392 100.0	64 16.3	109 27.8	88 22.4	47 12.0	75 19.1	6 1.5	3 0.8
男性	130 100.0	18 13.8	44 33.8	28 21.5	20 15.4	18 13.8	1 0.8	1 0.8
女性	223 100.0	41 18.4	51 22.9	54 24.2	21 9.4	52 23.3	3 1.3	1 0.4
無回答	39 100.0	5 12.8	14 35.9	6 15.4	6 15.4	5 12.8	2 5.1	1 2.6

男女別●1ヶ月の読書冊数

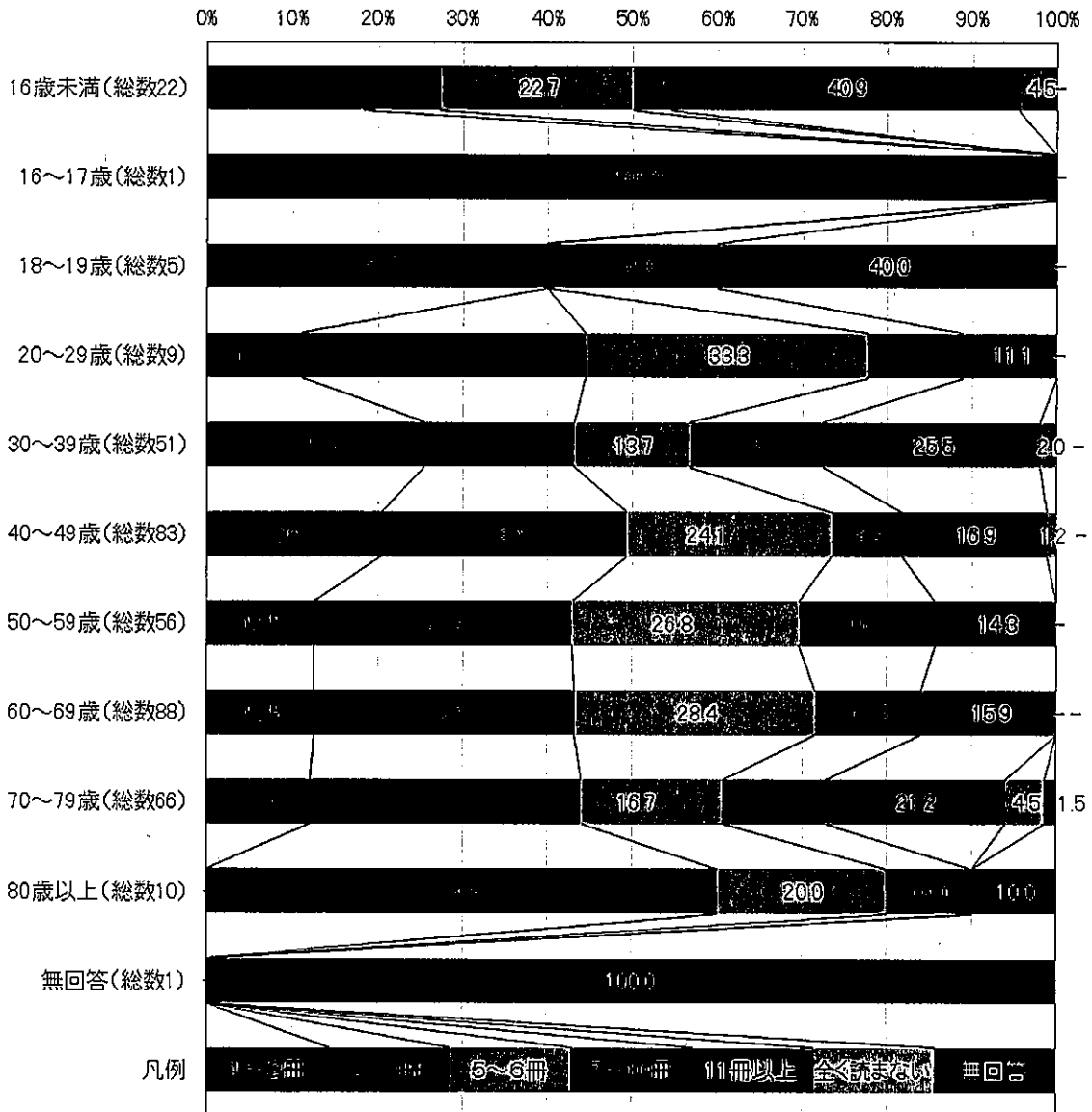


○「3~4冊」では「男性」の割合が「女性」より約11ポイント高く、また、「11冊以上」では「女性」の割合が「男性」より9.5ポイント高くなっています。

年齢別●問1 あなたは、本や雑誌を1ヶ月に平均何冊くらいお読みになりますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	1~2冊	3~4冊	5~6冊	7~10冊	11冊以上	全く 読まない	無回答
全体	392 100.0	64 16.3	109 27.8	88 22.4	47 12.0	75 19.1	6 1.5	3 0.8
16歳未満	22 100.0	4 18.2	2 9.1	5 22.7	1 4.5	9 40.9	1 4.5	0 0.0
16~17歳	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18~19歳	5 100.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
20~29歳	9 100.0	1 11.1	3 33.3	3 33.3	1 11.1	1 11.1	0 0.0	0 0.0
30~39歳	51 100.0	13 25.5	9 17.6	7 13.7	8 15.7	13 25.5	1 2.0	0 0.0
40~49歳	83 100.0	17 20.5	24 28.9	20 24.1	7 8.4	14 16.9	1 1.2	0 0.0
50~59歳	56 100.0	7 12.5	17 30.4	15 26.8	9 16.1	8 14.3	0 0.0	0 0.0
60~69歳	88 100.0	11 12.5	27 30.7	25 28.4	11 12.5	14 15.9	0 0.0	0 0.0
70~79歳	66 100.0	8 12.1	21 31.8	11 16.7	8 12.1	14 21.2	3 4.5	1 1.5
80歳以上	10 100.0	0 0.0	6 60.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

年齢別●1ヶ月の読書冊数



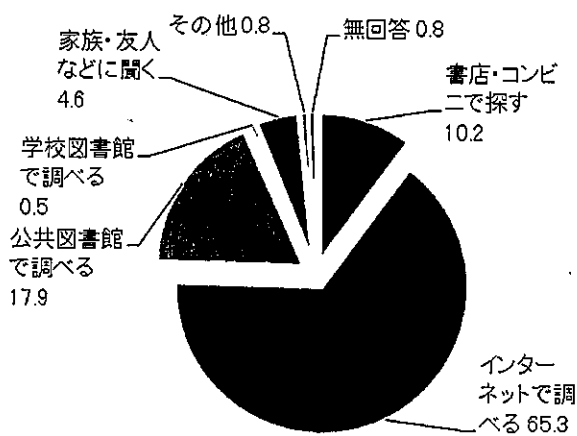
○「3~4冊」の割合は年齢が上がるにつれ高くなり、「11冊以上」の割合は年齢が上がるほど低くなっています。「80歳以上」では「3~4冊」の割合が60%、「16歳未満」と「18~19歳」では「11冊以上」の割合が40%となっています。



問3 あなたは、知りたいことがある時、主にどのような方法で調べますか

	回答数	割合(%)
書店・コンビニで探す	40	10.2
インターネットで調べる	256	65.3
公共図書館で調べる	70	17.9
学校図書館で調べる	2	0.5
家族・友人などに聞く	18	4.6
その他	3	0.8
無回答	3	0.8
回答者総数(%ベース)	392	100.0

知りたいことの入手方法(総数392、単位%)



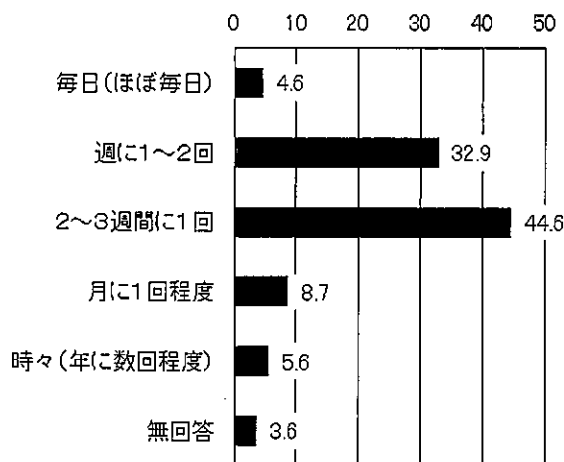
○「インターネットで調べる」の割合が65.3%で最も高く、次いで「公共図書館で調べる」が17.9%、「書店・コンビニで探す」が10.2%などとなっています。

【あなたの公共図書館利用についておたずねします】(あてはまる番号に1つだけ○を)

問4 普段、図書館をどのくらい利用(来館)していますか

	回答数	割合(%)
毎日(ほぼ毎日)	18	4.6
週に1~2回	129	32.9
2~3週間に1回	175	44.6
月に1回程度	34	8.7
時々(年に数回程度)	22	5.6
無回答	14	3.6
回答者総数(%ベース)	392	100.0

図書館の利用頻度(総数392、単位%)



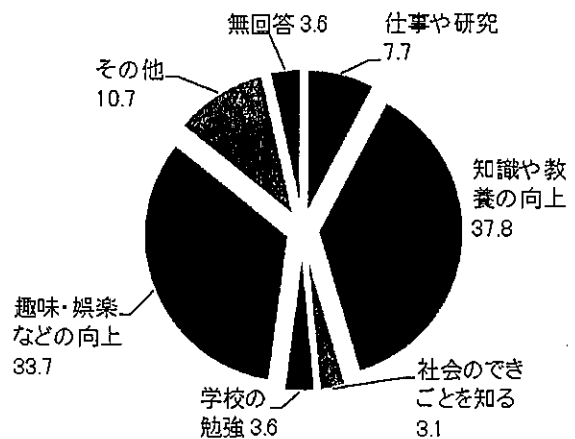
○「2~3週間に1回」の割合が44.6%で最も高く、次いで「週に1~2回」が32.9%、「毎日(ほぼ毎日)」が4.6%などとなっています。

◎前回調査(平成24年度:回答者総数474)に比べると、順位は同じですが、「2~3週間に1回」が約10ポイント減少している一方、「週に1~2回」が約8ポイント、「毎日(ほぼ毎日)」が約1.5ポイント増加しています。

問5 図書館を利用する主な目的はなんですか

	回答数	割合(%)
仕事や研究	30	7.7
知識や教養の向上	148	37.8
社会のできごとを知る	12	3.1
学校の勉強	14	3.6
趣味・娯楽などの向上	132	33.7
その他	42	10.7
無回答	14	3.6
回答者総数(%ベース)	392	100.0

図書館利用の目的(総数392、単位%)

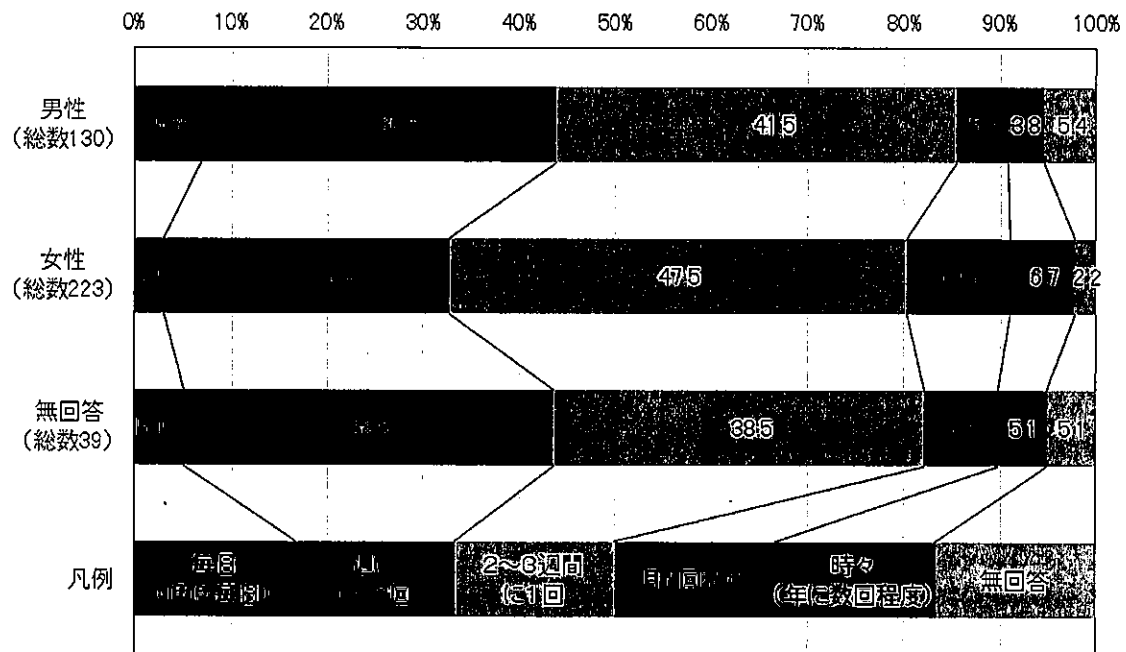


○「知識や教養の向上」の割合が37.8%で最も高く、次いで「趣味・娯楽などの向上」が33.7%、「その他」が10.7%などとなっています。

男女別●問4 普段、図書館をどのくらい利用(来館)していますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	毎日 (ほぼ毎日)	週に 1~2回	2~3週間 に1回	月に1回 程度	時々(年に 数回程度)	無回答
全体	392 100.0	18 4.6	129 32.9	175 44.6	34 8.7	22 5.6	14 3.6
男性	130 100.0	9 6.9	48 36.9	54 41.5	7 5.4	5 3.8	7 5.4
女性	223 100.0	7 3.1	66 29.6	106 47.5	24 10.8	15 6.7	5 2.2
無回答	39 100.0	2 5.1	15 38.5	15 38.5	3 7.7	2 5.1	2 5.1

男女別●来館の頻度

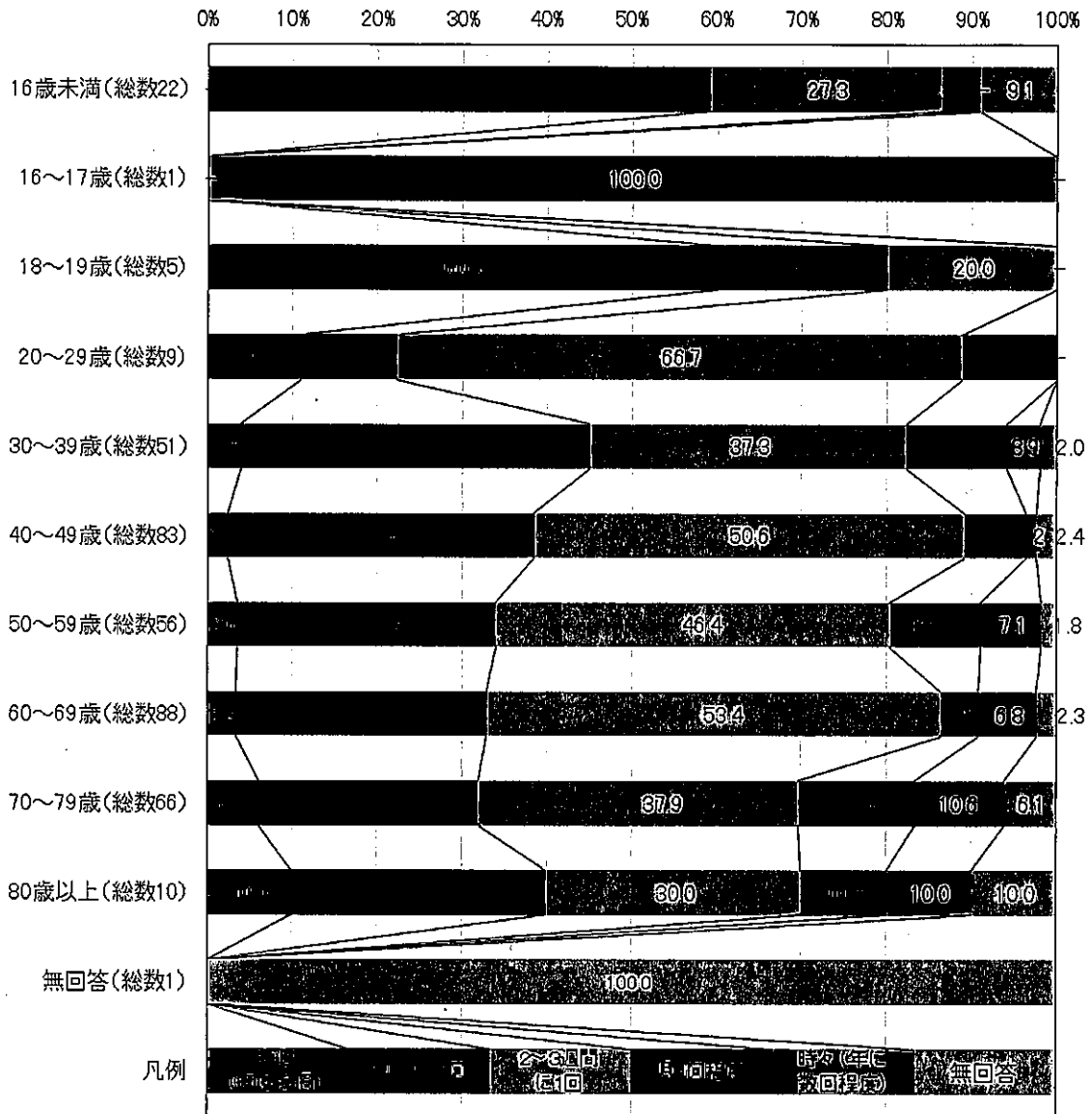


○「毎日(ほぼ毎日)」の割合は「男性」のほうが「女性」より高く、一方、「月に1回程度」と「時々(年に数回程度)」の割合は「女性」のほうが高くなっています。

年齢別●問4 普段、図書館をどのくらい利用(来館)していますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	毎日 (ほぼ毎日)	週に 1~2回	2~3週間 に1回	月に 1回程度	時々(年に 数回程度)	無回答
全体	392 100.0	18 4.6	129 32.9	175 44.6	34 8.7	22 5.6	14 3.6
16歳未満	22 100.0	0 0.0	13 59.1	6 27.3	1 4.5	0 0.0	2 9.1
16~17歳	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
18~19歳	5 100.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20~29歳	9 100.0	1 11.1	1 11.1	6 66.7	1 11.1	0 0.0	0 0.0
30~39歳	51 100.0	2 3.9	21 41.2	19 37.3	6 11.8	2 3.9	1 2.0
40~49歳	83 100.0	2 2.4	30 36.1	42 50.6	6 7.2	1 1.2	2 2.4
50~59歳	56 100.0	2 3.6	17 30.4	26 46.4	6 10.7	4 7.1	1 1.8
60~69歳	88 100.0	3 3.4	26 29.5	47 53.4	4 4.5	6 6.8	2 2.3
70~79歳	66 100.0	4 6.1	17 25.8	25 37.9	9 13.6	7 10.6	4 6.1
80歳以上	10 100.0	1 10.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

年齢別●来館の頻度

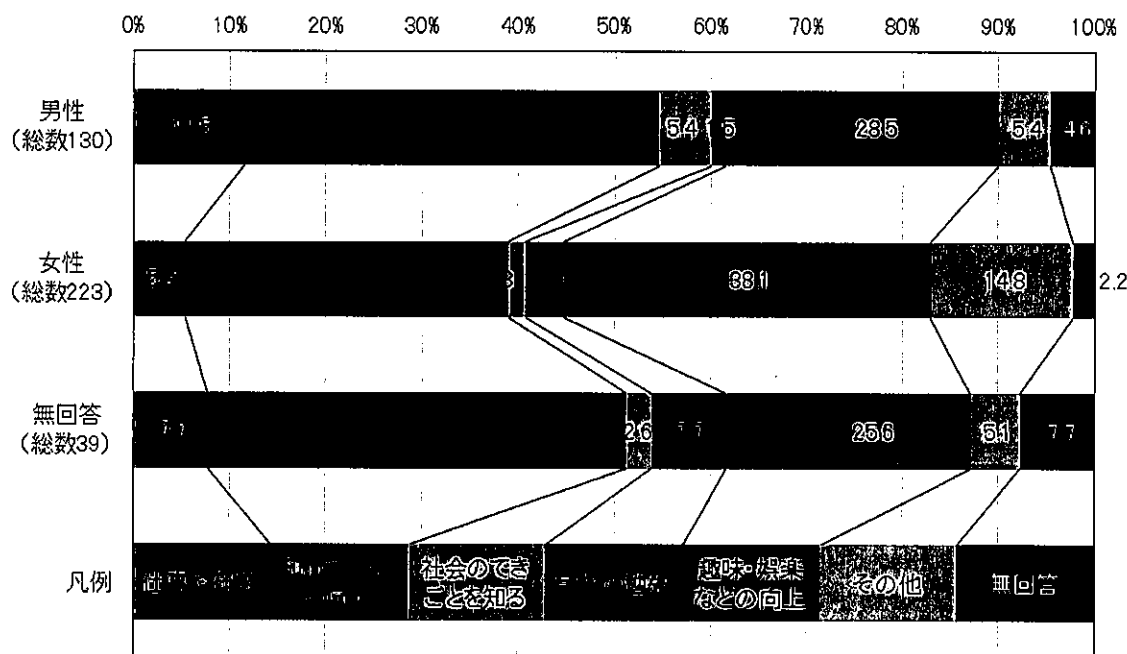


○「毎日(ほぼ毎日)」「週に1~2回」「2~3週間に1回」を合わせた割合は年齢が上がるにつれて減少し、「月に1回程度」「時々(年に数回程度)」が増えています。「18~19歳」で「毎日(ほぼ毎日)」が60.0%、一方、「80歳以上」でも「毎日」が10.0%みられます。

男女別●問5 図書館を利用する主な目的は何ですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	仕事や 研究	知識や教 養の向上	社会ので きことを 知る	学校の 勉強	趣味・娯 楽などの 向上	その他	無回答
全体	392 100.0	30 7.7	148 37.8	12 3.1	14 3.6	132 33.7	42 10.7	14 3.6
男性	130 100.0	15 11.5	56 43.1	7 5.4	2 1.5	37 28.5	7 5.4	6 4.6
女性	223 100.0	12 5.4	75 33.6	4 1.8	9 4.0	85 38.1	33 14.8	5 2.2
無回答	39 100.0	3 7.7	17 43.6	1 2.6	3 7.7	10 25.6	2 5.1	3 7.7

男女別●来館の主な目的



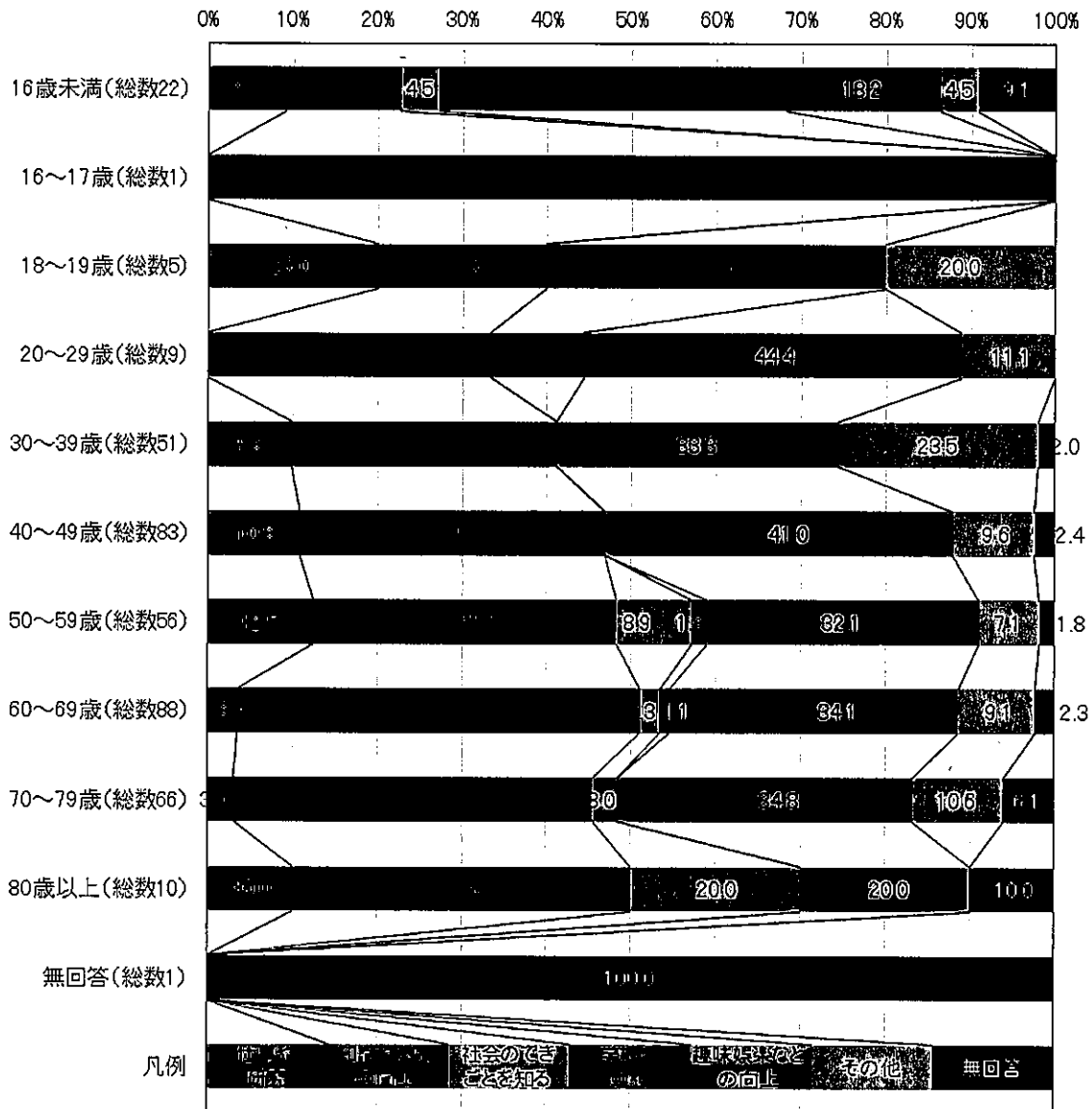
○「仕事や研究」では6.1ポイント、「知識や教養の向上」では9.5ポイント、「男性」が「女性」を上回っています。これに対し、「趣味・娯楽などの向上」では9.6ポイント、「女性」が「男性」を上回っています。

年齢別●問5 図書館を利用する主な目的は何ですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	仕事や 研究	知識や教 養の向上	社会ので きごとを 知る	学校の 勉強	趣味・娯 楽などの 向上	その他	無回答
全体	392 100.0	30 7.7	148 37.8	12 3.1	14 3.6	132 33.7	42 10.7	14 3.6
16歳未満	22 100.0	2 9.1	3 13.6	1 4.5	9 40.9	4 18.2	1 4.5	2 9.1
16～17歳	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18～19歳	5 100.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
20～29歳	9 100.0	0 0.0	3 33.3	0 0.0	1 11.1	4 44.4	1 11.1	0 0.0
30～39歳	51 100.0	5 9.8	16 31.4	0 0.0	0 0.0	17 33.3	12 23.5	1 2.0
40～49歳	83 100.0	9 10.8	30 36.1	0 0.0	0 0.0	34 41.0	8 9.6	2 2.4
50～59歳	56 100	7 13	20 36	5 9	1 2	18 32	4 7	1 2
60～69歳	88 100.0	3 3.4	42 47.7	2 2.3	1 1.1	30 34.1	8 9.1	2 2.3
70～79歳	66 100.0	2 3.0	28 42.4	2 3.0	0 0.0	23 34.8	7 10.6	4 6.1
80歳以上	10 100.0	1 10.0	4 40.0	2 20.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0



年齢別●来館の主な目的

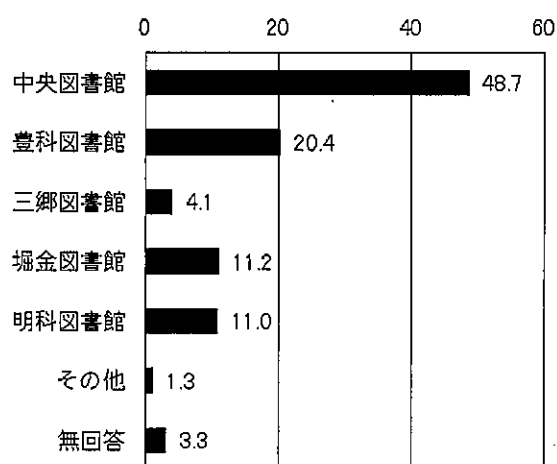


○「知識や教養の向上」の割合は、年齢が上がるにつれて漸増し、「趣味娯楽などの向上」は同じく漸減の傾向がみられます。一方、「社会のできごとを知る」は「50~59歳」で8.9%、「80歳以上」で20.0%と高くなっています。「学校の勉強」は「16歳未満」と「18~19歳」で40%となっています。

問6 普段、最も利用している図書館はどこですか

	回答数	割合(%)
中央図書館	191	48.7
豊科図書館	80	20.4
三郷図書館	16	4.1
堀金図書館	44	11.2
明科図書館	43	11.0
その他	5	1.3
無回答	13	3.3
回答者総数(%ベース)	392	100.0

最も利用している図書館(総数392、単位%)



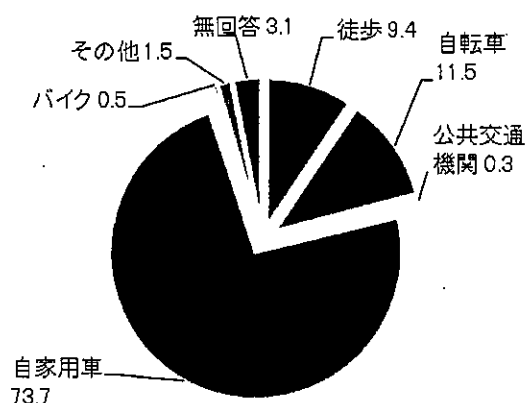
○「中央図書館」の割合が48.7%で最も高く、次いで「豊科図書館」20.4%、「堀金図書館」11.2%、「明科図書館」11.0%、「三郷図書館」4.1%などとなっています。

◎前回調査に比べると、「中央図書館」が約11ポイント、「豊科図書館」が約6.5ポイント、それぞれ減少しているのに対し、「堀金図書館」が約7ポイント増加しています。

問7 どのような方法で図書館に来ますか

	回答数	割合(%)
徒歩	37	9.4
自転車	45	11.5
公共交通機関	1	0.3
自家用車	289	73.7
バイク	2	0.5
その他	6	1.5
無回答	12	3.1
回答者総数(%ベース)	392	100.0

来館の手段(総数392、単位%)

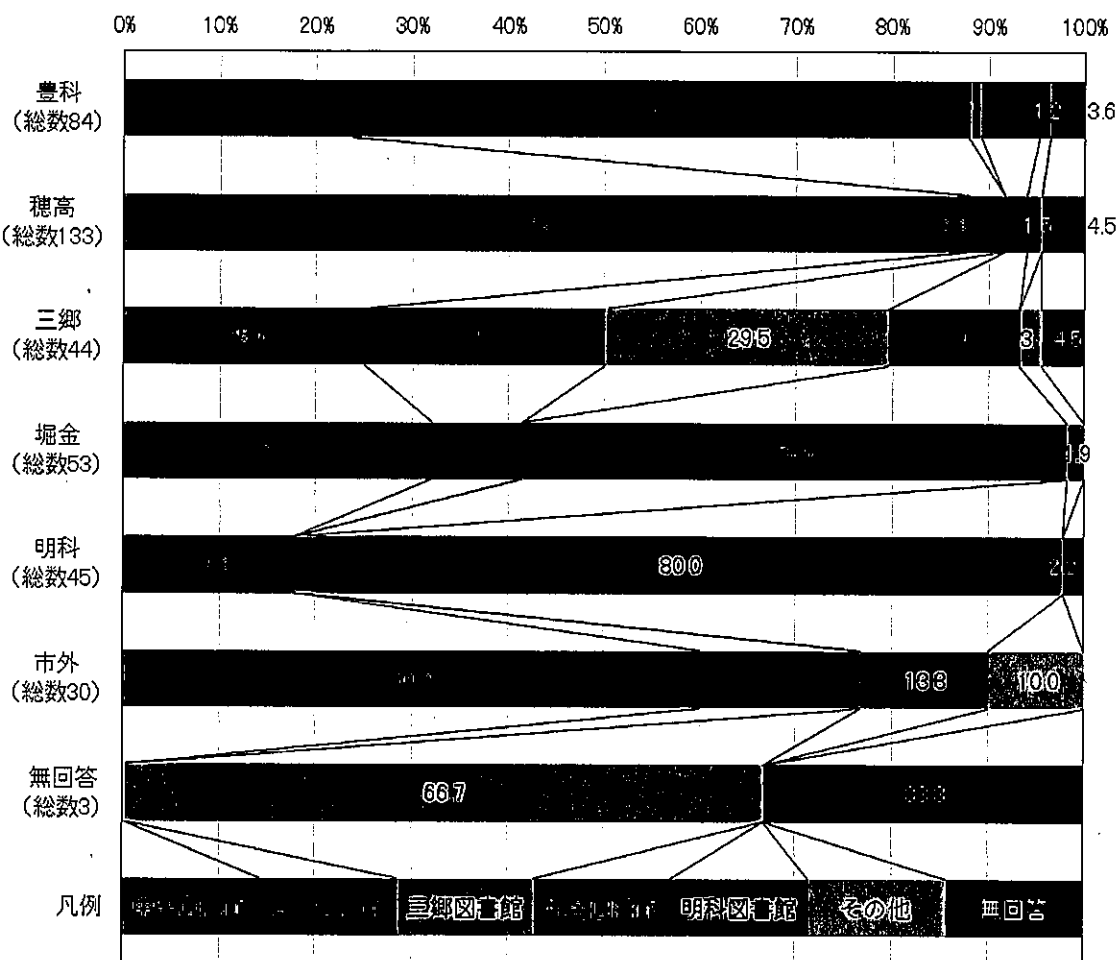


○「自家用車」の割合が73.7%で最も高く、次いで「自転車」11.5%、「徒歩」9.4%などとなっています。

居住地域別●問6 普段、最も利用している図書館

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	中央 図書館	豊科 図書館	三郷 図書館	堀金 図書館	明科 図書館	その他	無回答
全体	392 100.0	191 48.7	80 20.4	16 4.1	44 11.2	43 11.0	5 1.3	13 3.3
豊科	84 100.0	20 23.8	54 64.3	1 1.2	5 6.0	1 1.2	0 0.0	3 3.6
穂高	133 100.0	117 88.0	5 3.8	0 0.0	3 2.3	2 1.5	0 0.0	6 4.5
三郷	44 100.0	11 25.0	11 25.0	13 29.5	6 13.6	0 0.0	1 2.3	2 4.5
堀金	53 100.0	17 32.1	5 9.4	0 0.0	30 56.6	0 0.0	1 1.9	0 0.0
明科	45 100.0	8 17.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	36 80.0	0 0.0	1 2.2
市外	30 100.0	18 60.0	5 16.7	0 0.0	0 0.0	4 13.3	3 10.0	0 0.0
無回答	3 100.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3

居住地域別●最も利用している図書館

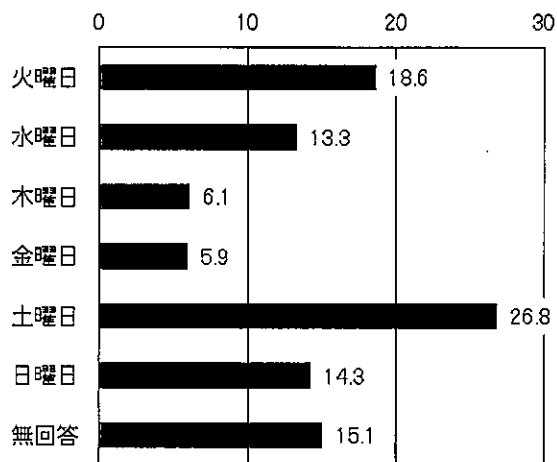


○「豊科」では「豊科図書館」、「穂高」では「中央図書館」、「明科」では「明科図書館」が高い割合を示していますが、「三郷」と「堀金」では分散しており、とくに「三郷」では「中央図書館」「豊科図書館」「三郷図書館」でほぼ三分されています。「市外」は60.0%が「中央図書館」となっています。

問8 よく利用する曜日は何曜日ですか

	回答数	割合(%)
火曜日	73	18.6
水曜日	52	13.3
木曜日	24	6.1
金曜日	23	5.9
土曜日	105	26.8
日曜日	56	14.3
無回答	59	15.1
回答者総数(%ベース)	392	100.0

よく利用する曜日(総数392、単位%)

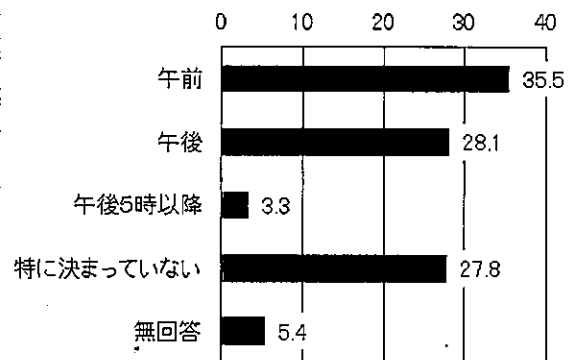


○「土曜日」の割合が26.8%で最も高く、次いで「火曜日」が18.6%、「日曜日」が14.3%、「水曜日」が13.3%などとなっています。

問9 よく利用する時間帯はいつですか

	回答数	割合(%)
午前	139	35.5
午後	110	28.1
午後5時以降	13	3.3
特に決まっていない	109	27.8
無回答	21	5.4
回答者総数(%ベース)	392	100.0

よく利用する時間帯(総数392、単位%)



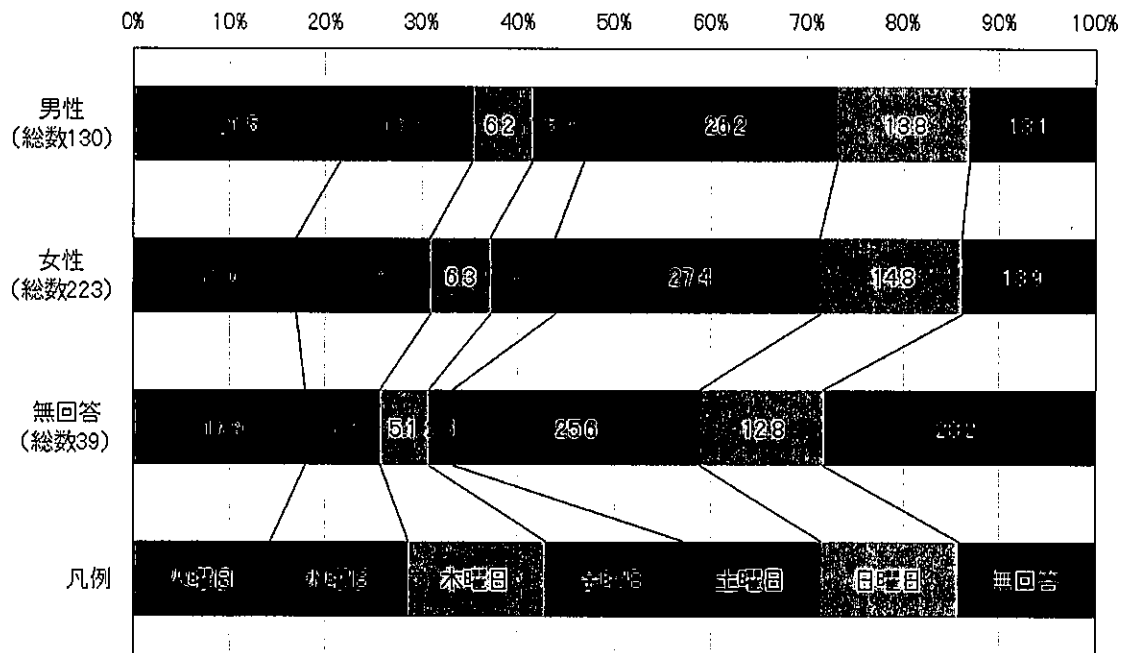
○「午前」の割合が35.5%で最も高く、次いで「午後」28.1%、「特に決まっていない」27.8%などとなっています。

◎前回調査に比べると、「午前」が約10ポイント増加、「午後」が約13ポイント減少し、順位が逆転しています。

男女別●問8 よく利用する曜日は何曜日ですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	無回答
全体	392 100.0	73 18.6	52 13.3	24 6.1	23 5.9	105 26.8	56 14.3	59 15.1
男性	130 100.0	28 21.5	18 13.8	8 6.2	7 5.4	34 26.2	18 13.8	17 13.1
女性	223 100.0	38 17.0	31 13.9	14 6.3	15 6.7	61 27.4	33 14.8	31 13.9
無回答	39 100.0	7 17.9	3 7.7	2 5.1	1 2.6	10 25.6	5 12.8	11 28.2

男女別●よく利用する曜日



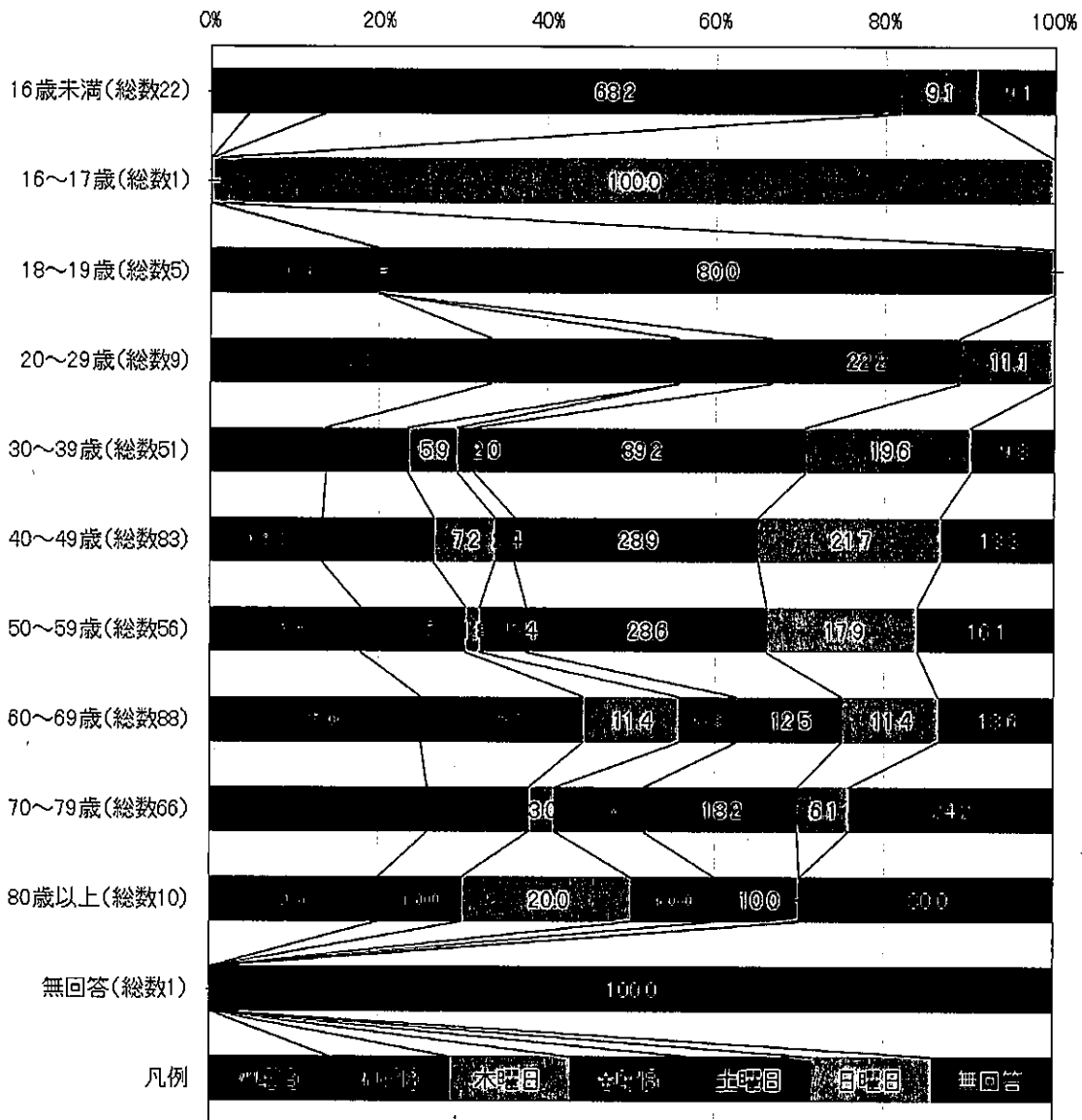
○「男性」「女性」とも「土曜日」と「日曜日」で半分近くを占めています。「男性」では、「火曜日」が21.5%と「女性」より4.5ポイント高くなっています。

年齢別●問8 よく利用する曜日は何曜日ですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	無回答
全体	392 100.0	73 18.6	52 13.3	24 6.1	23 5.9	105 26.8	56 14.3	59 15.1
16歳未満	22 100.0	0 0.0	1 4.5	0 0.0	2 9.1	15 68.2	2 9.1	2 9.1
16～17歳	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
18～19歳	5 100.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	9 100.0	3 33.3	2 22.2	0 0.0	1 11.1	2 22.2	1 11.1	0 0.0
30～39歳	51 100.0	7 13.7	5 9.8	3 5.9	1 2.0	20 39.2	10 19.6	5 9.8
40～49歳	83 100.0	11 13.3	11 13.3	6 7.2	2 2.4	24 28.9	18 21.7	11 13.3
50～59歳	56 100.0	10 17.9	7 12.5	1 1.8	3 5.4	16 28.6	10 17.9	9 16.1
60～69歳	88 100.0	22 25.0	17 19.3	10 11.4	6 6.8	11 12.5	10 11.4	12 13.6
70～79歳	66 100.0	17 25.8	8 12.1	2 3.0	7 10.6	12 18.2	4 6.1	16 24.2
80歳以上	10 100.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	3 30.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0



年齢別●よく利用する曜日

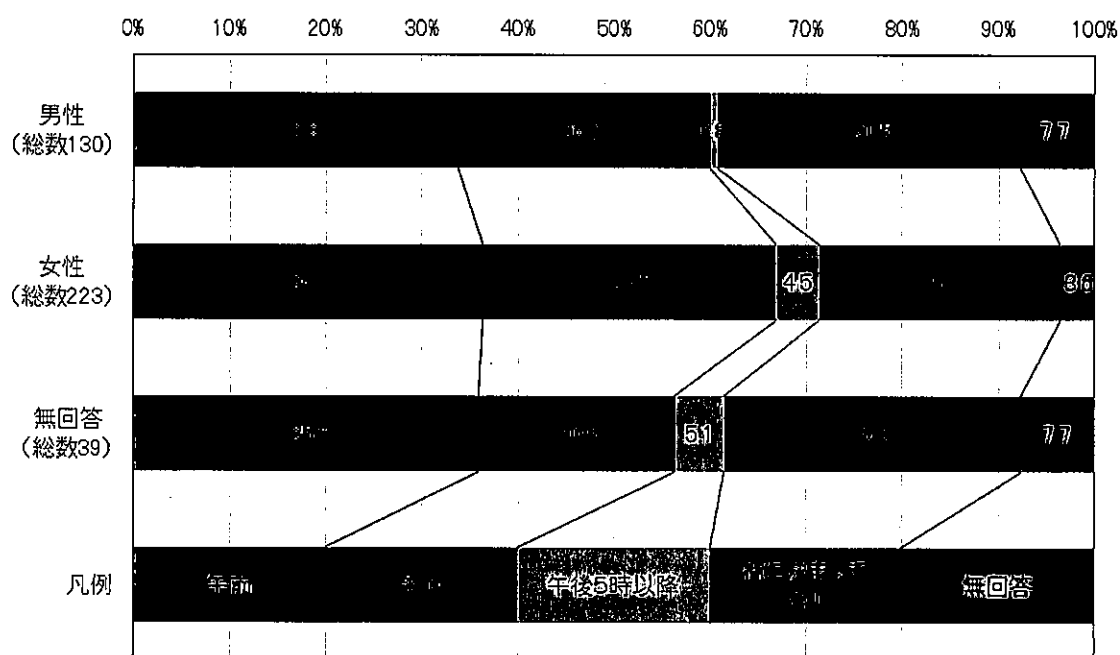


○「土曜日」と「日曜日」の割合は、年齢が上がるとともに急激に減少してゆきます。「火曜日」から「金曜日」の割合は、「20~29歳」で最大になり「30~39歳」でいったん減少しますが、以後は、年齢が上がるとともに増加してゆきます。

男女別●問9 よく利用する時間帯はいつですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	午前	午後	午後5時以降	特に決まってい ない	無回答
全体	392 100.0	139 35.5	110 28.1	13 3.3	109 27.8	21 5.4
男性	130 100.0	44 33.8	34 26.2	1 0.8	41 31.5	10 7.7
女性	223 100.0	81 36.3	68 30.5	10 4.5	56 25.1	8 3.6
無回答	39 100.0	14 35.9	8 20.5	2 5.1	12 30.8	3 7.7

男女別●よく利用する時間帯

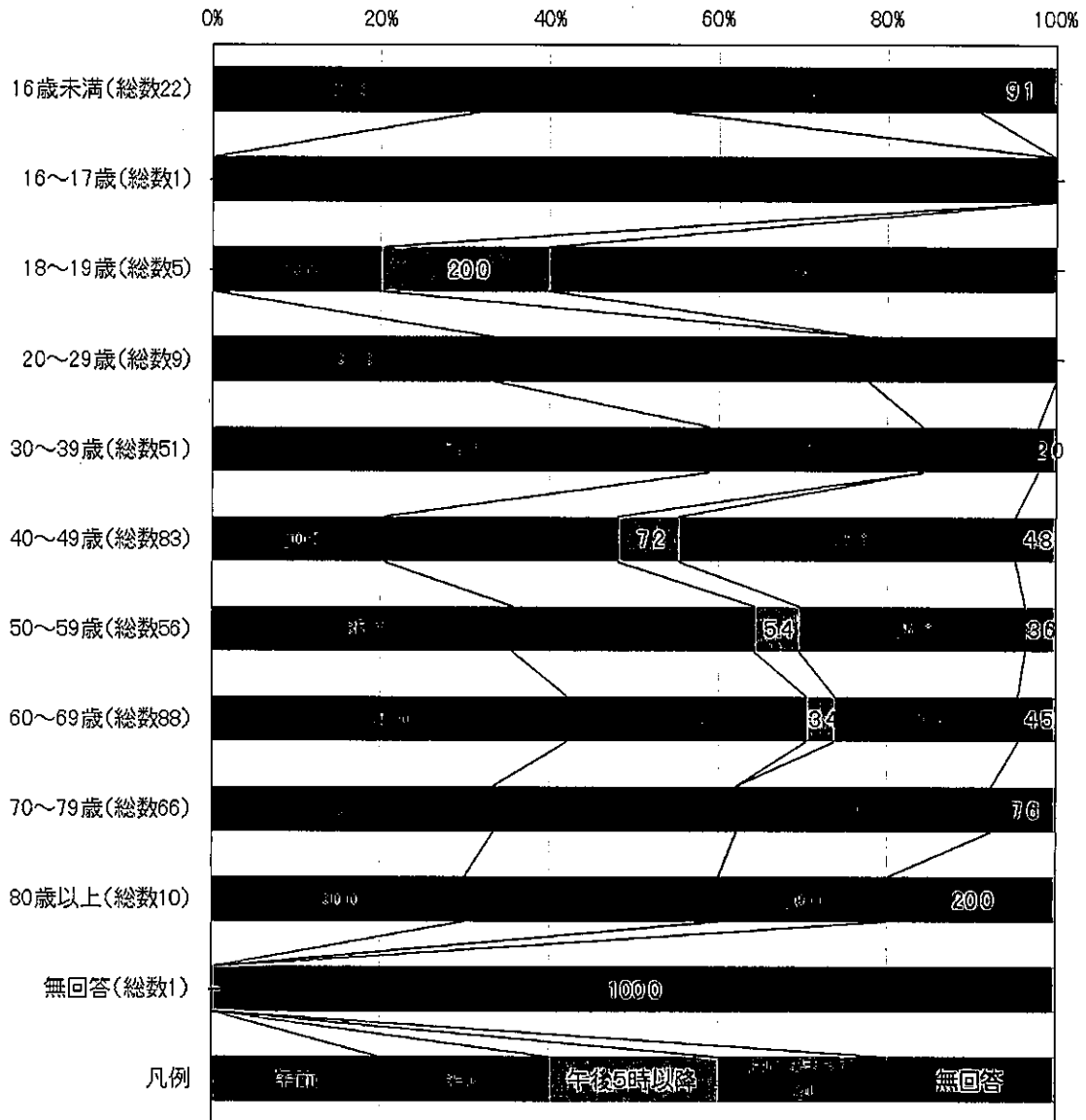


○「午前」「午後」「特に決まっていない」でほぼ三分され、「男性」「女性」で大きな差異はみられません。

年齢別●問9 よく利用する時間帯はいつですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	午前	午後	午後5時以降	特に決まってい ない	無回答
全体	392 100.0	139 35.5	110 28.1	13 3.3	109 27.8	21 5.4
16歳未満	22 100.0	7 31.8	5 22.7	0 0.0	8 36.4	2 9.1
16～17歳	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18～19歳	5 100.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	3 60.0	0 0.0
20～29歳	9 100.0	3 33.3	4 44.4	0 0.0	2 22.2	0 0.0
30～39歳	51 100.0	30 58.8	13 25.5	0 0.0	7 13.7	1 2.0
40～49歳	83 100.0	17 20.5	23 27.7	6 7.2	33 39.8	4 4.8
50～59歳	56 100.0	20 35.7	16 28.6	3 5.4	15 26.8	2 3.6
60～69歳	88 100.0	37 42.0	25 28.4	3 3.4	19 21.6	4 4.5
70～79歳	66 100.0	22 33.3	19 28.8	0 0.0	20 30.3	5 7.6
80歳以上	10 100.0	3 30.0	3 30.0	0 0.0	2 20.0	2 20.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

年齢別●よく利用する時間帯

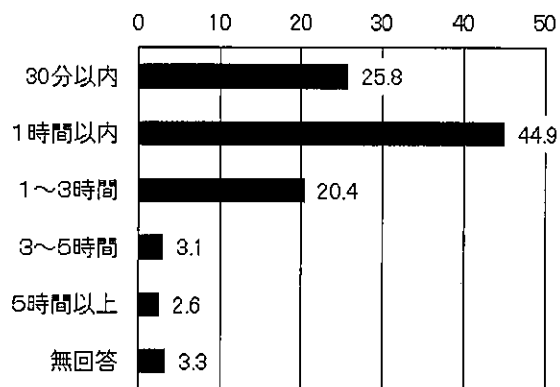


○「午前」の割合は年齢により大きく変動します。「30～39歳」では58.8%、「40～49歳」では20.5%となっています。一方、「午後」の割合はほぼ20～30%で一定しています。また、「特に決まっていない」割合は、年齢が上がるにしたがって減少していきます。

問10 図書館にどのくらいの時間、滞在されますか

	回答数	割合 (%)
30分以内	101	25.8
1時間以内	176	44.9
1～3時間	80	20.4
3～5時間	12	3.1
5時間以上	10	2.6
無回答	13	3.3
回答者総数(%ベース)	392	100.0

図書館での滞在時間(総数392、単位%)

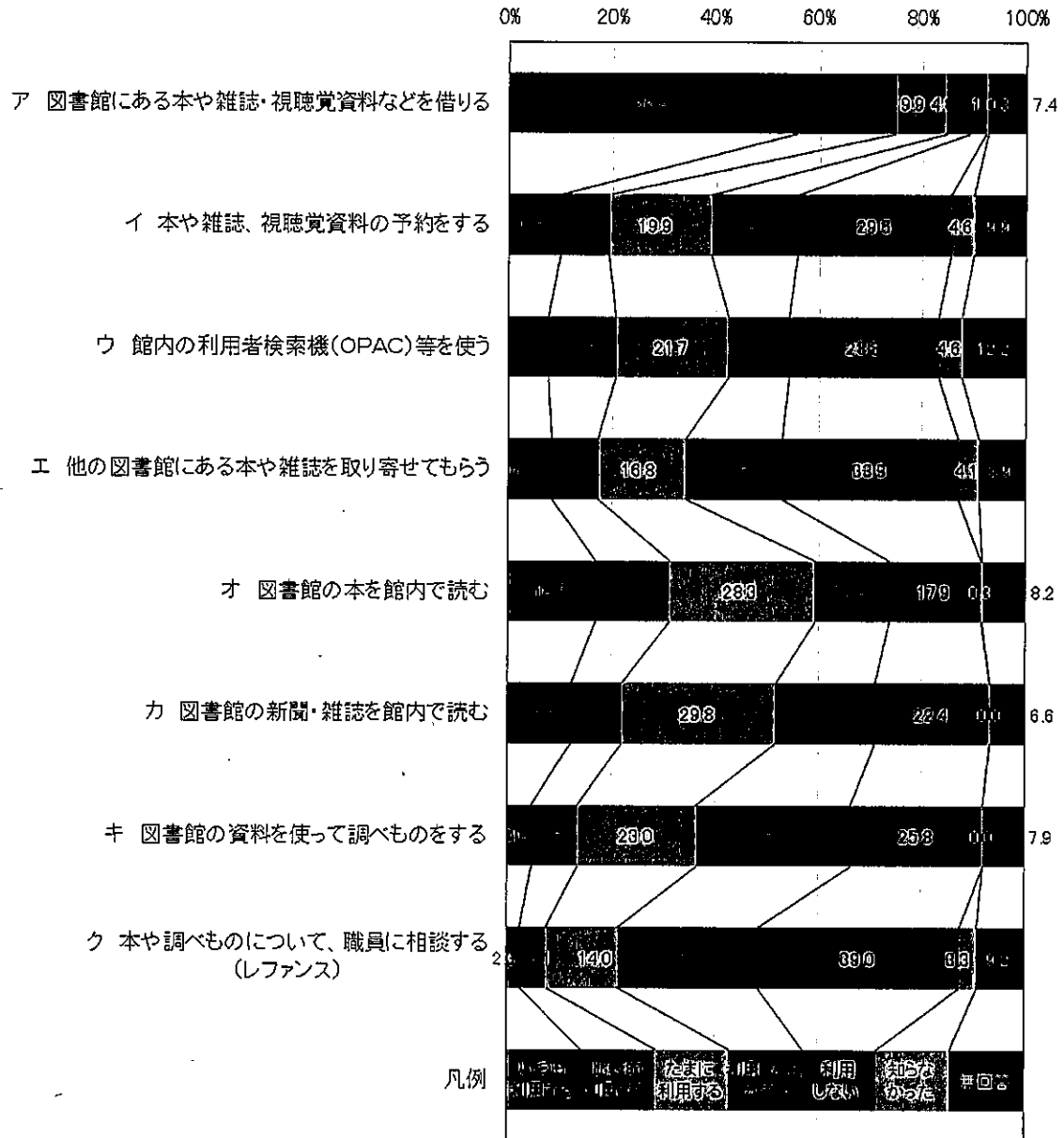


○「1時間以内」の割合が44.9%で最も高く、次いで「30分以内」が25.8%、「1～3時間」が20.4%などとなっています。

問11 あなたは、公共図書館のサービスをどのように利用されていますか。利用内容ごとにひとつずつ、利用状況を選び数字に○をしてください。(総数392)

		いつも 利用する	比較的 利用する	たまに 利用する	利用した ことが ある	利用 しない	知らな かった	無回答
ア 図書館にある本や雑誌・視聴覚資料などを借りる	回答数	218	75	39	18	12	1	29
	割合(%)	55.6	19.1	9.9	4.6	3.1	0.3	7.4
イ 本や雑誌、視聴覚資料の予約をする	回答数	39	37	78	65	116	18	39
	割合(%)	9.9	9.4	19.9	16.6	29.6	4.6	9.9
ウ 館内の利用者検索機(OPAC)等を使う	回答数	30	51	85	47	113	18	48
	割合(%)	7.7	13.0	21.7	12.0	28.8	4.6	12.2
エ 他の図書館にある本や雑誌を取り寄せてもらう	回答数	33	35	66	74	133	16	35
	割合(%)	8.4	8.9	16.8	18.9	33.9	4.1	8.9
オ 図書館の本を館内で読む	回答数	66	56	111	56	70	1	32
	割合(%)	16.8	14.3	28.3	14.3	17.9	0.3	8.2
カ 図書館の新聞・雑誌を館内で読む	回答数	48	38	117	75	88	0	26
	割合(%)	12.2	9.7	29.8	19.1	22.4	0.0	6.6
キ 図書館の資料を使って調べものをする	回答数	18	35	90	117	101	0	31
	割合(%)	4.6	8.9	23.0	29.8	25.8	0.0	7.9
ク 本や調べものについて、職員に相談する(レファンス)	回答数	9	20	55	106	153	13	36
	割合(%)	2.3	5.1	14.0	27.0	39.0	3.3	9.2

公共図書館サービスの利用状況(1)(総数392)



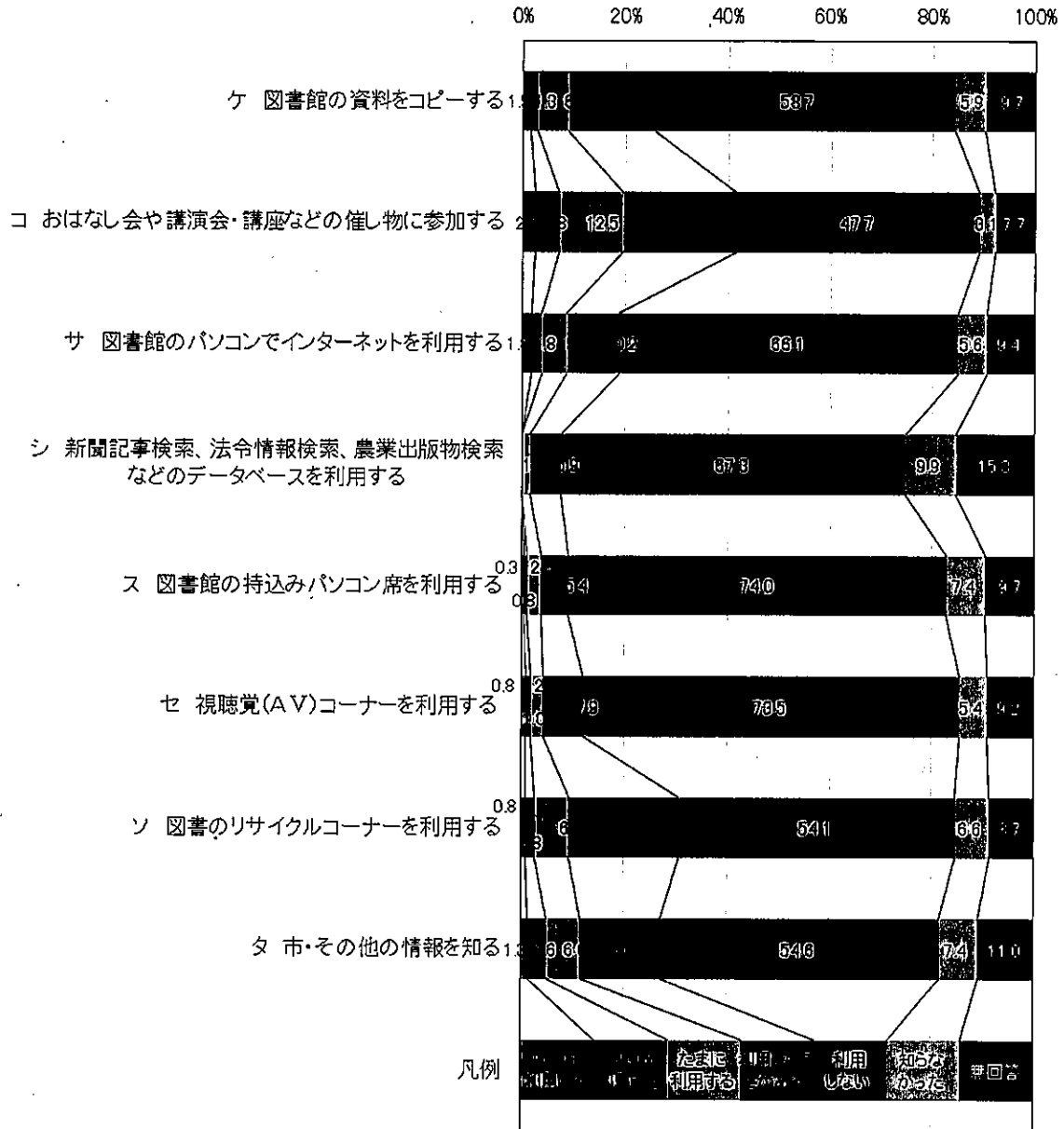
○ア～クについて「いつも利用する」「比較的利用する」の割合を合わせてみると、「ア 図書館にある本や雑誌・視聴覚資料などを借りる」が74.7%で最も高く、次いで「オ 図書館の本を館内で読む」が31.1%、「カ 図書館の新聞・雑誌を館内で読む」が21.9%、「ウ 館内の利用者検索機(OPAC)等を使う」が20.7%などとなっています。

◎前回調査に比べると、順位、割合ともほぼ同じですが、「ウ 館内の利用者検索機(OPAC)等を使う」が約12ポイント減少して順位を2つ下げています。



		いつも 利用する	比較的 利用する	たまに 利用する	利用した ことが ある	利用 しない	知らな かった	無回答
ケ 図書館の資料をコ ピーする	回答数	6	5	24	66	230	23	38
	割合(%)	1.5	1.3	6.1	16.8	58.7	5.9	9.7
コ おはなし会や講演 会・講座などの催し物 に参加する	回答数	9	19	49	86	187	12	30
	割合(%)	2.3	4.8	12.5	21.9	47.7	3.1	7.7
サ 図書館のパソコン でインターネットを利用 する	回答数	7	7	20	40	259	22	37
	割合(%)	1.8	1.8	5.1	10.2	66.1	5.6	9.4
シ 新聞記事検索、法 令情報検索、農業出版 物検索などのデータベ ースを利用する	回答数	0	0	6	23	264	39	60
	割合(%)	0.0	0.0	1.5	5.9	67.3	9.9	15.3
ス 図書館の持込みパ ソコン席を利用する	回答数	1	3	10	21	290	29	38
	割合(%)	0.3	0.8	2.6	5.4	74.0	7.4	9.7
セ 視聴覚(AV)コー ナーを利用する	回答数	3	4	9	31	288	21	36
	割合(%)	0.8	1.0	2.3	7.9	73.5	5.4	9.2
ソ 図書のリサイクルコ ーナーを利用する	回答数	3	7	26	84	212	26	34
	割合(%)	0.8	1.8	6.6	21.4	54.1	6.6	8.7
タ 市・その他の情報を 知る	回答数	5	14	26	61	214	29	43
	割合(%)	1.3	3.6	6.6	15.6	54.6	7.4	11.0

公共図書館サービスの利用状況(2) (総数392)



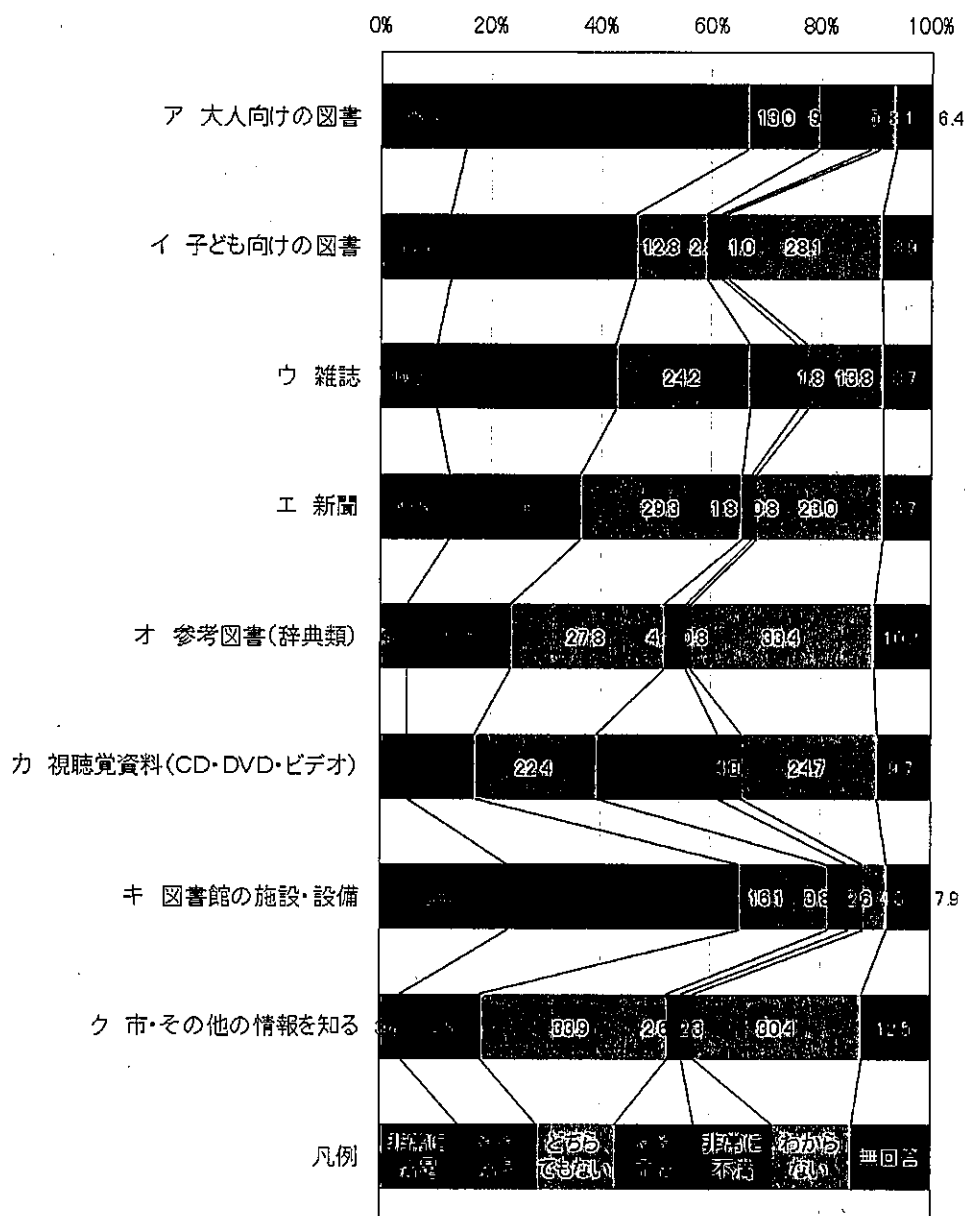
○ケ～タについてみると、どれも「利用しない」の割合が高くなっていますが、とくに「ス 図書館の持込みパソコン席を利用する」が74.0%、「セ 視聴覚(AV)コーナーを利用する」が73.5%、次いで「シ 新聞記事検索、法令情報検索、農業出版物検索などのデータベースを利用する」が67.3%、「サ 図書館のパソコンでインターネットを利用する」が66.1%などとなっています。これらのうち「いつも利用する」「比較的利用する」を合わせた割合が高いのは、「コ おはなし会や講演会・講座などの催し物に参加する」7.1%、「タ 市・その他の情報を知る」4.9%などです。

◎前回調査と比べると、「利用しない」の割合は、「ス 図書館の持込みパソコン席を利用する」が7ポイント、「セ 視聴覚(AV)コーナーを利用する」が11.5ポイント、「サ 図書館のパソコンでインターネットを利用する」が8ポイントそれぞれ減少しています。また、「コ おはなし会や講演会・講座などの催し物に参加する」では「いつも利用する」「比較的利用する」を合わせた割合が4ポイント増加しています。

問12 公共図書館の施設・資料についての満足度をうかがいます。施設・資料の内容ごとにひとつずつ、満足度を選び数字に○をしてください。(総数392)

		非常に満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	非常に不満	わからない	無回答
ア 大人向けの図書	回答数	60	201	51	37	6	12	25
	割合(%)	15.3	51.3	13.0	9.4	1.5	3.1	6.4
イ 子ども向けの図書	回答数	50	132	50	11	4	110	35
	割合(%)	12.8	33.7	12.8	2.8	1.0	28.1	8.9
ウ 雑誌	回答数	40	128	95	34	7	54	34
	割合(%)	10.2	32.7	24.2	8.7	1.8	13.8	8.7
エ 新聞	回答数	49	94	115	7	3	90	34
	割合(%)	12.5	24.0	29.3	1.8	0.8	23.0	8.7
オ 参考図書(辞典類)	回答数	19	74	109	16	3	131	40
	割合(%)	4.8	18.9	27.8	4.1	0.8	33.4	10.2
カ 視聴覚資料(CD・D VD・ビデオ)	回答数	19	48	88	85	17	97	38
	割合(%)	4.8	12.2	22.4	21.7	4.3	24.7	9.7
キ 図書館の施設・設備	回答数	91	165	63	15	10	17	31
	割合(%)	23.2	42.1	16.1	3.8	2.6	4.3	7.9
ク 市・その他の情報を 知る	回答数	15	57	133	10	9	119	49
	割合(%)	3.8	14.5	33.9	2.6	2.3	30.4	12.5

公共図書館の施設・資料についての満足度(総数392)



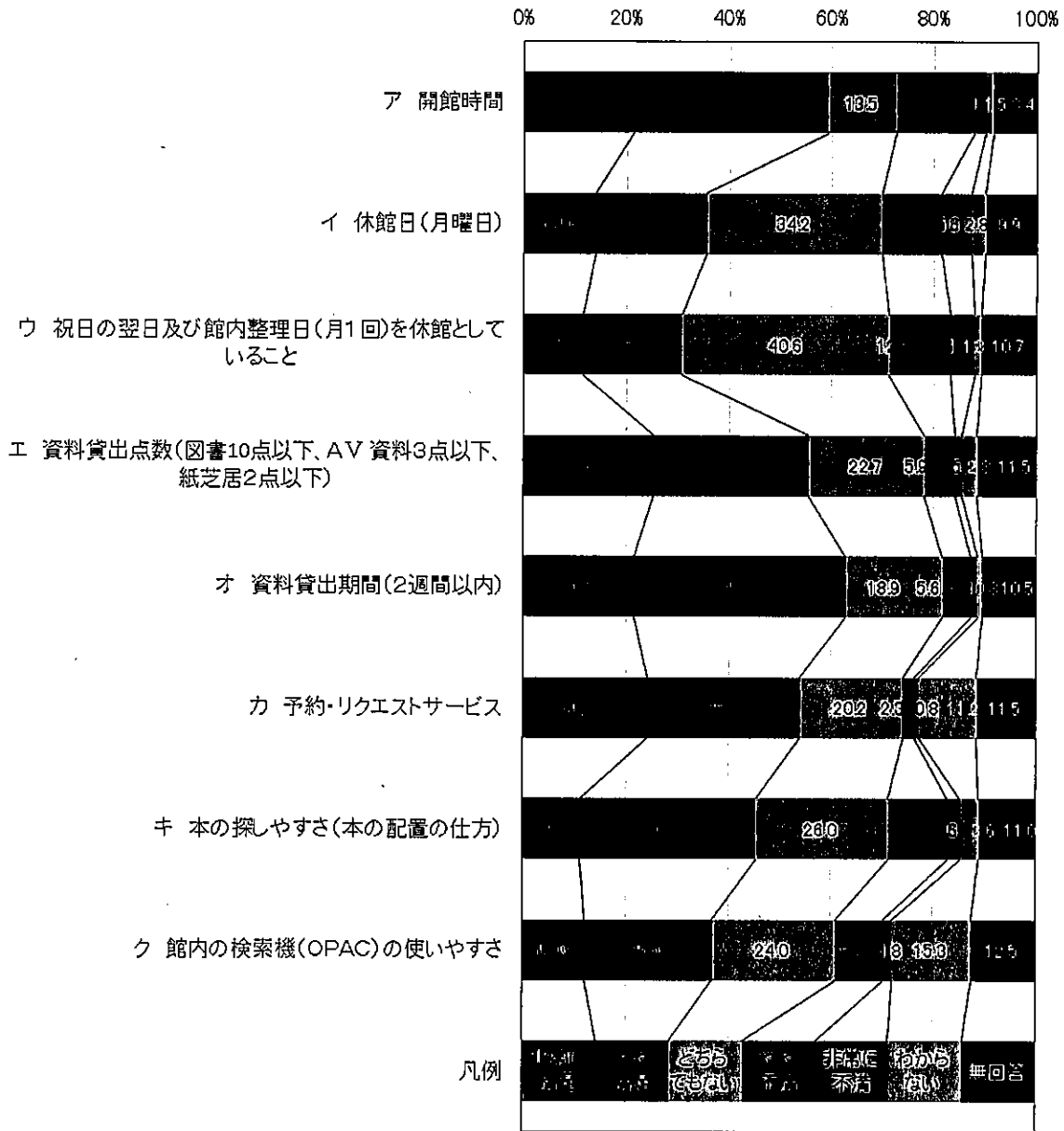
○「非常に満足」「やや満足」を合わせた割合をみると、「ア 大人向けの図書」が66.6%で最も高く、次いで「キ 図書館の施設・設備」が65.3%、「イ 子ども向けの図書」が46.5%などとなっています。反対に「やや不満」「非常に不満」を合わせた割合では、「カ 視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)」が26.0%で最も高く、次いで「ア 大人向けの図書」が10.9%、「ウ 雑誌」が10.5%などとなっています。

◎前回調査に比べると、「非常に満足」「やや満足」を合わせた割合では、「ア 大人向けの図書」と「イ 子ども向けの図書」がほぼ同じ割合、「キ 図書館の施設・設備」が約8ポイント減少し前回より順位を下げています。「やや不満」「非常に不満」を合わせた割合では、「カ 視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)」と「ア 大人向けの図書」がそれぞれ3ポイント、「ウ 雑誌」が6.5ポイント、それぞれ減少しています。

問13 図書館のサービスについての満足度をうかがいます。一番利用するサービス内容ごとにひとつずつ、満足度を選び数字に○をしてください。(1)(総数574)

		非常に満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	非常に不満	わからない	無回答
ア 開館時間	回答数	84	148	53	59	9	6	33
	割合(%)	21.4	37.8	13.5	15.1	2.3	1.5	8.4
イ 休館日(月曜日)	回答数	55	85	134	46	22	11	39
	割合(%)	14.0	21.7	34.2	11.7	5.6	2.8	9.9
ウ 祝日の翌日及び館内整理日(月1回)を休館としていること	回答数	45	76	159	47	18	5	42
	割合(%)	11.5	19.4	40.6	12.0	4.6	1.3	10.7
エ 資料貸出点数(図書10点以下、AV資料3点以下、紙芝居2点以下)	回答数	100	118	89	23	6	11	45
	割合(%)	25.5	30.1	22.7	5.9	1.5	2.8	11.5
オ 資料貸出期間(2週間以内)	回答数	85	162	74	22	5	3	41
	割合(%)	21.7	41.3	18.9	5.6	1.3	0.8	10.5
カ 予約・リクエストサービス	回答数	95	117	79	9	3	44	45
	割合(%)	24.2	29.8	20.2	2.3	0.8	11.2	11.5
キ 本の探しやすさ(本の配置の仕方)	回答数	44	134	102	45	10	14	43
	割合(%)	11.2	34.2	26.0	11.5	2.6	3.6	11.0
ク 館内の検索機(OPAC)の使いやすさ	回答数	47	98	94	37	7	60	49
	割合(%)	12.0	25.0	24.0	9.4	1.8	15.3	12.5

図書館のサービスについての満足度(1)(総数392)



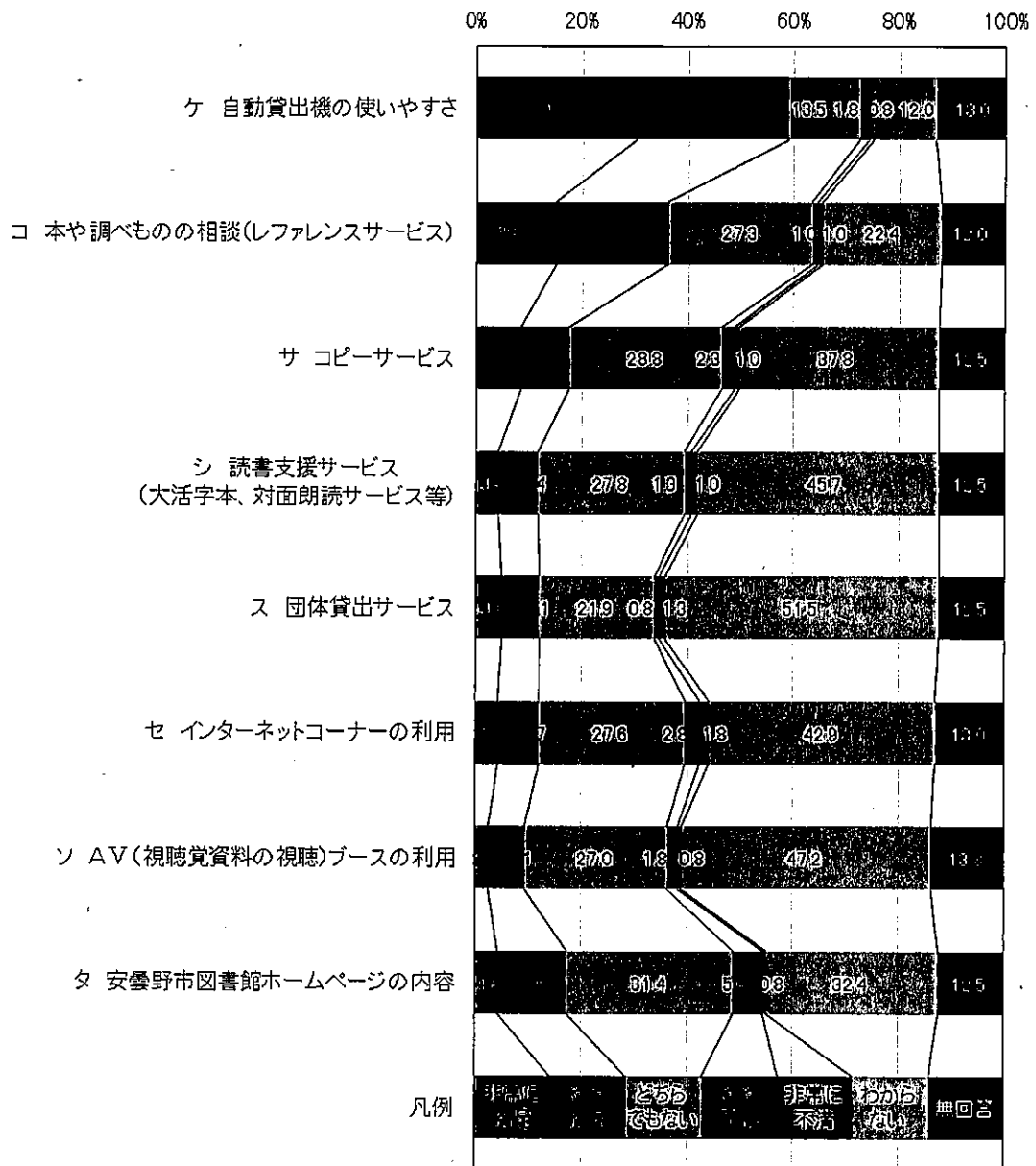
○ア～クについて「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合をみると、「オ 資料貸出期間(2週間以内)」が63.0%で最も高く、次いで「ア 開館時間」が59.2%、「エ 資料貸出点数(図書10点以下、AV 資料3点以下、紙芝居2点以下)」が55.6%、「カ 予約・リクエストサービス」が54.0%などとなっています。反対に「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合をみると、「ア 開館時間」が17.4%で最も高く、次いで「イ 休館日(月曜日)」が17.3%、「ウ 祝日の翌日及び館内整理日(月1回)を休館としていること」が16.6%などとなっています。

◎前回調査に比べると、「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合では、「オ 資料貸出期間(2週間以内)」が9ポイント、「ア 開館時間」が14ポイント、「エ 資料貸出点数(図書10点以下、AV 資料3点以下、紙芝居2点以下)」が26.5ポイント、それぞれ減少している一方、「カ 予約・リクエストサービス」が5ポイント増加して順位が大きく変わっています。「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合では、「ア 開館時間」が8.5ポイント、「イ 休館日(月曜日)」が約4ポイント減少しています。

		非常に満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	非常に不満	わからない	無回答
ケ 自動貸出機の使いやすさ	回答数	119	112	53	7	3	47	51
	割合(%)	30.4	28.6	13.5	1.8	0.8	12.0	13.0
コ 本や調べものの相談(レファレンスサービス)	回答数	59	83	107	4	4	88	47
	割合(%)	15.1	21.2	27.3	1.0	1.0	22.4	12.0
サ コピーサービス	回答数	33	36	113	9	4	148	49
	割合(%)	8.4	9.2	28.8	2.3	1.0	37.8	12.5
シ 読書支援サービス(大活字本、対面朗読サービス等)	回答数	17	29	109	5	4	179	49
	割合(%)	4.3	7.4	27.8	1.3	1.0	45.7	12.5
ス 団体貸出サービス	回答数	19	28	86	3	5	202	49
	割合(%)	4.8	7.1	21.9	0.8	1.3	51.5	12.5
セ インターネットコーナーの利用	回答数	17	30	108	11	7	168	51
	割合(%)	4.3	7.7	27.6	2.8	1.8	42.9	13.0
ソ AV(視聴覚資料の視聴)ブースの利用	回答数	9	28	106	7	3	185	54
	割合(%)	2.3	7.1	27.0	1.8	0.8	47.2	13.8
タ 安曇野市図書館ホームページの内容	回答数	17	51	123	22	3	127	49
	割合(%)	4.3	13.0	31.4	5.6	0.8	32.4	12.5



図書館のサービスについての満足度(2) (総数392)

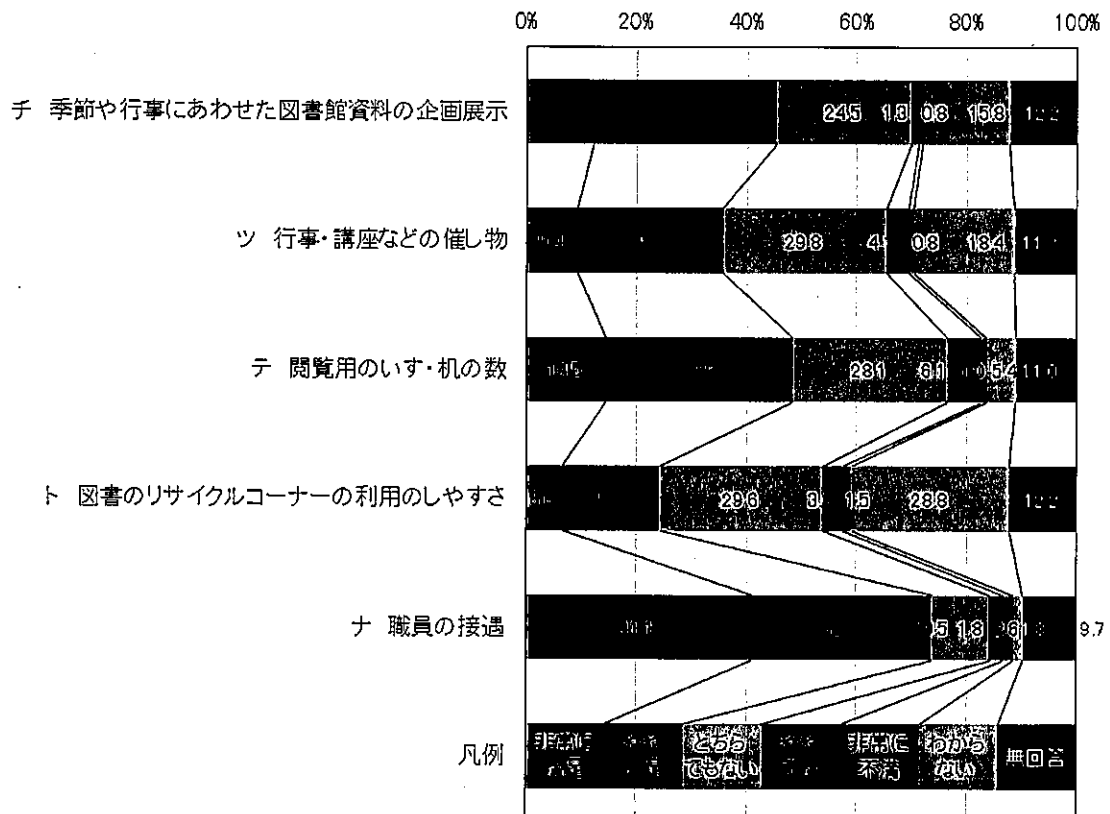


○ケ～タについて「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合をみると、「ケ 自動貸出機の使いやすさ」が59.0%で最も高く、次いで「コ 本や調べものの相談(レファレンスサービス)」が36.3%、「サ コピーサービス」が17.6%、「タ 安曇野市図書館ホームページの内容」が17.3%などとなっています。反対に「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合をみると、「タ 安曇野市図書館ホームページの内容」が6.4%で最も高く、次いで「セ インターネットコーナーの利用」が4.6%などとなっています。

◎前回調査に比べると、「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合では、「コ 本や調べものの相談(レファレンスサービス)」が11ポイント増加しています。「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合では、「タ 安曇野市図書館ホームページの内容」が約3ポイント減少しています。

		非常に満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	非常に不満	わからない	無回答
チ 季節や行事にあわせた図書館資料の企画展示	回答数	48	130	96	5	3	62	48
	割合(%)	12.2	33.2	24.5	1.3	0.8	15.8	12.2
ツ 行事・講座などの催し物	回答数	37	103	117	16	3	72	44
	割合(%)	9.4	26.3	29.8	4.1	0.8	18.4	11.2
テ 閲覧用のいす・机の数	回答数	57	133	110	24	4	21	43
	割合(%)	14.5	33.9	28.1	6.1	1.0	5.4	11.0
ト 図書のリサイクルコーナーの利用のしやすさ	回答数	26	69	116	14	6	113	48
	割合(%)	6.6	17.6	29.6	3.6	1.5	28.8	12.2
ナ 職員の接遇	回答数	161	128	41	10	7	7	38
	割合(%)	41.1	32.7	10.5	2.6	1.8	1.8	9.7

図書館のサービスについての満足度(3)(総数392)



○チ～ナについて「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合をみると、「ナ 職員の接遇」が73.8%で最も高く、次いで「テ 閲覧用のいす・机の数」が48.4%、「チ 季節や行事にあわせた図書館資料の企画展示」が45.4%などとなっています。反対に「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合をみると、「テ 閲覧用のいす・机の数」が7.1%で最も高く、次いで「ト 図書のリサイクルコーナーの利用のしやすさ」が5.1%、「ツ 行事・講座などの催し物」が4.9%などとなっています。

◎前回調査に比べると、「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合では、「ナ 職員の接遇」はほぼ同じ割合です。「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合では、「ツ 行事・講座などの催し物」がほぼ同じ割合です。

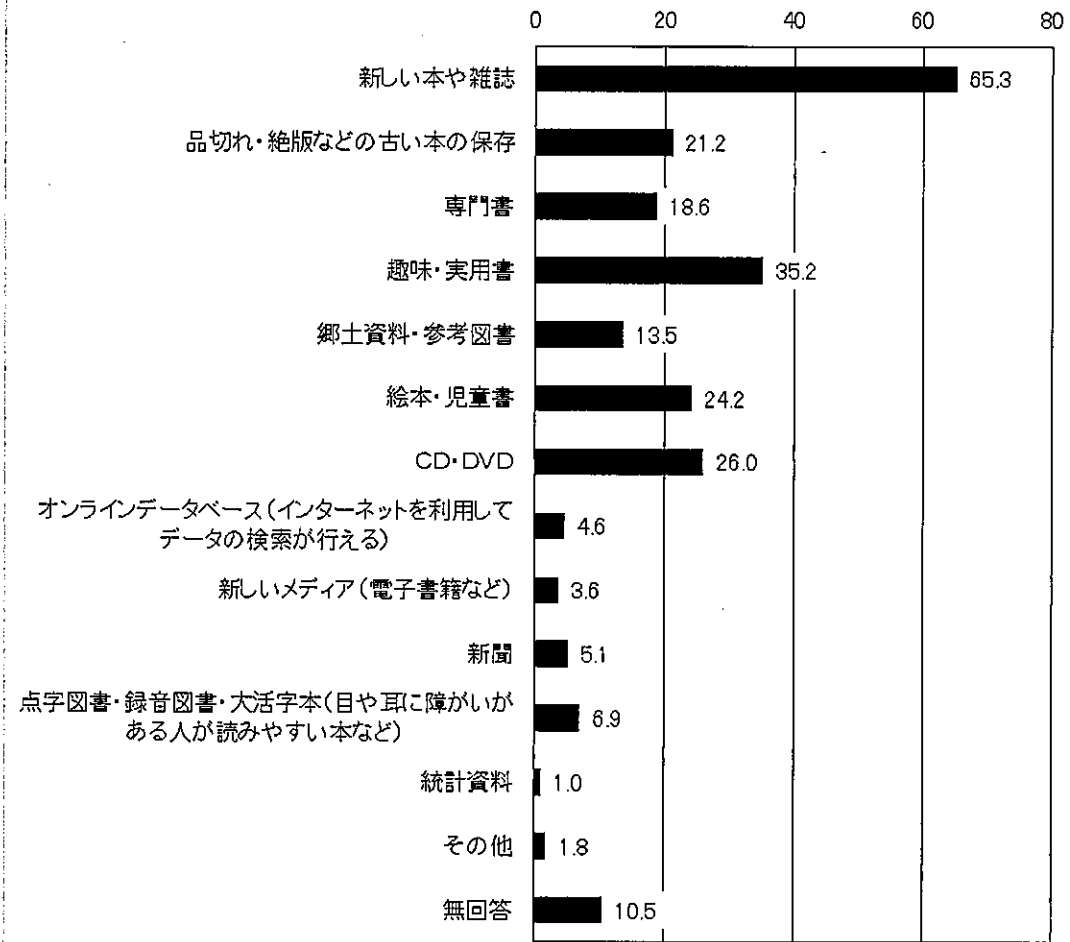
○全体としてみると、「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合が最も高いのは、「ナ 職員の接遇」73.8%で、次いで「オ 資料貸出期間(2週間以内)」63.0%、「ア 開館時間」59.2%、「エ 資料貸出点数(図書10点以下、AV 資料3点以下、紙芝居2点以下)」55.6%、「カ 予約・リクエストサービス」54.0%などです。反対に、「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合では、「ア 開館時間」が17.4%で最も高く、次いで「イ 休館日(月曜日)」17.3%、「ウ 祝日の翌日及び館内整理日(月1回)を休館としていること」16.6%などとなっています。

◎前回調査に比べると、「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合が「コ 本や調べものの相談(レファレンスサービス)」で11ポイント、「カ 予約・リクエストサービス」でそれぞれ5ポイント増加。「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合が「ア 開館時間」で8.5ポイント、「イ 休館日(月曜日)」で4ポイント、「タ 安曇野市図書館ホームページの内容」で3ポイントそれぞれ減少しています。

問14 図書館で特に充実すべき図書資料はなんですか(3つまで)

	回答数	割合(%)
新しい本や雑誌	256	65.3
品切れ・絶版などの古い本の保存	83	21.2
専門書	73	18.6
趣味・実用書	138	35.2
郷土資料・参考図書	53	13.5
絵本・児童書	95	24.2
CD・DVD	102	26.0
オンラインデータベース(インターネットを利用してデータの検索が行える)	18	4.6
新しいメディア(電子書籍など)	14	3.6
新聞	20	5.1
点字図書・録音図書・大活字本(目や耳に障がいがある人が読みやすい本など)	27	6.9
統計資料	4	1.0
その他	7	1.8
無回答	41	10.5
回答者総数(%ベース)	392	100.0

特に充実すべき図書資料(総数392、3つまで複数回答、単位%)



○「新しい本や雑誌」の割合が65.3%で最も高く、次いで「趣味・実用書」が35.2%、「CD・DVD」が26.0%などとなっています。

男女別●問 14 図書館で特に充実すべき図書資料はなんですか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	新しい本 や雑誌	品切れ・ 絶版など の古い本の 保存	専門書	趣味・実 用書	郷土資 料・参 考 図書	絵本・児 童書	CD・DVD
全体	392 100.0	256 65.3	83 21.2	73 18.6	138 35.2	53 13.5	95 24.2	102 26.0
男性	130 100.0	82 63.1	25 19.2	29 22.3	47 36.2	24 18.5	11 8.5	41 31.5
女性	223 100.0	147 65.9	50 22.4	35 15.7	76 34.1	25 11.2	76 34.1	53 23.8
無回答	39 100.0	27 69.2	8 20.5	9 23.1	15 38.5	4 10.3	8 20.5	8 20.5
上段:回答数 下段:割合(%)	オンライン データベ ース(イン ターネット を利用してデー タの検索が 行える)	新しいメデ ィア(電子 書籍など)	新聞	点字図 書・録音 図書・大 活字本 (目や耳 に障がい がある人 が読みや すい本な ど)	統計資料	その他	無回答	
全体	18 4.6	14 3.6	20 5.1	27 6.9	4 1.0	7 1.8	41 10.5	
男性	6 4.6	6 4.6	13 10.0	5 3.8	2 1.5	3 2.3	10 7.7	
女性	11 4.9	7 3.1	5 2.2	19 8.5	2 0.9	3 1.3	26 11.7	
無回答	1 2.6	1 2.6	2 5.1	3 7.7	0 0.0	1 2.6	5 12.8	

○「新しい本や雑誌」「趣味・実用書」とも、「男性」「女性」で大きな差異はみられません。「CD・DVD」では、「男性」が「女性」を8ポイント近く上回っています。また、「絵本・児童書」では「女性」が、「新聞」では「男性」が高くなっています。

年齢別●問 14 図書館で特に充実すべき図書資料はなんですか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	新しい本 や雑誌	品切れ・ 絶版など の古い本の 保存	専門書	趣味・実 用書	郷土資 料・参考 図書	絵本・児 童書	CD・DVD
全体	392 100.0	256 65.3	83 21.2	73 18.6	138 35.2	53 13.5	95 24.2	102 26.0
16歳未満	22 100.0	12 54.5	4 18.2	1 4.5	3 13.6	1 4.5	9 40.9	5 22.7
16～17歳	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18～19歳	5 100.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	9 100.0	6 66.7	2 22.2	5 55.6	4 44.4	1 11.1	3 33.3	3 33.3
30～39歳	51 100.0	29 56.9	20 39.2	5 9.8	15 29.4	9 17.6	27 52.9	21 41.2
40～49歳	83 100.0	60 72.3	15 18.1	29 34.9	35 42.2	7 8.4	29 34.9	18 21.7
50～59歳	56 100.0	43 76.8	10 17.9	9 16.1	21 37.5	8 14.3	13 23.2	17 30.4
60～69歳	88 100.0	55 62.5	20 22.7	11 12.5	31 35.2	13 14.8	9 10.2	25 28.4
70～79歳	66 100.0	45 68.2	9 13.6	9 13.6	24 36.4	10 15.2	5 7.6	12 18.2
80歳以上	10 100.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0	3 30.0	3 30.0	0 0.0	1 10.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



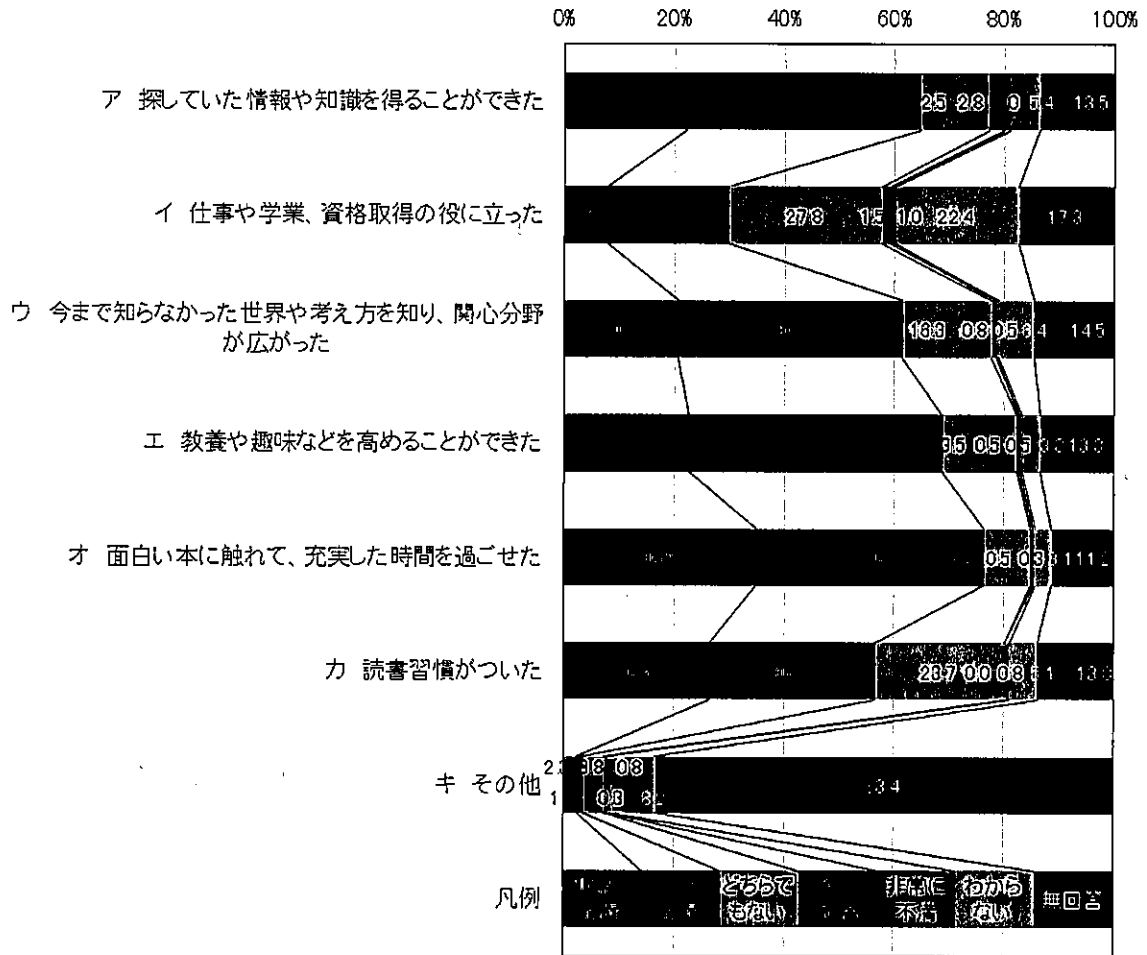
上段:回答数 下段:割合(%)	オンライン データベ ース(イン ターネット を利用してデー タの検索が 行える)	新しいメデ ィア(電子 書籍など)	新聞	点字図書・録音 図書・大活字本 (目や耳 に障がい がある人 が読みや すい本な ど)	統計資料	その他	無回答
全体	18 4.6	14 3.6	20 5.1	27 6.9	4 1.0	7 1.8	41 10.5
16歳未満	2 9.1	2 9.1	0 0.0	1 4.5	0 0.0	0 0.0	6 27.3
16~17歳	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18~19歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
20~29歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
30~39歳	2 3.9	2 3.9	1 2.0	4 7.8	1 2.0	0 0.0	0 0.0
40~49歳	4 4.8	3 3.6	3 3.6	3 3.6	0 0.0	1 1.2	6 7.2
50~59歳	3 5.4	1 1.8	3 5.4	7 12.5	0 0.0	0 0.0	4 7.1
60~69歳	5 5.7	4 4.5	7 8.0	6 6.8	0 0.0	3 3.4	9 10.2
70~79歳	2 3.0	1 1.5	4 6.1	3 4.5	2 3.0	1 1.5	12 18.2
80歳以上	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	3 30.0
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

○「新しい本や雑誌」とくに高いのは「40~49歳」と「50~59歳」です。また、「趣味・実用書」と「専門書」では「18~19歳」「20~29歳」、「絵本・児童書」と「CD・DVD」は「30~39歳」、「新聞」は「80歳以上」で高くなっています。

問15 図書館を利用した成果として、次のようなことをお感じになりますか。成果内容ごとにひとつずつ、満足度を選び数字に○をしてください。(総数392)

		非常に満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	非常に不満	わからない	無回答
ア 探していた情報や知識を得ることができた	回答数	87	167	49	11	4	21	53
	割合(%)	22.2	42.6	12.5	2.8	1.0	5.4	13.5
イ 仕事や学業、資格取得の役に立った	回答数	30	87	109	6	4	88	68
	割合(%)	7.7	22.2	27.8	1.5	1.0	22.4	17.3
ウ 今まで知らなかった世界や考え方を知り、関心分野が広がった	回答数	81	160	64	3	2	25	57
	割合(%)	20.7	40.8	16.3	0.8	0.5	6.4	14.5
エ 教養や趣味などを高めることができた	回答数	89	181	53	2	2	13	52
	割合(%)	22.7	46.2	13.5	0.5	0.5	3.3	13.3
オ 面白い本に触れて、充実した時間を過ごせた	回答数	137	163	33	2	1	12	44
	割合(%)	34.9	41.6	8.4	0.5	0.3	3.1	11.2
カ 読書習慣がついた	回答数	104	118	93	0	3	20	54
	割合(%)	26.5	30.1	23.7	0.0	0.8	5.1	13.8
キ その他	回答数	9	5	15	1	3	32	327
	割合(%)	2.3	1.3	3.8	0.3	0.8	8.2	83.4

図書館を利用した成果についての満足度(総数992)



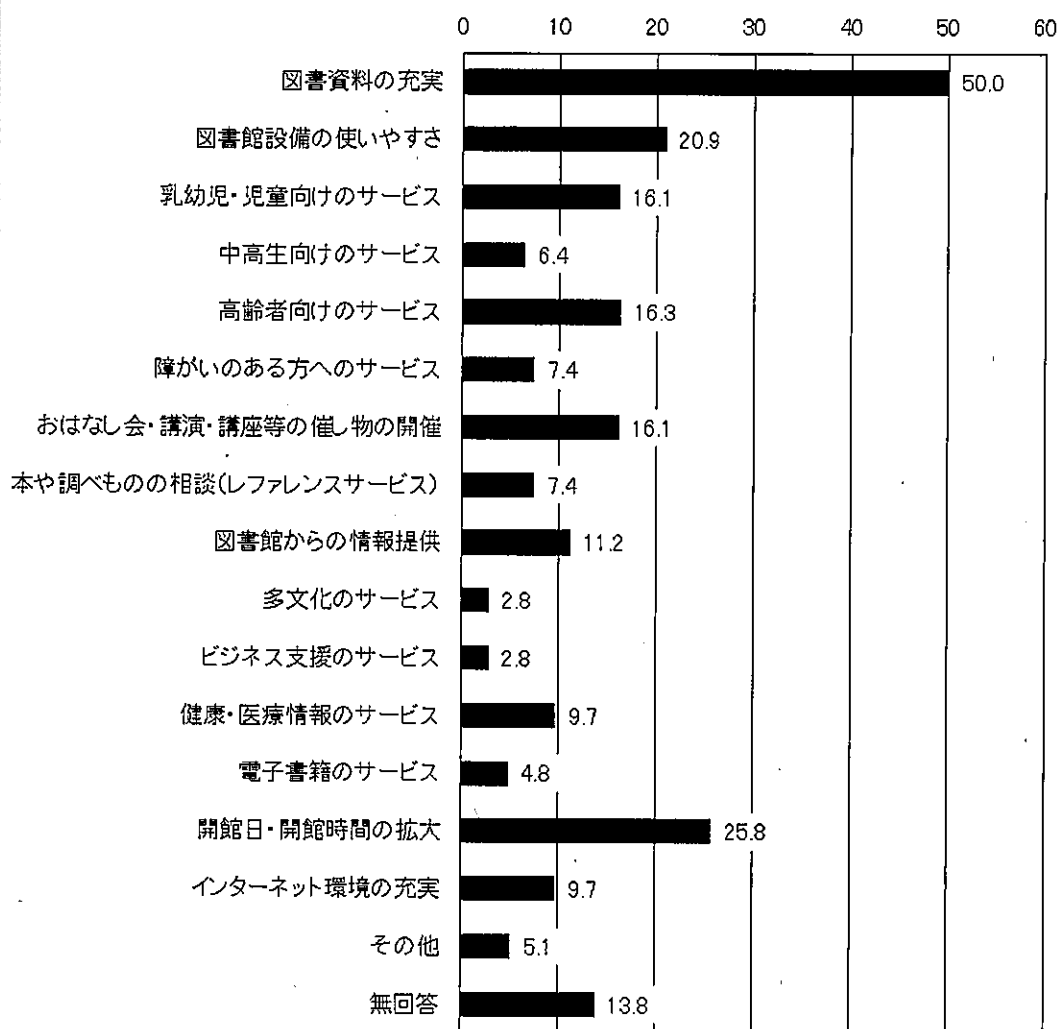
○「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合は、「オ 面白い本に触れて、充実した時間を過ごせた」が76.5%で最も高く、次いで「エ 教養や趣味などを高めることができた」が68.9%、「ア 探していた情報や知識を得ることができた」が64.8%などとなっています。反対に「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合は、「ア 探していた情報や知識を得ることができた」が3.8%、「イ 仕事や学業、資格取得の役に立った」が2.5%などとなっています。

◎前回調査に比べると、「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合では、「オ 面白い本に触れて、充実した時間を過ごせた」が3.5ポイント、「エ 教養や趣味などを高めることができた」が4ポイントそれぞれ減少しています。

問16 今後、特に充実すべき図書館サービスはなんですか(3つまで)

	回答数	割合(%)
図書資料の充実	196	50.0
図書館設備の使いやすさ	82	20.9
乳幼児・児童向けのサービス	63	16.1
中高生向けのサービス	25	6.4
高齢者向けのサービス	64	16.3
障がいのある方へのサービス	29	7.4
おはなし会・講演・講座等の催し物の開催	63	16.1
本や調べものの相談(レファレンスサービス)	29	7.4
図書館からの情報提供	44	11.2
多文化のサービス	11	2.8
ビジネス支援のサービス	11	2.8
健康・医療情報のサービス	38	9.7
電子書籍のサービス	19	4.8
開館日・開館時間の拡大	101	25.8
インターネット環境の充実	38	9.7
その他	20	5.1
無回答	54	13.8
回答者総数(%ベース)	392	100.0

特に充実すべき図書館サービス(総数392、3つまで複数回答、単位%)



○「図書資料の充実」の割合が50.0%で最も高く、次いで「開館日・開館時間の拡大」が25.8%、「図書館設備の使いやすさ」が20.9%などとなっています。

男女別●問 16 今後、特に充実すべき図書館サービスはなんですか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	図書資料の充実	図書館設備の使いやすさ	乳幼児・児童向けのサービス	中高生向けのサービス	高齢者向けのサービス	障がいのある方へのサービス	おはなし会・講演・講座等の催し物の開催	本や調べものの相談(レファレンスサービス)
全体	392 100.0	196 50.0	82 20.9	63 16.1	25 6.4	64 16.3	29 7.4	63 16.1	29 7.4
男性	130 100.0	74 56.9	22 16.9	11 8.5	7 5.4	20 15.4	7 5.4	17 13.1	8 6.2
女性	223 100.0	109 48.9	50 22.4	48 21.5	16 7.2	34 15.2	22 9.9	39 17.5	15 6.7
無回答	39 100.0	13 33.3	10 25.6	4 10.3	2 5.1	10 25.6	0 0.0	7 17.9	6 15.4
上段:回答数 下段:割合(%)	図書館からの情報提供	多文化のサービス	ビジネス支援のサービス	健康・医療情報のサービス	電子書籍のサービス	開館日・開館時間の拡大	インターネット環境の充実	その他	無回答
全体	44 11.2	11 2.8	11 2.8	38 9.7	19 4.8	101 25.8	38 9.7	20 5.1	54 13.8
男性	14 10.8	5 3.8	6 4.6	13 10.0	8 6.2	33 25.4	18 13.8	6 4.6	17 13.1
女性	29 13.0	4 1.8	4 1.8	14 6.3	9 4.0	64 28.7	16 7.2	10 4.5	30 13.5
無回答	1 2.6	2 5.1	1 2.6	11 28.2	2 5.1	4 10.3	4 10.3	4 10.3	7 17.9

○「図書資料の充実」ではとくに「男性」、「図書館設備の使いやすさ」では「女性」が高くなっています。「開館日・開館時間の拡大」は「男性」「女性」で大きな差異はありません。「乳幼児・児童向けのサービス」はとくに「女性」で高くなっています。

年齢別●問 16 今後、特に充実すべき図書館サービスはなんですか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	図書資料の充実	図書館設備の使いやすさ	乳幼児・児童向けのサービス	中高生向けのサービス	高齢者向けのサービス	障がいのある方へのサービス	おはなし会・講演・講座等の催し物の開催	本や調べものの相談(レファレンスサービス)
全体	392 100.0	196 50.0	82 20.9	63 16.1	25 6.4	64 16.3	29 7.4	63 16.1	29 7.4
16歳未満	22 100.0	13 59.1	7 31.8	5 22.7	7 31.8	0 0.0	1 4.5	4 18.2	0 0.0
16～17歳	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
18～19歳	5 100.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
20～29歳	9 100.0	3 33.3	1 11.1	2 22.2	1 11.1	1 11.1	1 11.1	2 22.2	1 11.1
30～39歳	51 100.0	27 52.9	8 15.7	23 45.1	5 9.8	3 5.9	4 7.8	13 25.5	2 3.9
40～49歳	83 100.0	59 71.1	26 31.3	19 22.9	3 3.6	4 4.8	4 4.8	13 15.7	8 9.6
50～59歳	56 100.0	31 55.4	13 23.2	8 14.3	5 8.9	4 7.1	7 12.5	8 14.3	3 5.4
60～69歳	88 100.0	36 40.9	14 15.9	2 2.3	2 2.3	25 28.4	8 9.1	9 10.2	6 6.8
70～79歳	66 100.0	22 33.3	13 19.7	4 6.1	2 3.0	22 33.3	3 4.5	12 18.2	7 10.6
80歳以上	10 100.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



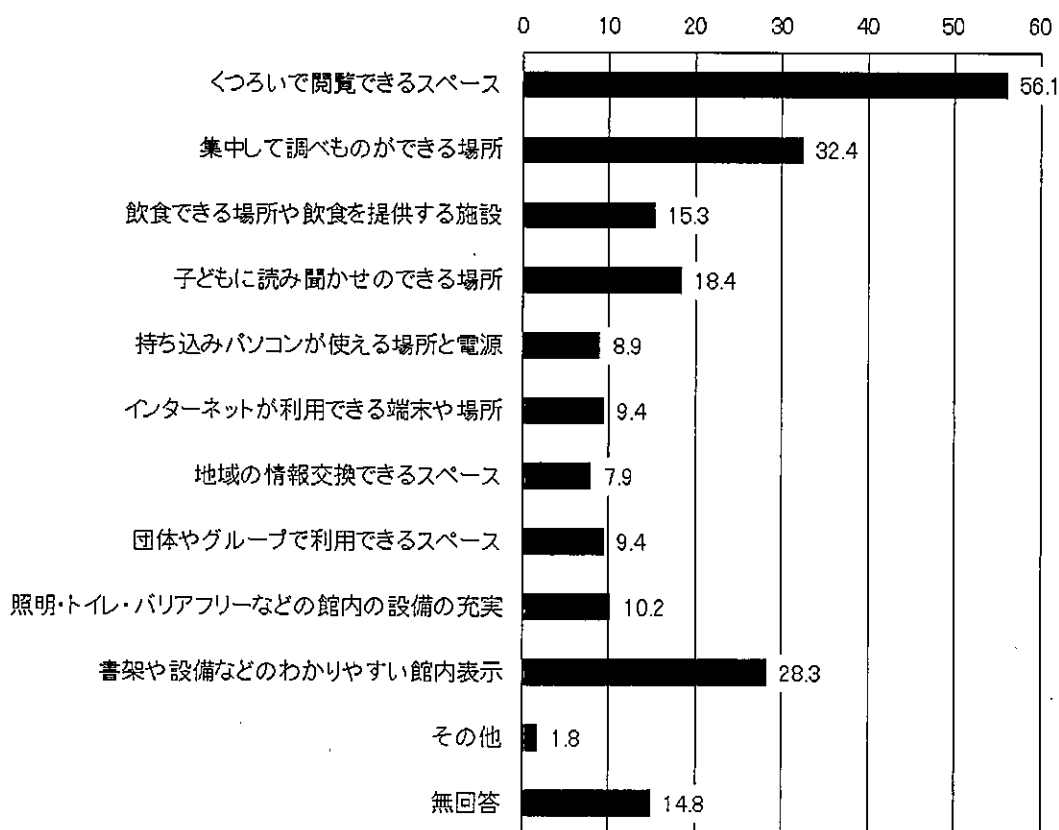
上段:回答数 下段:割合(%)	図書館 からの 情報 提供	多文化 のサー ビス	ビジネス 支援の サービス	健康・医 療情報 のサー ビス	電子書 籍のサー ビス	開館日・ 開館時 間の拡 大	インター ネット環 境の充 実	その他	無回答
全体	44 11.2	11 2.8	11 2.8	38 9.7	19 4.8	101 25.8	38 9.7	20 5.1	54 13.8
16歳未満	0 0.0	1 4.5	1 4.5	0 0.0	2 9.1	4 18.2	2 9.1	0 0.0	5 22.7
16～17歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18～19歳	0 0.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
20～29歳	1 11.1	0 0.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0	2 22.2	2 22.2	1 11.1	2 22.2
30～39歳	4 7.8	2 3.9	3 5.9	4 7.8	4 7.8	13 25.5	5 9.8	2 3.9	2 3.9
40～49歳	9 10.8	1 1.2	5 6.0	7 8.4	6 7.2	27 32.5	9 10.8	4 4.8	5 6.0
50～59歳	10 17.9	2 3.6	0 0.0	6 10.7	1 1.8	15 26.8	8 14.3	5 8.9	5 8.9
60～69歳	14 15.9	1 1.1	0 0.0	7 8.0	6 6.8	23 26.1	9 10.2	5 5.7	16 18.2
70～79歳	5 7.6	1 1.5	0 0.0	8 12.1	0 0.0	13 19.7	2 3.0	2 3.0	16 24.2
80歳以上	1 10.0	1 10.0	0 0.0	5 50.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	2 20.0
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

○「図書資料の充実」「図書館設備の使いやすさ」「開館日・開館時間の拡大」はとくに「40～49歳」で、また、「乳幼児・児童向けのサービス」は「30～39歳」で、「高齢者向けのサービス」は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」で、「おはなし会・講演・講座等の催し物の開催」は「20～29歳」「30～39歳」で高くなっています。

問17 あなたは、図書館の利用スペースについて、どのようなことを望みますか(3つまで)

	回答数	割合(%)
くつろいで閲覧できるスペース	220	56.1
集中して調べものができる場所	127	32.4
飲食できる場所や飲食を提供する施設	60	15.3
子どもに読み聞かせのできる場所	72	18.4
持ち込みパソコンが使える場所と電源	35	8.9
インターネットが利用できる端末や場所	37	9.4
地域の情報交換できるスペース	31	7.9
団体やグループで利用できるスペース	37	9.4
照明・トイレ・バリアフリーなどの館内の設備の充実	40	10.2
書架や設備などのわかりやすい館内表示	111	28.3
その他	7	1.8
無回答	58	14.8
回答者総数(%ベース)	392	100.0

図書館の利用スペースへの要望(総数392、3つまで複数回答、単位%)



○「くつろいで閲覧できるスペース」の割合が56.1%で最も高く、次いで「集中して調べものができる場所」が32.4%、「書架や設備などのわかりやすい館内表示」が28.3%などとなっています。

男女別●問 17 あなたは、図書館の利用スペースについて、どのようなことを望みますか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	くつろいで 閲覧できる スペース	集中して調 べものがで きる場所	飲食できる 場所や飲食 を提供する 施設	子どもに読 み聞かせの できる場所	持ち込みパ ソコンが使 える場所と 電源	インターネッ トが利用で きる端末や 場所
全体	392 100.0	220 56.1	127 32.4	60 15.3	72 18.4	35 8.9	37 9.4
男性	130 100.0	83 63.8	46 35.4	18 13.8	11 8.5	19 14.6	15 11.5
女性	223 100.0	116 52.0	67 30.0	29 13.0	57 25.6	13 5.8	16 7.2
無回答	39 100.0	21 53.8	14 35.9	13 33.3	4 10.3	3 7.7	6 15.4
上段:回答数 下段:割合(%)	地域の情報 交換できる スペース	団体やグル ープで利用 できるスペ ース	照明・トイ レ・バリアフ リーなどの 館内の設備 の充実	書架や設備 などのわか りやすい館 内表示	その他	無回答	
全体	31 7.9	37 9.4	40 10.2	111 28.3	7 1.8	58 14.8	
男性	10 7.7	5 3.8	11 8.5	31 23.8	2 1.5	18 13.8	
女性	19 8.5	30 13.5	28 12.6	68 30.5	5 2.2	34 15.2	
無回答	2 5.1	2 5.1	1 2.6	12 30.8	0 0.0	6 15.4	

○「くつろいで閲覧できるスペース」と「集中して調べものができる場所」は「男性」で、「書架や設備などのわかりやすい館内表示」は「女性」で、それぞれ高くなっています。また「女性」では、「子どもに読み聞かせのできる場所」と「団体やグループで利用できるスペース」がとくに「男性」に比べ高くなっています。

年齢別●問 17 あなたは、図書館の利用スペースについて、どのようなことを望みますか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	くつろいで 閲覧できる スペース	集中して調 べものがで きる場所	飲食できる 場所や飲食 を提供する 施設	子どもに読 み聞かせの できる場所	持ち込みパ ソコンが使 える場所と 電源	インターネッ トが利用で きる端末や 場所
全体	392 100.0	220 56.1	127 32.4	60 15.3	72 18.4	35 8.9	37 9.4
16歳未満	22 100.0	8 36.4	8 36.4	5 22.7	3 13.6	0 0.0	5 22.7
16～17歳	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18～19歳	5 100.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
20～29歳	9 100.0	7 77.8	4 44.4	1 11.1	3 33.3	2 22.2	2 22.2
30～39歳	51 100.0	36 70.6	16 31.4	13 25.5	20 39.2	7 13.7	2 3.9
40～49歳	83 100.0	54 65.1	45 54.2	14 16.9	22 26.5	10 12.0	12 14.5
50～59歳	56 100.0	33 58.9	15 26.8	6 10.7	8 14.3	2 3.6	6 10.7
60～69歳	88 100.0	44 50.0	20 22.7	12 13.6	10 11.4	10 11.4	7 8.0
70～79歳	66 100.0	33 50.0	15 22.7	5 7.6	6 9.1	2 3.0	2 3.0
80歳以上	10 100.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

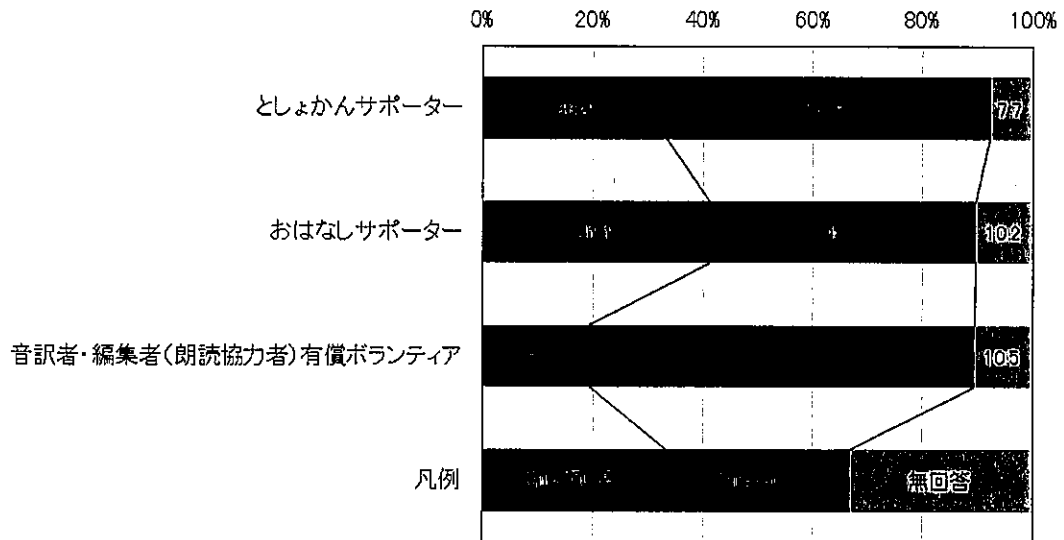
上段:回答数 下段:割合(%)	地域の情報 交換できる スペース	団体やグル ープで利用 できるスペ ース	照明・トイ レ・バリアフ リーなどの 館内の設備 の充実	書架や設備 などのわか りやすい館 内表示	その他	無回答
全体	31 7.9	37 9.4	40 10.2	111 28.3	7 1.8	58 14.8
16歳未満	1 4.5	2 9.1	5 22.7	4 18.2	0 0.0	6 27.3
16～17歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18～19歳	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
20～29歳	0 0.0	1 11.1	2 22.2	2 22.2	1 11.1	0 0.0
30～39歳	2 3.9	4 7.8	9 17.6	14 27.5	0 0.0	3 5.9
40～49歳	7 8.4	7 8.4	9 10.8	21 25.3	0 0.0	4 4.8
50～59歳	8 14.3	6 10.7	4 7.1	19 33.9	2 3.6	8 14.3
60～69歳	6 6.8	10 11.4	6 6.8	27 30.7	0 0.0	17 19.3
70～79歳	5 7.6	6 9.1	4 6.1	19 28.8	2 3.0	16 24.2
80歳以上	1 10.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	1 10.0	3 30.0
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

○「くつろいで閲覧できるスペース」と「集中して調べものができる場所」は「20～29歳」から「40～49歳」で、「子どもに読み聞かせのできる場所」は「20～29歳」と「30～39歳」で、また「書架や設備などのわかりやすい館内表示」は「50～59歳」から「80歳以上」で高くなっています。

問18 あなたは図書館の運営のお手伝いをさせていただくボランティアを知っていますか  
(総数392)

		知っている	知らない	無回答
としょかんサポーター	回答数	131	231	30
	割合(%)	33.4	58.9	7.7
おはなしサポーター	回答数	161	191	40
	割合(%)	41.1	48.7	10.2
音訳者・編集者(朗読協力者)有償ボランティア	回答数	76	275	41
	割合(%)	19.4	70.2	10.5

図書館ボランティアについての認知度(総数392)

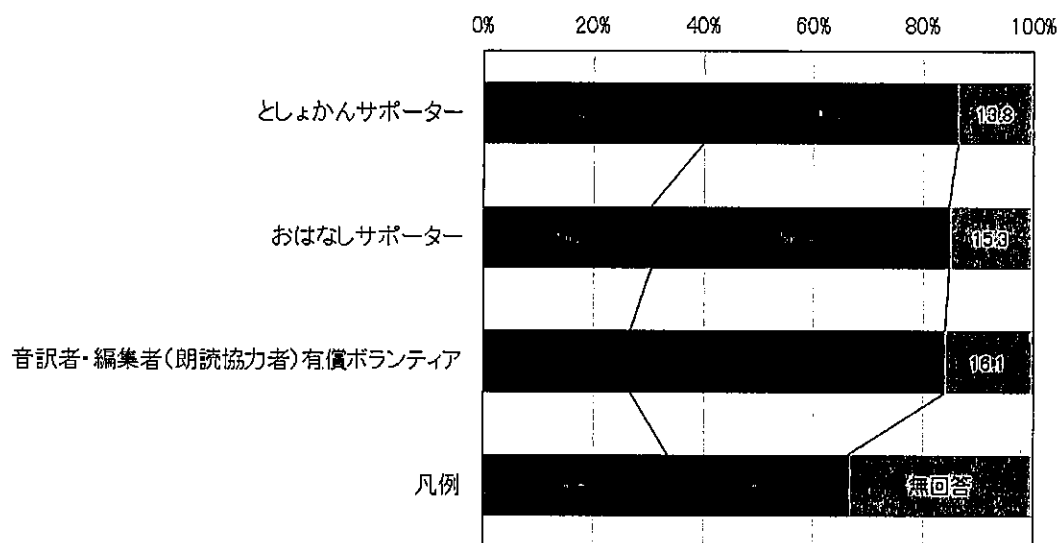


○「おはなしサポーター」の割合が41.1%で最も高く、次いで「としょかんサポーター」が33.4%、「音訳者・編集者(朗読協力者)有償ボランティア」が19.2%となっています。いずれも、「知らない」の割合の方が高くなっています。

問19 あなたは「問18」で伺ったボランティアに興味がありますか(総数392)

		ある	ない	無回答
としょかんサポーター	回答数	156	182	54
	割合(%)	39.8	46.4	13.8
おはなしサポーター	回答数	119	213	60
	割合(%)	30.4	54.3	15.3
音訳者・編集者(朗読協力者)有償ボランティア	回答数	105	224	63
	割合(%)	26.8	57.1	16.1

図書館ボランティアについての関心度(総数392)



○「としょかんサポーター」の割合が39.8%で最も高く、次いで「おはなしサポーター」が30.4%、「音訳者・編集者(朗読協力者)有償ボランティア」が26.8%となっています。いずれも「ない」の割合の方が高くなっています。

図書館サービス向上のための  
小学生・中学生アンケート調査  
報告書

平成29年2月  
安曇野市教育委員会



## 1 調査の目的

図書館サービスの向上を目的とする図書館基本計画策定の基礎資料とするため。

## 2 調査の概要

### 1) 調査対象

市内小中17校の小学6年生及び中学2年生（各校1クラス）

### 2) 調査方法

平成28年12月12日～12月21日、授業内に配布・回収

### 3) 回収結果

回収票数477

### 4) 集計上の留意点

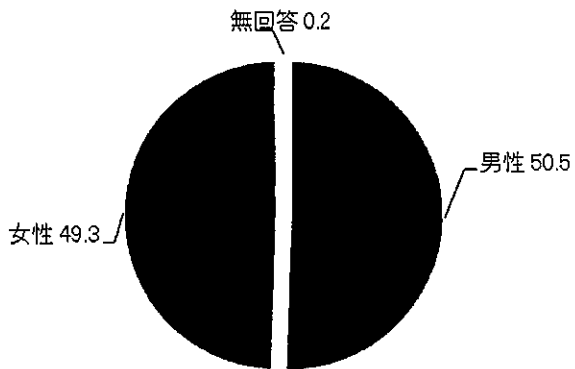
- ① 原則として、単回答は円グラフ、複数回答は横棒グラフを用いて表示しました。  
ただし、単回答のうち、各割合の比較を行いたい設問では、横棒グラフを用いました。
- ② 回答率（割合）は、小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで表記しました。このため、合計が100%にならないことがあります。
- ③ 複数回答では、回答者総数を100として（%ベース）、それぞれの回答数の割合を百分率で示してあります。したがって、割合の合計は100%にはなりません。

【あなたについておたずねします】

◇性別

	回答数	割合(%)
男性	241	50.5
女性	235	49.3
無回答	1	0.2
回答者総数(%ベース)	477	100.0

回答者性別(総数477、単位%)

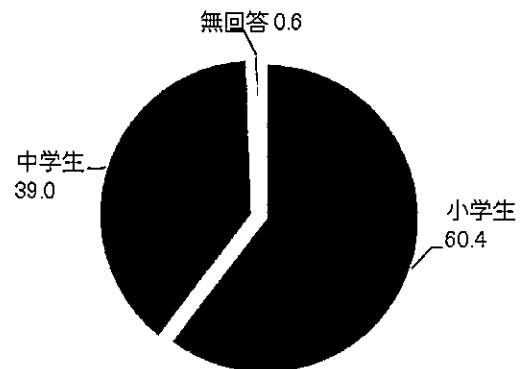


○「男性」の割合が50.5%、「女性」が49.3%です。

◇学年

	回答数	割合(%)
小学生	288	60.4
中学生	186	39.0
無回答	3	0.6
回答者総数(%ベース)	477	100.0

回答者学年(総数477、単位%)

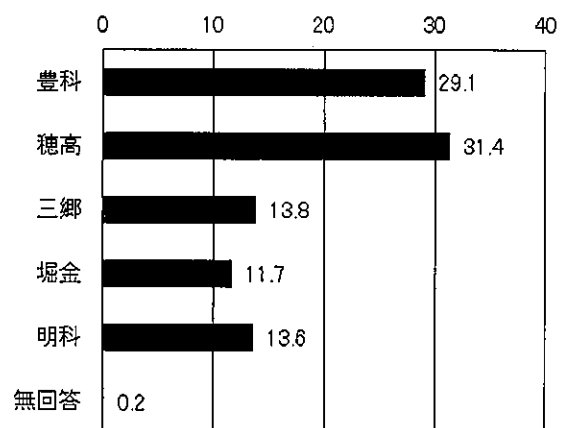


○「小学生」の割合が60.4%、「中学生」が39.0%です。

◇住んでいるところ

	回答数	割合(%)
豊科	139	29.1
穂高	150	31.4
三郷	66	13.8
堀金	56	11.7
明科	65	13.6
無回答	1	0.2
回答者総数(%ベース)	477	100.0

回答者居住地区(総数477、単位%)



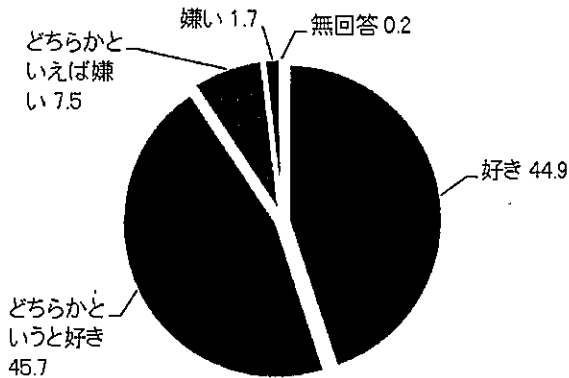
○「穂高」の割合が31.4%で最も高く、次いで「豊科」29.1%、「三郷」13.8%、「明科」13.6%、「堀金」11.7%となっています。

【あなたが本を読むことについておたずねします】(あてはまる番号に1つだけ○を)

問1 あなたは本を読むことが好きですか

	回答数	割合(%)
好き	214	44.9
どちらかという好き	218	45.7
どちらかといえば嫌い	36	7.5
嫌い	8	1.7
無回答	1	0.2
回答者総数(%ベース)	477	100.0

読書の好き・嫌い(総数477、単位%)

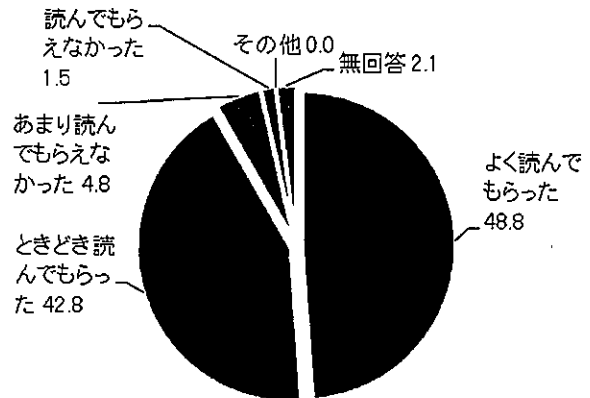


○「どちらかという好き」の割合が45.7%、「好き」が44.9%で、合わせて90.6%が好きと回答しています。これに対し「どちらかといえば嫌い」が7.5%、「嫌い」が1.7%で、合わせて9.2%が嫌いと回答しています。

問2 あなたは、小さいときにだれかに本を読んでもらいましたか

	回答数	割合(%)
よく読んでもらった	233	48.8
ときどき読んでもらった	204	42.8
あまり読んでもらえなかった	23	4.8
読んでもらえなかった	7	1.5
その他	0	0.0
無回答	10	2.1
回答者総数(%ベース)	477	100.0

小さいときだれかに本を読んでもらったか(総数477、単位%)

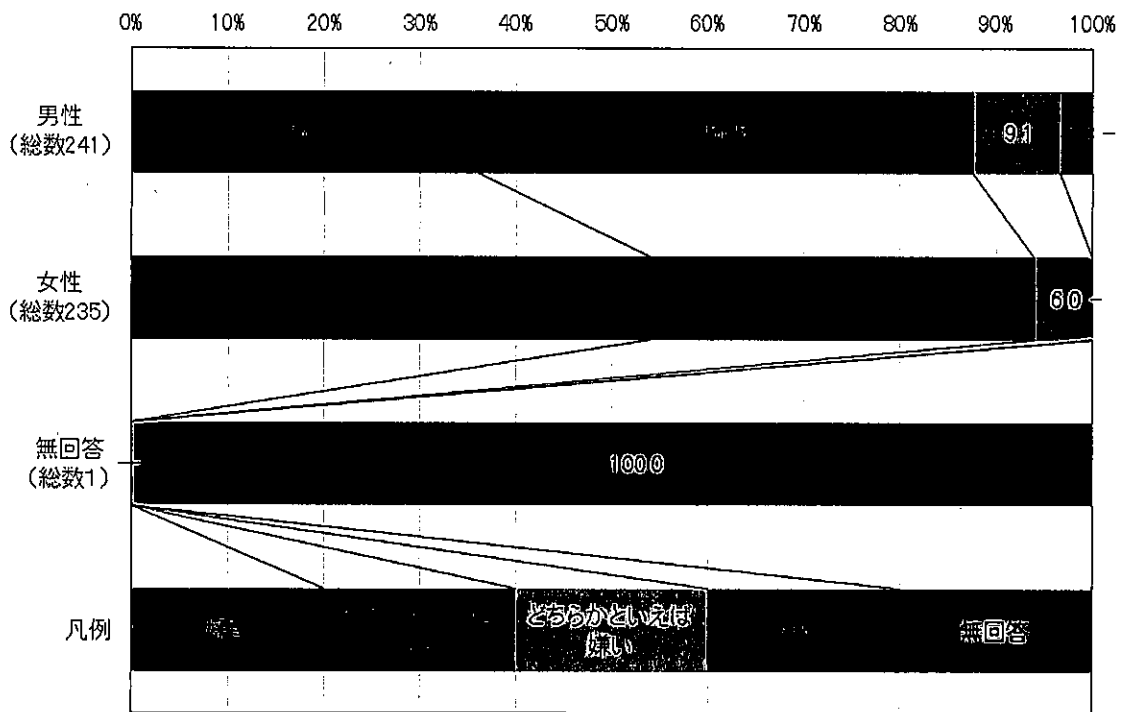


○「よく読んでもらった」の割合が48.8%、「ときどき読んでもらった」が42.8%で、合わせて91.6%が読んでもらったと回答しています。これに対し、「あまり読んでもらえなかった」が4.8%、「読んでもらえなかった」が1.5%で、合わせて6.3%が読んでもらえなかったと回答しています。

男女別●問1 あなたは本を読むことが好きですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	好き	どちらかとい と好き	どちらかとい えは嫌い	嫌い	無回答
全体	477 100.0	214 44.9	218 45.7	36 7.5	8 1.7	1 0.2
男性	241 100.0	87 36.1	124 51.5	22 9.1	8 3.3	0 0.0
女性	235 100.0	127 54.0	94 40.0	14 6.0	0 0.0	0 0.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

男女別●読書の好き嫌い

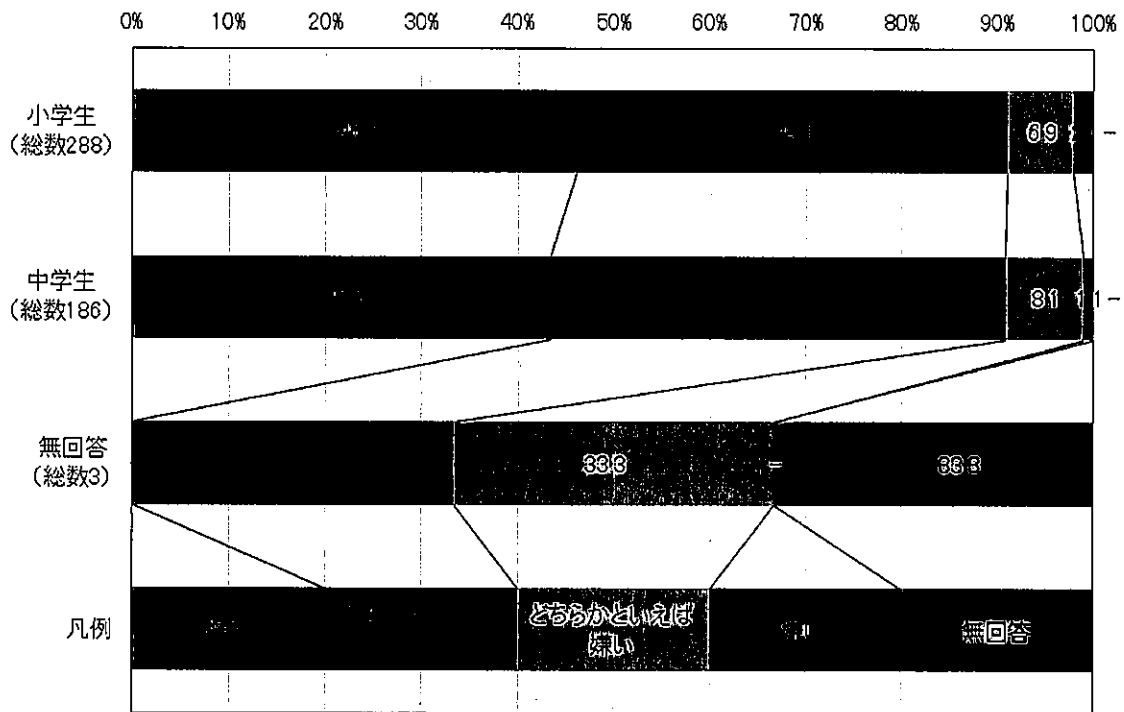


○「好き」の割合は、「男性」より「女性」が約18ポイント、「好き」「どちらかというと好き」を合わせると、「男性」より「女性」が6.4ポイント高くなっています。「男性」では、「嫌い」が3.3%みられます。

学年別●問1 あなたは本を読むことが好きですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	好き	どちらかとい と好き	どちらかとい えば嫌い	嫌い	無回答
全体	477 100.0	214 44.9	218 45.7	36 7.5	8 1.7	1 0.2
小学生	288 100.0	133 46.2	129 44.8	20 6.9	6 2.1	0 0.0
中学生	186 100.0	81 43.5	88 47.3	15 8.1	2 1.1	0 0.0
無回答	3 100.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3

男女別●読書の好き嫌い

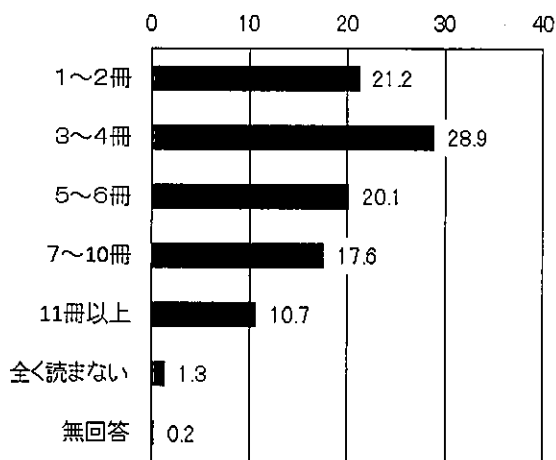


○「好き」の割合は、「中学生」が「小学生」より2.7ポイント低くなっていますが、「好き」「どちらかといえば好き」を合わせると、ほぼ同じ割合です。

問3 あなたは、本を1か月間にだいたい何冊くらい読みますか

	回答数	割合(%)
1～2冊	101	21.2
3～4冊	138	28.9
5～6冊	96	20.1
7～10冊	84	17.6
11冊以上	51	10.7
全く読まない	6	1.3
無回答	1	0.2
回答者総数(%ベース)	477	100.0

1か月の読書冊数(総数477、単位%)

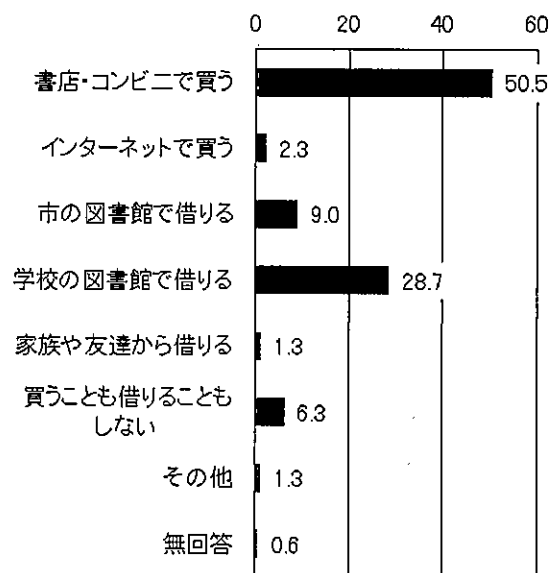


○「3～4冊」の割合が28.9%で最も高く、次いで「1～2冊」21.2%、「5～6冊」20.1%などとなっています。

問4 あなたは、本をどのような方法で手に入れていますか

	回答数	割合(%)
書店・コンビニで買う	241	50.5
インターネットで買う	11	2.3
市の図書館で借りる	43	9.0
学校の図書館で借りる	137	28.7
家族や友達から借りる	6	1.3
買うことも借りることもしない	30	6.3
その他	6	1.3
無回答	3	0.6
回答者総数(%ベース)	477	100.0

本の入手方法(総数477、単位%)

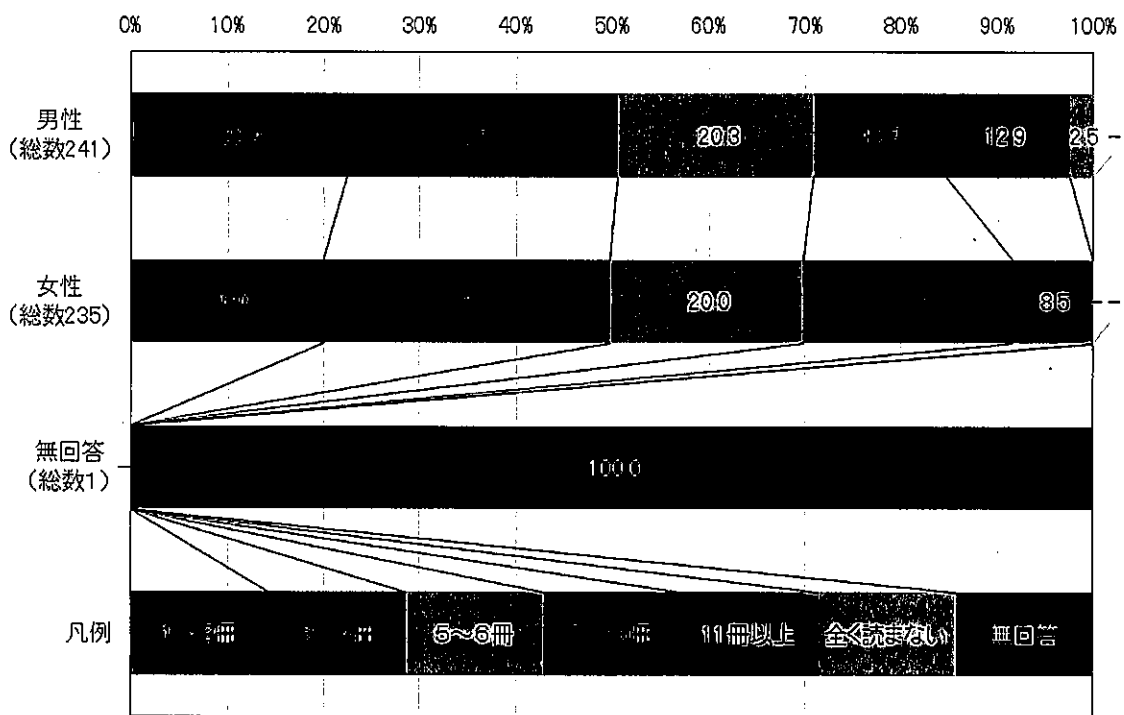


○「書店・コンビニで買う」の割合が50.5%で最も高く、次いで「学校の図書館で借りる」28.7%、「市の図書館で借りる」9.0%などとなっています。

男女別●問3 あなたは、本を1か月間にだいたい何冊くらい読みますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	1~2冊	3~4冊	5~6冊	7~10冊	11冊 以上	全く読ま ない	無回答
全体	477 100.0	101 21.2	138 28.9	96 20.1	84 17.6	51 10.7	6 1.3	1 0.2
男性	241 100.0	54 22.4	68 28.2	49 20.3	33 13.7	31 12.9	6 2.5	0 0.0
女性	235 100.0	47 20.0	70 29.8	47 20.0	51 21.7	20 8.5	0 0.0	0 0.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

男女別●1ヶ月の読書冊数



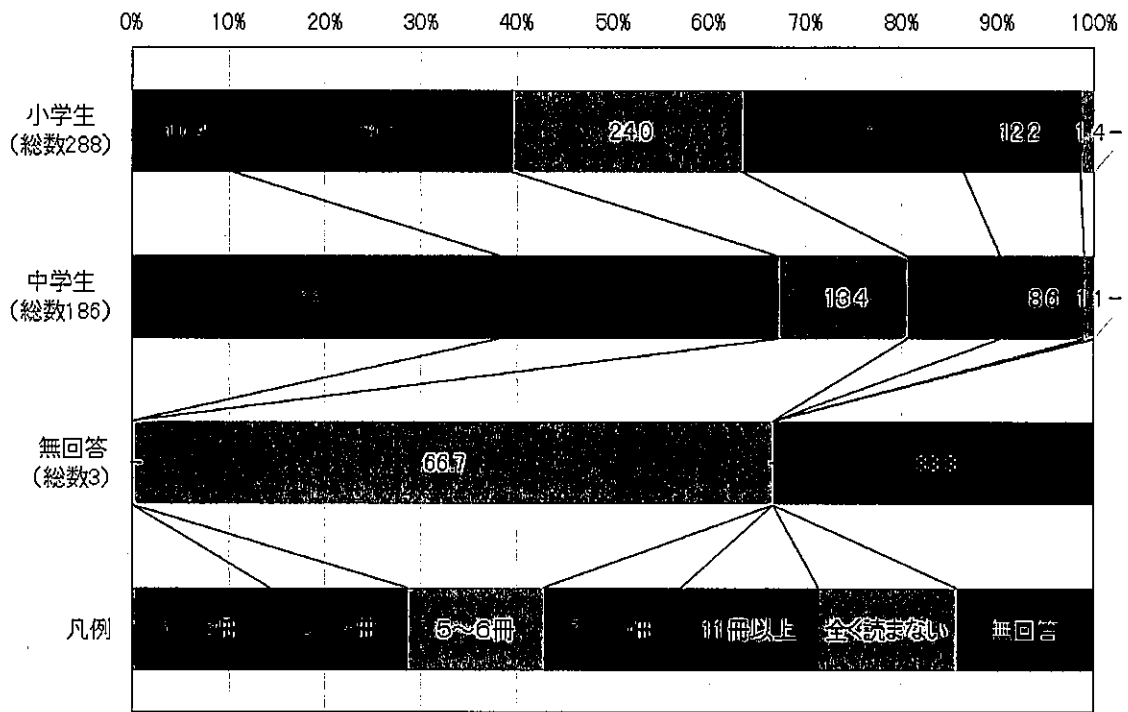
○「1~2冊」から「5~6冊」まで、「男性」「女性」ともほぼ同じ傾向ですが、「7~10冊」の割合では、「女性」が「男性」より8ポイント高くなっています。「全く読まない」が「男性」では2.5%みられます。



学年別●問3 あなたは、本を1か月間にだいたい何冊くらい読みますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	1~2冊	3~4冊	5~6冊	7~10冊	11冊以上	全く読まない	無回答
全体	477 100.0	101 21.2	138 28.9	96 20.1	84 17.6	51 10.7	6 1.3	1 0.2
小学生	288 100.0	30 10.4	84 29.2	69 24.0	66 22.9	35 12.2	4 1.4	0 0.0
中学生	186 100.0	71 38.2	54 29.0	25 13.4	18 9.7	16 8.6	2 1.1	0 0.0
無回答	3 100.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3

学年別●1ヶ月の読書冊数

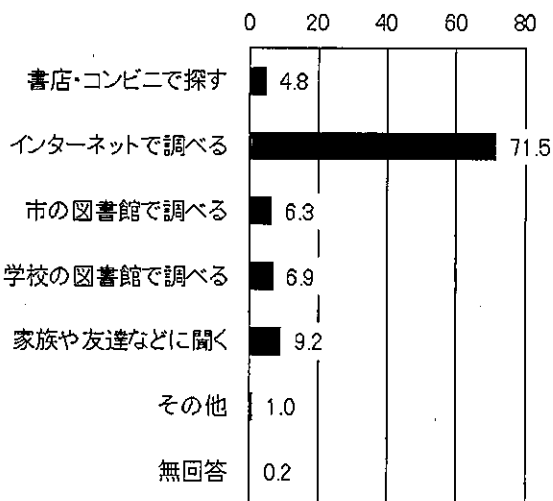


○「中学生」では「1~2冊」の割合が大きく増え、その分、とくに「5~6冊」と「7~10冊」で大きく減っています。

問5 あなたは、知りたいことがある時、どのような方法で調べますか

	回答数	割合(%)
書店・コンビニで探す	23	4.8
インターネットで調べる	341	71.5
市の図書館で調べる	30	6.3
学校の図書館で調べる	33	6.9
家族や友達などに聞く	44	9.2
その他	5	1.0
無回答	1	0.2
回答者総数(%ベース)	477	100.0

知りたい情報の入手方法(総数477、単位%)

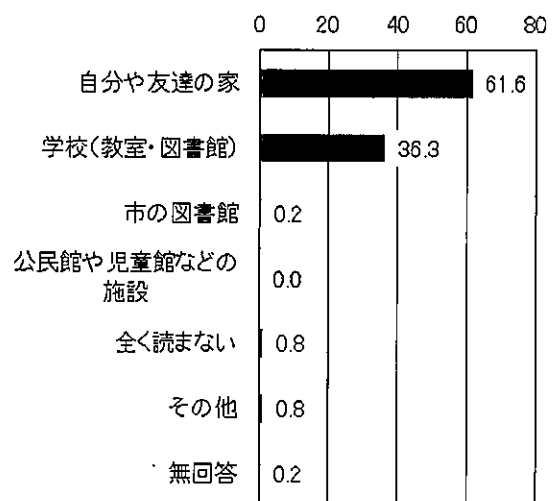


○「インターネットで調べる」の割合が71.5%で最も高く、次いで「家族や友達などに聞く」9.2%、「学校の図書館で調べる」6.9%などとなっています。

問6 あなたは、どこで本を読んでいますか

	回答数	割合(%)
自分や友達の家	294	61.6
学校(教室・図書館)	173	36.3
市の図書館	1	0.2
公民館や児童館などの施設	0	0.0
全く読まない	4	0.8
その他	4	0.8
無回答	1	0.2
回答者総数(%ベース)	477	100.0

読書する場所(総数477、単位%)



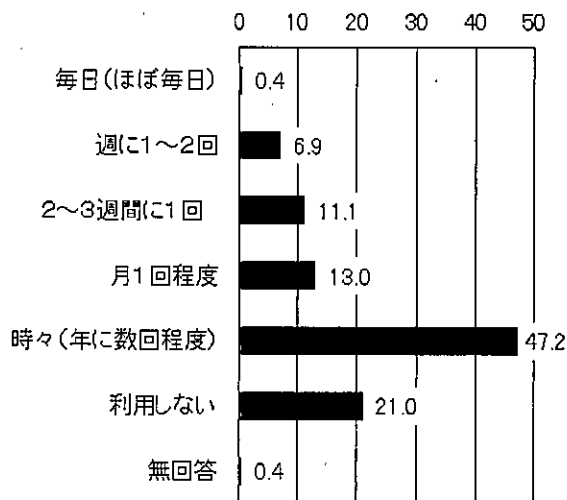
○「自分や友達の家」の割合が61.6%で最も高く、次いで「学校(教室・図書館)」が36.3%などとなっています。それ以外の場所での読書の割合は極めて低くなっています。

【あなたの市の図書館利用についておたずねします】(あてはまる番号に1つだけ○を)

問7 普段、市の図書館をどのくらい利用(来館)していますか

	回答数	割合(%)
毎日(ほぼ毎日)	2	0.4
週に1~2回	33	6.9
2~3週間に1回	53	11.1
月1回程度	62	13.0
時々(年に数回程度)	225	47.2
利用しない	100	21.0
無回答	2	0.4
回答者総数(%ベース)	477	100.0

市の図書館の利用頻度(総数477、単位%)

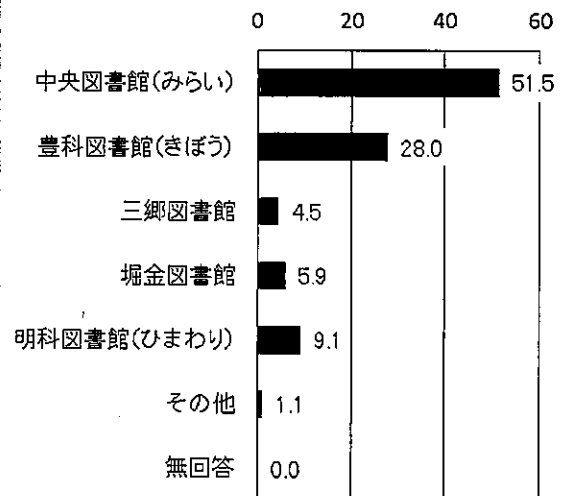


○「時々(年に数回程度)」の割合が47.2%で最も高く、次いで「利用しない」21.0%、「月に1回程度」13.0%などとなっています。

問8 普段、よく利用している市の図書館はどこですか

	回答数	割合(%)
中央図書館(みらい)	193	51.5
豊科図書館(きぼう)	105	28.0
三郷図書館	17	4.5
堀金図書館	22	5.9
明科図書館(ひまわり)	34	9.1
その他	4	1.1
無回答	0	0.0
回答者総数(%ベース)	375	100.0

よく利用する市の図書館(総数375、単位%)

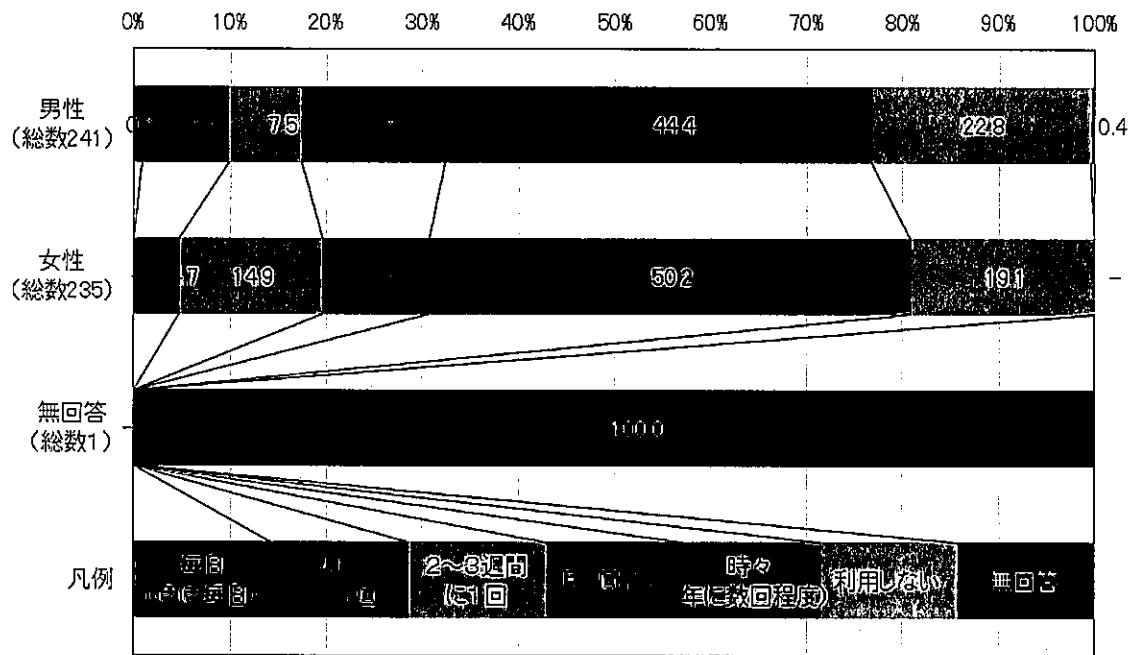


○「中央図書館(みらい)」の割合が51.5%で最も高く、次いで「豊科図書館(きぼう)」28.0%、「明科図書館(ひまわり)」9.1%などとなっています。

男女別●問7 普段、市の図書館をどのくらい利用(来館)していますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	毎日(ほ ぼ毎日)	週に 1~2回	2~3週間 に1回	月1回 程度	時々(年 に数回程 度)	利用 しない	無回答
全体	477 100.0	2 0.4	33 6.9	53 11.1	62 13.0	225 47.2	100 21.0	2 0.4
男性	241 100.0	2 0.8	22 9.1	18 7.5	36 14.9	107 44.4	55 22.8	1 0.4
女性	235 100.0	0 0.0	11 4.7	35 14.9	26 11.1	118 50.2	45 19.1	0 0.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

男女別●来館の頻度

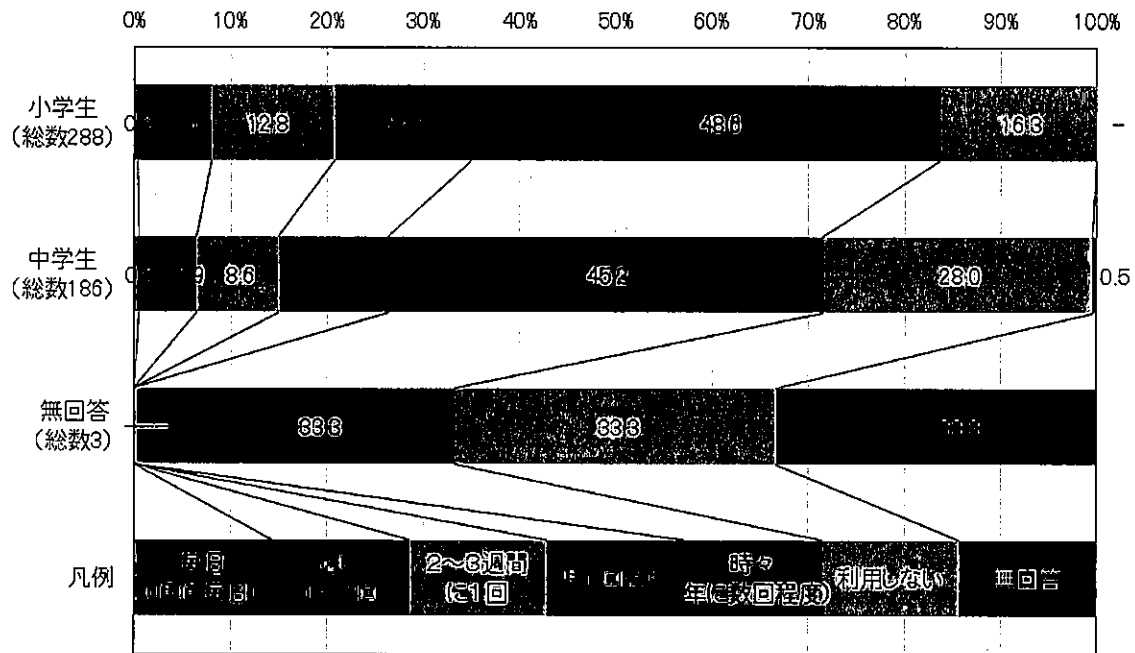


○「毎日」および「週に1~2回」合わせると、「男性」のほうが「女性」より約5ポイント高く、一方、「2~3週間に1回」では「女性」のほうが7.4ポイント、「月に1回程度」では「男性」のほうが3.8ポイント高くなっています。また、「利用しない」は「男性」のほうが3.7ポイント高くなっています。

学年別●問7 普段、市の図書館をどのくらい利用(来館)していますか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	毎日(ほ ぼ毎日)	週に 1~2回	2~3週間 に1回	月1回程 度	時々 (年に数 回程度)	利用 しない	無回答
全体	477 100.0	2 0.4	33 6.9	53 11.1	62 13.0	225 47.2	100 21.0	2 0.4
小学生	288 100.0	1 0.3	22 7.6	37 12.8	41 14.2	140 48.6	47 16.3	0 0.0
中学生	186 100.0	1 0.5	11 5.9	16 8.6	21 11.3	84 45.2	52 28.0	1 0.5
無回答	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3

学年別●来館の頻度

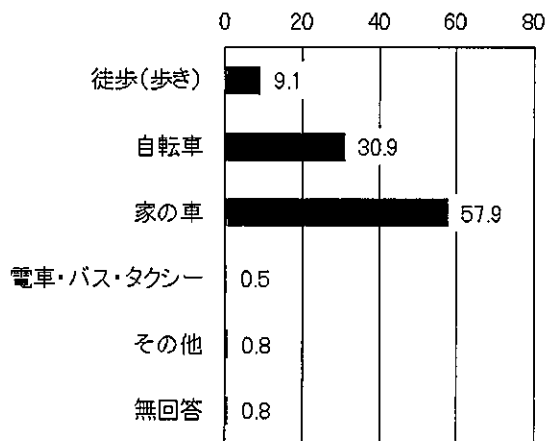


○全体的に「中学生」より「小学生」のほうが頻度は高くなっています。「毎日」「週に1~2回」「2~3週に1回」を合わせると、「小学生」の20.7%に対し「中学生」15.0%となっています。「利用しない」が「中学生」では大きく増えています。

問9 どのような方法で市の図書館に行きますか

	回答数	割合(%)
徒歩(歩き)	34	9.1
自転車	116	30.9
家の車	217	57.9
電車・バス・タクシー	2	0.5
その他	3	0.8
無回答	3	0.8
回答者総数(%ベース)	375	100.0

市の図書館への来館手段(総数375、単位%)

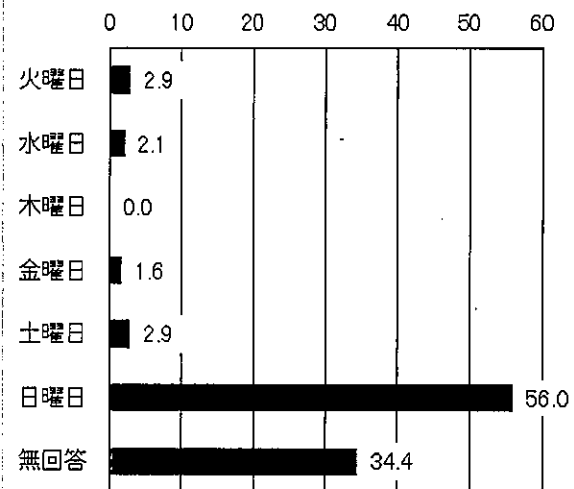


○「家の車」の割合が57.9%で最も高く、次いで「自転車」30.9%、「徒歩(歩き)」9.1%などとなっています。

問10 よく利用する曜日は何曜日ですか

	回答数	割合(%)
火曜日	11	2.9
水曜日	8	2.1
木曜日	0	0.0
金曜日	6	1.6
土曜日	11	2.9
日曜日	210	56.0
無回答	129	34.4
回答者総数(%ベース)	375	100.0

よく利用する曜日(総数375、単位%)

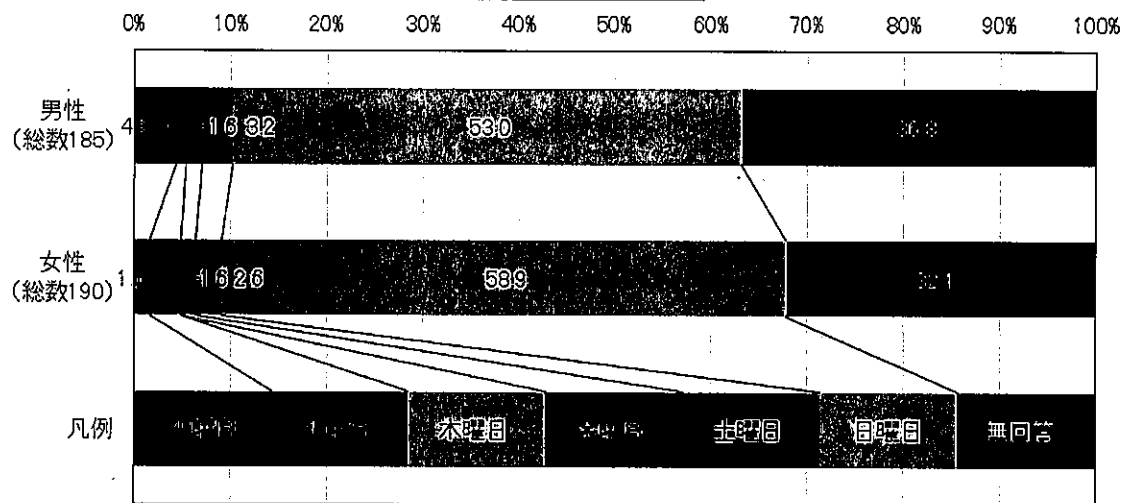


○「日曜日」の割合が56.0%で最も高く、次いで「火曜日」と「土曜日」がともに2.9%などとなっています。

男女別●問 10 よく利用する曜日は何曜日ですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	無回答
全体	375 100.0	11 2.9	8 2.1	0 0.0	6 1.6	11 2.9	210 56.0	129 34.4
男性	185 100.0	8 4.3	2 1.1	0 0.0	3 1.6	6 3.2	98 53.0	68 36.8
女性	190 100.0	3 1.6	6 3.2	0 0.0	3 1.6	5 2.6	112 58.9	61 32.1
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

男女別●よく利用する曜日

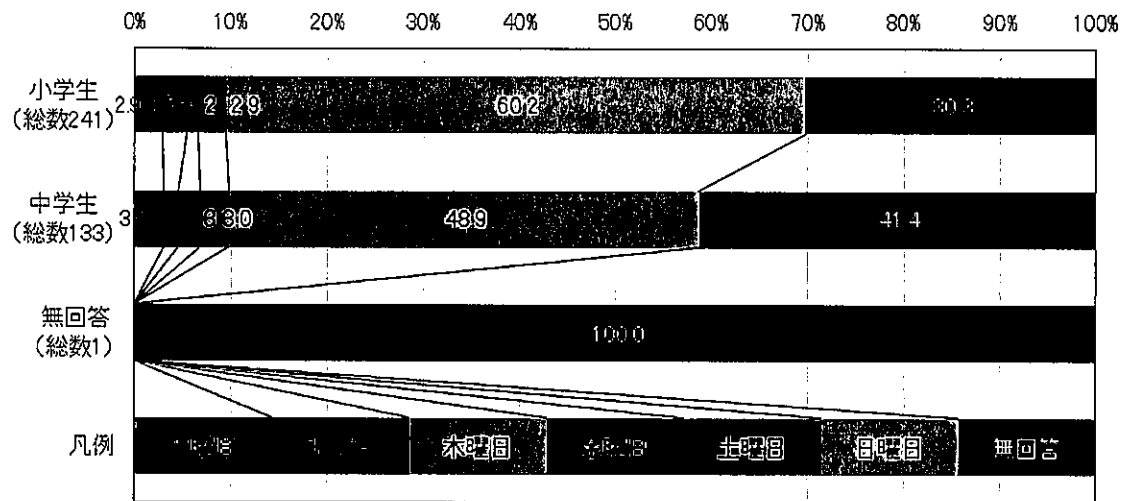


○「日曜日」の割合では、「男性」より「女性」が5.9ポイント高くなっています。

学年別●問 10 よく利用する曜日は何曜日ですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	無回答
全体	375 100.0	11 2.9	8 2.1	0 0.0	6 1.6	11 2.9	210 56.0	129 34.4
小学生	241 100.0	7 2.9	6 2.5	0 0.0	3 1.2	7 2.9	145 60.2	73 30.3
中学生	133 100.0	4 3.0	2 1.5	0 0.0	3 2.3	4 3.0	65 48.9	55 41.4
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

男女別●よく利用する曜日



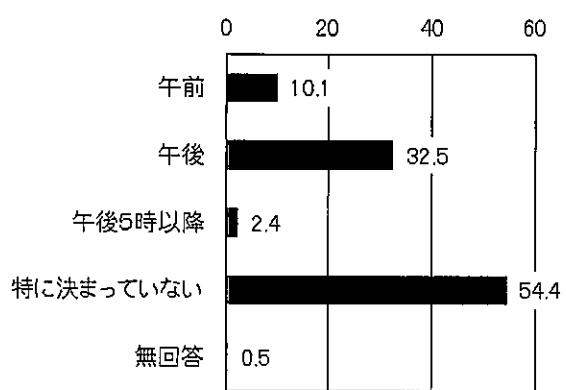
○「日曜日」の割合では、「小学生」が「中学生」より11.3ポイント高くなっています。



問11 よく利用する時間帯はいつですか

	回答数	割合(%)
午前	38	10.1
午後	122	32.5
午後5時以降	9	2.4
特に決まっていない	204	54.4
無回答	2	0.5
回答者総数(%ベース)	375	100.0

よく利用する時間帯(総数375、単位%)

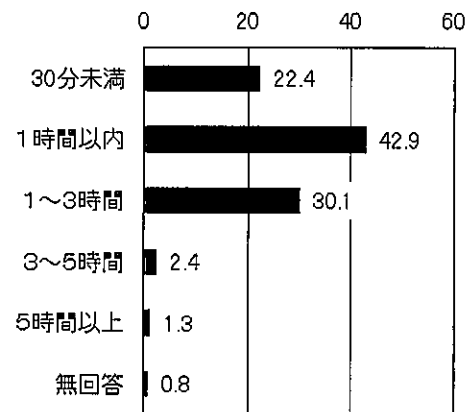


○「特に決まっていない」の割合が54.4%、で最も高く、次いで「午後」32.5%、「午前」10.1%などとなっています。

問12 市の図書館にどのくらいの時間いますか

	回答数	割合(%)
30分未満	84	22.4
1時間以内	161	42.9
1～3時間	113	30.1
3～5時間	9	2.4
5時間以上	5	1.3
無回答	3	0.8
回答者総数(%ベース)	375	100.0

市の図書館での滞在時間(総数375、単位%)

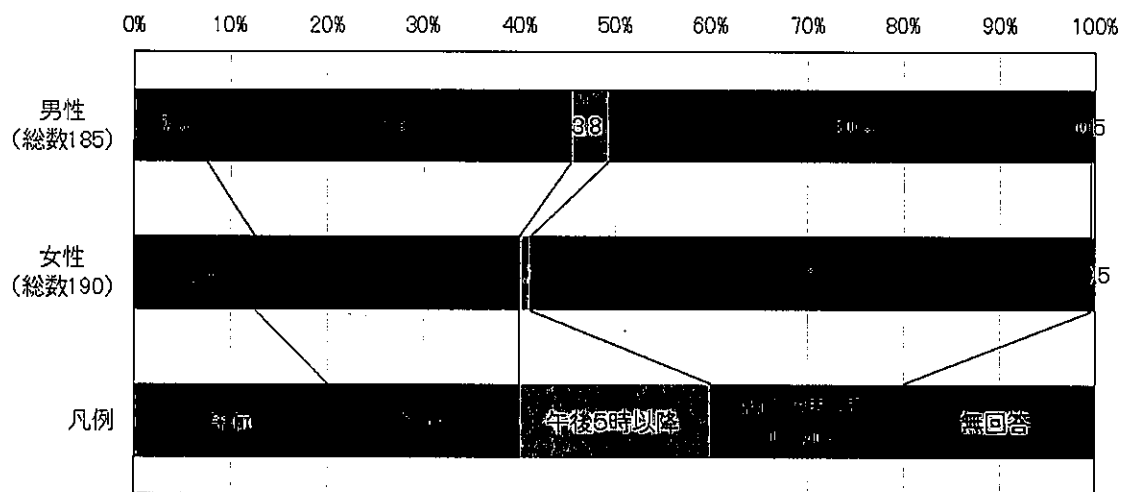


○「1時間以内」の割合が42.9%で最も高く、次いで「1～3時間」30.1%、「30分未満」22.4%などとなっています。

男女別●問 11 よく利用する時間帯はいつですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	午前	午後	午後5時以降	特に決まってい ない	無回答
全体	375 100.0	38 10.1	122 32.5	9 2.4	204 54.4	2 0.5
男性	185 100.0	14 7.6	70 37.8	7 3.8	93 50.3	1 0.5
女性	190 100.0	24 12.6	52 27.4	2 1.1	111 58.4	1 0.5
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

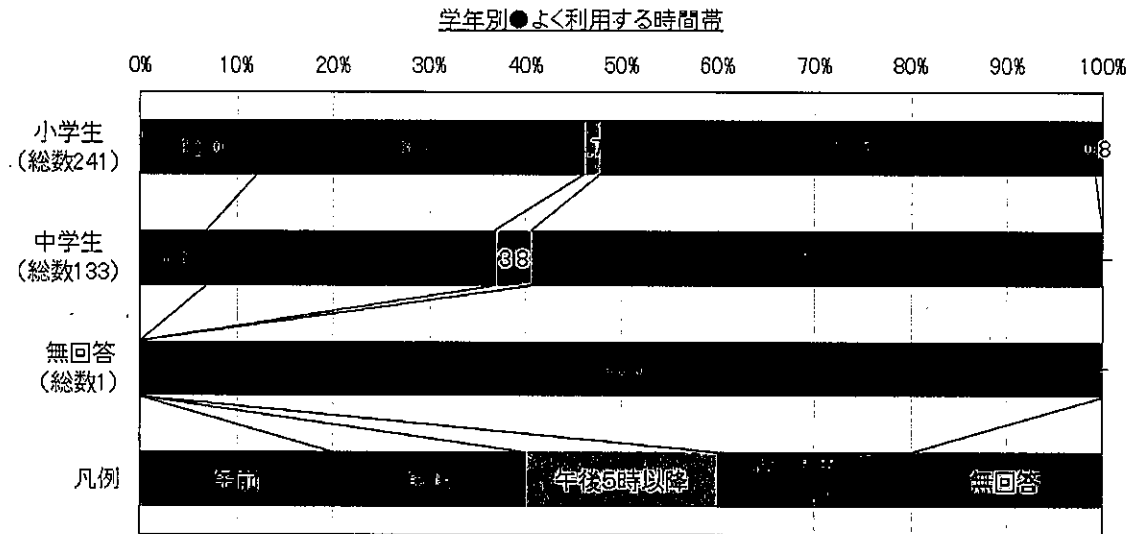
男女別●よく利用する時間帯



○「午後」の割合は「男性」のほうが高く、「午前」および「特に決まっていな」割合は「女性」のほうが高くなっています。

学年別●問 11 よく利用する時間帯はいつですか

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	午前	午後	午後5時以降	特に決まってい ない	無回答
全体	375 100.0	38 10.1	122 32.5	9 2.4	204 54.4	2 0.5
小学生	241 100.0	29 12.0	82 34.0	4 1.7	124 51.5	2 0.8
中学生	133 100.0	9 6.8	40 30.1	5 3.8	79 59.4	0 0.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

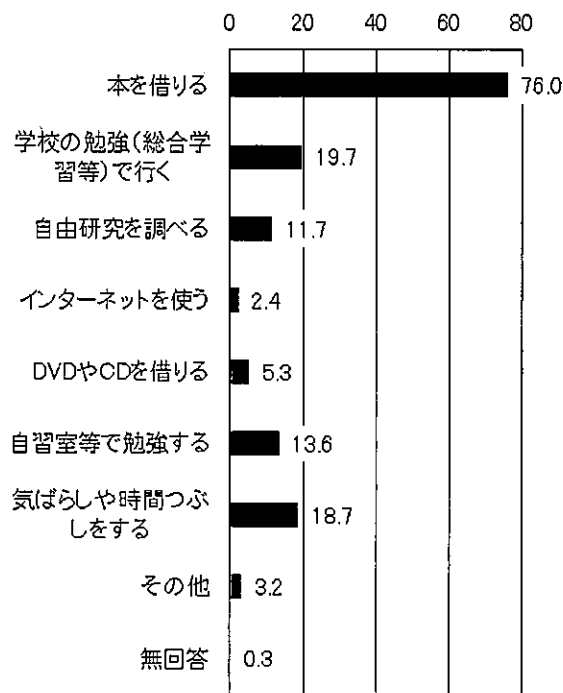


○「特に決まっていない」割合は「中学生」のほうが高く、また「午前」は「小学生」のほうが高くなっています。

問13 なののために市の図書館を利用していますか(2つまで)

	回答数	割合(%)
本を借りる	285	76.0
学校の勉強(総合学習等)で行く	74	19.7
自由研究を調べる	44	11.7
インターネットを使う	9	2.4
DVDやCDを借りる	20	5.3
自習室等で勉強する	51	13.6
気ばらしや時間つぶしをする	70	18.7
その他	12	3.2
無回答	1	0.3
回答者総数(%ベース)	375	100.0

図書館を利用する目的  
(総数375、2つまで複数回答、単位%)

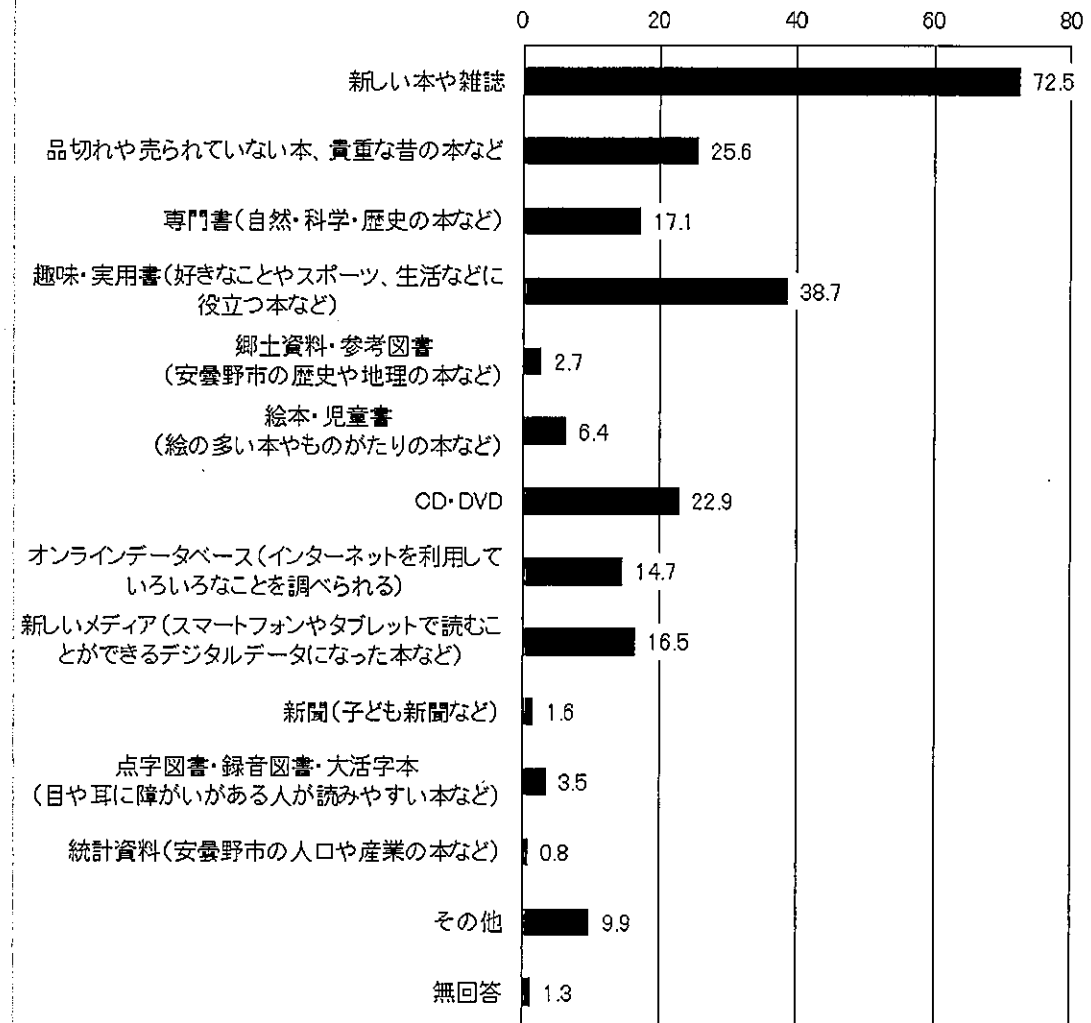


○「本を借りる」の割合が76.0%で最も高く、次いで「学校の勉強(総合学習等)で行く」19.7%、「気ばらしや時間つぶしをする」18.7%などとなっています。

問14 図書館で増やしてほしい図書資料はなんですか(3つまで)

	回答数	割合(%)
新しい本や雑誌	272	72.5
品切れや売られていない本、貴重な昔の本など	96	25.6
専門書(自然・科学・歴史の本など)	64	17.1
趣味・実用書(好きなことやスポーツ、生活などに役立つ本など)	145	38.7
郷土資料・参考図書(安曇野市の歴史や地理の本など)	10	2.7
絵本・児童書(絵の多い本やものがたりの本など)	24	6.4
CD・DVD	86	22.9
オンラインデータベース(インターネットを利用していろいろなことを調べられる)	55	14.7
新しいメディア(スマートフォンやタブレットで読むことができるデジタルデータになった本など)	62	16.5
新聞(子ども新聞など)	6	1.6
点字図書・録音図書・大活字本(目や耳に障がいがある人が読みやすい本など)	13	3.5
統計資料(安曇野市の人口や産業の本など)	3	0.8
その他	37	9.9
無回答	5	1.3
回答者総数(%ベース)	375	100.0

図書館で増やしてほしい図書資料(総数375、3つまで複数回答、単位%)

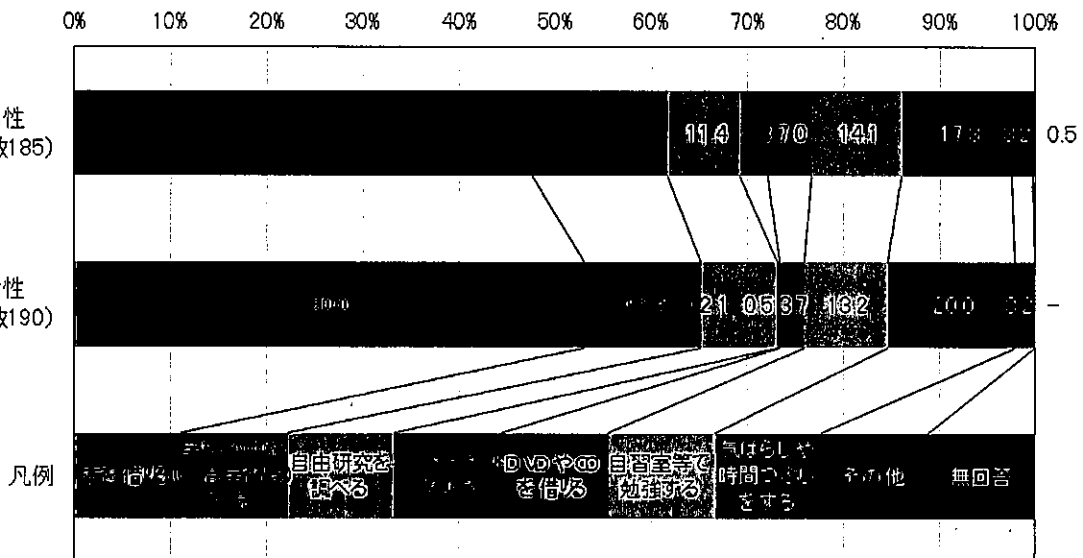


○「新しい本や雑誌」の割合が72.5%で最も高く、次いで「趣味・実用書(好きなことやスポーツ、生活などに役立つ本など)」38.7%、「品切れや売られていない本、貴重な昔の本など」25.6%などとなっています。

男女別●問 13 なんのために市の図書館を利用していますか（2つまで）

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	本を借 りる	学校 の勉 強 (総 合 習 で 行 く)	自 由 研 究 を 調 べ る	イン タ ー ネ ッ ト を 使 う	DVD や CD を 借 り る	自 習 室 等 で 勉 強 す る	気 ば ら し や 時 間 つ ぶ し を す る	そ の 他	無 回 答
全体	375 100.0	285 76.0	74 19.7	44 11.7	9 2.4	20 5.3	51 13.6	70 18.7	12 3.2	1 0.3
男性	185 100.0	133 71.9	39 21.1	21 11.4	8 4.3	13 7.0	26 14.1	32 17.3	6 3.2	1 0.5
女性	190 100.0	152 80	35 18	23 12	1 1	7 4	25 13	38 20	6 3	0 0
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

男女別●図書館利用の目的

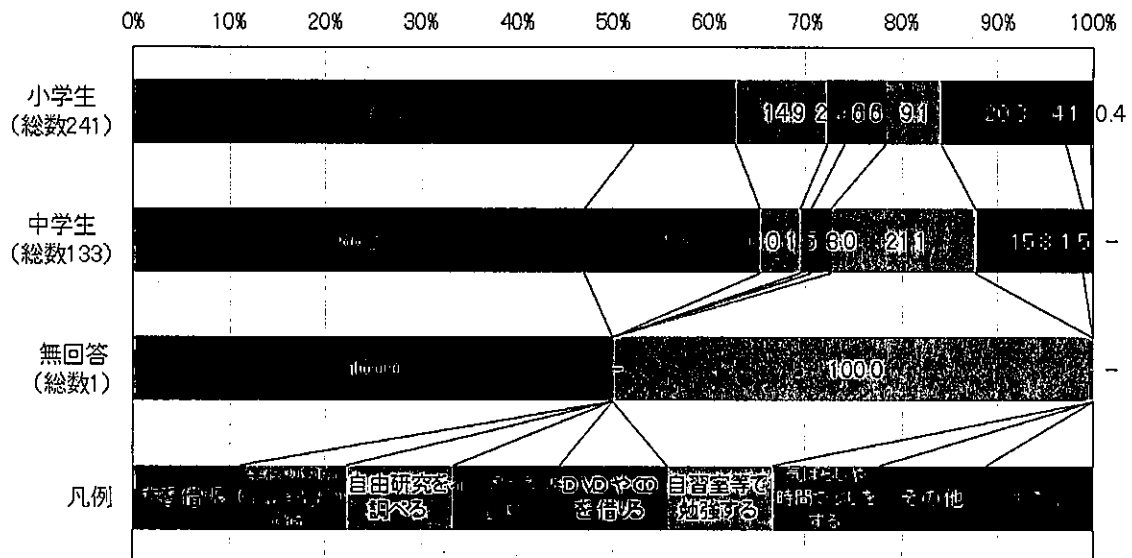


○「本を借りる」割合は、「女性」のほうが「男性」より約8ポイント高くなっています。

学年別●問 13 なんのために市の図書館を利用していますか（2つまで）

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	本を借 りる	学校 の勉 強 (総 合 学 習 等) で 行 く	自 由 研 究 を 調 べ る	イン タ ー ネ ッ ト を 使 う	DVD や CD を 借 り る	自 習 室 等 で 勉 強 す る	気 ば ら し や 時 間 つ ぶ し を す る	そ の 他	無 回 答
全体	375 100.0	285 76.0	74 19.7	44 11.7	9 2.4	20 5.3	51 13.6	70 18.7	12 3.2	1 0.3
小学生	241 100.0	196 81.3	40 16.6	36 14.9	7 2.9	16 6.6	22 9.1	49 20.3	10 4.1	1 0.4
中学生	133 100.0	88 66.2	34 25.6	8 6.0	2 1.5	4 3.0	28 21.1	21 15.8	2 1.5	0 0.0
無回答	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

学年別●図書館利用の目的



○「学校の勉強(総合学習等)で行く」割合が9ポイント、「自習室等で勉強する」割合が12ポイント、「中学生」が「小学生」より高くなっています。「本を借りる」割合は、「中学生」が「小学生」より約15ポイント下がっています。

男女別●問 14 図書館で増やしてほしい図書資料はなんですか (3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	新しい本 や雑誌	品切れや 売られて いない 本、貴重 な昔の本 など	専門書 (自然・科 学・歴史 の本 など)	趣味・実 用書(好 きなこ とやス ポーツ 、生活 などに 役立つ 本など)	郷土資 料・参 考図書 (安曇 野市の 歴史や 地理の 本など)	絵本・児 童書(絵 の多い 本やも のがた りの本 など)	CD・DVD
全体	375 100.0	272 72.5	96 25.6	64 17.1	145 38.7	10 2.7	24 6.4	86 22.9
男性	185 100.0	120 64.9	47 25.4	32 17.3	77 41.6	5 2.7	7 3.8	45 24.3
女性	190 100.0	152 80.0	49 25.8	32 16.8	68 35.8	5 2.6	17 8.9	41 21.6
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
上段:回答数 下段:割合(%)	オンラインデ ータベース (インター ネットを 利用して いろいろ なことを 調べられ る)	新しいメ ディア(ス martフォ ンやタブ レットで 読むこと ができる デジタル データに なった本 など)	新聞(子 ども新聞 など)	点字図 書・録音 図書・大 活字本 (目や耳 に障がい がある人 が読みや すい本 など)	統計資料 (安曇野 市の人口 や産業の 本など)	その他	無回答	
全体	55 14.7	62 16.5	6 1.6	13 3.5	3 0.8	37 9.9	5 1.3	
男性	34 18.4	41 22.2	2 1.1	4 2.2	1 0.5	22 11.9	4 2.2	
女性	21 11.1	21 11.1	4 2.1	9 4.7	2 1.1	15 7.9	1 0.5	
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

○「新しい本や雑誌」では、「女性」が「男性」より高く、「趣味・実用書(好きなことやスポーツ、生活などに役立つ本など)」では、「男性」が「女性」より高くなっています。また、「オンラインデータベース(インターネットを利用していろいろなことを調べられる)」と「新しいメディア(スマートフォンやタブレットで読むことができるデジタルデータになった本など)」では、ともに「男性」のほうが高くなっています。



学年別●問 14 図書館で増やしてほしい図書資料はなんですか (3つまで)

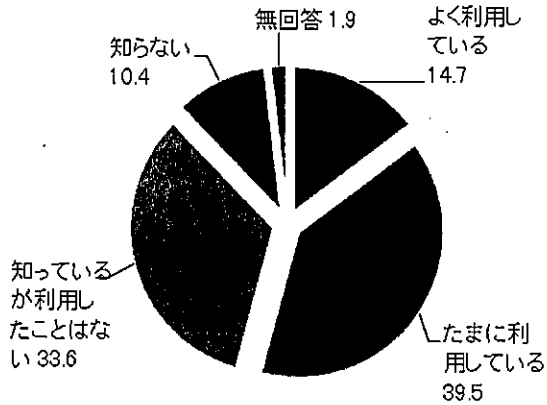
上段:回答数 下段:割合(%)	合計	新しい本 や雑誌	品切れや 売られて いない 本、貴重 な昔の本 など	専 門 書 (自然・科 学・歴史 の本など)	趣味・実 用書(好き なことやス ポーツ、 生活など に役立つ 本など)	郷 土 資 料・参 考 図 書(安 曇野市の 歴史や地 理の本な ど)	絵 本・児 童 書(絵 の多い本 やものが たりの本 など)	CD・DVD
全体	375 100.0	272 72.5	96 25.6	64 17.1	145 38.7	10 2.7	24 6.4	86 22.9
小学生	241 100.0	163 67.6	70 29.0	45 18.7	86 35.7	6 2.5	22 9.1	54 22.4
中学生	133 100.0	108 81.2	26 19.5	18 13.5	59 44.4	4 3.0	2 1.5	32 24.1
無回答	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
上段:回答数 下段:割合(%)	オンライン データベ ース(イン ターネット を利用し ていろい ろなことを 調べられ る)	新しいメデ ィア(スマ ートフォ ンやタブ レットで 読むこと ができる デジタル データに なった本 など)	新聞(子 ども新聞 など)	点 字 図 書・録音 図 書・大 活 字 本 (目や耳 に障がい がある人 が読みや すい本な ど)	統計資料 (安曇野 市の人口 や産業の 本など)	その他	無回答	
全体	55 14.7	62 16.5	6 1.6	13 3.5	3 0.8	37 9.9	5 1.3	
小学生	30 12.4	42 17.4	5 2.1	11 4.6	2 0.8	29 12.0	2 0.8	
中学生	24 18.0	20 15.0	1 0.8	2 1.5	1 0.8	8 6.0	3 2.3	
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

○「新しい本や雑誌」と「趣味・実用書(好きなことやスポーツ、生活などに役立つ本など)」では、ともに「中学生」のほうが「小学生」より高くなっています。また、「小学生」では「品切れや売られていない本、貴重な昔の本など」の割合も高くなっています。

問16 図書館のインターネット検索について

	回答数	割合(%)
よく利用している	55	14.7
たまに利用している	148	39.5
知っているが利用したことはない	126	33.6
知らない	39	10.4
無回答	7	1.9
回答者総数(%ベース)	375	100.0

図書館のインターネット検索の利用度  
(総数375、単位%)

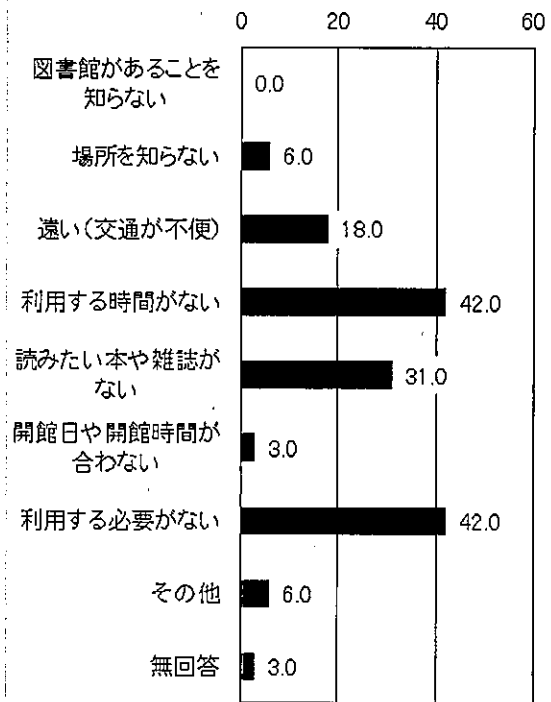


○「たまに利用している」の割合が39.5%、「よく利用している」が14.7%、合わせて54.2%が利用していると回答しています。これに対し、「知っているが利用したことはない」が33.6%、「知らない」が10.4%です。

問17 問7で「利用しない」と答えた人にお聞きします。利用されないのは、なぜですか(該当する全てに○を)

	回答数	割合(%)
図書館があることを知らない	0	0.0
場所を知らない	6	6.0
遠い(交通が不便)	18	18.0
利用する時間がない	42	42.0
読みたい本や雑誌がない	31	31.0
開館日や開館時間が合わない	3	3.0
利用する必要がある	42	42.0
その他	6	6.0
無回答	3	3.0
回答者総数(%ベース)	100	100.0

図書館を利用しない理由  
(総数100、複数回答、単位%)



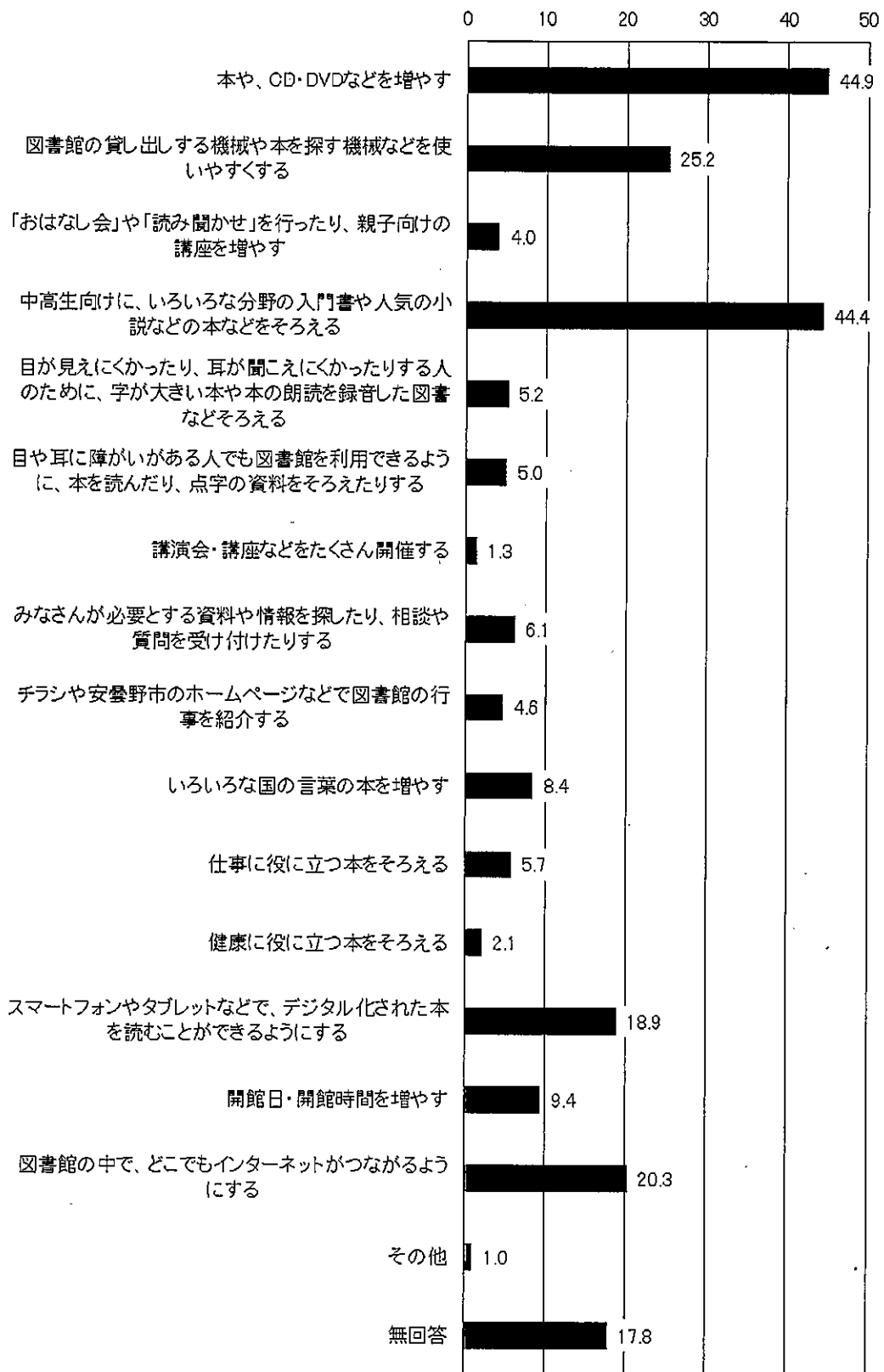
○「利用する必要がある」と「利用する時間がない」の割合が42.0%、「読みたい本や雑誌がない」が31.0%などとなっています。

問18 今後、特に増やしてほしい図書館サービスはなんですか(3つまで)

	回答数	割合(%)
本や、CD・DVDなどを増やす	214	44.9
図書館の貸し出しする機械や本を探す機械などを使いやすくする	120	25.2
「おはなし会」や「読み聞かせ」を行ったり、親子向けの講座を増やす	19	4.0
中高生向けに、いろいろな分野の入門書や人気の小説などの本などをそろえる	212	44.4
目が見えにくかったり、耳が聞こえにくかったりする人のために、字が大きい本や本の朗読を録音した図書などそろえる	25	5.2
目や耳に障がいがある人でも図書館を利用できるように、本を読んだり、点字の資料をそろえたりする	24	5.0
講演会・講座などをたくさん開催する	6	1.3
みなさんが必要とする資料や情報を探したり、相談や質問を受け付けたりする	29	6.1
チラシや安曇野市のホームページなどで図書館の行事を紹介する	22	4.6
いろいろな国の言葉の本を増やす	40	8.4
仕事に役に立つ本をそろえる	27	5.7
健康に役に立つ本をそろえる	10	2.1
スマートフォンやタブレットなどで、デジタル化された本を読むことができるようにする	90	18.9
開館日・開館時間を増やす	45	9.4
図書館の中で、どこでもインターネットがつながるようにする	97	20.3
その他	5	1.0
無回答	85	17.8
回答者総数(%ベース)	477	100.0

○「本や、CD・DVDなどを増やす」の割合が44.9%で最も高く、次いで「中高生向けに、いろいろな分野の入門書や人気の小説などの本などをそろえる」が44.4%、「図書館の貸し出しする機械や本を探す機械などを使いやすくする」が25.2%、「図書館の中で、どこでもインターネットがつながるようにする」が20.3%、「スマートフォンやタブレットなどで、デジタル化された本を読むことができるようにする」が18.9%などとなっています。

図書館で増やしてほしい図書館サービス(総数477、3つまで複数回答、単位%)



男女別●問 18 今後、特に増やしてほしい図書館サービスはなんですか (3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	本や、 CD・DVD などを増 やす	図書館の貸し出しする機械や本を探す機械などを使いやすくする	「おはなし会」や「読み聞かせ」を行ったり、親子向けの講座を増やす	中高生向けに、いろいろな分野の入門書や人気の小説などの本などをそろえる	目が見えにくかったり、耳が聞こえにくかったりする人のために、字が大きい本や本の朗読を録音した図書などをそろえる	目や耳に障がいがある人でも図書館を利用できるように、本を読んだり、点字の資料をそろえたりする	講演会・講座などをたくさん開催する	みなさんが必要とする資料や情報を探したり、相談を受け付けたりする
全体	477 100.0	214 44.9	120 25.2	19 4.0	212 44.4	25 5.2	24 5.0	6 1.3	29 6.1
男性	241 100.0	109 45.2	61 25.3	10 4.1	98 40.7	14 5.8	10 4.1	4 1.7	15 6.2
女性	235 100.0	105 44.7	59 25.1	9 3.8	114 48.5	11 4.7	14 6.0	2 0.9	14 6.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
上段:回答数 下段:割合(%)	チラシや安曇野市のホームページなどで図書館の行事を紹介する	いろいろな国の言葉を増やす	仕事に役立つ本をそろえる	健康に役立つ本をそろえる	スマートフォンやタブレットなどで、デジタル化された本を読むことができるようにする	開館日・開館時間を増やす	図書館の中で、どこでもインターネットがつながるようにする	その他	無回答
全体	22 4.6	40 8.4	27 5.7	10 2.1	90 18.9	45 9.4	97 20.3	5 1.0	85 17.8
男性	8 3.3	15 6.2	16 6.6	3 1.2	49 20.3	20 8.3	58 24.1	3 1.2	49 20.3
女性	14 6.0	25 10.6	11 4.7	7 3.0	41 17.4	25 10.6	39 16.6	2 0.9	35 14.9
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

○「本や、CD・DVDなどを増やす」と「図書館の貸し出しする機械や本を探す機械などを使いやすくする」では、「男性」「女性」の差はほとんどみられません。一方、「中高生向けに、いろいろな分野の入門書や人気の小説などの本などをそろえる」では、「女性」にほうが高くなっています。

学年別●問 18 今後、特に増やしてほしい図書館サービスはなんですか (3つまで)

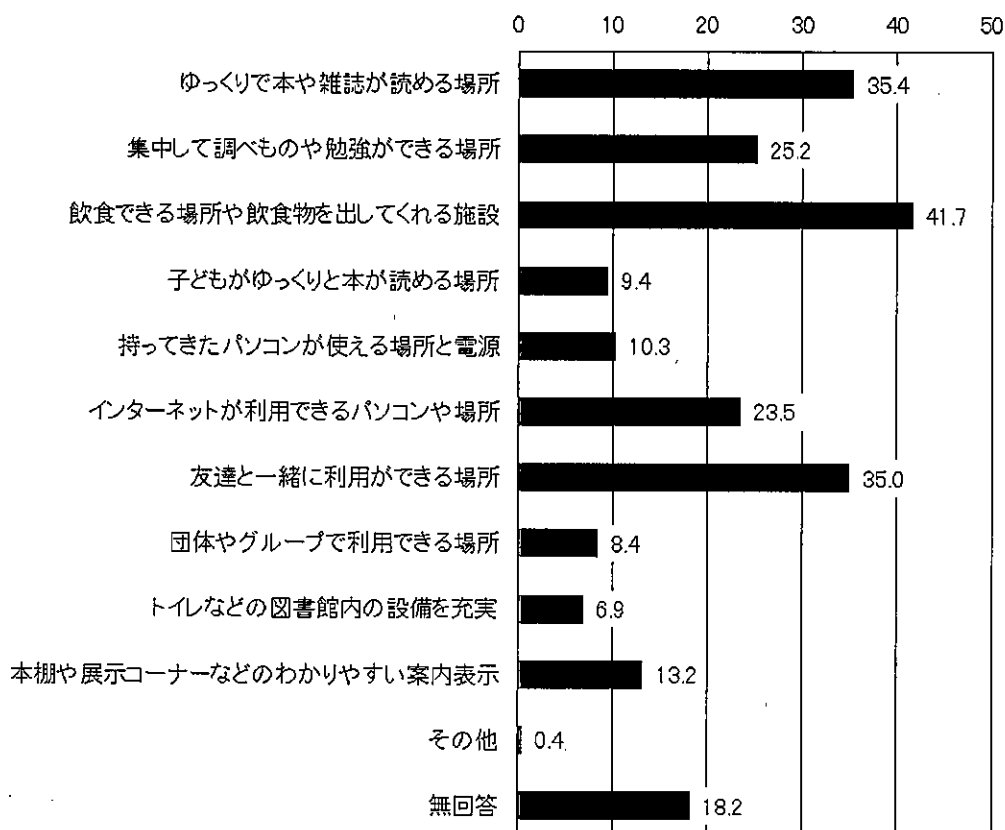
上段:回答数 下段:割合(%)	合計	本や、 CD・DVD などを増 やす	図 書 館 の 貸 出 し する 機 械 や 本 を 探 す 機 械 な ど を 使 い や す く する	「おはな し会」や 「読み聞 かせ」を 行 っ た り、 親 子 向 け の 講 座 を 増 や す	中 高 生 向 け に、 一 ろ い ろ な 分 野 の 入 門 書 や 人 気 の 小 説 な ど の 本 な ど を そ ろ え る	目 が 見 え に く か つ た り、 耳 が 聞 こ え に く か つ た り す る 人 の た め に、 字 が 大 き い 本 や 本 の 朗 読 を 録 音 し た 図 書 な ど そ ろ え る	目 や 耳 に 障 が い が 有 る 人 で も 図 書 館 を 利 用 で き る よ う に、 本 を 読 ん だ り、 点 字 の 資 料 を そ ろ え た り す る	講 演 会・ 講 座 な ど を た く さ ん 開 催 す る	みなさん が 必 要 と す る 資 料 や 情 報 を 探 し た り、 相 談 や 質 問 を 受 け 付 け た り す る
全体	477 100.0	214 44.9	120 25.2	19 4.0	212 44.4	25 5.2	24 5.0	6 1.3	29 6.1
小学生	288 100.0	134 46.5	86 29.9	15 5.2	108 37.5	22 7.6	18 6.3	4 1.4	20 6.9
中学生	186 100.0	79 42.5	33 17.7	4 2.2	104 55.9	3 1.6	6 3.2	2 1.1	9 4.8
無回答	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
上段:回答数 下段:割合(%)	チラシや 安曇野 市のホ ームペ ージな どで図 書館の 行事を 紹介す る	いろい ろな国 の言葉 の本を 増やす	仕 事 に 立 つ 本 を そ ろ え る	健 康 に 立 つ 本 を そ ろ え る	スマー トフ ォン や タ ブレ ット な ど で、 デジ タル 化さ れた 本を 読む こと がで きる よう にす る	開 館 日・ 開 館 時 間 を 増 やす	図 書 館 の 中 で、 ど こ で も イン ター ネッ トが つな がる よう にす る	その他	無回答
全体	22 4.6	40 8.4	27 5.7	10 2.1	90 18.9	45 9.4	97 20.3	5 1.0	85 17.8
小学生	14 4.9	30 10.4	11 3.8	9 3.1	51 17.7	37 12.8	46 16.0	5 1.7	45 15.6
中学生	8 4.3	10 5.4	15 8.1	1 0.5	38 20.4	8 4.3	51 27.4	0 0.0	39 21.0
無回答	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3

○「本や、CD・DVDなどを増やす」と「図書館の貸し出しする機械や本を探す機械などを使いやすくする」では、「小学生」のほう  
がやや高くなっています。一方、「中高生向けに、いろいろな分野の入門書や人気の小説などの本などをそろえる」では「中学  
生」の割合が18.4ポイント高くなっています。

問19 あなたは、図書館の利用スペースについて、なにが欲しいですか(3つまで)

	回答数	割合(%)
ゆっくりで本や雑誌が読める場所	169	35.4
集中して調べものや勉強ができる場所	120	25.2
飲食できる場所や飲食物を出してくれる施設	199	41.7
子どもがゆっくりと本が読める場所	45	9.4
持ってきたパソコンが使える場所と電源	49	10.3
インターネットが利用できるパソコンや場所	112	23.5
友達と一緒に利用ができる場所	167	35.0
団体やグループで利用できる場所	40	8.4
トイレなどの図書館内の設備を充実	33	6.9
本棚や展示コーナーなどのわかりやすい案内表示	63	13.2
その他	2	0.4
無回答	87	18.2
回答者総数(%ベース)	477	100.0

図書館の利用スペースに望むもの(総数477、3つまで複数回答、単位%)



○「飲食できる場所や飲食物を出してくれる施設」の割合が41.7%で最も高く、次いで「ゆっくりで本や雑誌が読める場所」が35.4%、「友達と一緒に利用できる場所」が35.0%、「集中して調べものや勉強ができる場所」が25.2%、「インターネットが利用できるパソコンや場所」が23.5%などとなっています。



男女別●問 19 あなたは、図書館の利用スペースについて、なにが欲しいですか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	ゆっくりで本 や雑誌が読 める場所	集中して調 べものや勉 強ができる 場所	飲食できる 場所や飲食 物を出して くれる施設	子どもがゆ っくりと本が 読める場所	持ってきた パソコンが 使える場所 と電源	インターネッ トが利用で きるパソコン や場所
全体	477 100.0	169 35.4	120 25.2	199 41.7	45 9.4	49 10.3	112 23.5
男性	241 100.0	81 33.6	59 24.5	110 45.6	24 10.0	34 14.1	69 28.6
女性	235 100.0	88 37.4	61 26.0	89 37.9	21 8.9	15 6.4	43 18.3
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
上段:回答数 下段:割合(%)	友達と一緒 に利用がで きる場所	団体やグル ープで利用 できる場所	トイレなど の図書館内 の設備を充 実	本棚や展示 コーナーな どのわかり やすい案内 表示	その他	無回答	
全体	167 35.0	40 8.4	33 6.9	63 13.2	2 0.4	87 18.2	
男性	64 26.6	17 7.1	19 7.9	27 11.2	1 0.4	46 19.1	
女性	103 43.8	23 9.8	14 6.0	36 15.3	1 0.4	40 17.0	
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	

○「飲食できる場所や飲食物を出してくれる施設」では、「男性」のほうが「女性」より高く、「ゆっくりで本や雑誌が読める場所」と「友達と一緒に利用ができる場所」では、「女性」のほうが「男性」より高くなっています。とくに「友達と一緒に利用ができる場所」は「女性」の割合が高くなっています。

学年別●問 19 あなたは、図書館の利用スペースについて、なにが欲しいですか(3つまで)

上段:回答数 下段:割合(%)	合計	ゆっくりで本 や雑誌が読 める場所	集中して調 べものや勉 強ができる 場所	飲食できる 場所や飲食 物を出してく れる施設	子どもがゆ っくりと本が 読める場所	持ってきた パソコンが 使える場所 と電源	インターネッ トが利用で きるパソコン や場所
全体	477 100.0	169 35.4	120 25.2	199 41.7	45 9.4	49 10.3	112 23.5
小学生	288 100.0	111 38.5	55 19.1	120 41.7	36 12.5	25 8.7	63 21.9
中学生	186 100.0	58 31.2	64 34.4	79 42.5	9 4.8	23 12.4	48 25.8
無回答	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3
上段:回答数 下段:割合(%)	友達と一緒 に利用がで きる場所	団体やグル ープで利用 できる場所	トイレなどの 図書館内の 設備を充実	本棚や展示 コーナーな どのわかり やすい案内 表示	その他	無回答	
全体	167 35.0	40 8.4	33 6.9	63 13.2	2 0.4	87 18.2	
小学生	105 36.5	20 6.9	24 8.3	45 15.6	2 0.7	46 16.0	
中学生	60 32.3	20 10.8	9 4.8	18 9.7	0 0.0	40 21.5	
無回答	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	

○「ゆっくりで本や雑誌が読める場所」と「友達と一緒に利用ができる場所」では、ともに「小学生」にほうが「中学生」より高く、「飲食できる場所や飲食物を出してくれる施設」では、「小学生」と「中学生」ほぼ同一です。

## 【総括】

## 1 回答者の読書環境について

## ●1か月の読書冊数

## 【市民・利用者・小中学生で大きな開き】

市民アンケート(以下「市民」)で「1～2冊」の割合が47.2%と最も高かったのに対し、図書館利用者アンケート(以下「利用者」)では「3～4冊」が最も高く27.8%、次いで「5～6冊」が22.4%、また小中学生アンケート(以下「小中学生」)では、「3～4冊」が28.9%で最も高く、次いで「1～2冊」21.2%となっています。

また、「11冊以上」を比較すると、市民の3.8%に対し、利用者19.1%、小中学生10.7%、反対に「全く読まない」では、市民の15.8%に対し、利用者1.5%、小中学生1.3%と大きな開きが見られます。

## 【男性より女性の方が冊数が多い】

男女別で見ると、市民では、「1～2冊」女性が50.5%、男性が42.8%、「全く読まない」男性が20.4%、女性が12.3%で、ともに大きな差が見られます。利用者では、「3～4冊」男性が33.8%、女性では「5～6冊」が24.2%で最も高く、次いで、「11冊以上」が23.3%となっています。小中学生では、全体に大きな差は見られませんが、「7～10冊」で男性13.7%に対し女性21.7%とやや開きが見られます。全体として、男性より女性の方が、読書冊数が多い傾向にあります。

## 【市民・小中学生は年齢が上がるにつれ冊数が減少、利用者では変化なし】

年齢別で見ると、市民では、「18～19歳」以上で「1～2冊」が一貫して最も高く、「60～69歳」では52.7%に達しています。一方利用者では、「20～29歳」以上で「3～4冊」がほぼ一貫して高く、「80歳以上」では60.0%に達しています。小中学生では、「1～2冊」が小学生10.4%に対し中学生38.2%、「7～10冊」で小学生22.9%に対し中学生9.7%と大きな開きが見られ、全体として小学生の方が中学生より読書冊数が多い傾向にあります。

## ●本・雑誌等の入手方法

## 【市民・小中学生は書店かコンビニで購入、利用者は公共図書館で借りる】

市民では「書店・コンビニで買う」割合が66.9%、小中学生では「書店・コンビニで買う」が50.5%、利用者では「公共図書館で借りる」が50.0%で、それぞれ最も高くなっています。一方、「公共図書館で借りる」と「学校図書館で借りる」を合わせると、借りる割合は、市民では12.5%、利用者では52.3%、小中学生では37.7%と大きな開きが見られます。

## ●知りたい情報の入手方法

## 【インターネットで調べるが大半】

「インターネットで調べる」が、市民で61.1%、利用者で65.3%、小中学生で71.5%と、それぞれ最も高くなっています。これに対し、「公共図書館で借りる」と「学校図書館で借りる」を合わせた割合は、市民6.3%、利用者18.4%、小中学生13.2%で、「インターネットで調べる」とは大きな開きが見られます。

## 2 図書館利用について

### ●図書館の利用度

#### 【市民・利用者・小中学生で大きな開き】

市民では「利用しない」の割合が50.0%、利用者では「2～3週に1回」が44.6%、小中学生では「時々(年に数回程度)」が47.2%で、それぞれ最も高くなっています。「週に1～2回」の割合を比較すると、市民では3.7%、利用者では32.9%、小中学生では6.9%と、大きな開きがみられます。

#### 【男性より女性の方が来館頻度は高い】

男女別でみると、市民では、「利用しない」が男性の55.4%に対し女性が43.0%と、大きな開きがみられます。利用者では、「2～3週に1回」が男性41.5%に対し、女性47.5%と、小中学生では同じく男性7.5%に対し女性14.9%と、ともに大きな開きがみられます。全体として、男性より女性の来館頻度が高くなっています。

#### 【年齢が上がるにつれ来館頻度は下がる。利用者ではその傾向が緩やか】

年齢別では、市民では「利用しない」割合は年齢とともに高くなり、「80歳以上」では75.6%に達しています。利用者では、ややその傾向はありますが、「80歳以上」でも「利用しない」割合は10.0%、これに対し「毎日(ほぼ毎日)」も10.0%と、年齢に伴う来館頻度の低下は顕著ではありません。小中学生では、「利用しない」割合が小学生の16.3%に対し中学生28.0%と大きな差がみられます。全体に、学年が上がるにつれて図書館へ足を運ばなくなるという傾向がみられます。

### ●図書館利用の目的

#### 【趣味・娯楽と知識・教養】

市民では「趣味・娯楽など、生活の質を向上させる」の割合が47.0%で最も高く、次いで「知識や教養の向上」が25.6%、利用者では「知識や教養の向上」が37.8%で最も高く、次いで「趣味・娯楽などの向上」が33.7%となっています。一方、「仕事や研究」では、市民8.7%、利用者7.7%、「学校の勉強」では、市民4.5%、利用者3.6%と、必要に応じて来館するなどの割合では大きな開きはみられません。

#### 【市民は趣味・娯楽、利用者は知識や教養】

男女別でみると、市民では男女とも「趣味・娯楽など、生活の質を向上させる」が半数近くを占めています。これに対し利用者では、「知識や教養の向上」の割合が増え、とくに男性では43.1%で最も高くなっています。

#### 【年齢とともに、市民では趣味・娯楽が増加、利用者では知識・教養が増加】

年齢別でみると、市民では年齢が上がるにつれて「趣味・娯楽など、生活の質を向上させる」の割合が増加し、「80歳以上」では60.0%に達しています。これに対し、利用者では「知識や教養の向上」の割合が増加し、「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」では40%を超えています。

●最も利用する図書館

【中央図書館利用が最も多い。次いで豊科図書館】

市民では「中央図書館」が50.5%で最も高く、次いで「豊科図書館」が28.0%、利用者では「中央図書館」が48.7%、次いで「豊科図書館」が20.4%、小中学生では「中央図書館」が51.5%、次いで「豊科図書館」が28.0%と、市民・利用者・小中学生で類似の傾向を示しています。一方、「堀金図書館」と「明科図書館」について、市民・利用者をみると、「堀金図書館」では市民4.0%に対し利用者11.2%、「明科図書館」では市民5.7%に対し利用者11.0%と、大きな開きが見られます。利用者というより読書する層が、より多く地元の図書館を利用しているといえそうです。

●図書館へ行く交通手段

【いずれも自家用車が大半】

「自家用車」あるいは「家の車」がいずれも最も高く、市民78.7%、利用者73.7%、小中学生57.9%となっています。次いで「自転車」が、市民9.4%、利用者11.5%、小中学生30.9%となっています。「公共交通機関」あるいは「電車・バス・タクシー」は、市民1.2%、利用者0.3%、小中学生0.5%と少数で、全体としていずれも同様の傾向をみせています。

●よく利用する曜日

【市民・利用者は土曜日、小中学生は日曜日】

市民では、「土曜日」の割合が30.8%で最も高く、次いで「日曜日」20.6%、「火曜日」12.9%、利用者では、「土曜日」が26.8%で最も高く、次いで「火曜日」18.6%、「日曜日」14.3%となっています。小中学生では、「日曜日」が56.0%で、とびぬけて高くなっています。

●よく利用する時間帯

【市民・利用者・小中学生でパターンが異なる】

市民では、「特に決まっていない」の割合が42.5%で最も高く、次いで「午後」29.3%、「午前」21.8%であるのに対し、利用者では、「午前」が35.5%で最も高く、次いで「午後」28.1%、「特に決まっていない」27.8%、また、小中学生では、「特に決まっていない」54.4%、「午後」32.5%、「午前」10.1%と、それぞれまったく異なるパターンを示しています。

●図書館での滞在時間

【市民・利用者・小中学生とも1時間以内が多い】

いずれも「1時間以内」の割合が最も高く、市民49.1%、利用者44.9%、小中学生42.9%、市民と利用者についてみると、次いで「30分以内」が市民23.9%、利用者25.8%、「1～3時間」が市民23.2%、利用者20.4%と、市民と利用者ではほぼ同様の傾向を示しています。小中学生では、「1～3時間」30.1%、「30分未満」22.4%と、全体に滞在時間が長めになっています。

### ●公共図書館サービスの利用状況

#### 【本や雑誌・視聴覚資料を借りるための利用が多い】

「いつも利用する」と「比較的利用する」を合わせてみると、市民では、「ア 図書館にある本や雑誌・視聴覚資料などを借りる」が37.8%で最も高く、次いで「オ 図書館の本を館内で読む」22.8%、「カ 図書館の新聞・雑誌を館内で読む」20.5%など、利用者では、「ア 図書館にある本や雑誌・視聴覚資料などを借りる」が74.7%で最も高く、次いで「オ 図書館の本を館内で読む」31.1%、「カ 図書館の新聞・雑誌を館内で読む」21.9 %などとなっています。市民と利用者で上位の順位は同一ですが、利用者では「ア 図書館にある本や雑誌・視聴覚資料などを借りる」割合がとびぬけて高くなっています。

#### 【視聴覚(AV)コーナーと持込みパソコン席の利用は少ない】

一方、「利用しない」についてみると、市民では、「セ 視聴覚(AV)コーナーを利用する」が75.4%で最も高く、次いで「ス 図書館の持込みパソコン席を利用する」73.2%、「サ 図書館のパソコンでインターネットを利用する」70.9%など。利用者では、「ス 図書館の持込みパソコン席を利用する」が74.0%で最も高く、次いで「セ 視聴覚(AV)コーナーを利用する」73.5%、「サ 図書館のパソコンでインターネットを利用する」66.1%など、順位・割合とも、市民・利用者でほぼ同じ傾向を示しています。

### ●公共図書館の施設・資料についての満足度

#### 【大人向け図書と施設設備に対する満足度が高い】

「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合をみると、市民では、「キ 図書館の施設・設備」が57.3 %で最も高く、次いで「ア 大人向けの図書」42.9%、「イ 子ども向けの図書」33.6%など。利用者では、「ア 大人向けの図書」が66.6%で最も高く、次いで「キ 図書館の施設・設備」が65.3%、「イ 子ども向けの図書」が46.5%などとなっています。上位三者は、市民・利用者とも同じですが、利用者で「ア 大人向けの図書」の満足度が高くなっているのが特徴的です。

#### 【視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)に対する不満度がやや高い】

反対に「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合をみると、市民では、「カ 視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)」が17.6%で最も高く、次いで「ア 大人向けの図書」15.1%、「ウ 雑誌」12.7%など。利用者では、「カ 視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)」が26.0%で最も高く、次いで「ア 大人向けの図書」が10.9%、「ウ 雑誌」が10.5%などとなっています。市民・利用者とも順位・割合がほぼ同一ですが、利用者の「カ 視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)」への不満度がやや高いのが特徴的です。

●図書館サービスについての満足度

【職員の接遇に対する満足度が非常に高い】

「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合をみると、市民では「ナ 職員の接遇」が57.1%で最も高く、次いで「ケ 自動貸出機の使いやすさ」が51.8%、「エ 資料貸出点数(図書10点以下、AV資料3点以下、紙芝居2点以下)」が51.0%など。利用者では、「ナ 職員の接遇」が最も高く73.8%で、次いで「オ 資料貸出期間(2週間以内)」63.0%、「ア 開館時間」59.2%、「エ 資料貸出点数(図書10点以下、AV資料3点以下、紙芝居2点以下)」55.6%などとなっています。いずれも、「職員の接遇」についての満足度が最も高く、とくに利用者ではとびぬけて高くなっています。

【開館時間や休館日には不満もある】

反対に「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合をみると、市民では「テ 閲覧用のいす・机の数」が15.9%、次いで「ア 開館時間」が14.6%、「キ 本の探しやすさ(本の配置の仕方)」14.4%、「イ 休館日(月曜日)」14.0%など。利用者では、「ア 開館時間」が17.4%で最も高く、次いで「イ 休館日(月曜日)」17.3%、「ウ 祝日の翌日及び館内整理日(月1回)を休館としていること」16.6%などとなっています。いずれも、施設設備や制度に対する不満となっています。

●特に充実すべき図書資料

【新しい本や雑誌の充実への要望が非常に高い】

「新しい本や雑誌」の割合がいずれもとびぬけて高く、市民では46.0%、利用者では65.3%、小中学生では72.5%となっています。次いで高いのが「趣味・実用書」で、市民では34.7%、利用者では35.2%、小中学生では38.7%となっています。これらに続くのが、市民では「専門書」31.7%、利用者では「CD・DVD」26.0%、小中学生では「品切れや売られていない本、貴重な昔の本など」25.6%などです。

【新しい本や雑誌への要望は女性が男性を上回る】

男女別でみると、市民・利用者・小中学生ともに「新しい本や雑誌」の割合が高くなっていますが、ともに女性が男性を上回っています。「趣味・実用書」では、いずれも男女に大きな差はみられません。

【市民の若年～中年層で新しい本や雑誌への要望がとくに高い】

年齢別でみると、「新しい本や雑誌」への要望がとくに高いのは、市民の「16～17歳」から「50～59歳」までの年代、また、小学生より中学生、利用者では「40～49歳」と「50～59歳」です。

●今後、特に充実すべき図書館サービス

【図書資料の充実への要望が非常に高い】

「図書資料の充実」の割合が最も高く、市民では31.1%、利用者では50.0%、小中学生では44.9%(選択肢は「本や、DVDなどを増やす」となっています。次いで、市民では「図書設備の使いやすさ」が22.2%、「高齢者向けのサービス」が21.9%、利用者では「開館日・開館時間の拡大」が25.8%、「図書設備の使いやすさ」が20.9%、小中学生では「中高生向けに、いろいろな分野の入門書や人気の小説などの本をそろえる」44.4%(市民・利用者対象の設問にはない選択肢)、「図書館の貸し出しする機械や本を探す機械などを使いやすくする」25.2%などとなっています。

【とくに利用者・男性が図書資料の充実を望む】

男女別でみると、「図書資料の充実」の割合は、利用者・男性が最も高く56.9%、次いで利用者・女性48.9%となり、市民を大きく上回っています。また、「図書館設備の使いやすさ」は市民・女性、利用者・女性で高くなっています。

【市民の若年～中年層、利用者の中年層がとくに図書資料の充実を望む】

年齢別でみると、「図書資料の充実」の割合は、市民の「18～19歳」から「50～59歳」まで、また、利用者の「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」でとくに高くなっています。

●図書館の利用スペースへの要望

【市民・利用者はくつろいで閲覧できるスペース、小中学生は飲食できる場所や設備】

市民・利用者では、「くつろいで閲覧できるスペース」の割合が最も高く、市民で50.1%、利用者で56.1%、次いで「集中して調べものができる場所」が市民では32.6%、利用者では32.4%となっています。以下、市民では「飲食できる場所や飲食を提供する設備」19.9%、「書架や設備などのわかりやすい館内表示」17.4%、利用者では「書架や設備などのわかりやすい館内表示」28.3%、「子どもに読み聞かせのできる場所」18.4%などとなっています。小中学生では、やや傾向が異なり、「飲食できる場所や飲食物を出してくれる施設」が41.7%で最も高く、次いで「ゆっくりで本や雑誌が読める場所」35.4%、「友達と一緒に利用できる場所」35.0%などとなっています。

【くつろいで閲覧できるスペースへの要望は、利用者・男性が最も高い】

男女別でみると、「くつろいで閲覧できるスペース」の割合がとくに高いのは、利用者・男性の63.8%、次いで、市民・女性の54.0%となっています。「集中して調べものができる場所」は、男女別、市民・利用者で大きな差はみられません。小中学生では、「飲食できる場所や飲食物を出してくれる施設」が男性45.6%、女性37.9%でともに最も高くなっていますが、男女でやや差がみられます。

【くつろいで閲覧できるスペースへの要望は、市民の若年～中年層、利用者の中年層でとくに高い】

年齢別でみると、「くつろいで閲覧できるスペース」の割合は、市民の「18～19歳」から「50～59歳」まで、利用者では「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」でとくに高くなっています。小中学生の「飲食できる場所や飲食物を出してくれる施設」への要望は、小学生・中学生で差はみられません。



平成 29 年 3 月 24 日開催

安曇野市教育委員会 3 月定例会当日配布資料

【教育委員会定例会提出資料】

<b>報告第 9 号</b>	教育部 各課
平成 29 年 3 月 24 日提出	(課長) (担当)

タイトル	安曇野市議会 平成 29 年 3 月定例会の結果の概要について
報告を要する事項	安曇野市議会 平成 29 年 3 月定例会の結果の概要
要旨	安曇野市議会 3 月定例会が終了しましたので、その結果について報告するものです。

1 会期等について 2 月 17 日 (金) ~ 3 月 17 日 (金)

2 一般質問 3 月 2 日 (木)、3 日 (金)、6 日 (月) 3 日間

議員名	質問内容 (概要)
松澤 好哲議員	・拾ヶ堰世界かんがい施設遺産登録及び安曇平お船祭りの文化ビジョンと受け入れ態勢について
中村 今朝子議員	・安曇野の子ども達のためにインフルエンザワクチン接種の助成について
井出 勝正議員	・文部科学省の「性同一障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」、市内の小中学校ではこの通知をどのように受け止め、実践しているか ・就学援助の 3 月支給についての周知の状況や申請状況等について ・給食費の無料化や保護者負担の助成の検討を進めてはどうか
平林 徳子議員	・コミュニティスクール事業の実施にあたり、目的など何が変わるのか。協力等のお知らせ、周知方法はどうするのか。 ・各地区のウォーキングコースについて ・図書館を核とした交流学习センターの活用についての考え方 ・地域の特色ある歴史の学習や伝承について
黒岩 豊彦議員	・市内のスポーツ活動の現状について ・屋外の運動施設の現状と課題について ・陸上競技練習場の整備について
猪狩 久美子議員	・新総合体育館建設について陳情が採択されたが、検討はされたのか。また、不安の声に対して、どう応えていくのか
松枝 功議員	・ホストタウンを契機としたまちづくりの戦略について、市内のカヌー人口の状況と人材育成等の考えは
坂内 不二男議員	・旅行素材の掘り起こしによる交流人口の拡大のためのスポーツツーリズムの推進について

増田 望三郎議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちのために、我々はどのような教育を用意していくのか</li> <li>・次期学習指導要領の改定案「主体的・対話的で深い学び」の実現は</li> <li>・自然保育で育った子どもたちを学校はどう受け入れるのか</li> <li>・コミュニティスクールは学校をどう変えるのか</li> <li>・多様な教育機会の確保について（不登校は問題行動ではない。教育機会確保法の理念）</li> <li>・市内児童生徒の不登校の状況と市の取組、不登校児の受入れ機関の現状について</li> <li>・多様な教育機会の確保について／オルタナティブスクール（フリースクール）との連携について</li> <li>・主権者教育について。中学校での取り組みは</li> <li>・キャリア教育に政治を</li> </ul>
召田 義人議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の保存・管理・活用・伝統文化の保存伝承について</li> <li>・地域文化の振興について</li> <li>・文化施設整備充実について</li> <li>・文化活動の推進について</li> <li>・歴史民俗資料の保存・活用について</li> </ul>
小林 純子議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの貧困に関する状況調査について</li> <li>・要保護・準要保護児童・生徒の把握及び連携について</li> </ul>

3 全員協議会 平成 29 年度予算説明 2 月 23 日（木）

4 福祉教育委員会（付託事件審査） 3 月 9 日（木）

5 議案等の審査結果について（教育委員会関係）

(1) 以下の議案 3 件（関連議案含む。）については、原案どおり可決（3 月 17 日）されました。

議案第 10 号 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴う関係条例の整備に関する条例（学校教育課）

議案第 11 号 平成 28 年度安曇野市一般会計補正予算（第 5 号）

議案第 22 号 平成 29 年度安曇野市一般会計予算

(2) 以下の人事案件は提案どおり同意（3 月 17 日）されました。

議案第 44 号 教育長の任命について

住所 安曇野市堀金烏川 547 番地

氏名 橋渡 勝也

(3) 以下の陳情は、採択（3 月 17 日）されました。

平成 28 年陳情第 9 号 安曇野市内義務教育課程児童・生徒の多様な教育機会の確保について

【陳情事項要旨】

ア 安曇野市の民間教育施設に関する「出席扱いについてのガイドライン」の作成

イ 各校・教育委員会と民間教育施設との連携（定期的な支援会議・公的施設利用・地域への理解等）

ウ 義務教育課程児童が民間教育施設を利用する際の公的援助の必要性についての検討

<b>報告第 10 号</b>	教育部 学校教育課
平成 29 年 3 月 24 日提出	(課長)古幡 彰 (担当係長)平林 洋一

タイトル	平成 28 年度卒業証書授与式、平成 29 年度入学式における教育委員会告辞について
報告を要する事項	平成 28 年度卒業証書授与式、平成 29 年度入学式 教育委員会告辞
要旨	平成 28 年度卒業証書授与式(小学校 3 月 16 日(木)、中学校 3 月 15 日(水))、平成 29 年度入学式(小学校・中学校 4 月 5 日(水))における、教育委員会告辞を別添のとおりとしました。

## 平成 28 年度卒業証書授与式、平成 29 年度入学式 教育委員会関係出席者

学校名	卒業証書授与式			入学式		
	児童・生徒数	出席者	備考	児童・生徒数	出席者	備考
豊科南小学校	127	教育委員長	校長退任	120	横内教育委員	
豊科北小学校	90	教育長	校長退任	101	教育委員長	
豊科東小学校	35	文化課長		29	二村教育委員	
穂高南小学校	105	教育部長		98	生涯学習課長	
穂高北小学校	126	横内教育委員	校長転任	121	須澤教育委員	
穂高西小学校	68	学校教育課長		68	教育部長	
三郷小学校	173	二村教育委員		177	学校教育課長	
堀金小学校	91	須澤教育委員	校長退任	73	教育長	
明南小学校	48	生涯学習課長		38	図書館交流課長	
明北小学校	19	図書館交流課長		25	文化課長	
小計	882			850		
豊科南中学校	106	学校教育課長		123	教育部長	
豊科北中学校	156	教育部長		119	二村教育委員	
穂高東中学校	140	須澤教育委員		159	学校教育課長	
穂高西中学校	165	二村教育委員		133	須澤教育委員	
三郷中学校	198	教育長	校長退任	175	教育委員長	
堀金中学校	110	教育委員長	校長退任	86	教育長	
明科中学校	71	横内教育委員		69	横内教育委員	
小計	946			864		
合計	1,828			1,714		

※入学式児童・生徒数については、平成 29 年 3 月 16 日現在

## 平成 28 年度 小学校卒業式教育委員会あいさつ

(教育委員会告辞)

安曇野にふりそそぐ日差しが、日一日と暖かさを増し、春の訪れが肌で感じられる季節となりました。本日、〇〇小学校の卒業式に際し、安曇野市教育委員会は、校長先生から〇〇名の皆さんが小学校の全課程を修了し、卒業をされるとの報告をいただきました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが、入学した日から早や六年が経ちました。心身ともに立派に成長した皆さんの姿を見て、大変頼もしく、また、嬉しく思います。皆さんの胸の中には、今、楽しかったことや一生懸命頑張った思い出が、満ちあふれていることと思います。小学校でのこのたくさんの思い出は、一生の宝物です。四月からは中学生です。周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、心と身体を鍛えるとともに、様々なことに進んで挑戦し、一層たくましく成長されることを期待しています。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。

お子様の入学時に思いをはせ、今日の成長された姿を見て、お喜びもひとしおかと拝察申し上げます。お子様が中学校へ進むことは、少し不安もあるかと思いますが、どうか、お子様を信じて、温かく見守り、応援していただきたいと思っております。

結びに、本日の卒業式に際し、日頃からご支援を賜っておりますご臨席のご来賓の皆様、そして、きめ細かく熱心にご指導をいただきました校長先生ほか先生方に心より感謝を申し上げ、教育委員会のあいさつとさせていただきます。

平成 29 年 3 月 16 日

安曇野市教育委員会

## 平成 28 年度 中学校卒業式教育委員会あいさつ

(教育委員会告辞)

安曇野にふりそそぐ日差しが、日一日と暖かさを増し、春の訪れが肌で感じられる季節となりました。本日、〇〇中学校の卒業式にあたり、安曇野市教育委員会は、校長先生から〇〇名の皆さんが中学校の全課程を修了し、卒業をされるとの報告をいただきました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、入学時と比べようのないほど心身ともに、立派に成長されました。皆さんは今、新たな決意と将来への大きな希望を胸に、自らの意志で決めた進路に向かって第一歩を踏み出そうとしております。これまでの勉学や部活動などを通じて培った力を信じ、支えていただいた多くの人への感謝の気持ちを忘れず、自らの未来を力強く切り拓いていかれることを切に願います。

保護者の皆様、今日のおき日を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

これからは、義務教育九年間の基盤をもとに、夢の実現に向け、自分の足で歩み出します。

どうか温かいまなざしと、時には人生の先輩としての厳しさをもって、子どもたちの成長を見守り支えてくださいますようお願いいたします。

結びに、本日の卒業式に際し、日頃からご支援を賜っておりますご臨席のご来賓の皆様、そして、きめ細かく熱心にご指導をいただきました校長先生ほか先生方に心より感謝を申し上げ、教育委員会のあいさつとさせていただきます。

平成 29 年 3 月 15 日

安曇野市教育委員会

## 小学校入学式教育委員会あいさつ

(教育委員会告辞)

陽だまりにクロッカスの花も咲き始め、安曇野にも、春の訪れが感じられる季節となりました。安曇野市教育委員会は、本日〇〇名の皆さんに、〇〇小学校に入学し、義務教育を受けていただくことをお知らせいたします。

新一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

これから、この小学校で、お友達と一緒に新しい学校生活が始まります。

学校では皆さんが入学してくるのを、とても楽しみに待っていた、やさしい先生方と、頼りになるたくさんのお兄さん、お姉さんが、いろいろ教えてくださいます。

毎日、明るく元気に登校にしてください。

保護者の皆様、お子様のご入学を心からお慶び申し上げます。

小学校では、教職員がお子様寄り添って、健やかな成長と豊かな心の育成のために全力をあげて取り組んでまいります。

ご家庭でも、お子さんをあたたかく見守り、学校での出来事に耳を傾け、困ったことや迷ったことがあれば、何でもお気軽にご相談ください。

安曇野市教育委員会では、本年度「たくましい安曇野の子ども」を育むことを目標に掲げ、さまざまな教育環境の充実を通して学校を支援してまいります。

結びに、日頃からご支援を賜っておりますご臨席のご来賓の皆様、地域の皆様におかれましては、安曇野市の未来を担う大切な宝である児童たちを、今後も温かく見守り、応援していただきますようお願い申し上げ、教育委員会のあいさつとさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。

平成 29 年 4 月 5 日

安曇野市教育委員会

## 中学校入学式教育委員会あいさつ

(教育委員会告辞)

桜のつぼみもふくらみ、安曇野にも春の訪れが感じられる季節となりました。

安曇野市教育委員会は、〇〇名の皆さんに、〇〇中学校に入学し、三年間の義務教育を受けていただくことをお知らせいたします。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは今日から、〇〇中学校の生徒としての第一歩を踏み出すことになりました。

中学校生活は、わずか三年間ですが、自分の力を試したり、友だちと力を合わせて何かをやりとげたりすることで、自分の世界を大きく広げていくことができます。

しっかりと目標を持ち、心身ともにたくましく成長されるよう期待しております。

保護者の皆様、お子様のご入学を心からお慶び申し上げます。

この三年間は、多感な時代だけに、さまざまな悩みを持つこともあるでしょう。ご家庭では、何でも話せる雰囲気をつくり、学校での出来事に耳を傾けていただくことをお願いします。

安曇野市教育委員会では、本年度「たくましい安曇野の子ども」を育むことを目標に掲げ、さまざまな教育環境の充実を通して学校を支援してまいります。

結びに、日頃からご支援を賜っておりますご臨席のご来賓の皆様、地域の皆様におかれましては、安曇野市の未来を担う大切な宝である生徒たちを温かく見守り、支援していただきますようお願い申し上げます、教育委員会のあいさつとさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。

平成 29 年 4 月 5 日

安曇野市教育委員会

<b>報告第 11 号</b>	教育部 各課
平成 29 年 3 月 24 日提出	

タイトル	後援依頼の教育長専決分の報告について
報告を要する事項の内容	教育長専決に伴う報告
要旨	学校教育課 1 件 生涯学習課 5 件 文化課 4 件 (詳細別紙)
<p>○安曇野市教育委員会の共催及び後援等に関する取扱基準【抜粋】 (定義)</p> <p>第 2 条 この基準における用語の定義は、次の各号に定めるところによる。</p> <p>(1) 行事 講演会、演奏会、展覧会等の集会、体育大会等の催し物をいう。</p> <p>(2) 共催 行事の企画又は運営に参加し、共同主催者としての責任の一部を負担することをいう。</p> <p>(3) 後援 行事の趣旨に賛同し、名義の使用を承認することをいい、責任の負担はしないことをいう。</p> <p>(審査基準)</p> <p>第 3 条 教育委員会は、次の各号に掲げるいずれかの団体が主催する行事は、共催又は後援するものとする。</p> <p>(1) 国又は地方公共団体</p> <p>(2) 学校又は学校の連合体</p> <p>2 教育委員会は、前項の団体以外が主催する場合は、次に掲げる事項を満たすことが明らかに確認できるものに限り、共催又は後援をするものとする。</p> <p>(1) 行事の内容が教育、学術、文化及びスポーツの普及向上に寄与するものであること。</p> <p>(2) 公益性のあるもので営利を目的としないものであること。</p> <p>(3) 政治活動又は宗教活動と認められないものであること。</p> <p>(4) 参加者等の参集予定範囲が市内全域又はそれ以上であること。</p> <p>(5) 入場料、参加料、出品料等の経費を主催者が徴収するものについては、その経費の算出等について配慮がなされており、営利事業的なものでないこと。</p> <p>(6) 団体内の親睦等が主たる目的ではないこと。</p> <p>(教育長の専決範囲)</p> <p>第 4 条 後援の承認について、教育長が専決できる行事は次に掲げるとおりとする。</p> <p>(1) 前条第 1 項に規定する行事</p> <p>(2) 過去に教育委員会が承認した行事（団体又は行事が、前条第 2 項の規定を満たしているか判断し難いものは除く。）</p>	



教育部 学校教育課 共催・後援台帳(平成28年度3月定例会専決報告事項)

No.	受付日	所管	件名	申請者	主催者 (団体)	種別	申請理由	申請日	開催日	専決	理由	承認	承認(専決)日	会場	開催目的(趣旨)	開催内容	H27	H26	H25	所管課 意見
27	H28.2.23	学校 教育	第40回少年少女サマー スクール	NPO法人日本 精神療法学会 理事長 松本 文男	NPO法人 日本精神 療法学会	後援	いじめや不登校 など悩みを抱え る子ども達への 援助の手段とし てのサマースタ スクールの、より多 くの子ども達の 参加を促すた め。	2月20日	平成28年7月30 日(日)～8月2日 (水)	専決	過去承認	○	3月1日	大田市春木 湖畔20754- 1 ホテル ブルレーイ ク&サマー スクール	子ども達の心理的圧迫を多 少なりとも軽くし、主体的行 動の可能な場と時間設定に より、子ども達の内部的工 ネルギーの回復と増進を促 し、背負う問題を克服し、自 然体で意欲に満ちた生活、 精神的健康を築かれる充 実したバーンナリテイ形成 に役立つ集団的な援助を 行う。	豊かな自然の中で、信賴でき る仲間と宿泊をともにする体 験を通して子ども達の生きる エネルギー回復を図る。	-	-	○	基礎第4 条第2号 により可

教育部 文化課 共催・後援台帳(平成28年度3月定例会専決報告事項)

No.	受付日	所管	件名	申請者	申請者	主催者(団体)	種別	申請理由	申請日	開催日	専決	理由	承認	承認(専決)日	会場	開催目的(趣旨)	開催内容	H27	H26	H25	所管課 意見
106	H29.2.8	文化	第28回松本かな美の書展	松本かな美の書会	代表 猿田 真夫	松本かな美の会	後援	教育委員会の後援があることにより、関心が高まります。	2月8日	平成29年 3月31日(金) ～ 4月2日(日)	○	過去承認		2月10日	松本市美術館 2階キヤラリーAB室	我が国固有の和様、特にかな書道の研鑽を図り、地域文化の高揚に資するため。	かな書道の展覧会 参加予定者数54名 出品予定数65点 入場料無料 参加料5000円 他の後援申請先:松本市教育委員会、塩尻市教育委員会、信濃毎日新聞社、市民タイムス	○	○	○	基準第4 条第2号 により可
107	H29.2.13	文化	公募 第46回日本画展	長野県日本画会 中信支部	竹内 勲	日本画展	後援	地域の人々に日本画を広げ、文化交流を図る。	2月13日	平成29年 4月14日(金) ～ 4月19日(水)	○	過去承認		2月17日	豊科近代美術館	地域の人々に日本画を広げ、文化交流を図る。	日本画の展示 参加予定者数100名・出品予定数100点、入場予定者数800名 入場料・参加料無料 後援申請先:長野県、長野県教育委員会、長野市、松本市、伊那市、安曇野市、大町市及び開催地教育委員会ほか	○	○	○	基準第4 条第2号 により可
108	H29.2.13	文化	第14回 五色百人一首 長野県大会	TOSS五色百人一首協会 長野県支部	理事長 小松 裕明	TOSS五色百人一首協会 長野県支部	後援	①伝統文化の百人一首を通して、伝統文化に触れさせたい ②五色百人一首を通して、子ども達の健全育成を図るため。	1月31日	平成29年 3月5日(日)	○	過去承認		2月17日	長野県長野市 善光寺大通	①五色百人一首を通して、楽しみながら日本古来の伝統文化に触れる。 ②絶好の児童生徒との交流を図る。 ③日頃の練習の成果を競う。	予選リーグ戦、決勝トーナメント戦による競技 参加範囲:長野県内小中学生 出場予定者数:240名 入場予定者数:700名(引率者、保護者、その他) 入場料・参加料無料 他の後援申請先:長野県教育委員会、長野市教育委員会、松本市教育委員会、上田市教育委員会ほか	○	○	○	基準第4 条第2号 により可
112	H29.2.27	文化	Long Trail 192 コンサート三者三様	ムジカコンバス	狭間 社	ムジカコンバス	後援	安曇野市内の方々にもお越しいただきたく、お願い申し上げます。	2月24日	平成29年 7月14日(金)	○	過去承認		3月2日	松本市音楽文化ホール (小ホール)	声楽、ピアノのアンサンブルによるクラシックコンサート。 192は養者三人の合計。 出演:狭間 社(テノール)、丸山 多江(ソプラノ)、ほしまゆか(ピアノ)	声楽とピアノのアンサンブルコンサート。 全席2000円 出演:狭間 社(テノール)、丸山 多江(ソプラノ)、ほしまゆか(ピアノ) 他の後援申請先:松本市、塩尻市教育委員会、各メディア等	○	—	—	基準第4 条第2号 により可

教育部 生涯学習課 共催・後援台帳(平成28年度3月定例会専決報告事項)

№	受付日	所管	件名	申請者	主催者(団体)	種別	申請理由	申請日	開催日	募 込	理 由	承認	承認(専決)日	会 場	開催目的(趣旨)	開催内容	H25	H26	H27	所管課 意見
85	H29.2.13	スポーツ推進担当	2017年度 穂高社 年ソフトボール連盟 リーグ戦	穂高社 中 島 弘二 会長	穂高社 ソフト ボール連 盟	後援	当連盟充足(昭和54年)より 委員会で、毎年、こ の後、ご協力をいた していただいております。 今年度もお願いいた します。	2月13日	平成29年4月 15日(土)(開 幕)～平成29 年11月1日 (水)(閉幕)	〇	過去承認	〇	2月15日	有明運動 場、西穂 高運動 場、北穂 高運動 場、穂高 東中学校 校庭、穂 高西中学 校校庭	ソフトボールを通じて、 会員の体位向上および 保持と健全な精神の確 立をはかり、会員相互 の親睦を深めることを 目的とする。	47チーム(780名)参加予定。 試合方法:リーグ(A・B・C・D・S リーグ)内総当り2試合。各リーグ 共、水・金・日曜日としナイターで 行う。 会費:1人3,000円 H28年度後援あり。	〇	〇	〇	基準第 4条第2 号によ り可
86	H29.2.23	社会教育担当	フラワーサークル 作品展	吉江 美 智代 会長	フラワー サークル 彩	後援	サークル活動 を通じ、地域 の皆さんに一 人でも多く花 に親しんでい ただく機会を 設けたい。	2月23日	[準備]平成29 年4月20日(木) ～21日(金) ～[作品展] 平成29年4月 22日(土)～23 日(日)	〇	過去承認	〇	2月24日	嶽山公園 研成ホー ル	サークルの作品展を通 し、地域の皆さんにサー クル活動を知っていただ き、花にふれ、花に興 味を持っていただく機会 をつくりたい。また、花を 通じ、仲間づくりやボラ ンティアをしたい。	入場料無料	〇	〇	〇	基準第 4条第2 号によ り可
87	H29.2.28	社会教育担当	平成29年度 家庭 倫理講演会	一般社団 体法人 倫 理研究所 備理の会 中層	古 永治 会長	後援	健全なる行事 であることの 信頼	2月20日	平成29年5月 21日(日)	〇	過去承認	〇	3月4日	安曇野ス イス村サ ンモリツツ	健全な家庭づくりを地域 社会に力強く押し進め ていくことを目的に開催 する	入場料 1,000円 テーマ:「つながる」	〇	〇	〇	基準第 4条第2 号によ り可
88	H29.2.28	スポーツ推進担当	第33回 明科杯中 信地区卓球選手権 大会	NPO法人安 曇野市体育 協会明科卓 球部	特定非営 利活動法人 安曇野市 体育協会 明科卓 球部	後援	スポーツ振興 に寄与するた め。	2月27日	平成29年4月 23日(日)	〇	過去承認	〇	3月1日	明科体育 館	卓球の普及、中信地区 選手の交流、冬季にお ける体位向上などを目 的にする。	参加資格:中信地区実業団・クラ ブ、小・中学校、高校、大学(500 人程度参加予定) 試合方法:一般、ジュニア(小・中 学生)各男女チームによる団体 戦。予選リーグ戦、決勝トーナメ ント戦。 参加料:1チーム3,000円	〇	〇	〇	基準第 4条第2 号によ り可
89	H29.2.28	スポーツ推進担当	松本山雅FCユース アカデミーサッカー スクール 安曇野校	特定非営 利活動法人 松本山雅 スポーツク ラブ	特定非営 利活動法人 松本 山雅ス ポーツク ラブ	後援	当クラブに出 発していたた いでいる安曇 野市とクラブ が協力して、 地域の子供た ちが笑顔にな り、健全な育 成を行っていく ため。	2月27日	平成29年4月 ～平成30年3 月 毎週火曜 年 日・木曜日 毎 70回開催	〇	過去承認	〇	3月1日	牧運動 場、教休 育館	松本山雅フットボールク ラブがサッカーの普及を 通じて子供たちの健全な 育成と、笑顔あふれる 時間の共有への手助け となるように、クラブのソ フトを提供し安曇野市に 貢献するためのサッカー スクール。	年中・年長児(KIDS)及び小学1 年生から6年生を対象に、学年別 のサッカースクールの実施する。 参加予定人数100名。 年会費:運営経費5,616円、保険 料800円 月会費:下記のとおり KIDS週1回コース:3,888円 KIDS週2回コース:7,290円 KIDS週3回コース:9,558円 小学生週2回コース:4,536円 小学生週3回コース:7,938円 小学生週3回コース:10,206円	〇	〇	〇	基準第 4条第2 号によ り可

平成 28 年度事業進捗状況報告（懸案事項等）

学校教育係

事業（懸案事項）	現 況	今後の取り組み
<p>中学生海外ホームステイ交流派遣事業</p>	<p>・参加生徒 14 人は 3 月 5 日（日）開催の出発激励式までに、オリエンテーション 3 回、英会話レッスン 6 回を受けて、3 月 18 日（土）に出発いたしました。</p> <p>現在は、オーストラリアメルボルンにてホームステイを行い貴重な体験を積んでおります。</p> <p>なお、今後は以下の予定で帰国報告会の開催を予定しております。</p> <p>帰国報告会（予定）                      開 催 日：平成 29 年 5 月 28 日（日）                      開催時間：午前 10 時から午前 11 時 30 分                      開催場所：安曇野市役所本庁舎 4 階 大会議室</p>	<p>帰国予定日                      平成 29 年 3 月 27 日（月）深夜（28 日午前 0 時頃）に安曇野市役所本庁舎へ到着予定。</p>

平成 28 年度事業進捗状況報告（懸案事項等）

生涯学習課社会教育担当

社会教育総務費事業

事業（懸案事項）	現 況	今後の取り組み
社会教育委員の会 予算額：413 千円	4/28 中信地区理事会 5/25 第 1 回会議 議 長・・・細田 利章さん 副議長・・・平田 米子さん 平成 27 年度事業報告、平成 28 年度事業計画 5/27 中信地区総会 6/15 県総会 7/ 4 中信地区理事会 9/28 県研究大会 10/ 6 第 2 回会議 生涯学習推進計画の策定 10/13 中信地区秋の研修会 10/27.28 関東甲信越静研究大会 12/ 1 ブロック別研修会 高家児童館視察 2/ 7 第 3 回会議 各種計画の策定他 2/17 中信地区理事会 3/23 第 4 回会議 平成 29 年度事業計画、図書館基本計画アンケート結果	
第 2 次生涯学習推進計画策定 予算額：2,213 千円	5/10 政策会議 5/15 部長会議 5/24 教育委員会 5 月定例会 6/ 9 部内業者選定委員会 6/21 業務委託契約 7/27 市民会議 進捗状況の確認、・第 2 次計画策定スケジュール、市民アンケートの素案確認、第 2 次計画への要望 8/22 教育委員会 8 月定例会 策定プロジェクト会議設置規程新設 市民会議設置要綱附則改正 9/28 策定プロジェクト会議① 10/ 6 社会教育委員の会 10/20 教育委員会 10 月定例会 11/16 市民アンケート発送 2,500 人対象 ～30 市民アンケートの実施 回答 800 人 回答率 32% 12/22 教育委員会 12 月定例会 策定委員会設置要綱 1/25 広報あづみのNo243 策定委員の公募 1/30～2/13 1/27 策定プロジェクト会議② 2/ 7 社会教育委員の会 3/15 策定プロジェクト会議③ 3/24 教育委員会 3 月定例会 策定委員の協議、アンケート結果報告	

生涯学習推進費

事業(懸案事項)	現況	今後の取り組み																																																																																
安曇野検定 予算額：1,414千円	2/17 結果公表 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>申込</th> <th>受検</th> <th>合格</th> <th>合格率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般の部基本編</td> <td>50</td> <td>45</td> <td>42</td> <td>93.3</td> </tr> <tr> <td>一般の部講座編</td> <td>42</td> <td>37</td> <td>17</td> <td>45.9</td> </tr> <tr> <td>ジュニアの部</td> <td>257</td> <td>241</td> <td>156</td> <td>64.7</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>349</td> <td>323</td> <td>215</td> <td>66.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※本年度 一般の部講座編の問題は別途のとおり。</p> <p>参考：過去の受検状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 年度</th> <th colspan="2">一般の部</th> <th colspan="2">ジュニアの部</th> <th colspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>受検</th> <th>合格</th> <th>受検</th> <th>合格</th> <th>受検</th> <th>合格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23</td> <td>118</td> <td>19</td> <td>221</td> <td>84</td> <td>339</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>89</td> <td>37</td> <td>47</td> <td>23</td> <td>136</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>148</td> <td>93</td> <td>130</td> <td>20</td> <td>278</td> <td>113</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>117</td> <td>79</td> <td>21</td> <td>17</td> <td>138</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>101</td> <td>67</td> <td>150</td> <td>81</td> <td>251</td> <td>148</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>573</td> <td>295</td> <td>569</td> <td>225</td> <td>1,142</td> <td>520</td> </tr> </tbody> </table>	区分	申込	受検	合格	合格率(%)	一般の部基本編	50	45	42	93.3	一般の部講座編	42	37	17	45.9	ジュニアの部	257	241	156	64.7	合計	349	323	215	66.6	区分 年度	一般の部		ジュニアの部		計		受検	合格	受検	合格	受検	合格	23	118	19	221	84	339	103	24	89	37	47	23	136	60	25	148	93	130	20	278	113	26	117	79	21	17	138	96	27	101	67	150	81	251	148	計	573	295	569	225	1,142	520	
区分	申込	受検	合格	合格率(%)																																																																														
一般の部基本編	50	45	42	93.3																																																																														
一般の部講座編	42	37	17	45.9																																																																														
ジュニアの部	257	241	156	64.7																																																																														
合計	349	323	215	66.6																																																																														
区分 年度	一般の部		ジュニアの部		計																																																																													
	受検	合格	受検	合格	受検	合格																																																																												
23	118	19	221	84	339	103																																																																												
24	89	37	47	23	136	60																																																																												
25	148	93	130	20	278	113																																																																												
26	117	79	21	17	138	96																																																																												
27	101	67	150	81	251	148																																																																												
計	573	295	569	225	1,142	520																																																																												
日本語教室 予算額：395千円	○豊科、堀金毎週日曜に、穂高、三郷は土曜日に開催  2/15 広報あづみのNo.243 ボランティア募集 2/20～3/8 申込 14人 3/23 第2回ボランティア講習会 講師：佐藤 佳子さん (松本市地域日本語教育システムコーディネーター)																																																																																	
美的カレッジ 予算額：100千円	第6回 3/11 パンづくり講座 参加者 12人 講師：後藤 和美さん (料理教室「おひさまキッチン」主宰、管理栄養士) 20歳から50歳以下の女性を対象 託児サービスの設置 受講者4人利用(子ども7人)																																																																																	

人権教育推進事業

事業(懸案事項)	現況	今後の取り組み
人権教育推進委員会・指導員会 予算額：1,308千円	2/21 小委員会 平成28年度事業報告、平成29年度方針案 3/1 合同会議・研修 参加者 96人 平成28年度事業報告、平成29年度方針案 講師：(有)創生活環境運営専務取締役 八田 桂子さん 演題：ご近所の認知症高齢者と、どう付き合いますか？	
地域人権教育協議会 予算額：712千円	2/14 第2回穂高地域人権教育推進協議会 講師：アドラー心理学トレーナー 百瀬敬子さん 演台：家族と地域の信頼関係をより良くするために 2/16 第2回三郷地域人権教育推進協議会 講師：中信教育事務所指導主事 大野 幸児さん 演題：人権教育の現状とこれからの人権教育 2/17 第2回堀金地域人権教育推進協議会 講師：豊科郷土博物館館長 百瀬 新治さん 演題：人権の歴史	

事業(概案事項)	現況	今後の取り組み
人権尊重作文集 予算額：326千円	市内小学校3～6年生、中学校1～3年、指定する学年ごと1作品を選出。ただし、4学年は全学校から計27作品)。各種人権学習会などの概要版などとともに作文集を作成し、関係者へ配布。 5/18 市校長会 6月より随時学校へ説明 11月～12月 作品募集 名称：安曇野市人権尊重作文集「kiseki」 3/1 発行 3/5より、随時、学校より作品掲載者を表彰、記念品授与	

### 中央公民館事業費

事業(概案事項)	現況	今後の取り組み
公民館運営審議会 予算額：147千円	○第3回 3/22 平成29年度事業計画、総合芸術展観覧	
公民館長会	○第9回 12/5 長野県館長総会、地区公民館報表彰 ○第10回 1/16 総合芸術展 ○第11回 2/6 公民館大会、生涯学習推進計画策定委員 ○第12回 3/6 平成29年度方針、各種行事予定	
安曇野市総合芸術展 予算額：355千円	7/4 第1回実行委員会 実行委員長 高野 博さん 副実行委員長 隼田和子さん 開催要項、スケジュール 10/3 第2回実行委員会 作品選考スケジュール、選考方法 10/15 三郷文化祭作品選考 10/29 穂高、堀金文化祭作品選考 11/6 豊科、明科作品選考 11/15 第3回実行委員会 昨年度の反省点からの改善、選考作品確認 作品出展依頼承諾94人 2/6 第4回実行委員会 3/3～3/22 第6回安曇野市総合芸術展 出展全88作品	

平成 28 年度事業進捗状況報告（懸案事項等）

生涯学習課社会教育担当

青少年健全育成費事業

事業（懸案事項）	現 況	今後の取り組み
<p>子ども会育成会支援 予算額：9,592千円</p>	<p>○4月6日～15日 5地域子ども会育成会連絡協議会 ○4月19日 子ども会育成会連合会総会 ○5月8日 均等割補助金申請、子ども安全共済会申込み締切→98地区申請 ○5月11日 長野県子ども会育成会連絡協議会第1回理事会 ○5月19日 第2回常任委員会 ○5月27日 活性化補助金申請締切→42地区申請 ○5月28日 長野県子ども会育成会連絡協議会通常総会 ○6月11日 ジュニアリーダー養成講座常任委員5名参加協力 ○6月17日 松本地方子ども会育成連絡会 会議 ○9月11日 第2回長野県子ども会指導者講習会 松本地方子ども会育成連絡会安全講習会 ○10月5日 育成会だより19号発行（広報） ○10月18日 第3回常任委員会 ○11月12日 ジュニアリーダー養成講座常任委員3名参加協力 ○2月6日 全国子ども会安全共済会加入案内チラシ配布 市内保育園、小中学校 ○2月15日 育成会だより20号発行（広報） ○3月7日 第4回常任委員会 ○3月17日 松本地方子ども会育成連絡会会議</p>	
<p>青少年センター 予算額：1,021千円</p>	<p>○4月28日 第1回運営委員会 ○5月13日 長野県青少年補導センター連絡協議会 ○5月19日 安曇野市小中高等学校生徒指導連絡協議会第1回総委員会 ○5月31日 第2回運営委員会 ○6月1日 センターだより第5回号（広報）発行 ○6月11日 ジュニアリーダー養成講座運営委員2名参加協力 ○6月17日 長野県青少年補導センター連絡協議会 ○4月～6月 相談受付 ・不登校案件1名（相談回数5回） ○7月15日 第41回長野県青少年補導活動推進大会（飯田市）5名参加 ○8月8日 夏休み街頭巡回（豊科・穂高・堀金） ○8月9日 夏休み街頭巡回（三郷・明科） ○8月18日 第3回運営委員会 ○10月5日 センターだより第6回号（広報）発行 ○10月11日 CHUKOらんどチノチノ視察（茅野市）運営委員11名、職員3名参加 ○10月11日 中信4市補導センター連絡会議（松本市）会長・センター長他3名参加 ○11月6日 青少年センター講演会（市役所）参加者11名 ○11月12日 長野県青少年健全育成県民大会（飯山市）会長・副会長・職員3名参加 ○1月4日 冬休み街頭巡回（豊科・穂高） ○1月5日 冬休み街頭巡回（堀金・明科） ○1月6日 冬休み街頭巡回（三郷） ○2月7日 第4回運営委員会 ○3月15日 センターだより第7回号（広報）発行 ○3月27・28日 街頭巡回</p>	



<p>ジュニア・リーダー養成事業 予算額：71千円</p>	<p>○4月6日 社会教育指導員会にて募集について説明 ○4月19日 募集チラシ配布 ○5月27日 申込み締切 ○6月11日 ジュニアリーダー養成講座 36名参加（内 児童28名、協力者8名） ○11月2日 ジュニアリーダー養成講座打合せ3人  ○11月12日 ジュニアリーダー養成講座（三九郎組立講 座）27名</p>	<p>【終了】</p>
<p>まごころ工房 予算額：157千円</p>	<p>○4月 募集チラシ配布 ○5月20日 申込み締切 応募者：31名 ○5月29日 第1講座【ようこそ！ワッパーク】開催 受講人数30名 ○6月18日 第2講座【紙飛行機&amp;ブーメラン】開催 受講人数26名 ○10月29日 第3講座【落語に挑戦】 受講人数10名 ○11月19日 第4講座【デイサービス交流会】 受講人数4名 ○12月3日 第5講座【和風作り】 受講人数10名 ○3月4日 第6講座【調理実習】 受講人数6名</p>	<p>【終了】</p>
<p>こども体験ショー 予算額：540千円</p>	<p>○5～6月 イベント内容検討 ○7月7日 米村でんじろうサイエンスプロダクショ ンに部内業選にて委託決定 ○8月12日 契約締結（540,000円） ○9月 出演者との打合せ ○10月9日 「ジャイアン村上おもしろサイエンスショ ー」 堀金総合体育館サブアリーナ 環境フェアと同時開催参加者450名</p>	<p>【終了】</p>
<p>こども文化祭 予算額：344千円</p>	<p>○5月 企画・運営方法検討開始 ○6月21日 役員会議 ○5月～8月 企画・運営方法検討 ○10月3日～28日 出演・出品者の募集 ○11月10日 出展者会議 参加者15名 ○11月26日 こども文化祭の開催 ステージ発表12団体、参加者203名 作品展示5団体、参加者68名 体験交流2団体、参加者12名 参加者合計283名、来場者約300名</p>	<p>【終了】</p>
<p>安曇野こども映画教室 予算額：965千円</p>	<p>○4月 小・中17学校、市内4高校 募集チラシ配布 ○4月25日～5月19日 参加者・ボランティア募集 応募者：20名（定員） ボランティア：3名 ○4月30日 河崎監督・麻和先生・事務局打合せ ○5月28日 第1回 オープンスクール開催 受講者数16名 ○6月25日 第2回 シナリオ決定、機材取扱い指導 受講者数17名 ○7月23日 第3回 配役決定・撮影開始（撮影①） 受講者数17名 ○8月27日 第4回 教室開催（撮影②） 受講者数16名 ○9月10日 第5回 教室開催（撮影③） 受講者数17名 ○10月22日 第6回 教室開催（撮影④） 受講者数17名 ○11月12日 第7回 教室開催（編集） 受講者数16名 ○11月26日 完成披露上映会（穂高みらい） 作品『びっくりマンデー』上映 参加生徒数15名、河崎義祐監督 ○1月21日 第9回商店街映画祭に作品『びっくりマ ンデー』出展</p>	<p>【終了】</p>

放課後・家庭教育推進費

事業(懸案事項)	現況	今後の取り組み
放課後子ども教室 予算額：8,303千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4月12日～14日 小学校との打合せ会議</li> <li>○4月27日 放課後子ども教室コーディネーター研修会 参加者：16人</li> <li>○4月27日 放課後子ども教室スタッフ研修会 参加者：108人</li> <li>○5月18日 豊科北小、豊科東小、明北小、穂高北小 4校において保護者説明会</li> <li>○5月19日 明南小において保護者説明会</li> <li>○5月25日 豊科南小、穂高南小、穂高西小、三郷小、 堀金小5校において保護者説明会 教育長 堀金小保護者説明会出席予定</li> <li>○7月7日 放課後子ども教室スタッフ救命講習会 参加者：18人</li> <li>○7月8日 放課後子ども教室スタッフ救命講習会 参加者：15人</li> <li>○7月8日 放課後子ども教室スタッフ研修会 (松本合庁) 参加者：13人</li> <li>○7月13日 豊科南小、豊科北小において連絡会議</li> <li>○7月20日 豊科東小において連絡会議</li> <li>○1月25日 地域連絡会議(穂高西小学校)</li> <li>○2月15日 地域連絡会議(穂高北小学校)</li> <li>○2月22日 地域連絡会議(穂高南小学校)</li> <li>○3月1日 地域連絡会議(三郷小学校)</li> <li>○3月7日 地域連絡会議(明科地域)</li> <li>○3月8日 地域連絡会議(豊科地域)</li> <li>○3月8日 放課後子ども教室終了</li> </ul>	【終了】
家庭教育支援事業 予算額：1,900千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4月26日 情報誌ポケット5月号の発行</li> <li>○5月26日 情報誌ポケット6月号の発行</li> <li>○6月23日 情報誌ポケット7月号の発行</li> <li>○7月28日 情報誌ポケット8月号の発行</li> <li>○8月25日 情報誌ポケット9月号の発行</li> <li>○9月27日 情報誌ポケット10月号の発行</li> <li>○10月14日 第1回家庭教育講座 講師：碓井幸子 参加者20名</li> <li>○10月25日 情報誌ポケット11月号の発行</li> <li>○11月24日 情報誌ポケット12月号の発行</li> <li>○11月27日 第2回家庭教育講座 講師：加藤史子 参加者38名</li> <li>○12月27日 情報誌ポケット1月号の発行</li> <li>○1月26日 情報誌ポケット2月号の発行</li> <li>○2月28日 情報誌ポケット3月号の発行</li> </ul>	【終了】

児童館運営費

事業(懸案事項)	現況	今後の取り組み
児童館・放課後児童クラブ 予算額：173,966千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童クラブ入所随時受付</li> <li>○5月 堀金児童館網戸設置工事(582,117円)</li> <li>○5月 豊科中央児童館樋、軒天修繕(275,400円)</li> <li>○6月 南穂高児童館、遊具修繕(74,973円)</li> <li>○7月 穂高北部児童館 畳張替え工事(176,256円)</li> <li>○10月26日 児童クラブ入所説明会(堀金)</li> <li>○10月27日 児童クラブ入所説明会(明科)</li> <li>○10月28日 児童クラブ入所説明会(三郷)</li> <li>○11月2日 児童クラブ入所説明会(穂高)</li> <li>○11月7日 児童クラブ入所説明会(豊科)</li> <li>○11月14～25日 H29年度申請受付 申請者 通年：612名、長期248名</li> <li>○12・1月 入所審査・調整</li> <li>○1月31日 入所決定通知書発送 869名</li> <li>○3月4日 入所説明会</li> </ul>	3月 穂高西小改修工事

事業 (概算事項)	現 況	今後の取り組み
成人式 予算額：4,312千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>○8月18日 第1回実行委員会 役割分担について</li> <li>○10月22日 第2回実行委員会 テーマ、アトラクションについて テーマ： NO PERFECT HUMAN ～我が道を行く～ アトラクション： MY PERFECT (絵馬に自分の進みたい道等を記入の上展示)</li> <li>○11月8日 案内状送付 対象者 1,041人(男522、女519)</li> <li>○11月19日 第3回実行委員会 当日の進行、役割分担確認、フォトムービー試写会</li> <li>○12月5日 来賓への案内通知 対象者 63人</li> <li>○1月8日 成人式 スイス村サンモリッツ 対象者 1,041人(男522、女519) 参加者 780人(男394、女386) 出席率 74.9%</li> </ul>	【終了】

# 平成 28 年度事業進捗状況報告（懸案事項等）

生涯学習課スポーツ推進担当

## 社会体育総務費事業

事業（懸案事項）	現況	今後の取り組み
スポーツ推進委員会 予算額：2,412千円	3月7日 第3回全体会議の開催	
スポーツ推進審議会 予算額：182千円		（開催未定）
各種競技会及び発表会出場者 激励金交付事業 予算額：1,200千円	2月末現在 支出件数：69件 交付額：870千円	申請に基づき随時対応
市民スポーツ祭 予算額：1,500千円	12月4日で全競技（17種）が終了 2月14日 第2回実行委員会の開催	
公式スポーツ施設整備計画推 進	2月17日 新総合体育館整備基本計画の策定に係る、大 日本コンサルタント（株）との委託契約終了 3月2日 市議会議員へ新総合体育館整備基本計画の 冊子を送付	3月中 新総合体育館建設基本設計 業務委託の準備
第2次安曇野市スポーツ推進 計画の策定	12月22日 定例教育委員会で策定委員（18人）の承認 1月25日 第1回庁内PT会議の開催 1月31日 第1回策定委員会の開催 2月 市民アンケートの実施	3月末 市民アンケート結果集約

## スポーツ振興事業

事業（懸案事項）	現況	今後の取り組み
スポーツ教室等 予算額：8,352千円	○5、6、7月から開始したスポーツ教室（14種）の継続 開催 ○後期から開始したスポーツ教室の開催	次年度の教室開催の準備等

## 社会体育施設管理費

事業（懸案事項）	現況	今後の取り組み
三郷体育館耐震補強工事設計 業務	2月10日 耐震補強工事設計業務完了 2月13日 竣工検査	
明科体育館非構造部材耐震化 工事設計業務	2月17日 耐震化工事設計業務完了 2月24日 竣工検査	
公共施設予約システム	2月21日～28日 優先団体内部5月～9月分の大会調整期間 3月9日 平成29年度減免団体登録通知発送	3月随時 平成29年度安曇野市内体育施設使 用申請の結果通知発送

平成 28 年度事業進捗状況報告（懸案事項等）

〈文化課〉

文化振興係

文化振興事業

事業	現 況	今後の取り組み
文化振興計画 進捗管理	・進捗管理 第 2 次文化振興計画策定について 文化振興計画策定委員会委員の選定	・第 1 回安曇野市文化 振興計画策定委員会 の開催（4 月下旬）
第 11 回安曇野文化講 演会	・期日：3 月 4 日（土） 会場：三郷公民館講堂 講師：福岡伸一（生物学者・青山学院大学教授） 来場者数：315 人	
第 13 回あづみの公園 早春賦音楽祭 主催 実行委員会	・第 3 回実行委員会 期日：3 月 7 日（火） ・第 4 回実行委員会 期日：4 月初旬 あづみの公園早春賦音楽祭 期日：5 月 4 日（木・祝）	
「安曇野文化」刊行	・「安曇野文化」第 22 号 2 月 28 日に発行	平成 28 年度刊行委員会 3 月 17 日
安曇野市博物館協議会	・第 3 回博物館協議会 期日：3 月 16 日（木）	

高橋節郎記念美術館事業

事業	現 況	今後の取り組み
第 5 回そば猪口アート 公募展	・白鷹町文化交流センター「あゆむ」（山形県） 会期 3 月 1 日（水）～20 日（月）	第 6 回そば猪口アート 公募展について
改組新第 3 回日展工芸 美術長野県入選者展	会期 12 月 11 日（日）～3 月 5 日（日） 会場 高橋節郎記念美術館ギャラリー・エントランス 会期中の来場者数：2,233 人	
南の蔵「冬季展示」	・小澤弘三絵画展 2 月 1 日（水）～12 日（日） 会期中の来場者数：304 人 ・野田真由美絵画展 2 月 15 日（水）～26 日（日） 会期中の来場者数：476 人 ・加藤恵子ハワイアンキルト展 3 月 1 日（水）～12 日（日） ・小林紀美子水墨画展 3 月 15 日（水）～24 日（金）	
早春邦楽演奏会	期日：3 月 26 日（日） 14 時～15 時 会場：記念美術館 主屋 出演：渡辺清堂（尺八） 安藤登志子（箏） 河上美貴子（箏） 中澤弘子（ピアノ）	

## 文化財保護事業

事業(懸案事項)	現況	今後の取り組み
文化財事業補助金 事務手続き	有形文化財の修理「長光寺の薬師堂及び宮殿」 既に終了した無形民俗文化財の実績報告等の事務手続き	随時事務処理を行う。
出前講座	あづみのフィルムアーカイブ 映画「よみがえる安曇野」の上映 3/4 スポーツ少年団豊科支部 約 350 人 3/8 明科 町区 34 人 3/14 明科社協デイサービス	出前講座の申請があれば、 随時対応したい。
文化財保護へ向け た啓発活動	広報への文化財コラムの掲載	
第2回文化財保護 審議会、第1回文化 財調査委員会合同 会議	平成29年3月21日 午前9時30分～ 平成28年度事業報告 記録作成の措置を講ずべき無形の民俗文化財の選択 「安曇平のお船祭り」調査他	

## 歴史文書整理事業

事業(懸案事項)	現況	今後の取り組み
歴史的価値ある 公文書の選別作業	歴史的価値ある公文書の選別作業	継続
古文書整理作業	飯沼家文書の目録作成作業。二木家文書の調査。	3月飯沼家文書目録完成
保存文書等借用・閲 覧に関する事務	非現用文書の借用・閲覧に対する事務	継続

## 埋蔵文化財発掘調査事業

事業(懸案事項)	現況	今後の取り組み 備考
潮遺跡群浦田遺跡 試掘調査	地元の要請を受けて実施。 平成29年3月7・8日	
調査報告書刊行	『明科廃寺4次』『新林遺跡』『H27 埋文調査報告書』	3月末刊行
埋文包蔵地内 工事立会い	埋蔵文化財包蔵地内での一般開発・公共事業に伴う 工事立会い	開発業者との連絡調整
文化財保護法 93・ 94条関係の事務	周知の埋蔵文化財包蔵地内で開発が行われる際の届出・通 知受付事務	随時対応

## 郷土博物館事業

事業（懸案事項）	現 況	今後の取り組み
展覧会 出前展示（コンパクト展示）	「安曇野の春の訪れ展」 ○開催概要 ・内容：春の七草に係る安曇野の自然や暮らしについて ・会期：3月21日（火）～5月16日（火） ※途中4/17から桜に関する展示に展示替え予定。	市本庁舎1階ロビー中央
展覧会 安曇野のレッドデータ展Ⅱ	「安曇野のレッドデータ展Ⅱ～失われゆく植物たち～」 ○開催概要 ・内容：安曇野市の変化にとんだ自然環境の中で、近年数を減らし絶滅の危機にある動植物についてまとめられたレッドデータブックから、今回は植物編として紹介する展示。 ・会期：平成29年3月4日（土）～4月9日（日） ・会場：豊科郷土博物館 2階展示室	関連イベントの募集等
講座 レッドデータブック展連続講座	「安曇野の自然の魅力～北アルプス常念岳とその山麓一帯で出会った植物たち～」 開催日時：3月4日（土）午前9：30～11：00 講師：橋渡勝也氏（安曇野市教育長）会場：博物館 学習室	
講座 レッドデータブック展連続講座	「生きものたちが歩んできたはるかなる道を探る～生物系統地理という世界～」開催日時：3月18日（土）午前9：30～11：30 講師：昆虫編 東城幸治氏（信州大学理学部） 植物編 津田吉晃氏（筑波大学菅平実験センター） 会場：博物館 学習室	告知・募集
講座 レッドデータブック展連続講座 「早春の野鳥観察会」	開催日：3月25日（土）9：00～11：30 観察エリア：早春賦の碑～三角島周辺 内容：早春の渡り鳥の観察 講師：丸山隆氏（前信州野鳥の会会長）	告知・募集
展覧会 「第33回白鳥写真展」	「第33回白鳥写真展～白鳥飛来の思い出・私の一枚～」 ○開催概要 ・内容：公募による白鳥者視点。鳥インフルエンザの関係から、今シーズン飛来の撮影作品は受け付けず、初飛来から昨シーズンまでの撮影写真を受付。3月1日から31日まで出品作品募集。 ・会期：平成29年4月15日（土）～5月28日（日）	白鳥写真の募集

### 郷土資料館事業

事業 (懸案事項)	現 況	今後の取り組み 備 考
穂高郷土資料館	北アルプス山麓で発掘された縄文土器や土偶のほか、農具や漁具、養蚕資料など民具を展示。隣接する「鐘の鳴る丘集会所」の関連資料も展示されている。冬季休館 12/28 から 2月末日までの日、3/1 より開館。	
穂高鐘の鳴る丘集会所の施設使用	○内容 ・郷土の歴史や文化に係る学習や青少年の健全育成に関する事業を行う市民等の利用に供する。	

### 貞享義民記念館

事業 (懸案事項)	現 況	今後の取り組み 備 考
企画展示 1 三郷美術会小品展	・開催期間：3月5日(日)～3月20日(月・祝) ・三郷美術会会員の絵画、彫塑、工芸などの作品を展示する。 ・入館者数：46人(3月7日現在)	・3/20 午後4時～片付け



交流学習センター(施設)事業

事業	現況	今後の取り組み
穂高交流学習センター・豊科交流学習センター・明科子どもと大人の交流学習施設事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゼッパールトリオコンサート (WS)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・期日:3月4日(土) 午後6時～</li> <li>・場所:穂高交流学習センター多目的交流ホール</li> <li>・入場者数 106 人(チケット販売数 109 枚、WS 参加者 10 人)</li> <li>・入場料:2,000 円</li> </ul> </li> <li>○ジュニアクラシックコンサート                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・期日:3月18日(土) 午後1時30分～</li> <li>・場所:穂高交流学習センター多目的交流ホール</li> <li>・定員 200 人</li> <li>・入場無料</li> </ul> </li> <li>○ひまわりお楽しみ企画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・期日:3月22日(水) 午前10時15分～</li> <li>・場所:明科子どもと大人の交流学習施設ハーモニーホール</li> <li>・定員 70 人</li> <li>・入場無料</li> </ul> </li> <li>○郷土博物館コンパクト展示『興味津々あづみの Food』巡回展                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・会期:3月28日(火)～5月7日(日)</li> <li>・場所:穂高交流学習センター交流ギャラリー</li> <li>・観覧無料</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共施設予約システムによる仮予約受付開始                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月2日(日)～</li> </ul> </li> </ul>
交流学習センター運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第5回交流学習センター運営委員会                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・期日:3月10日(金) 午後1時30分～</li> <li>・場所:穂高交流学習センター多目的交流ホール</li> <li>・内容:安曇野市三郷交流学習センター整備の進捗状況について、平成29年度事業計画(案)について他</li> </ul> </li> </ul>	

図書館事業

事業	現況	今後の取り組み
図書館事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書館協議会 (第6回)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・期日:3月22日(水)</li> <li>・場所:穂高交流学習センター「みらい」多目的交流ホール</li> <li>・内容:「平成29年度事業計画について」、「第2次図書館基本計画の策定に係る市民アンケート等の結果について」、「その他」</li> </ul> </li> </ul>	